2020年度

# 広島経済大学 2020

HIROSHIMA UNIVERSITY OF ECONOMICS

# 教務ガイド

# 新学部設置に関するお知らせ

広島経済大学は、2019（平成31）年度から、経済学部に加え、新たに経営学部、メディアビジネス学部を新設し、３学部５学科になりました。

ただし、2018（平成30）年度以前の入学者については、これまでどおり経済学部の所属となります。

カリキュラム表や卒業認定要件表などは、入学年度により異なりますので注意してください。入学年度は学籍番号で確認することができます。

**≪2019（平成31）年度以降の入学者≫**

| | |
|---|---|
| **経済学部** | **経済学科** |
| **経営学部** | **経営学科・スポーツ経営学科** |
| **メディアビジネス学部** | **ビジネス情報学科・メディアビジネス学科** |

**≪2018（平成30）年度以前の入学者≫**

| | |
|---|---|
| **経済学部** | **経済学科・経営学科・スポーツ経営学科・ビジネス情報学科・メディアビジネス学科** |

**学籍番号について**

学籍番号は、次のように付番しています。

例）2020年度入学 経営学部 経営学科

| 2 | 0 | 2 | 0 | 2 | 1 | 9 | 9 | 9 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 〈入学年度〉 | | | | 〈学部〉 | 〈学科〉 | 〈個別番号〉 | | |

| | |
|---|---|
| 1：経済学部 | 1：経済学科 |
| 2：経営学部 | 1：経営学科<br>2：スポーツ経営学科 |
| 3：メディアビジネス学部 | 1：ビジネス情報学科<br>2：メディアビジネス学科 |

例）2018年度入学 経済学部 経営学科

| 2 | 0 | 1 | 8 | 1 | 2 | 9 | 9 | 9 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 〈入学年度〉 | | | | 〈学部〉 | 〈学科〉 | 〈個別番号〉 | | |

| | |
|---|---|
| 1：経済学部 | 1：経済学科<br>2：経営学科<br>4：ビジネス情報学科<br>5：メディアビジネス学科<br>6：スポーツ経営学科 |

## 教務ガイドの役割 …… 1

## 2020（令和2）年度　行事予定表（主な教務課関係行事） …… 2

## 建学の精神と広島経済大学の理念 …… 4

1 建学の精神 …… 4
2 立学の方針 …… 4
3 教育目的 …… 4
4 行動指針 …… 4

## ディプロマポリシー（卒業認定、学位授与に関する方針）とカリキュラムポリシー（教育課程の編成方針） …… 5

1 学位とディプロマポリシー（卒業認定、学位授与に関する方針） …… 5
2 カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針） …… 6

## 教育目標 …… 7

共通科目 …… 7
経済学部　経済学科 …… 8
経営学部　経営学科 …… 10
経営学部　スポーツ経営学科 …… 12
メディアビジネス学部　ビジネス情報学科 …… 14
メディアビジネス学部　メディアビジネス学科 …… 16

## 履修 …… 18

２学期制（セメスター制） …… 18
1 ２学期制（セメスター制） …… 18
2 授業の開講区分 …… 18
3 授業の履修区分 …… 18
単位制 …… 19
履修登録 …… 20
1 学修計画 …… 20
2 履修登録とは …… 20
3 履修登録の方法 …… 20
4 履修登録単位数の制限 …… 20
5 履修登録の注意事項 …… 20
授業 …… 21
1 授業時間 …… 21
2 休講 …… 21
3 補講 …… 21
4 授業に関する変更 …… 21
5 自然災害による緊急時（交通機関の運行停止と特別な状況に伴う）の授業・学内定期試験の取扱い …… 21
⑴交通機関の運行停止の内容と対応 …… 21
⑵風・雨・雪に関する警報発令、特別警報発令及び避難勧告又は避難指示の発令（以下「警報等の発令」という）と対応 …… 21
⑶休講及び学内定期試験延期に伴う、補講・定期試験実施について …… 22
⑷注意事項 …… 22
⑸確認方法 …… 22
6 授業への出席 …… 22
7 授業への遅刻 …… 22
8 公認欠席 …… 23
9 公認欠席以外での欠席・遅刻 …… 23
試験・レポート …… 24
1 試験の種類 …… 24
2 学内定期試験 …… 24
3 追試験 …… 24
4 再試験 …… 25
5 臨時の試験 …… 25
6 試験に関する注意事項 …… 25
7 レポート …… 26
成績 …… 27
1 評価と点数 …… 27
2 成績発表 …… 27
3 成績確認 …… 27
4 成績不振者への通知 …… 28

5 ＧＰＡ（Grade Point Average）…… 28
進級（2014（平成26）年度以降入学生対象）…… 29
1 進級制度…… 29
2 仮進級制度…… 29
卒業…… 30
1 卒業認定…… 30
2 卒業の時期…… 30
3 学位…… 30
4 卒業見込証明書…… 30
## 学籍…… 31
1 修業年限・在学年数…… 31
2 休学…… 31
3 復学…… 32
4 退学…… 32
5 除籍…… 32
6 再入学…… 32
7 転部・転科…… 32
## 教職課程…… 33
1 教育職員免許状の種類と免許教科…… 33
2 教職課程の登録及び履修等…… 33
## 各種制度…… 34
1 単位認定振替制度…… 34
(1)単位互換制度…… 34
(2)既修得単位認定制度…… 34
(3)資格取得に対する単位振替認定制度…… 34
(4)海外語学留学による単位認定制度…… 36
(5)学校インターンシップ修了による単位認定制度【教職課程登録者対象】…… 36
(6)中小企業大学校研修プログラム修了による単位認定制度…… 36
2 学部との５年プログラム（大学院と連携した学位取得プログラム）…… 36
3 早期卒業制度…… 36
## 学務センター教務課…… 37
窓口…… 37
1 学業や生活面での相談…… 37
2 学務センター教務課事務取扱…… 37
各種証明書の交付…… 38
教務関連届出一覧…… 39
連絡事項…… 40
1 HUE（ヒュー） NAVI（ナビ）…… 40
2 掲示板（紙掲示）…… 40
3 掲示システム（TV モニター）…… 40
## 教育課程（カリキュラム）…… 41
2019（平成31）年度以降入学生 教育課程（カリキュラム）の構成…… 41
2018（平成30）・2017（平成29）・2016（平成28）・2015（平成27）年度入学生 教育課程（カリキュラム）の構成…… 42
2014（平成26）年度以前入学生 教育課程（カリキュラム）の構成…… 43
教育課程（カリキュラム）の見方…… 44
**2019（平成31）年度以降入学生用** 教育課程（カリキュラム）・クラス表・履修上の注意事項…… 45
1 共通科目…… 45
2 学科科目…… 53
(1)経済学部　経済学科…… 53
(2)経営学部　経営学科…… 56
(3)経営学部　スポーツ経営学科…… 59
(4)メディアビジネス学部　ビジネス情報学科…… 61
(5)メディアビジネス学部　メディアビジネス学科…… 64
3 ゼミ科目…… 66
4 能力開発科目…… 70
5 キャリア科目…… 71
6 興動館科目…… 72
7 留学生科目…… 73

8 教職関連科目 …… 75
●卒業認定の要件表 …… 77
経済学部　経済学科　2019（平成31）年度以降入学生 …… 77
経営学部　経営学科　2019（平成31）年度以降入学生 …… 78
経営学部　スポーツ経営学科　2019（平成31）年度以降入学生 …… 79
メディアビジネス学部　ビジネス情報学科　2019（平成31）年度以降入学生 …… 80
メディアビジネス学部　メディアビジネス学科　2019（平成31）年度以降入学生 …… 81
**2018（平成30）年度以前入学生用**　教育課程（カリキュラム）・クラス表・履修上の注意事項 …… 82
1 共通科目 …… 82
2 学科科目 …… 96
(1)経済学科 …… 96
(2)経営学科 …… 101
(3)ビジネス情報学科 …… 106
(4)メディアビジネス学科 …… 112
(5)スポーツ経営学科 …… 116
3 ゼミ科目 …… 119
4 能力開発科目 …… 124
5 キャリア科目 …… 127
6 興動館科目 …… 129
7 留学生科目 …… 132
8 教職に関する科目 …… 135
●卒業認定の要件表 …… 136
経済学科　2018（平成30）～2012（平成24）年度入学生 …… 136
経営学科　2018（平成30）～2013（平成25）年度入学生 …… 140
ビジネス情報学科　2018（平成30）～2013（平成25）年度入学生 …… 143
メディアビジネス学科　2018（平成30）～2014（平成26）年度入学生 …… 146
スポーツ経営学科　2018（平成30）～2015（平成27）年度入学生 …… 148

## 履修モデル …… 150

共通科目 …… 150
1 「英語」について重点的に学びたい人へ …… 150
2 「日本語」について重点的に学びたい人へ …… 150
3 「日本の文化・社会」について重点的に学びたい人へ …… 150
4 「欧米の文化・社会」について重点的に学びたい人へ …… 151
5 「アジアの文化・社会」について重点的に学びたい人へ …… 151
6 「公務員」をめざしたいと考えている人へ …… 151
経済学部　経済学科 …… 152
1 経済学を体系的に学ぶ …… 152
2 ビジネスマンとして必要な経済知識を学ぶ …… 153
3 金融・証券マンとして社会に羽ばたく …… 154
経営学部　経営学科 …… 155
1 マネジメント系科目を主とした専門科目の履修モデル …… 155
2 アカウンティング系科目を主とした専門科目の履修モデル …… 155
3 マーケティング系科目を主とした専門科目の履修モデル …… 156
経営学部　スポーツ経営学科 …… 157
1 スポーツ関連企業系モデルについての専門科目の履修モデル …… 157
2 一般企業系モデルについての専門科目の履修モデル …… 158
3 スポーツコーチング系モデルについての専門科目の履修モデル …… 159
メディアビジネス学部　ビジネス情報学科 …… 160
1 現代ビジネス型 …… 160
2 情報デザイン型 …… 161
3 情報インストラクター型 …… 161
メディアビジネス学部　メディアビジネス学科 …… 162
1 メディアプロデュース・モデル（メディア関連企業プロデュース系モデル） …… 162
2 ビジネスコミュニケーション・モデル（一般企業コミュニケーション系モデル） …… 163
興動館プロジェクト　推奨科目一覧表 …… 164

## 教員紹介 …… 165

専任教育職員 …… 165
非常勤講師 …… 170
派遣講師 …… 174

## 諸規程集 …… 175


広島経済大学学則 …… 175
広島経済大学学生準則 …… 180
1 履修 …… 182
広島経済大学履修細則 …… 182
広島経済大学演習細則 …… 185
本学が認定した海外留学に伴う演習科目の単位認定などに関する取扱い …… 187
広島経済大学学位規程（抜粋） …… 188
自然災害による緊急時（交通機関の運行停止と特別な状況に伴う）の授業・学内定期試験の取扱い …… 189
広島経済大学学内定期試験細則 …… 190
広島経済大学進級細則 …… 191
2 学籍 …… 192
広島経済大学再入学に関する細則 …… 192
広島経済大学転部及び転科に関する細則 …… 193
広島経済大学編入学に関する細則 …… 194
３年次編入学生の進級認定の要件科目に関する取扱い …… 195
広島経済大学科目等履修生規程 …… 195
広島経済大学研究生細則 …… 196
広島経済大学外国人留学生細則 …… 197
3 教職課程 …… 198
広島経済大学教職課程履修細則 …… 198
4 各種制度 …… 202
広島経済大学単位互換に関する細則 …… 202
広島経済大学既修得単位認定細則 …… 203
広島経済大学資格振替単位認定細則 …… 203
広島経済大学語学留学振替単位認定細則 …… 205
広島経済大学交換留学プログラムによる単位認定細則 …… 206
広島経済大学学校インターンシップ単位認定細則 …… 207
広島経済大学中小企業大学校研修プログラム単位認定細則 …… 207
学部との5年プログラム細則 …… 208
広島経済大学早期卒業に関する細則 …… 208
広島経済大学高大連携にともなう公開授業科目及び公開講座に関する規程 …… 209
5 その他 …… 210
広島経済大学研究活動の不正行為防止等に関する規程 …… 210


## キャンパス・マップ …… 214


1 キャンパス・マップ …… 214
2 施設配置図（建物内見取図） …… 215
⑴本館 …… 215
⑵1号館 …… 216
⑶2号館 …… 217
⑷3号館（教育研究棟） …… 218
⑸6号館 …… 219
⑹石田記念体育館 …… 219
⑺メディア情報センター …… 220
⑻図書館 …… 221
⑼学生会館リブレ …… 222
⑽興動館 …… 223
⑾明徳館 …… 224
⑿第1クラブハウス …… 226
⒀第2クラブハウス …… 226
⒁総合スポーツセンター …… 226
⒂広島経済大学立町キャンパス …… 227
⒃成風館 …… 228

## 教務ガイドの役割

大学生活を構成する要素で、一番大切なものは“授業”と“研究”です。ひと言でいうと“学修する”ということです。教務ガイドは、皆さんが“学修する”ということを助ける最も身近な手引書（情報源）のようなものです。教務ガイドのほかに、時間割、授業計画（シラバス）、先生からの指導や、先輩からの助言なども“学修する”ための情報源ですが、教務ガイドには、様々なルールが掲載されており、皆さんを卒業に向けて、体系的に導いてくれるのがこの冊子なのです。

したがって、この教務ガイドを読まなければ、また理解しなければ、卒業はおろか、授業を受けることすらできません。本学での４年間を有意義な場として十分に活用するためには、この教務ガイドを読むこと、理解することから始まります。また、理解できないこと、わからないことがあれば、大学の教職員の誰かに積極的に声を掛けて聞いてみてください。

このような一連の行動（教務ガイドを読む、理解する、行動する、わからなければ聞く）が皆さんにとって、正確な情報を収集し、実践していくという能力の向上に役立ちます。

**建学の精神・広島経済大学の理念 教育目標**

本学の建学の精神、学部・学科の教育目標を明示し、４年間の学修の指針にします。

**履修**

2学期制（セメスター制）や単位制など、初めて耳にする制度を説明し、履修、授業、試験、進級制度、卒業認定の要件等授業を履修する上で必要な事項について説明します。

**学籍**

本学の教育課程を修了するために必要な在学期間の説明や、休学、復学等の学籍について説明します。

**教職課程**

本学で取得できる教育職員免許状について説明します。

**各種制度**

単位互換制度を利用し、他大学で開講している科目を履修することができ、修得した単位を本学の卒業認定の要件として必要な単位として認定できる制度や早期卒業制度など本学特有の制度について説明します。

**学務センター 教務課**

教務課の主な取扱業務や取扱時間、各種証明書の交付、届出、HUE（ヒュー） NAVI（ナビ）などを使っての連絡方法について説明します。

＋

**教育課程（カリキュラム）**

年度に開講されている科目の情報（開講区分・担当者・単位数・クラスなど）を掲載しています。

**卒業認定の要件表**

各学科・学科で卒業に必要な単位を修得するための要件を入学年度別に掲載しています。

**履修モデル**

学びたいコース別に履修モデルを掲載していますので、参考にしてください。

**教員紹介**

科目を担当する教員を掲載しています。

**諸規程集**

諸規程（大学内での様々なルール）を掲載しています。

**キャンパス・マップ**

教室や研究室の配置図を掲載しています。

＝

学修のための手引き＝教務ガイド
大学入門の第一歩として！また、４年間を通じて活用してください。

# 2020（令和2）年度　行事予定表（主な教務課関係行事）

2020年　4月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | |

5月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 1 | 2 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 | | | | | | |

6月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | | | | |

7月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |

8月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | 31 | | | | | |

9月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 27 | 28 | 29 | 30 | | | |

| 月 | 日 | 曜日 | 行事 | 対象とする入学年度 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 2020 | 2019 | 2018 | 2017以前 |
| 3 | 18 | 水 | 単位互換科目履修説明会 | | ● | ● | ● |
| | | | 能力開発科目履修説明会 | | ● | ● | ● |
| | | | [ ビジネス情報学科 ] 3 学年合同演習系科目履修説明会 | | ● | ● | ● |
| | 23 | 月 | 履修資料配布（3/27 まで） | | ● | ● | ● |
| | | | 履修ガイダンス | | ● | ● | ● |
| | | | 興動館科目ガイダンス | | ● | ● | ● |
| | | | 第一次履修登録【学内・学外】・履修相談【学内のみ】 | | ● | ● | ● |
| | | | インターンシップⅠ（国内）履修ガイダンス | | ● | | |
| | | | インターンシップⅡ（海外）履修ガイダンス | | | ● | |
| | 24 | 火 | 第一次履修登録【学内・学外】・履修相談【学内のみ】 | | ● | ● | ● |
| | 25 | 水 | 第一次履修登録【学内・学外】・履修相談【学内のみ】 | | ● | ● | ● |
| | | | インターンシップⅠ（国内）履修ガイダンス | | ● | | |
| | 26 | 木 | 第一次履修登録【学内・学外】・履修相談【学内のみ】 | | ● | ● | ● |
| | | | インターンシップⅡ（海外）履修ガイダンス | | | ● | |
| | 27 | 金 | 第一次履修登録【学内・学外】・履修相談【学内のみ】 | | ● | ● | ● |
| | 30 | 月 | 第一次履修登録抽選結果発表 | | ● | ● | ● |
| 4 | 1 | 水 | 入学式 | ● | | | |
| | 2 | 木 | [ 新入生対象 ]　履修ガイダンス | ● | | | |
| | | | [ 新入生対象 ]　興動館科目ガイダンス | ● | | | |
| | | | [ 新入生対象 ]　英語プレイスメントテスト | ● | | | |
| | | | [ 新入生対象 ]　教職ガイダンス | ● | | | |
| | | | 前期単位互換科目履修希望者出願票提出締切 | ● | ● | ● | ● |
| | 3 | 金 | [ 新入生対象 ]「教職課程登録届」提出 | ● | | | |
| | 6 | 月 | [ 経営学科　新入生対象 ]　履修登録・時間割説明会 | ● | | | |
| | | | [ スポーツ経営学科　新入生対象 ] 履修登録・時間割説明会、履修説明会 | ● | | | |
| | | | 第一次履修登録【学内・学外】・履修相談【学内のみ】 | ● | | | |
| | | | 第二次履修登録【学内・学外】・履修相談【学内のみ】 | | ● | ● | ● |
| | | | 教科書販売（4/17 まで）【リブレ2階ブックセンター前】 | ● | ● | ● | ● |
| | 7 | 火 | [ 経済学科　新入生対象 ]　履修登録・時間割説明会 | ● | | | |
| | | | 第一次履修登録【学内・学外】・履修相談【学内のみ】 | ● | | | |
| | | | 第二次履修登録【学内・学外】・履修相談【学内のみ】 | | ● | ● | ● |
| | 8 | 水 | [ メディアビジネス学科　新入生対象 ] 履修登録・時間割説明会、履修説明会 | ● | | | |
| | | | [ ビジネス情報学科　新入生対象 ] 履修登録・時間割説明会、履修説明会 | ● | | | |
| | | | 第一次履修登録【学内・学外】・履修相談【学内のみ】 | ● | | | |
| | | | 第二次履修登録【学内・学外】・履修相談【学内のみ】 | | ● | ● | ● |
| | 9 | 木 | 第一次履修登録抽選結果発表 | ● | | | |
| | | | 第二次履修登録抽選結果発表 | | ● | ● | ● |
| | 10 | 金 | 前期授業開始 | ● | ● | ● | ● |
| | | | 履修訂正（追加・削除）【学内・学外】 | ● | ● | ● | ● |
| | 11 | 土 | 履修訂正（追加・削除）【学外のみ】 | ● | ● | ● | ● |
| | 12 | 日 | 履修訂正（追加・削除）【学外のみ】 | ● | ● | ● | ● |
| | 13 | 月 | 履修訂正（追加・削除）【学内・学外】 | ● | ● | ● | ● |
| | 14 | 火 | 履修訂正（追加・削除）【学内・学外】 | ● | ● | ● | ● |
| | 15 | 水 | 履修訂正（追加・削除）【学内・学外】 | ● | ● | ● | ● |
| | | | [4 年次生対象 ]　教職・介護等体験ガイダンス | | | | ● |
| | 16 | 木 | 履修訂正（追加・削除）【学内・学外】 | ● | ● | ● | ● |
| | | | [3 年次生対象 ]　教職ガイダンス | | | ● | |
| | 20 | 月 | 先着履修登録【学内指定会場のみ】 | ● | ● | ● | ● |
| | 29 | 水 | 授業日（祝日：昭和の日） | ● | ● | ● | ● |
| 5 | 6 | 水 | 授業日（祝日：憲法記念日の振替休日） | ● | ● | ● | ● |
| | 14 | 木 | 「プレゼミ」履修ガイダンス | | ● | | |
| | 28 | 木 | 5 時限目のみ休講（学生大会のため） | ● | ● | ● | ● |
| 7 | 17 | 金 | 前期学内定期試験時間割発表 | ● | ● | ● | ● |
| | 23 | 木 | 授業日（祝日：海の日） | ● | ● | ● | ● |
| | 28 | 火 | 前期授業終了 | ● | ● | ● | ● |
| | | | 後期単位互換科目履修希望者出願票提出締切 | ● | ● | ● | ● |
| | 29 | 水 | 補講日 | ● | ● | ● | ● |
| | 30 | 木 | 補講日 | ● | ● | ● | ● |
| | 31 | 金 | 前期学内定期試験（8/6 まで） | ● | ● | ● | ● |

**※詳細及び変更は、HUE NAVI（ヒュー ナビ）等で連絡します。**

※「HUE NAVI（ヒュー ナビ）」とは、休講や補講などの情報提供や履修登録、シラバス検索などを行う学生支援システムです。
詳細は、別冊『HUE NAVI・パソコン利用ガイド』を参照。

10月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |

11月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | | | | | |

12月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | | |

2021年　1月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 1 | 2 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 | | | | | | |

2月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | | | | | | |

3月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | 31 | | | |

| 月 | 日 | 曜日 | 行事 | 対象とする入学年度 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 2020 | 2019 | 2018 | 2017以前 |
| 8 | 7 | 金 | 前期学内定期試験予備日 | ● | ● | ● | ● |
| | | | 夏期休暇開始（9/23まで） | ● | ● | ● | ● |
| | 12 | 水 | 前期追試験（8/13まで） | （注1） | （注1） | （注1） | （注1） |
| | 17 | 月 | サマー授業（8/28まで） | ● | ● | ● | ● |
| | 25 | 火 | 前期一次成績発表（予定） | ● | ● | ● | ● |
| | 31 | 月 | 前期再試験（9/7までで9/4除く）（予定） | （注2） | （注2） | （注2） | （注2） |
| 9 | 14 | 月 | 前期二次成績発表（予定） | ● | ● | ● | ● |
| | 15 | 火 | 後期履修ガイダンス | ● | ● | ● | ● |
| | | | 履修登録【学内・学外】・履修相談【学内のみ】 | ● | ● | ● | ● |
| | 16 | 水 | 履修登録【学内・学外】・履修相談【学内のみ】 | ● | ● | ● | ● |
| | 17 | 木 | 履修登録【学内・学外】・履修相談【学内のみ】 | ● | ● | ● | ● |
| | 18 | 金 | 履修登録抽選結果発表 | ● | ● | ● | ● |
| | 23 | 水 | 夏期休暇終了 | ● | ● | ● | ● |
| | 24 | 木 | 後期授業開始 | ● | ● | ● | ● |
| | | | 履修訂正（追加・削除） | ● | ● | ● | ● |
| | | | 前期学位記授与式 | | | | （注3） |
| | 25 | 金 | 履修訂正（追加・削除） | ● | ● | ● | ● |
| | 28 | 月 | 履修訂正（追加・削除） | ● | ● | ● | ● |
| | 29 | 火 | 履修訂正（追加・削除） | ● | ● | ● | ● |
| | 30 | 水 | 履修訂正（追加・削除） | ● | ● | ● | ● |
| 10 | 2 | 金 | 先着履修登録【学内指定会場のみ】 | ● | ● | ● | ● |
| | 15 | 木 | 授業臨時休講日（全学ゼミ対抗スポーツ大会） | ● | ● | ● | ● |
| | 22 | 木 | [4年次生対象］ 教職ガイダンス | | | | ● |
| | 29 | 木 | [3年次生対象］ 教職ガイダンス | | | ● | |
| 11 | 12 | 木 | 「演習Ⅰ」履修ガイダンス | | ● | | |
| | 20 | 金 | 授業臨時休講日（学校推薦型選抜） | ● | ● | ● | ● |
| | 23 | 月 | 授業日（祝日：勤労感謝の日） | ● | ● | ● | ● |
| | 26 | 木 | 5時限目のみ休講（学生大会のため） | ● | ● | ● | ● |
| 12 | 25 | 金 | 冬期休暇前の授業終了 | ● | ● | ● | ● |
| | 26 | 土 | 冬期休暇開始（1/3まで） | ● | ● | ● | ● |
| 1 | 3 | 日 | 冬期休暇終了 | ● | ● | ● | ● |
| | 4 | 月 | 後期授業再開 | ● | ● | ● | ● |
| | 8 | 金 | 後期学内定期試験時間割発表 | ● | ● | ● | ● |
| | 19 | 火 | 後期授業終了 | ● | ● | ● | ● |
| | 20 | 水 | 補講日 | ● | ● | ● | ● |
| | 21 | 木 | 補講日 | ● | ● | ● | ● |
| | 22 | 金 | 後期学内定期試験（1/28まで） | ● | ● | ● | ● |
| | | | 学部との5年プログラム願書受付（2/1まで） | | | ● | |
| | 23 | 土 | 創立記念日 | ● | ● | ● | ● |
| | 29 | 金 | 後期学内定期試験予備日 | ● | ● | ● | ● |
| 2 | 3 | 水 | 後期追試験（2/4まで） | （注1） | （注1） | （注1） | （注1） |
| | 16 | 火 | 後期一次成績発表（予定） | ● | ● | ● | ● |
| | 22 | 月 | 後期再試験（3/1まで）（予定） | （注2） | （注2） | （注2） | （注2） |
| | 25 | 木 | 学部との5年プログラム選考試験（筆答・口述） | | | ● | |
| | | | 学部との5年プログラム進学者選考（書類） | | | | ● |
| 3 | 2 | 火 | 学部との5年プログラム合格発表 | | | ● | ● |
| | 11 | 木 | 後期二次成績発表（予定） | ● | ● | ● | ● |
| | 18 | 木 | 学位記授与式 | | | | ● |

**※詳細及び変更は、HUE NAVI（ヒュー ナビ）等で連絡します。**

※「HUE NAVI（ヒュー ナビ）」とは、休講や補講などの情報提供や履修登録、シラバス検索などを行う学生支援システムです。
　詳細は、別冊『HUE NAVI・パソコン利用ガイド』を参照。

（注1）「追試験受験申請書」を提出し、許可された者のみ対象
（注2）「再試験受験申請書」提出者のみ対象
（注3）前期卒業該当者のみ対象

# 建学の精神と広島経済大学の理念

## 1 建学の精神

### 「和を以て貴しと為す」

広島経済大学の経営母体である学校法人石田学園は、明治40年に校祖石田米助翁によって創立されました。学園の創立にあたり、学園創立の根本的な目的である建学の精神を「**和を以て貴しと為す**」としました。

「和の精神」とは、ただ諍(いさか)いを避けることを意味しているのではありません。自分に厳しく、他人には寛容であり、もてる力を最大限発揮して自分の責任を果たし、互いに助け励ましあいながら、組織全体の調和を図ることを最優先する相互尊重の精神なのです。

## 2 立学の方針

### 「大学の道は明徳を明らかにするにあり」

広島経済大学は、昭和42年に創立されました。初代学長石田成夫は、大学を開学する理想を、立学の方針として「**大学の道は明徳を明らかにするにあり**」という警句に求めました。これは中国の古典、四書の一つ「大学」の中に登場する一文です。「明徳」とは、天から受けた霊妙な徳性、すなわち人間が本来持っている「曇りのない本性」を意味します。本学は、学生一人ひとりが、学問研究を通して、本来持っている曇りのない本性を磨き、前途有為な人間として自己を確立することを理念としているのです。

## 3 教育目的

### 「『ゼロから立ち上げる』興動人の育成」

本学は、建学の精神、立学の方針にもとづき、真理の探究と、豊かな人間性の涵養を通じて、**「正義と勤労を愛し、品格高く責任を重んじ、もって国家社会の発展に貢献し得る人材の育成**（学則第３条）**」**を目指しています。この育成すべき人材像を、現代社会のニーズをふまえて明確に表現したものが**「ゼロから立ち上げる」興動人**です。「ゼロから立ち上げる」興動人とは、「既成概念にとらわれない斬新な発想と旺盛なチャレンジ精神、そして仲間と協働して何かを成し遂げることのできる力を備えた人材」のことです。

## 4 行動指針

### 「Be Student-oriented」

**Be Student-oriented（すべては学生のために）**は、平成６年に２代目学長石田恒夫が提唱した、本学教職員の行動指針です。本学は「教育重視」の大学を目指しています。教職員は常に、「本当に学生のためになるのかどうか」「本当に学生一人ひとりの輝かしい将来を応援するものになるのかどうか」と、問いかけながら行動しています。

# ディプロマポリシー（卒業認定、学位授与に関する方針）とカリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

## 1 学位とディプロマポリシー（卒業認定、学位授与に関する方針）

大学を卒業した者には学位が授与されます。本学では、下表のとおり、学部学科ごとにディプロマポリシー（卒業認定、学位授与に関する方針）を定め、学位を授与しています。

**≪2019（平成31）年度以降の入学者≫**

| 学部 | 学科 | 学位 | ディプロマポリシー（卒業認定、学位授与に関する方針） |
|---|---|---|---|
| 経済学部 | 経済学科 | 学士<br>（経済学） | 経済学部では、経済学の基礎知識とグローバル社会で活躍するために必要な幅広い教養と人間力、及び各専攻分野に関する専門的能力を身につけていることを学位授与の要件としています。<br>経済学科では、経済のしくみを理解するために必要な経済学の基礎的・専門的知識と、論理的な思考力及び分析力、さらには日々の経済現象を読み解く洞察力を身につけていることを学位授与の要件としています。 |
| 経営学部 | 経営学科 | 学士<br>（経営学） | 経営学部では、経営学の基礎知識とグローバル社会で活躍するために必要な幅広い教養と人間力、及び各専攻分野に関する専門的能力を身につけていることを学位授与の要件としています。<br>経営学科では、適切な企業活動や経営判断を行うための基礎知識と専門知識、論理的な思考力及び応用力を身につけていることを学位授与の要件としています。<br>スポーツ経営学科では、スポーツビジネスやスポーツを通じて地域社会の発展に貢献するために必要な経営学と体育・スポーツ科学の専門的知識、及びスポーツにおけるマネジメント能力を身につけていることを学位授与の要件としています。 |
| | スポーツ<br>経営学科 | 学士<br>（スポーツ<br>経営学） | |
| メディア<br>ビジネス<br>学部 | ビジネス<br>情報学科 | 学士<br>（経営学） | メディアビジネス学部では、メディア・情報及びビジネスの基礎知識とグローバル社会で活躍するために必要な幅広い教養と人間力、及び各専攻分野に関する専門的能力を身につけていることを学位授与の要件としています。<br>ビジネス情報学科では、ビジネスにおける情報の活用を可能にする専門的知識、高度情報化社会に対応できる論理的な思考力とデータ分析力及び問題解決力を身につけていることを学位授与の要件としています。<br>メディアビジネス学科では、メディアをビジネスに活用するための専門的知識、論理的な思考力、メディアリテラシー、及び実践的なプレゼンテーション能力を身につけていることを学位授与の要件としています。 |
| | メディア<br>ビジネス<br>学科 | | |

**≪2018（平成30）年度以前の入学者≫**

| 学部 | 学科 | 学位 | ディプロマポリシー（卒業認定、学位授与に関する方針） |
|---|---|---|---|
| 経済学部 | 経済学科 | 学士<br>（経済学） | 広島経済大学は、建学の精神および立学の方針に基づき、真理を探究する力と豊かな人間性を備え、正義を愛し、勤労を尊び、自らの責任を受け止め、社会の発展に貢献できる人材の育成を目的とし、このような人材を「ゼロから立ち上げる」興動人という言葉で表現しています。この目的を達成するため、グローバル社会で活躍するために必要な幅広い教養と人間力、及び各専攻分野に関する専門的能力を身につけるための教育課程を配しており、本課程を修了したものに対して卒業を認定し、学位を授与します。<br>経済学科では、専攻分野に関する専門的能力として、経済のしくみを理解するために必要な経済学の基礎的・専門的知識と、論理的な思考力及び分析力、さらには斬新な発想で挑戦できる実践力を身につけていることを学位授与の要件としています。<br>経営学科では、専攻分野に関する専門的能力として、適切な企業活動や経営判断を行うための基礎知識と専門知識、論理的な思考力及び応用力を身につけていることを学位授与の要件としています。<br>ビジネス情報学科では、専攻分野に関する専門的能力として、ビジネスにおける情報の活用を可能にする専門的知識、高度情報化社会に対応できる論理的な思考力とデータ分析力及び問題解決力を身につけていることを学位授与の要件としています。<br>メディアビジネス学科では、専攻分野に関する専門的能力として、メディアをビジネスに活用するための専門的知識、論理的な思考力、メディアリテラシーおよび実践的なプレゼンテーション能力を身につけていることを学位授与の要件としています。<br>スポーツ経営学科では、専攻分野に関する専門的能力として、スポーツビジネスや地域社会の発展に貢献するために必要な経営学および体育・スポーツ科学の専門的知識、スポーツにおけるマネジメント能力を身につけていることを学位授与の要件としています。 |
| | 経営学科 | | |
| | ビジネス<br>情報学科 | | |
| | メディア<br>ビジネス<br>学科 | | |
| | スポーツ<br>経営学科 | 学士<br>（スポーツ<br>経営学） | |

## 2 カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

大学の授業は、ディプロマポリシー（卒業認定、学位授与に関する方針）に掲げた学士力を育成するため、下表のとおりカリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）に基づいて、編成されています。入学年度によって異なりますので、カリキュラム表や卒業認定要件表などは、必ず自分の入学年度のページを確認してください。

**≪2019（平成31）年度以降の入学者≫**

| 学部 | 学科 | カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針） |
|---|---|---|
| 経済学部 | 経済学科 | 経済学部では、ディプロマポリシーで示した能力を獲得するために、幅広い教養を学ぶ「共通科目」、経済学の基礎知識と専門的知識を学ぶ「学科科目」、職業観と実践力を身に付ける「キャリア科目」と「能力開発科目」、人間力を磨く「興動館科目」を設定しています。さらに「学科科目」は、「入門」・「基礎」・「発展・応用」という段階にわけて体系的に編成しています。また、１年次生から４年次生まで少人数の「ゼミ科目」を設置し、４年間を通してきめ細かな指導体制を整えています。<br>経済学科のカリキュラムは、「総合経済学」「国際経済」「政策科学」「金融・情報」の４つの科目群で構成され、経済学の基礎知識の修得とともに、論理的思考能力、現状分析能力、及び政策提言、企画提案ができる実践的な能力を開発することを目的として編成されています。 |
| 経営学部 | 経営学科 | 経営学部では、ディプロマポリシーで示した能力を獲得するために、幅広い教養を学ぶ「共通科目」、経営学の基礎知識と専門的知識を学ぶ「学科科目」、職業観と実践力を身に付ける「キャリア科目」と「能力開発科目」、人間力を磨く「興動館科目」を設定しています。さらに「学科科目」は、「入門」・「基礎」・「発展・応用」という段階にわけて体系的に編成しています。また、１年次生から４年次生まで少人数の「ゼミ科目」を設置し、４年間を通してきめ細かな指導体制を整えています。<br>経営学科のカリキュラムは、「マネジメント系」「アカウンティング系」「マーケティング系」という３つの科目群で構成され、それぞれの基礎知識の修得ともに、経営に関する実務的かつ実践的な能力を開発することを目的として編成されています。<br>スポーツ経営学科のカリキュラムは、「経済・経営関連」「スポーツ関連」「実験・実習・演習」という３つの科目群で構成され、経営学と体育・スポーツ科学に関する基礎知識の修得とともに、実験・実習・演習科目群を通して実務能力を磨き、スポーツのマネジメントについて理解し、実践的に運営できる能力を開発することを目的として編成されています。 |
| | スポーツ経営学科 | |
| メディアビジネス学部 | ビジネス情報学科 | メディアビジネス学部では、ディプロマポリシーで示した能力を獲得するために、幅広い教養を学ぶ「共通科目」、メディア・情報及びビジネスの基礎知識と専門的知識を学ぶ「学科科目」、職業観と実践力を身に付ける「キャリア科目」と「能力開発科目」、人間力を磨く「興動館科目」を設定しています。さらに「学科科目」は、「入門」・「基礎」・「発展・応用」という段階にわけて体系的に編成しています。また、１年次生から４年次生まで少人数の「ゼミ科目」を設置し、４年間を通してきめ細かな指導体制を整えています。<br>ビジネス情報学科のカリキュラムは、「ビジネス」「情報」「ビジネス情報演習」という３つの科目群で構成され、「ビジネス」と「デジタル情報」に関する基礎知識の修得と、さらに実務に即した演習を行うことによって、高度情報社会における最先端のビジネスを生み出す能力を開発することを目的として編成されています。<br>メディアビジネス学科のカリキュラムは、「メディア・ＩＣＴ」「ビジネス」という２つの科目群で構成され、それぞれの基礎知識の修得と、メディアをビジネスに戦略的に活用できる能力の開発を目的として編成されています。さらに、着想・調査・取材・表現・リテラシーの基礎能力を身につけることができるアクティブ・ラーニングを重視して編成されています。 |
| | メディアビジネス学科 | |

**≪2018（平成30）年度以前の入学者≫**

| 学部 | 学科 | カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針） |
|---|---|---|
| 経済学部 | 経済学科 | ディプロマポリシーに掲げた知識・技能・論理的思考力などを習得させるため、授業科目を６つの学習領域分野に分類して編成しています。すなわち、幅広い教養を学ぶ「共通科目」、各学科の専門的知識を学ぶ「学科科目」、将来を見すえて確かな職業観と実践力を身に付ける「キャリア科目」及び「能力開発科目」、プレゼンテーション能力を磨く「ゼミ科目」、他者と協働して何事か成し遂げるために必要な人間力を磨く「興動館科目」であり、それぞれの分野で講義と演習を適切に組み合わせた授業を開講しています。さらに「学科科目」については、履修順序及び難易度を示す「入門」「基礎」「発展・応用」という段階にわけて体系的に編成しています。<br>経済学科のカリキュラムは、「総合経済学」「国際経済」「政策科学」「金融・情報」の４つの科目群で構成され、経済学の基礎知識の修得とともに、論理的思考能力、現状分析能力、及び政策提言、企画提案ができる実践的な能力を開発することを目的として編成されています。<br>経営学科のカリキュラムは、「マネジメント系」「アカウンティング系」「マーケティング系」という３つの科目群で構成され、それぞれの基礎知識の修得ともに、経営に関する実務的かつ実践的な能力を開発することを目的として編成されています。<br>ビジネス情報学科のカリキュラムは、「ビジネス」「情報」「ビジネス情報演習」という３つの科目群で構成され、「ビジネス」と「デジタル情報」に関する基礎知識の修得と、さらに実務に即した演習を行うことによって、高度情報社会における最先端のビジネスを生み出す能力を開発することを目的として編成されています。<br>メディアビジネス学科のカリキュラムは、「メディア・ＩＣＴ」「ビジネス」という２つの科目群で構成され、それぞれの基礎知識の修得と、メディアをビジネスに戦略的に活用できる能力の開発を目的として編成されています。さらに、着想・調査・取材・表現・リテラシーの基礎能力を身につけることができるアクティブ・ラーニングを重視して編成されています。<br>スポーツ経営学科のカリキュラムは、「経済・経営関連」「スポーツ関連」「実験・実習・演習」という３つの科目群で構成され、経済学、経営学と体育・スポーツ科学に関する基礎知識の修得とともに、実験・実習・演習科目群を通して実務能力を磨き、スポーツのマネジメントについて理解し、実践的に運営できる能力を開発することを目的として編成されています。 |
| | 経営学科 | |
| | ビジネス情報学科 | |
| | メディアビジネス学科 | |
| | スポーツ経営学科 | |

# 教育目標

## 共通科目

### 1 教育目標

共通科目は、幅広い分野にわたる基礎知識を身につけて、人間形成の基盤をつくるための科目です。めまぐるしく変化していくグローバル社会の中を生き抜くために、現代人としての、広い視野に立った総合的判断力と、豊かな人間性を養うことを目標とします。

### 2 カリキュラムの特色

共通科目のカリキュラムは、下の図のような構成になっています。

共通科目

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 外国語科目 | 日本語文章<br>表現科目 | 自己理解系<br>科目 | 他者理解系<br>科目 | 基礎教養<br>科目 | 情報処理科目 |

※共通科目の必修単位は、2014（平成26）年度以前入学生は、外国語科目（必修４単位、選択必修２単位）及び日本語文章表現２単位の合計８単位、2015（平成27）年度以降入学生は、外国語科目８単位（必修６単位、選択必修２単位）、日本語文章表現２単位、自己理解系科目６単位、他者理解系科目６単位の合計22単位です。

**【外国語科目】**

現代社会を生きるのに必要とされる外国語を学ぶ科目です。

まず、英語関連科目では、必修科目（６単位）として「必修英語ＡⅠ・ＡⅡ」と「必修英語ＢⅠ・ＢⅡ」、そして「必修英語ＣⅠ・ＣⅡ」を学び、英語の基礎力を養成します。その後、各自の関心に応じて、選択必修科目（２単位）として「英語理解Ⅰ・Ⅱ」または「英語表現Ⅰ・Ⅱ」コースのいずれかを選び、レベルに応じて「基礎徹底・標準・発展」クラスのいずれかを履修し、応用力を伸ばします。また、２単位を超えて選択した英語関連科目は、共通科目の選択科目に算入されます。

また、第二外国語（６か国語12科目開設）は、選択科目として履修することができます。

**【日本語文章表現科目】**

大学生として、社会人として必要な日本語による文章表現を学ぶ科目です。

必修科目は1年生対象の「日本語文章表現」で、すべての場面で必要となる基礎的な表現力（論理的文章や実用的文章を書く力）を身につけます。授業でＣ評価以上を修めるとともに、「文章読解・作成能力検定」３級に合格するか、３級合格相当と認められることが必要です。

その後は、自分に合った科目を選択して学びましょう。どの科目も丁寧な振り返りや解説を大切にしています。自身の課題を克服して、表現力を伸ばしましょう。

選択科目は次の３種類です。

**○基本的な文章表現力向上をめざす科目**

**「文章表現演習・標準」「文章表現演習・発展」**があります。

論説文や書簡文を中心に、論理的批判的に思考する力やコミュニケーション能力を高めます。「文章読解･作成能力検定」準２級、２級に準じた内容のため、受検対策にもなります。検定受検は自由ですが、２級に合格すれば、SA（学生支援員）への道筋も開けます。

あらゆる表現活動の基本となる力を養う上でたいへん効果的です。

**○実用的な文章力向上をめざす科目**

**「ビジネス日本語演習」**があります。

ビジネス文書、履歴書、エントリーシートなどの書き方や文章を書く上での常識を学びます。社会生活や就職活動にたいへん役立つ内容です。

**○レポートや論文の書き方を学ぶ科目**

**「日本語演習・標準」「日本語演習・発展」**があります。

大学での学びに欠かすことのできないレポートや論文の書き方を学びます。専門科目の授業で課せられるレポートや卒業論文の作成に大変役立つだけでなく、身につけた基礎力は社会に出てからも役立ちます。

**【自己理解系科目・他者理解系科目】**

グローバルな社会で活躍していくために、各々の文化や社会の仕組み等の違いを明確に理解するための科目です。自己理解系科目では、日本の歴史、地理、法律、宗教などについての基礎的な知識を学びます（合計11科目）。また、他者理解系科目では、世界の歴史、地理、法律、宗教などについての基礎的な知識を学びます（合計10科目）。自己理解系科目、他者理解系科目のうちからそれぞれ３科目（６単位）以上、必ず選択する必要があります。

**【基礎教養科目】**

幅広い分野にわたる基礎知識を身につけるための科目です。以下の①～④のような内容で、合計20科目を用意しました。自由に選択できます。

①豊かな人生を築いていくための人文分野６科目
②人の営みと社会人としてのあり方について学ぶ社会分野４科目
③自然について理解を深める自然分野６科目
④健やかな毎日を送るための知識と実技、健康・スポーツ分野４科目

**【情報処理科目】**

経済学部で学ぶための PC 入門科目として、Word や PowerPoint、Excel、Access、Photoshop などを使った基礎・応用学習をめざす科目です。

## 経済学部　経済学科

### 1 特色と教育目標

経済学科では、私たちの身の回りに起こる出来事が経済とどのような関わりがあるのかを学び、それらの出来事を引き起こす仕組みを解き明かしていきます。財やサービスを消費する私たち消費者の行動、それらを生産し供給する企業の行動、また経済に影響を及ぼす政府の役割など、経済学の対象は意外なほど広範囲にわたっています。そこで経済学を通じて、私たちはそうしたさまざまな経済活動の背後で作動しているメカニズムを学んでいきます。

経済学科では特に、経済学の学習を通して、現代社会を生き抜くために求められる“実践的能力”と“実務的能力”を養うことを目指しています。そこで、自ら考え、分析し、実践していける力を養い、それらの能力を基礎に、企業その他で創造力を発揮しつつ社会に貢献できる人材を育成するため、幅広いカリキュラムを用意しています。

現代社会を生き抜くために必要な“実践的能力”とは、具体的には次のような能力を指します。

◆現状分析能力・論理的思考能力
　⇒市場に内在する問題や市場に存在するチャンスを自ら見出す能力
◆政策提言能力・企画提案能力
　⇒市場に内在する問題を解決し、チャンスに対して戦略を立てる能力

このような能力を身につければ、ビジネスの現場では長期的な戦略に基づく具体的な提案ができ、そして個人としては、豊かな人生を過ごすための生涯設計を立てることができるでしょう。

以上のような“実践的能力”をより効果的にするためには、さらに“実務的能力”を養う必要があります。ここでいう“実務的能力”とは具体的には次のような能力を指します。

◆経済の動きを読み取る正確な情報収集・分析能力
◆企業等の動きを数値情報としてとらえる能力
◆経済に関する情報を外国語で読み取る能力

このような“実務的能力”を養うことは、企業等の組織や制度に内在する問題点・改善点を見出す上で役立ち、短期的には社会で活躍し、中長期的には現代社会を生き抜くための助けとなるでしょう。

### 2 カリキュラムの特徴と履修方法

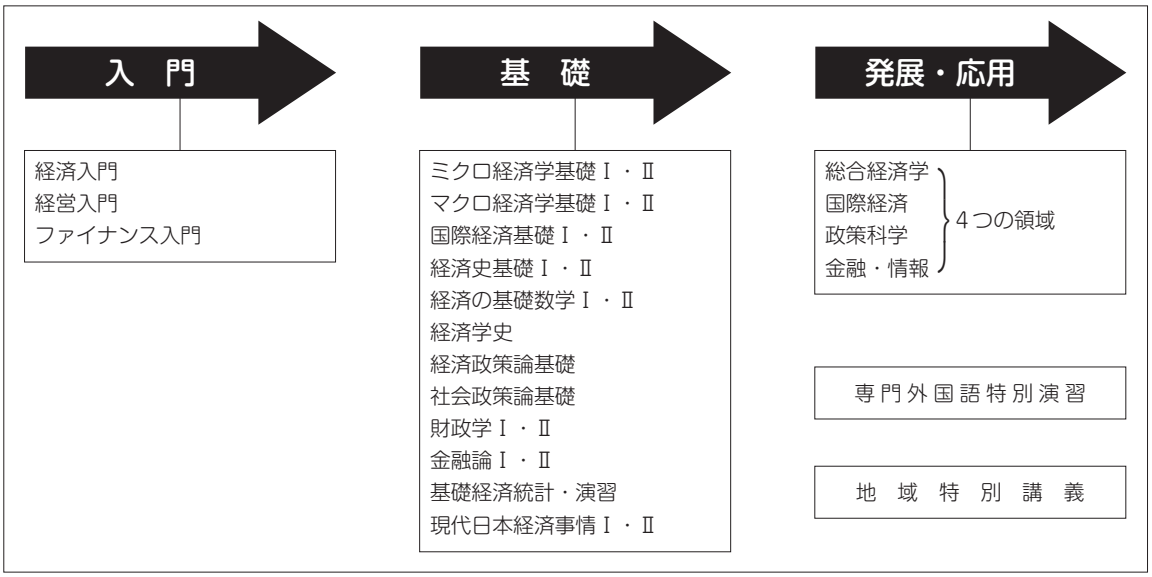
上記のような目標を段階的な学習方式によって実現するために、経済学科では以下のような「入門科目」・「基礎科目」・「発展・応用科目」を設定しています。

まず「入門科目」では、学生の皆さんにとって身近であり、経済学を修得する上で鍵となるような経済現象に興味を持たせ、それらを知る楽しさを感じ取れるような授業科目を配置しています。これらによって、身近なトピックから経済・経営およびファイナンスに関する基本的な知識を身につけ、経済・経営に慣れ親しむことを目的としています。

次に、「基礎科目」には、入門科目で芽生えた経済現象に対する興味を持続させながら、その発展・応用へと進むために必要となる基本的な理論体系を修得できるような授業科目を配置しています。これらは理論・歴史・政策・財政・金融・情報といった基礎分野全般をカバーし、さらに日本の国内・国外で生じている重要な経済現象を紹介する科目を含んでいます。

「発展・応用科目」には「総合経済学」・「国際経済」・「政策科学」・「金融・情報」という四つの領域を設定し、ａ）現状分析能力・論理的思考能力、ｂ）政策提言能力・企画提案能力、を獲得できるような授業科目を配置しています。また、この基本形の上に、地元経済人を招いて、経済の実態やビジネス最先端の実情を学ぶ「地域特別講義科目群」を組み込み、実務的能力の向上を目指しています。このように、「発展・応用科目」は多岐にわたっていますので、学生の皆さんの進路や関心に応じて種々の科目を履修することになります。

≪段階的な学習方式≫




## 3 人材育成（進路・資格取得）

このように、経済学科は“実践的能力”と“実務的能力”を身につけた人材を育成します。これは具体的には次の三つの類型に分けることができます。

①第一は、経済学の知識を利用して経済全体の動きを読み取り、政策提言できる人材、および高校レベルで経済学の知識を普及させる人材です。

【卒業後の職業例】研究者・企業の管理職・各種公務員、および高校での「政治・経済」担当教員等を志している学生に適しています。

【取得可能な教育職員免許状】※経済学科共通

・中学校教諭一種免許状（社会）
・高等学校教諭一種免許状（地理歴史）
・高等学校教諭一種免許状（公民）

②第二は、経済学の知識を利用して産業・企業の動きを読み取り、ビジネスの現場での実践的・実務的能力を高めて日本の産業界の発展に貢献できる人材です。

【卒業後の職業例】企業の営業・経理財務・人事・総務担当者や管理職、個人企業家を志している学生に適しています。

③第三は、個人の資産運用や企業の資金調達を中心とした金融知識を有する人材、および各種金融資格を修得して、日本の金融界の発展に貢献できる人材です。

【卒業後の職業例】金融機関職員、ファイナンシャルプランナー、金融アナリストを志している学生に適しています。

なお、履修モデルのページに掲載してあるのは、「経済学を体系的に学びたい」、「ビジネスマンとして必要な経済知識を学びたい」、「金融・証券マンを志している」等といった目標を想定して、それぞれに適した履修プランで組んでみたものです。これは参考程度として、自分に最も適した履修プランを工夫してください。

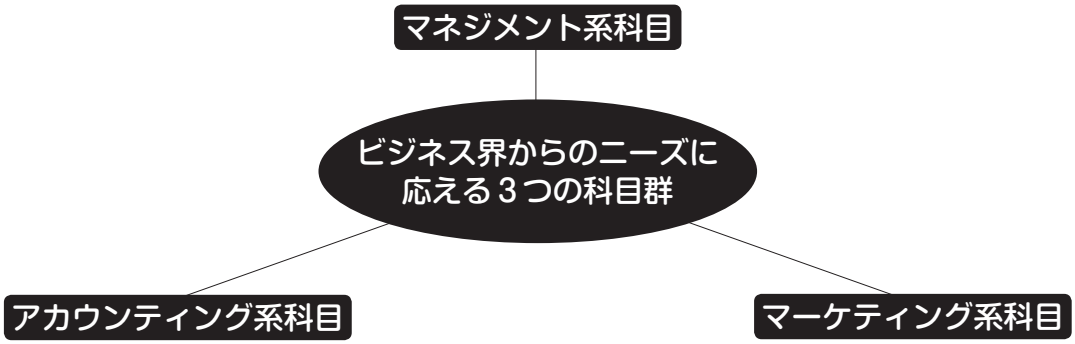
## 経営学部　経営学科

### 1 特色と教育目標

経営学は、単なる金もうけのための学問ではありません。企業活動がうまくいくように、ヒト、モノ、カネ、情報というような企業を構成する要素をどのように生かしていくかを研究する学問です。つまり、組織運営のあり方を研究する学問です。ですから、経営学は、企業だけでなく、官公庁、家庭、学生のサークルといった、様々な組織の運営にも役立つ、非常に応用性に富む学問であると言えます。

経営学には、組織運営そのものを扱うマネジメント系の分野だけでなく、組織と顧客（ないし市場）との関係を扱うマーケティング系分野、組織の活動の結果を記録し、その記録を管理に生かしていくアカウンティング（会計）系分野などがあります。

本学経営学科では、これら三つの領域を体系的に学べるよう、豊富なカリキュラムが用意されています。経営学科のカリキュラムは、マネジメント、アカウンティング、マーケティングの三つの分野から成り立っており、どの分野も入門的な科目から、発展・応用科目まで、幅広いだけでなく、高度な知識を身につけることができるようになっています。




経営学は、組織の運営の学であり、それゆえに組織や人間の性質に関する深い洞察を含んだ内容になっています。経営学を学ぶことによって、企業人としての確かで深い知識と豊かな知性を身につけることはもちろんですが、企業社会を生き抜く生き甲斐や自信をもてるようになってほしいと思います。

### 2 カリキュラムの特徴と履修方法

経営学科では、マネジメント系科目、アカウンティング系科目、マーケティング系科目の三つの科目群を設けています。皆さんに、三つの分野それぞれの高い専門性を身につけてもらうだけでなく、三つの分野の関連を総合的に理解してもらうことを意図しています。

これら三つの科目群の教育目標はそれぞれ次のとおりです。

①マネジメント系科目では、経営の理念や哲学を深く理解して、これに基づいた経営の理論と実際を体系的に学びます。そして、企業を中心とした組織を合理的に経営するにはどうするか、企業組織の各部門を合理的に管理するにはどうするか、というマネジメントの基礎を身につけます。また、大規模化、複雑化する企業経営に対応できる能力を養います。

②アカウンティング系科目では、まず、会計数値についての知識を身につけます。会計数値は企業活動を読み解くこの上ないツールであり、ビジネス社会における共通言語だからです。そして、企業活動の経営成績や財政状態を会計情報として、数字によって的確に把握できるようにします。さらに進んで、企業の経営方針や経営戦略を立案し、実行できる能力を養います。

③マーケティング系科目では、企業が生産した商品を消費者にいかにして届けるか、またそれに伴って必要となる、物流、金融や証券、外国との貿易など、様々な活動について学びます。これに関連して、インターネットビジネス、国際ビジネスなど最新のビジネスに関する知識を身につけて、国際化・情報化に対応できる能力を養います。

これら三つの科目群で身につけた知識は、企業での実務においては、総合的かつ実践的に身に付いていることが求められます。経営学科では、「経営実践（興動館科目）」、「ビジネスプランニングⅠ・Ⅱ」などの科目で、実践的に学ぶ機会を提供しています。

## 3 人材育成（進路・資格取得）

経営学科では、理論と実際との連携とその相互作用で、実務的実践的能力とともに専門能力を高めることを重視しています。また、国際化・情報化の時代に対応して、幅広い視野をもった創造性豊かな人材の育成を目標にしています。

【卒業後の職業例】スーパーやデパートや専門店などの小売業や卸売業、鉄道やバスやホテルや旅行などのサービス業、銀行や証券や保険といった金融業、通信や情報関係、食品やアパレルなどの製造業、貿易関係など、考えられる業種は多種多様です。また職種に関しても、営業、経理、企画、人事など、多種多様な職種に必要な能力を身に付けられるカリキュラムとなっています。

【資格取得の例】経営学（マネジメント）、会計学（アカウンティング）、マーケティングの専門知識や技能を基礎にして取得できる資格のうち主なものを下記に紹介しておきます。

《資格》

◆簿記検定（日商）、小売商（販売士）、社会保険労務士、証券アナリスト、ファイナンシャルプランナー、企業年金コンサルタント、通関士、不動産鑑定士、宅地建物取引士、医療事務員（メディカルクラーク）、マンション管理士、中小企業診断士、行政書士、税理士、司法書士、公認会計士など。

《教育職員免許状》

◆高等学校教諭一種免許状（商業）

《各種公務員》

◆国家公務員（行政事務Ａ・Ｂ、税務、皇宮護衛官、入国警備官、法務教官、刑務官Ａ・Ｂ、裁判所事務官、家庭裁判所調査官、航空管制官、国立国会図書館職員、防衛庁職員、海上保安庁職員、労働基準監督官など）

◆地方公務員（一般事務、学校事務、警察事務、交通巡視員、消防官、警察官など）

## 経営学部　スポーツ経営学科

### 1 特色と教育目標

スポーツ経営学科の特色は以下の４点に集約されます。

第一に、スポーツの経済的側面を理解したうえで、スポーツビジネスの現場で活躍できる人材を育成するために、スポーツビジネスに接する機会を多く確保しています。

第二に、座学を中心としたカリキュラム体系だけではなく、スポーツに関連するイベントの運営やスポーツ団体の経営実践を軸としたカリキュラムを用意しています。

第三に、従来軽視されがちであった実験・実習・演習科目を多く配置し、原則としてそれを理論科目とセットで配置しています。理論と実験・実習・演習を有機的に結びつけ、しかも両者を段階的に学ぶことで、スポーツ団体の的確な運営を行い得る人材の育成を目指しています。

第四に、スポーツビジネスに関する実践的な研究と教育を強化するために、実業界から人材を招くなど、実社会との連携にも力点を置いています。

これらの特色から、本学科は、他大学のスポーツ系学科ともビジネス系学科とも明らかに一線を画すものであり、経済活動の一環としてビジネスとしてのスポーツを捉えることが重要な今日において、必要不可欠なスポーツビジネスの運営能力の向上に重点を置いたものとなっています。

### 2 カリキュラムの特徴と履修方法

本学科のカリキュラムの特徴は、経済学をベースにしつつ、教育研究の中核である「スポーツビジネス」、「スポーツ組織の経営管理」という分野を中心にして授業科目を配置していることです。さらに、専門教育科目は、「入門科目」、「基礎科目」、「発展・応用科目」に大別されています。入門科目で導入的な知識を修得した後に、基礎科目で個別的、専門的な知識・技能を学ぶ基礎となる科目を履修するよう配置しています。さらに、発展・応用科目へと進み、より高度な科目を段階的に履修するような配慮がなされています。

#### ⑴入門科目

入門科目は、基本的に大学全体の入門科目として位置づけられています。そのために、入門科目の中の経済入門と経営入門は、大学の必修科目です。さらに、学科の特色を学ぶため、スポーツ経営入門を配置しています。

#### ⑵基礎科目

スポーツ関連の導入科目は、基礎科目の中のスポーツ文化論、スポーツ経営学、スポーツ産業論、スポーツマーケティング論です。基礎科目においては、これらの科目の他、入門科目よりも少し進んだ経営学、経済学、情報処理の基礎を学んでほしいと考えています。さらにスポーツビジネスのグローバル化を視野に入れ、スポーツ英語や The World's Top Athletes from Japan（世界の頂点に立った日本のアスリートたち）、Sport Culture in Japan（日本のスポーツ文化）、Major Sport in Japan（日本のメジャースポーツ）を開講しています。

#### ⑶発展・応用科目

この区分は、より具体的で実践的な科目として位置づけられます。それはさらに、「経済･経営関連科目」、「スポーツ関連科目」、「実験・実習・演習科目」の３つの科目群によって構成されます。「経済・経営関連科目」は、主に経済学、経営学、スポーツ経営学関連を、「スポーツ関連科目」は、主に体育・スポーツ科学を学ぶ科目群です。そして、「実験・実習・演習科目」では、より効果的な教育を行うために、実践的な現場での体験を重視した科目を配置しています。その内、「地域スポーツ貢献演習」、「スポーツビジネス演習Ⅱ」、「スポーツマネジメント演習」の3科目は学内および学外で実習をします。さらに国内外のスポーツビジネスの現場を視察することを目的とした「スポーツビジネス視察Ⅰ（国内）」、「スポーツビジネス視察Ⅱ（北米）」、「スポーツビジネス視察Ⅲ（欧州）」ではさらなる知見を広めるための科目として開講されています。

また、本学では、１年次に専任教員担当による少人数の「大学入門ゼミ」、「興動人入門ゼミ」を置き、必修科目としています。２年次においては「プレゼミ」、３年次においては「演習Ⅰ」、４年次においては「演習Ⅱ」を必修科目として設け、徹底した少人数のゼミ教育を行います。したがって、学生はほぼすべてのセメスターを通して専任教員による少人数演習を受けることになります。

### 3 人材育成（進路・資格取得）

本学科では、「スポーツ関連ビジネスの企画・管理・運営等に関わり、社会の発展に貢献しうる人材」、「地域スポーツ団体の管理・運営に関わり地域社会に貢献できる人材」の養成を目指しています。このようにして養成した人材は、スポーツとかかわるあらゆるビジネスシーンでの活躍をめざし、スポーツ組織団体・スポーツ関連産業に加えて、学部の主な進路先である金融・保険・製造・小売・公務員など、幅広い分野への就職を想定しています。具体的な卒業後の進路としては、次の３つのモデルが考えられます（※履修モデルのページにモデル表掲載）。

#### ⑴スポーツ関連企業系モデル

本モデルは、経営感覚に富んだスポーツのわかるビジネスパーソンの育成を目標とします。卒業後の就職先として、スポーツクラブ、スポーツ用品メーカー、スポーツ用品ショップ、広告代理店、スポーツイベント関連企業などが想定されます。

#### ⑵一般企業系モデル

本モデルは、一般企業で活躍が期待される、活力ある人材の育成を目標とします。卒業後の就職先として、一般企業、各種公益法人、公務員などが想定されます。

**⑶スポーツコーチング系モデル**

本モデルは、スポーツに精通し、かつ社会で活躍できる人材の育成を目標とします。卒業後の就職先として、各種スポーツ団体、スポーツクラブ、スポーツ関連企業などが想定されます。

また本学科では、スポーツ組織・団体の経営やプログラムの企画・立案ができる人材を養成するためのカリキュラムを用意していますが、地域スポーツやコミュニティスポーツの現場では、運動・スポーツ指導を安全に遂行する最低限の知識や実践能力が必要とされます。そのための資格として、「レクリエーション･インストラクター」や「スポーツリーダー」、さらに「子ども身体運動発達指導士」を設定し、取得を推奨します。さらには、オプションとして、公認スポーツ指導者取得のベースとなる共通科目の修得が可能となるような科目を配置（スポーツ関連科目全般）しています。また、総合型地域スポーツクラブなど、今後、地域スポーツのマネジメントの際に必要とされる「スポーツクラブマネジャー」、「アシスタントマネジャー」、「体育施設管理士」の資格取得も推奨し、地域スポーツ推進に積極的に関与できうる人材、屋外・屋内などの体育スポーツ施設の整備を管理することができる人材を養成したいと考えています。

資格取得については、下記の関連授業の単位取得が必要となります。

●レクリエーション・インストラクター［(公財)日本レクリエーション協会］
卒業要件単位に含まれる下記の授業の単位修得で取得可能。
【関連授業】レクリエーションスポーツ論、地域スポーツ貢献演習に加え、レクリエーションスポーツ実習Ⅰ（ゲーム）、レクリエーションスポーツ実習Ⅱ（キャンプ）、レクリエーションスポーツ実習Ⅲ（スノー）のうちから２科目

●スポーツリーダーおよび、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習　共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ[1)]　[(公財)日本スポーツ協会 ]
卒業要件単位に含まれる下記の授業の単位修得で取得可能。
【関連授業】スポーツ指導法演習、スポーツコーチング論、スポーツトレーニング論、健康運動プログラム論、救急処置法、スポーツ栄養学、スポーツ文化論、地域スポーツ論、スポーツ医学、スポーツ生理学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ心理学、スポーツ社会学、スポーツ経営学、スポーツトレーナー演習

※[1)] 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格は、(公財)日本スポーツ協会が認定するスポーツ指導者資格です。本学では、これらの資格に関連する共通講義科目の受講が可能で、単位修得により公認スポーツ指導者取得のベースとなる共通科目の試験が免除されます。その後、各スポーツ競技団体の実技試験等に合格することによりさらに上位の資格が付与されます。

●アシスタントマネジャー［(公財)日本スポーツ協会］
卒業要件単位に含まれる下記の授業の単位修得後、別途行われる試験に合格することで取得可能。
【関連授業】地域スポーツ論、スポーツ組織論、コミュニティビジネス論、スポーツ経営学

●スポーツクラブマネジャー［(公財)日本スポーツクラブ協会］
卒業要件単位に含まれる下記の授業の単位修得で取得可能。
【関連授業】地域スポーツ論、コミュニティビジネス論、スポーツ施設マネジメント

●子ども身体運動発達指導士［(公財)日本スポーツクラブ協会］
下記の授業の単位修得、別途、レポートを提出し合格することで取得可能。
【関連授業】スポーツ指導法演習、スポーツ栄養学

※上記資格取得には、卒業時に申請し、それぞれの資格認定料が必要となります。

●体育施設管理士　[(公財)日本体育施設協会 ]
学内で実施される資格認定試験[2)] に合格し、所定の手続きを行うことにより資格取得可能。
【関連授業】スポーツ施設マネジメント、救急処置法

※[2)] 資格認定試験：履修学生のみ受験可能です。受験料・資格認定料は別途必要になります。

## メディアビジネス学部　ビジネス情報学科

### 1 特色と教育目標

**⑴「ビジネス」と「情報」の融合領域を学ぶ**

ビジネス情報学科の大きな特徴は、現代ビジネスの基礎から学び始めて、段階的かつ発展的に、IT（Information Technology）を活用したビジネスまで学べることです。これには情報技術に係る総合的な知識と技能の習得、企業における情報システムの活用事例などを学ぶことも含まれます。他大学の経済学系や経営学系の学科にも本学科と類似の学科名を掲げるものも存在していますが、それらは従来の経済学や経営学の体系的な理論や学説の理解を主としており、その周辺科目として情報系の科目や情報処理に係る実習などを組み入れられているにすぎません。本学科は、ビジネスに係る知識の習得を基礎としながら、情報全般の知識や技能の習得にも力を入れることにより、高度情報化社会のなかで、ビジネスパーソンとして適応できる能力を身につけることを目指しています。

**⑵情報に関する高度な活用能力の育成**

「情報教育」という言葉は当初、文書作成やデータ処理が出来るようになる教育、いわゆる「情報処理教育」という意味で用いられていたこともありましたが、このような捉えかたは過去の話です。現在では、このような教育は、初歩的な入門レベルのものになっています。インターネットが普及し、その基盤が一層高度化され、拡充されるにしたがい、スマートフォンやタブレット PC の普及といったハード面の多機能化・高度化が進み、他方でＳＮＳ（Social Networking Service）が進展した今日では、「ビジネスニーズと情報技術との融合的な活用と応用」に情報教育の視点も移っているのです。さらに、すべてのモノがインターネットにつながっていく現状において、大量のデータが生成され、そのデータが活用・応用されています。すなわち、現代ビジネスでは、日進月歩の情報技術を融合的に活用・応用し、ビジネスのあらゆるプロセスを常に前進させていくことのできる人材の育成が求められているのです。本学科では、入門的な「情報処理」はもちろんのこと、この「ビジネスニーズと情報技術との融合的な活用と応用」を実現できる教育プログラムの提供を目指しています。

**⑶３つの人材育成モデルの提供へ**

ビジネス情報学科では３つの学びのプログラムを設定し、「人材育成モデル（履修登録モデル）」として提示しています。この学びのプログラムは、一般によくある「○○○コース」として履修モデルを設定しているのではなく、職業上の進路の選択を容易にし、どのような学習を積み上げていき、専門性を高めていくかを明確にしたものです。みなさんは、本学科が提示した「現代ビジネス型」「情報デザイン型」「情報インストラクター型」の３つのモデルの中から、将来の職業を見据えて選択をすることになります。

### 2 カリキュラムの特徴と履修方法

**⑴人材育成目標と科目間連携**

ビジネス情報学科は、卒業後の進路（職業）として３つの人材育成モデルを提案しています。本学科は、そのなかで、みなさんの希望するそれぞれの進路（職業）に、より確実に到達するために、どの授業科目を、いつ履修すべきかを明確にしています。つまり、本学科が提示した人材育成モデルにしたがって履修していくと、目的に照らして、授業科目を、順序よく、体系的に履修することができます。

人材育成モデルは、授業科目の難易度や授業科目間の連携を踏まえ、また、進路（職業）に必要な知識や技能を効率的に習得することができるように作成されています。本学科の授業科目は、人材育成プログラムを実現するように配置され、全ての講義科目の内容は、この目的達成に沿うものとなっています。

**⑵座学と演習の両輪化**

ビジネス情報学科の講義科目には、一般教室で開講される「座学」タイプの授業科目と、実際にパソコンを使用しながら学ぶ「演習」タイプの授業科目とがあり、「演習」タイプの授業科目の多くには、そのペア科目として「座学」タイプの授業科目が用意されています。例えば、「演習」タイプの「マルチメディア演習」については「座学」タイプの「マルチメディア論」がペアで開設されています。これは、マルチメディアに関する基礎知識を身に付けるためには、「マルチメディア論」により普遍的な理論を学ぶと同時に、「マルチメディア演習」で実践スキルを体得することで、それらの真の理解を深め合うことができるという配慮からです。

**⑶高度な専門性と職業能力の育成**

ビジネス情報学科の専門教育は、ビジネスと情報技術に関する総合的な学習の上に、専門能力と職業能力の育成を目指しています。このため、専門分野に係る授業科目を体系的かつ段階的（入門、基礎から発展・応用までの３段階）に配置するだけにとどまらず、職業と学習暦を、学生に強く意識させるようなカリキュラム編成を採っています。また、ビジネス情報学科の演習科目については、２年次にも数多く配当され、より早期の資格取得を目指すことに配慮しています。

## 3 人材育成（進路・資格取得）

履修モデルの掲載ページに、「現代ビジネス型」、「情報デザイン型」、「情報インストラクター型」、それぞれの履修登録モデルを挙げています。

本学科の講義科目は、全てがこの３つの「人材育成モデル」に基づいて提供され、カリキュラムの中での位置づけが定められています。以下で「卒業後の進路」や推奨される取得資格を提示します。

### ⑴現代ビジネス型

企業への就職を前提として、商品開発、企画や販売などの多方面のビジネス分野で活躍できる人材を輩出することを目標としています。もちろんコンピュータやインターネットの活用の底力を発揮できるように情報系の科目も学びます。特に下記のような職業につくことが可能となるモデルです。

・金融ビジネスパーソン
　銀行、証券会社、保険会社などにおいて、学科で学んだ情報活用力を生かして、金融に関わる仕事を行います。

・生産・流通ビジネスパーソン
　アパレル、ブティック、デパート、スーパー、コンビニなどにおいて、情報を学ぶことで培った高いセンスを生かして仕事を行います。また、製造や流通においては、品質管理や生産管理を行います。

・メディアビジネスパーソン
　出版社、放送局、新聞社、広告代理店などにおいて、販売・マーケティングのための企画・マネジメントを行います。

【取得資格の目標】・Microsoft Office Specialist・同 Expert・ITパスポート・販売士２級・日商簿記２級

### ⑵情報デザイン型

企業に就職し、コンピュータやインターネット関連の業務に携わることを目標とします。もちろん基本的なビジネス科目も履修しますので、ビジネス面の基礎知識を身に付けていきます。コンピュータや通信などに係わる職業に関心を持つ下記のような方に最適のモデルです。

・システムデザイナー
　電機メーカーや情報システム関連企業においてシステム開発を行ったり、その他の企業においてアプリケーション開発を行ったりします。

・デジタルメディアデザイナー
　出版社における電子書籍、ＷＥＢデザインハウスにおけるホームページなどの企画・制作を行います。

【取得資格の目標】・ITパスポート・NTTドットコムマスター・基本情報技術者・MCP

### ⑶情報インストラクター型

ビジネスに関する基礎知識を習得し、情報技術の領域を幅広く学びながら、より高い情報機器操作能力を養成します。情報教育系職の人材に不可欠な高度な専門知識とスキル、そして受講生の成長を促す効果的な教育を実践できる能力の育成を目指しています。

・高校教員
　情報科目または商業系科目を担当します。

・インストラクター
　専門学校やパソコンスクールにおいてインストラクターとして仕事を行います。

【取得資格の目標】・Microsoft Office Specialist・同 Expert・MCP-IW・高等学校教諭一種免許状（情報・商業）

## メディアビジネス学部　メディアビジネス学科

### 1 特色と教育目標

メディアビジネス学科は、急速に変化するメディアの世界に的確に対応し、ビジネスフィールドで最先端のメディアの活用方法を提案できる人材の育成を目的として開設されました。本学科の具体的な特色には、以下の４つがあります。

第一に、社会において多様なメディアによる多彩な情報受発信を管理・運用できる総合的な能力を習得するために、メディア戦略に関する実践能力の養成と開発を目的としています。

第二に、この目的を実現するために、ビジネス、メディア、ICT などの分野の科目を総合して配置したカリキュラムを編成しています。

第三に、少人数制専門ゼミナールの講座を数多く配置しています。クラス内でさまざまなケース・スタディについて積極的に議論することで、メディアビジネスの理論と専門的な実例を有機的に結びつけながら、企業のメディア戦略策定を行い得る人材の育成を目指しているからです。

第四に、最先端技術を活用・応用したメディアとビジネスに関する実践的な研究と教育を強化するために実業界からの人材を招き、実社会との連携にも力点を置いています。

そして、これらの人材育成目標を支えているのが、次の教育方針です。

①社会情勢に則した実践的教育

メディア戦略の実務に対応した実践的教育を提供することを主眼としています。なぜなら、さまざまな局面で多彩な情報の受発信をプロデュースできる企画力やプレゼンテーション能力を身につけることが社会や企業の要請であると考えるからです。そのためには、まず経済学や社会問題についての広い見識が求められます。さらに、卒業後すぐに実社会で実践・活用できることを目指して、企業広報、ICT、広告・宣伝・販売促進等のマーケティングに重点を置いたビジネス科目群と、日々刻々と変化しつつあるメディアと ICT に対応した科目群を揃えて、実社会と連動した教育方法を採用しています。

②コミュニケーション能力を育成

メディアを理解し、社会での情報発信ツールとして使いこなすためには、制作のプロセスを体験的に学ぶことが不可欠です。全国的にも珍しいコミュニティ FM 放送を大学キャンパスから発信するなど、フィールドワークとスタジオ設備等を利用したメディアコンテンツ制作などの実践的活動を通じて、体験的にものつくりを学ぶ方法を取ります。

③徹底少人数教育

メディアを戦略的に活用できる人材の育成には、メディアテクノロジーに関する技能・知識の習得が不可欠です。その習得をより効果的に行うために、専任教員９名による徹底的な少人数体制で臨みます。

### 2 カリキュラムの特徴と履修方法

また、次の人材育成モデルと教育目標を実現するためのカリキュラムとして、学科科目を「入門科目」、「基礎科目」、「発展・応用科目」に大別しています。

#### ⑴入門科目

メディアビジネス学科の科目を学ぶ際の入り口となる科目として位置づけられます。具体的には経済・経営の入門科目と、ビジネス現場における多様なメディアの活用の実態に関する入門科目を設けています。

#### ⑵基礎科目

実践的なメディア戦略スペシャリストを育成するための基礎的科目として位置づけられます。マーケティング、経済学、コミュニケーションに関する基礎的理論を学ぶための科目や、ICT 社会に不可欠なツールとなるコンピュータの基本的操作方法を理解するための科目、実践的なメディア活用スキルに対する理解を深めるための科目、そしてディベートなどの表現技法を習得するための科目等を配置しています。

#### ⑶発展・応用科目

社会において多様なメディアを戦略的に活用できる能力を持つ人材を育成するため、より具体的で実践的な科目として位置づけられます。

それはさらに、「ビジネス科目」と「メディア・ICT 科目」の二つの科目群によって構成されます。

①ビジネス科目

インターネットの普及とスマートデバイスの進展による社会情勢の変化を背景に、双方向デジタルメディアをビジネスで活用する知識を理解するための授業科目を配置しています。また、CRM などの顧客マネジメントや CSR などの企業の社会的責任の考え方から、「新しい時代の企業と顧客のコミュニケーションスタイル」の確立を目的とした授業科目を配置しています。同時に、ICT 社会及び高度情報ネットワーク社会を、社会科学的及び人文科学的に理解する専門知識と、ビジネス現場に活用できる実践的なスキルの習得を目的とした授業科目を配置しています。

②メディア・ICT 科目

多様なメディアに関する基礎的知識と技能、及びそれらをビジネス現場で応用・活用できる手法を学ぶための授業科目を配置しています。また、映像、音声又はデザインによるコンテンツ制作などを含む「ものつくり」を通じて、専門基礎科目とビジネス科目で習得した知識を深め、より実践的な活用スキルの習得を目指しています。他方、ビジネスを行う上で必要不可欠となるワープロソフトや表計算ソフト、さらにプレゼンテーションソフトや動画編集ソフトの基礎的操作及び応用操作を習得するための科目を配置しています。

## 3 人材育成（進路・資格取得）

以上のような教育目標と特色のある本学科のカリキュラムによって、履修モデルのページに掲載しています２つの人材育成モデルと次の卒業後の進路が想定されます。

### ⑴メディアプロデュース・モデル

【卒業後の職業例】メディア関連産業や娯楽・教養・教育産業で、メディアコンテンツの開発・企画立案や、効果的なプロデュースができる人材。

### ⑵ビジネスコミュニケーション・モデル

【卒業後の職業例】情報通信、金融、流通、家電などの一般企業や行政体や各種法人のコミュニケーション部門や広報・宣伝部門で、デジタルメディアを駆使したビジネス活動・コミュニケーション活動を行い、ｅマーケティングやインターネット広告、SNS 広告等のメディア・マーケティング戦略を策定できる人材。

# 履修

## ２学期制（セメスター制）

### 1 ２学期制（セメスター制）

本学では、一つの授業を学期（セメスター）ごとに完結させる２学期制（セメスター制）を導入しています。２学期制（セメスター制）は、一つの学年を前期（４月１日～９月15日）と後期（９月16日～３月31日）の２学期に分け、それぞれの学期で完結する講義を行い、試験や成績評価も学期ごとに行い、４年間で８つの学期（８セメスター）を積み重ねて卒業認定の要件を満たします。ただし、演習科目など、通年制で行っている科目もあります。

| 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第１セメスター | 第２セメスター | 第３セメスター | 第４セメスター | 第５セメスター | 第６セメスター | 第７セメスター | 第８セメスター |
| １年次 | | ２年次 | | ３年次 | | ４年次 | |

### 2 授業の開講区分

①各授業科目は、いずれかの開講形式をとっています。

学期完結：前期若しくは後期の半年間で授業が完結されます。成績評価及び単位の認定は学期ごとに行われます。

通年完結：前期・後期を継続して授業が行われます。前期終了時での成績評価は行われず、前期・後期の成績を総合評価して単位が認定されます。

そ の 他：特別に期間を設けて授業を開講するもので、本学には次の特設授業期間があります。

・特設（サマー）…夏期休暇期間を利用して授業が行われます。成績評価及び単位の認定は10月に行われます。

・特設（その他）…夏期休暇期間以外の期間を利用して授業が行われます。成績評価及び単位の認定は後期に行われます。

②通常、一つの授業は、１時限を90分とし一週間に１回行われます。

ただし、必修英語ＡⅠ・ＡⅡ、必修英語ＢⅠ・ＢⅡは、１回45分授業とし、一週間に２回行われます。また必修英語ＣⅠ・ＣⅡは、１回45分授業とし、通年で行われます。

また、授業を効果的に行うため、科目によっては次のように開講されます。

複数開講科目：一週間に同じ授業内容を複数クラスに分けて開講します。
履修者の多い科目を週に数回に分けて開講します。
同一教員が複数のクラスを担当したり、数人の教員で複数のクラスを担当します。

連続開講授業：一週間に２回以上、授業を開講します。
同一曜日に連続した時限（〔例〕月３・４時限）に行う場合と、異なる曜日（〔例〕月３時限・火４時限）に行う場合があります。

### 3 授業の履修区分

本学の授業科目は、次のいずれかの履修区分に分類され、各年次に配当されています。

**〔必修科目〕**

卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目
この科目の単位が未修得の場合、卒業することができません。

**〔選択必修科目〕**

特定されている科目の中から、所定の単位数を必修として修得しなければならない科目
この科目の単位が未修得の場合、卒業することができません。

**〔選択科目〕**

特定されている科目の中から自由に選んで履修できる科目

**〔卒業要件外科目（自由科目）〕**

単位の認定はされるが、卒業要件に算入しない科目

## 単位制

大学の学修はすべて単位制によって行われています。

単位制とは、履修登録をした授業科目について、定められた時間数を学修し、かつ試験等に合格することで、定められた単位が与えられる制度です。

**〔単位とは〕**

単位とは、科目を修得するために必要な学修量（時間）を数値で表したもので、45時間の学修時間を必要とする内容の授業科目に１単位を設定することを標準とし、すべての授業科目に、単位数を設定しています。

また、学修時間には、授業時間だけではなく、予習・復習等教室外での自主学習も含みます。

**〔単位の設定〕**

本学では、原則として１回当たりの授業を２時間（実質は90分で１コマと呼んでいます）として計算しています。

なお、必修英語ＡⅠ・ＡⅡ、必修英語ＢⅠ・ＢⅡ、必修英語ＣⅠ・ＣⅡは、１回当りの授業を１時間（実質は45分で0.5コマとします）として計算しています。各授業科目の単位数を定めるにあたっては、１単位の授業科目を45時間の学修（各自が行う自習時間を含む）を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修などを考慮して、次の基準により単位数を計算しています。

①講義・演習については、15時間の授業をもって1単位

・週１時限の授業を通年（30週）行う授業科目の場合

６時間（授業２時間＋自習４時間）の学修時間×30週＝180時間

⇒　180時間÷45時間（１単位につき）＝４単位

・週１時限の授業を半期（15週）行う授業科目の場合

６時間（授業２時間＋自習４時間）の学修時間×15週＝90時間

⇒　90時間÷45時間（1単位につき）＝２単位

②実験・実習・実技及び外国語科目については、30時間の授業をもって１単位

・週１時限の授業を半期（15週）行う授業科目の場合

３時間（授業２時間＋自習１時間）の学修時間×15週＝45時間

⇒　45時間÷45時間（１単位につき）＝１単位

・45分授業を週２回、半期（15週）行う授業科目の場合

1.5時間（授業１時間＋自習0.5時間）の学習時間×週２回×15週＝45時間

⇒　45時間÷45時間（１単位につき）＝1単位

・45分授業を週1回、通年（30週）行う授業科目の場合

1.5時間（授業１時間＋自習0.5時間）の学習時間×30週＝45時間

⇒　45時間÷45時間（１単位につき）＝1単位

③講義、演習、実験、実習、実技及び外国語のうち、１つの授業を２つ以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、それぞれの授業方法ごとの単位数の計算基準を考慮して本学が定める時間の授業をもって1単位

④卒業論文・卒業研究・卒業制作などの授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めています。

## 履修登録

### 1 学修計画

大学における学修の特徴は、学生一人ひとりが学修計画をたてて多くの授業科目の中から履修（授業を受ける科目を選択）できることです。自分が大学で何を学んで社会人として巣立っていくかをしっかり見据えた上で、履修する科目を選択することが大切です。

### 2 履修登録とは

履修登録とは、自らの学修計画に基づき、授業科目について履修の意思表示をすることであり、大学と学生の皆さんとの約束事（契約）です。学生の皆さんが授業科目の履修登録を行い、それを大学が承認します。履修登録を行っていない授業科目については授業に出席しても単位は認定されません。

### 3 履修登録の方法

本学の履修登録は、必ず前期と後期の授業開始前の指定された期間内にHUE NAVI（ヒュー ナビ）「Web 履修登録システム」で行ってください。ただし、以下のとおり履修登録の方法が異なる科目がありますので、注意してください。

クラス指定科目：人数制限等の関係から、あらかじめ指定（曜日・時限を指定）されたクラスで履修する科目
演　習　科　目：あらかじめ募集を行い、選考等により履修登録者を決定する科目（承認後変更不可）
抽　選　科　目：履修登録後、人数制限等の関係から抽選により履修を許可する科目

### 4 履修登録単位数の制限

一週間に授業を受講して学修するには、おのずと限界があります。そこで本学では、広島経済大学履修細則第５条により、各年次において履修登録できる授業科目の合計単位数の上限（履修制限単位数）を次のとおり定めています。

| １年次 | ２年次 | ３年次 | ４年次 |
|---|---|---|---|
| 40単位 | 48単位 | 48単位 | 48単位　＋　８単位（後期に追加できる単位） |

※履修制限単位数は１年間で学修できる最も効果的な単位数として定めています。計画的に履修登録してください。

**※前期に修得できなかった単位数分を、後期で履修登録することはできません。履修制限単位数とは、１年間で履修登録できる単位数です。**

※履修制限単位数の特別措置として、広島経済大学履修細則第５条により、履修制限単位数にかかわらず、前年度１年間の履修登録単位数が、履修制限単位数の８割以上であり、かつ前年度１年間の成績評定平均値（ＧＰＡ）が3.0以上の学生については、６単位までの追加履修登録を認めます（要申請）。なお、ＧＰＡを求める計算は、Ｐ28を参照してください。また、他の特別措置との併用はできません。

※教職課程において、２教科以上の教育職員免許状を取得しようとする者は、広島経済大学履修細則第５条第６項により、各年次において８単位までの追加履修登録を認めます（要申請）。なお、この場合、「履修制限単位数の特別措置」（広島経済大学履修細則第５条　第２項）に定める追加履修登録と併用はできません。

※４年次生は、後期に８単位までの追加登録を認めます（申請不要）。

**なお、次の科目は上記の履修制限単位数を超えて、履修又は申請することができます。**

①教職関連科目（※卒業認定の要件として必要な単位外として計算。教職課程登録者のみ履修可）
②資格振替単位
③本学が教育上有益と認める施設等における研修プログラム
　・学校インターンシップ（※ただし、スポーツ経営学科の学生のうち、2014（平成26）年度以前入学生についてのみ、単位を修得しても卒業認定の要件として必要な単位外として計算）
　・中小企業大学校研修プログラム（※ただし、スポーツ経営学科の学生のうち、2014（平成26）年度以前入学生についてのみ、単位を修得しても卒業認定の要件として必要な単位外として計算）
④キャリア科目のうち就職対策試験関係科目及びインターンシップ
⑤共通科目における日本語文章表現科目のうち、文章検演習
⑥スポーツ経営学科の学生のうち、2014（平成26）年度以前入学生についてのみ、興動館科目のうち、指定科目を除いた科目。
　詳細は,「教育課程（カリキュラム）」の頁を参照
　（※スポーツ経営学科の学生のうち、2014（平成26）年度以前入学生についてのみ、単位を修得しても卒業認定の要件として必要な単位外として計算される科目）
⑦スポーツ経営学科の学生のうち、2014（平成26）年度以前入学生についてのみ、能力開発科目のうち、税理士関係科目を除いた科目
　（※スポーツ経営学科の学生のうち、2014（平成26）年度以前入学生についてのみ、単位を修得しても卒業認定の要件として必要な単位外として計算される科目）

### 5 履修登録の注意事項

履修登録にあたっては、履修ガイダンスへ出席し、『教務ガイド』、『履修登録の手引き』などを熟読し、『HUE NAVI（ヒュー ナビ）パソコン利用ガイド』に沿って手続きを行ってください。履修登録を行った後には、各自、HUE NAVI（ヒュー ナビ）の時間割で、登録した科目が表示されているか必ず確認してください。この確認を怠った場合の授業科目の未登録などの不利益の責任はすべて皆さんにあります。自己の責任において正しい履修登録を行ってください。

※「諸規程集」の頁に掲載の“広島経済大学履修細則”も確認すること。

## 授業

### 1 授業時間

本学における授業時間は１時限を90分として行われます。なお、必修英語ＡⅠ・ＡⅡ、必修英語ＢⅠ・ＢⅡ、必修英語ＣⅠ・ＣⅡについては、1時限を前半（45分）、後半（45分）に分けて行われます。

| 時　限 | １時限 | | ２時限 | | ３時限 | | ４時限 | | ５時限 | | ６時限 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 90分授業 | 9：00<br>～10：30 | | 10：45<br>～12：15 | | 13：00<br>～14：30 | | 14：45<br>～16：15 | | 16：30<br>～18：00 | | 18：15<br>～19：45 |
| 時　限 | １時限 - 前半 | １時限 - 後半 | 2時限 - 前半 | 2時限 - 後半 | 3時限 - 前半 | 3時限 - 後半 | 4時限 - 前半 | | 5時限 - 前半 | 5時限 - 後半 | |
| 45分授業 | 8:45<br>～9:30 | 9:45<br>～10:30 | 10:45<br>～11:30 | 11:45<br>～12:30 | 12:45<br>～13:30 | 13:45<br>～14:30 | 14:45<br>～15:30 | | 16:30<br>～17:15 | 17:30<br>～18:15 | |

### 2 休講

・特別な大学行事（入試等）や担当教員の学会出席などの理由により授業を休講することがあります。
・休講は、大学の決定又は科目担当教員からの届出があり次第、HUE NAVI（ヒューナビ）で連絡します。
・当日の急な休講の場合は、教務課職員が教室前に掲示をするか、教室で直接連絡することがあります。ただし、教室のホワイトボードを使っての休講の連絡は行いません。
・休講の連絡や掲示がないにもかかわらず、90分授業、45分授業ともに授業の開始時刻から30分を経過しても担当教員が入室しない場合は、必ず教務課に連絡をして、指示を受けてください。
・交通機関の運行停止や台風等による休講については、この後に記載してある「5 自然災害による緊急時（交通機関の運行停止と特別な状況に伴う）の授業・学内定期試験の取扱い」で確認してください。

### 3 補講

授業が休講になった場合は、原則として授業を補うため臨時の授業が行われます。これを補講といいます。
補講の授業日程は、HUE NAVI（ヒューナビ）で連絡します。
なお、授業において担当教員からの連絡により実施する場合もあります。

### 4 授業に関する変更

授業科目の開講曜日、時限、教室等に変更が生じた場合は、HUE NAVI（ヒューナビ）で連絡します。特に前期・後期の授業開始からの一週間は、履修者の増減によって教室が変更されることが多いので、必ず確認をしてください。

### 5 自然災害による緊急時（交通機関の運行停止と特別な状況に伴う）の授業・学内定期試験の取扱い

**⑴交通機関の運行停止の内容と対応**

JR 可部線が運行停止となっている場合には、授業（学内定期試験を含む）は下記のとおりとします。

**【運行停止の内容と授業・学内定期試験の対応】**

| 運行停止の内容 | 授　　業 | 学内定期試験 |
|---|---|---|
| 午前６時までに運行開始 | １時限目（１時限・前半）から実施とする | １時限目から実施とする |
| 午前10時までに運行開始 | ３時限目（３時限・前半）から実施とする | ４時限目から実施とする |
| 午前10時現在運行停止中 | 当日の授業をすべて休講とする | 当日の学内定期試験をすべて延期とする |
| 授業又は学内定期試験の実施時間帯に運行停止（非常災害） | その後に開始する授業を休講とする<br>※特に緊急を要する場合は、即時授業を休講とする | その後に開始する学内定期試験を延期とする<br>※特に緊急を要する場合は、即時試験を延期とする |

※上記以外の交通機関運行停止の場合は、原則として平常どおり授業（学内定期試験を含む）を行います。

**⑵風・雨・雪に関する警報発令、特別警報発令及び避難勧告又は避難指示の発令（以下「警報等の発令」という）と対応**

下記の①から⑤のいずれか一つに該当する場合の対応は、下表のとおりとします。
①広島市を対象に暴風、大雨の各警報が同時に発令
②広島市を対象に暴風雪警報が発令
③広島市を対象に暴風、大雪の各警報が同時に発令
④広島市を対象に特別警報（大雨、暴風、高潮、波浪、暴風雪、大雪、津波、火山噴火、地震）が発令
⑤本学が所在する祇園小学校区に避難勧告又は避難指示（緊急）の避難情報が発令

【警報の内容と授業・学内定期試験の対応】

| 警報の発令 | 授　　業 | 学内定期試験 |
|---|---|---|
| 午前６時から９時（１時限目の授業開始）までの間に、警報等の発令が発表された場合 | 当日の１時限目及び２時限目の授業を休講とする | 当日の１時限目から３時限目までの学内定期試験を延期とする |
| 上記の場合に継続して、午前10時現在、警報等の発令が発表されている場合 | 当日の授業をすべて休講とする | 当日の学内定期試験をすべて延期とする |
| 授業又は学内定期試験の実施時間帯において、警報等の発令が発表された場合 | その後に開始する授業を休講とする<br>※特に緊急を要する場合は、即時授業を休講とする | その後に開始する学内定期試験を延期とする<br>※特に緊急を要する場合は、即時試験を延期とする |
| 前日の段階で警報等の発令が発表される可能性が大きいと予測される場合 | 学長の判断により、前日に翌日の授業の休講を決定することがある | 学長の判断により、前日に翌日の学内定期試験の延期を決定することがある |

**⑶休講及び学内定期試験延期に伴う、補講・定期試験実施について**

①警報等の発令による休講に対する補講については、その都度協議のうえ決定します。
②警報等の発令により延期された学内定期試験については、定期試験予備日で実施します。

**⑷注意事項**

①交通機関の運行停止、台風情報、警報等の発令に関する内容については、ニュース速報等で確認してください（大学への電話による問い合わせはしないでください）。
②交通機関の運行開始の後も、登校不能又は遅刻した場合は、速やかに当該授業の担当教員に届け出てください。
③実施されなかった授業の補講並びに学内定期試験の日程については、後日 HUE NAVI（ヒューナビ）で連絡します。
④交通機関の運行停止、台風接近、警報等の発令以外に、特別な状況（授業及び学内定期試験等の実施に支障をきたす事態）が発生した場合、授業を短縮又は休講並びに学内定期試験を延期することがあります。
⑤居住地区に警報等の発令があった際は、避難勧告等の指示に従い、身の安全を第一に考えて行動してください。

**⑸確認方法**

①交通機関の運行停止、台風接近、風・雨・雪に関する警報等の発令又は災害発生時の対応について、学生及び教職員はその状況をテレビ又はラジオのニュースなどで確認した上で判断しなければなりませんが、大学当局はできる限り、HUE NAVI（ヒューナビ）の緊急案内にてその対応を通知します。
②学生・教職員は携帯電話並びにインターネットを利用して、HUE NAVI（ヒューナビ）から情報を入手することとし、大学への電話による問い合わせはしないでください。
③ HUE NAVI（ヒューナビ）へのアクセスは次のとおりです。

**スマートフォン= https://navi.hue.ac.jp/sp**
**パソコン= https://navi.hue.ac.jp**

## 6 授業への出席

授業には毎時間必ず出席しなくてはいけません。（全ての授業において、出席を取ります。）

授業というのは、担当教員が授業内容を順序立てて組み立てているものであり、すべてを受講してはじめて一貫性のある理解ができるものです。

また、教員と学生が人間的なふれあいを通して学修する場であり、学生生活の基本となるものです。したがって、授業への出席は重要であり、自主的な学問への探究心と真摯な受講態度なくしてその成果を期待することはできません。

※出席に関する不正行為が発覚した場合は、厳正に対処します。

## 7 授業への遅刻

本学における授業への遅刻は、90分授業、45分授業ともに授業開始後10分までとし、それ以降については欠席として取り扱います。

授業に遅刻した場合は、担当教員の責任において入室を断ることもあります。

## 8 公認欠席

『広島経済大学学生準則』に規定する次の欠席理由に該当する場合は、「公認欠席願」の提出により公認欠席を願い出ることができます。

「公認欠席願」の発行を希望する者は、各取扱部署において必要な手続きを行い、発行された「公認欠席願」を原則として欠席日よりも前に、授業科目の担当教員に提出しなければなりません。

公認欠席を認められた授業は出席扱いとしますが、**欠席した授業の授業内容、資料、レポート課題等について、必ず担当教員に確認を行い、その学習と理解に努めてください。**

手続きなど詳細については、各取扱部署で確認してください。

| 欠席理由 | 取扱部署 | 備　　考 |
|---|---|---|
| 体育系部・サークルの公式試合出場等 | 学生課 | 詳細は、諸規程の頁に掲載の“広島経済大学学生準則”に記載 |
| 文化系部・サークルの学内外でのイベント開催等 | 学生課 | |
| 学内外行事等 | 学生課 | |
| 教職課程の教育実習（内諾を得るための訪問を含む）及び介護等体験（事前指導の受講を含む） | 教務課 | 教育実習（内諾を得るための訪問を含む）及び介護等体験（事前指導の受講を含む）へ参加する前に、所定の手続きを教務課で行うこと。 |
| ２親等以内の親族の死亡による忌引<br>・配偶者（７日間以内）<br>・１親等（父母、子）の親族（７日間以内）<br>・２親等（祖父母、兄弟、姉妹、孫）の親族（３日間以内） | 学生課 | 死亡に関する証明書が必要<br>（会葬礼状等）<br>（土・日・祝日も日数に含む） |
| 企業の内定式など企業から出席を義務付けられている行事への出席 | キャリアセンター | 出席する前に所定の手続きをキャリアセンターで行うこと。就職試験、会社訪問、説明会等は認めない。 |
| 興動館プロジェクトの認定式、活動報告会への出席 | 興動館 | 出席する前に所定の手続きを興動館で行うこと。 |
| 裁判員としての裁判への参加 | 教務課 | 裁判員として裁判への参加を証明するものが必要 |

## 9 公認欠席以外での欠席・遅刻

病気やけが、就職試験の受験等の他、公共交通機関の事故等により、授業を欠席又は遅刻した場合の対応は下記のとおりとします。

「欠席届」の発行を希望する者は、印鑑と証明できる書類を持参のうえ、各取扱部署において必要な手続きを行い、発行された「欠席届」を原則として欠席日よりも前に、授業科目の担当教員に提出しなければなりません。

欠席届が提出された授業は、やむを得ない理由での欠席扱いとしますが、**欠席した授業の授業内容、資料、レポート課題等について、必ず担当教員に確認を行い、その学習と理解に努めてください。**

**【欠席した場合】**

| 欠席理由 | 証明書 | 取扱部署 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| 病気（学校感染症含む）又はけが | 病傷名、欠席期間、病院名（医師名）が明記されたもの | 保健室 | 医師が入院や受講困難と判断したものに限る。 |
| 就職試験の受験 | 就職試験受験証明書（本学様式） | キャリアセンター | 受験する前に所定の手続きをキャリアセンターで行うこと。会社訪問、説明会等は認めない。 |
| 正課のインターンシップに伴う企業訪問及び報告会への出席 | | キャリアセンター | 参加する前に所定の手続きをキャリアセンターで行うこと。 |
| 天災その他の非常災害により自宅が被災 | 官公庁発行が発行した被災証明書 | 学生課 | 授業欠席等の取扱において不利な扱いはしないので、安全を第一に考えて慎重な行動をとってください。 |
| 居住地区に避難勧告等が発令 | | 学生課 | |
| 気象状況や事故等により交通機関に遅延若しくは運転見合わせが発生 | 交通機関が発行した遅延証明書 | 学生課・教務課 | |
| その他やむを得ない理由と認められるもの | 欠席事由を証明する書類 | 学生課・教務課 | |

※欠席が１か月以上にわたる場合、教務課に相談してください。

**【遅刻した場合】※欠席届は発行されない**

| 遅刻理由 | 証明書 | 取扱部署 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| 気象状況や事故等により交通機関に遅延若しくは運転見合わせが発生 | 交通機関が発行した遅延証明書 | なし<br>※遅延証明書を担当教員に提出 | 授業遅刻等の取扱において不利な扱いはしないので、安全を第一に考えて慎重な行動をとってください。 |

## 試験・レポート

### 1 試験の種類

試験 ── 定期試験 、 追試験 、 再試験
　　 ── 臨時の試験

履修した授業科目については、定期試験を実施する科目と、しない科目があります。試験を行わない科目においても、臨時試験として小テスト、口述試験の実施やレポート提出などが求められることがあります。

### 2 学内定期試験

・学内定期試験とは、前期・後期セメスター毎の定期試験期間中に実施される試験のことです。
・時間割は、試験開始日の約２週間前に発表します。
　掲示場所……HUE NAVI（ヒュー ナビ）
　　スマートフォン＝ https://navi.hue.ac.jp/sp
　　パソコン＝ https://navi.hue.ac.jp
　掲示内容……定期試験を実施する科目のみ
・試験時間は、１時限を50分として行われます。

| 時　限 | １時限 | ２時限 | ３時限 | ４時限 | ５時限 | ６時限 | ７時限 | ８時限 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 時　間 | 9：00<br>～9：50 | 10：10<br>～11：00 | 11：20<br>～12：10 | 13：00<br>～13：50 | 14：10<br>～15：00 | 15：20<br>～16：10 | 16：30<br>～17：20 | 17：40<br>～18：30 |

・学内定期試験の日程については、「行事予定表」で確認してください。

### 3 追試験

追試験は、次のいずれかの事由に該当し、学内定期試験を欠席した者が願い出て、審査の上、認められた場合にのみ受験することができます。

※欠席事由を満たしていても、授業への出席状況によっては、追試験が実施されない場合があります。

| 欠席事由 | 証明書（願書添付） | 備　　考 |
|---|---|---|
| 天災その他の非常災害 | 官公庁発行による被災証明書 | 地震、台風、火災、水害などによるもの。 |
| 交通機関の突発事故 | 遅延証明書又は事故証明書 | バイク、自家用車による事故及び道路の渋滞は認めない。 |
| 忌引 | 死亡に関する公的証明書<br>（会葬礼状で可） | ２親等以内の親族の死亡による忌引<br>・配偶者（７日間以内）<br>・１親等（父母・子）の親族（７日間以内）<br>・２親等（祖父母・兄弟・姉妹・孫）の親族（３日間以内） |
| 就職試験の受験及び企業の内定式など出席を義務付けられている行事への出席（キャリアセンターが承認したもの） | 就職試験受験等内容証明書<br>（キャリアセンターの発行したもの） | 会社訪問、説明会等は認めない。 |
| 病気（学校感染症を含む）又はけが | 医師の診断書 | 医師の診断書により、受験が困難と判断されたものに限る。 |
| スポーツ・文化活動で国際大会、国内の権威ある大会及びこれに準ずる大会への出場 | 各種協会又は団体の発行した証明書 | |
| 単位互換科目の試験との重複 | 単位互換科目受験証明書（科目開設大学の発行したもの） | |
| 正課のインターンシップへの参加 | キャリアセンターの発行した証明書 | |
| 教育実習 | 教育実習承諾書 | |
| 介護等体験 | 受入決定通知書 | |
| 裁判員としての裁判への参加 | 裁判員として裁判への参加を証明するもの | |

・願出は、該当科目の試験終了日後所定の期間内に、これを証明するものを添付して教務課に提出しなければなりません。
・追試験は、前期及び後期学内定期試験終了後に行います。
・追試験受験認定者及び時間割については、予めHUE NAVI（ヒュー ナビ）によって発表します。
・追試験を受験できない者に対して、再度の追試験は行いません。また、追試験を願い出ながら自分の都合で受験しない場合は、以後追試験の願い出を受理しない場合があります。

追試験は「チャンスが２度ある」という意味ではありません。
前述の欠席事由に該当し、学内定期試験を受験できなかった場合で、追試験期間中に受験が可能な学生のみが願い出の対象となります。
願い出後、許可となれば追試験の受験資格が与えられます。追試験が許可された学生のためだけに特別に試験の機会を用意するので、自分の都合で受験しないということは認められません。十分注意をしてください。
不明な点がある場合は、必ず教務課に相談をしてください。

## 4 再試験

再試験は、次の条件に該当する科目について、再試験を希望する者が、再試験受験申請書に１科目につき3,000円の受験料を添え、所定の期間内に願い出た場合にのみ受験することができます。

| | |
|---|---|
| ４　年　次　生 | 定期試験又は追試験を行った科目において、成績評価点が50点以上59点以下で不可となった全科目 |
| １年次生～３年次生 | 定期試験又は追試験を行った科目において、成績評価点が50点以上59点以下で不可となった必修科目 |

※ただし、2013（平成25）年度以前に入学した者については、4年次生を在籍年数4年以上の者、1年次生から3年次生を在籍年数1年以上4年未満の者とします。
※１年次生から３年次生については、広島経済大学学内定期試験細則第15条により、教育職員免許状を取得するために、必修として修得しなければならない「教科及び教科の指導法に関する科目の教科に関する専門的事項」及び「教職関連科目」は除きます。
・再試験の成績は、再試験の結果のみで評価し、授業期間中に行った小テスト、レポート等の評価を含めません。
・再試験で合格した科目の成績評価は、「C（可）（60点）」とし、合格した科目の受験料については、返還いたします。
・再試験は、前期及び後期の一次成績発表後に行います。
・再試験受験認定者及び時間割については、予めHUE NAVI（ヒュー ナビ）によって発表します。

## 5 臨時の試験

授業科目によっては、通常授業時（学期途中や授業最終日）に臨時の試験が行われ、成績に加味する科目もあります。
試験の方法、実施時期等については、担当教員から指示があります。

## 6 試験に関する注意事項

**試験場では、次のことを守らなければなりません。**
・試験場では、必ず指定された座席で受験してください。（座席は、HUE NAVI（ヒュー ナビ）で確認してください。）
・同じ科目の試験でも指定された日時、教室、座席で受験しなければ、その答案は無効となります。
・誤って他の科目を履修していたり、履修登録し忘れていたりした場合、受験資格はありません。

※試験は座席指定です。自分の席が見当たらない場合は、ほとんどの場合が座席位置の見落としです。
次の確認をしてください。
・同じ科目でも、クラスを間違えていないか
・２教室以上に分かれている場合には、教室に間違いはないか

・受験中は、学生証を机上（通路側）に呈示しておいてください。

※学生証を忘れた場合は、学生課において仮学生証の交付を受け、これを机上（通路側）に呈示してください。
≪仮学生証の取り扱い≫　・当日限り有効とします。
・**当該試験期間中に１回しか交付できません。**

・答案用紙の「学籍番号」、「氏名」は、必ずペン又はボールペンで書いてください。無記名の場合は無効となります。
・試験開始後35分以上経過しなければ、退室することはできません。
・試験終了時刻５分前から、終了後に答案の回収が完了し、試験監督者の指示があるまで退室することはできません。
・試験場における行動は、すべて監督者の指示に従わなければなりません。指示に従わない場合は、受験を停止し、退場を命じます。

**不正行為**

広島経済大学学内定期試験細則（抜粋）
第７条　定期試験における不正行為は、自身において自己の能力を見誤る結果に繋がる重大な背信行為であるとともに、自らの学修権（履修、学修、単位の修得に係わる各権利）を放棄する行為であるものとする。

・試験において、次の事項に該当する行為をした場合は、不正行為とみなされます。

①持ち込みが認められている物品を貸借
②答案を写す（他人の答案を見た者、他人に答案を見せた者）
③答案の無断持出（自分の答案を不提出、他人の答案を持ち去る）
④私語、動作等による連絡
⑤カンニングペーパーの持ち込み及び使用
⑥書き込み利用（机・身体・辞書・その他所持品等による）
⑦使用が許可されていない教科書、電子機器、その他の物品を使用
⑧答案の交換（合意による交換、他人の答案の名前を書き換え）
⑨代人受験（代わりに受験した者、代わりに受験させた者）
⑩監督者の指示に従わない行動
⑪監督者の注意に対する暴言暴力
⑫その他、不正行為と認められる行為

・受験中に不正行為を行った者に対しては、即刻退場を命じます。処分は、次のとおりです。
①成績評価については、当該科目のみを無効とする場合と、当該学期の定期試験期間中に試験を実施した科目をすべて無効とする場合があります。
②学則第32条による懲戒は、不正行為の内容と程度により決定するものとし、学生生活委員会に諮り、学長が決定します。
③各種奨学金の受給者は、支給を停止します。

・定期試験終了後に不正行為が判明した場合又は制作物及びレポート等の不正が認められた場合も、同様の処分となります。

・定期試験以外の試験において不正行為が行われた場合は、“広島経済大学学内定期試験細則”の目的に照らして、当該試験に係る科目担当者の判断において対処され、その場合も同様の処分となります。

**持ち込み受験（参照可と参照不可）の確認**

試験において、教科書やノートなどを参照できるかどうかについては、時間割の発表時に「参照可（すべて可）」又は「参照不可（すべて不可）」という表記で HUE NAVI（ヒュー ナビ）に掲載していますので、確認をしてください。

## 7 レポート

各授業では、小テストのほか授業内容の理解度をチェックするため、また、学内定期試験、臨時試験を実施する代わりにレポートの提出が求められることがあります。

詳細は、その都度指示されますが、レポート提出の期日、時間を厳守し、指定された場所に提出をしてください。提出期日・時間を過ぎたものは、その理由の如何を問わず受理されません。

**＜レポート作成・提出要領＞**

①担当教員による特別な指示がない限り、学内セブン・イレブンで販売している所定の原稿用紙及び表紙を購入し使用してください。
②用紙・規格・表紙・綴り方

| 指定用紙 | 規　　格 |
|---|---|
| 広島経済大学レポート用原稿用紙 | 400字詰　A－4版サイズ |
| 広島経済大学レポート用表紙 | A－4版サイズ |

※所定の表紙を必ずつけること（記入には、ペン又はボールペンを使用すること）。
※ホッチキスで必ず綴じること。

## 成績

### 1 評価と点数

成績は、100点満点の60点以上を合格とし、学内定期試験、小テスト、レポートや提出物などの平常点で総合的に評価し、授業が終了する当該学期末に所定の単位が与えられます。各授業科目の評価方法については、シラバスに記載されていますので参考にしてください。

各授業科目とも一度修得した単位を取り消すことはできません。

成績評価基準

| | | 成績表への標記 | | 成績証明書に標記する評語 |
|---|---|---|---|---|
| | | 評価の点数（基準点） | 標記する評語 | |
| 判定 | 合　　格 | 100～90点 | AA | AA |
| | | 89～80点 | A | A |
| | | 79～70点 | B | B |
| | | 69～60点 | C | C |
| | 不　合　格 | 59～0点 | 不可 | 標記されない |
| | | — | 評価不能※ | |
| 非判定 | 入学前に他大学で修得した授業科目の単位認定 | — | CA※ | CA※ |

※ CA（Credits Authorized）：成績順位付けの計算には含まれません。

※評価不能とは、定期試験の欠席又は学業成績において、成績の評価をする材料が無い場合（レポート提出が無いなど）の評価の表記です。当然、単位の修得は認められません。

※成績証明書には、評価の点数は表記されません。

※学期途中で休学、退学又は除籍をした場合は、履修登録科目の成績評価はされません。

※成績表に上記の成績評価基準とは別に、保留と表記されることがあります。保留とは、日本語文章表現の授業でC評価以上を修めたが、文章読解・作成能力検定3級に合格もしくは文章読解・作成能力テストで合格相当の評価がされていない場合、又は演習Ⅱにおいて卒業論文が認定されなかった場合の評価の標記です。日本語文章表現は、文章読解・作成能力検定3級合格もしくは文章読解・作成能力テストで合格相当の評価がされた後、単位の修得となります。また、演習Ⅱでは、卒業論文が認定された学期末に単位修得となります。

### 2 成績発表

成績発表の時期は、次のとおりです。学生は、HUE NAVI（ヒュー ナビ）の成績照会で確認をしてください。保護者には成績表を郵送いたします。

| | 1次成績発表 | 1次成績発送（再試験受験者を除く） | 2次成績発表（再試験受験者のみ） | 2次成績発送（再試験受験者のみ） |
|---|---|---|---|---|
| 前　　期 | 8月下旬 | 9月上旬 | 9月中旬 | 9月中旬 |
| 後　　期 | 2月下旬 | 3月上旬 | 3月中旬 | 3月中旬 |

※1次成績発表：定期試験、追試験及び臨時の試験の結果を発表

　2次成績発表：再試験の結果を含む成績の発表（再試験受験者のみ）

住所変更などがある場合は、HUE NAVI（ヒュー ナビ）の「個人情報」から「学籍情報変更申請」に入り、変更してください。

成績表が交付予定日を過ぎても届かない場合は、教務課に問い合わせてください。

また、各学期における成績の成績証明書への記載は、HUE NAVI（ヒュー ナビ）での発表後となります。

### 3 成績確認

発表された成績について不明な点がある場合は、「成績確認期間」に以下の手続きで確認のうえ教務課に問い合わせてください。

成績確認期間は、原則として各学期の成績発表後（HUE NAVI（ヒュー ナビ）掲載後）、指定された期間内とします。

※「日本語文章表現」については、授業内で実施される最終試験の結果発表後、一週間以内とする。

**確認方法**

・成績の問い合わせは、原則として学生本人のみとし、成績表を教務課に持参してください。

・「成績確認申請書（任意）」に必要事項を記載し、教務課に提出をしてください。

・回答は書面で行います。内容によっては回答まで多少時間がかかる場合があります。

## 4 成績不振者への通知

各学期に修得した単位数が極めて少ない学生については、成績相談の案内を保護者宛に通知します。
希望する学生については、成績不振を打開するため面談を行い、次学期に向けて改善をめざします。

| 学　期 | 通知時期 | 対象年次 | 対象成績 |
|---|---|---|---|
| 前期 | 9月中旬 | 1～3年 | 前期修得単位が9単位以下で，総単位数が低単位 |
| 後期 | 3月中旬 | 1～4年 | 後期修得単位が9単位以下で，総単位数が低単位 |

## 5 GPA（Grade Point Average）

本学で導入しているGPA（Grade Point Average、グレード・ポイント・アベレージ）制度は、5段階で評価された各科目の成績評価に、4点～0点の評点（グレード・ポイント）を付与して、1単位あたりの評定平均値（グレード・ポイント・アベレージ）を算出する制度です。この評定平均値を、履修制限単位数の特別措置適用基準や奨学金採用基準、就職活動時の推薦基準、また学部との5年プログラム（学科で上位20%以内の者）出願基準などに利用しています。

**成績評価に対する評点（グレード・ポイント）**

| 成績評価 | AA | A | B | C | 不可<br>評価不能<br>保留 |
|---|---|---|---|---|---|
| 評点（グレードポイント） | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | 0点 |

**GPAの計算方法**

$$\frac{\text{AAの単位数}\times 4\text{点}+\text{Aの単位数}\times 3\text{点}+\text{Bの単位数}\times 2\text{点}+\text{Cの単位数}\times 1\text{点}}{\text{履修科目の単位数（不可・評価不能・保留の単位数も含む）合計}} = \text{得点}$$

GPA計算例

| 科目名 | 単位数 | 評　価 | ポイント数 |
|---|---|---|---|
| 経済入門 | 2 | AA | 2×4点＝8点 |
| ファイナンス入門 | 2 | A | 2×3点＝6点 |
| 日本の歴史Ⅰ | 2 | A | 2×3点＝6点 |
| 日本の地理 | 2 | B | 2×2点＝4点 |
| 世界の歴史Ⅰ | 2 | C | 2×1点＝2点 |
| 世界の地理Ⅱ | 2 | B | 2×2点＝4点 |
| 必修英語AⅠ | 1 | A | 1×3点＝3点 |
| 必修英語BⅠ | 1 | A | 1×3点＝3点 |
| 中国語Ⅰ | 1 | A | 1×3点＝3点 |
| 心理学 | 2 | 不可 | 2×0点＝0点 |
| スポーツ実習 | 1 | A | 1×3点＝3点 |
| 大学入門ゼミ | 2 | AA | 2×4点＝8点 |
| 履修科目の単位数合計20単位 | | | ポイント数合計50点 |

ポイント数合計　履修科目の単位数合計　GPA

**50点　÷　20単位　＝2.50点**

## 進級（2014（平成26）年度以降入学生対象）

### 1 進級制度

本学における進級制度は、２年次の年度末に進級判定を行い、進級認定の要件を充足した者のみ３年次へ進級することができます。

**〔進級認定の要件〕**

・2015（平成27）年度以降入学生は、*①～*⑥の外国語科目の内４単位以上、⑦～⑨のゼミ科目６単位の修得をし、進級に必要な単位数以上を修得している者

・2014（平成26）年度入学生は、以下の修得が必要な科目の単位をすべて修得し、卒業認定の要件として必要な単位で、進級に必要な単位数以上を修得している者

| | 2015（平成27）年度以降入学生 | 2014（平成26）年度入学生 |
|---|---|---|
| 進級に必要な単位数 | 51単位 | 52単位 |
| 修得が必要な科目 | *① 必修英語ＡⅠ（１単位） | ① 英語ＡⅠ（１単位） |
| | *② 必修英語ＡⅡ（１単位） | ② 英語ＡⅡ（１単位） |
| | *③ 必修英語ＢⅠ（１単位） | ③ 英語ＢⅠ（１単位） |
| | *④ 必修英語ＢⅡ（１単位） | ④ 英語ＢⅡ（１単位） |
| | *⑤ 必修英語ＣⅠ（１単位） | ⑤ 入門ゼミⅠ（２単位） |
| | *⑥ 必修英語ＣⅡ（１単位） | ⑥ 入門ゼミⅡ（２単位） |
| | ⑦ 大学入門ゼミ（２単位） | ⑦ プレゼミ（２単位） |
| | ⑧ 興動人入門ゼミ（２単位） | |
| | ⑨ プレゼミ（２単位） | |

### 2 仮進級制度

進級認定の要件を充足せず、2年次に留年となった学生のうち、卒業認定の要件として必要な単位で、下表の仮進級に必要な単位数以上を修得している者は、3年次への仮進級を認め、3年次配当科目を履修することができます。

なお、仮進級として認定された者で、３年次前期末に、仮進級認定者の進級要件を充足している者は３年次へ進級ができます。

**〔仮進級認定の要件〕**

・2015（平成27）年度以降入学生は、*①～*⑥の外国語科目の内４単位以上、⑦～⑨のゼミ科目６単位を修得し、仮進級に必要な単位数以上を修得している者

・2014（平成26）年度入学生は、以下の修得が必要な科目の全ての単位修得を含め、仮進級に必要な単位数以上を修得している者

| | 2015（平成27）年度以降入学生 | 2014（平成26）年度入学生 |
|---|---|---|
| 仮進級に必要な単位数 | 45単位 | 46単位 |
| 修得が必要な科目 | *① 必修英語ＡⅠ（1単位） | ① 英語ＡⅠ（1単位） |
| | *② 必修英語ＡⅡ（1単位） | ② 英語ＡⅡ（1単位） |
| | *③ 必修英語ＢⅠ（1単位） | ③ 英語ＢⅠ（1単位） |
| | *④ 必修英語ＢⅡ（1単位） | ④ 英語ＢⅡ（1単位） |
| | *⑤ 必修英語ＣⅠ（1単位） | ⑤ 入門ゼミⅠ（2単位） |
| | *⑥ 必修英語ＣⅡ（1単位） | ⑥ 入門ゼミⅡ（2単位） |
| | ⑦ 大学入門ゼミ（２単位） | ⑦ プレゼミ（2単位） |
| | ⑧ 興動人入門ゼミ（２単位） | |
| | ⑨ プレゼミ（2単位） | |

**〔仮進級認定者の進級要件〕**

・以下の進級に必要な単位数以上を修得している者

| | 2015（平成27）年度以降入学生 | 2014（平成26）年度入学生 |
|---|---|---|
| 進級に必要な単位数 | 63単位 | 64単位 |

※仮進級後の前期末に仮進級認定者の進級要件に必要な単位数を修得できなかった者は、仮進級を取り消し、2年次へ留年となります。

※仮進級を取り消され、2年次に留年となった者の、仮進級中に履修登録した3年次配当科目については、次のとおり取り扱います。

・前期開講科目は、履修を認め修得した単位を認める。

・後期開講科目及び通年開講科目は、その履修を取り消す。

## 卒業

### 1 卒業認定

本学における各学科の修業年限は４年とし、在学年数は８年を超えて在学することができません。この修業年限の期間在学し、所定の科目を履修し広島経済大学学則第46条に定める卒業認定の要件を満たした者に対し、卒業の認定を行います。

ただし、2014（平成26）年度以降に入学した学生については、３年次進級前までの在学年数は６年までとし、６年を超えても３年次に進級できない場合は、除籍となります。

※休学期間は、修業年限及び在学年数には含みません。

※広島経済大学学則第９条第２項により、本学に入学し３年以上在学した者が、卒業の要件として定める単位を優秀な成績で修得した場合には、早期卒業を認めることがあります。

**〔2015（平成27）年度以降入学生　卒業認定の要件〕**

| | 共通科目 | 学科科目 | 自由選択科目 | ゼミ科目 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| **全学科** | 30単位以上 | 54単位以上 | 24単位以上 | 16単位 | 124単位以上 |

・詳細は、学科及び入学年度別に作成しています卒業認定の要件表で確認してください。

**〔2014（平成26）年度入学生　卒業認定の要件〕**

| | 共通科目 | 学科科目 | 自由選択科目 | ゼミ科目 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| **経済学科** | 30単位以上 | 54単位以上 | 24単位以上 | 16単位 | 124単位以上 |
| **経営学科** | 30単位以上 | 54単位以上 | 24単位以上 | 16単位 | 124単位以上 |
| **ビジネス情報学科** | 30単位以上 | 54単位以上 | 24単位以上 | 16単位 | 124単位以上 |
| **メディアビジネス学科** | 30単位以上 | 54単位以上 | 24単位以上 | 16単位 | 124単位以上 |
| **スポーツ経営学科** | 30単位以上 | 70単位以上 | 20単位以上 | ４単位 | 124単位以上 |

・詳細は、学科及び入学年度別に作成しています卒業認定の要件表で確認してください。

**〔2013（平成25）年度以前入学生　卒業認定の要件〕**

| | 共通科目 | 学科科目 | 自由選択科目 | ゼミ科目 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| **経済学科** | 30単位以上 | 40単位以上 | 38単位以上 | 16単位 | 124単位以上 |
| **経営学科** | 30単位以上 | 40単位以上 | 38単位以上 | 16単位 | 124単位以上 |
| **ビジネス情報学科** | 30単位以上 | 52単位以上 | 38単位以上 | ４単位 | 124単位以上 |
| **メディアビジネス学科** | 30単位以上 | 52単位以上 | 38単位以上 | ４単位 | 124単位以上 |
| **スポーツ経営学科** | 30単位以上 | 70単位以上 | 20単位以上 | ４単位 | 124単位以上 |

・詳細は、学科及び入学年度別に作成しています卒業認定の要件表で確認してください。

### 2 卒業の時期

卒業認定（判定）の時期は、毎年各学期末（８・９月、２・３月）に行います。

卒業認定（判定）結果は、保護者宛に通知します。

### 3 学位

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、卒業した者に対し、学士の学位が授与されます。この学位の認定証が学位記（卒業証書）です。

本学の学位の種類は５ページ「学位とディプロマポリシー（卒業認定、学位授与に関する方針）」のとおりです。

### 4 卒業見込証明書

就職活動には、「履歴書・自己紹介書」などと一緒に「卒業見込証明書」が必要になります。「卒業見込証明書」は、４年次生のうち、次の認定の時期に、卒業見込の認定に必要な単位数を修得している者に対して発行することができます。なお、「卒業見込証明書」の発行は、キャリアセンターが行います。

| 認定時期 | 卒業見込の認定に必要な修得単位数 |
|---|---|
| ３年次生終了時 | 80単位以上 |
| ４年次生前期終了時 | 104単位以上 |
| ４年次生終了時<br>（前期卒業見込者） | 104単位以上<br>※80～103単位以下は後期卒業見込となります。 |

# 学籍

## 1 修業年限・在学年数

**〔修業年限〕**

修業年限とは、本学の教育課程を修了するために必要な在学年数をいいます。

本学では４年間です。

ただし、編入学した者の修業年限は次のとおりです。

・２年次に編入学した者……修業年限３年

・３年次に編入学した者……修業年限２年

**〔在学年数〕**

在学年数は、８年を超えることはできません。ただし、編入学、再入学、復学、転科した者の在学年数は次のとおりです。

※休学中の期間は在学年数に含めません。

・２年次に編入学した者……７年

ただし、2015（平成27）年度以降に入学した学生については、３年次進級前までの在学年数は５年までとし、５年を超えて在学することはできません。

・３年次に編入学した者……６年

・再入学した者……離籍前の在学年数と通算して８年

ただし、2014（平成26）年度以降の入学生と同等の年次に再入学を許可された者の３年次進級前までの在学年数は、離籍前の在学年数と通算して６年までとし、６年を超えて在学することはできません。

・復学した者……休学前の在学年数と通算して８年

・転科した者……転科する前の在学年数と通算して８年

注意！ 休学した学期、退学及び除籍となった学期は、在学年数に算入することはできません。ただし、学期末日が退学及び除籍の日となる学期は、在学年数に算入します。

## 2 休学

疾病その他やむを得ない事由によって、３か月以上修学することができないときは、所定の手続きを経て休学することができます。

休学の期間は卒業に必要な在学年数には算入されません。また連続して２年、通算して４年を超えることはできません。

**〔休学願の提出〕**

所定の休学願に保証人連署の上、詳細な事由書（病気の場合は診断書）を添えて、教務課に願い出なければなりません。

**〔休学の期間と休学願の提出期限〕**

願い出ることができる休学期間は、学期間又は１年間とします。

| 休学期間 | 休学願提出期限 |
|---|---|
| １年間（４月１日～３月31日） | ３月31日 |
| 前期（４月１日～９月15日） | ３月31日 |
| 後期（９月16日～３月31日） | ９月15日 |

なお、休学の期間が終了しても、引き続き休学をしなければならない特別な事情がある場合は、休学する期間が連続して２年を超えない範囲で許可することがあります。

その際は、休学の期間満了日までに休学願を再度提出して許可を得なければなりません。

※土・日・祝日の場合は、期限日前日の平日が提出期限日となります。

**〔休学在籍料〕**

2018（平成30）年度入学生より、休学を許可された者は、学費等に代えて以下の休学在籍料を、原則として指定された期日までに納入しなければなりません。

| 休学期間 | 金額 | 備考 |
|---|---|---|
| 前期又は後期 | 50,000円 | 半期施設費の2分の1相当額 |
| １年間 | 100,000円 | 年間施設費の2分の1相当額 |

**〔休学に伴う学費の免除〕（2017（平成29）年度以前入学生対象）**

休学願提出期限までに休学の手続きを完了した場合は、次のとおり授業料を免除します。この期限を過ぎると学費の免除を受けることはできません。

| 休学期間 | 休学願提出期限 | 休学中の学費 |
|---|---|---|
| １年間（４月１日～３月31日） | ３月31日 | 年間授業料及び施設費の全額を免除 |
| 前期（４月１日～９月15日） | ３月31日 | 前期授業料及び施設費の全額を免除 |
| 後期（９月16日～３月31日） | ９月15日 | 後期授業料及び施設費の全額を免除 |

**〔その他〕**

休学の期間中は、履修登録科目の受講及び学内定期試験を受験することはできません。

## 3 復学

休学の期間満了後、翌日から復学となります。

・復学するための書類の提出などは不要です。
・授業の受講については、所定の履修登録の手続きをしてください。復学後の授業･履修に関する相談は教務課を利用してください。
・１年間の休学者で、前期中に休学の事由が消滅したときは、復学願を教務課に提出し、承認により後期始めに復学することができます。
・復学となる学期分から授業料及び施設費を所定の期限までに納入しなければなりません。

## 4 退学

疾病その他やむを得ない事由により退学を希望する場合は、所定の手続きを経て退学することができます。

**〔退学願の提出〕**

所定の退学願に保証人連署の上、詳細な事由書（病気の場合は診断書）を添えて、教務課に願い出なければなりません。

**〔注意事項〕**

・他の大学に転学したい場合は、退学願を提出しなければなりません。

## 5 除籍

広島経済大学学則第25条に規定している次のいずれかに該当する場合は、除籍となります。

・在学年数が８年を超えたとき。
・３年次進級前までの在学年数が６年を超えたとき。（2014（平成26）年度以降の入学生のみ対象）
・休学の期間が引き続きで２年を超えても、休学の事由が消滅しないとき。
・休学の期間が通算して４年を超えたとき。
・正当な事由がなく、授業料その他の諸納付金が期日までに未納のとき。
※広島経済大学学則は、「諸規程集」の頁に掲載されています。

## 6 再入学

除籍又は退学した者が、再び入学を願い出たときは、事情を調査の上、除籍又は退学時と同一の学部学科に、相当の年次生として再入学を許可することがあります。

・再入学は、除籍又は退学が学籍異動承認日から再入学願受付日までの期間が５年以内に願い出なければなりません。
・再入学を願い出ることのできる者は、在学期間が従前の在学期間と再入学後卒業までの期間が通算して８年以内で修業できる見込みの者に限ります。ただし、2014（平成26）年度以降の入学生と同等の年次に再入学を許可する者は、再入学前の在学期間と再入学後の在学期間の通算が６年以内で３年次へ進級できる見込みの者に限ります。
・在学年数が８年を超えて除籍となった者又は懲戒により退学処分となった者の再入学は認められません。
・従前在学中に修得した単位については、すべての科目の単位が認定されます。
・入学金は免除されます。
・再入学を希望する者は、所定の届出用紙に必要事項を記入して、教務課に提出しなければなりません。なお、事前に教務課に相談の上、手続きを行ってください。
※詳細は、「諸規程集」の頁に掲載の“広島経済大学再入学に関する細則”で確認をしてください。

## 7 転部・転科

本学の学生が、現在の学科から他の学科への移籍を志願したときには、審査の上、転部転科を許可します。転科の許可人員については、いずれも若干名です。転科を希望する者は、所定の届出用紙に必要事項を記入して、教務課に提出しなければなりません。なお、事前に教務課に相談の上、手続きを行ってください。

**〔出願資格〕**

・2年次となる者
・出願できる者の修得単位は、卒業認定の要件単位を38単位以上修得し、かつ、Ａ以上の単位数が9割以上ある者
・転部転科の意思及び理由が明確である者
・転科前の所属学科における１年次必修科目のうち、以下の科目の単位をすべて修得している者

| 学　科 | 科目名 | | |
|---|---|---|---|
| 経済学科<br>経営学科<br>ビジネス情報学科<br>メディアビジネス学科<br>スポーツ経営学科 | 大学入門ゼミ<br>興動人入門ゼミ | 必修英語ＡⅠ<br>必修英語ＡⅡ<br>必修英語ＢⅠ<br>必修英語ＢⅡ<br>必修英語ＣⅠ | 経済入門<br>経営入門 |

※詳細は、「諸規程集」の頁に掲載の“広島経済大学転科に関する細則”で確認をしてください。

# 教職課程

## 1 教育職員免許状の種類と免許教科

本学で取得できる免許状の種類及び免許教科は、次のとおりです。

| 学　部 | 学　科 | 免許状の種類 | 免許教科 |
|---|---|---|---|
| 経済学部 | 経済学科 | 中学校教諭一種免許状（中学一種） | 社　会 |
| | | 高等学校教諭一種免許状（高校一種） | 地理歴史 |
| | | 高等学校教諭一種免許状（高校一種） | 公　民 |
| 経営学部 | 経営学科 | 高等学校教諭一種免許状（高校一種） | 商　業 |
| メディアビジネス学部 | ビジネス情報学科 | 高等学校教諭一種免許状（高校一種） | 情　報 |

注１　経済学部経済学科は、２教科以上を同時に取得可能ですが、無理のない履修計画を立てる必要があります。
注２　中学校教諭と高等学校教諭とは、職分が異なるので、免許状を相互に流用することはできません。

**他学科受講について**

所属学科が認定を受けていない免許状を取得する場合は、他学科の当該免許に関する授業科目の単位の修得により、免許状取得を目指すことができます。ただしその際、自学科での学修に影響が出るような履修とならないように注意をしてください。
※他学科の免許状を取得する場合は、カリキュラム及び時間割等の状況によって、４年間で必ず取得できるとは限りません。

注１　免許教科の「社会」、「地理歴史」及び「公民」のうち、いずれか１教科以上を取得しようとする者は、「商業」、「情報」の免許状を同時に取得することはできません。
注２　教職課程において、２教科以上の教育職員免許状を取得しようとする者は、広島経済大学履修細則第５条第６項により、各年次において８単位までの追加履修登録を認めます（要申請）。なお、この場合、「履修制限単位数の特別措置」（広島経済大学履修細則第５条第２項）に定める追加履修登録と併用はできません。

## 2 教職課程の登録及び履修等

教職課程の登録及び履修等の詳細については、別冊『教職課程ガイドブック』で確認をしてください。

# 各種制度

## 1 単位認定振替制度

本学で開講されている科目による単位の修得以外に、次の⑴～⑹の制度により修得した単位や各種資格取得などを本学の単位に振替えて上限60単位まで認定する単位認定振替制度があります。問い合せ及び申し込みは、教務課で行ってください。

### ⑴単位互換制度

学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上を目的として、単位互換協定を結んだ中国地方の大学・短期大学で開講している科目を受講することができ、修得した単位を本学の卒業認定の要件として必要な単位として認定できる制度です。単位互換制度により受講する科目の単位数は、本学の履修制限単位数に含みます。

※詳細は、「諸規程集」の頁に掲載の“広島経済大学単位互換に関する細則”、別冊『単位互換履修生募集要項』及び教育ネットワーク中国のホームページ（http://www.enica.jp/）で確認をしてください。

### ⑵既修得単位認定制度

学生が本学に入学する前に在学した大学又は短期大学で修得した科目の単位（科目等履修生として修得した単位を含む）を、審査により本学で修得した単位として認定できる制度です。

※詳細は、「諸規程集」の頁に掲載の“広島経済大学既修得単位認定細則”で確認をしてください。

申込期限：“広島経済大学既修得単位認定細則”に掲載

### ⑶資格取得に対する単位振替認定制度

本学が大学教育に相当する水準を有すると認めた資格取得に対し、履修制限単位数を超えて本学の卒業認定の要件として必要な単位として認定できる制度です。

①英語資格振替単位基準（全学科対象）

・2018（平成30）年度以降入学生対象

| レベル | TOEIC | TOEFL (Internet-based) | IELTS | 英検 (実用英語技能検定) | 振替科目 | 振替単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| レベル１ | 550-650未満 | 56-68未満 | 4.5 | ２級 | 必修英語ＡⅠ（１単位） | ６単位 |
| | | | | | 必修英語ＡⅡ（１単位） | |
| | | | | | 必修英語ＢⅠ（１単位） | |
| | | | | | 必修英語ＢⅡ（１単位） | |
| | | | | | 必修英語ＣⅠ（１単位） | |
| | | | | | 必修英語ＣⅡ（１単位） | |
| レベル２ | 650以上 | 68以上 | 5.0以上 | 準１級以上 | 必修英語ＡⅠ（１単位） | ８単位 |
| | | | | | 必修英語ＡⅡ（１単位） | |
| | | | | | 必修英語ＢⅠ（１単位） | |
| | | | | | 必修英語ＢⅡ（１単位） | |
| | | | | | 必修英語ＣⅠ（１単位） | |
| | | | | | 必修英語ＣⅡ（１単位） | |
| | | | | | 英語理解･発展Ⅰ（１単位） | |
| | | | | | 英語理解･発展Ⅱ（１単位） | |

・2015（平成27）～2017（平成29）年度入学生対象

| レベル | TOEIC | TOEFL (Internet-based) | IELTS | 英検 (実用英語技能検定) | 振替科目 | 振替単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| レベル１ | 550-650未満 | 56-68未満 | 4.5 | ２級 | 必修英語ＡⅠ（１単位） | ５単位 |
| | | | | | 必修英語ＡⅡ（１単位） | |
| | | | | | 必修英語ＢⅠ（１単位） | |
| | | | | | 必修英語ＢⅡ（１単位） | |
| | | | | | 必修英語ＣⅠ（１単位） | |
| レベル２ | 650以上 | 68以上 | 5.0以上 | 準１級以上 | 必修英語ＡⅠ（１単位） | ８単位 |
| | | | | | 必修英語ＡⅡ（１単位） | |
| | | | | | 必修英語ＢⅠ（１単位） | |
| | | | | | 必修英語ＢⅡ（１単位） | |
| | | | | | 必修英語ＣⅠ（１単位） | |
| | | | | | 必修英語ＣⅡ（１単位） | |
| | | | | | 英語理解･発展Ⅰ（１単位） | |
| | | | | | 英語理解･発展Ⅱ（１単位） | |

・2014（平成26）年度以前入学生対象

| レベル | TOEIC | TOEFL (Internet-based) | IELTS | 英検 (実用英語技能検定) | 振替科目 | 振替単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| レベル１ | 450-650未満 | 39-64未満 | 4 | ２級 | 英語ＡⅠ（１単位） | ４単位 |
| | | | | | 英語ＡⅡ（１単位） | |
| | | | | | 英語ＢⅠ（１単位） | |
| | | | | | 英語ＢⅡ（１単位） | |
| レベル２ | 650以上 | 64以上 | 4.5以上 | 準１級以上 | 英語ＡⅠ（１単位） | ６単位 |
| | | | | | 英語ＡⅡ（１単位） | |
| | | | | | 英語ＢⅠ（１単位） | |
| | | | | | 英語ＢⅡ（１単位） | |
| | | | | | 資格英語Ⅰ（１単位） | |
| | | | | | 資格英語Ⅱ（１単位） | |

②総合資格振替単位基準

【簿記資格】（経営学科のみ）

・2014（平成26）年度以降経営学科入学生対象

| 取得資格 | 振替科目 | 振替単位数 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 日本商工会議所簿記検定　３級以上<br>全国経理教育協会簿記検定　３級以上<br>全国商業高等学校協会簿記検定　３級以上 | 簿記入門（２単位）<br>初級簿記Ⅰ（２単位）<br>（旧科目名　簿記3級Ⅰ） | ４単位 | いずれかの資格・級をもって振替 |

・2013（平成25）年度以前経営学科入学生対象

| 取得資格 | 振替科目 | 振替単位数 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 日本商工会議所簿記検定　３級以上<br>全国商業高等学校協会簿記検定　２級以上 | 簿記入門（２単位）<br>簿記演習Ⅰ（入門）（２単位） | ４単位 | いずれかの資格・級をもって振替 |

【情報処理資格】（ビジネス情報学科のみ）

| 取得資格 | 振替科目 | 振替単位数 | 備考 |
|---|---|---|---|
| IT パスポート | 情報入門演習Ｓ（２単位） | ２単位 | |
| ビジネス文書実務検定<br>ワープロ実務検定　１級<br>日本語ワープロ検定　１級<br>Word 文書処理技能認定試験　２級以上<br>MOS Word 2010<br>MOS Word 2013<br>MOS Word 2016<br>MOS Word エキスパート（上級） | 情報入門演習Ａ（２単位） | ２単位 | いずれかの資格・級をもって振替 |
| Excel® 表計算処理技能認定試験　２級以上<br>MOS Excel 2010<br>MOS Excel 2013<br>MOS Word 2016<br>MOS Excel エキスパート（上級） | 情報入門演習Ｂ（２単位） | ２単位 | いずれかの資格・級をもって振替 |
| ICT プロフィシエンシー検定試験（P 検）２級以上<br>基本情報技術者 | 情報入門演習Ａ（２単位）<br>情報入門演習Ｂ（２単位） | ４単位 | いずれかの資格・級をもって振替 |

※詳細は、「諸規程集」の頁に掲載の“広島経済大学資格振替単位認定細則”で確認をしてください。
　申込期限：“広島経済大学資格振替単位認定細則”に掲載

⑷**海外語学留学による単位認定制度**

本学が実施する語学留学プログラムに参加し修了証明書を修得した場合に、本学の卒業認定の要件として必要な単位として認定できる制度です。

※詳細は、「諸規程集」の頁に掲載の“広島経済大学語学留学振替単位認定細則”で確認をしてください。

申込期限：“広島経済大学語学留学振替単位認定細則”に掲載

⑸**学校インターンシップ修了による単位認定制度【教職課程登録者対象】**

本学と広島市教育委員会との協定に基づき、広島市立学校又は幼稚園において教員を志望する学生の資質及び能力の向上を目指して行った教育活動の支援に対し、履修制限単位数を超えて本学の卒業認定の要件として必要な単位として認定できる制度です。

※詳細は、「諸規程集」の頁に掲載の“広島経済大学学校インターンシップ単位認定細則”及び別冊『教職課程ガイドブック』で確認をしてください。

申込期限：“広島経済大学学校インターンシップ単位認定細則”に掲載

⑹**中小企業大学校研修プログラム修了による単位認定制度**

中小企業大学校広島校が提供する研修プログラムを受講し修了した場合、履修制限単位数を超えて本学の卒業認定の要件として必要な単位として認定できる制度です。

※詳細は、「諸規程集」の頁に掲載の“広島経済大学中小企業大学校研修プログラム単位認定細則”で確認をしてください。

申込期限：“広島経済大学中小企業大学校研修プログラム単位認定細則”に掲載

## 2 学部との５年プログラム（大学院と連携した学位取得プログラム）

学部と大学院による連携学習プログラムです。具体的には、学部３年次前期までの成績が所属学科の上位20%以内に入っている学生で、本学の大学院経済学研究科経済学専攻博士課程前期課程に進学することを希望する学生を対象にしています。学部４年次に大学院の授業科目を科目等履修生として学び、４年次終了後は大学院へ進学し、通常２年の大学院前期課程（修士）を１年で修了する制度です。

※詳細は、「諸規程集」の頁に掲載の“学部との５年プログラム細則”で確認をしてください。

出願期間：“学部との５年プログラム細則”に掲載

## 3 早期卒業制度

通常、卒業するためには４年間の在学期間が必要ですが、特に人物、学業成績ともに優秀な学生に限り３年間の在学期間で卒業を認める制度です。

この制度は、早期に大学を卒業して日本又は海外の大学院へ進学すること、もしくは社会の各方面（ボランティアや異文化体験等）で活躍できるように配慮したものです。学部の在学期間が１年間短縮されることによって、４年目の学費を使って海外留学や大学院進学など、進路の選択肢も広がり、その能力を発揮することが可能となります。

※詳細は、「諸規程集」の頁に掲載の“広島経済大学早期卒業に関する細則”で確認をしてください。

申込期限：“広島経済大学早期卒業に関する細則”に掲載

※企業等への就職を希望する場合は、２年次後期からの就職活動準備、企業訪問等を伴いますので、事前にキャリアセンターに相談をしてください。

# 学務センター教務課

## 窓口

### 1 学業や生活面での相談

本学では、入学時から卒業まで、一貫して指導・助言ができるよう大学入門ゼミ・興動人入門ゼミ・プレゼミ・演習など少人数教育の科目を配置し、教員と学生の融和が十分に図れるよう配慮されています。学修上のことはもとより、個々の生活上の問題、悩み、困っていることがあるときは相談に応じられるような体制を整えています。

学業や生活面について相談したい時、新入生の場合は大学入門ゼミ・興動人入門ゼミ担当教員に遠慮せずに相談してください。学生生活を送る上で、日々様々な問題に遭遇することがあります。そのような時は、早めにその問題の解決を図るようにしてください。特に休学・退学については、書類上の手続きを行う前に、まず、ゼミ担当教員に相談することが必要です。

また、教員と学生をサポートするのが、学業であれば教務課や教育・学習支援センター、生活面であれば学生課や学生相談室が相談窓口です。

### 2 学務センター教務課事務取扱

教務課の場所は、３号館１階です。

教務課の主な取扱事務は次のとおりです。

・履修登録に関すること
・授業に関すること
・試験・レポートに関すること
・演習に関すること
・成績に関すること
・卒業に関すること
・進級に関すること
・学籍（休学、復学、退学、再入学、転科）に関すること
・教職課程に関すること
・単位認定振替制度に関すること
・学部との５年プログラムに関すること
・早期卒業制度に関すること
・大学院に関すること

窓口利用時間は、次のとおりです。時間を厳守してください。

| 区　分 | | 窓口利用時間 |
|---|---|---|
| 授業期間<br>（定期試験期間を含む） | 月～金曜日 | 8：45～17：30 |
| 長期休暇中 | 月～金曜日 | 《夏期・冬期》8：45～16：00 |
| | | 《春期》　8：45～17：30 |

※土曜日、日曜日、祝祭日及び大学が定めた休業日の事務取扱は行いません。
※電話による問い合わせには、応じられません。

## 各種証明書の交付

### 成績・学籍関係の証明書は、教務課で発行します。

証明書の発行には、自動証明書発行機によるものと窓口で発行するものがあり、いずれの場合も「学生証」が必要です。

なお、当日発行を原則としていますが、証明書の種類と時期によっては数日後の発行となる場合がありますので、時間に余裕をもって申し込んでください。

・証明書の発行は、３号館１階（教務課前）に設置してある自動証明書発行機（一部申請書含む）を利用してください。

| 自動証明書発行機の利用時間 | | |
|---|---|---|
| 授業期間<br>（定期試験期間を含む） | 月～金曜日 | 8：45～17：30 |
| 長期休暇中 | 月～金曜日 | 《夏期・冬期》8：45～16：00 |
| | | 《春期》　8：45～17：30 |

※自動証明書発行機を利用するためには、学生証が必要です。

※土曜日、日曜日、祝祭日及び大学が定めた休業日の自動証明書発行機の利用はできません。

・自動証明書発行機で発行できる証明書の種類、証明書発行料金及び発行日は次のとおりです。

| 証明書の種類 | 料金 | 発行日 |
|---|---|---|
| 在学証明書 | 100円 | 即日発行 |
| 単位・成績証明書 | 100円 | |
| 卒業証明書（卒業生専用） | 100円 | |
| 学位授与証明書（卒業生専用） | 100円 | |
| 在籍期間証明書（卒業生，退学者専用） | 100円 | |

※健康診断証明書については、定期健康診断受診者のみ自動証明書発行機で発行できます。

・自動証明書発行機で申請書を購入し、教務課で発行を受けるものは次のとおりです。

| 証明書の種類 | 料金 | 発行日 |
|---|---|---|
| 免許状取得見込証明書<br>（教職課程に関する証明） | 100円<br>（１免許教科） | 申込の７日後 |
| 学力に関する証明書<br>（教職課程に関する証明） | 200円<br>（１免許教科） | |
| 身上調書（教員採用試験申請用） | 200円 | |
| 調査書（大学院受験用） | 200円 | |
| 英文（各種）証明書 | 300円 | |

※一度受理した証明書発行料金は、理由の如何を問わず返却できません。

※卒業見込証明書は、キャリアセンターで交付されます。

## 教務関連届出一覧

主な届出窓口は、次のとおりです。詳細については、各窓口で確認してください。

| 届出の種類 | | 提出先 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|
| 教職課程 | 教職課程登録届 | 教務課 | 教職課程の登録を希望する者は、事前に提出してください。<br>詳細は、別冊『教職課程ガイドブック』を参照 |
| | 教職課程辞退届 | 教務課 | 教職課程の登録を辞退する者は、すみやかに提出してください。<br>詳細は、別冊『教職課程ガイドブック』を参照 |
| 試験 | 追試験受験申請書 | 教務課 | 詳細は、「試験・レポート　3 追試験」の頁を参照 |
| | 再試験受験申請書 | 教務課 | 詳細は、「試験・レポート　4 再試験」の頁を参照 |
| ゼミ（演習等） | 演習担当教員変更願 | 教務課 | 演習指導教員がやむを得ない事由があると認めた場合は、指導教員を変更することができます。 |
| | 【2015(平成27)年度以降入学生用】<br>代替科目指定登録届 | 教務課 | 代替科目指定登録により、大学入門ゼミ又は興動人入門ゼミの単位を修得する場合は、代替科目指定登録届を教務課に提出してください。<br>届出は、各学期初めの履修登録期間中に必ず行ってください。<br><br>詳細は、「諸規程集」の頁に掲載の“広島経済大学演習細則”を参照 |
| | 【2014(平成26)年度入学生用】<br>代替科目指定登録届 | 教務課 | 代替科目指定登録により、入門ゼミⅠ又は入門ゼミⅡの単位を修得する場合は、代替科目指定登録届を教務課に提出してください。<br>届出は、各学期初めの履修登録期間中に必ず行ってください。<br><br>詳細は、「諸規程集」の頁に掲載の“広島経済大学演習細則”を参照 |
| | 【2013(平成25)年度以前入学生用】<br>演習科目履修辞退事由書・<br>代替科目指定登録届 | 教務課 | 次の演習科目の履修を辞退する場合は、演習科目履修辞退事由書・代替科目指定登録届を教務課に提出してください。<br>届出は、各学期初めの履修登録期間中に必ず行ってください。ただし、科目によって履修を辞退できる学年が異なります。<br>・入門ゼミⅠ、入門ゼミⅡ<br>・演習Ⅰ、演習Ⅱ<br>・グループ演習、卒業研究Ⅰ（3年)、卒業研究Ⅱ（4年）<br>・デジタルメディア表現Ⅰ、デジタルメディア表現Ⅱ、メディアビジネス演習Ⅰ、メディアビジネス演習Ⅱ<br>・プレゼミ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ<br><br>詳細は、「教育課程（カリキュラム）　3 ゼミ科目」の頁に掲載の“2013（平成25）年度以前の入学生適用広島経済大学演習細則（抜粋)”を参照 |
| 欠席届 | | 各担当部署 | 詳細は、「授業　9 公認欠席以外の欠席・遅刻」の頁を参照 |
| 公認欠席願 | | 各担当部署 | 詳細は、「授業　8 公認欠席」の頁を参照 |
| 単位互換履修生出願票 | | 教務課 | 詳細は、「諸規程集」の頁に掲載の“広島経済大学単位互換に関する細則”、別冊『単位互換履修生募集要項』及び教育ネットワーク中国のホームページ（http://www.enica.jp/）を参照 |
| 既修得単位認定申請書 | | 教務課 | 詳細は、「諸規程集」の頁に掲載の“広島経済大学既修得単位認定細則”で確認をしてください。 |
| 各種資格振替単位認定申請書 | | 教務課 | 詳細は、「諸規程集」の頁に掲載の“広島経済大学資格振替単位認定細則”を参照 |
| 休学願 | | 教務課 | 詳細は、「学籍　2 休学」の頁を参照 |
| 退学願 | | 教務課 | 詳細は、「学籍　4 退学」の頁を参照 |
| 転科願 | | 教務課 | 詳細は、「学籍　7 転科」の頁を参照 |

## 連絡事項

### 1 HUE NAVI

学務センター教務課からの連絡事項は、HUE NAVI で連絡します。一旦 HUE NAVI に掲示した事項は、周知されたものとみなし、本人がこれを見なかったという理由で事後に異議を申し出ることはできません。必ず１日１回は確認する習慣をつけてください。

**〔学務センター教務課からの主な連絡事項〕**

・休講・補講・時間割及び教室の変更などの授業情報
・定期試験などの情報
・呼出など、学生個人に向けた情報
・各種行事（ガイダンス）の情報

**〔HUE NAVI の利用方法〕**

HUE NAVI に掲載した連絡事項は、個人のスマートフォンやパソコンから見ることができます。別冊『HUE NAVI・パソコン利用ガイド』に沿って、以下の URL にアクセスし内容の確認をしてください。

スマートフォン　https://navi.hue.ac.jp/sp
パソコン　https://navi.hue.ac.jp

**注意！**
**・HUE NAVI でお知らせした内容は、周知されたものとみなします。**
**・HUE NAVI を見なかったために生じる不利益は、本人の責任となります。**
**・連絡事項の掲載後、内容が変更される場合もありますので、１日に１回は必ず確認してください。**

### 2 掲示板（紙掲示）

HUE NAVI 以外に、３号館入口に設置されている掲示板（紙掲示）で大学からの連絡事項を連絡する場合もあります。

### 3 掲示システム（TV モニター）

６号館１階、明徳館、興動館、学生会館リブレ１階、１号館食堂などに設置している掲示システム（TV モニター）には、各種ガイダンスや活動報告会などの学内行事の情報を中心に掲示しています。

# 教育課程（カリキュラム）

## 2019(平成31)年度以降入学生　教育課程(カリキュラム)の構成

本学の授業科目は、次のように体系づけて構成されています。

1．共通科目
- 外国語科目
  - 基礎科目
- 日本語文章表現科目
- 自己理解系科目
- 他者理解系科目
- 基礎教養科目
- 情報処理科目

2．学部学科科目
- 経済学部
  - 経済学科科目
    - 入門科目
    - 基礎科目
    - 発展・応用科目
      - 総合経済学
      - 国際経済
      - 政策科学
      - 金融・情報
    - 専門外国語特別演習
    - 地域特別講義
    - 資格関連科目
- 経営学部
  - 経営学科科目
    - 入門科目
    - 基礎科目
    - 発展・応用科目
      - マネジメント系科目
      - アカウンティング系科目
      - マーケティング系科目
      - 演習系科目
    - 資格関連科目
  - スポーツ経営学科科目
    - 入門科目
    - 基礎科目
    - 発展・応用科目
      - 経済・経営関連科目
      - スポーツ関連科目
      - 実験・実習・演習科目
- メディアビジネス学部
  - ビジネス情報学科科目
    - 入門科目
    - 基礎科目
    - 発展・応用科目
      - ビジネス科目
      - 情報科目
      - ビジネス情報演習科目
  - メディアビジネス学科科目
    - 入門科目
    - 基礎科目
    - 発展・応用科目
      - ビジネス科目
      - メディア・IT 科目

3．ゼミ科目

4．能力開発科目
- 税理士関係科目
- ファイナンシャル・プランナー（AFP）関係科目
- 宅地建物取引士関係科目
- IT パスポート関係科目
- 野村證券㈱提供関係科目
- 中小企業大学校研修プログラム

5．キャリア科目
- キャリアプランニング関係科目
- 就職対策試験関係科目
- 教員採用試験関係科目
- 女子学生支援関係科目
- インターンシップ
- 学校インターンシップ

6．興動館科目
- 元気力
- 企画力
- 行動力
- 共生力

7．留学生科目
- 正規留学生の日本語関係科目
- 交換留学生科目

8．教職関連科目

## 2018(平成30)・2017(平成29)・2016(平成28)・2015(平成27)年度入学生　教育課程(カリキュラム)の構成

本学の授業科目は、次のように体系づけて構成されています。

1．共通科目
- 外国語科目
  - 基礎科目
- 日本語文章表現科目
- 自己理解系科目
- 他者理解系科目
- 基礎教養科目
- 情報処理科目

2．学科科目
- 経済学科科目
  - 入門科目
  - 基礎科目
  - 発展・応用科目
    - 総合経済学
    - 国際経済
    - 政策科学
    - 金融・情報
  - 専門外国語特別演習
  - 地域特別講義
  - 資格関連科目
- 経営学科科目
  - 入門科目
  - 基礎科目
  - 発展・応用科目
    - マネジメント系科目
    - アカウンティング系科目
    - マーケティング系科目
    - 演習系科目
  - 資格関連科目
- ビジネス情報学科科目
  - 入門科目
  - 基礎科目
  - 発展・応用科目
    - ビジネス科目
    - 情報科目
    - ビジネス情報演習科目
- メディアビジネス学科科目
  - 入門科目
  - 基礎科目
  - 発展・応用科目
    - ビジネス科目
    - メディア・IT 科目
- スポーツ経営学科科目
  - 入門科目
  - 基礎科目
  - 発展・応用科目
    - 経済・経営関連科目
    - スポーツ関連科目
    - 実験・実習・演習科目

3．ゼミ科目

4．能力開発科目
- 税理士関係科目
- ファイナンシャル・プランナー（AFP）関係科目
- 宅地建物取引士関係科目
- IT パスポート関係科目
- 野村證券㈱提供関係科目
- インターンシップ（※2015（平成27）年度生対象）
- 学校インターンシップ（※2015（平成27）年度生対象）
- 中小企業大学校研修プログラム

5．キャリア科目
- キャリアプランニング関係科目
- 就職対策試験関係科目
- 教員採用試験関係科目
- 女子学生支援関係科目
- インターンシップ（※2016（平成28）年度以降入学生対象）
- 学校インターンシップ（※2016（平成28）年度以降入学生対象）

6．興動館科目
- 元気力
- 企画力
- 行動力
- 共生力

7．留学生科目
- 正規留学生の日本語関係科目
- 交換留学生科目

8．教職に関する科目

## 2014（平成26）年度以前入学生　教育課程（カリキュラム）の構成

本学の授業科目は、次のように体系づけて構成されています。

- 1．共通科目
  - 外国語科目
    - 基礎科目
    - 演習科目
  - 日本語文章表現科目
  - 総合科学科目
    - 入門科目
    - 人文分野科目
    - 社会分野科目
    - 自然分野科目
    - 健康・スポーツ分野科目
  - 情報処理科目
- 2．学科科目
  - 経済学科科目
    - 入門科目
    - 基礎科目
    - 発展・応用科目
      - 総合経済学
      - 国際経済
      - 政策科学
      - 金融・情報
      - 外書講読
    - 地域特別講義
    - 資格関連科目
  - 経営学科科目
    - 入門科目
    - 基礎科目
    - 発展・応用科目
      - マネジメント系科目
      - アカウンティング系科目
      - マーケティング系科目
      - 演習系科目
      - 外書講読
      - 特別演習
    - 資格関連科目
  - ビジネス情報学科科目
    - 入門科目
    - 基礎科目
    - 発展・応用科目
      - ビジネス科目
      - 情報科目
      - ビジネス情報演習科目
  - メディアビジネス学科科目
    - 入門科目
    - 基礎科目
    - 発展・応用科目
      - ビジネス科目
      - メディア・IT 科目
  - スポーツ経営学科科目
    - 入門科目
    - 基礎科目
    - 発展・応用科目
      - 経済・経営関連科目
      - スポーツ関連科目
      - 実験・実習・演習科目
- 3．ゼミ科目
- 4．能力開発科目
  - 税理士関係科目
  - 社会保険労務士関係科目
  - ファイナンシャル・プランナー（AFP）関係科目
  - 宅地建物取引士関係科目
  - 通関士関係科目
  - IT パスポート関係科目
  - 野村證券㈱提供関係科目
  - インターンシップ
  - 学校インターンシップ
  - 中小企業大学校研修プログラム
- 5．キャリア科目
  - キャリアプランニング関係科目
  - 公務員試験関係科目
  - 就職対策試験関係科目
  - 教員採用試験関係科目
  - 女子学生支援関係科目
- 6．興動館科目
  - 元気力
  - 企画力
  - 行動力
  - 共生力
- 7．留学生科目
  - 正規留学生の日本語関係科目
  - 交換留学生科目
- 8．教職に関する科目

## 教育課程（カリキュラム）の見方

教育課程（カリキュラム）には次の事項が記載されています。

| 区分 | ①授業科目 | ②副題 | ③授業タイプ | ④単位 | ⑤履修区分 | ⑥クラス | ⑦非 | ⑧授業担当者 | ⑨配当年次 | ⑩旧科目名 | ⑪備考（履修条件） | ⑫他学科生受講 | ⑬抽選・選考科目 | ⑭1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ※英語ライティングⅠ | ・・・・ | 前 | 1 | ○ | a | | ・・・　・・ | 1 | 中級英語ライティングⅠ | | | | |
| | | | | | | b | 非 | ・・・　・・ | | | | | | |
| | 情報処理の基礎Ⅰ | ・・・・ | 前 | 2 | | | 派 | ・・・　・・ | 2 | 経済情報処理演習Ⅰ | | ビ・メ不可 | 抽選 | 30名 |

**①授業科目**

授業科目名が記載されています。

科目名の前に※印が付いている科目は、当該年度は開講しない科目です。

**②副題**

授業内容を簡単に説明しています。

**③授業タイプ**

開講学期と週開講コマ数が記載されています。

**前**……前期開講科目

**後**……後期開講科目

**通**……通年開講科目

**前２、後２**など……連続開講科目

**隔週前２、隔週後２**……隔週で連続開講する科目

**特設（サマー）**……夏期休暇期間中の開講科目

**特設（その他）**……特別に期間を設けて開講する科目

**④単位**

当該授業科目の単位数が表記されています。

**⑤履修区分**

履修区分が記載されています。

◎……必修科目　　○……選択必修科目　　**空白**…選択科目

**⑥クラス**

複数クラス開講授業の場合に、クラス名（a、b など）が記載されます。

**⑦非**

当該授業科目の担当教員の区分を記載しています。

**空白**…専任教員　　**非**……非常勤講師　　**派**……派遣講師

**⑧授業担当者**

当該授業科目の担当教員の氏名を掲載しています。

**⑨配当年次**

授業科目は各年次に配当され、段階的に履修できるようにしてあり、履修可能な最下級年次が表示されています。

例えば“２”と記載されていれば、２年次生以上が履修可能であり、１年次生は履修不可ということです。

ただし、平成25年度以前の入学生については、配当年次は、演習科目を除き、在籍年数（入学年度からの休学期間を含めた年数をカウントしたもの）になります。

**⑩旧科目名**

当該授業科目名の変更前の科目名を記載しています。旧科目名の欄に記載された科目の単位を修得している場合は、その授業科目を履修登録することができません。

**⑪備考（履修条件）**

履修のための条件などが記載されています。

**⑫他学科生受講**

他学科の学生の履修の有無を記載しています。

**不可**……他学科の学生は履修不可

**空白**……他学科の学生の履修可　　※ただし、履修条件には注意をしてください。

**特定の学科のみ可又は不可**……次のように学科を表示し可又は不可と記載

**済**…経済学科　　**営**…経営学科　　**ビ**…ビジネス情報学科

**メ**…メディアビジネス学科　　**ス**…スポーツ経営学科

**⑬抽選・選考科目**

抽選又は選考が行われる科目について記載しています。

※1クラス当たりの定員が定められている科目については、履修登録者が定員を超えた場合抽選を行います。

**抽選**…定員を超えた場合、抽選が行われる科目

**選考**…選考により履修者が決定する科目

**空白**…抽選又は選考が行われない科目

**⑭１クラス当たりの履修定員**

１クラス当たりの履修定員が定められている授業について人数を記載しています。

# 2019(平成31)年度以降入学生用　教育課程(カリキュラム)・クラス表・履修上の注意事項

## 1 共通科目

【外国語科目】

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考(履修条件) | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | 必修英語ＡⅠ | リーディング＆ライティング | 前2 | 1 | ◎ | a済 | | 森谷　浩士 | 1 | ・45分授業を週２回で開講<br>・新入生は、事前にプレイスメントテストを受け、指定されたクラスで履修すること<br>・必修英語ＡⅠの単位未修得者は、b1再～b6再クラスのいずれか１クラスを履修し、単位を修得すること。<br>・英語資格振替単位基準におけるレベル1の資格振替により、「必修英語Ａ Ⅰ」、「必修英語Ａ Ⅱ」、「必修英語Ｂ Ⅰ」、「必修英語Ｂ Ⅱ」、「必修英語Ｃ Ⅰ」、「必修英語Ｃ Ⅱ」の６単位を修得した者は、「資格英語Ⅲ」及び「資格英語Ⅳ」の2科目を必ず履修しなければならない。<br>・英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語Ａ Ⅰ」、「必修英語Ａ Ⅱ」、「必修英語Ｂ Ⅰ」、「必修英語Ｂ Ⅱ」、「必修英語Ｃ Ⅰ」、「必修英語Ｃ Ⅱ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ」及び「発展英会話Ⅱ」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 選考 | 40 |
| | | | | | | b1済 | | 田辺　洋子 | | | | |
| | | | | | | b2済 | | 梶原　英二 | | | | |
| | | | | | | b3済 | | 中川　梓 | | | | |
| | | | | | | b4済 | | 森谷　浩士 | | | | |
| | | | | | | b5済 | | 中川　梓 | | | | |
| | | | | | | b6済 | | 森谷　浩士 | | | | |
| | | | | | | b7済 | | 森　瑞樹 | | | | |
| | | | | | | b8済 | | 本岡　亜沙子 | | | | |
| | | | | | | a営 | | 田辺　洋子 | | | | |
| | | | | | | b1営 | | 森谷　浩士 | | | | |
| | | | | | | b2営 | 非 | 河内　紀彦 | | | | |
| | | | | | | b3営 | | 田辺　洋子 | | | | |
| | | | | | | b4営 | | 梶原　英二 | | | | |
| | | | | | | b5営 | 非 | 河内　紀彦 | | | | |
| | | | | | | b6営 | | 迫田　奈美子 | | | | |
| | | | | | | b7営 | | 森谷　浩士 | | | | |
| | | | | | | b8営 | | 迫田　奈美子 | | | | |
| | | | | | | aビメス | | 梶原　英二 | | | | |
| | | | | | | b1ビメス | | 田辺　洋子 | | | | |
| | | | | | | b2ビメス | | 中川　梓 | | | | |
| | | | | | | b3ビメス | | 森谷　浩士 | | | | |
| | | | | | | b4ビメス | | 森谷　浩士 | | | | |
| | | | | | | b5ビメス | | 藤山　和久 | | | | |
| | | | | | | b1再 | | 本岡　亜沙子 | | | | |
| | | | | | | b2再 | | 森　瑞樹 | | | | |
| | | | | | | b3再 | | 森　瑞樹 | | | | |
| | | | | | | b4再 | | 中川　梓 | | | | |
| | | | | | | b5再 | | 梶原　英二 | | | | |
| | | | | | | b6再 | | 本岡　亜沙子 | | | | |
| | 必修英語ＡⅡ | リーディング＆ライティング | 後2 | 1 | ◎ | a済 | | 森谷　浩士 | 1 | ・45分授業を週２回で開講<br>・新入生は、事前にプレイスメントテストを受け、指定されたクラスで履修すること<br>・必修英語ＡⅡの単位未修得者は、b1再～b6再クラスのいずれか１クラスを履修し、単位を修得すること。<br>・英語資格振替単位基準におけるレベル1の資格振替により、「必修英語Ａ Ⅰ」、「必修英語Ａ Ⅱ」、「必修英語Ｂ Ⅰ」、「必修英語Ｂ Ⅱ」、「必修英語Ｃ Ⅰ」、「必修英語Ｃ Ⅱ」の６単位を修得した者は、「資格英語Ⅲ」及び「資格英語Ⅳ」の2科目を必ず履修しなければならない。<br>・英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語Ａ Ⅰ」、「必修英語Ａ Ⅱ」、「必修英語Ｂ Ⅰ」、「必修英語Ｂ Ⅱ」、「必修英語Ｃ Ⅰ」、「必修英語Ｃ Ⅱ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ」及び「発展英会話Ⅱ」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 選考 | 40 |
| | | | | | | b1済 | | 田辺　洋子 | | | | |
| | | | | | | b2済 | | 梶原　英二 | | | | |
| | | | | | | b3済 | | 中川　梓 | | | | |
| | | | | | | b4済 | | 森谷　浩士 | | | | |
| | | | | | | b5済 | | 中川　梓 | | | | |
| | | | | | | b6済 | | 森谷　浩士 | | | | |
| | | | | | | b7済 | | 森　瑞樹 | | | | |
| | | | | | | b8済 | | 本岡　亜沙子 | | | | |
| | | | | | | a営 | | 田辺　洋子 | | | | |
| | | | | | | b1営 | | 森谷　浩士 | | | | |
| | | | | | | b2営 | 非 | 河内　紀彦 | | | | |
| | | | | | | b3営 | | 田辺　洋子 | | | | |
| | | | | | | b4営 | | 梶原　英二 | | | | |
| | | | | | | b5営 | 非 | 河内　紀彦 | | | | |
| | | | | | | b6営 | | 迫田　奈美子 | | | | |
| | | | | | | b7営 | | 森谷　浩士 | | | | |
| | | | | | | b8営 | | 迫田　奈美子 | | | | |
| | | | | | | aビメス | | 梶原　英二 | | | | |
| | | | | | | b1ビメス | | 田辺　洋子 | | | | |
| | | | | | | b2ビメス | | 中川　梓 | | | | |
| | | | | | | b3ビメス | | 森谷　浩士 | | | | |
| | | | | | | b4ビメス | | 森谷　浩士 | | | | |
| | | | | | | b5ビメス | | 藤山　和久 | | | | |
| | | | | | | b1再 | | 本岡　亜沙子 | | | | |
| | | | | | | b2再 | | 森　瑞樹 | | | | |
| | | | | | | b3再 | | 森　瑞樹 | | | | |
| | | | | | | b4再 | | 中川　梓 | | | | |
| | | | | | | b5再 | | 梶原　英二 | | | | |
| | | | | | | b6再 | | 本岡　亜沙子 | | | | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備　考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | 必修英語ＢⅠ | リスニング＆スピーキング | 前2 | 1 | ◎ | a1済 | | 山本　貴裕 | 1 | ・45分授業を週２回で開講<br>・新入生は、事前にプレイスメントテストを受け、指定されたクラスで履修すること<br>・必修英語ＢⅠの単位未修得者は、b1再～ b5再クラスのいずれか１クラスを履修し、単位を修得すること。<br>・英語資格振替単位基準におけるレベル1の資格振替により、「必修英語Ａ Ⅰ」、「必修英語Ａ Ⅱ」、「必修英語Ｂ Ⅰ」、「必修英語Ｂ Ⅱ」、「必修英語Ｃ Ⅰ」、「必修英語Ｃ Ⅱ」の６単位を修得した者は、「資格英語Ⅲ」及び「資格英語Ⅳ」の2科目を必ず履修しなければならない。<br>・英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語Ａ Ⅰ」、「必修英語Ａ Ⅱ」、「必修英語Ｂ Ⅰ」、「必修英語Ｂ Ⅱ」、「必修英語Ｃ Ⅰ」、「必修英語Ｃ Ⅱ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ」及び「発展英会話Ⅱ」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 選考 | 20 |
| | | | | | | a2済 | | J. A. S. ワイルド | | | | |
| | | | | | | b1済 | | 迫田　奈美子 | | | | |
| | | | | | | b2済 | | M. J. タンコシッチ | | | | |
| | | | | | | b3済 | 非 | 岩國　智子 | | | | |
| | | | | | | b4済 | 非 | 黒住　奏 | | | | |
| | | | | | | b5済 | 非 | 坂本　聖子 | | | | |
| | | | | | | b6済 | 非 | 吉村　千里 | | | | |
| | | | | | | b7済 | 非 | J. シューバ | | | | |
| | | | | | | b8済 | 非 | 山内　香澄 | | | | |
| | | | | | | b9済 | 非 | 山内　香澄 | | | | |
| | | | | | | b10済 | 非 | 坂本　聖子 | | | | |
| | | | | | | b11済 | | 中川　梓 | | | | |
| | | | | | | b12済 | 非 | 黒住　奏 | | | | |
| | | | | | | b13済 | | M. J. タンコシッチ | | | | |
| | | | | | | b14済 | | 合田　優子 | | | | |
| | | | | | | b15済 | 非 | D. ウイリアムズ | | | | |
| | | | | | | b16済 | | 藤山　和久 | | | | |
| | | | | | | a1営 | | R. フォレスト | | | | |
| | | | | | | a2営 | | 中川　梓 | | | | |
| | | | | | | b1営 | | R. フォレスト | | | | |
| | | | | | | b2営 | 非 | 川本ピーター | | | | |
| | | | | | | b3営 | | 藤山　和久 | | | | |
| | | | | | | b4営 | 非 | 吉村　千里 | | | | |
| | | | | | | b5営 | | 合田　優子 | | | | |
| | | | | | | b6営 | | R. フォレスト | | | | |
| | | | | | | b7営 | 非 | 黒住　奏 | | | | |
| | | | | | | b8営 | | 藤山　和久 | | | | |
| | | | | | | b9営 | | 中川　梓 | | | | |
| | | | | | | b10営 | 非 | 吉村　千里 | | | | |
| | | | | | | b11営 | 非 | 古田　ユミ | | | | |
| | | | | | | b12営 | 非 | 寺重　理英子 | | | | |
| | | | | | | b13営 | 非 | 川本ピーター | | | | |
| | | | | | | b14営 | | 合田　優子 | | | | |
| | | | | | | b15営 | 非 | 寺重　理英子 | | | | |
| | | | | | | b16営 | 非 | 古田　ユミ | | | | |
| | | | | | | a ビメス | | R. フォレスト | | | | |
| | | | | | | b1 ビメス | | 中川　梓 | | | | |
| | | | | | | b2 ビメス | | M. J. タンコシッチ | | | | |
| | | | | | | b3 ビメス | 非 | 岩國　智子 | | | | |
| | | | | | | b4 ビメス | 非 | 坂本　聖子 | | | | |
| | | | | | | b5 ビメス | 非 | J. シューバ | | | | |
| | | | | | | b6 ビメス | 非 | 吉村　千里 | | | | |
| | | | | | | b7 ビメス | 非 | D. ウイリアムズ | | | | |
| | | | | | | b8 ビメス | | 合田　優子 | | | | |
| | | | | | | b9 ビメス | | M. J. タンコシッチ | | | | |
| | | | | | | b10 ビメス | | J. A. S. ワイルド | | | | |
| | | | | | | b1再 | | 藤山　和久 | | | | |
| | | | | | | b2再 | | 合田　優子 | | | | |
| | | | | | | b3再 | | R. フォレスト | | | | |
| | | | | | | b4再 | | 山本　貴裕 | | | | |
| | | | | | | b5再 | | 中川　梓 | | | | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | 必修英語ＢⅡ | リスニング＆スピーキング | 後2 | 1 | ◎ | a1済 | | 山本　貴裕 | 1 | ・45分授業を週２回で開講<br>・新入生は、事前にプレイスメントテストを受け、指定されたクラスで履修すること<br>・必修英語ＢⅡの単位未修得者は、b1再～ b5再クラスのいずれか１クラスを履修し、単位を修得すること。<br>・英語資格振替単位基準におけるレベル1の資格振替により、「必修英語Ａ Ⅰ」、「必修英語Ａ Ⅱ」、「必修英語Ｂ Ⅰ」、「必修英語Ｂ Ⅱ」、「必修英語Ｃ Ⅰ」、「必修英語Ｃ Ⅱ」の６単位を修得した者は、「資格英語Ⅲ」及び「資格英語Ⅳ」の2科目を必ず履修しなければならない。<br>・英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語Ａ Ⅰ」、「必修英語Ａ Ⅱ」、「必修英語Ｂ Ⅰ」、「必修英語Ｂ Ⅱ」、「必修英語Ｃ Ⅰ」、「必修英語Ｃ Ⅱ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ」及び「発展英会話Ⅱ」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 選考 | 20 |
| | | | | | | a2済 | | J. A. S. ワイルド | | | | |
| | | | | | | b1済 | | 迫田　奈美子 | | | | |
| | | | | | | b2済 | | M. J. タンコシッチ | | | | |
| | | | | | | b3済 | 非 | 岩國　智子 | | | | |
| | | | | | | b4済 | 非 | 黒住　奏 | | | | |
| | | | | | | b5済 | 非 | 坂本　聖子 | | | | |
| | | | | | | b6済 | 非 | 吉村　千里 | | | | |
| | | | | | | b7済 | 非 | J. シューバ | | | | |
| | | | | | | b8済 | 非 | 山内　香澄 | | | | |
| | | | | | | b9済 | 非 | 岩國　智子 | | | | |
| | | | | | | b10済 | 非 | 坂本　聖子 | | | | |
| | | | | | | b11済 | | 中川　梓 | | | | |
| | | | | | | b12済 | 非 | 黒住　奏 | | | | |
| | | | | | | b13済 | | M. J. タンコシッチ | | | | |
| | | | | | | b14済 | | 合田　優子 | | | | |
| | | | | | | b15済 | 非 | D. ウイリアムズ | | | | |
| | | | | | | b16済 | | 藤山　和久 | | | | |
| | | | | | | a1営 | | R. フォレスト | | | | |
| | | | | | | a2営 | | 中川　梓 | | | | |
| | | | | | | b1営 | | R. フォレスト | | | | |
| | | | | | | b2営 | 非 | 川本ピーター | | | | |
| | | | | | | b3営 | | 藤山　和久 | | | | |
| | | | | | | b4営 | 非 | 吉村　千里 | | | | |
| | | | | | | b5営 | | 合田　優子 | | | | |
| | | | | | | b6営 | | R. フォレスト | | | | |
| | | | | | | b7営 | 非 | 黒住　奏 | | | | |
| | | | | | | b8営 | | 藤山　和久 | | | | |
| | | | | | | b9営 | | 中川　梓 | | | | |
| | | | | | | b10営 | 非 | 吉村　千里 | | | | |
| | | | | | | b11営 | 非 | 古田　ユミ | | | | |
| | | | | | | b12営 | 非 | 寺重　理英子 | | | | |
| | | | | | | b13営 | 非 | 川本ピーター | | | | |
| | | | | | | b14営 | | 合田　優子 | | | | |
| | | | | | | b15営 | 非 | 寺重　理英子 | | | | |
| | | | | | | b16営 | 非 | 古田　ユミ | | | | |
| | | | | | | a ビメス | | R. フォレスト | | | | |
| | | | | | | b1 ビメス | | 中川　梓 | | | | |
| | | | | | | b2 ビメス | | 迫田　奈美子 | | | | |
| | | | | | | b3 ビメス | 非 | 岩國　智子 | | | | |
| | | | | | | b4 ビメス | 非 | 坂本　聖子 | | | | |
| | | | | | | b5 ビメス | 非 | J. シューバ | | | | |
| | | | | | | b6 ビメス | 非 | 吉村　千里 | | | | |
| | | | | | | b7 ビメス | 非 | D. ウイリアムズ | | | | |
| | | | | | | b8 ビメス | | 合田　優子 | | | | |
| | | | | | | b9 ビメス | | M. J. タンコシッチ | | | | |
| | | | | | | b10 ビメス | | J. A. S. ワイルド | | | | |
| | | | | | | b1再 | | 藤山　和久 | | | | |
| | | | | | | b2再 | | 合田　優子 | | | | |
| | | | | | | b3再 | | R. フォレスト | | | | |
| | | | | | | b4再 | | 山本　貴裕 | | | | |
| | | | | | | b5再 | | 中川　梓 | | | | |
| | 必修英語ＣⅠ | ボキャブラリー＆グラマー | 通 | 1 | ◎ | a 済 | | 中川　梓 | 1 | ・45分授業で週1回通年開講<br>・必修英語ＣⅠの単位未修得者は、a再、b再クラスのいずれか１クラスを履修し、単位を修得すること。<br>・英語資格振替単位基準におけるレベル1の資格振替により、「必修英語Ａ Ⅰ」、「必修英語Ａ Ⅱ」、「必修英語Ｂ Ⅰ」、「必修英語Ｂ Ⅱ」、「必修英語Ｃ Ⅰ」、「必修英語Ｃ Ⅱ」の６単位を修得した者は、「資格英語Ⅲ」及び「資格英語Ⅳ」の2科目を必ず履修しなければならない。<br>・英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語Ａ Ⅰ」、「必修英語Ａ Ⅱ」、「必修英語Ｂ Ⅰ」、「必修英語Ｂ Ⅱ」、「必修英語Ｃ Ⅰ」、「必修英語Ｃ Ⅱ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ」及び「発展英会話Ⅱ」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 選考 | 140 |
| | | | | | | b 済 | | 中川　梓 | | | | |
| | | | | | | c 済・c 営 | | 森　瑞樹 | | | | |
| | | | | | | a 営 | | 森谷　浩士 | | | | |
| | | | | | | b 営 | | 森谷　浩士 | | | | |
| | | | | | | a ビメス | | 本岡　亜沙子 | | | | |
| | | | | | | b ビメス | | 本岡　亜沙子 | | | | |
| | | | | | | a 再 | | 森　瑞樹 | | | | |
| | | | | | | b 再 | | 森　瑞樹 | | | | |
| | 必修英語ＣⅡ | ボキャブラリー＆グラマー | 通 | 1 | ◎ | a 済 | | 山本　貴裕 | 2 | ・45分授業で週1回通年開講<br>・必修英語ＣⅡの単位未修得者は、いずれか１クラスを履修し、単位を修得すること。<br>・英語資格振替単位基準におけるレベル1の資格振替により、「必修英語Ａ Ⅰ」、「必修英語Ａ Ⅱ」、「必修英語Ｂ Ⅰ」、「必修英語Ｂ Ⅱ」、「必修英語Ｃ Ⅰ」、「必修英語Ｃ Ⅱ」の６単位を修得した者は、「資格英語Ⅲ」及び「資格英語Ⅳ」の2科目を必ず履修しなければならない。<br>・英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語Ａ Ⅰ」、「必修英語Ａ Ⅱ」、「必修英語Ｂ Ⅰ」、「必修英語Ｂ Ⅱ」、「必修英語Ｃ Ⅰ」、「必修英語Ｃ Ⅱ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ」及び「発展英会話Ⅱ」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 選考 | 140 |
| | | | | | | b 済 | | 梶原　英二 | | | | |
| | | | | | | c 済・c 営 | | 梶原　英二 | | | | |
| | | | | | | a 営 | | 合田　優子 | | | | |
| | | | | | | b 営 | | 合田　優子 | | | | |
| | | | | | | a ビメス | | 山本　貴裕 | | | | |
| | | | | | | b ビメス | | 山本　貴裕 | | | | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | 英語理解・基礎徹底Ⅰ | リーディング＆リスニング | 前 | 1 | ○ | a済 | | 山本　貴裕 | 2 | （注１）<br>・英語理解・標準Ⅰ、英語理解・標準Ⅱ、英語理解・発展Ⅰ又は英語理解・発展Ⅱの修得者は履修不可 | 選考 | 40名 |
| | | | | | | b済 | 非 | 山内　香澄 | | | | |
| | | | | | | c済 | | 本岡　亜沙子 | | | | |
| | | | | | | a営 | | 本岡　亜沙子 | | | | |
| | | | | | | b営 | 非 | 豊島　桂子 | | | | |
| | | | | | | aビメス | 非 | 西本　純子 | | | | |
| | | | | | | bビメス | 非 | 豊島　桂子 | | | | |
| | 英語理解・基礎徹底Ⅱ | リーディング＆リスニング | 後 | 1 | ○ | a済 | | 山本　貴裕 | 2 | （注1）<br>・英語理解・標準Ⅰ、英語理解・標準Ⅱ、英語理解・発展Ⅰ又は英語理解・発展Ⅱの修得者は履修不可 | 選考 | 40名 |
| | | | | | | b済 | 非 | 山内　香澄 | | | | |
| | | | | | | c済 | | 本岡　亜沙子 | | | | |
| | | | | | | a営 | | 本岡　亜沙子 | | | | |
| | | | | | | b営 | 非 | 豊島　桂子 | | | | |
| | | | | | | aビメス | 非 | 西本　純子 | | | | |
| | | | | | | bビメス | 非 | 豊島　桂子 | | | | |
| | 英語理解・標準Ⅰ | リーディング＆リスニング | 前 | 1 | ○ | a済 | 非 | 山内　香澄 | 2 | （注1）<br>・英語理解・発展Ⅰ又は英語理解・発展Ⅱの修得者は履修不可 | 選考 | 40名 |
| | | | | | | b済 | 非 | 豊島　桂子 | | | | |
| | | | | | | c済 | | 梶原　英二 | | | | |
| | | | | | | d済 | | 森谷　浩士 | | | | |
| | | | | | | e済 | | 藤山　和久 | | | | |
| | | | | | | a営 | 非 | 寺重　理英子 | | | | |
| | | | | | | b営 | 非 | 河内　紀彦 | | | | |
| | | | | | | c営 | 非 | 古田　ユミ | | | | |
| | | | | | | d営 | | 森谷　浩士 | | | | |
| | | | | | | e営 | 非 | 寺重　理英子 | | | | |
| | | | | | | aビメス | | 田辺　洋子 | | | | |
| | | | | | | bビメス | 非 | 西本　純子 | | | | |
| | | | | | | cビメス | | 田辺　洋子 | | | | |
| | 英語理解・標準Ⅱ | リーディング＆リスニング | 後 | 1 | ○ | a済 | 非 | 山内　香澄 | 2 | （注1）<br>・英語理解・発展Ⅰ又は英語理解・発展Ⅱの修得者は履修不可 | 選考 | 40名 |
| | | | | | | b済 | 非 | 豊島　桂子 | | | | |
| | | | | | | c済 | | 梶原　英二 | | | | |
| | | | | | | d済 | | 森谷　浩士 | | | | |
| | | | | | | e済 | | 藤山　和久 | | | | |
| | | | | | | a営 | 非 | 寺重　理英子 | | | | |
| | | | | | | b営 | 非 | 河内　紀彦 | | | | |
| | | | | | | c営 | 非 | 古田　ユミ | | | | |
| | | | | | | d営 | | 森谷　浩士 | | | | |
| | | | | | | e営 | 非 | 寺重　理英子 | | | | |
| | | | | | | aビメス | | 田辺　洋子 | | | | |
| | | | | | | bビメス | 非 | 西本　純子 | | | | |
| | | | | | | cビメス | | 田辺　洋子 | | | | |
| | 英語理解・発展Ⅰ | リーディング＆リスニング | 前 | 1 | ○ | a | | 迫田　奈美子 | 2 | （注1）<br>・英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語A Ⅰ」、「必修英語A Ⅱ」、「必修英語B Ⅰ」、「必修英語B Ⅱ」、「必修英語C Ⅰ」、「必修英語C Ⅱ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ」及び「発展英会話Ⅱ」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 選考 | 40名 |
| | | | | | | b | | 森　瑞樹 | | | | |
| | 英語理解・発展Ⅱ | リーディング＆リスニング | 後 | 1 | ○ | a | | 迫田　奈美子 | 2 | （注1）<br>・英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語A Ⅰ」、「必修英語A Ⅱ」、「必修英語B Ⅰ」、「必修英語B Ⅱ」、「必修英語C Ⅰ」、「必修英語C Ⅱ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ」及び「発展英会話Ⅱ」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 選考 | 40名 |
| | | | | | | b | | 森　瑞樹 | | | | |
| | 英語表現・基礎徹底Ⅰ | スピーキング＆ライティング | 前 | 1 | ○ | a済 | | M. J. タンコシッチ | 2 | （注1）<br>・英語表現・標準Ⅰ、英語表現・標準Ⅱ、英語表現・発展Ⅰ又は英語表現・発展Ⅱの修得者は履修不可 | 選考 | 20名 |
| | | | | | | b済 | 非 | 吉村　千里 | | | | |
| | | | | | | a営 | | 迫田　奈美子 | | | | |
| | | | | | | b営 | | R. フォレスト | | | | |
| | | | | | | aビメス | 非 | 岩國　智子 | | | | |
| | 英語表現・基礎徹底Ⅱ | スピーキング＆ライティング | 後 | 1 | ○ | a済 | | M. J. タンコシッチ | 2 | （注1）<br>・英語表現・標準Ⅰ、英語表現・標準Ⅱ、英語表現・発展Ⅰ又は英語表現・発展Ⅱの修得者は履修不可 | 選考 | 20名 |
| | | | | | | b済 | 非 | 吉村　千里 | | | | |
| | | | | | | a営 | | 迫田　奈美子 | | | | |
| | | | | | | b営 | | R. フォレスト | | | | |
| | | | | | | aビメス | 非 | 岩國　智子 | | | | |
| | 英語表現・標準Ⅰ | スピーキング＆ライティング | 前 | 1 | ○ | a済 | 非 | 黒住　奏 | 2 | （注1）<br>・英語表現・発展Ⅰ又は英語表現・発展Ⅱの修得者は履修不可 | 選考 | 20名 |
| | | | | | | b済 | 非 | 柳原　里枝子 | | | | |
| | | | | | | c済 | | R. フォレスト | | | | |
| | | | | | | d済 | 非 | 黒住　奏 | | | | |
| | | | | | | a営 | 非 | 山本　健太 | | | | |
| | | | | | | b営 | | 合田　優子 | | | | |
| | | | | | | c営 | | 合田　優子 | | | | |
| | | | | | | d営 | 非 | 山本　健太 | | | | |
| | | | | | | aビメス | 非 | J. シューバ | | | | |
| | | | | | | bビメス | | R. フォレスト | | | | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | 英語表現・標準Ⅱ | スピーキング＆ライティング | 後 | 1 | ○ | a 済 | 非 | 黒住　奏 | 2 | （注1）<br>・英語表現・発展Ⅰ又は英語表現・発展Ⅱの修得者は履修不可 | 選考 | 20名 |
| | | | | | | b 済 | 非 | 柳原　里枝子 | | | | |
| | | | | | | c 済 | | R. フォレスト | | | | |
| | | | | | | d 済 | 非 | 黒住　奏 | | | | |
| | | | | | | a 営 | 非 | 山本　健太 | | | | |
| | | | | | | b 営 | | 合田　優子 | | | | |
| | | | | | | c 営 | | 合田　優子 | | | | |
| | | | | | | d 営 | 非 | 山本　健太 | | | | |
| | | | | | | a ビメス | 非 | J. シューバ | | | | |
| | | | | | | b ビメス | | R. フォレスト | | | | |
| | 英語表現・発展Ⅰ | スピーキング＆ライティング | 前 | 1 | ○ | a | | J. A. S. ワイルド | 2 | （注1） | 選考 | 20名 |
| | | | | | | b | | J. A. S. ワイルド | | | | |
| | 英語表現・発展Ⅱ | スピーキング＆ライティング | 後 | 1 | ○ | a | | J. A. S. ワイルド | 2 | （注1） | 選考 | 20名 |
| | | | | | | b | | J. A. S. ワイルド | | | | |
| | 海外研修英語Ⅰ | 留学･海外インターンシップ・海外プロジェクトに必要な事前学習Ⅰ | 前 | 1 | | | | J. A. S. ワイルド | 1 | ・留学英語Ａの修得者は履修不可 | 抽選 | 20名 |
| | 海外研修英語Ⅱ | 留学･海外インターンシップ・海外プロジェクトに必要な事前学習Ⅱ | 後 | 1 | | | | J. A. S. ワイルド | 1 | ・留学英語Ｂの修得者は履修不可 | 抽選 | 20名 |
| | ビジネス英語Ⅰ | ビジネス現場で役立つ英語Ⅰ | 前 | 1 | | | | J. A. S. ワイルド | 1 | ・ビジネス英会話Ⅰの修得者は履修不可 | 抽選 | 20名 |
| | ビジネス英語Ⅱ | ビジネス現場で役立つ英語Ⅱ | 後 | 1 | | | | J. A. S. ワイルド | 1 | ・ビジネス英会話Ⅱの修得者は履修不可 | 抽選 | 20名 |
| | 基礎英会話Ⅰ | 基本的な英語でのコミュニケーションⅠ | 前 | 1 | | a | 非 | D. ウイリアムズ | 1 | | 抽選 | 20名 |
| | | | | | | b | 非 | D. ウイリアムズ | | | | |
| | 基礎英会話Ⅱ | 基本的な英語でのコミュニケーションⅡ | 後 | 1 | | a | 非 | D. ウイリアムズ | 1 | | 抽選 | 20名 |
| | | | | | | b | 非 | D. ウイリアムズ | | | | |
| | 発展英会話Ⅰ | ステップアップ英会話Ⅰ | 前 | 1 | | | | M. J. タンコシッチ | 1 | ・英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語ＡⅠ」、「必修英語ＡⅡ」、「必修英語ＢⅠ」、「必修英語ＢⅡ」、「必修英語ＣⅠ」、「必修英語ＣⅡ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ」及び「発展英会話Ⅱ」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 抽選 | 20名 |
| | 発展英会話Ⅱ | ステップアップ英会話Ⅱ | 後 | 1 | | | | M. J. タンコシッチ | 1 | ・2015（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語ＡⅠ」、「必修英語ＡⅡ」、「必修英語ＢⅠ」、「必修英語ＢⅡ」、「必修英語ＣⅠ」、「必修英語ＣⅡ」、「英語理解･発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ」及び「発展英会話Ⅱ」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 抽選 | 20名 |
| | 資格英語Ⅰ | TOEIC に挑戦Ⅰ | 前 | 1 | | a | | 森　瑞樹 | 1 | | 抽選 | 40名 |
| | | | | | | b | 非 | 古田　ユミ | | | | |
| | | | | | | c | 非 | 橋本　朝子 | | | | |
| | 資格英語Ⅱ | TOEIC に挑戦Ⅱ | 後 | 1 | | a | | 森　瑞樹 | 1 | | 抽選 | 40名 |
| | | | | | | b | 非 | 古田　ユミ | | | | |
| | | | | | | c | 非 | 橋本　朝子 | | | | |
| | 資格英語Ⅲ | スコアアップ TOEIC Ⅰ | 前 | 1 | | a | | 合田　優子 | 1 | ・2015年（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル1の資格振替により、「必修英語ＡⅠ」、「必修英語Ａ Ⅱ」、「必修英語Ｂ Ⅰ」、「必修英語Ｂ Ⅱ」、「必修英語Ｃ Ⅰ」、「必修英語Ｃ Ⅱ」の６単位を修得した者は、「資格英語Ⅲ」及び「資格英語Ⅳ」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 抽選 | 30名 |
| | | | | | | b | | 合田　優子 | | | | |
| | 資格英語Ⅳ | スコアアップ TOEIC Ⅱ | 後 | 1 | | a | | 合田　優子 | 1 | ・英語資格振替単位基準におけるレベル1の資格振替により、「必修英語Ａ Ⅰ」、「必修英語Ａ Ⅱ」、「必修英語Ｂ Ⅰ」、「必修英語Ｂ Ⅱ」、「必修英語Ｃ Ⅰ」、「必修英語Ｃ Ⅱ」の６単位を修得した者は、「資格英語Ⅲ」及び「資格英語Ⅳ」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 抽選 | 30名 |
| | | | | | | b | | 合田　優子 | | | | |
| | Academic Writing in English | 英語論文の書き方 | 特設（サマー） | 1 | | | | 山本　貴裕 | 2 | ・TOEIC400点以上の者又はそれと同等の英語力があると担当教員が認めた者 | | |
| | フランス語Ⅰ | はじめてのフランス語Ⅰ | 前 | 1 | | | 非 | 三木　島彦 | 1 | | 抽選 | 20名 |
| | フランス語Ⅱ | はじめてのフランス語Ⅱ | 後 | 1 | | | 非 | 三木　島彦 | 1 | ・フランス語Ⅰを履修又は修得者のみ履修可 | 抽選 | 20名 |
| | ドイツ語Ⅰ | はじめてのドイツ語Ⅰ | 前 | 1 | | | | 竹林　栄治 | 1 | | 抽選 | 20名 |
| | ドイツ語Ⅱ | はじめてのドイツ語Ⅱ | 後 | 1 | | | | 竹林　栄治 | 1 | ・ドイツ語Ⅰを履修又は修得者のみ履修可 | 抽選 | 20名 |
| | スペイン語Ⅰ | はじめてのスペイン語Ⅰ | 前 | 1 | | | 非 | 青木　利夫 | 1 | | 抽選 | 20名 |
| | スペイン語Ⅱ | はじめてのスペイン語Ⅱ | 後 | 1 | | | 非 | 青木　利夫 | 1 | ・スペイン語Ⅰを履修又は修得者のみ履修可 | 抽選 | 20名 |
| | 中国語Ⅰ | はじめての中国語Ⅰ | 前 | 1 | | | 非 | 羅　穎 | 1 | | 抽選 | 20名 |
| | 中国語Ⅱ | はじめての中国語Ⅱ | 後 | 1 | | | 非 | 羅　穎 | 1 | ・中国語Ⅰを履修又は修得者のみ履修可 | 抽選 | 20名 |
| | 韓国語Ⅰ | はじめての韓国語Ⅰ | 前 | 1 | | | 非 | 李　政樹 | 1 | | 抽選 | 20名 |
| | 韓国語Ⅱ | はじめての韓国語Ⅱ | 後 | 1 | | | 非 | 李　政樹 | 1 | ・韓国語Ⅰを履修又は修得者のみ履修可 | 抽選 | 20名 |
| | インドネシア語Ⅰ | はじめてのインドネシア語Ⅰ | 前 | 1 | | | | 平本　賢了 | 1 | | 抽選 | 20名 |
| | インドネシア語Ⅱ | はじめてのインドネシア語Ⅱ | 後 | 1 | | | | 平本　賢了 | 1 | ・インドネシア語Ⅰを履修又は修得者のみ履修可 | 抽選 | 20名 |

**（注1）外国語科目の選択必修科目（選択必修科目）**

●①～⑥のいずれかにおいて、２単位を修得しなければならない。ただし、同一年度における履修登録はいずれかのみとし、２以上履修することはできない。

①英語理解・基礎徹底Ⅰ（１単位）及び英語理解・基礎徹底Ⅱ（１単位）の合計２単位
②英語理解・標準Ⅰ（１単位）及び英語理解・標準Ⅱ（１単位）の合計２単位
③英語理解・発展Ⅰ（１単位）及び英語理解・発展Ⅱ（１単位）の合計２単位
④英語表現・基礎徹底Ⅰ（１単位）及び英語表現・基礎徹底Ⅱ（１単位）の合計２単位
⑤英語表現・標準Ⅰ（１単位）及び英語表現・標準Ⅱ（１単位）の合計２単位
⑥英語表現・発展Ⅰ（１単位）及び英語表現・発展Ⅱ（１単位）の合計２単位

●２単位を超えて修得した単位数は、共通科目の選択科目の修得単位数として計算する。

【日本語文章表現科目】

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本語文章表現科目 | 日本語文章表現 | 日本語の基礎・基本を身につけよう | 前 | 2 | ◎ | a済 | 非 | 坂本　はるえ | 1 | ・新入生は学生番号で指定されたクラスで履修すること。<br>・a済～ bスのクラスは新入生のみ履修可。<br>・2013(平成25)年度以降の入学生は必修科目。<br>・日本語文章表現の授業でC評価以上を修め、公益財団法人日本漢字能力検定協会が実施する「文章読解･作成能力検定」（以下「文章検」という。）3級（2020年度以降入学生は3級以上）の合格又は「文章読解・作成能力テスト」（以下「文作テスト」という。）3級（2020年度以降入学生は3級以上）の合格相当の評価をもって単位を認定する。<br>・日本語文章表現の授業でC評価以上を修めなかった者については、再履修クラス（再a ～再ｄ）のいずれかを履修すること。<br>･日本語文章表現の授業でC評価以上を修めたが、「文章検」または「文作テスト」に合格しなかった場合は、日本語文章表現を再履修することは必要としない。<br>・3年次が終了するまでに文章検3級（2020年度以降入学生は3級以上）又は文作テスト3級（2020年度以降入学生は3級以上）の合格相当を取得していない者については、4年次における文章検演習の単位修得をもって文章検3級に合格したものとみなす。ただし、文章検演習で単位を修得した者の成績評価は「CA」とし、卒業認定の要件として必要な単位数には含まない。なお、文章検演習を受講できる者は、文章検と文作テストを合わせて3回以上受検したものとする。<br>・本学に入学する前に文章検3級以上又は文作テスト3級以上の合格相当を取得している者については、日本語文章表現の授業でC評価以上を修め、文章検準2級以上の受検をもって単位を認定する。<br>・外国人留学生（交換留学生を除く。）については、文章検又は文作テストに代えて本学独自の試験を実施する。 | | |
| | | | | | | a済 | 非 | 重野　裕美 | | | | |
| | | | | | | b済 | 非 | 後藤田　和 | | | | |
| | | | | | | c済 | 非 | 樫本　由貴 | | | | |
| | | | | | | d済 | 非 | 家村　伸子 | | | | |
| | | | | | | e済 | 非 | 中元　さおり | | | | |
| | | | | | | f済 | 非 | 藤山　益美 | | | | |
| | | | | | | g済 | 非 | 渡橋　恭子 | | | | |
| | | | | | | h済 | 非 | 谷川　充美 | | | | |
| | | | | | | i済 | 非 | 坂水　貴司 | | | | |
| | | | | | | a営 | | 谷川　充美 | | | | |
| | | | | | | b営 | 非 | 田中　美帆 | | | | |
| | | | | | | c営 | 非 | 家村　伸子 | | | | |
| | | | | | | d営 | 非 | 久保　博雅 | | | | |
| | | | | | | e営 | 非 | 明尾　香澄 | | | | |
| | | | | | | f営 | 非 | 木本　一成 | | | | |
| | | | | | | g営 | | 渡橋　恭子 | | | | |
| | | | | | | h営 | 非 | 岡本　恵子 | | | | |
| | | | | | | i営 | | 家村　伸子 | | | | |
| | | | | | | aビ | 非 | 藤山　益美 | | | | |
| | | | | | | bビ | 非 | 阿部　翔太 | | | | |
| | | | | | | cビ | 非 | 矢吹　文乃 | | | | |
| | | | | | | aメ | 非 | 坂本　はるえ | | | | |
| | | | | | | bメ | 非 | 田中　美帆 | | | | |
| | | | | | | aス | 非 | 久保　博雅 | | | | |
| | | | | | | bス | 非 | （未開講） | | | | |
| | | | | | | 再a | | 坂水　貴司 | | | | |
| | | | | | | 再b | | 中元　さおり | | | | |
| | | | 後 | | | 再c | 非 | 藤山　益美 | | | 抽選 | 45名 |
| | | | | | | 再d | 非 | | | | | |
| | 文章検演習 | 文章作成の基礎を学ぶ | 前 | 2 | | a | 非 | 重野　裕美 | 4 | ・４年次生で，「文章読解･作成能力検定」3級と「文章読解･作成能力テスト」３級をあわせて３回以上受検している者のみ履修可<br>・卒業要件外科目で評価は「ＣＡ」 | | |
| | | | 後 | | | b | | 木本　一成 | | | | |
| | ビジネス日本語演習 | 文章力養成徹底講座・社会人入門 | 前 | 2 | | a | 非 | 重野　裕美 | 1 | 「日本語文章表現」又は「文章表現演習・基礎」の単位修得者で「日本語文章表現」の一次評価がC評価以上の者のみ履修可 | 抽選 | 45名 |
| | | | | | | b | | 岡本　恵子 | | | | |
| | | | 後 | | | c | | 岡本　恵子 | | | | |
| | | | | | | d | | 岡本　恵子 | | | | |
| | | | | | | e | | 坂水　貴司 | | | | |
| | | | | | | f | | 坂水　貴司 | | | | |
| | 日本語演習・標準 | レポートの読み方・書き方を学ぶ | 前 | 2 | | a | | 木本　一成 | 1 | 「日本語文章表現」の単位修得者又は一次評価がC評価以上の者のみ履修可 | 抽選 | 40名 |
| | | | 後 | | | b | | 木本　一成 | | | | |
| | 文章表現演習・標準 | 社会で通用する文章力養成講座 | 前 | 2 | | a | 非 | 中元　さおり | 1 | 「日本語文章表現」若しくは「文章表現演習・基礎」単位修得者又は、「日本語文章能力検定」３級若しくは「文章読解･作成能力検定」3級取得者あるいは、2013年度以降の入学生で「日本語文章表現」の一次評価がC評価以上の者のみ履修可 | 抽選 | 40名 |
| | | | | | | b | 非 | 重野　裕美 | | | | |
| | | | 後 | | | c | | 坂水　貴司 | | | | |
| | | | | | | d | | （未開講） | | | | |
| | | | | | | e | 非 | 中元　さおり | | | | |
| | 日本語演習・発展 | 論文の書き方を学ぶ | 前 | 2 | | | | 木本　一成 | 2 | 「日本語演習・標準」の単位修得者のみ履修可 | 抽選 | 40名 |
| | 文章表現演習・発展 | 社会で活躍できる文章力養成講座 | 前 | 2 | | a | | 岡本　恵子 | 2 | 「文章表現演習・標準」単位修得者又は「日本語文章能力検定」準２級若しくは「文章読解・作成能力検定」準２級取得者のみ履修可 | 抽選 | 30名 |
| | | | 後 | | | b | | 岡本　恵子 | | | | |

## 【自己理解系科目】

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 自己理解系科目 | 日本の歴史Ⅰ | 古代・中世の日本 | 前 | 2 | ○ | a<br>b | | 平下　義記 | 1 | ・「自己理解系科目」の中から６単位以上修得すること | | |
| | 日本の歴史Ⅱ | 近世～近代前期の日本 | 前 | 2 | ○ | a<br>b | | 濱田　敏彦 | 1 | | | |
| | 日本の歴史Ⅲ | 近代中後期～現代の日本 | 後 | 2 | ○ | a<br>b | 非 | 棚橋　久美子 | 1 | | | |
| | 広島の歴史と文化 | 広島の歴史・文化遺産 | 後 | 2 | ○ | | | 田中　泉<br>濱田　敏彦 | 1 | | | |
| | 日本の思想と文化 | 日本人的ものの見方、考え方 | 前 | 2 | ○ | | | 岡本　貞雄 | 1 | | | |
| | 日本の宗教 | 神社神道、仏教（各宗派） | 後 | 2 | ○ | | | 岡本　貞雄 | 1 | | | |
| | 日本の地理 | 各地域の地誌 | 前<br>後 | 2 | ○ | a<br>b | 非 | 竹本　伸 | 1 | | | |
| | 日本の法律 | 市民生活と法 | 後 | 2 | ○ | | | 宮畑　加奈子 | 1 | | | |
| | 日本の政治 | 戦後の政治史 | 前<br>後 | 2 | ○ | a<br>b | 非 | 河野　弥生 | 1 | | | |
| | 日本国憲法Ⅰ | 基本的人権 | 前 | 2 | ○ | | | G. R. ハラダ | 1 | | | |
| | 日本国憲法Ⅱ | 統治機構 | 後 | 2 | ○ | | | G. R. ハラダ | 1 | | | |
| | 日本外交史 | 近現代における日本外交の歴史 | 前 | 2 | ○ | | | 寺本　康俊 | 1 | | | |

## 【他者理解系科目】

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 他者理解系科目 | 世界の歴史Ⅰ | グローバル・ヒストリー（古代～近世） | 前 | 2 | ○ | | | 田中　泉 | 1 | ・「他者理解系科目」の中から６単位以上修得すること | | |
| | 世界の歴史Ⅱ | グローバル・ヒストリー（近代～現代） | 後 | 2 | ○ | | | 田中　泉 | 1 | | | |
| | 世界の思想と現代社会Ⅰ | アメリカの現代社会の形成過程 | 前<br>後 | 2 | ○ | a<br>b | | 山本　貴裕 | 1 | | | |
| | 世界の思想と現代社会Ⅱ | ロシアの歴史と現在 | 前 | 2 | ○ | a<br>b | 非 | 斎藤　祥平 | 1 | | | |
| | 世界の思想と現代社会Ⅲ | 東アジア、儒教、革命の思想 | 特設（サマー） | 2 | ○ | | 非 | 土居　智典 | 1 | | | |
| | 世界の宗教 | 四大宗教の基礎知識 | 前 | 2 | ○ | | | 田中　泉<br>澤　滋久 | 1 | | | |
| | 世界の地理Ⅰ | アジア・アフリカの地誌 | 後 | 2 | ○ | a<br>b | 非 | 竹本　伸 | 1 | | | |
| | 世界の地理Ⅱ | ヨーロッパ・アメリカの地誌 | 前 | 2 | ○ | a<br>b | 非 | 竹本　伸 | 1 | | | |
| | 世界の憲法 | 各国の憲法の内容と国家のしくみ | 後 | 2 | ○ | | 非 | 岡田　高嘉 | 1 | | | |
| | 国際関係史 | 近現代における国際政治の歴史 | 後 | 2 | ○ | | | 寺本　康俊 | 1 | | | |

## 【基礎教養科目】

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎教養科目 | 社会心理学 | 人間関係のあり方 | 後 | 2 | | | | 神田　義浩 | 1 | | | |
| | 生命倫理 | 現代における新たな生のあり方 | 前 | 2 | | | 非 | 田中　健 | 1 | | | |
| | 日本文学Ａ | 近代文学 | 前 | 2 | | | | 岡本　恵子 | 1 | | | |
| | 日本文学Ｂ | 古典文学 | 後 | 2 | | | | 長谷川　泰志 | 1 | | | |
| | 外国文学Ａ | 英米文学 | 後 | 2 | | | | 森　瑞樹<br>藤山　和久<br>本岡　亜沙子 | 1 | | | |
| | 現代社会と人権 | 人権問題の現状と課題 | 後 | 2 | | | | G. R. ハラダ | 1 | | | |
| | 環境法 | 環境権と環境法、環境アセスメント | 前 | 2 | | | 非 | 野本　敏生 | 1 | | | |
| | テクノロジーと社会・経済 | 現代の社会・経済とテクノロジーの関係について考える | 前 | 2 | | | | 山本　雅昭 | 1 | | | |
| | 情報とネットワーク社会 | 情報と現代社会について考える | 後 | 2 | | | | 山本　雅昭 | 1 | | | |
| | 数学Ａ | 数学入門 | 前 | 2 | | | | 平岡　賢治 | 1 | | 抽選 | 100名 |
| | 数学Ｂ | 微分積分基礎 | 後 | 2 | | | | 平岡　賢治 | 1 | | 抽選 | 100名 |
| | 数学Ｃ | 統計基礎 | 前 | 2 | | | | 平岡　賢治 | 2 | | 抽選 | 100名 |
| | 自然科学Ａ | 物理学 | 前 | 2 | | | | 高石　哲弥 | 1 | | | |
| | 自然科学Ｂ | 天文学、地球科学 | 後 | 2 | | | | 高石　哲弥 | 1 | | | |
| | 自然科学Ｃ | エコロジー論 | 特設（サマー） | 2 | | | 非 | 原田　浩幸 | 1 | | | |
| | スポーツ科学 | スポーツ科学への誘い | 後 | 2 | | | | 柳川　和優 | 1 | | | |
| | 健康科学 | 基礎から学ぶ健康づくり | 後 | 2 | | | 非 | 野瀬　由佳 | 1 | | | |
| | メンタルヘルス論 | 心のカゼと対処法 | 後 | 2 | | | | 上手　幸治 | 1 | | | |
| | スポーツ実習 | スポーツの楽しさと健康づくり | 前 | 1 | | a | | 柳川　和優 | 1 | バスケットボール | 抽選 | 各クラス毎の定員有 |
| | | | | | | b | | 渡辺　泰弘 | | フットサル | | |
| | | | | | | c | | 松本　耕二 | | フライングディスク | | |
| | | | 後 | | | d | | 渡辺　泰弘 | | フットサル | | |
| | | | | | | e | | 柳川　和優 | | バスケットボール | | |

【情報処理科目】

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 情報処理科目 | 情報処理入門Ⅰ | 経済学部で学ぶためのPC入門（WordとPowerPointを使った学習の基礎） | 前 | 2 | | a | 派 | 落谷　淑江 | 1 | | | ビ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | | | | b | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | c | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | d | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | e | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | f | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | g | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | h | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | i | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | j | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | k | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | l | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | m | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | n | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | 後 | | | o | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | p | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | 情報処理入門Ⅱ | 経済学部で学ぶためのPC入門（Excelを使った学習の基礎） | 前 | 2 | | a | 派 | 落谷　淑江 | 1 | | | ビ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | | | | b | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | 後 | | | c | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | d | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | e | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | f | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | g | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | h | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | i | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | j | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | k | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | l | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | m | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | n | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | o | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | p | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | q | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | 情報処理の基礎Ⅰ | プレゼンテーション応用（Wordを使った学習の応用） | 前 | 2 | | a | 派 | 中谷　文代 | 1 | | | ビ・メ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | | | | b | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | c | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | d | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | e | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | f | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | 後 | | | g | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | h | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | i | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | j | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | 情報処理の基礎Ⅱ | データベースの基礎（Excelを使った学習の応用） | 前 | 2 | | a | 派 | 中谷　文代 | 1 | | | ビ・メ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | | | | b | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | c | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | d | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | e | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | f | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | 後 | | | g | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | h | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | i | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | j | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | k | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | l | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | 情報処理の基礎Ⅲ | プレゼンテーション応用（PowerPointを使った学習の応用） | 前 | 2 | | a | 派 | 吉田　舞 | 1 | | | ビ・メ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | 後 | | | b | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | 情報処理の基礎Ⅳ | データベースの基礎（Accessを使った学習の応用） | 前 | 2 | | a | 派 | 中谷　文代 | 1 | | | ビ・メ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | 後 | | | b | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | 情報処理の基礎Ⅴ | 画像操作の基礎（Photoshopを使った学習の応用） | 前 | 2 | | a | | 山本　雅昭 | 1 | | | ビ・メ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | 後 | 2 | | b | | 山本　雅昭 | | | | | | |

## 2 学科科目

### (1) 経済学部　経済学科

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入門科目 | 経済入門 | くらしと経済 | 前 | 2 | ◎ | a | | 福居　信幸 | 1 | ・新入生は、学籍番号順で指定されたクラスで履修すること | 不可 | | |
| | | | | | | b | | 藤谷　則夫 | | | | | |
| | | | | | | c | | 一橋　信之 | | | | | |
| | 経営入門 | ビジネスの世界で働く | 後 | 2 | ◎ | f | | 松川　佳洋 | 1 | ・新入生は、学籍番号順で指定されたクラスで履修すること | 不可 | | |
| | | | | | | g | | 瀬戸　正則 | | | | | |
| | ファイナンス入門 | お金に関する基本的な知識を身につける | 前 | 2 | ◎ | a | | 重本　洋一 | 1 | ・新入生は、学籍番号順で指定されたクラスで履修し、単位未修得者は次年度以降に開講されるクラスを履修すること<br>・経済学科の学生で「ファイナンス入門」の単位未修得者は、a～cのいずれかを選択し、履修すること<br>・他学科の学生で「ファイナンス入門」の履修希望者は、a～cのいずれかを選択し、履修すること。 | | | |
| | | | | | | b | | 得津　康義 | | | | | |
| | | | 後 | | | c | | 重本　洋一 | | | | | |
| 基礎科目 | ミクロ経済学基礎Ⅰ | 家計・企業の行動と市場のはたらきについて考える | 前 | 2 | ◎ | a | | 松榮　豊貴 | 2 | ・経済学科の２年次生は、学籍番号で指定されたクラス（a～d）で履修すること。<br>・経済学科の学生で「ミクロ経済学基礎Ⅰ」の単位未修得者は、a～eのいずれかを選択し履修すること。<br>・他学科の学生で履修を希望する者は、eクラスを履修すること。 | 不可 | | |
| | | | | | | b | | 松榮　豊貴 | | | | | |
| | | | | | | c | | 堀江　真由美 | | | | | |
| | | | | | | d | | 堀江　真由美 | | | | | |
| | | | 後 | | | e | | 堀江　真由美 | | | | | |
| | ミクロ経済学基礎Ⅱ | 市場における価格と数量の決定 | 後 | 2 | | | | 新垣　繁秀 | 2 | | | | |
| | マクロ経済学基礎Ⅰ | 経済のしくみを鳥の目で見る | 前 | 2 | ◎ | a | | 山根　智沙子 | 2 | ・経済学科の２年次生は、学籍番号で指定されたクラス（a～d）で履修すること。<br>・経済学科の学生で「マクロ経済学基礎Ⅰ」の単位未修得者は、a～eのいずれかを選択し履修すること。<br>・他学科の学生で履修を希望する者は、eクラスを履修すること。 | 不可 | | |
| | | | | | | b | | 山根　智沙子 | | | | | |
| | | | | | | c | | 新垣　繁秀 | | | | | |
| | | | | | | d | | 新垣　繁秀 | | | | | |
| | | | 後 | | | e | | 山根　智沙子 | | | | | |
| | マクロ経済学基礎Ⅱ | IS-LM 曲線を用いてマクロ経済をとらえる | 後 | 2 | | | | 松榮　豊貴 | 2 | | | | |
| | 国際経済基礎Ⅰ | グローバル経済のあゆみと展望 | 前 | 2 | | | | 小笠原　礼以<br>平本　賢了<br>楊　義申<br>福居　信幸 | 2 | | | | |
| | 国際経済基礎Ⅱ | 貿易と国際収支の基礎を学ぶ | 後 | 2 | | | | 野北　晴子 | 2 | | | | |
| | 経済の基礎数学Ⅰ | 経済を学ぶための数学 | 前 | 2 | | | | 平岡　賢治 | 2 | | | | |
| | 経済の基礎数学Ⅱ | 経済を学ぶための数学 | 後 | 2 | | | | 平岡　賢治 | 2 | | | | |
| | 経済学史 | アダム・スミスからケインズまで | 前 | 2 | | | 非 | 林　直樹 | 2 | | | | |
| | 経済史基礎Ⅰ | 近代以前の経済の歴史 | 前 | 2 | | | | 竹林　栄治 | 2 | | | | |
| | 経済史基礎Ⅱ | 近代以後の経済の歴史 | 後 | 2 | | | | 竹林　栄治 | 2 | | | | |
| | 経済政策論基礎 | 市場経済と政府の役割 | 後 | 2 | | | | 石田　優子 | 2 | | | | |
| | 社会政策論基礎 | 安心して暮らせる社会と政策 | 後 | 2 | | | | 森山　玲子 | 2 | | | | |
| | 財政学Ⅰ | 財政と私たちのくらし | 前 | 2 | | | | 中嶋　則夫 | 2 | | | | |
| | 財政学Ⅱ | 税金と日々のくらし | 後 | 2 | | | | 一橋　信之 | 2 | | | | |
| | 金融論Ⅰ | 金融のしくみと基礎知識 | 前 | 2 | | | | 福居　信幸 | 2 | | | | |
| | 金融論Ⅱ | 金融と日本経済 | 後 | 2 | | | | 福居　信幸 | 2 | | | | |
| | 基礎経済統計 | 経済で学ぶ、数々の統計について知ろう | 前 | 2 | | a | 非 | 原　康宏 | 2 | | | | |
| | | | | | | b | | | | | | | |
| | 基礎経済統計演習 | ＰＣを使って経済統計を利用してみよう | 後 | 2 | | | 非 | 原　康宏 | 2 | | | 抽選 | 100名 |
| | 現代日本経済事情Ⅰ | 国内編 | 前 | 2 | | | | 宜名眞　勇 | 2 | | | | |
| | 現代日本経済事情Ⅱ | 国際関係編 | 後 | 2 | | | | 宜名眞　勇 | 2 | | | | |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発展・応用科目 | 総合経済学 | ミクロ経済学 | 市場機構の限界と不確実性 | 前 | 2 | | | | 堀江　真由美 | 3 | | | | |
| | | マクロ経済学 | IS-LM 曲線を用いてマクロ経済政策の効果を考える | 前 | 2 | | | | 宜名眞　勇 | 3 | | | | |
| | | 景気循環論 | 戦後日本の景気循環 | 後 | 2 | | | | 山根　智沙子 | 3 | | | | |
| | | 日本経済史Ⅰ | 近世近代日本の経済発展 | 前 | 2 | | | | 平下　義記 | 3 | | | | |
| | | 日本経済史Ⅱ | 近現代日本の経済発展 | 後 | 2 | | | | 平下　義記 | 3 | | | | |
| | | 西洋経済史Ⅰ | 前工業化時代のヨーロッパの社会と経済 | 前 | 2 | | | | 末広　菜穂子 | 3 | | | | |
| | | 西洋経済史Ⅱ | 工業化時代のヨーロッパの社会と経済 | 後 | 2 | | | | 末広　菜穂子 | 3 | | | | |
| | | 生活経済史 | 人間生活の歴史を振り返る | 前 | 2 | | | | 末広　菜穂子 | 2 | | | | |
| | 国際経済 | 国際貿易論 | 貿易の理論と政策 | 前 | 2 | | | | 野北　晴子 | 3 | | | | |
| | | 国際金融論 | 国際金融の理論と政策 | 後 | 2 | | | | 小笠原　礼以 | 3 | | | | |
| | | 開発経済 | アジア太平洋地域の開発 | 後 | 2 | | | | 平本　賢了 | 3 | | | | |
| | | 国際通貨制度 | 国際決済の仕組み | 前 | 2 | | | | 小笠原　礼以 | 3 | | | | |
| | | アメリカ経済 | 経済理論で学ぶアメリカ経済事情 | 後 | 2 | | | | 福居　信幸 | 2 | | | | |
| | | 中国経済 | 世界経済に影響を与える中国経済の発展 | 前 | 2 | | | | 楊　義申 | 2 | | | | |
| | | アセアン経済 | アセアン諸国の経済発展要因と展望 | 前 | 2 | | | | 平本　賢了 | 2 | | | | |
| | | EU 経済 | 欧州統合の理念とユーロの動向について | 後 | 2 | | | | 糠谷　英輝 | 2 | | | | |
| | 政策科学 | 経済政策論 | 戦後日本の経済政策 | 前 | 2 | | | | 石田　優子 | 3 | | | | |
| | | 金融政策論 | 金融政策の経済への影響を学ぶ | 後 | 2 | | | | 西脇　廣治 | 3 | | | | |
| | | 財政政策論 | 財政政策の経済への影響を学ぶ | 後 | 2 | | | | 中嶋　則夫 | 3 | | | | |
| | | 租税論 | 日常生活と税とのかかわり | 前 | 2 | | | | 一橋　信之 | 3 | | | | |
| | | 公共経済学 | 政府と市場のかかわり | 前 | 2 | | | | 中嶋　則夫 | 3 | | | | |
| | | 実践公共経済学 | 身近な非効率を解決する | 後 | 2 | | | | 中嶋　則夫 | 3 | | | 抽選 | 30名 |
| | | 環境経済学 | 自然と共生するための経済学 | 後 | 2 | | | | 新垣　繁秀 | 3 | | | | |
| | | 産業組織論 | 企業行動と産業政策の成果を学ぶ | 後 | 2 | | | | 堀江　真由美 | 3 | | | | |
| | | 地域経済論 | 地域の経済活動を理解する | 前 | 2 | | | | 藤谷　則夫 | 3 | | | | |
| | | 実践地域経済論 | 国内外の事例を通してまちづくりを学ぶ | 後 | 2 | | | | 藤谷　則夫 | 3 | | | 抽選 | 50名 |
| | | 経済地理 | 地理学の視点から身の回りの経済現象を見る | 前 | 2 | | | 非 | 川瀬　正樹 | 2 | | | | |
| | | 労働経済学Ⅰ | 労働を取り巻く市場と制度 | 前 | 2 | | | 非 | 岡村　和明 | 3 | | | | |
| | | 労働経済学Ⅱ | 私たちのくらしと労働問題 | 後 | 2 | | | 非 | 岡村　和明 | 3 | | | 抽選 | 100名 |
| | | 社会保障論Ⅰ | 将来のくらしを支える仕組み（労働保険・社会福祉・公的扶助） | 前 | 2 | | | | 森山　玲子 | 3 | | | | |
| | | 社会保障論Ⅱ | 将来のくらしを支える仕組み（年金・医療・介護） | 後 | 2 | | | | 森山　玲子 | 3 | | | | |
| | 金融・情報 | 金融システム論 | 日本の金融システムの変遷を学ぶ | 前 | 2 | | | | 西脇　廣治 | 3 | | | | |
| | | 現代ファイナンス論 | 企業の資金の調達と運用 | 前 | 2 | | | | 重本　洋一 | 3 | | | | |
| | | 実践ファイナンス | 企業の内容を読み取る | 後 | 2 | | | | 重本　洋一 | 3 | | | 抽選 | 45名 |
| | | 実践資産運用 | お金との上手な付き合い方 | 後 | 2 | | | | 藤谷　則夫 | 3 | | | 抽選 | 50名 |
| | | グローバル金融市場論 | 国際的な資金の流れを理解する | 前 | 2 | | | | 福居　信幸 | 3 | | | | |
| | | 統計学 | 記述統計・確率・推測統計について学ぼう | 前 | 2 | | | | 得津　康義 | 3 | | | | |
| | | 計量経済学Ⅰ | エクセルによるデータ処理入門 | 前 | 2 | | | | 得津　康義 | 3 | | | 抽選 | 100名 |
| | | 計量経済学Ⅱ | 経済時系列分析入門 | 後 | 2 | | | | 得津　康義 | 3 | | | 抽選 | 100名 |
| | | 統計学演習 | ＰＣを使って統計学の応用力を身につけよう | 後 | 2 | | | | 得津　康義 | 3 | | | 抽選 | 100名 |
| 専門外国語特別演習 | | Basic Principles of Economics | Selected Topics in Japanese Economy | 後 | 2 | | | | 福居　信幸<br>中嶋　則夫<br>堀江　真由美 | 1 | | | | |
| | | Japanese Economy | | 前 | 2 | | a | | 宜名眞　勇 | 2 | | | | |
| | | | | 後 | | | b | | | | | | | |
| | | Japanese Financial System | Japan's Bubble, Deflation, and Long-term Stagnation | 後 | 2 | | | | 福居　信幸 | 3 | | | | |
| 地域特別講義 | | 広島地域ものづくり事情 | | 前 | 2 | | | | 野北　晴子<br>松榮　豊貴<br>岡本　康昭 | 2 | | | 選考 | 120名 |
| | | 中・四国地域経済・金融事情 | | 前 | 2 | | | | 重本　洋一<br>楊　義申<br>平下　義記 | 3 | | | 抽選 | 120名 |
| | | 中・四国地域特別講義（流通・サービス・製造） | | 後 | 2 | | | | 一橋　信之<br>藤谷　則夫<br>松榮　豊貴 | 3 | | | 抽選 | 120名 |

【資格関連科目】

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備　考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 哲学Ⅰ | 哲学と現代Ⅰ | 前 | 2 | | | | 胤森　裕暢 | 2 | | | | |
| | 哲学Ⅱ | 哲学と現代Ⅱ | 後 | 2 | | | 非 | 田中　健 | 2 | | | | |
| | 倫理学 | 現代社会に生きるための倫理 | 後 | 2 | | | | 胤森　裕暢 | 1 | | | | |
| | 宗教学Ⅰ | 日本人と宗教 | 前 | 2 | | | | 岡本　貞雄 | 1 | | | | |
| | 宗教学Ⅱ | 宗教と教育・社会 | 後 | 2 | | | | 岡本　貞雄 | 1 | | | | |
| | 心理学 | 心のはたらき、その謎に迫る | 前 | 2 | | | | 神田　義浩 | 1 | | | | |
| | 法学Ⅰ | 私法にかかわる基本知識 | 後 | 2 | | | | 宮畑　加奈子 | 2 | | | | |
| | 法学Ⅱ | 公法にかかわる基本知識 | 前 | 2 | | | | Ｇ．Ｒ．ハラダ | 2 | | | | |
| | 民法Ⅰ | 総則、物権法 | 前 | 2 | | | | 宮畑　加奈子 | 2 | | | | |
| | 民法Ⅱ | 債権法 | 後 | 2 | | | | 宮畑　加奈子 | 2 | | | | |
| | 行政法Ⅰ | 行政基礎原理と行政過程 | 前 | 2 | | | 非 | 野本　敏生 | 2 | | | | |
| | 行政法Ⅱ | 行政組織の原理と行政争訟・国家賠償 | 後 | 2 | | | 非 | 野本　敏生 | 2 | | | | |
| | 政治学Ⅰ | 政治学の基礎を学ぶ | 前 | 2 | | | | 寺本　康俊 | 2 | | | | |
| | 政治学Ⅱ | 世界の国々の政治 | 後 | 2 | | | | 寺本　康俊 | 2 | | | | |
| | 社会学Ⅰ | 社会学の成り立ちと基本概念 | 前 | 2 | | | 非 | 河野　弥生 | 2 | | | | |
| | 社会学Ⅱ | 社会諸事象の社会学的考察 | 後 | 2 | | | 非 | 河野　弥生 | 2 | | | | |
| | 地理学Ⅰ | 身の回りの地理学 | 前 | 2 | | | 非 | 西川　京子 | 1 | | | | |
| | 地理学Ⅱ | 世界と日本とのつながり | 後 | 2 | | | 非 | 西川　京子 | 1 | | | | |
| | 地誌 | 地誌の学び方、指導のあり方 | 前 | 2 | | | | 澤　滋久 | 2 | | | | |
| | 日本史Ⅰ | 日本古代・中世・近世社会の構造と特質 | 前 | 2 | | | | 濵田　敏彦 | 1 | | | | |
| | 日本史Ⅱ | 日本近代・現代社会の構造と特質 | 後 | 2 | | | | 濵田　敏彦 | 1 | | | | |
| | 東洋史Ⅰ | 中国各王朝の支配構造の変化 | 前 | 2 | | | 非 | 金子　肇 | 1 | | | | |
| | 東洋史Ⅱ | 近現代東・東南アジアの国際関係史 | 後 | 2 | | | 非 | 金子　肇 | 1 | | | | |
| | 西洋史Ⅰ | 近代ヨーロッパ社会の構造とその形成過程 | 前 | 2 | | | 非 | 足立　孝 | 1 | | | | |
| | 西洋史Ⅱ | 近代ヨーロッパ歴史事象、その背景と展開 | 後 | 2 | | | 非 | 足立　孝 | 1 | | | | |
| | 自然地理学Ⅰ | 地形の形成プロセスと作用 | 前 | 2 | | | 非 | 楮原　京子 | 3 | | | | |
| | 自然地理学Ⅱ | 気候・植生・環境と人間生活とのかかわり、グローバルな視点から | 後 | 2 | | | | 澤　滋久 | 3 | 教職課程登録者優先 | | 抽選 | 30名 |

【資格関連科目】

●修得した単位は、自由選択科目の単位として計算する。

(2) 経営学部　経営学科

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入門科目 | 経済入門 | くらしと経済 | 後 | 2 | ◎ | e | | 平下　義記 | 1 | ・新入生は、学籍番号順で指定されたクラスで履修すること | 不可 | | |
| | | | | | | f | | 野北　晴子 | | | | | |
| | | | | | | g | | 小笠原　礼以 | | | | | |
| | 経営入門 | ビジネスの世界で働く | 前 | 2 | ◎ | a | | 瀬戸　正則 | 1 | ・新入生は、学籍番号順で指定されたクラスで履修すること | 不可 | | |
| | | | | | | b | | 堀江　浩司 | | | | | |
| | | | | | | c | | 宮辻　渉 | | | | | |
| | 簿記入門 | はじめての簿記 | 前 | 2 | ◎ | a | 非 | 藤井　稔久 | 1 | ●新入生は、学籍番号順で指定されたクラスで履修すること。<br>●他学科の学生で履修を希望する者は、a～iのいずれか1クラスを選択し、履修すること。 | | 抽選 | 50名 |
| | | | | | | b | 非 | 藤川　晴基 | | | | | |
| | | | | | | c | 非 | 河本　雅志 | | | | | |
| | | | | | | d | 非 | 河本　雅志 | | | | | |
| | | | | | | e | 非 | 藤井　稔久 | | | | | |
| | | | | | | f | | 東　幸代 | | | | | |
| | | | | | | g | | 角　裕太 | | | | | |
| | | | | | | h | 非 | 藤川　晴基 | | | | | |
| | | | | | | i | | 東　幸代 | | | | | |
| | | | 後 | | | j | 非 | 藤川　晴基 | | | 不可 | | |
| | 初級簿記Ⅰ | 日商3級の前半（簿記の意義から商品売買取引の仕訳まで） | 前 | 2 | ◎ | i | 非 | 藤井　稔久 | 1 | ●新入生は、学籍番号順で指定されたクラスで履修すること。<br>●他学科生で履修を希望する者は、a～iのいずれかのクラスを履修すること。<br>●日商簿記3級、全商簿記3級又は2級若しくは全経簿記3級又は2級の資格取得者で、「簿記入門」及び「初級簿記Ⅰ」の単位を資格振替により修得希望の者は「中級簿記」を必ず履修しなければならない。<br>●日商簿記2級以上、全商簿記1級又は全経簿記1級以上の資格取得者で、「簿記入門」及び「初級簿記Ⅰ」の単位を資格振替により修得希望の者は、能力開発科目の「簿記論Ⅰ」を必ず履修しなければならない。 | | | |
| | | | 後 | | | a | | 角　裕太 | | | | | |
| | | | | | | b | 非 | 藤川　晴基 | | | | | |
| | | | | | | c | 非 | 河本　雅志 | | | | | |
| | | | | | | d | 非 | 河本　雅志 | | | | | |
| | | | | | | e | 非 | 藤井　稔久 | | | | | |
| | | | | | | f | | 東　幸代 | | | | | |
| | | | | | | g | | 福田　正太郎 | | | | | |
| | | | | | | h | 非 | 藤井　稔久 | | | | | |
| | 経営学概論 | 経営学では何を学ぶのか | 後 | 2 | ◎ | | | 細井　謙一 | 1 | | 不可 | | |
| | | | | | | | | 岡田　斎 | | | | | |
| | | | | | | | | 福田　正太郎 | | | | | |
| 基礎科目 | 経営管理論基礎 | 管理者への道 | 前 | 2 | | | | 宮辻　渉 | 2 | | | | |
| | 経営史 | 企業の生成、発展、そして衰退あるいは再生 | 前 | 2 | | a | | 松川　佳洋 | 2 | | | | |
| | | | | | | b | | | | | | | |
| | 企業形態論 | 色々な会社の仕組み | 前 | 2 | | | | 瀬戸　正則 | 2 | | | | |
| | 初級簿記演習 | 日商3級合格に向けて | 後 | 2 | | a | 派 | 白石　敦夫 | 2 | | | | |
| | | | | | | b | 派 | 白石　敦夫 | | | | | |
| | | | | | | c | 派 | 白石　敦夫 | | | | | |
| | 初級簿記Ⅱ | 日商3級の後半（商業手形の仕訳から財務諸表の作成まで） | 前 | 2 | | a | | 藤原　久嗣 | 2 | | ス<br>不可 | | |
| | | | | | | b | | 福田　正太郎 | | | | | |
| | | | | | | c | | 藤原　久嗣 | | | | | |
| | 会計学基礎 | 財務会計で企業活動を描写する | 前 | 2 | | a | | 東　幸代 | 2 | | | | |
| | | | | | | b | | 角　裕太 | | | | | |
| | マーケティング論基礎 | 便利な生活を支える仕組み | 前 | 2 | | | | 坂間　十和子 | 2 | | | | |
| | Introduction to Marketing in English | Understanding basic concepts and process of Marketing in global context | 後 | 2 | | | | K. I. ツエ | 2 | | | 抽選 | 150名 |
| | 貿易論基礎 | 誰でも分かる貿易の仕組み | 後 | 2 | | | | 広田　堅志 | 2 | | | | |
| | 経営情報論 | 経営と情報の接点を考える | 前 | 2 | | a | | 岡田　斎 | 2 | | | 抽選 | 150名 |
| | | | 後 | | | b | | | | | | | |
| | コンピュータ基礎Ⅰ | コンピュータ（ハードウェアの仕組みと動作）について学ぶ | 前 | 2 | | | | 田中　章司郎 | 2 | | | | |
| | コンピュータ基礎Ⅱ | コンピュータ（ソフトウェア開発技法）について理解する | 前 | 2 | | | | 田中　章司郎 | 3 | | | | |
| | 情報処理論Ａ | 基本的な計算手順（アルゴリズム）とデータ構造を理解する | 後 | 2 | | | | 田中　章司郎 | 2 | | | | |
| | 情報処理論Ｂ | 情報と問題解決について学ぶ | 後 | 2 | | | | 丹羽　啓一 | 2 | | | | |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発展・応用科目 | マネジメント系科目 | 経営管理論 | 管理者とその問題解決法 | 後 | 2 | | | | 宮辻　渉 | 2 | | | | |
| | | 財務管理論Ⅰ | 投資におけるリスクとリターン | 前 | 2 | | | | 幸田　圭一朗 | 3 | | | | |
| | | 財務管理論Ⅱ | 現代企業の財務戦略 | 後 | 2 | | | | 幸田　圭一朗 | 3 | | | | |
| | | 人的資源管理論Ⅰ | 人を動かす仕組みについて考える | 前 | 2 | | | | 宮辻　渉 | 3 | | | | |
| | | 人的資源管理論Ⅱ | 人的資源管理の現代的課題について学ぶ | 後 | 2 | | | | 宮辻　渉 | 3 | | | | |
| | | 経営組織論Ⅰ | 生活に身近な組織論 | 前 | 2 | | | | 堀江　浩司 | 3 | | | | |
| | | 経営組織論Ⅱ | 企業組織のマネジメント | 後 | 2 | | | | 堀江　浩司 | 3 | | | | |
| | | 国際経営論 | 日本企業や外資系企業の国際化グローバル化への発展 | 後 | 2 | | | | 松川　佳洋 | 3 | | | | |
| | | 経営戦略論 | 企業の長期的な方向性の指針と意思決定の基準 | 後 | 2 | | | | 岡本　康昭 | 3 | | | | |
| | | 生産管理論 | 生産におけるオートメーションの発達 | 前 | 2 | | | | 岡田　斎 | 3 | | | | |
| | | 中小企業経営論 | 中小企業の役割 | 後 | 2 | | | | 瀬戸　正則 | 2 | | | | |
| | | 広島地域ものづくり事情 | | 前 | 2 | | | | 野北　晴子<br>松榮　豊貴<br>岡本　康昭 | 2 | | | 選考 | 120名 |
| | | 情報システム論Ⅰ | 企業情報システムの基礎知識を学ぶ | 前 | 2 | | | | 杉山　克典 | 2 | | | | |
| | | 情報システム論Ⅱ | 企業情報システムの中核技術を学ぶ | 後 | 2 | | | | 杉山　克典 | 2 | | | | |
| | | 情報社会と情報倫理 | 情報化が社会に与える影響や社会人としての情報倫理等を学ぶ | 前 | 2 | | | 非 | 梶川　正 | 3 | | | | |
| | アカウンティング系科目 | 中級簿記 | 日商2級の基本論点 | 前2 | 4 | | a | 非 | 梶川　正 | 1 | ●日商簿記3級、全商簿記3級又は2級若しくは全経簿記3級又は2級の資格取得者で、「簿記入門」及び「簿記3級Ⅰ」「初級簿記Ⅰ」の単位を資格振替により修得希望の者は、必ずこの科目を履修しなければならない。 | | | |
| | | | | | | | b | | 福田　正太郎 | | | | | |
| | | 中級簿記演習 | 商業簿記と工業簿記の演習 | 後2 | 4 | | | 非 | 餅川　正雄<br>梶川　正 | 1 | 日商簿記検定2級の有資格者は履修不可 | | 抽選 | 40名 |
| | | 財務会計論 | 財務会計のルールを考える | 後 | 2 | | | | 角　裕太 | 2 | | | | |
| | | 原価計算論 | マネジメントツールとしての原価情報 | 後 | 2 | | | | 藤原　久嗣 | 2 | | | | |
| | | 管理会計論 | 企業活動への会計情報の活用 | 前 | 2 | | | | 小谷　幸生 | 3 | | | | |
| | | 会計監査論 | 会計情報のうそ偽りを見抜く | 前 | 2 | | | | 東　幸代 | 3 | | | | |
| | | 経営分析論 | 企業経営の健康診断 | 後 | 2 | | | | 小谷　幸生 | 3 | | | | |
| | | 税務会計論 | ビジネスで活かせる税知識 | 後 | 2 | | | | 餅川　正雄 | 3 | | | | |
| | マーケティング系科目 | マーケティング論 | なぜヒット商品は生まれるのか？ | 後 | 2 | | | | 坂間　十和子 | 2 | | | | |
| | | 貿易論 | 貿易問題の理解と貿易理論の理解 | 前 | 2 | | | | 広田　堅志 | 3 | | | | |
| | | 流通システム論Ⅰ | やさしくわかる流通の基本 | 前 | 2 | | | | 細井　謙一 | 2 | | | | |
| | | 流通システム論Ⅱ | 流通の仕組みを正しく理解する | 後 | 2 | | | | 細井　謙一 | 2 | | | | |
| | | マーチャンダイジング論Ⅰ | 品ぞろえの基本的戦略 | 前 | 2 | | | | 石川　明美 | 3 | | | | |
| | | マーチャンダイジング論Ⅱ | 品ぞろえの具体的戦略 | 後 | 2 | | | | 石川　明美 | 3 | | | | |
| | | マーケティング・フロンティア | M＆Aを学びながら、人生ゲーム<br>M＆A実習 | 後 | 2 | | | | K. I. ツエ | 2 | | | 抽選 | 30名 |
| | | 外国為替論 | 外国為替とその関連の基礎をまず平易に | 前 | 2 | | | | 糠谷　英輝 | 2 | | | | |
| | | 外国為替実務 | 外国為替の醍醐味を実体験してみよう | 後 | 2 | | | | 糠谷　英輝 | 2 | | | | |
| | | 貿易実務 | 幅広い貿易取引の基本を学ぶ | 後 | 2 | | | | 糠谷　英輝 | 2 | | | | |
| | | 証券市場論 | グローバル化に適応できる経済人としての基本（デリバティブを含む）を学ぶ | 前 | 2 | | | | 糠谷　英輝 | 2 | | | | |
| | | サービス・マーケティング論 | サービス・ビジネスの仕組みを学ぶ | 後 | 2 | | | | 坂間　十和子 | 3 | | | | |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備　考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発展・応用科目 | 演習系科目 | ビジネスプランニングⅠ | ビジネスプランを立ち上げる | 前 | 2 | | | | 幸田　圭一朗 | 2 | | | 抽選 | 40名 |
| | | ビジネスプランニングⅡ | 儲かる仕組みを作る | 後 | 2 | | | 非 | 矢澤　利弘 | 2 | ビジネスプランニングⅠの単位修得者のみ履修可 | | 抽選 | 40名 |
| | | マーケティングプラン演習 | ベンチャービジネスのマーケティングを考える | 後 | 2 | | | | K. I. ツエ | 2 | | | 抽選 | 30名 |
| | | マーケティングシミュレーション演習 | ビジネスゲームによる経営実践 | 前 | 2 | | | | K. I. ツエ | 3 | | | 抽選 | 30名 |

【資格関連科目】

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備　考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 会社法 | 会社の仕組みと活動 | 前 | 2 | | | 非 | 古川　朋子 | 3 | | | |
| | ※商法 | 総則、商行為、手形法、小切手法 | | 2 | | | | | 3 | 隔年開講<br>2020（令和2）年度開講せず | | |
| | 職業指導 | 豊かな職業観をどの子にも | 後 | 2 | | | | 餅川　正雄 | 3 | | | |

【資格関連科目】

●修得した単位は、自由選択科目の単位として計算する。

### (3) 経営学部　スポーツ経営学科

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入門科目 | 経済入門 | くらしと経済 | 前 | 2 | ◎ | d | | 永田　智章 | 1 | | 不可 | | |
| | 経営入門 | ビジネスの世界で働く | 後 | 2 | ◎ | h | | 岡本　康昭 | 1 | | 不可 | | |
| | スポーツ経営入門 | ビジネスの視点でスポーツを科学する | 前 | 2 | ◎ | | | 中村　隆行 | 1 | | 不可 | | |
| | 初級簿記Ⅰ | 日商3級の前半（簿記の意義から商品売買取引の仕訳まで） | 前 | 2 | | i | 非 | 藤井　稔久 | 1 | 「初級簿記Ⅰ」の履修を希望する者は、a～iのいずれか1クラスを選択し履修すること。 | | | |
| | | | 後 | | | a | | 角　裕太 | | | | | |
| | | | | | | b | 非 | 藤川　晴基 | | | | | |
| | | | | | | c | 非 | 河本　雅志 | | | | | |
| | | | | | | d | 非 | 河本　雅志 | | | | | |
| | | | | | | e | 非 | 藤井　稔久 | | | | | |
| | | | | | | f | | 東　幸代 | | | | | |
| | | | | | | g | | 福田　正太郎 | | | | | |
| | | | | | | h | 非 | 藤井　稔久 | | | | | |
| 基礎科目 | スポーツ文化論 | 文化としてのスポーツを検討する | 後 | 2 | ◎ | | | 岡安　功 | 1 | | 不可 | | |
| | スポーツ経営学 | スポーツをマネジメントすることとは | 前 | 2 | ◎ | | | 渡辺　泰弘 | 2 | | 不可 | | |
| | スポーツ産業論 | スポーツの本質を活かす産業とは | 前 | 2 | ◎ | | | 岡安　功 | 2 | | 不可 | | |
| | スポーツマーケティング論 | スポーツをプロデュースする | 後 | 2 | | | | 林　和夫 | 2 | | 不可 | | |
| | スポーツ英語 | 英語で世界のスポーツビジネスを考える | 後 | 1 | | | 非 | 吉川　浩司 | 2 | | 不可 | 抽選 | 30名 |
| | 経営学 | 組織体の適正な運営について学ぶ | 前 | 2 | | | | 岡本　康昭 | 2 | | 営不可 | | |
| | マーケティング論基礎 | 便利な生活を支える仕組み | 前 | 2 | | | | 坂間　十和子 | 2 | | | | |
| | 会計学基礎 | 財務会計で企業活動を描写する | 前 | 2 | | a | | 東　幸代 | 2 | | | | |
| | | | | | | b | | 角　裕太 | | | | | |
| | 経済学基礎 | 経済学の視点と基礎理論 | 後 | 2 | | | | 永田　智章 | 1 | | | | |
| | 経済政策論基礎 | 市場経済と政府の役割 | 後 | 2 | | | | 石田　優子 | 2 | | | | |
| | Sport Culture in Japan | Let's think about Japan and sport | 後 | 2 | | | | 岡安　功 | 2 | | | | |
| | The World's Top Athletes from Japan | Sports in English | 前 | 2 | | | | 林　和夫 | 2 | | | | |
| | Major Sports in Japan | Sports in English | 後 | 2 | | | | 濱口　博行 | 2 | | | | |
| 発展・応用科目　経済・経営関連科目（注1） | コミュニティビジネス論 | 地域を拠点としたクラブ経営の基礎知識 | 後 | 2 | | | | 中村　隆行<br>渡辺　泰弘 | 3 | | 不可 | | |
| | イベント論 | イベントは社会を元気にする | 前 | 2 | | | | 濱口　博行 | 2 | | | | |
| | スポーツファイナンス論 | 財政基盤の重要性を学ぶ | 前 | 2 | | | | 幸田　圭一朗 | 3 | | 不可 | | |
| | プロスポーツ論 | プロスポーツはスポーツ文化の開拓者 | 後 | 2 | | | | 藤口　光紀 | 3 | | 不可 | | |
| | スポーツ組織論 | 個人と組織の関係、組織が抱える問題を探る | 後 | 2 | | | | 中村　隆行 | 2 | | | | |
| | スポーツジャーナリズム論 | スポーツ報道の仕組みを読み解く | 前 | 2 | | | | 渡辺　勇一 | 3 | | | | |
| | スポーツメディア論 | スポーツを伝える構造・機能を理解する | 後 | 2 | | | | 渡辺　勇一 | 3 | | | | |
| | 産業組織論 | 企業行動と産業政策の成果を学ぶ | 後 | 2 | | | | 堀江　真由美 | 3 | | | | |
| | 国際経済学 | 貿易と投資の理論と実証 | 後 | 2 | | | | 永田　智章 | 3 | | | | |
| | スポーツ統計 | スポーツをデータで分析する | 後 | 2 | | | | 得津　康義 | 3 | | | 抽選 | 100名 |
| | アジア経済 | アジア太平洋地域における日本の役割 | 前 | 2 | | | | 永田　智章 | 3 | | | | |
| | アメリカ経済 | 経済理論で学ぶアメリカ経済事情 | 後 | 2 | | | | 福居　信幸 | 2 | | | | |
| | スポーツ経済論 | スポーツの生産・分配・消費及び人々の社会関係に与える影響を考える | 前 | 2 | | | | 永田　智章 | 2 | | | | |
| | 組織マネジメント論 | 組織によるマネジメント | 後 | 2 | | | | 岡本　康昭 | 2 | | | | |
| | 経営戦略論 | 企業の長期的な方向性の指針と意思決定の基準 | 後 | 2 | | | | 岡本　康昭 | 3 | | | | |
| | 財務会計論 | 財務会計のルールを考える | 後 | 2 | | | | 角　裕太 | 2 | | | | |
| | 経営分析論 | 企業経営の健康診断 | 後 | 2 | | | | 小谷　幸生 | 3 | | | | |
| | 管理会計論 | 企業活動への会計情報の活用 | 前 | 2 | | | | 小谷　幸生 | 3 | | | | |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備　考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発展・応用科目 | スポーツ関連科目（注2） | スポーツ社会学 | 社会とスポーツの繋がりを考える | 後 | 2 | | | | 松本　耕二 | 2 | | | 抽選 | 100名 |
| | | 地域スポーツ論 | 地域コミュニティとスポーツ | 前 | 2 | | | | 松本　耕二 | 2 | | | 抽選 | 100名 |
| | | スポーツコーチング論 | 指導力と競技力アップのコーチング | 後 | 2 | | | | 尾方　剛 | 3 | | | 抽選 | 100名 |
| | | スポーツトレーニング論 | トレーニングによる身体の変化と適応 | 前 | 2 | | | | 松田　亮 | 2 | | | 抽選 | 100名 |
| | | スポーツ心理学 | 現場で使える基礎から学ぶスポーツ心理学 | 後 | 2 | | | 非 | 村上　妃斗美 | 3 | | | 抽選 | 100名 |
| | | スポーツ生理学 | 科学的なトレーニング法、パワーアップ法 | 前 | 2 | | | | 柳川　和優 | 2 | | | 抽選 | 100名 |
| | | スポーツバイオメカニクス | 身体運動の仕組み | 後 | 2 | | | 非 | 磨井　祥夫 | 3 | | | 抽選 | 100名 |
| | | スポーツ医学 | 知っておきたいスポーツ医科学基礎知識 | 後 | 2 | | | 非 | 福場　良之 | 3 | | | 抽選 | 100名 |
| | | スポーツ栄養学 | スポーツのための栄養と食事 | 後 | 2 | | | 非 | 山岡　雅子 | 3 | | | 抽選 | 100名 |
| | | 救急処置法 | 緊急時に対応できる技術と知識 | 特設（サマー） | 2 | | | 非 | 藤田　雅範 | 3 | | 不可 | 抽選 | 40名 |
| | | 健康運動プログラム論 | 健康作りのための運動処方 | 前 | 2 | | | | 柳川　和優 | 3 | | | 抽選 | 100名 |
| | | レクリエーションスポーツ論 | 楽しみを科学する | 前 | 2 | | | | 岡安　功 | 2 | | | 抽選 | 100名 |
| | | スポーツ施設マネジメント | スポーツ施設の維持管理・役割を学ぶ | 前 | 2 | | | | 渡辺　泰弘 | 3 | | 不可 | | |
| | 実験・実習・演習科目（注3） | スポーツ指導法演習 | 基礎技術および指導法の習得 | 前 | 2 | | | | 松田　亮<br>尾方　剛 | 2 | | 不可 | | |
| | | スポーツトレーニング実習 | 各種トレーニング法の習得 | 後 | 1 | | | | 松田　亮 | 2 | | 不可 | 抽選 | 20名 |
| | | スポーツ生理学実験 | 理論や仮説が正しいかどうかを実験により確かめる | 後 | 1 | | | 非 | 柳川　和優<br>磨井　祥夫 | 2 | | 不可 | 抽選 | 20名 |
| | | スポーツトレーナー実習 | 体力向上と障害予防の為のトレーニング実践 | 後 | 1 | | | 非 | 大段　淳義 | 2 | | 不可 | 抽選 | 20名 |
| | | レクリエーションスポーツ実習Ⅰ（ゲーム） | 楽しさ・心地よさを活かす支援技術を学ぶ | 後 | 1 | | | 非 | 松本　耕二<br>砂橋　昌義 | 2 | | | 抽選 | 30名 |
| | | レクリエーションスポーツ実習Ⅱ（キャンプ） | キャンプを体験しプログラムをマネジメントする | 特設（サマー） | 1 | | | 非 | 松本　耕二<br>砂橋　昌義 | 2 | | 不可 | 抽選 | 20名 |
| | | レクリエーションスポーツ実習Ⅲ（スノー） | スノープログラムの体験 | 特設（その他） | 1 | | | 非 | 松本　耕二<br>平野　貴也 | 2 | | 不可 | 抽選 | 20名 |
| | | スポーツトレーナー演習 | スポーツや運動におけるトレーナーの職務 | 前 | 2 | | | 非 | 蘓武　彩織 | 2 | | 不可 | 抽選 | 40名 |
| | | 地域スポーツ貢献演習 | 地域のスポーツに貢献しよう | 後 | 2 | | | 非 | 渡辺　泰弘<br>関口　昌和 | 2 | | 不可 | 抽選 | 20名 |
| | | スポーツビジネス演習Ⅰ | 企業研修のための準備となる事前学習 | 前 | 2 | | | | 藤口　光紀<br>渡辺　勇一 | 2 | | 不可 | 抽選 | 25名 |
| | | スポーツビジネス演習Ⅱ | 企業研修を通じてスポーツビジネスの理解を深める | 後 | 2 | | | | 藤口　光紀<br>渡辺　勇一 | 2 | 「スポーツビジネス演習Ⅰ」の単位修得者のみ履修可 | 不可 | 抽選 | 25名 |
| | | スポーツマネジメント演習 | スポーツ関連イベントの企画・実践 | 前 | 2 | | | | 松田　亮<br>尾方　剛 | 2 | | 不可 | 抽選 | 20名 |
| | | スポーツビジネス視察Ⅰ（国内） | 国内スポーツビジネスの「今」を視察する | 特設 | 1 | | | | 林　和夫<br>岡安　功 | 1 | | 不可 | | |
| | | ※スポーツビジネス視察Ⅱ（北米） | 北米スポーツビジネス／エンターテインメントの現場を視察する | | 1 | | | | | 1 | 隔年開講<br>2020（令和2）年度開講せず | | 選考 | 30名 |
| | | スポーツビジネス視察Ⅲ（欧州） | 欧州スポーツビジネス、その歴史と現状を視察する | 特設（その他） | 1 | | | | 林　和夫<br>濱口　博行 | 1 | 隔年開講 | | 選考 | 30名 |
| | | チームビルディング | 個性が活きるチームづくりのプロセスと技法 | 特設（サマー） | 1 | | | 非 | 芳地　泰幸 | 2 | 受講者が10名未満の場合は開講しない | 不可 | 抽選 | 25名 |
| | | チームマネジメント | チームを構築、維持、発展させていくには | 後 | 2 | | | | 宮辻　渉 | 2 | | 不可 | 抽選 | 36名 |

（注１）「経済・経営関連科目区分」の中から10単位以上修得すること
（注２）「スポーツ関連科目区分」の中から８単位以上修得すること
（注３）「実験・実習・演習科目区分」の中から６単位以上修得すること

### (4) メディアビジネス学部　ビジネス情報学科

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入門科目 | 経済入門 | くらしと経済 | 後 | 2 | ◎ | h | | 久保　大支 | 1 | | 不可 | | |
| | 経営入門 | ビジネスの世界で働く | 前 | 2 | ◎ | d | | 関　隆教 | 1 | | 不可 | | |
| | ビジネス情報入門 | ビジネスと情報、情報技術の結合について学ぶ | 前 | 2 | ◎ | | | 杉山　克典<br>関　隆教 | 1 | | 不可 | | |
| | コンピュータ入門 | コンピュータと IT 機器の基本を理解する | 前 | 2 | | | | 田中　章司郎 | 1 | | | | |
| | 情報処理基礎 | 情報処理の基本を学ぶ | 後 | 2 | | | | 田中　章司郎 | 1 | | | | |
| | 情報入門演習 S | 情報を使いこなす能力を身につける | 前 | 2 | ◎ | a | 派 | 丹羽　啓一<br>土山　ゆかり | 1 | ・新入生は、指定されたクラスで履修すること | 不可 | 選考 | 30名 |
| | | | | | | b | 派 | 丹羽　啓一<br>土山　ゆかり | | | | | |
| | | | | | | c | 派 | 丹羽　啓一<br>土山　ゆかり | | | | | |
| | 情報入門演習 A | PC のイロハを学ぶ（ワードの初級を学ぶ） | 前 | 2 | | a<br>b<br>c | 派 | 坂本　小百合 | 1 | | 不可 | 抽選 | 30名 |
| | 情報入門演習 B | PC のイロハを学ぶ（エクセルの初級を学ぶ） | 後 | 2 | | a<br>b<br>c | 派 | 坂本　小百合 | 1 | | 不可 | 抽選 | 30名 |
| 基礎科目 | ビジネス概論 | まず知ろう！ビジネスの基本 | 後 | 2 | ◎ | | | 溝下　博 | 1 | ビジネス情報学科生及び教職課程登録者優先 | | 抽選 | 250名 |
| | 情報技術論 | ビジネスにおける情報技術の活用を学ぶ | 前 | 2 | | | | 山本　雅昭 | 2 | | | | |
| | ビジネスと戦略 | ビジネスのリードと長期計画 | 前 | 2 | | | | 溝下　博 | 2 | | | | |
| | 経営管理論基礎 | 管理者への道 | 前 | 2 | | | | 宮辻　渉 | 2 | | | | |
| | 経営情報論 | 経営と情報の接点を考える | 前<br>後 | 2 | | a<br>b | | 岡田　斎 | 2 | | | 抽選 | 150名 |
| | マーケティング論基礎 | 便利な生活を支える仕組み | 前 | 2 | | | | 坂間　十和子 | 2 | | | | |
| | ビジネス統計学 | ビジネスで役立つ統計テクニックを学ぶ | 前 | 2 | | | | 田浦　元 | 2 | | | | |
| | 会計学基礎 | 財務会計で企業活動を描写する | 前 | 2 | | a<br>b | | 東　幸代<br>角　裕太 | 2 | | | | |
| | ミクロ経済学基礎Ⅰ | 家計・企業の行動と市場のはたらきについて考える | 後 | 2 | | e | | 堀江　真由美 | 2 | | | | |
| | マクロ経済学基礎Ⅰ | 経済のしくみを鳥の目で見る | 後 | 2 | | e | | 山根　智沙子 | 2 | | | | |
| | インターネット・マーケティング論 | マーケティングの理論と ICT の役割を学ぶ | 後 | 2 | | | | 関　隆教 | 2 | | | | |
| | コンピュータ基礎Ⅰ | コンピュータ（ハードウェアの仕組みと動作）について学ぶ | 前 | 2 | | | | 田中　章司郎 | 2 | | | | |
| | コンピュータ基礎Ⅱ | コンピュータ（ソフトウェア開発技法）について理解する | 前 | 2 | | | | 田中　章司郎 | 3 | | | | |
| | 情報処理論 A | 基本的な計算手順（アルゴリズム）とデータ構造を理解する | 後 | 2 | | | | 田中　章司郎 | 2 | | | | |
| | 情報処理論 B | 情報と問題解決について学ぶ | 後 | 2 | | | | 丹羽　啓一 | 2 | | | | |
| | 情報ネットワーク論 | 幅広い情報通信の基礎を学ぶ | 後 | 2 | | | | 杉山　克典 | 2 | | | | |
| | 情報活用演習 A | ワードの中級を学ぶ | 後 | 2 | | a<br>b | 派 | 坂本　小百合 | 1 | ●次の学生は、a、b のいずれか1クラスを選択し、履修することができる。※要事前登録<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習Ａ」の単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」の単位修得者<br>・メディアビジネス学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」の単位修得者 | | 抽選 | 30名 |
| | 情報活用演習 B | エクセルの中級を学ぶ | 前 | 2 | | a<br>b | 派 | 坂本　小百合 | 2 | ●次の学生は、a、b のいずれか1クラスを選択し、履修することができる。※要事前登録<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習Ｂ」の単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅱ」の単位修得者<br>・メディアビジネス学科の入学生で、「情報処理入門Ⅱ」の単位修得者 | | 抽選 | 30名 |
| | 情報活用演習 C | パワーポイントを学ぶ | 後 | 2 | | a<br>b | 派 | 園田　真由 | 2 | ●次の学生は、「情報活用演習Ｃ」を履修することができる。<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習Ｓ」、「情報入門演習Ａ」、「情報入門演習Ｂ」のいずれかの単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」の単位修得者<br>・メディアビジネス学科の入学生で、「情報処理入門Ⅰ」又は「情報処理入門Ⅱ」の単位修得者 | | 抽選 | 30名 |
| | Web 演習 | チャレンジ！ホームページ | 前 | 2 | | a<br>b | | 久保　大支 | 2 | ●次の学生は、「Web 演習」を履修することができる。<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習Ｓ」、「情報入門演習Ａ」、「情報入門演習Ｂ」のいずれかの単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」、「情報処理入門Ⅱ」のいずれかの単位修得者<br>・メディアビジネス学科の入学生で、「情報処理入門Ⅰ」又は「情報処理入門Ⅱ」の単位修得者 | | 抽選 | 30名 |
| | ビジネス情報入門ゼミ | | 前 | 2 | ◎ | a<br>b<br>c<br>d<br>e | | 石野　亜耶<br>久保　大支<br>杉山　克典<br>丹羽　啓一<br>関　隆教 | 2 | | 不可 | 選考 | 15名 |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発展・応用科目 | ビジネス科目 | オペレーションズ・リサーチ | 経営資源をムダなく使う手法を学ぶ | 前 | 2 | | | | 丹羽　啓一 | 2 | | | | |
| | | ビジネスデータ分析 | ビジネスデータの所在と使い方について学ぶ | 前 | 2 | | | | 田浦　元 | 3 | | | | |
| | | データサイエンスとビジネス | ビジネスに必要なデータサイエンス力を身につけよう | 後 | 2 | | | | 田浦　元 | 3 | | | | |
| | | AI とビジネス | AI を支える技術とビジネスへの活用方法について学ぶ | 後 | 2 | | | | 石野　亜耶 | 3 | | | 抽選 | 100名 |
| | | 電子金融取引Ⅰ | 情報技術と決済システムの基礎について学ぶ | 前 | 2 | | | | 久保　大支 | 3 | | | | |
| | | 電子金融取引Ⅱ | 情報技術と決済システムの実際について学ぶ | 後 | 2 | | | | 久保　大支 | 3 | | | | |
| | | 顧客関係管理と知的情報ベース | 顧客情報を経営成果に生かす仕組みを考える | 後 | 2 | | | | 関　隆教 | 3 | | | | |
| | | デジタルビジネス論 | デジタルで価値を創り出そう | 前 | 2 | | | | 溝下　博 | 3 | | | | |
| | | IT 応用事例研究 | 経営戦略と情報戦略のはしかけを学ぶ | 後 | 2 | | | | 上野　信行 | 3 | | | | |
| | | プロジェクトマネジメント | 事業を円滑かつ効率的に推進する管理手法 | 前 | 2 | | | 非 | 佐藤　達男 | 3 | | | | |
| | | リスクマネジメント | プロジェクトの成功を危うくするリスクの管理手法 | 後 | 2 | | | 非 | 佐藤　達男 | 3 | | | | |
| | | 生産管理論 | 生産におけるオートメーションの発達 | 前 | 2 | | | | 岡田　斎 | 3 | | | | |
| | | 流通システム論Ⅰ | やさしくわかる流通の基本 | 前 | 2 | | | | 細井　謙一 | 2 | | | | |
| | | 流通システム論Ⅱ | 流通の仕組みを正しく理解する | 後 | 2 | | | | 細井　謙一 | 2 | | | | |
| | | 中級簿記演習 | 商業簿記と工業簿記の演習 | 後2 | 4 | | | 非 | 餅川　正雄<br>梶川　正 | 1 | 日商簿記検定2級の有資格者は履修不可 | | 抽選 | 40名 |
| | 情報科目 | 情報システム論Ⅰ | 企業情報システムの基礎知識を学ぶ | 前 | 2 | | | | 杉山　克典 | 2 | | | | |
| | | 情報システム論Ⅱ | 企業情報システムの中核技術を学ぶ | 後 | 2 | | | | 杉山　克典 | 2 | | | | |
| | | データベース論 | データベースの基礎知識を学ぶ | 後 | 2 | | | | 丹羽　啓一 | 2 | | | 抽選 | 100名 |
| | | マルチメディア論 | マルチメディアの基礎から表現・処理へ | 前 | 2 | | | | 濱　愼一 | 3 | | | | |
| | | データマイニング論 | 大量のデータからビジネスに役立つ情報を抽出する理論と手法を学ぶ | 前 | 2 | | | | 石野　亜耶 | 3 | | | | |
| | | 情報社会と情報倫理 | 情報化が社会に与える影響や社会人としての情報倫理等を学ぶ | 前 | 2 | | | 非 | 梶川　正 | 3 | | | | |
| | | 情報と職業 | 情報と職業の関わりや情報に関する職業人としてのあり方等を学ぶ | 後 | 2 | | | 非 | 梶川　正 | 3 | 経営学科の入学生で情報免許の課程登録者は履修できる。 | | | |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備　考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発展・応用科目 | ビジネス情報演習科目 | 情報処理演習 A | はじめよう Visual Basic | 前 | 2 | | | | 丹羽　啓一 | 2 | ●次の学生は、「情報処理演習A」を履修することができる。<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習Ｓ」、「情報入門演習Ａ」、「情報入門演習Ｂ」のいずれかの単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」、「情報処理入門Ⅱ」のいずれかの単位修得者<br>・メディアビジネス学科の入学生で、「情報処理入門Ⅰ」又は「情報処理入門Ⅱ」の単位修得者 | | 抽選 | 100名 |
| | | モバイルアプリ演習 | Android OS 用アプリを作る | 後 | 2 | | | | 田中　章司郎 | 2 | ●次の学生は、「モバイルアプリ演習」を履修することができる。<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習Ｓ」、「情報入門演習Ａ」、「情報入門演習Ｂ」のいずれかの単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」、「情報処理入門Ⅱ」のいずれかの単位修得者<br>・メディアビジネス学科の入学生で、「情報処理入門Ⅰ」又は「情報処理入門Ⅱ」の単位修得者 | | 抽選 | 30名 |
| | | 情報処理演習 C | Java でプログラムを作成する | 後 | 2 | | | | 久保　大支 | 2 | ●次の学生は、「情報処理演習C」を履修することができる。<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習Ｓ」、「情報入門演習Ａ」、「情報入門演習Ｂ」のいずれかの単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」、「情報処理入門Ⅱ」のいずれかの単位修得者<br>・メディアビジネス学科の入学生で、「情報処理入門Ⅰ」又は「情報処理入門Ⅱ」の単位修得者 | | 抽選 | 30名 |
| | | 画像処理演習 | ソフト（Photoshop）で「写真」を見栄えよくしよう | 後 | 2 | | | 非 | 記谷　伸彦 | 2 | ●次の学生は、「画像処理演習」を履修することができる。<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習Ｓ」、「情報入門演習Ａ」、「情報入門演習Ｂ」のいずれかの単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」、「情報処理入門Ⅱ」のいずれかの単位修得者<br><br>●ただし次の学生は、「画像処理演習」を履修することができない。<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理の基礎Ⅴ」若しくは「画像編集」の履修者及び単位修得者 | メ不可 | 抽選 | 30名 |
| | | 情報システム演習 | さあ、MTA･MCP にチャレンジだ！ | 前 | 2 | | | | 杉山　克典 | 3 | ●次の学生は、「情報システム演習」を履修することができる。<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習Ｓ」、「情報入門演習Ａ」、「情報入門演習Ｂ」のいずれかの単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」、「情報処理入門Ⅱ」のいずれかの単位修得者<br>・メディアビジネス学科の入学生で、「情報処理入門Ⅰ」又は「情報処理入門Ⅱ」の単位修得者 | | 抽選 | 30名 |
| | | マルチメディア演習 | ソフト（Premiere）で映像を編集してみよう | 特設（サマー） | 2 | | | 非 | 記谷　伸彦 | 3 | ●次の学生は、「マルチメディア演習」を履修することができる。<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習Ｓ」、「情報入門演習Ａ」、「情報入門演習Ｂ」のいずれかの単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」、「情報処理入門Ⅱ」のいずれかの単位修得者<br><br>●ただし次の学生は、「マルチメディア演習」を履修することができない。<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「映像編集」の履修者及び単位修得者 | メ不可 | 抽選 | 30名 |
| | | データマイニング演習 | プログラムを作成して、実際に、大量のデータからビジネスに役立つ情報を抽出し、分析する | 前 | 2 | | | | 石野　亜耶 | 3 | | | 抽選 | 100名 |

### (5) メディアビジネス学部　メディアビジネス学科

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入門科目 | 経済入門 | くらしと経済 | 後 | 2 | ◎ | h | | 久保　大支 | 1 | | 不可 | | |
| | 経営入門 | ビジネスの世界で働く | 前 | 2 | ◎ | e | | 松川　佳洋 | 1 | | 不可 | | |
| | メディアビジネス入門 | ビジネスにおけるメディアの現状と課題 | 前 | 2 | ◎ | | | 北野　尚人 | 1 | | 不可 | | |
| 基礎科目 | メディア論 | メディアと社会の関係を学ぶ | 前 | 2 | ◎ | | | 土屋　祐子 | 2 | | 不可 | | |
| | コミュニケーション論 | 他人を知るために自分を知る | 後 | 2 | ◎ | | | 阿部　純 | 2 | | 不可 | | |
| | メディア・マーケティング論 | メディアを使いこなすマーケティング・マインドを養う | 後 | 2 | ◎ | | | 井上　英之 | 1 | | 不可 | | |
| | メディアと経済 | メディア研究のための経済学 | 特設(サマー) | 2 | | | 非 | 貫名　貴洋 | 2 | | | | |
| | 映像メディア論 | 映像メディアの基礎 | 前 | 2 | | | | 徳永　博充 | 1 | | 不可 | | |
| | 音声メディア論 | 日本語音声表現の基礎 | 後 | 2 | | | | 中村　克洋 | 1 | | 不可 | | |
| | Web メディア論 | Web メディアの基礎 | 後 | 2 | | | | 堂本　絵理 | 2 | | 不可 | | |
| | 出版メディア論 | 出版メディアの基礎 | 後 | 2 | | | | 阿部　純 | 2 | | 不可 | | |
| | 画像編集 | ソフト（Photoshop）で写真を加工する | 後 | 2 | | a<br>b | 非 | 山下　明博 | 1 | ・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理の基礎Ⅴ」若しくは「画像処理演習」単位修得者は履修不可<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生は「情報処理の基礎Ⅴ」若しくは「画像処理演習」との同時履修不可 | ビ不可 | 抽選 | 30名 |
| | 映像編集 | ソフト（Premiere）で動画を編集する | 前 | 2 | | a<br>b | 非 | 山下　明博 | 1 | ・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「マルチメディア演習」単位修得者は履修不可<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生は「マルチメディア演習」との同時履修不可 | ビ不可 | 抽選 | 30名 |
| | 現代日本経済事情Ⅰ | 国内編 | 前 | 2 | | | | 宜名眞　勇 | 2 | | | | |
| | 現代日本経済事情Ⅱ | 国際関係編 | 後 | 2 | | | | 宜名眞　勇 | 2 | | | | |
| | ミクロ経済学基礎Ⅰ | 家計・企業の行動と市場のはたらきについて考える | 後 | 2 | | e | | 堀江　真由美 | 2 | | | | |
| | マクロ経済学基礎Ⅰ | 経済のしくみを鳥の目で見る | 後 | 2 | | e | | 山根　智沙子 | 2 | | | | |
| | 国際経済基礎Ⅰ | グローバル経済のあゆみと展望 | 前 | 2 | | | | 小笠原　礼以<br>平本　賢了<br>楊　義申<br>福居　信幸 | 2 | | | | |
| | 国際経済基礎Ⅱ | 貿易と国際収支の基礎を学ぶ | 後 | 2 | | | | 野北　晴子 | 2 | | | | |
| | 経営情報論 | 経営と情報の接点を考える | 前<br>後 | 2 | | a<br>b | | 岡田　斎 | 2 | | | 抽選 | 150名 |
| | 情報ネットワーク論 | 幅広い情報通信の基礎を学ぶ | 後 | 2 | | | | 杉山　克典 | 2 | | | | |
| | マーケティング論基礎 | 便利な生活を支える仕組み | 前 | 2 | | | | 坂間　十和子 | 2 | | | | |
| | 映像制作基礎A | テーマを持った作品づくり | 前 | 2 | | a<br>b | <br>非 | 土屋　祐子<br>門田　大地 | 1 | | 不可 | 抽選 | 18名 |
| | 映像制作基礎B | テレビの取材から放送まで | 後 | 2 | | | | 徳永　博充 | 1 | | 不可 | 抽選 | 18名 |
| | デザイン制作基礎 | デザイン思考の基礎を学ぶ | 後 | 2 | | | | 宮地　英和 | 1 | | 不可 | 抽選 | 20名 |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備　考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発展・応用科目 | ビジネス科目 | 広告論 | メディアの変化の中の宣伝・広告の実態を学ぶ | 後 | 2 | | | | 宮田　庄悟 | 2 | | | | |
| | | 企業広報論 | 企業と社会のかかわりを知ろう | 前 | 2 | | | | 井上　英之 | 3 | | | | |
| | | 流通システム論Ⅰ | やさしくわかる流通の基本 | 前 | 2 | | | | 細井　謙一 | 2 | | | | |
| | | 流通システム論Ⅱ | 流通の仕組みを正しく理解する | 後 | 2 | | | | 細井　謙一 | 2 | | | | |
| | | マーチャンダイジング論Ⅰ | 品ぞろえの基本的戦略 | 前 | 2 | | | | 石川　明美 | 3 | | | | |
| | | マーチャンダイジング論Ⅱ | 品ぞろえの具体的戦略 | 後 | 2 | | | | 石川　明美 | 3 | | | | |
| | | コンテンツビジネス論Ⅰ | コンテンツビジネスの考え方 | 前 | 2 | | | | 濱　愼一 | 3 | | | | |
| | | コンテンツビジネス論Ⅱ | コンテンツビジネスの仕組みと動向 | 後 | 2 | | | | 濱　愼一 | 3 | | | | |
| | | ※メディアビジネス特講Ｂ | 企業広報ケーススタディ | | 2 | | | | | 3 | 2020（令和2）年度開講せず | | 抽選 | 30名 |
| | | メディアビジネス特講Ｄ | 映像とビジネス | 後 | 2 | | | | 徳永　博充 | 3 | | | 抽選 | 30名 |
| | | メディアビジネス特講Ｆ | Web ビジネス | 後 | 2 | | | | 濱　愼一 | 3 | | | 抽選 | 30名 |
| | | メディアビジネス特講Ｈ | 広告とビジネス | 前 | 2 | | | | 北野　尚人 | 3 | | | 抽選 | 30名 |
| | | メディアビジネス特講Ⅰ | 説得コミュニケーション | 前 | 2 | | | | 中村　克洋 | 3 | | | 抽選 | 30名 |
| | | メディアビジネス特講Ｊ | 認知メカニズムとメディア | 前 | 2 | | | 非 | 吉長　成恭 | 3 | | | 抽選 | 30名 |
| | | メディアビジネス特講Ｋ | メディアビジネスとスポーツイベント／ラグビーワールドカップを成功に導いた発想と実例 | 前 | 2 | | | | 宮田　庄悟 | 3 | | | 抽選 | 30名 |
| | | マーケティング論 | なぜヒット商品は生まれるのか？ | 後 | 2 | | | | 坂間　十和子 | 2 | | | | |
| | | サービス・マーケティング論 | サービス・ビジネスの仕組みを学ぶ | 後 | 2 | | | | 坂間　十和子 | 3 | | | | |
| | | デジタルマーケティング論 | デジタル時代にメディアとマーケティングはどう変わるのか | 前 | 2 | | | | 宮田　庄悟 | 2 | | | | |
| | メディア・ＩＴ科目 | メディア・リテラシー | メディア特性の理解と表現 | 前 | 2 | | | | 土屋　祐子 | 2 | | | | |
| | | メディアと法 | 現代メディアをとりまく法的諸問題 | 前 | 2 | | | | 井上　英之 | 2 | | 不可 | | |
| | | 現代マスメディア論 | マスメディアの果たすべき役割、言論の自由と責任 | 前 | 2 | | | | 徳永　博充 | 2 | | | | |
| | | 現代マスメディア事情 | メディア企業の視点から | 前 | 2 | | | | 北野　尚人<br>徳永　博充 | 2 | | | 抽選 | 70名 |
| | | コミュニケーションと文化 | 日本語の特質と文化の形成 | 後 | 2 | | | | 中村　克洋 | 2 | | | | |
| | | 情報デザイン論 | 情報を伝達するプロセスについて学ぶ | 前 | 2 | | | | 宮地　英和 | 2 | | | | |
| | | メディア文化史 | メディア文化の流れを知り、今のメディア･コミュニケーションを理解する | 前 | 2 | | | | 阿部　純 | 2 | | | | |
| | | メディアと感性デザイン | 五感に訴える効果的な空間メディア | 後 | 2 | | | 非 | 吉長　成恭 | 3 | | | | |
| | | 情報社会と情報倫理 | 情報化が社会に与える影響や社会人としての情報倫理等を学ぶ | 前 | 2 | | | 非 | 梶川　正 | 3 | | | | |
| | | マルチメディア論 | マルチメディアの基礎から表現・処理へ | 前 | 2 | | | | 濱　愼一 | 3 | | | | |
| | | イベント論 | イベントは社会を元気にする | 前 | 2 | | | | 濱口　博行 | 2 | | | | |
| | | スポーツジャーナリズム論 | スポーツ報道の仕組みを読み解く | 前 | 2 | | | | 渡辺　勇一 | 3 | | | | |
| | | スポーツメディア論 | スポーツを伝える構造・機能を理解する | 後 | 2 | | | | 渡辺　勇一 | 3 | | | | |
| | | Web コンテンツ制作 | 様々なＷｅｂコンテンツをデザイン・作成する | 前 | 2 | | | | 濱　愼一 | 2 | ●次の学生は、「Web 演習」又は「Web コンテンツ制作」を履修することができる。<br>・メディアビジネス学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ（2単位）」又は「情報処理入門Ⅱ（2単位）」のいずれかの単位修得者 | 不可 | 抽選 | 30名 |
| | | モバイルコンテンツ制作 | モバイルコンテンツの企画から作成まで | 前 | 2 | | a | | 濱　愼一 | 2 | ・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「DTP演習（ビジネス）」単位修得者は履修不可<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生は「DTP演習（ビジネス）」との同時履修不可 | ビ不可 | 抽選 | 30名 |
| | | | | 後 | | | b | | 堂本　絵理 | | | | | |
| | | CG 演習 | コンピュータグラフィックを学ぶ | 後 | 2 | | | | 堂本　絵理 | 2 | | | 抽選 | 30名 |
| | | デザイン制作応用 | デザイン思考とメディア表現を学ぶ | 前 | 2 | | | | 宮地　英和 | 2 | | 不可 | 抽選 | 30名 |
| | | ラジオ番組制作 | 音声の世界で伝える表現を学ぶ | 後 | 2 | | | 非 | 中井　佳絵 | 2 | | 不可 | 抽選 | 18名 |
| | | 映像制作応用 | 映像で「社会を見つめる」 | 前 | 2 | | | | 徳永　博充 | 2 | | 不可 | 抽選 | 18名 |
| | | ＣＭ制作 | ビジネスを意識したＣＭ制作 | 後 | 2 | | | | 北野　尚人 | 2 | | 不可 | 抽選 | 18名 |
| | | 映像コンテンツ制作論 | ラジオ・テレビ・映画・Web で、高評価なコンテンツ作りの考え方と方法を学ぶ | 後 | 2 | | | 非 | 門田　大地 | 2 | | 不可 | | |

## 3 ゼミ科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ゼミ科目 | 大学入門ゼミ （注1） | | 前 | 2 | ◎ | 済 | | 新垣　繁秀 | 1 | 指定されたクラスで履修すること。 | | | 学科ごとに別途定める |
| | | | | | | | | 小笠原　礼以 | | | | | |
| | | | | | | | | 重本　洋一 | | | | | |
| | | | | | | | | 末広　菜穂子 | | | | | |
| | | | | | | | | 竹林　栄治 | | | | | |
| | | | | | | | | 中嶋　則夫 | | | | | |
| | | | | | | | | 野北　晴子 | | | | | |
| | | | | | | | | 平下　義記 | | | | | |
| | | | | | | | | 平本　賢了 | | | | | |
| | | | | | | | | 藤谷　則夫 | | | | | |
| | | | | | | | | 堀江　真由美 | | | | | |
| | | | | | | | | 松榮　豊貴 | | | | | |
| | | | | | | | | 森山　玲子 | | | | | |
| | | | | | | | | 山根　智沙子 | | | | | |
| | | | | | | | | 楊　義申 | | | | | |
| | | | | | | | | 坂水　貴司 | | | | | |
| | | | | | | | | 澤　滋久 | | | | | |
| | | | | | | | | 高石　哲弥 | | | | | |
| | | | | | | | | 田中　泉 | | | | | |
| | | | | | | | | 濵田　敏彦 | | | | | |
| | | | | | | | | 前馬　優策 | | | | | |
| | | | | | | | | 宮岡　弥生 | | | | | |
| | | | | | | | | 宮畑　加奈子 | | | | | |
| | | | | | | 営 | | 東　幸代 | | | | | |
| | | | | | | | | 石川　明美 | | | | | |
| | | | | | | | | 岡田　斎 | | | | | |
| | | | | | | | | 岡本　康昭 | | | | | |
| | | | | | | | | 幸田　圭一朗 | | | | | |
| | | | | | | | | 角　裕太 | | | | | |
| | | | | | | | | 瀬戸　正則 | | | | | |
| | | | | | | | | 広田　堅志 | | | | | |
| | | | | | | | | 福田　正太郎 | | | | | |
| | | | | | | | | 藤原　久嗣 | | | | | |
| | | | | | | | | 細井　謙一 | | | | | |
| | | | | | | | | 堀江　浩司 | | | | | |
| | | | | | | | | 松川　佳洋 | | | | | |
| | | | | | | | | 宮辻　渉 | | | | | |
| | | | | | | | | 餅川　正雄 | | | | | |
| | | | | | | | | 岡安　功 | | | | | |
| | | | | | | | | 林　和夫 | | | | | |
| | | | | | | | | 松田　亮 | | | | | |
| | | | | | | | | 木本　一成 | | | | | |
| | | | | | | | | 胤森　裕暢 | | | | | |
| | | | | | | | | 寺本　康俊 | | | | | |
| | | | | | | ス | | 尾方　剛 | | | | | |
| | | | | | | | | 永田　智章 | | | | | |
| | | | | | | | | 松本　耕二 | | | | | |
| | | | | | | | | 柳川　和優 | | | | | |
| | | | | | | | | 渡辺　泰弘 | | | | | |
| | | | | | | ビ | | 石野　亜耶 | | | | | |
| | | | | | | | | 久保　大支 | | | | | |
| | | | | | | | | 杉山　克典 | | | | | |
| | | | | | | | | 関　隆教 | | | | | |
| | | | | | | | | 田浦　元 | | | | | |
| | | | | | | | | 溝下　博 | | | | | |
| | | | | | | メ | | 阿部　純 | | | | | |
| | | | | | | | | 井上　英之 | | | | | |
| | | | | | | | | 土屋　祐子 | | | | | |
| | | | | | | | | 宮地　英和 | | | | | |
| | | | | | | | | 宮田　庄悟 | | | | | |
| | | | 後 | | | 再 | | 岡本　恵子 | | 全学科対象 | | | |
| | | | | | | | | 神田　義浩 | | | | | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考(履修条件) | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 興動人入門ゼミ(注2) | | 後 | 2 | ◎ | 済 | | 新垣　繁秀 | 1 | 指定されたクラスで履修すること。 | | | 学科ごとに別途定める |
| | | | | | | | | 小笠原　礼以 | | | | | |
| | | | | | | | | 重本　洋一 | | | | | |
| | | | | | | | | 末広　菜穂子 | | | | | |
| | | | | | | | | 竹林　栄治 | | | | | |
| | | | | | | | | 中嶋　則夫 | | | | | |
| | | | | | | | | 野北　晴子 | | | | | |
| | | | | | | | | 平下　義記 | | | | | |
| | | | | | | | | 平本　賢了 | | | | | |
| | | | | | | | | 藤谷　則夫 | | | | | |
| | | | | | | | | 堀江　真由美 | | | | | |
| | | | | | | | | 松榮　豊貴 | | | | | |
| | | | | | | | | 森山　玲子 | | | | | |
| | | | | | | | | 山根　智沙子 | | | | | |
| | | | | | | | | 楊　義申 | | | | | |
| | | | | | | | | 坂水　貴司 | | | | | |
| | | | | | | | | 澤　滋久 | | | | | |
| | | | | | | | | 高石　哲弥 | | | | | |
| | | | | | | | | 田中　泉 | | | | | |
| | | | | | | | | 濵田　敏彦 | | | | | |
| | | | | | | | | 前馬　優策 | | | | | |
| | | | | | | | | 宮岡　弥生 | | | | | |
| | | | | | | | | 宮畑　加奈子 | | | | | |
| | | | | | | 営 | | 東　幸代 | | | | | |
| | | | | | | | | 石川　明美 | | | | | |
| | | | | | | | | 岡田　斎 | | | | | |
| | | | | | | | | 岡本　康昭 | | | | | |
| | | | | | | | | 幸田　圭一朗 | | | | | |
| | | | | | | | | 角　裕太 | | | | | |
| | | | | | | | | 瀬戸　正則 | | | | | |
| | | | | | | | | 広田　堅志 | | | | | |
| | | | | | | | | 福田　正太郎 | | | | | |
| | | | | | | | | 藤原　久嗣 | | | | | |
| | | | | | | | | 細井　謙一 | | | | | |
| | | | | | | | | 堀江　浩司 | | | | | |
| | | | | | | | | 松川　佳洋 | | | | | |
| | | | | | | | | 宮辻　渉 | | | | | |
| | | | | | | | | 餅川　正雄 | | | | | |
| | | | | | | | | 岡安　功 | | | | | |
| | | | | | | | | 林　和夫 | | | | | |
| | | | | | | | | 松田　亮 | | | | | |
| | | | | | | | | 木本　一成 | | | | | |
| | | | | | | | | 胤森　裕暢 | | | | | |
| | | | | | | | | 寺本　康俊 | | | | | |
| | | | | | | ス | | 尾方　剛 | | | | | |
| | | | | | | | | 永田　智章 | | | | | |
| | | | | | | | | 松本　耕二 | | | | | |
| | | | | | | | | 柳川　和優 | | | | | |
| | | | | | | | | 渡辺　泰弘 | | | | | |
| | | | | | | ビ | | 石野　亜耶 | | | | | |
| | | | | | | | | 久保　大支 | | | | | |
| | | | | | | | | 杉山　克典 | | | | | |
| | | | | | | | | 関　隆教 | | | | | |
| | | | | | | | | 田浦　元 | | | | | |
| | | | | | | | | 溝下　博 | | | | | |
| | | | | | | メ | | 阿部　純 | | | | | |
| | | | | | | | | 井上　英之 | | | | | |
| | | | | | | | | 土屋　祐子 | | | | | |
| | | | | | | | | 宮地　英和 | | | | | |
| | | | | | | | | 宮田　庄悟 | | | | | |
| | | | 前 | | | 再 | | 岡本　恵子 | | 全学科対象 | | | |
| | | | | | | | | 神田　義浩 | | | | | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | プレゼミ　（注3） | | 後 | 2 | ◎ | 済・営 | | 新垣　繁秀 | 2 | | | 選考 | 15名 |
| | | | | | | | | 小笠原　礼以 | | | | | |
| | | | | | | | | 重本　洋一 | | | | | |
| | | | | | | | | 末広　菜穂子 | | | | | |
| | | | | | | | | 竹林　栄治 | | | | | |
| | | | | | | | | 得津　康義 | | | | | |
| | | | | | | | | 中嶋　則夫 | | | | | |
| | | | | | | | | 野北　晴子 | | | | | |
| | | | | | | | | 平下　義記 | | | | | |
| | | | | | | | | 平本　賢了 | | | | | |
| | | | | | | | | 福居　信幸 | | | | | |
| | | | | | | | | 藤谷　則夫 | | | | | |
| | | | | | | | | 堀江　真由美 | | | | | |
| | | | | | | | | 松榮　豊貴 | | | | | |
| | | | | | | | | 森山　玲子 | | | | | |
| | | | | | | | | 山根　智沙子 | | | | | |
| | | | | | | | | 楊　義申 | | | | | |
| | | | | | | | | 東　幸代 | | | | | |
| | | | | | | | | 岡田　斎 | | | | | |
| | | | | | | | | 岡本　康昭 | | | | | |
| | | | | | | | | 幸田　圭一朗 | | | | | |
| | | | | | | | | 坂間　十和子 | | | | | |
| | | | | | | | | 角　裕太 | | | | | |
| | | | | | | | | 瀬戸　正則 | | | | | |
| | | | | | | | | K. I. ツエ | | | | | |
| | | | | | | | | 広田　堅志 | | | | | |
| | | | | | | | | 福田　正太郎 | | | | | |
| | | | | | | | | 藤原　久嗣 | | | | | |
| | | | | | | | | 細井　謙一 | | | | | |
| | | | | | | | | 堀江　浩司 | | | | | |
| | | | | | | | | 松川　佳洋 | | | | | |
| | | | | | | | | 宮辻　渉 | | | | | |
| | | | | | | | | 餅川　正雄 | | | | | |
| | | | | | | | | 岡本　貞雄 | | | | | |
| | | | | | | | | 神田　義浩 | | | | | |
| | | | | | | | | 木本　一成 | | | | | |
| | | | | | | | | 坂水　貴司 | | | | | |
| | | | | | | | | 澤　滋久 | | | | | |
| | | | | | | | | 高石　哲弥 | | | | | |
| | | | | | | | | 田中　泉 | | | | | |
| | | | | | | | | 寺本　康俊 | | | | | |
| | | | | | | | | 濵田　敏彦 | | | | | |
| | | | | | | | | 前馬　優策 | | | | | |
| | | | | | | | | 宮岡　弥生 | | | | | |
| | | | | | | | | 宮畑　加奈子 | | | | | |
| | | | | | | ス | | 岡安　功 | | | | | 8名 |
| | | | | | | | | 中村　隆行 | | | | | |
| | | | | | | | | 永田　智章 | | | | | |
| | | | | | | | | 林　和夫 | | | | | |
| | | | | | | | | 松田　亮 | | | | | |
| | | | | | | | | 松本　耕二 | | | | | |
| | | | | | | | | 柳川　和優 | | | | | |
| | | | | | | | | 渡辺　泰弘 | | | | | |
| | | | | | | ビ | | 石野　亜耶 | | | | | 10名 |
| | | | | | | | | 久保　大支 | | | | | |
| | | | | | | | | 杉山　克典 | | | | | |
| | | | | | | | | 関　隆教 | | | | | |
| | | | | | | | | 田浦　元 | | | | | |
| | | | | | | | | 丹羽　啓一 | | | | | |
| | | | | | | | | 溝下　博 | | | | | |
| | | | | | | メ | | 阿部　純 | | | | | 12名 |
| | | | | | | | | 井上　英之 | | | | | |
| | | | | | | | | 土屋　祐子 | | | | | |
| | | | | | | | | 堂本　絵理 | | | | | |
| | | | | | | | | 宮地　英和 | | | | | |
| | | | | | | | | 宮田　庄悟 | | | | | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備　考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | １クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 演習Ⅰ　（注４） | | 通 | 4 | ◎ | | | | 3 | | | 選考 | |
| | 演習Ⅱ　（注５） | | 通 | 6 | ◎ | | | | 4 | | | 選考 | |

**≪履修上の注意事項≫**

**大学入門ゼミ、興動人入門ゼミ**

●「大学入門ゼミ（前期開講）」及び「興動人入門ゼミ（後期開講）」は、１年次生必修科目で、進級認定の要件科目である。

●新入生は、指定されたクラスで履修すること。

●「大学入門ゼミ」及び「興動人入門ゼミ」は同一教員とする（変更不可）。

●前期開講の「大学入門ゼミ」が不認定（単位未修得）の場合の取扱い。

・後期に開講される「大学入門ゼミ（再履修クラス）」を履修し、単位を修得しなければならない（後期履修登録）。

・１年次前期において半期休学し、「大学入門ゼミ」を未履修の場合は、後期に開講される「大学入門ゼミ（再履修クラス）」を履修し、単位を修得しなければならない。

・再履修クラスにより履修した「大学入門ゼミ」の評価が、不可又は評価不能の場合、もしくは「大学入門ゼミ」を在籍年数１年目までに未履修の場合は、代替科目指定登録により、「大学入門ゼミ（２単位）」の単位を充足すること。

●後期開講の「興動人入門ゼミ」が不認定（単位未修得）の場合の取扱い。

・次年度前期に開講される「興動人入門ゼミ（再履修クラス）」を履修し、単位を修得しなければならない。

・１年次において休学し、「興動人入門ゼミ」を未履修の場合は、次年度前期に開講される再履修クラスを履修し、単位を修得しなければならない。

・再履修クラスにより履修した「興動人入門ゼミ」の評価が、不可又は評価不能の場合、もしくは「興動人入門ゼミ」を在籍年数1.5年目までに未履修の場合は、代替科目指定登録により、「興動人入門ゼミ（２単位）」の単位を充足すること。

**（注２）プレゼミ**

●「プレゼミ」はゼミ科目における2年次配当の必修科目で、進級認定の要件科目である。

●２年次前期に登録した担当教員の「プレゼミ」を履修しなければならない。

●「プレゼミ」の単位未修得者の取扱い。

・次年度に開講される「プレゼミ」を履修し、単位を修得しなければならない。

・「プレゼミ」の単位未修得者は、3年次へ進級ができない（2年次に留年）。

**（注３）演習Ⅰ、演習Ⅱ**

●「演習Ⅰ（４単位）」は、全学科のゼミ科目における３年次配当の必修科目である。

●２年次後期に登録した担当教員の「演習Ⅰ」を履修しなければならない。

●「演習Ⅱ（６単位）」は、全学科のゼミ科目における４年次配当の必修科目である。

●「演習Ⅱ」は、「演習Ⅰ」の単位を修得した者のみ履修できる。なお、「演習Ⅰ」と同じ担当教員の「演習Ⅱ」を履修しなければならない。

●同一年度での「演習Ⅰ」と「演習Ⅱ」の同時履修はできない。

●「演習Ⅰ」が不可又は評価不能だった場合は、担当教員を変更することができる。

## 4 能力開発科目

### ① 税理士関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 簿記論基礎 | 簿記論Ⅰ | 簿記論の基礎講義 | 前2 | 4 | | | 派 | 橋本　弘 | 1 | ・日商簿記2級以上、全商簿記1級又は全経簿記1級以上の資格取得者で、簿記入門及び初級簿記Ⅰの単位を資格振替により修得した者は、必ずこの科目を履修しなければならない | | 抽選 | 40名 |
| 簿記論応用 | 簿記論Ⅱ | 簿記論の応用講義、問題演習 | 後2 | 4 | | | 派 | 橋本　弘 | 1 | | | 抽選 | 40名 |
| 財務諸表論基礎 | 財務諸表論Ⅰ | 財務諸表論の基礎講義 | 前2 | 4 | | | 派 | 橋本　弘 | 1 | | | 抽選 | 40名 |
| 財務諸表論応用 | 財務諸表論Ⅱ | 財務諸表論の応用講義、問題練習 | 後2 | 4 | | | 派 | 橋本　弘 | 1 | | | 抽選 | 40名 |

### ② ファイナンシャル・プランナー（ＡＦＰ）関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 資産運用実務Ⅰ | 暮らしとお金に関する知識を学ぶ～相続・金融・税金・不動産の知識～ | 前2 | 4 | | | 派<br>派 | 常山　慶三<br>石田　知美 | 2 | | 抽選 | 50名 |
| | 資産運用実務Ⅱ | 暮らしとお金に関する知識を学ぶ～ライフプラン・保険、提案書作成～ | 後2 | 4 | | | 派<br>派 | 常山　慶三<br>石田　知美 | 2 | | 抽選 | 50名 |

### ③ 宅地建物取引士関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 不動産実務法務Ⅰ | 不動産取引の契約、権利関係・その他（民法を日常生活に活用） | 後2 | 4 | | | 派 | 河口　忠史 | 1 | | 抽選 | 50名 |
| | 不動産実務法務Ⅱ | 宅建業法（この分野20問の満点攻略法） | 前 | 2 | | | 派 | 河口　忠史 | 2 | | 抽選 | 50名 |
| | 不動産実務法務Ⅲ | 不動産の法令上の制限・取引にかかる税や評価その他（もう３点ＵＰ） | 前 | 2 | | | 派 | 河口　忠史 | 2 | | 抽選 | 50名 |

### ④ ＩＴパスポート関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ＩＴ戦略とマネージメント | | 前2 | 4 | | | 派 | 土山　ゆかり | 2 | | 抽選 | 35名 |
| | 情報化技術 | | 後2 | 4 | | | 派 | 土山　ゆかり | 2 | | 抽選 | 35名 |

### ⑤ 野村證券㈱提供関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 資本市場の役割と証券投資 | | 前 | 2 | | | | 糠谷　英輝<br>福居　信幸 | 2 | | | |

### ⑥ 中小企業大学校研修プログラム

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 中小企業大学校研修プログラム | | | 1又は2 | | | | | 2 | ・受講を許可された者は、本学指定の教員より事前指導2コマ以上、事後指導1コマ以上を受講しなければならない<br>・単位の認定については、「諸規程集」の頁に掲載の"広島経済大学中小企業大学校研修プログラム単位認定細則"による<br>・中小企業大学校研修プログラムへの参加を希望する者は、学務センター教務課に申し出て、審査の上、許可される<br>・詳細は、学務センター教務課へ問い合せること | 選考 | |

**≪履修上の注意事項≫**

能力開発科目の履修登録は、それぞれに設定された履修登録説明会に出席の上、履修登録を行うこと。（「資本市場の役割と証券投資」と「中小企業大学校研修プログラム」を除く）

## 5 キャリア科目

### ① キャリアプランニング関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | キャリアスキルズⅠ | キャリアデザインを考え、その実現に向けての課題を設定する | 前 | 2 | | | | 松川　佳洋 | 2 | 2・3年次生のみ履修可 | 抽選 | 125名 |
| | キャリアスキルズⅡ | 仕事を選ぶ力をつけよう～様々な仕事、様々な働き方～ | 後 | 2 | | | | 松川　佳洋 | 2 | 2・3年次生のみ履修可 | 抽選 | 200名 |

### ② 就職対策試験関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 社会人基礎学力基礎 | 就職筆記試験対策の基礎編。学力の基礎固めと応用力を身につける | 前 | 2 | | a | | 平岡　賢治 | 1 | | 抽選 | 100名 |
| | | | 後 | | | b | | 平岡　賢治 | | | | |
| | 社会人基礎学力応用 | 就職筆記試験対策の応用編。「模擬テスト」と「対策授業」を組み合わせて得点力アップを図る | 前 | 2 | | a | | 平岡　賢治 | 1 | | 抽選 | 100名 |
| | | | 後 | | | b | | 平岡　賢治 | | | | |

### ③ 教員採用試験関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 教職教養 | 教員採用試験の筆記試験に重点をおいた対策授業「教育法規」「教育史」「教育時事」 | 後 | 2 | | | | 前馬　優策 | 3 | 教職課程登録者のみ履修可 | | |
| | 思考力開発 | 教員採用試験の中でも特に近年重要視されている“人物試験”対策授業「論作文」「出願書類」「面接」 | 後 | 2 | | | 派 | 胤森　裕暢<br>餅川　正雄<br>田中　泉<br>神田　義浩<br>沖田　悟傳 | 3 | 教職課程登録者のみ履修可 | | |

### ④ 女子学生支援関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 女子学生のためのキャリア形成入門 | 凛とした女性として活躍するための自分磨き | 前 | 2 | | | | 木本　一成<br>森山　玲子<br>迫田　奈美子 | 1 | 女子学生のみ履修可 | 抽選 | 60名 |

### ⑤ インターンシップ

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | インターンシップⅠ（国内） | 社会人に求められる素養を、企業研修から学び身につけよう | 前 | 2 | | a1 | | 岡田　斎 | 2 | ・インターンシップⅠ（国内）への参加を希望する者は、インターンシップⅠ（国内）履修ガイダンスに参加すること。詳細はキャリアセンターへ問い合わせること。 | 選考 | 40名<br>（a1～a5をaクラス、b1～b5をbクラスとし、各クラスの定員を40名とする。） |
| | | | | | | a2 | | 小笠原　礼以 | | | | |
| | | | | | | a3 | | 高石　哲弥 | | | | |
| | | | | | | a4 | | 堀江　浩司 | | | | |
| | | | | | | a5 | | 宮田　庄悟 | | | | |
| | | | | | | b1 | | 澤　滋久 | | | | |
| | | | | | | b2 | | 藤口　光紀 | | | | |
| | | | | | | b3 | | 松榮　豊貴 | | | | |
| | | | | | | b4 | | 山本　雅昭 | | | | |
| | | | | | | b5 | | 渡辺　勇一 | | | | |
| | インターンシップⅡ（海外） | 国際的な企業人に求められる素養を、海外企業研修から学び身につける | 通 | 4 | | | | 平本　賢了<br>楊　義申<br>宮畑　加奈子 | 3 | ・インターンシップⅡ（海外）への参加を希望する者は、インターンシップⅡ（海外）履修ガイダンスに参加すること。詳細はキャリアセンターへ問い合わせること。 | 選考 | |

### ⑥ 学校インターンシップ

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校インターンシップ | | | 2 | | | | | 2 | ・教職課程登録者のうち、「教職入門」及び「教育原理」の単位修得者で、「教育実習のためのマナー講習」を受講した者のみ参加できる<br>・単位の認定については、「諸規程集」の頁に掲載の“広島経済大学学校インターンシップ単位認定細則”による<br>・単位を修得した場合、卒業認定の要件として必要な単位に算入する。ただし、教員免許状取得のための要件単位にはならない<br>・学校インターンシップへの参加を希望する者は、学務センター教務課に申し出ること。詳細は、学務センター教務課へ問い合わせること | 選考 | |

## 6 興動館科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 元気力 | わが人生の転機Ⅰ（教職員編） | | 前 | 2 | | | | 小谷　幸生<br>石田　優子 | 1 | | 抽選 | 50名 |
| | わが人生の転機Ⅱ（同窓生編） | | 後 | 2 | | | | 餅川　正雄 | 1 | | 抽選 | 50名 |
| | 「笑い」のパワー・生きる力 | | 特設(サマー) | 2 | | | 非<br>非 | 山本　公平<br>矢野　宗宏 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | 禅（ZEN）で元気なこころとからだをつくろう | | 前<br>後 | 2 | | a<br>b | 非 | 岡本　貞雄<br>安部　貴彦 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | ライフプラン（人生設計）でやる気づくり | | 前<br>後 | 2 | | a<br>b | 派 | 倉橋　孝博 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| 企画力 | 瀬戸内海地域の魅力を発信しよう | | 前 | 2 | | | | 濵田　敏彦 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | 企画力養成講座 | | 後 | 2 | | | | 長谷川　泰志 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | 経営実践 | | 特設(サマー) | 2 | | | | 藤原　久嗣 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | みんなで教材を創ろう | | 前 | 2 | | | 派 | 堀江　清二 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | プロスポーツによる広島活性化講座 | | 前 | 2 | | | 派 | 木村　亮平 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | 「私たちの広島」PR実践 | | 後 | 2 | | | | 土屋　祐子 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | 文芸創作実践 | 詩歌や小説を創作、表現技術と感性を磨く | 後 | 2 | | | | 岡本　恵子 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | コピーライティング実践講座 | | 前 | 2 | | | | 北野　尚人 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | 興動館プロジェクトと企画力 | | 前 | 2 | | | 非 | 細川　志織 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | 人の行動を経済学で読み解く | | 後 | 2 | | | | 得津　康義<br>新垣　繁秀<br>山根　智沙子 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| 行動力 | ビジネス・シミュレーション・ゲーム | | 前 | 2 | | | 派<br>派<br>派 | 伊豆田　功<br>久保田　浩二<br>金原　光広 | 1 | 履修者が9名未満の場合は開講しない | 抽選 | 30名 |
| | 身近なボランティア活動 | | 後 | 2 | | | | 中村　隆行 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | NPO・NGOの立ち上げと活動 | | 前 | 2 | | | | 中村　隆行 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | 戦略MG（マネジメントゲーム） | | 前<br>後 | 2 | | a<br>b | 派 | 松浦　久幸 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | 興動館プロジェクトの計画と実施 | | 前 | 2 | | | | 中村　隆行 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | 興動館プロジェクトの評価と改善 | | 後 | 2 | | | | 中村　隆行 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | 森の社会貢献実践 | | 特設(サマー) | 2 | | | 非 | 仲村　正彦 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | 興動館プロジェクトの経営戦略 | | 後 | 2 | | | | 中村　隆行 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| 共生力 | 広い世界に飛び出そう | | 後 | 2 | | | | G. R. ハラダ<br>山本　貴裕 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | ゲームを通じてグローバル社会を理解しよう | | 後 | 2 | | | | 広田　堅志 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | スポーツで学ぶ共生力 | | 前 | 2 | | | 非 | T. フランク | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | コミュニケーション実践 | 相手に届き、相手を動かす音声表現の練習 | 前 | 2 | | | 非 | 重野　裕美 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | 広島とハワイで学ぼう！めざせ国際人 | | 前 | 2 | | | | 田中　泉<br>山本　貴裕 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | 興動館プロジェクトとコミュニケーション | | 後 | 2 | | | 非 | 志賀　誠治 | 1 | | 抽選 | 30名 |
| | ユニバーサルデザイン実践 | | 後 | 2 | | | | 宮地　英和 | 1 | | 抽選 | 30名 |

**≪履修上の注意事項≫**

●興動館科目の授業の中で、興動館で行われるものについては、本学キャンパスからの移動時間（徒歩15分）なども考慮して、時間割の計画を立てること。

## 7 留学生科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 正規留学生の日本語関係科目 | 日本語A | | 前2 | 2 | | a | 非<br>非 | 山中　康子<br>佐藤　道雄 | 1 | 留学生のみ履修可<br>正規留学生は卒業要件外 | | |
| | | | 後2 | | | b | 非<br>非 | 山中　康子<br>佐藤　道雄 | | | | |
| | 日本語B | | 前2 | 2 | | a | 非<br>非 | 坂本　はるえ<br>佐藤　道雄 | 1 | 留学生のみ履修可<br>正規留学生は卒業要件外 | | |
| | | | 後2 | | | b | 非<br>非 | 坂本　はるえ<br>佐藤　道雄 | | | | |
| | 日本語（基礎A） | 聴解・会話 | 前 | 1 | | | 非 | 山中　康子 | 1 | 留学生のみ履修可 | | |
| | 日本語（基礎B） | レポートの書き方① | 前 | 1 | | | | 宮岡　弥生 | 1 | 留学生のみ履修可 | | |
| | 日本語（基礎C） | 文字・語彙・文法 | 前 | 1 | | | 非 | 家村　伸子 | 1 | 留学生のみ履修可 | | |
| | 日本語（基礎D） | 長文読解 | 後 | 1 | | | 非 | 家村　伸子 | 1 | 留学生のみ履修可 | | |
| | 日本語（基礎E） | プレゼンテーションの仕方 | 後 | 1 | | | 非 | 山中　康子 | 1 | 留学生のみ履修可 | | |
| | 日本語（基礎F） | レポートの書き方② | 後 | 1 | | | | 宮岡　弥生 | 1 | 留学生のみ履修可 | | |
| | 日本語（発展A） | 読解 | 前 | 1 | | | 非 | 家村　伸子 | 2 | ・留学生のみ履修可<br>・「日本語Ⅲ」又は「日本語Ⅳ」の単位修得者は履修不可 | | |
| | 日本語（発展B） | 聴解 | 前 | 1 | | | 非 | 山中　康子 | 2 | ・留学生のみ履修可<br>・「日本語Ⅲ」又は「日本語Ⅳ」の単位修得者は履修不可 | | |
| | 日本語（発展C） | 言語知識 | 前 | 1 | | | 非 | 坂本　はるえ | 2 | 留学生のみ履修可 | | |
| | ビジネス日本語A | 聴解・聴読解 | 後 | 1 | | | 非 | 家村　伸子 | 2 | ・留学生のみ履修可<br>・「日本語Ⅴ」の単位修得者は履修不可 | | |
| | ビジネス日本語B | 語彙・文法 | 後 | 1 | | | 非 | 坂本　はるえ | 2 | ・留学生のみ履修可<br>・「日本語Ⅵ」の単位修得者は履修不可 | | |
| | ビジネス日本語C | 就職活動・ビジネス場面で必要な日本語 | 後 | 1 | | | 非 | 山中　康子 | 2 | 留学生のみ履修可 | | |
| 交換留学生科目 | 日本語と日本文化入門 | | 前2<br>後2 | 2 | | a<br>b | 非 | 宮岡　弥生<br>林炫情 | 1 | 交換留学生のみ履修可。但し、「日本語と日本文化」の同時履修及び単位修得者の履修は不可。 | | |
| | 日本語と日本文化 | | 前2<br>後2 | 2 | | a<br>b | 非 | 宮岡　弥生<br>林炫情 | 1 | 交換留学生のみ履修可 | | |
| | 交換留学日本語(初級Ⅰ) | | 前3 | 3 | | a | 非 | 宮岡　弥生<br>家村　伸子 | 1 | 交換留学生のみ履修可 | | |
| | | | 後3 | | | b | 非 | 坂本　はるえ | | | | |
| | 交換留学日本語(初級Ⅱ) | | 前3 | 3 | | a | 非<br>非 | 家村　伸子<br>坂本　はるえ | 1 | 交換留学生のみ履修可 | | |
| | | | 後3 | | | b | 非<br>非 | 家村　伸子<br>坂本　はるえ | | | | |
| | 交換留学日本語（中級） | | 前3 | 3 | | a | 非<br>非 | 山中　康子<br>坂本　はるえ | 1 | 交換留学生のみ履修可 | | |
| | | | 後3 | | | b | 非 | 家村　伸子 | | | | |
| | 交換留学日本語（上級AⅠ） | 語彙・文法 | 前 | 1 | | a | 非 | 坂本　はるえ | 1 | 交換留学生のみ履修可 | | |
| | | | 後 | | | b | | | | | | |
| | ※交換留学日本語（上級AⅡ） | 語彙・文法 | | 1 | | | | | 1 | ・交換留学生のみ履修可<br>・2020（令和2）年度開講せず | | |
| | 交換留学日本語（上級BⅠ） | 聴解・読解 | 前 | 1 | | a | 非 | 山中　康子 | 1 | 交換留学生のみ履修可 | | |
| | | | 後 | | | b | | | | | | |
| | ※交換留学日本語（上級BⅡ） | 聴解・読解 | | 1 | | | | | 1 | ・交換留学生のみ履修可<br>・2020（令和2）年度開講せず | | |
| | 交換留学日本語（上級CⅠ） | 会話 | 前 | 1 | | a | 非 | 坂本　はるえ | 1 | 交換留学生のみ履修可 | | |
| | | | 後 | | | b | | | | | | |
| | ※交換留学日本語（上級CⅡ） | 会話 | | 1 | | | | | 1 | ・交換留学生のみ履修可<br>・2020（令和2）年度開講せず | | |
| | Practical Management Theory for International Students Ⅰ | | 前 | 2 | | | | G. R. ハラダ | 1 | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | Practical Management Theory for International Students Ⅱ | | 後 | 2 | | | | G. R. ハラダ | 1 | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | Independent Study Ⅰ | | 前 | 2 | | | | G. R. ハラダ | 1 | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | Independent Study Ⅱ | | 後 | 2 | | | | G. R. ハラダ | 1 | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | Independent Study Ⅲ | | 前 | 2 | | | | K. I. ツエ | 1 | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | Independent Study Ⅳ | | 後 | 2 | | | | K. I. ツエ | 1 | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | Japanese Law and Society Ⅰ | | 前 | 2 | | | | G. R. ハラダ | 1 | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | Japanese Law and Society Ⅱ | | 後 | 2 | | | | G. R. ハラダ | 1 | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | International Trade | | 前 | 2 | | a | | 宜名眞　勇 | 1 | ・交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | | | 後 | | | b | | | | | | |
| | Japanese Financial System | | 後 | 2 | | | | 福居　信幸 | 1 | 交換留学生以外で履修を希望する者は、経済学科の同科目（3年次配当）を履修すること | | |
| | Japanese Economy | | 前 | 2 | | a | | 宜名眞　勇 | 1 | 交換留学生以外で履修を希望する者は、経済学科の同科目（2年次配当）を履修すること | | |
| | | | 後 | | | b | | | | | | |
| | International Economics | | 前 | 2 | | a | 非 | Ian Bisset | 1 | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要（TOEIC500点以上相当の英語能力が必要） | | |
| | | | 後 | | | b | | | | | | |
| | Environment and Business | | 前 | 2 | | a | | 田中　章司郎 | 1 | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | | | 後 | | | b | | | | | | |
| | Theory and Practice of Budo | | 前 | 2 | | a | | G. R. ハラダ<br>M. J. タンコシッチ | 1 | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | | | 後 | | | b | | | | | | |
| | Issues in Contemporary Japan | Demographics, gender, population, and employment | 前 | 2 | | a | | R. フォレスト | 1 | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | | | 後 | | | b | | | | | | |
| | Japan and the Environment | | 前 | 2 | | a | | R. フォレスト | 1 | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | | | 後 | | | b | | | | | | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備　考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Study on International Issues and Challenges | Independent Research on UN SDGs | 前 | 2 | | a | | G. R. ハラダ | 1 | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | | | 後 | | | b | | | | | | |
| | Japanese Religion and Culture | A Global Perspective | 前 | 2 | | a | | 山本　貴裕 | 1 | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | | | 後 | | | b | | | | | | |
| | Intercultural Communication | Cultivation of Cultural Competence and Team Building | 後 | 2 | | | | G. R. ハラダ<br>山本　貴裕 | 1 | 交換留学生以外で履修を希望する者は、興動館科目の「広い世界に飛び出そう」を履修すること。 | | |

**≪履修上の注意事項≫**

1．正規留学生による日本語関係科目の修得単位の取り扱いは、次のとおりである。

(1)「日本語（基礎Ａ）（１単位）」、「日本語（基礎Ｂ）（１単位）」、「日本語（基礎Ｃ）（１単位）」、「日本語（基礎Ｄ）（１単位）」、「日本語（基礎Ｅ）（１単位）」、「日本語（基礎Ｆ）（１単位）」を修得した場合は、「共通科目」における「外国語科目」の１年次必修科目の単位数（５単位）に充当することができる。
なお、５単位を超えて修得した単位数は、「共通科目」のうち「選択科目」の修得単位数として計算する。

(2)「日本語（発展Ａ）（１単位）」、「日本語（発展Ｂ）（１単位）」、「日本語（発展Ｃ）（１単位）」、「ビジネス日本語Ａ（１単位）」、「ビジネス日本語Ｂ（１単位）」、「ビジネス日本語Ｃ（１単位）」を修得した場合は、「共通科目」における「外国語科目」の２年次必修科目の単位数（１単位）及び２年次選択必修科目の単位数（２単位）の合計単位数（３単位）に充当することができる。なお、３単位を超えて修得した単位数は、「共通科目」のうち「選択科目」の修得単位数として計算する。

(3)「日本文化論Ⅰ（２単位）」、「日本文化論Ⅱ（２単位）」を修得したときは、「共通科目」のうち「選択科目」の修得単位数として計算する。

2. 交換留学生科目のうち「交換留学日本語（初級Ⅰ・Ⅱ）」、「交換留学日本語（中級）」、「交換留学日本語（上級Ａ Ⅰ・Ⅱ）」、「交換留学日本語（上級Ｂ Ⅰ・Ⅱ）」、「交換留学日本語（上級Ｃ Ⅰ・Ⅱ）」、「日本語と日本文化入門」及び「日本語と日本文化」以外の科目は、交換留学生以外の学部生（日本人学生を含む）も履修することができる。ただし、履修を希望する者は、第１回目の授業に出席し、担当教員の承認を受けることが必要である。なお、当該単位を修得した場合は、「自由選択科目」の単位として算入する。

## 8 教職関連科目

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教職関連科目 | 教科及び教科の指導法に関する科目のうち、各教科の指導法 | 中学社会科教育法Ⅰ | | 前 | 2 | 中 | | | 胤森　裕暢 | 2 | | | |
| | | 中学社会科教育法Ⅱ | | 後 | 2 | 中 | | | 田中　泉 | 2 | | | |
| | | 社会・地理歴史科教育法 | | 後 | 2 | 中地 | | | 田中　泉 | 3 | | | |
| | | 社会・公民科教育法 | | 前 | 2 | 中公 | | | 胤森　裕暢 | 3 | | | |
| | | 地理歴史科教育法 | | 前 | 2 | 地 | | | 田中　泉 | 3 | | | |
| | | 公民科教育法 | | 後 | 2 | 公 | | | 胤森　裕暢 | 3 | | | |
| | | 商業科教育法Ⅰ | | 前 | 2 | 商 | | | 餅川　正雄 | 3 | | | |
| | | 商業科教育法Ⅱ | | 後 | 2 | 商 | | | 餅川　正雄 | 3 | | | |
| | | 情報科教育法Ⅰ | 共通教科「情報」の教育目標等を学ぶ | 前 | 2 | 情 | | 非 | 梶川　正 | 3 | | | |
| | | 情報科教育法Ⅱ | 専門教科「情報」の教育目標等を学ぶ | 後 | 2 | 情 | | 非 | 梶川　正 | 3 | | | |
| | 教育の基礎的理解に関する科目 | 教職入門 | | 前 | 2 | ◎ | a | | 胤森　裕暢<br>前馬　優策 | 1 | | | |
| | | | | 後 | | | b | | 胤森　裕暢<br>前馬　優策 | | | | |
| | | 教育原理 | | 前 | 2 | ◎ | b | | 前馬　優策 | 1 | 「教職入門」の単位修得者のみ履修可 | | |
| | | | | 後 | | | a | | 前馬　優策 | | | | |
| | | 教育心理学Ⅰ | | 後 | 2 | ◎ | | | 神田　義浩 | 1 | | | |
| | | 教育心理学Ⅱ | | 前 | 2 | ◎ | | | 神田　義浩 | 2 | | | |
| | | 特別支援教育概論 | | 特設（その他） | 1 | ◎ | | 非 | 堀田　哲一郎 | 2 | | | |
| | | 教育制度論 | | 後 | 2 | ◎ | | 非 | 岡本　徹 | 2 | | | |
| | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 道徳教育指導法 | | 後 | 2 | 中 | | | 胤森　裕暢 | 2 | 2019（平成31）年度以降の入学生のうち、高校一種免許状を取得しようとする者が「道徳教育指導法」の単位を修得した場合は、「大学が独自に設定する科目」の単位とする。 | | |
| | | 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 | | 後 | 2 | ◎ | | 非 | 山田　浩之 | 3 | | | |
| | | 教育方法学（教育課程論を含む） | | 後 | 2 | ◎ | | 非 | 西森　章子 | 2 | | | |
| | | 生徒・進路指導論 | | 前 | 2 | ◎ | | | 餅川　正雄 | 2 | | | |
| | | 教育相談 | | 後 | 2 | ◎ | | | 上手　幸治 | 2 | | | |
| | 教育実践に関する科目 | 教育実習Ⅰ | 事前事後指導 | 特設（その他） | 1 | ◎ | | | 餅川　正雄<br>神田　義浩<br>田中　泉<br>胤森　裕暢<br>前馬　優策 | 3・4 | ※3年次後期及び4年次通年の継続履修科目とする。なお、単位認定は4年次後期のみとする。 | | |
| | | 教育実習Ⅱ | 中免、中・高免 | 特設（その他） | 4 | 中（地公） | | | 胤森　裕暢<br>田中　泉<br>餅川　正雄<br>神田　義浩<br>前馬　優策 | 4 | | | |
| | | 教育実習Ⅲ | 高免 | 特設（その他） | 2 | 地公<br>商情 | | | 田中　泉<br>餅川　正雄<br>胤森　裕暢<br>神田　義浩<br>前馬　優策 | 4 | | | |
| | | 教職実践演習（中･高） | | 後 | 2 | ◎ | | | 胤森　裕暢 | 4 | 教育実習を履修中又は単位修得者のみ履修可 | | |

〔履修区分欄〕　◎……必修科目
地……高校・地理歴史科（免許教科）に関して必修
商……高校・商業科（免許教科）に関して必修
中……中学・社会科（免許教科）に関して必修
公……高校・公民科（免許教科）に関して必修
情……高校・情報科（免許教科）に関して必修

**≪履修上の注意事項≫**

教職課程科目の履修に際しては、「教職課程登録届」を提出し、受理された者のみ履修できる。
教職課程登録者が教職関連科目を履修又は再履修する場合は、その単位数は履修制限単位数には含まない。
教職関連科目の修得単位数は、卒業認定の要件として必要な単位には含まない。

教育職員免許状の取得、教職課程科目などの履修に関しては、別冊『教職課程ガイドブック』を参照すること。

## ●卒業認定の要件表

【経済学部　経済学科】2019(平成31)年度以降入学生（進級要件あり⇒◢進級要件科目・単位）

**卒業認定の要件として必要な単位数の総計　124 以上**

### 共通科目　30 以上

**■必修科目　8**

1年
- ◢必修英語ＡⅠ・必修英語ＡⅡ（計2単位）
- ◢必修英語ＢⅠ・必修英語ＢⅡ（計2単位）
- ◢必修英語ＣⅠ（１単位）
- ◿日本語文章表現（２単位）

2年
- ◢必修英語ＣⅡ（１単位）

→外国人留学生の単位の取扱いは、「教育課程（カリキュラム）7 留学生科目」のページを参照。

**■選択必修科目　14 以上**

- ◿英語（理解系・表現系）（計2単位）
- ◿自己理解系科目　（計６単位）
- ◿他者理解系科目　（計６単位）

**■選択科目　8 以上**

※「選択必修科目」で必要単位数を超えて修得した単位数を含む。

※◢進級要件科目の６単位中４単位以上の修得が進級認定要件となる。

### 経済学科科目　54 以上

**■必修科目　10**

1年
- ◿経済入門（２単位）
- ◿経営入門（２単位）
- ◿ファイナンス入門（２単位）

2年
- ◿ミクロ経済学基礎Ⅰ（２単位）
- ◿マクロ経済学基礎Ⅰ（２単位）

**■選択科目　44 以上**

### 自由選択科目　24 以上

- 他学科科目
- キャリア科目
- 能力開発科目
- 興動館科目
- 交換留学生科目（日本語科目を除く）
- 単位互換科目
- 語学留学振替単位
- 『経済学科科目』の資格関連科目

＋

- 共通科目
- 経済学科科目

上記の「選択科目」で必要単位数を超えて修得した単位数。

### ゼミ科目　16

**■必修科目**

1年
- ◢大学入門ゼミ（２単位）
- ◢興動人入門ゼミ（２単位）

2年
- ◢プレゼミ（２単位）

3年
- ◿演習Ⅰ（４単位）

4年
- ◿演習Ⅱ（６単位）

※共通科目、自学科科目、自由選択科目については、交換留学プログラムによる臨時の授業科目が含まれる場合あり

## 【経営学部　経営学科】2019(平成31)年度以降入学生（進級要件あり⇒◢進級要件科目・単位）

**卒業認定の要件として必要な単位数の総計　124 以上**

### 共通科目　30 以上

**■必修科目　8**

1年
- ◢必修英語ＡⅠ・必修英語ＡⅡ（計2単位）
- ◢必修英語ＢⅠ・必修英語ＢⅡ（計2単位）
- ◢必修英語ＣⅠ（1単位）
- ⊿日本語文章表現（2単位）

2年
- ◢必修英語ＣⅡ（１単位）

→外国人留学生の単位の取扱いは、「教育課程（カリキュラム）7 留学生科目」のページを参照。

**■選択必修科目　14 以上**

- ⊿英語（理解系・表現系）（計2単位）
- ⊿自己理解系科目　（計６単位）
- ⊿他者理解系科目　（計６単位）

**■選択科目　8 以上**

※「選択必修科目」で必要単位数を超えて修得した単位数を含む。

※◢進級要件科目の６単位中４単位以上の修得が進級認定要件となる。

### 経営学科科目　54 以上

**■必修科目　10**

1年
- ⊿経済入門（２単位）
- ⊿経営入門（２単位）
- ⊿簿記入門（２単位）
- ⊿初級簿記Ⅰ（２単位）
- ⊿経営学概論（２単位）

**■選択科目　44 以上**

### 自由選択科目　24 以上

- 他学科科目
- キャリア科目
- 能力開発科目
- 興動館科目
- 交換留学生科目（日本語科目を除く）
- 単位互換科目
- 語学留学振替単位
- 『経営学科科目』の資格関連科目

＋

- 共通科目
- 経営学科科目

上記の「選択科目」で必要単位数を超えて修得した単位数。

### ゼミ科目　16

**■必修科目**

1年
- ◢大学入門ゼミ（２単位）
- ◢興動人入門ゼミ（２単位）

2年
- ◢プレゼミ（２単位）

3年
- ⊿演習Ⅰ（４単位）

4年
- ⊿演習Ⅱ（６単位）

※共通科目、自学科科目、自由選択科目については、交換留学プログラムによる臨時の授業科目が含まれる場合あり

## 【経営学部　スポーツ経営学科】2019(平成31)年度以降入学生（進級要件あり⇒◢進級要件科目・単位）

**卒業認定の要件として必要な単位数の総計** 124 以上

### 共通科目 30 以上

**■必修科目** 8

1年
- ◢必修英語ＡⅠ・必修英語ＡⅡ（計２単位）
- ◢必修英語ＢⅠ・必修英語ＢⅡ（計２単位）
- ◢必修英語ＣⅠ（1単位）
- ⊿日本語文章表現（２単位）

2年
- ◢必修英語ＣⅡ（１単位）

→外国人留学生の単位の取扱いは、「教育課程（カリキュラム）7 留学生科目」のページを参照。

**■選択必修科目** 14 以上

- ⊿英語（理解系・表現系）（計２単位）
- ⊿自己理解系科目　（計６単位）
- ⊿他者理解系科目　（計６単位）

**■選択科目** 8 以上

※「選択必修科目」で必要単位数を超えて修得した単位数を含む。

※◢進級要件科目の６単位中４単位以上の修得が進級認定要件となる。

### スポーツ経営学科科目 54 以上

**■必修科目** 12

1年
- ⊿経済入門（２単位）
- ⊿経営入門（２単位）
- ⊿スポーツ経営入門（２単位）
- ⊿スポーツ文化論（２単位）

2年
- ⊿スポーツ経営学（２単位）
- ⊿スポーツ産業論（２単位）

**■選択科目** 42 以上

「選択科目」の中から、以下の条件を含んで単位を修得することが必要です。

発展・応用科目
- ⊿「経済・経営関連科目」から10単位以上
- ⊿「スポーツ関連科目」から８単位以上
- ⊿「実験・実習・演習科目」から６単位以上

### 自由選択科目 24 以上

- 他学科科目
- キャリア科目
- 能力開発科目
- 興動館科目
- 交換留学生科目（日本語科目を除く）
- 単位互換科目
- 語学留学振替単位

＋

- 共通科目
- スポーツ経営学科科目

上記の「選択科目」で必要単位数を超えて修得した単位数。

### ゼミ科目 16

**■必修科目**

1年
- ◢大学入門ゼミ（２単位）
- ◢興動人入門ゼミ（２単位）

2年
- ◢プレゼミ（２単位）

3年
- ⊿演習Ⅰ（４単位）

4年
- ⊿演習Ⅱ（６単位）

※共通科目、自学科科目、自由選択科目については、交換留学プログラムによる臨時の授業科目が含まれる場合あり

## 【メディアビジネス学部　ビジネス情報学科】2019(平成31)年度以降入学生（進級要件あり⇒◢進級要件科目・単位）

### 卒業認定の要件として必要な単位数の総計 124 以上

#### 共通科目 30 以上

**■必修科目 8**

1年
- ◢必修英語ＡⅠ・必修英語ＡⅡ（計2単位）
- ◢必修英語ＢⅠ・必修英語ＢⅡ（計2単位）
- ◢必修英語ＣⅠ（1単位）
- ⊿日本語文章表現（2単位）

2年
- ◢必修英語ＣⅡ（１単位）

→外国人留学生の単位の取扱いは、「教育課程（カリキュラム）7 留学生科目」のページを参照。

**■選択必修科目 14 以上**

- ⊿英語（理解系・表現系）（計2単位）
- ⊿自己理解系科目　（計６単位）
- ⊿他者理解系科目　（計６単位）

**■選択科目 8 以上**

※「選択必修科目」で必要単位数を超えて修得した単位数を含む。

※◢進級要件科目の６単位中４単位以上の修得が進級認定要件となる。

#### ビジネス情報学科科目 54 以上

**■必修科目 12**

1年
- ⊿経済入門（２単位）
- ⊿経営入門（２単位）
- ⊿ビジネス情報入門（２単位）
- ⊿情報入門演習Ｓ（２単位）
- ⊿ビジネス概論（２単位）

2年
- ⊿ビジネス情報入門ゼミ（2単位）

**■選択科目 42 以上**

#### 自由選択科目 24 以上

- 他学科科目
- キャリア科目
- 能力開発科目
- 興動館科目
- 交換留学生科目（日本語科目を除く）
- 単位互換科目
- 語学留学振替単位

＋

- 共通科目
- ビジネス情報学科科目

上記の「選択科目」で必要単位数を超えて修得した単位数。

#### ゼミ科目 16

**■必修科目**

1年
- ◢大学入門ゼミ（２単位）
- ◢興動人入門ゼミ（２単位）

2年
- ◢プレゼミ（２単位）

3年
- ⊿演習Ⅰ（４単位）

4年
- ⊿演習Ⅱ（６単位）

※共通科目、自学科科目、自由選択科目については、交換留学プログラムによる臨時の授業科目が含まれる場合あり

## 【メディアビジネス学部　メディアビジネス学科】2019(平成31)年度以降入学生（進級要件あり⇒◢進級要件科目・単位）

**卒業認定の要件として必要な単位数の総計　124 以上**

### 共通科目　30 以上

**■必修科目　8**

1年
- ◢必修英語ＡⅠ・必修英語ＡⅡ（計2単位）
- ◢必修英語ＢⅠ・必修英語ＢⅡ（計2単位）
- ◢必修英語ＣⅠ（1単位）
- ⊿日本語文章表現（2単位）

2年
- ◢必修英語ＣⅡ（１単位）

→外国人留学生の単位の取扱いは、「教育課程（カリキュラム）7 留学生科目」のページを参照。

**■選択必修科目　14 以上**

- ⊿英語（理解系・表現系）（計2単位）
- ⊿自己理解系科目　（計６単位）
- ⊿他者理解系科目　（計６単位）

**■選択科目　8 以上**

※「選択必修科目」で必要単位数を超えて修得した単位数を含む。

※◢進級要件科目の６単位中４単位以上の修得が進級認定要件となる。

### メディアビジネス学科科目　54 以上

**■必修科目　12**

1年
- ⊿経済入門（２単位）
- ⊿経営入門（２単位）
- ⊿メディアビジネス入門（２単位）
- ⊿メディア・マーケティング論（２単位）

2年
- ⊿メディア論（２単位）
- ⊿コミュニケーション論（２単位）

**■選択科目　42 以上**

### 自由選択科目　24 以上

- 他学科科目
- キャリア科目
- 能力開発科目
- 興動館科目
- 交換留学生科目（日本語科目を除く）
- 単位互換科目
- 語学留学振替単位

＋

- 共通科目
- メディアビジネス学科科目

上記の「選択科目」で必要単位数を超えて修得した単位数。

### ゼミ科目　16

**■必修科目**

1年
- ◢大学入門ゼミ（２単位）
- ◢興動人入門ゼミ（２単位）

2年
- ◢プレゼミ（２単位）

3年
- ⊿演習Ⅰ（４単位）

4年
- ⊿演習Ⅱ（６単位）

※共通科目、自学科科目、自由選択科目については、交換留学プログラムによる臨時の授業科目が含まれる場合あり

# 2018(平成30)年度以前入学生用　教育課程(カリキュラム)・クラス表・履修上の注意事項

## 1 共通科目

【外国語科目】

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考(履修条件) | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | 必修英語ＡⅠ | リーディング＆ライティング | 前2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | a済 | | 森谷　浩士 | 1 | | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・45分授業を週２回で開講<br>・必修英語ＡⅠの単位未修得者は、b1再～b6再クラスのいずれか１クラスを履修し、単位を修得すること。<br>・2015年（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル1の資格振替により、「必修英語A Ⅰ」、「必修英語A Ⅱ」、「必修英語B Ⅰ」、「必修英語B Ⅱ」、「必修英語C Ⅰ」、「必修英語C Ⅱ」（「必修英語C Ⅱ」は2018（平成30）年度以降入学生のみ）の６単位を修得した者は、「資格英語Ⅲ」及び「資格英語Ⅳ」の2科目を必ず履修しなければならない。<br>・2015年（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語A Ⅰ」、「必修英語A Ⅱ」、「必修英語B Ⅰ」、「必修英語B Ⅱ」、「必修英語C Ⅰ」、「必修英語C Ⅱ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ（旧科目名：英会話Ⅲ）」及び「発展英会話Ⅱ（旧科目名：英会話Ⅳ）」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 選考 | 40 |
| | | | | | | | | | | b1済 | | 田辺　洋子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b2済 | | 梶原　英二 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b3済 | | 中川　梓 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b4済 | | 森谷　浩士 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b5済 | | 中川　梓 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b6済 | | 森谷　浩士 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b7済 | | 森　瑞樹 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b8済 | | 本岡　亜沙子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a営 | | 田辺　洋子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b1営 | | 森谷　浩士 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b2営 | 非 | 河内　紀彦 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b3営 | | 田辺　洋子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b4営 | | 梶原　英二 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b5営 | 非 | 河内　紀彦 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b6営 | | 迫田　奈美子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b7営 | | 森谷　浩士 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b8営 | | 迫田　奈美子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | aビメス | | 梶原　英二 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b1ビメス | | 田辺　洋子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b2ビメス | | 中川　梓 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b3ビメス | | 森谷　浩士 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b4ビメス | | 森谷　浩士 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b5ビメス | | 藤山　和久 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b1再 | | 本岡　亜沙子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b2再 | | 森　瑞樹 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b3再 | | 森　瑞樹 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b4再 | | 中川　梓 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b5再 | | 梶原　英二 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b6再 | | 本岡　亜沙子 | | | | | |
| | 必修英語ＡⅡ | リーディング＆ライティング | 後2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | a済 | | 森谷　浩士 | 1 | | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・45分授業を週２回で開講<br>・必修英語ＡⅡの単位未修得者は、b1再～b6再クラスのいずれか１クラスを履修し、単位を修得すること。<br>・2015年（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル1の資格振替により、「必修英語A Ⅰ」、「必修英語A Ⅱ」、「必修英語B Ⅰ」、「必修英語B Ⅱ」、「必修英語C Ⅰ」、「必修英語C Ⅱ」（「必修英語C Ⅱ」は2018（平成30）年度以降入学生のみ）の６単位を修得した者は、「資格英語Ⅲ」及び「資格英語Ⅳ」の2科目を必ず履修しなければならない。<br>・2015年（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語A Ⅰ」、「必修英語A Ⅱ」、「必修英語B Ⅰ」、「必修英語B Ⅱ」、「必修英語C Ⅰ」、「必修英語C Ⅱ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ（旧科目名：英会話Ⅲ）」及び「発展英会話Ⅱ（旧科目名：英会話Ⅳ）」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 選考 | 40 |
| | | | | | | | | | | b1済 | | 田辺　洋子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b2済 | | 梶原　英二 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b3済 | | 中川　梓 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b4済 | | 森谷　浩士 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b5済 | | 中川　梓 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b6済 | | 森谷　浩士 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b7済 | | 森　瑞樹 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b8済 | | 本岡　亜沙子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a営 | | 田辺　洋子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b1営 | | 森谷　浩士 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b2営 | 非 | 河内　紀彦 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b3営 | | 田辺　洋子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b4営 | | 梶原　英二 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b5営 | 非 | 河内　紀彦 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b6営 | | 迫田　奈美子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b7営 | | 森谷　浩士 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b8営 | | 迫田　奈美子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | aビメス | | 梶原　英二 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b1ビメス | | 田辺　洋子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b2ビメス | | 中川　梓 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b3ビメス | | 森谷　浩士 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b4ビメス | | 森谷　浩士 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b5ビメス | | 藤山　和久 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b1再 | | 本岡　亜沙子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b2再 | | 森　瑞樹 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b3再 | | 森　瑞樹 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b4再 | | 中川　梓 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b5再 | | 梶原　英二 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b6再 | | 本岡　亜沙子 | | | | | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | 必修英語ＢⅠ | リスニング＆スピーキング | 前2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | a1済 | | 山本　貴裕 | 1 | | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・45分授業を週２回で開講<br>・必修英語ＢⅠの単位未修得者は、b1再～b5再クラスのいずれか１クラスを履修し、単位を修得すること。<br>・2015年（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル1の資格振替により、「必修英語A Ⅰ」、「必修英語A Ⅱ」、「必修英語B Ⅰ」、「必修英語B Ⅱ」、「必修英語C Ⅰ」」、「必修英語C Ⅱ」（「必修英語C Ⅱ」は2018（平成30）年度以降入学生のみ）の６単位を修得した者は、「資格英語Ⅲ」及び「資格英語Ⅳ」の2科目を必ず履修しなければならない。<br>・2015年（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語A Ⅰ」、「必修英語A Ⅱ」、「必修英語B Ⅰ」、「必修英語B Ⅱ」、「必修英語C Ⅰ」、「必修英語C Ⅱ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ（旧科目名：英会話Ⅲ）」及び「発展英会話Ⅱ（旧科目名：英会話Ⅳ）」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 選考 | 20 |
| | | | | | | | | | | a2済 | | J. A. S. ワイルド | | | | | |
| | | | | | | | | | | b1済 | | 迫田　奈美子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b2済 | | M. J. タンコシッチ | | | | | |
| | | | | | | | | | | b3済 | 非 | 岩國　智子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b4済 | 非 | 黒住　奏 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b5済 | 非 | 坂本　聖子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b6済 | 非 | 吉村　千里 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b7済 | 非 | J. シューバ | | | | | |
| | | | | | | | | | | b8済 | 非 | 山内　香澄 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b9済 | 非 | 山内　香澄 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b10済 | 非 | 坂本　聖子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b11済 | | 中川　梓 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b12済 | 非 | 黒住　奏 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b13済 | | M. J. タンコシッチ | | | | | |
| | | | | | | | | | | b14済 | | 合田　優子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b15済 | 非 | D. ウイリアムズ | | | | | |
| | | | | | | | | | | b16済 | | 藤山　和久 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a1営 | | R. フォレスト | | | | | |
| | | | | | | | | | | a2営 | | 中川　梓 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b1営 | | R. フォレスト | | | | | |
| | | | | | | | | | | b2営 | 非 | 川本ピーター | | | | | |
| | | | | | | | | | | b3営 | | 藤山　和久 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b4営 | 非 | 吉村　千里 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b5営 | | 合田　優子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b6営 | | R. フォレスト | | | | | |
| | | | | | | | | | | b7営 | 非 | 黒住　奏 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b8営 | | 藤山　和久 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b9営 | | 中川　梓 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b10営 | 非 | 吉村　千里 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b11営 | 非 | 古田　ユミ | | | | | |
| | | | | | | | | | | b12営 | 非 | 寺重　理英子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b13営 | 非 | 川本ピーター | | | | | |
| | | | | | | | | | | b14営 | | 合田　優子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b15営 | 非 | 寺重　理英子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b16営 | 非 | 古田　ユミ | | | | | |
| | | | | | | | | | | a ビメス | | R. フォレスト | | | | | |
| | | | | | | | | | | b1 ビメス | | 中川　梓 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b2 ビメス | | M. J. タンコシッチ | | | | | |
| | | | | | | | | | | b3 ビメス | 非 | 岩國　智子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b4 ビメス | 非 | 坂本　聖子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b5 ビメス | 非 | J. シューバ | | | | | |
| | | | | | | | | | | b6 ビメス | 非 | 吉村　千里 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b7 ビメス | 非 | D. ウイリアムズ | | | | | |
| | | | | | | | | | | b8 ビメス | | 合田　優子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b9 ビメス | | M. J. タンコシッチ | | | | | |
| | | | | | | | | | | b10 ビメス | | J. A. S. ワイルド | | | | | |
| | | | | | | | | | | b1再 | | 藤山　和久 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b2再 | | 合田　優子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b3再 | | R. フォレスト | | | | | |
| | | | | | | | | | | b4再 | | 山本　貴裕 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b5再 | | 中川　梓 | | | | | |
| | 必修英語ＢⅡ | リスニング＆スピーキング | 後2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | a1済 | | 山本　貴裕 | 1 | | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・45分授業を週２回で開講<br>・必修英語ＢⅡの単位未修得者は、b1再～b5再クラスのいずれか１クラスを履修し、単位を修得すること。<br>・2015年（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル1の資格振替により、「必修英語A Ⅰ」、「必修英語A Ⅱ」、「必修英語B Ⅰ」、「必修英語B Ⅱ」、「必修英語C Ⅰ」、「必修英語C Ⅱ」（「必修英語C Ⅱ」は2018（平成30）年度以降入学生のみ）の６単位を修得した者は、「資格英語Ⅲ」及び「資格英語Ⅳ」のいずれか2科目を必ず履修しなければならない。<br>・2015年（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語A Ⅰ」、「必修英語A Ⅱ」、「必修英語B Ⅰ」、「必修英語B Ⅱ」、「必修英語C Ⅰ」、「必修英語C Ⅱ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ（旧科目名：英会話Ⅲ）」及び「発展英会話Ⅱ（旧科目名：英会話Ⅳ）」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 選考 | 20 |
| | | | | | | | | | | a2済 | | J. A. S. ワイルド | | | | | |
| | | | | | | | | | | b1済 | | 迫田　奈美子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b2済 | | M. J. タンコシッチ | | | | | |
| | | | | | | | | | | b3済 | 非 | 岩國　智子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b4済 | 非 | 黒住　奏 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b5済 | 非 | 坂本　聖子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b6済 | 非 | 吉村　千里 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b7済 | 非 | J. シューバ | | | | | |
| | | | | | | | | | | b8済 | 非 | 山内　香澄 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b9済 | 非 | 岩國　智子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b10済 | 非 | 坂本　聖子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b11済 | | 中川　梓 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b12済 | 非 | 黒住　奏 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b13済 | | M. J. タンコシッチ | | | | | |
| | | | | | | | | | | b14済 | | 合田　優子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b15済 | 非 | D. ウイリアムズ | | | | | |
| | | | | | | | | | | b16済 | | 藤山　和久 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a1営 | | R. フォレスト | | | | | |
| | | | | | | | | | | a2営 | | 中川　梓 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b1営 | | R. フォレスト | | | | | |
| | | | | | | | | | | b2営 | 非 | 川本ピーター | | | | | |
| | | | | | | | | | | b3営 | | 藤山　和久 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b4営 | 非 | 吉村　千里 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b5営 | | 合田　優子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b6営 | | R. フォレスト | | | | | |

（次頁に続く）

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | （前頁より続く） | | | | | | | | | b7営 | 非 | 黒住　奏 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b8営 | | 藤山　和久 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b9営 | | 中川　梓 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b10営 | 非 | 吉村　千里 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b11営 | 非 | 古田　ユミ | | | | | |
| | | | | | | | | | | b12営 | 非 | 寺重　理英子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b13営 | 非 | 川本ピーター | | | | | |
| | | | | | | | | | | b14営 | | 合田　優子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b15営 | 非 | 寺重　理英子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b16営 | 非 | 古田　ユミ | | | | | |
| | | | | | | | | | | a ビメス | | R. フォレスト | | | | | |
| | | | | | | | | | | b1 ビメス | | 中川　梓 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b2 ビメス | | 迫田　奈美子 | | | | | |
| | 必修英語ＢⅡ | リスニング＆スピーキング | 後2 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | b3 ビメス | 非 | 岩國　智子 | 1 | | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・45分授業を週２回で開講<br>・必修英語ＢⅡの単位未修得者は、b1再～b5再クラスのいずれか１クラスを履修し、単位を修得すること。<br>・2015年（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル1の資格振替により、「必修英語A Ⅰ」、「必修英語A Ⅱ」、「必修英語B Ⅰ」、「必修英語B Ⅱ」、「必修英語C Ⅰ」、「必修英語C Ⅱ」（「必修英語C Ⅱ」は2018（平成30）年度以降入学生のみ）の６単位を修得した者は、「資格英語Ⅲ」及び「資格英語Ⅳ」のいずれか2科目を必ず履修しなければならない。<br>・2015年（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語A Ⅰ」、「必修英語A Ⅱ」、「必修英語B Ⅰ」、「必修英語B Ⅱ」、「必修英語C Ⅰ」、「必修英語C Ⅱ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ（旧科目名：英会話Ⅲ）」及び「発展英会話Ⅱ（旧科目名：英会話Ⅳ）」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 選考 | 20 |
| | | | | | | | | | | b4 ビメス | 非 | 坂本　聖子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b5 ビメス | 非 | J. シューバ | | | | | |
| | | | | | | | | | | b6 ビメス | 非 | 吉村　千里 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b7 ビメス | 非 | D. ウイリアムズ | | | | | |
| | | | | | | | | | | b8 ビメス | | 合田　優子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b9 ビメス | | M. J. タンコシッチ | | | | | |
| | | | | | | | | | | b10 ビメス | | J. A. S. ワイルド | | | | | |
| | | | | | | | | | | b1再 | | 藤山　和久 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b2再 | | 合田　優子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b3再 | | R. フォレスト | | | | | |
| | | | | | | | | | | b4再 | | 山本　貴裕 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b5再 | | 中川　梓 | | | | | |
| | 必修英語ＣⅠ | ボキャブラリー＆グラマー | 通 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | a済 | | 中川　梓 | 1 | | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・45分授業で週1回通年開講<br>・必修英語ＣⅠの単位未修得者は、a再、b再クラスのいずれか１クラスを履修し、単位を修得すること。<br>・2015（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル1の資格振替により、「必修英語A Ⅰ」、「必修英語A Ⅱ」、「必修英語B Ⅰ」、「必修英語B Ⅱ」、「必修英語C Ⅰ」、「必修英語C Ⅱ」（「必修英語C Ⅱ」は2018（平成30）年度以降入学生のみ）の６単位を修得した者は、「資格英語Ⅲ」及び「資格英語Ⅳ」の2科目を必ず履修しなければならない。<br>・2015（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語A Ⅰ」、「必修英語A Ⅱ」、「必修英語B Ⅰ」、「必修英語B Ⅱ」、「必修英語C Ⅰ」、「必修英語C Ⅱ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ（旧科目名：英会話Ⅲ）」及び「発展英会話Ⅱ（旧科目名：英会話Ⅳ）」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 選考 | 140 |
| | | | | | | | | | | b済 | | 中川　梓 | | | | | |
| | | | | | | | | | | c済・c営 | | 森　瑞樹 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a営 | | 森谷　浩士 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b営 | | 森谷　浩士 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a ビメス | | 本岡　亜沙子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b ビメス | | 本岡　亜沙子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a再 | | 森　瑞樹 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b再 | | 森　瑞樹 | | | | | |
| | 必修英語ＣⅡ | ボキャブラリー＆グラマー | 通 | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | a済 | | 山本　貴裕 | 2 | | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・45分授業で週1回通年開講<br>・必修英語ＣⅡの単位未修得者は、いずれか１クラスを履修し、単位を修得すること。<br>・2015（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル1の資格振替により、「必修英語A Ⅰ」、「必修英語A Ⅱ」、「必修英語B Ⅰ」、「必修英語B Ⅱ」、「必修英語C Ⅰ」、「必修英語C Ⅱ」（「必修英語C Ⅱ」は2018（平成30）年度以降入学生のみ）の６単位を修得した者は、「資格英語Ⅲ」及び「資格英語Ⅳ」の2科目を必ず履修しなければならない。<br>・2015（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語A Ⅰ」、「必修英語A Ⅱ」、「必修英語B Ⅰ」、「必修英語B Ⅱ」、「必修英語C Ⅰ」、「必修英語C Ⅱ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ（旧科目名：英会話Ⅲ）」及び「発展英会話Ⅱ（旧科目名：英会話Ⅳ）」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 選考 | 140 |
| | | | | | | | | | | b済 | | 梶原　英二 | | | | | |
| | | | | | | | | | | c済・c営 | | 梶原　英二 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a営 | | 合田　優子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b営 | | 合田　優子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a ビメス | | 山本　貴裕 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b ビメス | | 山本　貴裕 | | | | | |
| | ※英語ＡⅠ | 基礎英語リーディングⅠ | | 1 | | | | | ◎ | | | | 1 | 基礎英語ＡⅠ | ・2019（平成31）年度以降は開講なし | | |
| | 英語ＡⅡ | 基礎英語リーディングⅡ | 前 | 1 | | | | | ◎ | a | 非 | 柳原　里枝子 | 1 | 基礎英語ＡⅡ | ・2014（平成26）年度以前の入学生対象科目 | 抽選 | 80名 |
| | | | 後 | 1 | | | | | ◎ | b | 非 | 柳原　里枝子 | | | | | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | ※英語ＢⅠ | 基礎英語リスニング・スピーキングⅠ | | | | | | | ◎ | | | | | 基礎英語ＢⅠ | ・2019（平成31）年度以降は開講なし | | |
| | 英語ＢⅡ | 基礎英語リスニング・スピーキングⅡ | 前 | 1 | | | | | ◎ | a | | 森谷　浩士 | 1 | 基礎英語ＢⅡ | ・2014（平成26）年度以前の入学生対象科目 | 抽選 | 80名 |
| | | | 後 | 1 | | | | | ◎ | b | | 森谷　浩士 | | | | | |
| | 英語理解・基礎徹底Ⅰ | リーディング＆リスニング | 前 | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a済 | | 山本　貴裕 | 2 | | （注１）<br>・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・英語理解･標準Ⅰ、英語理解･標準Ⅱ、英語理解・発展Ⅰ又は英語理解・発展Ⅱの修得者は履修不可 | 選考 | 40名 |
| | | | | | | | | | | b済 | 非 | 山内　香澄 | | | | | |
| | | | | | | | | | | c済 | | 本岡　亜沙子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a営 | | 本岡　亜沙子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b営 | 非 | 豊島　桂子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | aビメス | 非 | 西本　純子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | bビメス | 非 | 豊島　桂子 | | | | | |
| | 英語理解・基礎徹底Ⅱ | リーディング＆リスニング | 後 | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a済 | | 山本　貴裕 | 2 | | （注1）<br>・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・英語理解･標準Ⅰ、英語理解･標準Ⅱ、英語理解・発展Ⅰ又は英語理解・発展Ⅱの修得者は履修不可 | 選考 | 40名 |
| | | | | | | | | | | b済 | 非 | 山内　香澄 | | | | | |
| | | | | | | | | | | c済 | | 本岡　亜沙子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a営 | | 本岡　亜沙子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b営 | 非 | 豊島　桂子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | aビメス | 非 | 西本　純子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | bビメス | 非 | 豊島　桂子 | | | | | |
| | 英語理解・標準Ⅰ | リーディング＆リスニング | 前 | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a済 | 非 | 山内　香澄 | 2 | | （注1）<br>・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・英語理解・発展Ⅰ又は英語理解・発展Ⅱの修得者は履修不可 | 選考 | 40名 |
| | | | | | | | | | | b済 | 非 | 豊島　桂子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | c済 | | 梶原　英二 | | | | | |
| | | | | | | | | | | d済 | | 森谷　浩士 | | | | | |
| | | | | | | | | | | e済 | | 藤山　和久 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a営 | 非 | 寺重　理英子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b営 | 非 | 河内　紀彦 | | | | | |
| | | | | | | | | | | c営 | 非 | 古田　ユミ | | | | | |
| | | | | | | | | | | d営 | | 森谷　浩士 | | | | | |
| | | | | | | | | | | e営 | 非 | 寺重　理英子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | aビメス | | 田辺　洋子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | bビメス | 非 | 西本　純子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | cビメス | | 田辺　洋子 | | | | | |
| | 英語理解・標準Ⅱ | リーディング＆リスニング | 後 | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a済 | 非 | 山内　香澄 | 2 | | （注1）<br>・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・英語理解・発展Ⅰ又は英語理解・発展Ⅱの修得者は履修不可 | 選考 | 40名 |
| | | | | | | | | | | b済 | 非 | 豊島　桂子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | c済 | | 梶原　英二 | | | | | |
| | | | | | | | | | | d済 | | 森谷　浩士 | | | | | |
| | | | | | | | | | | e済 | | 藤山　和久 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a営 | 非 | 寺重　理英子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b営 | 非 | 河内　紀彦 | | | | | |
| | | | | | | | | | | c営 | 非 | 古田　ユミ | | | | | |
| | | | | | | | | | | d営 | | 森谷　浩士 | | | | | |
| | | | | | | | | | | e営 | 非 | 寺重　理英子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | aビメス | | 田辺　洋子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | bビメス | 非 | 西本　純子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | cビメス | | 田辺　洋子 | | | | | |
| | 英語理解・発展Ⅰ | リーディング＆リスニング | 前 | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a | | 迫田　奈美子 | 2 | | （注1）<br>・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・2015年（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語Ａ Ⅰ」、「必修英語Ａ Ⅱ」、「必修英語Ｂ Ⅰ」、「必修英語Ｂ Ⅱ」、「必修英語Ｃ Ⅰ」、「必修英語Ｃ Ⅱ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ（旧科目名：英会話Ⅲ）」及び「発展英会話Ⅱ（旧科目名：英会話Ⅳ）」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 選考 | 40名 |
| | | | | | | | | | | b | | 森　瑞樹 | | | | | |
| | 英語理解・発展Ⅱ | リーディング＆リスニング | 後 | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a | | 迫田　奈美子 | 2 | | （注1）<br>・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・2015年（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語Ａ Ⅰ」、「必修英語Ａ Ⅱ」、「必修英語Ｂ Ⅰ」、「必修英語Ｂ Ⅱ」、「必修英語Ｃ Ⅰ」、「必修英語Ｃ Ⅱ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ（旧科目名：英会話Ⅲ）」及び「発展英会話Ⅱ（旧科目名：英会話Ⅳ）」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 選考 | 40名 |
| | | | | | | | | | | b | | 森　瑞樹 | | | | | |
| | 英語表現・基礎徹底Ⅰ | スピーキング＆ライティング | 前 | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a済 | | M. J. タンコシッチ | 2 | | （注1）<br>・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・英語表現･標準Ⅰ、英語表現･標準Ⅱ、英語表現・発展Ⅰ又は英語表現・発展Ⅱの修得者は履修不可 | 選考 | 20名 |
| | | | | | | | | | | b済 | 非 | 吉村　千里 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a営 | | 迫田　奈美子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b営 | | R. フォレスト | | | | | |
| | | | | | | | | | | aビメス | 非 | 岩國　智子 | | | | | |
| | 英語表現・基礎徹底Ⅱ | スピーキング＆ライティング | 後 | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a済 | | M. J. タンコシッチ | 2 | | （注1）<br>・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・英語表現･標準Ⅰ、英語表現･標準Ⅱ、英語表現・発展Ⅰ又は英語表現・発展Ⅱの修得者は履修不可 | 選考 | 20名 |
| | | | | | | | | | | b済 | 非 | 吉村　千里 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a営 | | 迫田　奈美子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b営 | | R. フォレスト | | | | | |
| | | | | | | | | | | aビメス | 非 | 岩國　智子 | | | | | |
| | 英語表現・標準Ⅰ | スピーキング＆ライティング | 前 | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a済 | 非 | 黒住　奏 | 2 | | （注1）<br>・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・英語表現・発展Ⅰ又は英語表現・発展Ⅱの修得者は履修不可 | 選考 | 20名 |
| | | | | | | | | | | b済 | 非 | 柳原　里枝子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | c済 | | R. フォレスト | | | | | |
| | | | | | | | | | | d済 | 非 | 黒住　奏 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a営 | 非 | 山本　健太 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b営 | | 合田　優子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | c営 | | 合田　優子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | d営 | 非 | 山本　健太 | | | | | |
| | | | | | | | | | | aビメス | 非 | J. シューバ | | | | | |
| | | | | | | | | | | bビメス | | R. フォレスト | | | | | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | 英語表現・標準Ⅱ | スピーキング＆ライティング | 後 | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a済 | 非 | 黒住　奏 | 2 | | （注1）<br>・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・英語表現・発展Ⅰ又は英語表現・発展Ⅱの修得者は履修不可 | 選考 | 20名 |
| | | | | | | | | | | b済 | 非 | 柳原　里枝子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | c済 | | R. フォレスト | | | | | |
| | | | | | | | | | | d済 | 非 | 黒住　奏 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a営 | 非 | 山本　健太 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b営 | | 合田　優子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | c営 | | 合田　優子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | d営 | 非 | 山本　健太 | | | | | |
| | | | | | | | | | | aビメス | 非 | J. シューバ | | | | | |
| | | | | | | | | | | bビメス | | R. フォレスト | | | | | |
| | 英語表現・発展Ⅰ | スピーキング＆ライティング | 前 | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a | | J. A. S. ワイルド | 2 | | （注1）<br>・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目 | 選考 | 20名 |
| | | | | | | | | | | b | | | | | | | |
| | 英語表現・発展Ⅱ | スピーキング＆ライティング | 後 | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a | | J. A. S. ワイルド | 2 | | （注1）<br>・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目 | 選考 | 20名 |
| | | | | | | | | | | b | | | | | | | |
| | 海外研修英語Ⅰ | 留学･海外インターンシップ・海外プロジェクトに必要な事前学習Ⅰ | 前 | 1 | | | | | ○ | | | J. A. S. ワイルド | 1 | | （注2）<br>・2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目<br>・留学英語Ａの修得者は履修不可 | 抽選 | 20名 |
| | 海外研修英語Ⅱ | 留学･海外インターンシップ・海外プロジェクトに必要な事前学習Ⅱ | 後 | 1 | | | | | ○ | | | J. A .S. ワイルド | 1 | | （注2）<br>・2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目<br>・留学英語Ｂの修得者は履修不可 | 抽選 | 20名 |
| | ビジネス英語Ⅰ | ビジネス現場で役立つ英語Ⅰ | 前 | 1 | | | | | ○ | | | J. A. S. ワイルド | 1 | | （注2）<br>・2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目<br>・ビジネス英会話Ⅰの修得者は履修不可 | 抽選 | 20名 |
| | ビジネス英語Ⅱ | ビジネス現場で役立つ英語Ⅱ | 後 | 1 | | | | | ○ | | | J. A. S. ワイルド | 1 | | （注2）<br>・2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目<br>・ビジネス英会話Ⅱの修得者は履修不可 | 抽選 | 20名 |
| | 基礎英会話Ⅰ | 基本的な英語でのコミュニケーションⅠ | 前 | 1 | | | | | ○ | a | 非 | D. ウイリアムズ | 1 | | （注2）<br>2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目 | 抽選 | 20名 |
| | | | | | | | | | | b | 非 | D. ウイリアムズ | | | | | |
| | 基礎英会話Ⅱ | 基本的な英語でのコミュニケーションⅡ | 後 | 1 | | | | | ○ | a | 非 | D. ウイリアムズ | 1 | | （注2）<br>2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目 | 抽選 | 20名 |
| | | | | | | | | | | b | 非 | D. ウイリアムズ | | | | | |
| | ※ベーシック･イングリッシュⅠ | 基礎から学ぶ英語Ⅰ | | 1 | | | | | ○ | | | | 1 | 初級英語総合Ⅰ | （注2）<br>・2014（平成26）年度以前の入学生対象科目<br>・2019（平成31）年度以降は開講なし | 抽選 | 40名 |
| | ※ベーシック･イングリッシュⅡ | 基礎から学ぶ英語Ⅱ | | 1 | | | | | ○ | | | | 1 | 初級英語総合Ⅱ | （注2）<br>・2014（平成26）年度以前の入学生対象科目<br>・2019（平成31）年度以降は開講なし | 抽選 | ４0名 |
| | 発展英会話Ⅰ | ステップアップ英会話Ⅰ | 前 | 1 | | | | | ○ | | | M. J. タンコシッチ | 1 | 中級英会話Ⅰ<br>英会話Ⅲ | （注2）<br>・2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目<br>・2015（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語ＡⅠ」、「必修英語ＡⅡ」、「必修英語ＢⅠ」、「必修英語ＢⅡ」、「必修英語ＣⅠ」、「必修英語ＣⅡ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ（旧科目名：英会話Ⅲ）」及び「発展英会話Ⅱ（旧科目名：英会話Ⅳ）」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 抽選 | 20名 |
| | 発展英会話Ⅱ | ステップアップ英会話Ⅱ | 後 | 1 | | | | | ○ | | | M. J. タンコシッチ | 1 | 中級英会話Ⅱ<br>英会話Ⅳ | （注2）<br>・2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目<br>・2015（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル2の資格振替により、「必修英語ＡⅠ」、「必修英語ＡⅡ」、「必修英語ＢⅠ」、「必修英語ＢⅡ」、「必修英語ＣⅠ」、「必修英語ＣⅡ」、「英語理解・発展Ⅰ」、「英語理解・発展Ⅱ」の8単位を修得した者は、「発展英会話Ⅰ（旧科目名：英会話Ⅲ）」及び「発展英会話Ⅱ（旧科目名：英会話Ⅳ）」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 抽選 | 20名 |
| | 資格英語Ⅰ | TOEIC に挑戦Ⅰ | 前 | 1 | | | | | ○ | a | | 森　瑞樹 | 1 | 中級英語資格Ⅰ | （注2）<br>2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目 | 抽選 | 40名 |
| | | | | | | | | | | b | 非 | 古田　ユミ | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | 非 | 橋本　朝子 | | | | | |
| | 資格英語Ⅱ | TOEIC に挑戦Ⅱ | 後 | 1 | | | | | ○ | a | | 森　瑞樹 | 1 | 中級英語資格Ⅱ | （注2）<br>2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目 | 抽選 | 40名 |
| | | | | | | | | | | b | 非 | 古田　ユミ | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | 非 | 橋本　朝子 | | | | | |
| | 資格英語Ⅲ | スコアアップ TOEIC Ⅰ | 前 | 1 | | | | | ○ | a | | 合田　優子 | 1 | 上級英語資格演習Ⅰ | （注2）<br>・2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目<br>・2015年（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル1の資格振替により、「必修英語Ａ Ⅰ」、「必修英語Ａ Ⅱ」、「必修英語Ｂ Ⅰ」、「必修英語Ｂ Ⅱ」、「必修英語Ｃ Ⅰ」、「必修英語Ｃ Ⅱ」（「必修英語Ｃ Ⅱ」は2018（平成30）年度以降入学生のみ）の６単位を修得した者は、「資格英語Ⅲ」及び「資格英語Ⅳ」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 抽選 | 30名 |
| | | | | | | | | | | b | | 合田　優子 | | | | | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | 資格英語Ⅳ | スコアアップTOEIC Ⅱ | 後 | 1 | | | | | ○ | a | | 合田　優子 | 1 | 上級英語資格演習Ⅱ | （注2）<br>・2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目<br>・2015年（平成27）年度以降の入学生のうち、英語資格振替単位基準におけるレベル1の資格振替により、「必修英語A Ⅰ」、「必修英語A Ⅱ」、「必修英語B Ⅰ」、「必修英語B Ⅱ」、「必修英語C Ⅰ」、「必修英語C Ⅱ」（「必修英語C Ⅱ」は2018（平成30）年度以降入学生のみ）の6単位を修得した者は、「資格英語Ⅲ」及び「資格英語Ⅳ」の2科目を必ず履修しなければならない。 | 抽選 | 30名 |
| | | | | | | | | | | b | | 合田　優子 | | | | | |
| | Academic Writing in English | 英語論文の書き方 | 特設(サマー) | 1 | | | | | | | | 山本　貴裕 | 2 | | ・TOEIC400点以上の者又はそれと同等の英語力があると担当教員が認めた者 | | |
| | フランス語Ⅰ | はじめてのフランス語Ⅰ | 前 | 1 | | | | | ○ | | 非 | 三木　島彦 | 1 | 基礎フランス語Ⅰ | （注2）<br>2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目 | 抽選 | 20名 |
| | フランス語Ⅱ | はじめてのフランス語Ⅱ | 後 | 1 | | | | | ○ | | 非 | 三木　島彦 | 1 | 基礎フランス語Ⅱ | （注2）<br>・2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目<br>・フランス語Ⅰを履修又は修得者のみ履修可 | 抽選 | 20名 |
| | ドイツ語Ⅰ | はじめてのドイツ語Ⅰ | 前 | 1 | | | | | ○ | | | 竹林　栄治 | 1 | 基礎ドイツ語Ⅰ | （注2）<br>2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目 | 抽選 | 20名 |
| | ドイツ語Ⅱ | はじめてのドイツ語Ⅱ | 後 | 1 | | | | | ○ | | | 竹林　栄治 | 1 | 基礎ドイツ語Ⅱ | （注2）<br>・2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目<br>・ドイツ語Ⅰを履修又は修得者のみ履修可 | 抽選 | 20名 |
| | スペイン語Ⅰ | はじめてのスペイン語Ⅰ | 前 | 1 | | | | | ○ | | 非 | 青木　利夫 | 1 | 基礎スペイン語Ⅰ | （注2）<br>2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目 | 抽選 | 20名 |
| | スペイン語Ⅱ | はじめてのスペイン語Ⅱ | 後 | 1 | | | | | ○ | | 非 | 青木　利夫 | 1 | 基礎スペイン語Ⅱ | （注2）<br>・2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目<br>・スペイン語Ⅰを履修又は修得者のみ履修可 | 抽選 | 20名 |
| | 中国語Ⅰ | はじめての中国語Ⅰ | 前 | 1 | | | | | ○ | | 非 | 羅　穎 | 1 | 基礎中国語Ⅰ | （注2）<br>2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目 | 抽選 | 20名 |
| | 中国語Ⅱ | はじめての中国語Ⅱ | 後 | 1 | | | | | ○ | | 非 | 羅　穎 | 1 | 基礎中国語Ⅱ | （注2）<br>・2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目<br>・中国語Ⅰを履修又は修得者のみ履修可 | 抽選 | 20名 |
| | 韓国語Ⅰ | はじめての韓国語Ⅰ | 前 | 1 | | | | | ○ | | 非 | 李　政樹 | 1 | 基礎韓国・朝鮮語Ⅰ<br>基礎韓国語Ⅰ | （注2）<br>2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目 | 抽選 | 20名 |
| | 韓国語Ⅱ | はじめての韓国語Ⅱ | 後 | 1 | | | | | ○ | | 非 | 李　政樹 | 1 | 基礎韓国・朝鮮語Ⅱ<br>基礎韓国語Ⅱ | （注2）<br>・2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目<br>・韓国語Ⅰを履修又は修得者のみ履修可 | 抽選 | 20名 |
| | インドネシア語Ⅰ | はじめてのインドネシア語Ⅰ | 前 | 1 | | | | | ○ | | | 平本　賢了 | 1 | 基礎インドネシア語Ⅰ | （注2）<br>2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目 | 抽選 | 20名 |
| | インドネシア語Ⅱ | はじめてのインドネシア語Ⅱ | 後 | 1 | | | | | ○ | | | 平本　賢了 | 1 | 基礎インドネシア語Ⅱ | （注2）<br>・2014（平成26）年度以前の入学生は選択必修科目<br>・インドネシア語Ⅰを履修又は修得者のみ履修可 | 抽選 | 20名 |
| | ※留学英語A | 留学（オーストラリア）・海外インターンシップに必要な事前学習 | | 2 | | | | | ○ | | | | 1 | 留学英語 | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※留学英語B | 留学(ニュージーランド)・海外インターンシップに必要な事前学習 | | 2 | | | | | ○ | | | | 1 | 留学英語 | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※時事英語Ⅰ | テレビニュース英語の聞き取りと内容理解 | | 2 | | | | | ○ | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※時事英語Ⅱ | 新聞・雑誌英語の内容理解 | | 2 | | | | | ○ | | | | 2 | 時事英語(経済学科) | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※ビジネス英会話Ⅰ | ビジネス現場で役立つ単語・フレーズを使っての英会話Ⅰ | | 2 | | | | | ○ | | | | 2 | ビジネス英会話Ⅰ（経済学科） | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※ビジネス英会話Ⅱ | ビジネス現場で役立つ単語・フレーズを使っての英会話Ⅱ | | 2 | | | | | ○ | | | | 2 | ビジネス英会話Ⅱ（経済学科） | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※ビジネス英語ライティングⅠ | ビジネスEメール・レター・文書、明快な英文を書く技術Ⅰ | | 2 | | | | | ○ | | | | 2 | ビジネスEメール（経済学科） | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※ビジネス英語ライティングⅡ | ビジネスEメール・レター・文書、明快な英文を書く技術Ⅱ | | 2 | | | | | ○ | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※総合資格英語Ⅰ | 就職対策用英語Ⅰ | | 2 | | | | | ○ | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※総合資格英語Ⅱ | 就職対策用英語Ⅱ | | 2 | | | | | ○ | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※中級フランス語A Ⅰ | ステップアップフランス語Ⅰ | | 2 | | | | | ○ | | | | 2 | フランス語演習Ⅰ<br>中級フランス語Ⅰ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※中級フランス語A Ⅱ | ステップアップフランス語Ⅱ | | 2 | | | | | ○ | | | | 2 | フランス語演習Ⅱ<br>中級フランス語Ⅱ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※中級フランス語B Ⅰ | フランス滞在の楽しみへⅠ | | 2 | | | | | ○ | | | | 2 | 留学フランス語Ⅰ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※中級フランス語B Ⅱ | フランス滞在の楽しみへⅡ | | 2 | | | | | ○ | | | | 2 | 留学フランス語Ⅱ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※中級中国語Ⅰ | ステップアップ中国語Ⅰ | | 2 | | | | | ○ | | | | 2 | 中国語演習Ⅰ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※中級中国語Ⅱ | ステップアップ中国語Ⅱ | | 2 | | | | | ○ | | | | 2 | 中国語演習Ⅱ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※中国語会話Ⅰ | 中国語で日常会話Ⅰ | | 2 | | | | | ○ | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ※中国語会話Ⅱ | 中国語で日常会話Ⅱ | | 2 | | | | | ○ | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※中級韓国語Ⅰ | ステップアップ韓国語Ⅰ | | 2 | | | | | ○ | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※中級韓国語Ⅱ | ステップアップ韓国語Ⅱ | | 2 | | | | | ○ | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |

**（注1）外国語科目の選択必修科目（2015（平成27）年度以降の入学生対象選択必修科目）**

●原則として①～⑥のいずれかにおいて、2単位を修得しなければならない。ただし、同一年度における履修登録はいずれかのみとし、２以上履修することはできない。

①英語理解・基礎徹底Ⅰ（１単位）及び英語理解・基礎徹底Ⅱ（１単位）の合計２単位
②英語理解・標準Ⅰ（１単位）及び英語理解・標準Ⅱ（１単位）の合計２単位
③英語理解・発展Ⅰ（１単位）及び英語理解・発展Ⅱ（１単位）の合計２単位
④英語表現・基礎徹底Ⅰ（１単位）及び英語表現・基礎徹底Ⅱ（１単位）の合計２単位
⑤英語表現・標準Ⅰ（１単位）及び英語表現・標準Ⅱ（１単位）の合計２単位
⑥英語表現・発展Ⅰ（１単位）及び英語表現・発展Ⅱ（１単位）の合計２単位

●２単位を超えて修得した単位数は、共通科目のうち選択科目の修得単位数として計算する。

**（注2）外国語基礎科目のうち、英語ＡⅠ、英語ＡⅡ、英語ＢⅠ、英語ＢⅡを除く科目（2014（平成26）年度以前の入学生対象選択必修科目）**

●次の①～㉒の第一外国語（英語）から２科目、2単位以上を修得するか㉓～㉞の同一第二外国語（英語以外）Ⅰ・Ⅱの2科目、2単位以上を修得すること。

●㉓～㉞の第二外国語のⅡを履修する場合は、同一外国語のⅠを前年度までに単位修得しているか、もしくは、同一年度の前期に履修していること。

①海外研修英語Ⅰ
②海外研修英語Ⅱ
③ビジネス英語Ⅰ
④ビジネス英語Ⅱ
⑤基礎英会話Ⅰ
⑥基礎英会話Ⅱ
⑦ベーシック・イングリッシュⅠ（2019（平成31）年度以降は開講なし）
⑧ベーシック・イングリッシュⅡ（2019（平成31）年度以降は開講なし）
⑨英語リスニングⅠ（2015（平成27）年度以降は開講なし）
⑩英語リスニングⅡ（2015（平成27）年度以降は開講なし）
⑪英語ライティングⅠ（2015（平成27）年度以降は開講なし）
⑫英語ライティングⅡ（2015（平成27）年度以降は開講なし）
⑬英会話Ⅰ（2016（平成28）年度以降は開講なし）
⑭英会話Ⅱ（2016（平成28）年度以降は開講なし）
⑮発展英会話Ⅰ（旧科目名：英会話Ⅲ）
⑯発展英会話Ⅱ（旧科目名：英会話Ⅳ）
⑰資格英語Ⅰ
⑱資格英語Ⅱ
⑲資格英語Ⅲ
⑳資格英語Ⅳ
㉑ CALL　English Ⅰ（2018（平成30）年度以降は開講なし）
㉒ CALL　English Ⅱ（2018（平成30）年度以降は開講なし）

・①から㉒の中から2科目、2単位以上
・組み合わせは自由
・2単位を超えて修得した単位は、共通科目の選択科目の単位として計算

㉓フランス語Ⅰ（旧科目名：基礎フランス語Ⅰ）
㉔フランス語Ⅱ（旧科目名：基礎フランス語Ⅱ）
㉕ドイツ語Ⅰ（旧科目名：基礎ドイツ語Ⅰ）
㉖ドイツ語Ⅱ（旧科目名：基礎ドイツ語Ⅱ）
㉗スペイン語Ⅰ（旧科目名：基礎スペイン語Ⅰ）
㉘スペイン語Ⅱ（旧科目名：基礎スペイン語Ⅱ）
㉙中国語Ⅰ（旧科目名：基礎中国語Ⅰ）
㉚中国語Ⅱ（旧科目名：基礎中国語Ⅱ）
㉛韓国語Ⅰ（旧科目名：基礎韓国語Ⅰ）
㉜韓国語Ⅱ（旧科目名：基礎韓国語Ⅱ）
㉝インドネシア語Ⅰ（旧科目名：基礎インドネシア語Ⅰ）
㉞インドネシア語Ⅱ（旧科目名：基礎インドネシア語Ⅱ）

・㉓から㉞のいずれか同一第二外国語（英語以外）Ⅰ・Ⅱの２科目、２単位以上
・２単位となる組み合わせが同一外国語でない場合（例：フランス語Ⅰとスペイン語Ⅰの２単位を修得した場合）及び同一外国語で２単位以上修得した場合は、共通科目の選択科目の単位として計算

## 【日本語文章表現科目】

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本語文章表現科目 | 日本語文章表現 | 日本語の基礎・基本を身につけよう | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎※2013以降 | a済 | 非 | 坂本　はるえ | 1 | | ・2013（平成25）年度以降の入学生必修科目<br>・a済～bスのクラスは新入生のみ履修可<br>・2012（平成24）年度以前の入学生で「日本語文章表現」の単位未修得者で履修を希望する者は、全学科合同で行われる再a～再dのいずれか1クラスを選択し、履修すること。ただし、「文章表現演習・基礎」の単位未修得者は履修不可。<br>・日本語文章表現の授業でC評価以上を修め、公益財団法人日本漢字能力検定協会が実施する「文章読解・作成能力検定」（以下「文章検」という。）3級の合格又は「文章読解・作成能力テスト」（以下「文作テスト」という。）3級の合格相当の評価をもって単位を認定する。<br>・日本語文章表現の授業でC評価以上を修めなかった者については、再履修クラス（再a～再d）のいずれかを履修すること。<br>・日本語文章表現の授業でC評価以上を修めたが、「文章検」または「文作テスト」に合格しなかった場合は、日本語文章表現を再履修することは必要としない。<br>・3年次が終了するまでに文章検3級又は文作テスト3級の合格相当を取得していない者については、4年次における文章検演習の単位修得をもって文章検3級に合格したものとみなす。ただし、文章検演習で単位を修得した者の成績評価は「CA」とし、卒業認定の要件として必要な単位数には含まない。なお、文章検演習を受講できる者は、文章検と文作テストを合わせて3回以上受検したものとする。<br>・本学に入学する前に文章検3級以上又は文作テスト3級以上の合格相当を取得している者については、日本語文章表現の授業でC評価以上を修め、文章検準2級以上の受検をもって単位を認定する。<br>・外国人留学生（交換留学生を除く。）については、文章検又は文作テストに代えて本学独自の試験を実施する。 | | |
| | | | | | | | | | | b済 | 非 | 重野　裕美 | | | | | |
| | | | | | | | | | | c済 | 非 | 後藤田　和 | | | | | |
| | | | | | | | | | | d済 | 非 | 樫本　由貴 | | | | | |
| | | | | | | | | | | e済 | 非 | 家村　伸子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | f済 | 非 | 中元　さおり | | | | | |
| | | | | | | | | | | g済 | 非 | 藤山　益美 | | | | | |
| | | | | | | | | | | h済 | 非 | 渡橋　恭子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | i済 | 非 | 谷川　充美 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a営 | | 坂水　貴司 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b営 | 非 | 谷川　充美 | | | | | |
| | | | | | | | | | | c営 | 非 | 田中　美帆 | | | | | |
| | | | | | | | | | | d営 | 非 | 家村　伸子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | e営 | 非 | 久保　博雅 | | | | | |
| | | | | | | | | | | f営 | 非 | 明尾　香澄 | | | | | |
| | | | | | | | | | | g営 | | 木本　一成 | | | | | |
| | | | | | | | | | | h営 | 非 | 渡橋　恭子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | i営 | | 岡本　恵子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | aビ | 非 | 家村　伸子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | bビ | 非 | 藤山　益美 | | | | | |
| | | | | | | | | | | cビ | 非 | 阿部　翔太 | | | | | |
| | | | | | | | | | | aメ | 非 | 矢吹　文乃 | | | | | |
| | | | | | | | | | | bメ | 非 | 坂本　はるえ | | | | | |
| | | | | | | | | | | aス | 非 | 田中　美帆 | | | | | |
| | | | | | | | | | | bス | 非 | 久保　博雅 | | | | | |
| | | | | | | | | | | 再a | | （未開講） | | | | 抽選 | 45名 |
| | | | | | | | | | | 再b | | 坂水　貴司 | | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | 再c | 非 | 中元　さおり | | | | | |
| | | | | | | | | | | 再d | 非 | 藤山　益美 | | | | | |
| | 文章検演習 | 文章作成の基礎を学ぶ | 前 | 2 | | | | | ◎※2013以降 | a | 非 | 重野　裕美 | 4 | | ・2013（平成25）年度以降の入学生対象科目<br>・4年次生で，「文章読解・作成能力検定」3級と「文章読解・作成能力テスト」3級をあわせて3回以上受検している者のみ履修可<br>・卒業要件外科目で評価は「CA」 | | |
| | | | 後 | | | | | | | b | | 木本　一成 | | | | | |
| | ビジネス日本語演習 | 文章力養成徹底講座・社会人入門 | 前 | 2 | | | | | | a | 非 | 重野　裕美 | 1 | 文章表現演習・基礎徹底 | 「日本語文章表現」又は「文章表現演習・基礎」の単位修得者及び2013（平成25）年度以降の入学生で「日本語文章表現」の一次評価がC評価以上の者のみ履修可 | 抽選 | 45名 |
| | | | | | | | | | | b | | 岡本　恵子 | | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | c | | 岡本　恵子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | d | | 岡本　恵子 | | | | | |
| | | | | | | | | | | e | | 坂水　貴司 | | | | | |
| | | | | | | | | | | f | | 坂水　貴司 | | | | | |
| | 日本語演習・標準 | レポートの読み方・書き方を学ぶ | 前 | 2 | | | | | | a | | 木本　一成 | 1 | | ・2012（平成24）年度以前の入学生は「日本語文章表現」又は「文章表現演習・基礎」単位修得者のみ履修可<br>・2013（平成25）年度以降の入学生は「日本語文章表現」の単位修得者又は一次評価がC評価以上の者のみ履修可 | 抽選 | 40名 |
| | | | 後 | | | | | | | b | | | | | | | |
| | 文章表現演習・標準 | 社会で通用する文章力養成講座 | 前 | 2 | | | | | | a | 非 | 中元　さおり | 1 | 文章表現演習（中級Ⅰ）<br>文章表現演習（中級Ⅱ） | 「日本語文章表現」若しくは「文章表現演習・基礎」単位修得者又は、「日本語文章能力検定」3級若しくは「文章読解・作成能力検定」3級取得者あるいは、2013年度以降の入学生で「日本語文章表現」の一次評価がC評価以上の者のみ履修可 | 抽選 | 40名 |
| | | | | | | | | | | b | 非 | 重野　裕美 | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | | 坂水　貴司 | | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | d | | （未開講） | | | | | |
| | | | | | | | | | | e | 非 | 中元　さおり | | | | | |
| | 日本語演習・発展 | 論文の書き方を学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | | 木本　一成 | 2 | | 「日本語演習・標準」の単位修得者のみ履修可 | 抽選 | 40名 |
| | 文章表現演習・発展 | 社会で活躍できる文章力養成講座 | 前 | 2 | | | | | | a | | 岡本　恵子 | 2 | 文章表現演習(上級) | 「文章表現演習・標準」単位修得者又は「日本語文章能力検定」準2級若しくは「文章読解・作成能力検定」準2級取得者のみ履修可 | 抽選 | 30名 |
| | | | 後 | | | | | | | b | | | | | | | |

## 【自己理解系科目】（2015（平成27）年度以降入学生対象科目）

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 自己理解系科目 | 日本の歴史Ⅰ | 古代・中世の日本 | 前 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a b | | 平下　義記 | 1 | | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・「自己理解系科目」の中から6単位以上修得すること | | |
| | 日本の歴史Ⅱ | 近世～近代前期の日本 | 前 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a b | | 濱田　敏彦 | 1 | | | | |
| | 日本の歴史Ⅲ | 近代中後期～現代の日本 | 後 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a b | 非 | 棚橋　久美子 | 1 | | | | |
| | 広島の歴史と文化 | 広島の歴史・文化遺産 | 後 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 田中　泉<br>濵田　敏彦 | 1 | | | | |
| | 日本の思想と文化 | 日本人的ものの見方、考え方 | 前 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 岡本　貞雄 | 1 | | | | |
| | 日本の宗教 | 神社神道、仏教（各宗派） | 後 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 岡本　貞雄 | 1 | | | | |
| | 日本の地理 | 各地域の地誌 | 前 後 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a b | 非 | 竹本　伸 | 1 | | | | |
| | 日本の法律 | 市民生活と法 | 後 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 宮畑　加奈子 | 1 | | | | |
| | 日本の政治 | 戦後の政治史 | 前 後 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a b | 非 | 河野　弥生 | 1 | | | | |
| | 日本国憲法Ⅰ | 基本的人権 | 前 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | G. R. ハラダ | 1 | | | | |
| | 日本国憲法Ⅱ | 統治機構 | 後 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | G. R. ハラダ | 1 | | | | |
| | 日本外交史 | 近現代における日本外交の歴史 | 前 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 寺本　康俊 | 1 | | | | |

## 【他者理解系科目】（2015（平成27）年度以降入学生対象科目）

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 他者理解系科目 | 世界の歴史Ⅰ | グローバル・ヒストリー（古代～近世） | 前 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 田中　泉 | 1 | | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・「他者理解系科目」の中から6単位以上修得すること | | |
| | 世界の歴史Ⅱ | グローバル・ヒストリー（近代～現代） | 後 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 田中　泉 | 1 | | | | |
| | 世界の思想と現代社会Ⅰ | アメリカの現代社会の形成過程 | 前 後 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a b | | 山本　貴裕 | 1 | | | | |
| | 世界の思想と現代社会Ⅱ | ロシアの歴史と現在 | 前 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a b | 非 | 斎藤　祥平 | 1 | | | | |
| | 世界の思想と現代社会Ⅲ | 東アジア、儒教、革命の思想 | 特設（サマー） | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 非 | 土居　智典 | 1 | | | | |
| | ※世界の思想と現代社会Ⅳ | イスラーム世界、政治・宗教・文化 | | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | 1 | | ・2019（平成31）年度以降は開講なし | | |
| | 世界の宗教 | 四大宗教の基礎知識 | 前 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 田中　泉<br>澤　滋久 | 1 | | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・「他者理解系科目」の中から6単位以上修得すること | | |
| | 世界の地理Ⅰ | アジア・アフリカの地誌 | 後 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a b | 非 | 竹本　伸 | 1 | | | | |
| | 世界の地理Ⅱ | ヨーロッパ・アメリカの地誌 | 前 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | a b | 非 | 竹本　伸 | 1 | | | | |
| | 世界の憲法 | 各国の憲法の内容と国家のしくみ | 後 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 非 | 岡田　高嘉 | 1 | | | | |
| | 国際関係史 | 近現代における国際政治の歴史 | 後 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 寺本　康俊 | 1 | | | | |

## 【基礎教養科目】（2015（平成27）年度以降入学生対象科目）

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎教養科目 | 社会心理学 | 人間関係のあり方 | 後 | 2 | | | | | | | | 神田　義浩 | 1 | | | | |
| | 生命倫理 | 現代における新たな生のあり方 | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 田中　健 | 1 | | | | |
| | 日本文学Ａ | 近代文学 | 前 | 2 | | | | | | | | 岡本　恵子 | 1 | | | | |
| | 日本文学Ｂ | 古典文学 | 後 | 2 | | | | | | | | 長谷川　泰志 | 1 | | | | |
| | 外国文学Ａ | 英米文学 | 後 | 2 | | | | | | | | 森　瑞樹<br>藤山　和久<br>本岡　亜沙子 | 1 | | | | |
| | ※外国文学Ｂ | 仏文学 | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2016（平成28）年度以降は開講なし | | |
| | 現代社会と人権 | 人権問題の現状と課題 | 後 | 2 | | | | | | | | G. R. ハラダ | 1 | | | | |
| | 環境法 | 環境権と環境法、環境アセスメント | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 野本　敏生 | 1 | | | | |
| | テクノロジーと社会・経済 | 現代の社会・経済とテクノロジーの関係について考える | 前 | 2 | | | | | | | | 山本　雅昭 | 1 | | | | |
| | 情報とネットワーク社会 | 情報と現代社会について考える | 後 | 2 | | | | | | | | 山本　雅昭 | 1 | | | | |
| | 数学Ａ | 数学入門 | 前 | 2 | | | | | | | | 平岡　賢治 | 1 | | | 抽選 | 100名 |
| | 数学Ｂ | 微分積分基礎 | 後 | 2 | | | | | | | | 平岡　賢治 | 1 | | | 抽選 | 100名 |
| | 数学Ｃ | 統計基礎 | 前 | 2 | | | | | | | | 平岡　賢治 | 2 | | | 抽選 | 100名 |
| | 自然科学Ａ | 物理学 | 前 | 2 | | | | | | | | 高石　哲弥 | 1 | | | | |
| | 自然科学Ｂ | 天文学、地球科学 | 後 | 2 | | | | | | | | 高石　哲弥 | 1 | | | | |
| | 自然科学Ｃ | エコロジー論 | 特設（サマー） | 2 | | | | | | | 非 | 原田　浩幸 | 1 | | | | |
| | スポーツ科学 | スポーツ科学への誘い | 後 | 2 | | | | | | | | 柳川　和優 | 1 | | | | |
| | 健康科学 | 基礎から学ぶ健康づくり | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 野瀬　由佳 | 1 | | | | |
| | メンタルヘルス論 | 心のカゼと対処法 | 後 | 2 | | | | | | | | 上手　幸治 | 1 | | | | |
| | スポーツ実習 | スポーツの楽しさと健康づくり | 前 | 1 | | | | | | a | | 柳川　和優 | | | バスケットボール | 抽選 | 各クラスごとの定員有 |
| | | | | | | | | | | b | | 渡辺　泰弘 | | | フットサル | | |
| | | | | | | | | | | c | | 松本　耕二 | | | フライングディスク | | |
| | | | 後 | 1 | | | | | | d | | 渡辺　泰弘 | | | フットサル | | |
| | | | | | | | | | | e | | 柳川　和優 | | | バスケットボール | | |
| | ※教養特別講義Ⅰ | 学外特別講師によるリレー講義（政治・経済） | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2017（平成29）年度以降は開講なし | | |
| | ※教養特別講義Ⅱ | 学外特別講師によるリレー講義（社会・文化） | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2017（平成29）年度以降は開講なし | | |

## 【総合科学科目】（2014（平成26）年度以前入学生対象科目）

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入門科目 | ※人間学入門 | 人間、その根源を考える | | 2 | | | | | | | | | 1 | いのちを見つめる | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※心理学入門 | 心のはたらき、その謎に迫る | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※ことば学入門 | ことばのしくみ、ことばの諸相 | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※文学入門 | 文学の楽しみ、読書への誘い | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※法学入門 | 実社会と法の接点を知ろう | | 2 | | | | | | | | | 1 | 法のしくみ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※政治学入門 | 教養としての政治 | | 2 | | | | | | | | | 1 | 政治のしくみ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※歴史学入門 | 歴史を読む、歴史のこわさ・面白さ | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※自然科学入門 | 自然、その理解と認識の変容 | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※数学入門 | 数学は面白い、数学的な見方・考え方 | | 2 | | | | | | | | | 1 | 教養の数学 | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | スポーツ科学 | スポーツ科学への誘い | 後 | 2 | | | | | | | | 柳川　和優 | 1 | 運動と健康<br>スポーツ科学入門 | | | |
| | スポーツ実習 | スポーツの楽しさと健康づくり | 前 | | | | | | | a | | 柳川　和優<br>（バスケットボール） | | | | 抽選 | 各クラスごとの定員有 |
| | | | | | | | | | | b | | 渡辺　泰弘<br>（フットサル） | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | | 松本　耕二<br>（フライングディスク） | | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | d | | 渡辺　泰弘<br>（フットサル） | | | | | |
| | ※キャンパスライフ実践論 | 大学生活の不安を解消する | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| 人文分野科目 | 生命倫理 | 現代における新たな生のあり方 | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 田中　健 | 1 | よく生きるⅠ | | | |
| | ※職業倫理 | 働くことの意味、職場に必要な倫理 | | 2 | | | | | | | | | 2 | よく生きるⅡ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | 日本の思想と文化 | 日本人的ものの見方、考え方 | 前 | 2 | | | | | | | | 岡本　貞雄 | 1 | 日本の思想<br>思想の世界A | | | |
| | ※思想の世界B | 東洋の思想、その流れ | | 2 | | | | | | | | | 2 | 東洋の思想 | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※思想の世界C | 西洋の思想、その流れ | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※宗教と現代 | 現代に生きる宗教－仏教、禅を考える－ | | 2 | | | | | | | | | 1 | 宗教入門 | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※発達心理学 | 心の成長と発達課題 | | 2 | | | | | | | | | 1 | 心の発達 | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | 社会心理学 | 人間関係のあり方 | 後 | 2 | | | | | | | | 神田　義浩 | 1 | 人間関係の心理<br>人間関係の心理学 | | | |
| | ※日本文化論 | 物語から見た日本の文化 | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | 世界の思想と現代社会Ⅰ | アメリカの現代社会の形成過程 | 前 | 2 | | | | | | a | | 山本　貴裕 | 1 | 異文化の理解A | | | |
| | | | 後 | | | | | | | b | | | | | | | |
| | ※異文化の理解B | 中国の文化、日本との比較から | | 2 | | | | | | | | | 2 | 中国の文化 | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | 広島を学ぶ | ヒロシマを歩いて考える | 特設（その他） | 2 | | | | | | | | 岡本　貞雄<br>濱田　敏彦<br>徳永　博充<br>竹林　栄治 | 1 | | | 抽選 | 50名 |
| | 日本文学A | 近代文学 | 前 | 2 | | | | | | | | 岡本　恵子 | 1 | 日本近代文学入門 | | | |
| | 日本文学B | 古典文学 | 後 | 2 | | | | | | | | 長谷川　泰志 | 1 | 日本古典文学入門<br>日本古典文学の世界 | | | |
| | 外国文学A | 英米文学 | 前 | 2 | | | | | | | | 森　瑞樹<br>藤山　和久<br>本岡　亜沙子 | 1 | アメリカ文学の世界 | | | |
| | ※外国文学B | 仏文学 | | 2 | | | | | | | | | 1 | フランス文学の世界 | 2016（平成28）年度以降は開講なし | | |
| | ※芸術の世界A | 美術の楽しみ、感性を磨く | | 2 | | | | | | | | | 1 | 美術に親しむⅠ<br>美術に親しむⅡ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※芸術の世界B | 音楽の楽しみ、感性を磨く | | 2 | | | | | | | | | 1 | 音楽に親しむⅠ<br>音楽に親しむⅡ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※話しことば表現論 | 話しことばの特質とその諸相 | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | コミュニケーション実践 | 相手に届き、相手を動かす音声表現の練習 | 後 | 2 | | | | | | | | 重野　裕美 | 1 | 音声表現演習 | | 抽選 | 30名 |
| | 文芸創作実践 | 詩歌や小説を創作、表現技術と感性を磨く | 後 | 2 | | | | | | | | 岡本　恵子 | 1 | 文芸創作の世界<br>文芸創作 | | 抽選 | 30名 |
| | 日本の歴史Ⅰ | 古代・中世の日本 | 前 | 2 | | | | | | a | | 平下　義記 | 1 | | | | |
| | | | | | | | | | | b | | | | | | | |
| | 日本の歴史Ⅱ | 近世～近代前期の日本 | 前 | 2 | | | | | | a | | 濱田　敏彦 | 1 | | | | |
| | | | | | | | | | | b | | | | | | | |
| | 日本の歴史Ⅲ | 近代中後期～現代の日本 | 後 | 2 | | | | | | a | 非 | 棚橋　久美子 | 1 | | | | |
| | | | | | | | | | | b | | | | | | | |
| | 広島の歴史と文化 | 広島の歴史・文化遺産 | 後 | 2 | | | | | | | | 田中　泉<br>濱田　敏彦 | 1 | | | | |
| | 日本の宗教 | 神社神道、仏教（各宗派） | 後 | 2 | | | | | | | | 岡本　貞雄 | 1 | | | | |
| | 日本の地理 | 各地域の地誌 | 前 | 2 | | | | | | a | 非 | 竹本　伸 | 1 | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | b | | | | | | | |
| | 世界の歴史Ⅰ | グローバル・ヒストリー（古代～近世） | 前 | 2 | | | | | | | | 田中　泉 | 1 | | | | |
| | 世界の歴史Ⅱ | グローバル・ヒストリー（近代～現代） | 後 | 2 | | | | | | | | 田中　泉 | 1 | | | | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人文分野科目 | 世界の思想と現代社会Ⅱ | ロシアの歴史と現在 | 前 | 2 | | | | | | a<br>b | 非 | 斎藤　祥平 | 1 | | | | |
| | 世界の思想と現代社会Ⅲ | 東アジア、儒教、革命の思想 | 特設(サマー) | 2 | | | | | | | 非 | 土居　智典 | 1 | | | | |
| | ※世界の思想と現代社会Ⅳ | イスラーム世界、政治・宗教・文化 | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2019（平成31）年度以降は開講なし | | |
| | 世界の宗教 | 四大宗教の基礎知識 | 前 | 2 | | | | | | | | 田中　泉<br>澤　滋久 | 1 | | | | |
| | 世界の地理Ⅰ | アジア・アフリカの地誌 | 後 | 2 | | | | | | a<br>b | 非 | 竹本　伸 | 1 | | | | |
| 社会分野科目 | 現代社会と人権 | 人権問題の現状と課題 | 後 | 2 | | | | | | | | G. R. ハラダ | 1 | 人としての権利・義務 | | | |
| | 環境法 | 環境権と環境法、環境アセスメント | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 野本　敏生 | 1 | 環境と法 | | | |
| | ※地方自治論 | 市町村の自治にまつわる様々な制度、問題 | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※国際関係論Ⅰ | 国際関係の成り立ちと進展 | | 2 | | | | | | | | | 2 | 国際社会のしくみⅠ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※国際関係論Ⅱ | グローバル化する世界の中の国際関係 | | 2 | | | | | | | | | 2 | 国際社会のしくみⅡ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※国際協力論 | 国際協力・開発協力の課題と検討 | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※平和学 | 広島から平和を考える | | 2 | | | | | | | | | 2 | 21世紀の平和学 | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※消費者と現代社会 | 消費生活の正しい知識、消費者問題 | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※21世紀の社会学 | ゆらぎ社会としての現代を考える | | 2 | | | | | | | | | 2 | 社会のしくみ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※社会調査の方法 | 社会調査の方法と意味の理解、データ分析の方法 | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※マスコミと現代社会 | マスコミの果たすべき役割、言論の自由と責任 | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※現代社会と歴史Ａ | 日本の歴史、現代からの展望 | | 2 | | | | | | | | | 1 | 日本の歴史Ⅰ<br>日本の歴史Ⅱ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※現代社会と歴史Ｂ | 世界の歴史、現代からの展望 | | 2 | | | | | | | | | 1 | ヨーロッパの歴史<br>アメリカの歴史 | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※教養特別講義Ⅰ | 学外特別講師によるリレー講義（政治・経済） | | 2 | | | | | | | | | 1 | 特別講義Ⅰ | 2017（平成29）年度以降は開講なし | | |
| | ※教養特別講義Ⅱ | 学外特別講師によるリレー講義（社会・文化） | | 2 | | | | | | | | | 1 | 特別講義Ⅱ | 2017（平成29）年度以降は開講なし | | |
| | 日本国憲法Ⅰ | 基本的人権 | 前 | 2 | | | | | 教職◎ | | | G. R. ハラダ | 1 | 憲法Ⅰ | | | |
| | 日本国憲法Ⅱ | 統治機構 | 後 | 2 | | | | | 教職◎ | | | G. R. ハラダ | 1 | 憲法Ⅱ | | | |
| | テクノロジーと社会・経済 | 現代の社会・経済とテクノロジーの関係について考える | 前 | 2 | | | | | | | | 山本　雅昭 | 1 | | | | |
| | 情報とネットワーク社会 | 情報と現代社会について考える | 後 | 2 | | | | | | | | 山本　雅昭 | 1 | | | | |
| | 日本の法律 | 市民生活と法 | 後 | 2 | | | | | | | | 宮畑　加奈子 | 1 | | | | |
| | 日本の政治 | 戦後の政治史 | 前<br>後 | 2 | | | | | | a<br>b | 非 | 河野　弥生 | 1 | | | | |
| | 世界の憲法 | 各国の憲法の内容と国家のしくみ | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 岡田　高嘉 | 1 | | | | |
| 自然分野科目 | 数学Ａ | 数学入門 | 前 | 2 | | | | | | | | 平岡　賢治 | 1 | 線形代数とその応用Ⅰ<br>線形代数とその応用Ⅱ<br>数学の世界Ｂ | | 抽選 | 100名 |
| | 数学Ｂ | 微分積分基礎 | 後 | 2 | | | | | | | | 平岡　賢治 | 1 | 微積分とその応用Ⅰ<br>微積分とその応用Ⅱ<br>数学の世界Ａ | | 抽選 | 100名 |
| | 数学Ｃ | 統計基礎 | 前 | 2 | | | | | | | | 平岡　賢治 | 2 | 数学の世界Ｃ | | 抽選 | 100名 |
| | 自然科学Ａ | 物理学 | 前 | 2 | | | | | | | | 高石　哲弥 | 1 | 物質の世界<br>物理の世界 | | | |
| | ※化学の世界 | 物質とつきあっていくための化学的基礎 | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※生物の世界 | 生物の多様性の理解と人間との共生 | | 2 | | | | | | | | | 1 | 人間と自然Ⅱ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※生命の科学 | 生命についての科学的認識の深化 | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | 自然科学Ｂ | 天文学、地球科学 | 後 | 2 | | | | | | | | 高石　哲弥 | 1 | 宇宙の誕生<br>宇宙の科学<br>地球の科学 | | | |
| | 自然科学Ｃ | エコロジー論 | 特設(サマー) | 2 | | | | | | | 非 | 原田　浩幸 | 1 | 地球環境論<br>エコロジー論<br>環境の科学 | | | |
| | ※２１世紀の科学技術 | 最先端の科学技術事情と課題 | | 2 | | | | | | | | | 2 | 人間と自然Ⅰ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| 健康・スポーツ分野科目 | 健康科学 | 基礎から学ぶ健康づくり | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 野瀬　由佳 | 1 | 食生活と健康<br>食育論 | | | |
| | ※環境と健康 | 環境との関わりから健康を考える | | 2 | | | | | | | | | 2 | 人間・環境・健康 | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | メンタルヘルス論 | 心のカゼと対処法 | 後 | 2 | | | | | | | | 上手　幸治 | 1 | 性格の心理<br>無意識の心<br>人格心理学<br>心の健康 | | | |
| | ※スポーツと健康 | | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |

## 【情報処理科目】（2014（平成26）年度以降入学生対象科目）

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 情報処理科目 | 情報処理入門Ⅰ | 経済学部で学ぶための PC 入門（Word と PowerPoint を使った学習の基礎） | 前 | 2 | | | | | ※2014以降 | a | 派 | 落谷　淑江 | 1 | | ・2014（平成26）年度以降入学生対象科目<br>・2013（平成25）年度以前の経済学科及び経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」の単位未修得者は、各学科科目の中にある「情報処理入門Ⅰ」を必修科目として履修すること（修得した単位は、各学科科目の必修科目の単位として計算）。<br>・2014（平成26）年度以前のメディアビジネス学科の学生で「情報基礎演習Ⅰ」の単位未修得者は、学科科目の中にある「情報処理入門Ⅰ」を必修科目として履修すること（修得した単位は、各学科科目の必修科目の単位として計算）。 | ビ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | | | | | | | | b | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | d | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | e | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | f | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | g | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | h | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | i | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | j | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | k | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | l | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | m | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | n | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | o | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | p | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | 情報処理入門Ⅱ | 経済学部で学ぶための PC 入門（Excel を使った学習の基礎） | 前 | 2 | | | | | ※2014以降 | a | 派 | 落谷　淑江 | 1 | | ・2014（平成26）年度以降入学生対象科目<br>・2013（平成25）年度以前の経済学科及び経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅱ」の単位未修得者は、各学科科目の中にある「情報処理入門Ⅱ」を必修科目として履修すること（修得した単位は、各学科科目の必修科目の単位として計算）。<br>・2014（平成26）年度以前のメディアビジネス学科の学生で「情報基礎演習Ⅱ」の単位未修得者は、学科科目の中にある「情報処理入門Ⅱ」を必修科目として履修すること（修得した単位は、各学科科目の必修科目の単位として計算）。 | ビ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | | | | | | | | b | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | c | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | d | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | e | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | f | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | g | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | h | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | i | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | j | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | k | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | l | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | m | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | n | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | o | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | p | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | q | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | 情報処理の基礎Ⅰ | プレゼンテーション応用（Word を使った学習の応用） | 前 | 2 | | | | | ※2014以降 | a | 派 | 中谷　文代 | 1 | | ・2014（平成26）年度以降入学生対象科目<br>・2013（平成25）年度以前の経済学科及び経営学科の入学生で、「情報処理の基礎Ⅰ」の履修を希望する者は、各学科科目の中にある「情報処理の基礎Ⅰ」を履修すること（修得した単位は、各学科科目の選択科目の単位として計算）。 | ビ・メ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | | | | | | | | b | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | d | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | e | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | f | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | g | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | h | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | i | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | j | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | 情報処理の基礎Ⅱ | データベースの基礎（Excel を使った学習の応用） | 前 | 2 | | | | | ※2014以降 | a | 派 | 中谷　文代 | 1 | | ・2014（平成26）年度以降入学生対象科目<br>・2013（平成25）年度以前の経済学科及び経営学科の入学生で、「情報処理の基礎Ⅱ」の履修を希望する者は、各学科科目の中にある「情報処理の基礎Ⅱ」を履修すること（修得した単位は、各学科科目の選択科目の単位として計算）。 | ビ・メ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | | | | | | | | b | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | d | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | e | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | f | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | g | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | h | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | i | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | j | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | k | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | l | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | 情報処理の基礎Ⅲ | プレゼンテーション応用（PowerPoint を使った学習の応用） | 前 | 2 | | | | | ※2014以降 | a | 派 | 吉田　舞 | 1 | | ・2014（平成26）年度以降入学生対象科目<br>・2013（平成25）年度以前の経済学科及び経営学科の入学生で、「情報処理の基礎Ⅲ」の履修を希望する者は、各学科科目の中にある「情報処理の基礎Ⅲ」を履修すること（修得した単位は、各学科科目の選択科目の単位として計算）。 | ビ・メ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | 後 | | | | | | | b | | | | | | | | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 履修区分 2017 | 履修区分 2016 | 履修区分 2015 | 履修区分 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 情報処理科目 | 情報処理の基礎Ⅳ | データベースの基礎（Access を使った学習の応用） | 前 | 2 | | | | | ※2014以降 | a | 派 | 中谷　文代 | 1 | | ・2014（平成26）年度以降入学生対象科目<br>・2013（平成25）年度以前の経済学科及び経営学科の入学生で、「情報処理の基礎Ⅳ」の履修を希望する者は、各学科科目の中にある「情報処理の基礎Ⅳ」を履修すること（修得した単位は、各学科科目の選択科目の単位として計算）。 | ビ・メ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | 後 | | | | | | | b | | | | | | | | |
| | 情報処理の基礎Ⅴ | 画像操作の基礎（Photoshop を使った学習の応用） | 前 | 2 | | | | | | a | | 山本　雅昭 | 1 | | ・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「画像処理演習」若しくは「画像編集」単位修得者は履修不可<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生は「画像処理演習」若しくは「画像編集」との同時履修不可 | ビ・メ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | 後 | 2 | | | | | | b | | | | | | | | |

## 2 学科科目

### (1) 経済学科

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入門科目 | 経済入門 | くらしと経済 | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | a | | 福居　信幸 | 1 | | | 不可 | | |
| | | | | | | | | | | b | | 藤谷　則夫 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | | 一橋　信之 | | | | | | |
| | 経営入門 | ビジネスの世界で働く | 後 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | f | | 松川　佳洋 | 1 | | | 不可 | | |
| | | | | | | | | | | g | | 瀬戸　正則 | | | | | | |
| | ファイナンス入門 | お金に関する基本的な知識を身につける | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | a | | 重本　洋一 | 1 | | ・経済学科の学生で「ファイナンス入門」の単位未修得者は、a～cのいずれかを選択し、履修すること<br>・他学科の学生で「ファイナンス入門」の履修希望者は、a～cのいずれかを選択し履修すること。 | | | |
| | | | | | | | | | | b | | 得津　康義 | | | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | c | | 重本　洋一 | | | | | | |
| | 情報処理入門Ⅰ | 経済学部で学ぶためのPC入門（WordとPowerPointを使った学習の基礎） | 前 | 2 | | | | | ◎※2013以前 | a | 派 | 落谷　淑江 | 1 | | ・2013（平成25）年度以前の入学生対象科目<br>・2013（平成25）年度以前の経済学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」の単位未修得者は、a～pのいずれかを選択し、履修すること<br>・2014（平成26）年度以降の経済学科の入学生で、「情報処理入門Ⅰ」の履修を希望する者は、共通科目の情報処理科目の中にある「情報処理入門Ⅰ」を履修すること(修得した単位は、共通科目の選択科目の単位として計算) | ビ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | | | | | | | | b | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | d | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | e | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | f | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | g | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | h | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | i | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | j | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | k | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | l | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | m | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | n | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | o | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | p | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | 情報処理入門Ⅱ | 経済学部で学ぶためのPC入門（Excelを使った学習の基礎） | 前 | 2 | | | | | ◎※2013以前 | a | 派 | 落谷　淑江 | 1 | | ・2013（平成25）年度以前の入学生対象科目<br>・2013（平成25）年度以前の経済学科の入学生で「情報処理入門Ⅱ」の単位未修得者は、a～qのいずれかを選択し、履修すること<br>・2014（平成26）年度以降の経済学科の入学生で、「情報処理入門Ⅱ」の履修を希望する者は、共通科目の情報処理科目の中にある「情報処理入門Ⅱ」を履修すること(修得した単位は、共通科目の選択科目の単位として計算) | ビ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | | | | | | | | b | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | c | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | d | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | e | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | f | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | g | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | h | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | i | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | j | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | k | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | l | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | m | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | n | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | o | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | p | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | q | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| 基礎科目 | ミクロ経済学基礎Ⅰ | 家計・企業の行動と市場のはたらきについて考える | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | a | | 松榮　豊貴 | 2 | 基礎経済学Ⅰ | ・経済学科の2年次生は、学籍番号で指定されたクラス（a～d）で履修すること。<br>・経済学科の学生で「ミクロ経済学基礎Ⅰ」の単位未修得者は、a～eのいずれかを選択し履修すること。<br>・他学科の学生で履修を希望する者は、eクラスを履修すること。 | 不可 | | |
| | | | | | | | | | | b | | 松榮　豊貴 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | | 堀江　真由美 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | d | | 堀江　真由美 | | | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | e | | 堀江　真由美 | | | | | | |
| | ミクロ経済学基礎Ⅱ | 市場における価格と数量の決定 | 後 | 2 | | | | | | | | 新垣　繁秀 | 2 | ミクロ経済学 | | | | |
| | マクロ経済学基礎Ⅰ | 経済のしくみを鳥の目で見る | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | a | | 山根　智沙子 | 2 | 基礎経済学Ⅱ | ・経済学科の2年次生は、学籍番号で指定されたクラス（a～d）で履修すること。<br>・経済学科の学生で「マクロ経済学基礎Ⅰ」の単位未修得者は、a～eのいずれかを選択し履修すること。<br>・他学科の学生で履修を希望する者は、eクラスを履修すること。 | 不可 | | |
| | | | | | | | | | | b | | 山根　智沙子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | | 新垣　繁秀 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | d | | 新垣　繁秀 | | | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | e | | 山根　智沙子 | | | | | | |
| | マクロ経済学基礎Ⅱ | IS-LM曲線を用いてマクロ経済をとらえる | 後 | 2 | | | | | | | | 松榮　豊貴 | 2 | マクロ経済学 | | | | |
| | 国際経済基礎Ⅰ | グローバル経済のあゆみと展望 | 前 | 2 | | | | | | | | 小笠原　礼以<br>平本　賢了<br>楊　義申<br>福居　信幸 | 2 | | | | | |
| | 国際経済基礎Ⅱ | 貿易と国際収支の基礎を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 野北　晴子 | 2 | 国際経済論基礎 | | | | |
| | 経済の基礎数学Ⅰ | 経済を学ぶための数学 | 前 | 2 | | | | | | | | 平岡　賢治 | 2 | 経済と金融の基礎数学Ⅰ | | | | |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | | 経済の基礎数学Ⅱ | 経済を学ぶための数学 | 後 | 2 | | | | | | | | 平岡　賢治 | 2 | 経済と金融の基礎数学Ⅱ | | | | |
| | | 経済学史 | アダム・スミスからケインズまで | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 林　直樹 | 2 | 経済学の歴史<br>近代経済学の歴史<br>経済学の歴史基礎 | | | | |
| | | 経済史基礎Ⅰ | 近代以前の経済の歴史 | 前 | 2 | | | | | | | | 竹林　栄治 | 2 | 経済史基礎 | | | | |
| | | 経済史基礎Ⅱ | 近代以後の経済の歴史 | 後 | 2 | | | | | | | | 竹林　栄治 | 2 | 経済史基礎 | | | | |
| | | 経済政策論基礎 | 市場経済と政府の役割 | 後 | 2 | | | | | | | | 石田　優子 | 2 | 経済政策論Ⅰ | | | | |
| | | 社会政策論基礎 | 安心して暮らせる社会と政策 | 後 | 2 | | | | | | | | 森山　玲子 | 2 | 社会政策論 | | | | |
| | | 財政学Ⅰ | 財政と私たちのくらし | 前 | 2 | | | | | | | | 中嶋　則夫 | 2 | 財政学 | | | | |
| | | 財政学Ⅱ | 税金と日々のくらし | 後 | 2 | | | | | | | | 一橋　信之 | 2 | 財政学 | | | | |
| | | 金融論Ⅰ | 金融のしくみと基礎知識 | 前 | 2 | | | | | | | | 福居　信幸 | 2 | 金融論Ⅰ<br>（金融のしくみと基礎知識） | | | | |
| | | 金融論Ⅱ | 金融と日本経済 | 後 | 2 | | | | | | | | 福居　信幸 | 2 | 金融論Ⅱ<br>（金融と日本経済） | | | | |
| | | ※情報処理論 | 経済を扱うための情報知識 | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | 基礎経済統計 | 経済で学ぶ、数々の統計について知ろう | 前 | 2 | | | | | | a<br>b | 非 | 原　康宏 | 2 | 統計学Ⅰ（記述統計学）<br>経済統計論 | | | | |
| | | 基礎経済統計演習 | ＰＣを使って経済統計を利用してみよう | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 原　康宏 | 2 | 経済データ処理演習Ⅰ<br>経済情報処理演習Ⅲ | | | 抽選 | 100名 |
| | | 情報処理の基礎Ⅰ | プレゼンテーション応用（Word を使った学習の応用） | 前<br>後 | 2 | | | | | ◎<br>※2013以前 | a<br>b<br>c<br>d<br>e<br>f<br>g<br>h<br>i<br>j | 派<br>派<br>派<br>派<br>派<br>派<br>派<br>派<br>派<br>派 | 中谷　文代<br>中谷　文代<br>中谷　文代<br>吉田　舞<br>吉田　舞<br>吉田　舞<br>吉田　舞<br>吉田　舞<br>中谷　文代<br>中谷　文代 | 1 | | ・2013（平成25）年度以前の入学生対象科目<br>・2014（平成26）年度以降の経済学科の入学生で、「情報処理の基礎Ⅰ」の履修を希望する者は、共通科目の情報処理科目の中にある「情報処理の基礎Ⅰ」を履修すること（修得した単位は、共通科目の選択科目の単位として計算） | ビ・メ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | 情報処理の基礎Ⅱ | データベースの基礎（Excel を使った学習の応用） | 前<br>後 | 2 | | | | | ◎<br>※2013以前 | a<br>b<br>c<br>d<br>e<br>f<br>g<br>h<br>i<br>j<br>k<br>l | 派<br>派<br>派<br>派<br>派<br>派<br>派<br>派<br>派<br>派<br>派<br>派 | 中谷　文代<br>吉田　舞<br>吉田　舞<br>吉田　舞<br>中谷　文代<br>中谷　文代<br>中谷　文代<br>中谷　文代<br>中谷　文代<br>中谷　文代<br>吉田　舞<br>吉田　舞 | 1 | | ・2013（平成25）年度以前の入学生対象科目<br>・2014（平成26）年度以降の経済学科の入学生で、「情報処理の基礎Ⅱ」の履修を希望する者は、共通科目の情報処理科目の中にある「情報処理の基礎Ⅱ」を履修すること（修得した単位は、共通科目の選択科目の単位として計算） | ビ・メ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | 情報処理の基礎Ⅲ | プレゼンテーション応用（PowerPoint を使った学習の応用） | 前 | 2 | | | | | ◎<br>※2013以前 | a<br>b | 派 | 吉田　舞 | 1 | | ・2013（平成25）年度以前の入学生対象科目<br>・2014（平成26）年度以降の経済学科の入学生で、「情報処理の基礎Ⅲ」の履修を希望する者は、共通科目の情報処理科目の中にある「情報処理の基礎Ⅲ」を履修すること（修得した単位は、共通科目の選択科目の単位として計算） | ビ・メ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | 情報処理の基礎Ⅳ | データベースの基礎（Access を使った学習の応用） | 後 | 2 | | | | | ◎<br>※2013以前 | a<br>b | 派 | 中谷　文代 | 1 | | ・2013（平成25）年度以前の入学生対象科目<br>・2014（平成26）年度以降の経済学科の入学生で、「情報処理の基礎Ⅳ」の履修を希望する者は、共通科目の情報処理科目の中にある「情報処理の基礎Ⅳ」を履修すること（修得した単位は、共通科目の選択科目の単位として計算） | ビ・メ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | 現代日本経済事情Ⅰ | 国内編 | 前 | 2 | | | | | | | | 宜名眞　勇 | 2 | 現代日本経済Ⅰ（国内編） | | | | |
| | | 現代日本経済事情Ⅱ | 国際関係編 | 後 | 2 | | | | | | | | 宜名眞　勇 | 2 | 現代日本経済Ⅱ（国際関係編） | | | | |
| | | ※現代中国経済事情 | 日中経済関係のトピックスを中心に | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| 発展・応用科目 | 総合経済学 | ミクロ経済学 | 市場機構の限界と不確実性 | 前 | 2 | | | | | | | | 堀江　真由美 | 3 | | | | | |
| | | マクロ経済学 | IS-LM 曲線を用いてマクロ経済政策の効果を考える | 前 | 2 | | | | | | | | 宜名眞　勇 | 3 | | | | | |
| | | 景気循環論 | 戦後日本の景気循環 | 後 | 2 | | | | | | | | 山根　智沙子 | 3 | | | | | |
| | | ※実践景気分析 | データから景気を分析する | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2018（平成30）年度以降は開講なし | | | |
| | | ※数理経済学 | 数学を通じて経済学を学ぶ | | 2 | | | | | | | | | 3 | 数理経済学Ⅰ<br>数理経済学Ⅱ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | ※経済学の歴史 | 主な学説を学ぶ | | 2 | | | | | | | | | 3 | 経済学の歴史<br>近代経済学の歴史 | 2019（平成31）年度以降は開講なし | | | |
| | | 日本経済史Ⅰ | 近世近代日本の経済発展 | 前 | 2 | | | | | | | | 平下　義記 | 3 | 日本経済史 | | | | |
| | | 日本経済史Ⅱ | 近現代日本の経済発展 | 後 | 2 | | | | | | | | 平下　義記 | 3 | 日本経済史 | | | | |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 総合経済学 | 西洋経済史Ⅰ | 前工業化時代のヨーロッパの社会と経済 | 前 | 2 | | | | | | | | 末広　菜穂子 | 3 | 西洋経済史 | | | | |
| | | 西洋経済史Ⅱ | 工業化時代のヨーロッパの社会と経済 | 後 | 2 | | | | | | | | 末広　菜穂子 | 3 | 西洋経済史 | | | | |
| | | ※東洋経済史Ⅰ | 前近代の東アジア経済 | | 2 | | | | | | | | | 3 | 東洋経済史 | 2018（平成30）年度以降は開講なし | | | |
| | | ※東洋経済史Ⅱ | 近世・近代の東アジア経済 | | 2 | | | | | | | | | 3 | 東洋経済史 | 2018（平成30）年度以降は開講なし | | | |
| | | 生活経済史 | 人間生活の歴史を振り返る | 前 | 2 | | | | | | | | 末広　菜穂子 | 2 | | | | | |
| | 国際経済 | 国際貿易論 | 貿易の理論と政策 | 前 | 2 | | | | | | | | 野北　晴子 | 3 | 国際経済論 | | | | |
| | | 国際金融論 | 国際金融の理論と政策 | 後 | 2 | | | | | ◎※2013以降 | | | 小笠原　礼以 | 3 | 国際金融 | ・2012（平成24）年度以降の入学生対象科目 | | | |
| | | 開発経済 | アジア太平洋地域の開発 | 後 | 2 | | | | | ◎※2013以降 | | | 平本　賢了 | 3 | 開発経済学 | ・2012（平成24）年度以降の入学生対象科目 | | | |
| | | 国際通貨制度 | 国際決済の仕組み | 前 | 2 | | | | | ◎※2013以降 | | | 小笠原　礼以 | 3 | | ・2012（平成24）年度以降の入学生対象科目 | | | |
| | | ※国際政治経済 | 国際社会における政治と経済 | | 2 | | | | | ◎※2013以降 | | | | 3 | | ・2012（平成24）年度以降の入学生対象科目<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | | |
| | | アメリカ経済 | 経済理論で学ぶアメリカ経済事情 | 後 | 2 | | | | | ◎※2013以降 | | | 福居　信幸 | 2 | | ・2012（平成24）年度以降の入学生対象科目 | | | |
| | | 中国経済 | 世界経済に影響を与える中国経済の発展 | 前 | 2 | | | | | ◎※2013以降 | | | 楊　義申 | 2 | 中国経済Ⅰ | ・2012（平成24）年度以降の入学生対象科目 | | | |
| | | アセアン経済 | アセアン諸国の経済発展要因と展望 | 前 | 2 | | | | | ◎※2013以降 | | | 平本　賢了 | 2 | 東南アジア経済 | ・2013（平成25）年度以降の入学生対象科目<br>・2012（平成24）年度以前の経済学科の入学生で、「アセアン経済（旧科目名：東南アジア経済）」の履修を希望する者は、自由選択科目（他学科科目）として履修すること（修得した単位は、自由選択科目として計算） | | | |
| | | ※インドネシア経済 | 開発政策の展開と課題 | | 2 | | | | | ◎※2013以降 | | | | 2 | | ・2012（平成24）年度以降の入学生対象科目<br>・2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | EU 経済 | 欧州統合の理念とユーロの動向について | 後 | 2 | | | | | ◎※2013以降 | | | 糠谷　英輝 | 2 | ヨーロッパ経済 | ・2013（平成25）年度以降の入学生対象科目<br>・2012（平成24）年度以前の経済学科の入学生で、「ＥＵ経済(旧科目名：ヨーロッパ経済)」の履修を希望する者は、自由選択科目（他学科科目）として履修すること（修得した単位は、自由選択科目として計算） | | | |
| 発展・応用科目 | 政策科学 | 経済政策論 | 戦後日本の経済政策 | 前 | 2 | | | | | | | | 石田　優子 | 3 | 経済政策論Ⅱ | | | | |
| | | 金融政策論 | 金融政策の経済への影響を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 西脇　廣治 | 3 | | | | | |
| | | 財政政策論 | 財政政策の経済への影響を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 中嶋　則夫 | 3 | | | | | |
| | | 租税論 | 日常生活と税とのかかわり | 前 | 2 | | | | | | | | 一橋　信之 | 3 | | | | | |
| | | 公共経済学 | 政府と市場のかかわり | 前 | 2 | | | | | | | | 中嶋　則夫 | 3 | | | | | |
| | | 実践公共経済学 | 身近な非効率を解決する | 後 | 2 | | | | | | | | 中嶋　則夫 | 3 | | | | 抽選 | 30名 |
| | | 環境経済学 | 自然と共生するための経済学 | 後 | 2 | | | | | | | | 新垣　繁秀 | 3 | | | | | |
| | | 産業組織論 | 企業行動と産業政策の成果を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 堀江　真由美 | 3 | | | | | |
| | | ※産業構造論 | かわりゆく産業とその仕組みを学ぶ | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | 地域経済論 | 地域の経済活動を理解する | 前 | 2 | | | | | | | | 藤谷　則夫 | 3 | 地域経済論Ⅰ<br>地域経済論Ⅱ | | | | |
| | | 実践地域経済論 | 国内外の事例を通してまちづくりを学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 藤谷　則夫 | 3 | 実践まちづくり | | | 抽選 | 50名 |
| | | 経済地理 | 地理学の視点から身の回りの経済現象を見る | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 川瀬　正樹 | 2 | | | | | |
| | | 労働経済学Ⅰ | 労働を取り巻く市場と制度 | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 岡村　和明 | 3 | 労働経済学 | | | | |
| | | 労働経済学Ⅱ | 私たちのくらしと労働問題 | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 岡村　和明 | 3 | 労働経済学 | | | 抽選 | 100名 |
| | | 社会保障論Ⅰ | 将来のくらしを支える仕組み(労働保険･社会福祉･公的扶助) | 前 | 2 | | | | | | | | 森山　玲子 | 3 | 社会保障論Ⅰ<br>(社会保障のしくみ) | | | | |
| | | 社会保障論Ⅱ | 将来のくらしを支える仕組み（年金・医療・介護） | 後 | 2 | | | | | | | | 森山　玲子 | 3 | 社会保障論Ⅱ<br>（社会保険と介護） | | | | |
| | 金融・情報 | 金融システム論 | 日本の金融システムの変遷を学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | | 西脇　廣治 | 3 | | | | | |
| | | 現代ファイナンス論 | 企業の資金の調達と運用 | 前 | 2 | | | | | | | | 重本　洋一 | 3 | | | | | |
| | | 実践ファイナンス | 企業の内容を読み取る | 後 | 2 | | | | | | | | 重本　洋一 | 3 | | | | 抽選 | 45名 |
| | | 実践資産運用 | お金との上手な付き合い方 | 後 | 2 | | | | | | | | 藤谷　則夫 | 3 | | | | 抽選 | 50名 |
| | | グローバル金融市場論 | 国際的な資金の流れを理解する | 前 | 2 | | | | | | | | 福居　信幸 | 3 | 国際ファイナンス論 | | | | |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発展・応用科目 | 金融・情報 | ※実践国際ファイナンス | 為替相場や実践的な金融手法を学ぶ | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | ※情報の経済学 | 経済活動における情報の重要性 | | 2 | | | | | | | | | 3 | 経済情報論Ⅰ<br>経済情報論Ⅱ<br>経済情報論 | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | 統計学 | 記述統計・確率・推測統計について学ぼう | 前 | 2 | | | | | | | | 得津　康義 | 3 | 統計学Ⅱ<br>（推測統計学） | | | | |
| | | 計量経済学Ⅰ | エクセルによるデータ処理入門 | 前 | 2 | | | | | | | | 得津　康義 | 3 | | | | 抽選 | 100名 |
| | | 計量経済学Ⅱ | 経済時系列分析入門 | 後 | 2 | | | | | | | | 得津　康義 | 3 | | | | 抽選 | 100名 |
| | | 統計学演習 | ＰＣを使って統計学の応用力を身につけよう | 後 | 2 | | | | | | | | 得津　康義 | 3 | 経済データ処理演習Ⅱ<br>経済情報処理演習Ⅳ | | | 抽選 | 100名 |
| | | 情報処理演習Ａ | はじめよう Visual Basic | 前 | 2 | | | | | ◎<br>※<br>2013以前 | | | 丹羽　啓一 | 2 | プログラミング言語演習Ⅰ<br>情報処理演習Ⅰ<br>情報処理演習ＡⅠ | 2013（平成25）年度以前の入学生対象科目 | | 抽選 | 100名 |
| | | ※情報処理演習ＡⅡ | Visual Basic で課題にチャレンジ | | 2 | | | | | | | | | 2 | プログラミング言語演習Ⅱ<br>情報処理演習Ⅱ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | 熟読 | ※外国経済書講読 | | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| 特別演習 | 専門外国語 | Basic Principles of Economics | Selected Topics in Japanese Economy | 後 | 2 | | | | | | | | 福居　信幸<br>中嶋　則夫<br>堀江　真由美 | 1 | | | | | |
| | | Japanese Economy | | 前<br>後 | 2 | | | | | | a<br>b | | 宜名眞　勇 | 2 | | | | | |
| | | Japanese Financial System | Japan's Bubble, Deflation, and Long-term Stagnation | 後 | 2 | | | | | | | | 福居　信幸 | 3 | | | | | |
| 地域特別講義 | | 広島地域ものづくり事情 | | 前 | 2 | | | | | | | | 野北　晴子<br>松榮　豊貴<br>岡本　康昭 | 2 | | | | 選考 | 120名 |
| | | 中・四国地域経済・金融事情 | | 前 | 2 | | | | | | | | 重本　洋一<br>楊　義申<br>平下　義記 | 3 | | | | 抽選 | 120名 |
| | | 中・四国地域特別講義（流通・サービス・製造） | | 後 | 2 | | | | | | | | 一橋　信之<br>藤谷　則夫<br>松榮　豊貴 | 3 | | | | 抽選 | 120名 |

【資格関連科目】

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 哲学Ⅰ | 哲学と現代Ⅰ | 前 | 2 | | | | | | | | 胤森　裕暢 | 2 | | | | | |
| | 哲学Ⅱ | 哲学と現代Ⅱ | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 田中　健 | 2 | | | | | |
| | 倫理学 | 現代社会に生きるための倫理 | 後 | 2 | | | | | | | | 胤森　裕暢 | 1 | | | | | |
| | 宗教学Ⅰ | 日本人と宗教 | 前 | 2 | | | | | | | | 岡本　貞雄 | 1 | | | | | |
| | 宗教学Ⅱ | 宗教と教育・社会 | 後 | 2 | | | | | | | | 岡本　貞雄 | 1 | | | | | |
| | 心理学 | 心のはたらき、その謎に迫る | 前 | 2 | | | | | | | | 神田　義浩 | 1 | | 「心理学入門」の単位修得者は履修不可 | | | |
| | 法学Ⅰ | 私法にかかわる基本知識 | 後 | 2 | | | | | | | | 宮畑　加奈子 | 2 | | | | | |
| | 法学Ⅱ | 公法にかかわる基本知識 | 前 | 2 | | | | | | | | Ｇ．Ｒ．ハラダ | 2 | | | | | |
| | 民法Ⅰ | 総則、物権法 | 前 | 2 | | | | | | | | 宮畑　加奈子 | 2 | | | | | |
| | 民法Ⅱ | 債権法 | 後 | 2 | | | | | | | | 宮畑　加奈子 | 2 | | | | | |
| | 行政法Ⅰ | 行政基礎原理と行政過程 | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 野本　敏生 | 2 | | | | | |
| | 行政法Ⅱ | 行政組織の原理と行政争訟・国家賠償 | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 野本　敏生 | 2 | | | | | |
| | ※労働法 | 労働法の概念と体系、企業と労働者間の法的問題 | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2019（平成31）年度開講せず | | | |
| | ※経済法 | 独占禁止法、消費者法、金融商品取引法その他経済関係法 | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2019（平成31）年度開講せず | | | |
| | 政治学Ⅰ | 政治学の基礎を学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | | 寺本　康俊 | 2 | | | | | |
| | 政治学Ⅱ | 世界の国々の政治 | 後 | 2 | | | | | | | | 寺本　康俊 | 2 | | | | | |
| | ※行政学 | 現代行政の制度と実態 | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2019（平成31）年度開講せず | | | |
| | 社会学Ⅰ | 社会学の成り立ちと基本概念 | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 河野　弥生 | 2 | | | | | |
| | 社会学Ⅱ | 社会諸事象の社会学的考察 | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 河野　弥生 | 2 | | | | | |
| | 地理学Ⅰ | 身の回りの地理学 | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 西川　京子 | 1 | | | | | |
| | 地理学Ⅱ | 世界と日本とのつながり | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 西川　京子 | 1 | | | | | |
| | 地誌 | 地誌の学び方、指導のあり方 | 前 | 2 | | | | | | | | 澤　滋久 | 2 | 地誌Ⅰ | | | | |
| | 世界の地理Ⅱ | ヨーロッパ・アメリカの地誌 | 前 | 2 | | | | | | a<br>b | 非 | 竹本　伸 | 1 | 地誌Ⅱ | ・2015（平成27）年度以降の入学生で、「世界の地理Ⅱ」の履修を希望する者は、共通科目の他者理解系科目の中にある「世界の地理Ⅱ」を履修すること（修得した単位は、共通科目の選択必修科目の単位として計算） | | | |
| | 日本史Ⅰ | 日本古代・中世・近世社会の構造と特質 | 前 | 2 | | | | | | | | 濵田　敏彦 | 1 | | | | | |
| | 日本史Ⅱ | 日本近代・現代社会の構造と特質 | 後 | 2 | | | | | | | | 濵田　敏彦 | 1 | | | | | |
| | 東洋史Ⅰ | 中国各王朝の支配構造の変化 | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 金子　肇 | 1 | | | | | |
| | 東洋史Ⅱ | 近現代東・東南アジアの国際関係史 | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 金子　肇 | 1 | | | | | |
| | 西洋史Ⅰ | 近代ヨーロッパ社会の構造とその形成過程 | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 足立　孝 | 1 | | | | | |
| | 西洋史Ⅱ | 近代ヨーロッパ歴史事象、その背景と展開 | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 足立　孝 | 1 | | | | | |
| | 自然地理学Ⅰ | 地形の形成プロセスと作用 | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 楮原　京子 | 3 | | | | | |
| | 自然地理学Ⅱ | 気候・植生・環境と人間生活とのかかわり、グローバルな視点から | 後 | 2 | | | | | | | | 澤　滋久 | 3 | | 教職課程登録者優先 | | 抽選 | 30名 |

【資格関連科目】

●修得した単位は、自由選択科目の単位として計算する。

## (2) 経営学科

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入門科目 | 経済入門 | くらしと経済 | 後 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | e | | 平下　義記 | 1 | | | 不可 | | |
| | | | | | | | | | | f | | 野北　晴子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | g | | 小笠原　礼以 | | | | | | |
| | 経営入門 | ビジネスの世界で働く | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | a | | 瀬戸　正則 | 1 | | | 不可 | | |
| | | | | | | | | | | b | | 堀江　浩司 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | | 宮辻　渉 | | | | | | |
| | 簿記入門 | はじめての簿記 | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | a | 非 | 藤井　稔久 | 1 | 簿記原理Ⅰ<br>簿記原理Ⅱ<br>簿記原理Ⅰ（入門） | ●「簿記入門」の単位未修得者は、a～jのいずれか1クラスを再履修し、単位を修得すること。<br>●他学科の学生で履修を希望する者は、a～iのいずれか1クラスを選択し、履修すること。<br>●2014（平成26）年度以降入学生で、日商簿記3級、全商簿記3級又は2級若しくは全経簿記3級又は2級の資格取得者で、「簿記入門」及び「初級簿記Ⅰ」の単位を資格振替により修得希望の者は、「中級簿記」を必ず履修しなければならない。<br>●2014（平成26）年度以降入学生で、日商簿記2級以上、全商簿記1級又は全経簿記1級以上の資格取得者で、「簿記入門」及び「初級簿記Ⅰ」の単位を資格振替により修得希望の者は、能力開発科目の「簿記論Ⅰ」を必ず履修しなければならない。 | | 抽選 | 50名 |
| | | | | | | | | | | b | 非 | 藤川　晴基 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | 非 | 河本　雅志 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | d | 非 | 河本　雅志 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | e | 非 | 藤井　稔久 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | f | | 東　幸代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | g | | 角　裕太 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | h | 非 | 藤川　晴基 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | i | | 東　幸代 | | | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | j | 非 | 藤川　晴基 | | | | 不可 | | |
| | 初級簿記Ⅰ | 日商3級の前半（簿記の意義から商品売買取引の仕訳まで） | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | i | 非 | 藤井　稔久 | 1 | 簿記原理Ⅰ<br>簿記原理Ⅱ<br>簿記3級Ⅰ | ●2014（平成26）年度以降の経営学科入学生で「初級簿記Ⅰ」の単位未修得者は、a～iのいずれかのクラスを再履修し、単位を修得すること。<br>●2013（平成25）年度以前の経営学科生は選択科目。<br>●2013（平成26）年度以前の経営学科入学生で履修を希望する者は、a～iのいずれかのクラスを履修すること。<br>●他学科生で履修を希望する者は、a～iのいずれかのクラスを履修すること。<br>●2014（平成26）年度までに「簿記原理Ⅱ」の単位を修得している者は履修できない。<br>●2014（平成26）年度以降入学生で、日商簿記3級、全商簿記3級又は2級若しくは全経簿記3級又は2級の資格取得者で、「簿記入門」及び「初級簿記Ⅰ」の単位を資格振替により修得希望の者は、「中級簿記」を必ず履修しなければならない。<br>●2014（平成26）年度以降入学生で、日商簿記2級以上、全商簿記1級又は全経簿記1級以上の資格取得者で、「簿記入門」及び「初級簿記Ⅰ」の単位を資格振替により修得希望の者は、能力開発科目の「簿記論Ⅰ」を必ず履修しなければならない。 | | | |
| | | | 後 | | | | | | | a | | 角　裕太 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | b | 非 | 藤川　晴基 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | 非 | 河本　雅志 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | d | 非 | 河本　雅志 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | e | 非 | 藤井　稔久 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | f | | 東　幸代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | g | | 福田　正太郎 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | h | 非 | 藤井　稔久 | | | | | | |
| | 経営学概論 | 経営学では何を学ぶのか | 後 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | 細井　謙一<br>岡田　斎<br>福田　正太郎 | 1 | 経営学 | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・2014（平成26）年度以前の経営学科の入学生で「経営学概論」の履修を希望する者は、経営学科科目の基礎科目の中にある「経営学概論」を履修すること（修得した単位は、経営学科の選択科目として計算） | 不可 | | |
| | ※マーケティング入門 | マーケティング・マインドを学ぶ | | 2 | | | | | ◎ | | | | 1 | マーケティング論Ⅰ | 2020（令和2）年度以降は開講なし | | | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入門科目 | 情報処理入門Ⅰ | 経済学部で学ぶためのPC入門（WordとPowerPointを使った学習の基礎） | 前 | 2 | | | | | ◎※2013以前 | a | 派 | 落谷　淑江 | 1 | | ・2013（平成25）年度以前の入学生対象科目<br>・2013（平成25）年度以前の経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」の単位未修得者は、a～pのいずれか1クラスを選択し、履修すること<br>・2014（平成26）年度以降の経営学科の入学生で、「情報処理入門Ⅰ」の履修を希望する者は、共通科目の情報処理科目の中にある「情報処理入門Ⅰ」を履修すること（修得した単位は、共通科目の選択科目の単位として計算） | ビ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | | | | | | | | b | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | d | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | e | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | f | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | g | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | h | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | i | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | j | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | k | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | l | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | m | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | n | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | o | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | p | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | 情報処理入門Ⅱ | 経済学部で学ぶためのPC入門（Excelを使った学習の基礎） | 前 | 2 | | | | | ◎※2013以前 | a | 派 | 落谷　淑江 | 1 | 情報処理演習 | ・2013（平成25）年度以前の入学生対象科目<br>・2013（平成25）年度以前の経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅱ」の単位未修得者は、a～qのいずれか1クラスを選択し、履修すること<br>・2014（平成26）年度以降の経営学科の入学生で、「情報処理入門Ⅱ」の履修を希望する者は、共通科目の情報処理科目の中にある「情報処理入門Ⅱ」を履修すること（修得した単位は、共通科目の選択科目の単位として計算） | ビ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | | | | | | | | b | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | c | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | d | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | e | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | f | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | g | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | h | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | i | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | j | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | k | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | l | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | m | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | n | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | o | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | p | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | q | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| 基礎科目 | 経営学概論 | 経営学では何を学ぶのか | 後 | 2 | | | | | | | | 細井　謙一<br>岡田　斎<br>福田　正太郎 | 1 | 経営学 | ・2014（平成26）年度以前の入学生対象科目<br>・2015（平成27）年度以降の入学生は、経営学科科目の入門科目の「経営学概論」を履修すること（修得した単位は、経営学科の必修科目として計算） | 不可 | | |
| | 経営管理論基礎 | 管理者への道 | 前 | 2 | | | | | | | | 宮辻　渉 | 2 | 経営管理総論 | | | | |
| | 経営史 | 企業の生成、発展、そして衰退あるいは再生 | 前 | 2 | | | | | | a<br>b | | 松川　佳洋 | 2 | 経営史（4単位） | | | | |
| | 企業形態論 | 色々な会社の仕組み | 前 | 2 | | | | | | | | 瀬戸　正則 | 2 | | | | | |
| | 初級簿記演習 | 日商3級合格に向けて | 後 | 2 | | | | | | a<br>b<br>c | 派 | 白石　敦夫 | 2 | 簿記演習Ⅰ（初級）<br>簿記演習Ⅱ（上級）<br>簿記演習Ⅱ<br>簿記演習Ⅲ<br>簿記3級検定演習 | | | | |
| | 初級簿記Ⅱ | 日商3級の後半（商業手形の仕訳から財務諸表の作成まで） | 前 | 2 | | | | | | a<br>b<br>c | | 藤原　久嗣<br>福田　正太郎<br>藤原　久嗣 | 2 | 簿記原理Ⅲ<br>簿記3級Ⅱ | | ス不可 | | |
| | 会計学基礎 | 財務会計で企業活動を描写する | 前 | 2 | | | | | | a<br>b | | 東　幸代<br>角　裕太 | 2 | 会計学総論 | | | | |
| | ※原価計算論基礎 | コスト計算の大切さ | | 2 | | | | | | | | | 2 | 原価計算論（4単位） | 2018（平成30）年度以降は開講なし | | | |
| | マーケティング論基礎 | 便利な生活を支える仕組み | 前 | 2 | | | | | | | | 坂間　十和子 | 2 | マーケティング論Ⅰ | | | | |
| | Introduction to Marketing in English | Understanding basic concepts and process of Marketing in global context | 後 | 2 | | | | | | | | K．I．ツエ | 2 | | | | 抽選 | 150名 |
| | 貿易論基礎 | 誰でも分かる貿易の仕組み | 後 | 2 | | | | | | | | 広田　堅志 | 2 | 貿易論（4単位） | | | | |
| | 経営情報論 | 経営と情報の接点を考える | 前<br>後 | 2 | | | | | | a<br>b | | 岡田　斎 | 2 | 経営と情報<br>情報処理概論 | | | 抽選 | 150名 |
| | 情報処理の基礎Ⅰ | プレゼンテーション応用（Wordを使った学習の応用） | 前 | 2 | | | | | ◎※2013以前 | a | 派 | 中谷　文代 | 1 | | ・2013（平成25）年度以前の入学生対象科目<br>・2014（平成26）年度以降の経営学科の入学生で、「情報処理の基礎Ⅰ」の履修を希望する者は、共通科目の情報処理科目の中にある「情報処理の基礎Ⅰ」を履修すること（修得した単位は、共通科目の選択科目の単位として計算） | ビ・メ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | | | | | | | | b | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | d | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | e | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | f | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | g | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | h | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | i | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | j | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | | 情報処理の基礎Ⅱ | データベースの基礎（Excel を使った学習の応用） | 前 | 2 | | | | | ◎※2013以前 | a | 派 | 中谷　文代 | 1 | | ・2013（平成25）年度以前の入学生対象科目<br>・2014（平成26）年度以降の経営学科の入学生で、「情報処理の基礎Ⅱ」の履修を希望する者は、共通科目の情報処理科目の中にある「情報処理の基礎Ⅱ」を履修すること（修得した単位は、共通科目の選択科目の単位として計算） | ビ・メ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | | | | | | | | | b | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | c | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | d | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | e | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | f | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | g | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | h | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | i | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | j | 派 | 中谷　文代 | | | | | | |
| | | | | 後 | | | | | | | k | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | l | 派 | 吉田　舞 | | | | | | |
| | | 情報処理の基礎Ⅲ | プレゼンテーション応用（PowerPoint を使った学習の応用） | 前 | 2 | | | | | ◎※2013以前 | a | 派 | 吉田　舞 | 1 | | ・2013（平成25）年度以前の入学生対象科目<br>・2014（平成26）年度以降の経営学科の入学生で、「情報処理の基礎Ⅲ」の履修を希望する者は、共通科目の情報処理科目の中にある「情報処理の基礎Ⅲ」を履修すること（修得した単位は、共通科目の選択科目の単位として計算） | ビ・メ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | | | | | | | | | b | | | | | | | | |
| | | 情報処理の基礎Ⅳ | データベースの基礎（Access を使った学習の応用） | 後 | 2 | | | | | ◎※2013以前 | a | 派 | 中谷　文代 | 1 | | ・2013（平成25）年度以前の入学生対象科目<br>・2014（平成26）年度以降の経営学科の入学生で、「情報処理の基礎Ⅳ」の履修を希望する者は、共通科目の情報処理科目の中にある「情報処理の基礎Ⅳ」を履修すること（修得した単位は、共通科目の選択科目の単位として計算） | ビ・メ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | | | | | | | | | b | | | | | | | | |
| | | コンピュータ基礎Ⅰ | コンピュータ（ハードウェアの仕組みと動作）について学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | | 田中　章司郎 | 2 | | 2016（平成28）年度以降入学生対象科目 | | | |
| | | コンピュータ基礎Ⅱ | コンピュータ（ソフトウェア開発技法）について理解する | 前 | 2 | | | | | | | | 田中　章司郎 | 3 | | 2016（平成28）年度以降入学生対象科目 | | | |
| | | 情報処理論Ａ | 基本的な計算手順（アルゴリズム）とデータ構造を理解する | 後 | 2 | | | | | | | | 田中　章司郎 | 2 | 情報処理論Ⅰ | 2016（平成28）年度以降入学生対象科目 | | | |
| | | 情報処理論Ｂ | 情報と問題解決について学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 丹羽　啓一 | 2 | 情報処理論Ⅱ | 2016（平成28）年度以降入学生対象科目 | | | |
| 発展・応用科目 | マネジメント系科目 | 経営管理論 | 管理者とその問題解決法 | 後 | 2 | | | | | | | | 宮辻　渉 | 2 | 経営管理総論 | | | | |
| | | 財務管理論Ⅰ | 投資におけるリスクとリターン | 前 | 2 | | | | | | | | 幸田　圭一朗 | 3 | 財務管理論 | | | | |
| | | 財務管理論Ⅱ | 現代企業の財務戦略 | 後 | 2 | | | | | | | | 幸田　圭一朗 | 3 | 財務管理論 | | | | |
| | | 人的資源管理論Ⅰ | 人を動かす仕組みについて考える | 前 | 2 | | | | | | | | 宮辻　渉 | 3 | 労務管理論<br>労務管理論Ⅰ | | | | |
| | | 人的資源管理論Ⅱ | 人的資源管理の現代的課題について学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 宮辻　渉 | 3 | 労務管理論<br>労務管理論Ⅱ | | | | |
| | | 経営組織論Ⅰ | 生活に身近な組織論 | 前 | 2 | | | | | | | | 堀江　浩司 | 3 | 経営組織論 | | | | |
| | | 経営組織論Ⅱ | 企業組織のマネジメント | 後 | 2 | | | | | | | | 堀江　浩司 | 3 | 経営組織論 | | | | |
| | | ※日本経営史 | 日本の企業の生成、発展、そして衰退あるいは再生 | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2018（平成30）年度以降は開講なし | | | |
| | | 国際経営論 | 日本企業や外資系企業の国際化グローバル化への発展 | 後 | 2 | | | | | | | | 松川　佳洋 | 3 | | | | | |
| | | 経営戦略論 | 企業の長期的な方向性の指針と意思決定の基準 | 後 | 2 | | | | | | | | 岡本　康昭 | 3 | | | | | |
| | | ※市場管理論 | 製品をめぐる戦略的市場対応 | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | ※購買管理論 | 企業の調達活動と企業間関係 | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2018（平成30）年度以降は開講なし | | | |
| | | 生産管理論 | 生産におけるオートメーションの発達 | 前 | 2 | | | | | | | | 岡田　斎 | 3 | | | | | |
| | | ※販売管理論 | 売ることを科学する | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2018（平成30）年度以降は開講なし | | | |
| | | 中小企業経営論 | 中小企業の役割 | 後 | 2 | | | | | | | | 瀬戸　正則 | 2 | スモールビジネス論 | | | | |
| | | ※ＮＰＯ論 | ＮＰＯを作るには | | 2 | | | | | | | | | 3 | マネジメント特講（NPO） | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | ※プロスポーツ経営実践Ａ | Ｊリーグとクラブの経営戦略 | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | ※プロスポーツ経営実践Ｂ | プロスポーツの文化的価値 | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | ※ CSR 論 | 企業の社会的役割を知る | | 2 | | | | | | | | | 3 | マネジメント特講（CSR） | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | 広島地域ものづくり事情 | | 前 | 2 | | | | | | | | 野北　晴子<br>松榮　豊貴<br>岡本　康昭 | 2 | | 2012（平成24）年度以前の経営学科の入学生が履修し、単位を修得したときは、自由選択科目の他学科科目として計算 | | 選考 | 120名 |
| | | 情報システム論Ⅰ | 企業情報システムの基礎知識を学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | | 杉山　克典 | 2 | | 2016（平成28）年度以降入学生対象科目 | | | |
| | | 情報システム論Ⅱ | 企業情報システムの中核技術を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 杉山　克典 | 2 | | 2016（平成28）年度以降入学生対象科目 | | | |
| | | 情報社会と情報倫理 | 情報化が社会に与える影響や社会人としての情報倫理等を学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 梶川　正 | 3 | | 2015（平成27）年度以降入学生対象科目 | | | |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発展・応用科目 | アカウンティング系科目 | 中級簿記 | 日商2級の基本論点 | 前2 | 4 | | | | | | a | 非 | 梶川　正 | 1 | 簿記2級 | ●2014（平成26）年度以降入学生で、日商簿記3級、全商簿記3級又は2級若しくは全経簿記3級又は2級の資格取得者で、「簿記入門」及び「初級簿記Ⅰ」の単位を資格振替により修得希望の者は、必ずこの科目を履修しなければならない。 | | | |
| | | | | | | | | | | | b | | 福田　正太郎 | | | | | | |
| | | 中級簿記演習 | 商業簿記と工業簿記の演習 | 後2 | 4 | | | | | | | 非 | 餅川　正雄<br>梶川　正 | 1 | 簿記検定演習（2単位）<br>簿記2級検定演習 | 日商簿記検定2級の有資格者は履修不可 | | 抽選 | 40名 |
| | | 財務会計論 | 財務会計のルールを考える | 後 | 2 | | | | | | | | 角　裕太 | 2 | 会計学<br>会計学総論 | | | | |
| | | 原価計算論 | マネジメントツールとしての原価情報 | 後 | 2 | | | | | | | | 藤原　久嗣 | 2 | 原価計算論（4単位） | | | | |
| | | 管理会計論 | 企業活動への会計情報の活用 | 前 | 2 | | | | | | | | 小谷　幸生 | 3 | | | | | |
| | | 会計監査論 | 会計情報のうそ偽りを見抜く | 前 | 2 | | | | | | | | 東　幸代 | 3 | | | | | |
| | | 経営分析論 | 企業経営の健康診断 | 後 | 2 | | | | | | | | 小谷　幸生 | 3 | | | | | |
| | | ※財務諸表論 | 財務諸表の見方 | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2018（平成30）年度以降は開講なし | | | |
| | | 税務会計論 | ビジネスで活かせる税知識 | 後 | 2 | | | | | | | | 餅川　正雄 | 3 | | | | | |
| | | ※アカウンティング特講（キャッシュフロー会計） | 資金収支の大切さを学ぶ | | 2 | | | | | | | | | 3 | マネジメント特講（キャッシュフロー・マネジメント） | 2018（平成30）年度以降は開講なし | | | |
| | | ※アカウンティング特講（コンピュータ会計） | 会計ソフトを使って体験的に学ぼう | | 2 | | | | | | | | | 3 | コンピュータ会計 | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | マーケティング系科目 | マーケティング論 | なぜヒット商品は生まれるのか？ | 後 | 2 | | | | | | | | 坂間　十和子 | 2 | マーケティング論Ⅱ | | | | |
| | | 貿易論 | 貿易問題の理解と貿易理論の理解 | 前 | 2 | | | | | | | | 広田　堅志 | 3 | 貿易論（4単位） | | | | |
| | | 流通システム論Ⅰ | やさしくわかる流通の基本 | 前 | 2 | | | | | | | | 細井　謙一 | 2 | 流通システム論 | | | | |
| | | 流通システム論Ⅱ | 流通の仕組みを正しく理解する | 後 | 2 | | | | | | | | 細井　謙一 | 2 | 流通システム論 | | | | |
| | | マーチャンダイジング論Ⅰ | 品ぞろえの基本的戦略 | 前 | 2 | | | | | | | | 石川　明美 | 3 | マーチャンダイジング論 | | | | |
| | | マーチャンダイジング論Ⅱ | 品ぞろえの具体的戦略 | 後 | 2 | | | | | | | | 石川　明美 | 3 | マーチャンダイジング論 | | | | |
| | | ※物流論Ⅰ | 企業経営と物流システム | | 2 | | | | | | | | | 3 | 物流論 | 2018（平成30）年度以降は開講なし | | | |
| | | ※物流論Ⅱ | サプライチェーン・マネジメント | | 2 | | | | | | | | | 3 | 物流論 | 2018（平成30）年度以降は開講なし | | | |
| | | マーケティング・フロンティア | M＆Aを学びながら、人生ゲーム<br>M＆A実習 | 後 | 2 | | | | | | | | K. I. ツエ | 2 | マーケティング・フロンティアⅠ・Ⅱ | | | 抽選 | 30名 |
| | | ※保険論 | リスク社会と保険 | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2018（平成30）年度以降は開講なし | | | |
| | | 外国為替論 | 外国為替とその関連の基礎をまず平易に | 前 | 2 | | | | | | | | 糠谷　英輝 | 2 | 実戦外国為替論 | | | | |
| | | 外国為替実務 | 外国為替の醍醐味を実体験してみよう | 後 | 2 | | | | | | | | 糠谷　英輝 | 2 | 実戦外国為替論 | | | | |
| | | 貿易実務 | 幅広い貿易取引の基本を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 糠谷　英輝 | 2 | 貿易実務論 | | | | |
| | | ※中国貿易事情 | 日本にとって第一位の貿易相手国・中国の貿易 | | 2 | | | | | | | | | 3 | 貿易論特講（中国貿易） | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | ※アメリカ貿易事情 | 日本にとって最重要の貿易相手国・アメリカの貿易 | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | ※銀行論 | 日本の銀行のシステムと活動 | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2018（平成30）年度以降は開講なし | | | |
| | | 証券市場論 | グローバル化に適応できる経済人としての基本（デリバティブを含む）を学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | | 糠谷　英輝 | 2 | | | | | |
| | | サービス・マーケティング論 | サービス・ビジネスの仕組みを学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 坂間　十和子 | 3 | | | | | |
| | 演習系科目 | ビジネスプランニングⅠ | ビジネスプランを立ち上げる | 前 | 2 | | | | | | | | 幸田　圭一朗 | 2 | 経営学特別実習Ⅰ（ビジネスプランニング・流通）<br>ビジネスプランニング（流通）Ⅰ | | | 抽選 | 40名 |
| | | ビジネスプランニングⅡ | 儲かる仕組みを作る | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 矢澤　利弘 | 2 | 経営学特別実習Ⅰ（ビジネスプランニング・流通）<br>ビジネスプランニング（流通）Ⅱ | ビジネスプランニングⅠの単位修得者のみ履修可 | | 抽選 | 40名 |
| | | マーケティングプラン演習 | ベンチャービジネスのマーケティングを考える | 後 | 2 | | | | | | | | K. I. ツエ | 2 | マーケティング・プラン企画実習 | | | 抽選 | 30名 |
| | | マーケティングシミュレーション演習 | ビジネスゲームによる経営実践 | 前 | 2 | | | | | | | | K. I. ツエ | 3 | マーケティング・シミュレーション実習 | | | 抽選 | 30名 |
| | | ※経営学特別演習（事例研究） | マーケティング事例研究 | | 2 | | | | | | | | | 3 | 経営学特別演習<br>経営学特別演習Ⅱ（事例研究） | ・2015（平成27）年度以降入学生対象科目<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | 抽選 | 30名 |
| | | ※経営学特別演習（ビジネスプラン） | ビジネスプランを練り上げる | | 2 | | | | | | | | | 3 | 経営学特別演習<br>経営学特別演習Ⅰ | ・2015（平成27）年度以降入学生対象科目<br>・「ビジネスプランニングⅠ・Ⅱ」の単位を修得した者のみ履修可<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | 抽選 | 30名 |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発展・応用科目 | 外書講読 | ※外国ビジネス書講読(中国語) | 外国語で書かれたビジネス書を読もう（中国語） | | 2 | | | | | | | | | 3 | 外国ビジネス書講読 | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | ※外国ビジネス書講読 | 人を活かす方法を学ぶ | | 2 | | | | | | a | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | | 小売業のマーケティング | | | | | | | | b | | | | | | | | |
| | 特別演習 | ※経営学特別演習（事例研究） | マーケティング事例研究 | | 2 | | | | | | | | | 3 | 経営学特別演習<br>経営学特別演習Ⅱ（事例研究） | ・2014（平成26）年度以前対象科目<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | 抽選 | 30名 |
| | | ※経営学特別演習（ビジネスプラン） | ビジネスプランを練り上げる | | 2 | | | | | | | | | 3 | 経営学特別演習<br>経営学特別演習Ⅰ | ・2014（平成26）年度以前対象科目<br>・「ビジネスプランニングⅠ・Ⅱ」の単位を修得した者のみ履修可<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | 抽選 | 30名 |

【資格関連科目】

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ※税法 | 総論、所得税、法人税、消費課税、資産課税、地方税 | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | 会社法 | 会社の仕組みと活動 | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 古川　朋子 | 3 | | | | | |
| | ※商法 | 総則、商行為、手形法、小切手法 | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 隔年開講<br>2020（令和2）年度開講せず | | | |
| | 職業指導 | 豊かな職業観をどの子にも | 後 | 2 | | | | | | | | 餅川　正雄 | 3 | | | | | |

【資格関連科目】

●修得した単位は、自由選択科目の単位として計算する。

### (3) ビジネス情報学科

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入門科目 | 経済入門 | くらしと経済 | 後 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | h | | 久保　大支 | 1 | | | 不可 | | |
| | 経営入門 | ビジネスの世界で働く | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | d | | 関　隆教 | 1 | | | 不可 | | |
| | ビジネス情報入門 | ビジネスと情報、情報技術の結合について学ぶ | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | 杉山　克典<br>関　隆教 | 1 | ビジネス情報概論<br>ビジネスと情報 | | 不可 | | |
| | コンピュータ入門 | コンピュータと IT 機器の基本を理解する | 前 | 2 | | | | | | | | 田中　章司郎 | 1 | | | | | |
| | 情報処理基礎 | 情報処理の基本を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 田中　章司郎 | 1 | 情報処理基礎<br>情報数学入門 | | | | |
| | 情報入門演習 S | 情報を使いこなす能力を身につける | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | a | 派 | 丹羽　啓一<br>土山　ゆかり | 1 | | ・2015（平成27）年度以前のビジネス情報学科入学生で「情報入門演習S」の単位未修得者は、a～cのいずれか1クラスを選択し、履修すること | 不可 | 選考 | 30名 |
| | | | | | | | | | | b | 派 | 丹羽　啓一<br>土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | 派 | 丹羽　啓一<br>土山　ゆかり | | | | | | |
| | 情報入門演習 A | PC のイロハを学ぶ（ワードの初級を学ぶ） | 前 | 2 | | | | | ◎ | a | 派 | 坂本　小百合 | 1 | 情報基礎演習 | ・2014（平成26）年度以前の入学生は必修科目<br>・2014（平成26）年度以前のビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習A」の単位未修得者は、a、bのいずれか1クラスを選択し、履修すること | 不可 | 抽選 | 30名 |
| | | | | | | | | | | b | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | | | | | | | | |
| | 情報入門演習 B | PC のイロハを学ぶ（エクセルの初級を学ぶ） | 後 | 2 | | | | | ◎ | a | 派 | 坂本　小百合 | 1 | 情報活用演習Ⅰ-B | ・2014（平成26）年度以前の入学生は必修科目<br>・2014（平成26）年度以前のビジネス情報学科入学生で「情報入門演習Ｂ」の単位未修得者は、a、b のいずれか1クラスを選択し、履修すること | 不可 | 抽選 | 30名 |
| | | | | | | | | | | b | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | | | | | | | | |
| 基礎科目 | ビジネス概論 | まず知ろう！ビジネスの基本 | 後 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | 溝下　博 | 1 | ビジネスマネジメント概論 | ビジネス情報学科生及び教職課程登録者優先 | | 抽選 | 250名 |
| | 情報技術論 | ビジネスにおける情報技術の活用を学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | | 山本　雅昭 | 2 | IT 論 | | | | |
| | ビジネスと戦略 | ビジネスのリードと長期計画 | 前 | 2 | | | | | | | | 溝下　博 | 2 | | | | | |
| | 経営管理論基礎 | 管理者への道 | 前 | 2 | | | | | | | | 宮辻　渉 | 2 | 経営管理総論 | | | | |
| | 経営情報論 | 経営と情報の接点を考える | 前<br>後 | 2 | | | | ／ | ／ | a<br>b | | 岡田　斎 | 2 | 経営と情報<br>情報処理概論 | 2016（平成28）年度以降入学生対象科目 | | 抽選 | 150名 |
| | マーケティング論基礎 | 便利な生活を支える仕組み | 前 | 2 | | | | | | | | 坂間　十和子 | 2 | マーケティング論Ⅰ | | | | |
| | ビジネス統計学 | ビジネスで役立つ統計テクニックを学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | | 田浦　元 | 2 | ビジネス統計分析Ⅰ | | | | |
| | 生産マネジメント論 | ものづくり計画管理者や受発注管理者をめざそう | 後 | 2 | | | | | | | | 上野　信行 | 2 | | 2018（平成30）年度以前入学生対象科目 | | | |
| | 会計学基礎 | 財務会計で企業活動を描写する | 前 | 2 | | | | | | a | | 東　幸代 | 2 | 会計学総論 | | | | |
| | | | | | | | | | | b | | 角　裕太 | | | | | | |
| | ミクロ経済学基礎Ⅰ | 家計・企業の行動と市場のはたらきについて考える | 後 | 2 | | | | | | e | | 堀江　真由美 | 2 | 基礎経済学Ⅰ | | | | |
| | マクロ経済学基礎Ⅰ | 経済のしくみを鳥の目で見る | 後 | 2 | | | | | | e | | 山根　智沙子 | 2 | 基礎経済学Ⅱ | | | | |
| | インターネット・マーケティング論 | マーケティングの理論とICT の役割を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 関　隆教 | 2 | | | | | |
| | ※ｅビジネス基礎 | インターネット取引の仕組みを学ぶ | | 2 | | | | | | | | | 2 | ｅビジネス概論 | 2019（平成31）年度以降は開講なし | | | |
| | ※情報社会論 | 情報化が社会に与える影響 | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2019（平成31）年度以降は開講なし | | | |
| | コンピュータ基礎Ⅰ | コンピュータ（ハードウェアの仕組みと動作）について学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | | 田中　章司郎 | 2 | | | | | |
| | コンピュータ基礎Ⅱ | コンピュータ（ソフトウェア開発技法）について理解する | 前 | 2 | | | | | | | | 田中　章司郎 | 3 | | | | | |
| | 情報処理論 A | 基本的な計算手順（アルゴリズム）とデータ構造を理解する | 後 | 2 | | | | | | | | 田中　章司郎 | 2 | 情報処理論Ⅰ | | | | |
| | 情報処理論 B | 情報と問題解決について学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 丹羽　啓一 | 2 | 情報処理論Ⅱ | | | | |
| | 情報ネットワーク論 | 幅広い情報通信の基礎を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 杉山　克典 | 2 | 情報ネットワーク論（ビジネス） | | | | |
| | ※情報活用演習 S | PC（Windows）の中級を学ぶ | | 2 | ／ | ／ | ／ | ／ | | | | | 1 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | 不可 | | |
| | 情報活用演習 A | ワードの中級を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | a<br>b | 派 | 坂本　小百合 | 1 | 情報活用演習ＡⅠ<br>情報活用演習ＡⅡ | ●次の学生は、a、b のいずれか1クラスを選択し、履修することができる。※要事前登録<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習Ａ」の単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」の単位修得者<br>・メディアビジネス学科の入学生で、2014（平成26）年度以降に「情報処理入門Ⅰ（旧科目名：情報基礎演習Ⅰ）」の単位修得者 | | 抽選 | 30名 |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | 情報活用演習 B | エクセルの中級を学ぶ | 前 | 2 | | | | | | a<br>b | 派 | 坂本　小百合 | 2 | 情報活用演習 B Ⅰ<br>情報活用演習 B Ⅱ | ●次の学生は、a、b のいずれか1クラスを選択し、履修することができる。※要事前登録<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習 B」の単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅱ」の単位修得者<br>・メディアビジネス学科の入学生で2014（平成26）年度以降に「情報処理入門Ⅱ（旧科目名：情報基礎演習Ⅱ）」の単位修得者 | | 抽選 | 30名 |
| 基礎科目 | 情報活用演習 C | パワーポイントを学ぶ | 後 | 2 | | | | | | a<br>b | 派 | 園田　真由 | 2 | | ●次の学生は、「情報活用演習 C」を履修することができる。<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習 S」、「情報入門演習 A」、「情報入門演習 B」のいずれかの単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」の単位修得者<br>・メディアビジネス学科の入学生で2014（平成26）年度以降に「情報処理入門Ⅰ（旧科目名：情報基礎演習Ⅰ）」又は「情報処理入門Ⅱ（旧科目名：情報基礎演習Ⅱ）」の単位修得者 | | 抽選 | 30名 |
| 基礎科目 | Web 演習 | チャレンジ！ホームページ | 前 | 2 | | | | | | a<br>b | | 久保　大支 | 2 | Web 演習<br>Web 入門演習<br>Web 演習 A | ●次の学生は、「Web 演習」を履修することができる。<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習 S」、「情報入門演習 A」、「情報入門演習 B」のいずれかの単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」、「情報処理入門Ⅱ」のいずれかの単位修得者<br>・メディアビジネス学科の入学生で2014（平成26）年度以降に「情報処理入門Ⅰ（旧科目名：情報基礎演習Ⅰ）」又は「情報処理入門Ⅱ（旧科目名：情報基礎演習Ⅱ）」の単位修得者 | | 抽選 | 30名 |
| 基礎科目 | ※ Web 演習 B | ソフト（Dreamweaver）によりホームページを作成する | | 2 | | | | | | | | | 2 | Web 発展演習<br>Web 基礎演習 | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| 基礎科目 | ビジネス情報入門ゼミ | | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎<br>※2014以降 | a<br>b<br>c<br>d<br>e | | 石野　亜耶<br>久保　大支<br>杉山　克典<br>丹羽　啓一<br>関　隆教 | 2 | | ・2014（平成26）年度以降の入学生対象科目。ただし、2015（平成27）年度以降の入学生は必修科目。<br>・2015（平成27）年度以降のビジネス情報学科の入学生は、1年次後期に登録した担当教員の「ビジネス情報入門ゼミ」を履修しなければならない | 不可 | 選考 | 15名 |
| 基礎科目 | ※グループ演習 | | 通年 | 4 | | | | | ◎<br>※2013以前 | | | | 2 | | （注1）<br>・2013（平成25）年度以前の入学生対象科目<br>・2015（平成27）年度以降は開講なし | 不可 | | |
| 発展・応用科目 ビジネス科目 | オペレーションズ・リサーチ | 経営資源をムダなく使う手法を学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | | 丹羽　啓一 | 2 | OR 概論 | | | | |
| 発展・応用科目 ビジネス科目 | ※組織管理論 | 組織を通したビジネスの維持と発展 | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2020（令和2）年度以降は開講なし | | | |
| 発展・応用科目 ビジネス科目 | ビジネスデータ分析 | ビジネスデータの所在と使い方について学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | | 田浦　元 | 3 | ビジネス統計分析Ⅱ | | | | |
| 発展・応用科目 ビジネス科目 | データサイエンスとビジネス | ビジネスに必要なデータサイエンス力を身につけよう | 後 | 2 | | | | | | | | 田浦　元 | 3 | | | | | |
| 発展・応用科目 ビジネス科目 | AI とビジネス | AI を支える技術とビジネスへの活用方法について学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 石野　亜耶 | 3 | e コマース概論<br>e ビジネス | | | 抽選 | 100名 |
| 発展・応用科目 ビジネス科目 | ※ e コマース | インターネット取引（電子商取引）の実際を学ぶ | | 2 | | | | | | | | | 3 | e コマース論Ⅱ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| 発展・応用科目 ビジネス科目 | 電子金融取引Ⅰ | 情報技術と決済システムの基礎について学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | | 久保　大支 | 3 | | | | | |
| 発展・応用科目 ビジネス科目 | 電子金融取引Ⅱ | 情報技術と決済システムの実際について学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 久保　大支 | 3 | | | | | |
| 発展・応用科目 ビジネス科目 | ※ e ビジネスと流通・物流管理 | 流通・物流の基本、e ビジネスへの取り組み等について学ぶ | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2019（平成31）年度以降は開講なし | | | |
| 発展・応用科目 ビジネス科目 | 顧客関係管理と知的情報ベース | 顧客情報を経営成果に生かす仕組みを考える | 後 | 2 | | | | | | | | 関　隆教 | 3 | | | | | |
| 発展・応用科目 ビジネス科目 | デジタルビジネス論 | デジタルで価値を創り出そう | 前 | 2 | | | | | | | | 溝下　博 | 3 | | | | | |
| 発展・応用科目 ビジネス科目 | IT 応用事例研究 | 経営戦略と情報戦略のはしかけを学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 上野　信行 | 3 | IT 応用事例研究Ⅰ | | | | |
| 発展・応用科目 ビジネス科目 | ※ IT 応用事例研究Ⅱ | IT 戦略の企画から運用サービスまでを取り上げる | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| 発展・応用科目 ビジネス科目 | ※ユビキタス社会と e ビジネス | ユビキタスは e ビジネスをどうかえるか | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発展・応用科目 | ビジネス科目 | プロジェクトマネジメント | 事業を円滑かつ効率的に推進する管理手法 | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 佐藤　達男 | 3 | | | | | |
| | | リスクマネジメント | プロジェクトの成功を危うくするリスクの管理手法 | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 佐藤　達男 | 3 | | | | | |
| | | ※国際企業論Ⅰ | 国際的に活躍する企業とはどんなものであるかを学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2019（平成31）年度以降は開講なし | | | |
| | | ※国際企業論Ⅱ | 国際的に活躍する企業のトピックスや新しい課題について学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2019（平成31）年度以降は開講なし | | | |
| | | サプライチェーン論 | 生産されたモノが顧客に納入されるまでの仕組みを理解しよう | 前 | 2 | | | | | | | | 上野　信行 | 3 | | 2018（平成30）年度以前入学生対象科目 | | | |
| | | 生産管理論 | 生産におけるオートメーションの発達 | 前 | 2 | | | | | ※2013以降 | | | 岡田　斎 | 3 | | | | | |
| | | 流通システム論Ⅰ | やさしくわかる流通の基本 | 前 | 2 | | | | | ※2014以降 | | | 細井　謙一 | 2 | 流通システム論 | 2013（平成25）年度以前の入学生が履修し、単位を修得したときは、自由選択科目の他学科科目として計算 | | | |
| | | 流通システム論Ⅱ | 流通の仕組みを正しく理解する | 後 | 2 | | | | | ※2014以降 | | | 細井　謙一 | 2 | 流通システム論 | 2013（平成25）年度以前の入学生が履修し、単位を修得したときは、自由選択科目の他学科科目として計算 | | | |
| | | 中級簿記演習 | 商業簿記と工業簿記の演習 | 後2 | 4 | | | | | | | 非 | 餅川　正雄<br>梶川　正 | 1 | 簿記検定演習（2単位）<br>簿記２級検定演習 | 日商簿記検定2級の有資格者又は「簿記２級検定演習」の修得者は履修不可 | | 抽選 | 40名 |
| | 情報科目 | 情報システム論Ⅰ | 企業情報システムの基礎知識を学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | | 杉山　克典 | 2 | | | | | |
| | | 情報システム論Ⅱ | 企業情報システムの中核技術を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 杉山　克典 | 2 | | | | | |
| | | データベース論 | データベースの基礎知識を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 丹羽　啓一 | 2 | | | | 抽選 | 100名 |
| | | マルチメディア論 | マルチメディアの基礎から表現・処理へ | 前 | 2 | | | | | | | | 濱　愼一 | 3 | | | | | |
| | | データマイニング論 | 大量のデータからビジネスに役立つ情報を抽出する理論と手法を学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | | 石野　亜耶 | 3 | データマイニング | | | | |
| | | 情報社会と情報倫理 | 情報化が社会に与える影響や社会人としての情報倫理等を学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 梶川　正 | 3 | | | | | |
| | | 情報と職業 | 情報と職業の関わりや情報に関する職業人としてのあり方等を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 梶川　正 | 3 | | 経営学科の入学生で情報免許の課程登録者は履修できる。 | | | |
| | | 情報科教育法Ⅰ | 共通教科「情報」の教育目標等を学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 梶川　正 | 3 | | ・2014（平成26）年度以前の入学生対象科目<br>・教職に関する科目としても扱う<br>・経営学科の入学生で情報免許の課程登録者は履修できる。<br>・2015（平成27）年度以降の入学生で「情報科教育法Ⅰ」の履修を希望する者は、教職に関する科目の中の「情報科教育法Ⅰ」を履修すること（ただし、情報免許の課程登録者のみ履修可） | | | |
| | | 情報科教育法Ⅱ | 専門教科「情報」の教育目標等を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 梶川　正 | 3 | | ・2014（平成26）年度以前の入学生対象科目<br>・教職に関する科目としても扱う<br>・経営学科の入学生で情報免許の課程登録者は履修できる。<br>・2015（平成27）年度以降の入学生で「情報科教育法ⅠⅡ」の履修を希望する者は、教職に関する科目の中の「情報科教育法Ⅱ」を履修すること（ただし、情報免許の課程登録者のみ履修可） | | | |
| | | データマイニング演習 | プログラムを作成して、実際に、大量のデータからビジネスに役立つ情報を抽出し、分析する | 前 | 2 | | | | | | | | 石野　亜耶 | 3 | Web マイニング | ・2015（平成27）年度以前の入学生対象科目<br>・2016（平成28）年度以降の入学生で、「データマイニング演習」を履修する者は、ビジネス情報学科の発展・応用科目でビジネス情報演習科目の中にある「データマイニング演習」を履修すること | | 抽選 | 100名 |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発展・応用科目 | ビジネス情報演習科目 | ※ビジネスプレゼンテーション | 人に対する「効果的な語りかけ」を学ぶ | | 2 | | | | | | | | | 2 | ビジネスプレゼンテーションⅠ<br>ビジネスプレゼンテーションA | 2020（令和2）年度以降は開講なし | | 抽選 | 30名 |
| | | 情報処理演習A | はじめよう Visual Basic | 前 | 2 | | | | | | | | 丹羽　啓一 | 2 | 情報処理演習Ⅰ<br>情報処理演習AⅠ | ●次の学生は、「情報処理演習A」を履修することができる。<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習S」、「情報入門演習A」、「情報入門演習B」のいずれかの単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」、「情報処理入門Ⅱ」のいずれかの単位修得者<br>・メディアビジネス学科の入学生で2014（平成26）年度以降に「情報処理入門Ⅰ（旧科目名：情報基礎演習Ⅰ）」又は「情報処理入門Ⅱ（旧科目名：情報基礎演習Ⅱ）」の単位修得者 | | 抽選 | 100名 |
| | | ※情報処理演習AⅡ | Visual Basic で課題にチャレンジ | | 2 | | | | | | | | | 2 | 情報処理演習Ⅱ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | ※情報処理演習B | Visual C++ でプログラムを作成する | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | モバイルアプリ演習 | Android OS 用アプリを作る | 後 | 2 | | | | | | | | 田中　章司郎 | 2 | | ●次の学生は、「モバイルアプリ演習」を履修することができる。<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習S」、「情報入門演習A」、「情報入門演習B」のいずれかの単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」、「情報処理入門Ⅱ」のいずれかの単位修得者<br>・メディアビジネス学科の入学生で2014（平成26）年度以降に「情報処理入門Ⅰ（旧科目名：情報基礎演習Ⅰ）」又は「情報処理入門Ⅱ（旧科目名：情報基礎演習Ⅱ）」の単位修得者 | | 抽選 | 30名 |
| | | 情報処理演習C | Java でプログラムを作成する | 後 | 2 | | | | | | | | 久保　大支 | 2 | Web システム演習 | ●次の学生は、「情報処理演習C」を履修することができる。<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習S」、「情報入門演習A」、「情報入門演習B」のいずれかの単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」、「情報処理入門Ⅱ」のいずれかの単位修得者<br>・メディアビジネス学科の入学生で2014（平成26）年度以降に「情報処理入門Ⅰ（旧科目名：情報基礎演習Ⅰ）」又は「情報処理入門Ⅱ（旧科目名：情報基礎演習Ⅱ）」の単位修得者 | | 抽選 | 30名 |
| | | ※情報技術演習 | Windows システムの設定を学ぶ | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | ※コンピュータデザイン演習 | ソフト（Illustrator）で企業の「ロゴマーク」を作ってみよう | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | 画像処理演習 | ソフト（Photoshop）で「写真」を見栄えよくしよう | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 記谷　伸彦 | 2 | | ●次の学生は、「画像処理演習」を履修することができる。<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習S」、「情報入門演習A」、「情報入門演習B」のいずれかの単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」、「情報処理入門Ⅱ」のいずれかの単位修得者<br><br>●ただし次の学生は、「画像処理演習」を履修することができない。<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理の基礎Ⅴ」若しくは「画像編集」の履修者及び単位修得者 | メ不可 | 抽選 | 30名 |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発展・応用科目 | ビジネス情報演習科目 | ※ DTP 演習（ビジネス） | ソフト（InDesign）で PDF「号外」を作ってみよう | | 2 | | | | | | | | | 3 | DTP 演習 | 2020（令和2）年度以降は開講なし | メ不可 | 抽選 | 30名 |
| | | ※ビジネスプレゼンテーション B | ツールを使って相手を納得させる | | 2 | | | | | | | | | 2 | ビジネスプレゼンテーションⅡ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | ※情報教育演習Ⅰ | インストラクターを目指そう（Ⅰ） | | 2 | | | | | | | | | 2 | 総合演習（情報） | 2015（平成27）年度以降は開講なし | 不可 | | |
| | | ※情報教育演習Ⅱ | インストラクターを目指そう（Ⅱ） | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | 不可 | | |
| | | 情報システム演習 | さあ、MTA･MCP にチャレンジだ！ | 前 | 2 | | | | | | | | 杉山　克典 | 3 | | ●次の学生は、「情報システム演習」を履修することができる。<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習Ｓ」、「情報入門演習Ａ」、「情報入門演習Ｂ」のいずれかの単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」、「情報処理入門Ⅱ」のいずれかの単位修得者<br>・メディアビジネス学科の入学生で2014（平成26）年度以降に「情報処理入門Ⅰ（旧科目名：情報基礎演習Ⅰ）」又は「情報処理入門Ⅱ（旧科目名：情報基礎演習Ⅱ）」の単位修得者 | | 抽選 | 30名 |
| | | マルチメディア演習 | ソフト（Premiere）で映像を編集してみよう | 特設(サマー) | 2 | | | | | | | 非 | 記谷　伸彦 | 3 | | ●次の学生は、「マルチメディア演習」を履修することができる。<br>・ビジネス情報学科の入学生で「情報入門演習Ｓ」、「情報入門演習Ａ」、「情報入門演習Ｂ」のいずれかの単位修得者<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」、「情報処理入門Ⅱ」のいずれかの単位修得者<br><br>●ただし次の学生は、「マルチメディア演習」を履修することができない。<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「映像編集」の履修者及び単位修得者 | メ不可 | 抽選 | 30名 |
| | | データマイニング演習 | プログラムを作成して、実際に、大量のデータからビジネスに役立つ情報を抽出し、分析する | 前 | 2 | | | | | | | | 石野　亜耶 | 3 | Web マイニング | ・2016（平成28）年度以降対象科目<br>・2015（平成27）年度以前の入学生で「データマイニング演習」の履修を希望する者は、ビジネス情報学科科目の発展・応用科目で情報科目の中にある「データマイニング演習」を履修すること | | 抽選 | 100名 |
| | | ※卒業研究Ⅰ（3年） | | 通年 | 4 | | | | | ◎※2013以前 | | | | 3 | 卒業研究Ⅰ<br>卒業研究Ⅱ | （注1）<br>・2013（平成25）年度以前入学生対象科目<br>・2016（平成28）年度以降は開講なし | 不可 | 選考 | |
| | | ※卒業研究Ⅱ（4年） | | 通年 | 4 | | | | | ◎※2013以前 | | | | 4 | 卒業研究Ⅲ<br>卒業研究Ⅳ | （注1）<br>・2013（平成25）年度以前入学生対象科目<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | 不可 | 選考 | |

**（注1）グループ演習、卒業研究Ⅰ（3年）、卒業研究Ⅱ（4年）（2013（平成25）年度以前の入学生対象必修科目）**

●「グループ演習（４単位、通年）」は、ビジネス情報学科の2013（平成25）年度以前の入学生の自学科科目における２年次配当の必修科目である。2015（平成27）年度以降は開講しないため、グループ演習の単位未修得者は、「グループ演習」、「卒業研究Ⅰ（３年）」、「卒業研究Ⅱ（４年）」を全て代替科目指定登録制度を利用して必要単位数を充足しなければならない。

●「卒業研究Ⅰ（３年：４単位、通年）」は、「グループ演習」の単位を修得した者のみ履修可。また、「グループ演習」と同じ担当教員の「卒業研究Ⅰ（3年）」を履修しなければならない。

●「卒業研究Ⅱ（４年：４単位、通年）」は「卒業研究Ⅰ（3年）」の単位を修得した者のみ履修可。また、「卒業研究Ⅰ（3年）」と同じ担当教員の「卒業研究Ⅱ（4年）」を履修しなければならない。

●同一年度での「卒業研究Ⅰ（3年）」と「卒業研究Ⅱ（4年）」の同時履修不可。

●配当年次以降に「グループ演習」、「卒業研究Ⅰ（3年）」、「卒業研究Ⅱ（4年）」を再履修する場合も、担当教員の変更は原則できない。

●「グループ演習」、「卒業研究Ⅰ（3年）」及び「卒業研究Ⅱ（4年）」の単位未修得者は、代替科目指定登録制度を利用して、必要単位数を充足することができる。

●代替科目指定登録については、ゼミ科目のページに掲載しているので、参照すること。

## (4) メディアビジネス学科

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入門科目 | 経済入門 | くらしと経済 | 後 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | h | | 久保　大支 | 1 | | | 不可 | | |
| | 経営入門 | ビジネスの世界で働く | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | e | | 松川　佳洋 | 1 | | | 不可 | | |
| | メディアビジネス入門 | ビジネスにおけるメディアの現状と課題 | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | 北野　尚人 | 1 | ビジネスとメディア | | 不可 | | |
| 基礎科目 | メディア論 | メディアと社会の関係を学ぶ | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | 土屋　祐子 | 2 | | 2014（平成26）年度以前の入学生は選択科目 | 不可 | | |
| | コミュニケーション論 | 他人を知るために自分を知る | 後 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | 阿部　純 | 2 | | 2014（平成26）年度以前の入学生は選択科目 | 不可 | | |
| | メディア・マーケティング論 | メディアを使いこなすマーケティング・マインドを養う | 後 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | 井上　英之 | 1 | 市場調査法 | | 不可 | | |
| | ※メディアと経済・基礎 | 日本経済におけるメディア | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | メディアと経済 | メディア研究のための経済学 | 特設（サマー） | 2 | | | | | ◎ | | 非 | 貫名　貴洋 | 2 | | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・2014（平成26）年度以前の入学生で「メディアと経済」の履修を希望する者は、メディアビジネス学科科目の発展・応用科目でビジネス科目の中にある「メディアと経済」を履修すること | | | |
| | 情報処理入門Ⅰ | 経済学部で学ぶためのPC入門（WordとPowerPointを使った学習の基礎） | 前 | 2 | | | | | ◎ | a | 派 | 落谷　淑江 | 1 | 情報基礎演習（4単位）<br>情報基礎演習Ⅰ | ・2014（平成26）年度以前の入学生対象科目<br>・2014（平成26）年度以前のメディアビジネス学科の入学生で「情報処理入門Ⅰ」の単位未修得者は、a～pのいずれか1クラスを選択し、履修すること<br>・2015（平成27）年度以降のメディアビジネス学科の入学生で、「情報処理入門Ⅰ」の履修を希望する者は、共通科目の情報処理科目の中にある「情報処理入門Ⅰ」を履修すること（修得した単位は、共通科目の選択科目の単位として計算） | ビ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | | | | | | | | b | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | d | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | e | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | f | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | g | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | h | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | i | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | j | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | k | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | l | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | m | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | n | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | o | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | p | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | 情報処理入門Ⅱ | 経済学部で学ぶためのPC入門（Excelを使った学習の基礎） | 前 | 2 | | | | | ◎ | a | 派 | 落谷　淑江 | 1 | 情報基礎演習（4単位）<br>情報基礎演習Ⅱ | ・2014（平成26）年度以前の入学生対象科目<br>・2014（平成26）年度以前のメディアビジネス学科の入学生で「情報処理入門Ⅱ」の単位未修得者は、a～qのいずれか1クラスを選択し、履修すること<br>・2015（平成27）年度以降のメディアビジネス学科の入学生で、「情報処理入門Ⅱ」の履修を希望する者は、共通科目の情報処理科目の中にある「情報処理入門Ⅱ」を履修すること（修得した単位は、共通科目の選択科目の単位として計算） | ビ不可 | 抽選 | 34名 |
| | | | | | | | | | | b | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | c | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | d | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | e | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | f | 派 | 坂本　小百合 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | g | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | h | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | i | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | j | 派 | 土山　ゆかり | | | | | | |
| | | | | | | | | | | k | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | l | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | m | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | n | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | o | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | p | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | q | 派 | 落谷　淑江 | | | | | | |
| | 映像メディア論 | 映像メディアの基礎 | 前 | 2 | | | | | ◎ | | | 德永　博充 | 1 | デジタルメディア基礎演習<br>デジタルメディア基礎Ⅰ | 2014（平成26）年度以前の入学生対象必修科目 | 不可 | | |
| | 音声メディア論 | 日本語音声表現の基礎 | 後 | 2 | | | | | ◎ | | | 中村　克洋 | 1 | デジタルメディア基礎Ⅱ | 2014（平成26）年度以前の入学生対象必修科目 | 不可 | | |
| | Webメディア論 | Webメディアの基礎 | 後 | 2 | | | | | ◎ | | | 堂本　絵理 | 2 | デジタルメディア基礎Ⅲ | 2014（平成26）年度以前の入学生対象必修科目 | 不可 | | |
| | 出版メディア論 | 出版メディアの基礎 | 後 | 2 | | | | | ◎ | | | 阿部　純 | 2 | デジタルメディア基礎Ⅳ | 2014（平成26）年度以前の入学生対象必修科目 | 不可 | | |
| | 画像編集 | ソフト（Photoshop）で写真を加工する | 後 | 2 | | | | | | a<br>b | 非 | 山下　明博 | 1 | 画像情報処理演習 | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理の基礎Ⅴ」若しくは「画像処理演習」単位修得者は履修不可<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生は「情報処理の基礎Ⅴ」若しくは「画像処理演習」との同時履修不可<br>・2014（平成26）年度以前の入学生で「画像編集」の履修を希望する者は、メディアビジネス学科科目の発展・応用科目でメディア・ＩＴ科目の中にある「画像編集」を履修すること | ビ不可 | 抽選 | 30名 |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | | 映像編集 | ソフト（Premiere）で動画を編集する | 前 | 2 | | | | | | a<br>b | 非 | 山下　明博 | 1 | 映像情報処理演習 | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「マルチメディア演習」単位修得者は履修不可<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生は「マルチメディア演習」との同時履修不可<br>・2014（平成26）年度以前の入学生で「映像編集」の履修を希望する者は、メディアビジネス学科科目の発展・応用科目でメディア・ＩＴ科目の中にある「映像編集」を履修すること | ビ不可 | 抽選 | 30名 |
| | | 現代日本経済事情Ⅰ | 国内編 | 前 | 2 | | | | | ※2013以前 | | | 宜名眞　勇 | 2 | 現代日本経済Ⅰ（国内編） | 2013（平成25）年度以前及び2016（平成28）年度以降の入学生対象科目 | | | |
| | | 現代日本経済事情Ⅱ | 国際関係編 | 後 | 2 | | | | | ※2013以前 | | | 宜名眞　勇 | 2 | 現代日本経済Ⅱ（国際関係編） | 2013（平成25）年度以前及び2016（平成28）年度以降の入学生対象科目 | | | |
| | | ミクロ経済学基礎Ⅰ | 家計・企業の行動と市場のはたらきについて考える | 後 | 2 | | | | | | e | | 堀江　真由美 | 2 | 基礎経済学Ⅰ | | | | |
| | | マクロ経済学基礎Ⅰ | 経済のしくみを鳥の目で見る | 後 | 2 | | | | | | e | | 山根　智沙子 | 2 | 基礎経済学Ⅱ | | | | |
| | | 国際経済基礎Ⅰ | グローバル経済のあゆみと展望 | 前 | 2 | | | | | | | | 小笠原　礼以<br>平本　賢了<br>楊　義申<br>福居　信幸 | 2 | | | | | |
| | | 国際経済基礎Ⅱ | 貿易と国際収支の基礎を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 野北　晴子 | 2 | 国際経済論基礎 | | | | |
| | | 経営情報論 | 経営と情報の接点を考える | 前<br>後 | 2 | | | | | | a<br>b | | 岡田　斎 | 2 | 経営と情報<br>情報処理概論 | | | 抽選 | 150名 |
| | | ※ｅビジネス基礎 | インターネット取引の仕組みを学ぶ | | 2 | | | | | | | | | 2 | ｅビジネス概論 | 2019（平成31）年度以降は開講なし | | | |
| | | 情報ネットワーク論 | 幅広い情報通信の基礎を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 杉山　克典 | 2 | 情報ネットワーク論（メディア） | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・2014（平成26）年度以前の入学生で「情報ネットワーク論」の履修を希望する者は、メディアビジネス学科科目の発展･応用科目でメディア･ＩＴ科目の中にある「情報ネットワーク論」を履修すること | | | |
| | | マーケティング論基礎 | 便利な生活を支える仕組み | 前 | 2 | | | | | | | | 坂間　十和子 | 2 | マーケティング論Ⅰ | 2016（平成28）年度以降の入学生対象科目 | | | |
| | | 映像制作基礎Ａ | テーマを持った作品づくり | 前 | 2 | | | | | | a<br>b | 非 | 土屋　祐子<br>門田　大地 | 1 | デジタルメディア演習Ⅰ<br>デジタルメディア制作Ⅰ | ・2015（平成27）年度以降入の学生対象科目<br>・2014（平成26）年度以前の入学生で「映像制作基礎Ａ」の履修を希望する者は、メディアビジネス学科科目の発展・応用科目でメディア・ＩＴ科目の中にある「映像制作基礎Ａ」を履修すること | 不可 | 抽選 | 18名 |
| | | 映像制作基礎Ｂ | テレビの取材から放送まで | 後 | 2 | | | | | | | | 徳永　博充 | 1 | デジタルメディア演習Ⅰ<br>デジタルメディア制作Ⅰ | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・2014（平成26）年度以前の入学生で「映像制作基礎Ｂ」の履修を希望する者は、メディアビジネス学科科目の発展・応用科目でメディア・ＩＴ科目の中にある「映像制作基礎Ｂ」を履修すること | 不可 | 抽選 | 18名 |
| | | デザイン制作基礎 | デザイン思考の基礎を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 宮地　英和 | 1 | デジタルメディア演習Ⅰ<br>デジタルメディア制作Ⅰ | ・2015（平成27）年度以降入の学生対象科目<br>・2014（平成26）年度以前の入学生で「デザイン制作基礎」の履修を希望する者は、メディアビジネス学科科目の発展・応用科目でメディア・ＩＴ科目の中にある「デザイン制作基礎」を履修すること | 不可 | 抽選 | 20名 |
| 発展・応用科目 | ビジネス科目 | 広告論 | メディアの変化の中の宣伝・広告の実態を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 宮田　庄悟 | 2 | プロモーションとメディア<br>広告論<br>広告とメディア | | | | |
| | | 企業広報論 | 企業と社会のかかわりを知ろう | 前 | 2 | | | | | | | | 井上　英之 | 3 | 企業広報 | | | | |
| | | ※メディア経営論 | メディア業界を深く知ろう | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | メディアと経済 | メディア研究のための経済学 | 特設(サマー) | 2 | | | | | | | 非 | 貫名　貴洋 | 2 | | ・2014（平成26）年度以前の入学生対象科目<br>・2015（平成27）年度以降の入学生で「メディアと経済」の履修を希望する者は、メディアビジネス学科科目の基礎科目の中にある「メディアと経済」を履修すること | | | |
| | | ※ビジネス文書演習 | 電子メールから企画書作成まで | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | ※ビジネスイングリッシュⅠ | 英語でプレゼンテーション | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ビジネス科目 | | ※ビジネスイングリッシュⅡ | 英語でプロモーションビデオ制作 | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| ビジネス科目 | | 流通システム論Ⅰ | やさしくわかる流通の基本 | 前 | 2 | | | | | | | | 細井　謙一 | 2 | 流通システム論 | | | | |
| ビジネス科目 | | 流通システム論Ⅱ | 流通の仕組みを正しく理解する | 後 | 2 | | | | | | | | 細井　謙一 | 2 | 流通システム論 | | | | |
| ビジネス科目 | | マーチャンダイジング論Ⅰ | 品ぞろえの基本的戦略 | 前 | 2 | | | | | | | | 石川　明美 | 3 | マーチャンダイジング論 | | | | |
| ビジネス科目 | | マーチャンダイジング論Ⅱ | 品ぞろえの具体的戦略 | 後 | 2 | | | | | | | | 石川　明美 | 3 | マーチャンダイジング論 | | | | |
| ビジネス科目 | | ※ビジネス口頭表現Ⅰ | 伝える力を伸ばす | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| ビジネス科目 | | ※ビジネス口頭表現Ⅱ | トークに説得力を | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| ビジネス科目 | | コンテンツビジネス論Ⅰ | コンテンツビジネスの考え方 | 前 | 2 | | | | | | | | 濱　愼一 | 3 | | | | | |
| ビジネス科目 | | コンテンツビジネス論Ⅱ | コンテンツビジネスの仕組みと動向 | 後 | 2 | | | | | | | | 濱　愼一 | 3 | コンテンツビジネス論 | | | | |
| ビジネス科目 | | ※メディアビジネス特講Ｂ | 企業広報ケーススタディ | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2020（令和2）年度開講せず | | 抽選 | 30名 |
| ビジネス科目 | | メディアビジネス特講Ｄ | 映像とビジネス | 後 | 2 | | | | | | | | 徳永　博充 | 3 | メディアビジネス特講Ｄ<br>メディアビジネス特講Ⅱ | | | 抽選 | 30名 |
| ビジネス科目 | | メディアビジネス特講Ｆ | Web ビジネス | 後 | 2 | | | | | | | | 濱　愼一 | 3 | | | | 抽選 | 30名 |
| ビジネス科目 | | メディアビジネス特講Ｈ | 広告とビジネス | 前 | 2 | | | | | | | | 北野　尚人 | 3 | メディアビジネス特講Ｈ<br>メディアビジネス特講Ⅰ | | | 抽選 | 30名 |
| ビジネス科目 | | メディアビジネス特講Ⅰ | 説得コミュニケーション | 前 | 2 | | | | | | | | 中村　克洋 | 3 | | | | 抽選 | 30名 |
| ビジネス科目 | | メディアビジネス特講Ｊ | 認知メカニズムとメディア | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 吉長　成恭 | 3 | | | | 抽選 | 30名 |
| ビジネス科目 | | メディアビジネス特講Ｋ | メディアビジネスとスポーツイベント／ラグビーワールドカップを成功に導いた発想と実例 | 前 | 2 | | | | | | | | 宮田　庄悟 | 3 | | | | 抽選 | 30名 |
| ビジネス科目 | | マーケティング論 | なぜヒット商品は生まれるのか？ | 後 | 2 | | | | | | | | 坂間　十和子 | 2 | マーケティング論Ⅱ | 2016（平成28）年度以降の入学生対象科目 | | | |
| ビジネス科目 | | サービス・マーケティング論 | サービス・ビジネスの仕組みを学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 坂間　十和子 | 3 | | 2015（平成27）年度以降の入学生対象科目 | | | |
| ビジネス科目 | | デジタルマーケティング論 | デジタル時代にメディアとマーケティングはどう変わるのか | 前 | 2 | | | | | | | | 宮田　庄悟 | 2 | | | | | |
| 発展・応用科目 | メディア・IT科目 | メディア・リテラシー | メディア特性の理解と表現 | 前 | 2 | | | | | | | | 土屋　祐子 | 2 | | | | | |
| 発展・応用科目 | メディア・IT科目 | メディアと法 | 現代メディアをとりまく法的諸問題 | 前 | 2 | | | | | | | | 井上　英之 | 2 | | | 不可 | | |
| 発展・応用科目 | メディア・IT科目 | 現代マスメディア論 | マスメディアの果たすべき役割、言論の自由と責任 | 前 | 2 | | | | | | | | 徳永　博充 | 2 | | | | | |
| 発展・応用科目 | メディア・IT科目 | 現代マスメディア事情 | メディア企業の視点から | 前 | 2 | | | | | | | | 北野　尚人<br>徳永　博充 | 2 | | | | 抽選 | 70名 |
| 発展・応用科目 | メディア・IT科目 | コミュニケーションと文化 | 日本語の特質と文化の形成 | 後 | 2 | | | | | | | | 中村　克洋 | 2 | | | | | |
| 発展・応用科目 | メディア・IT科目 | 情報デザイン論 | 情報を伝達するプロセスについて学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | | 宮地　英和 | 2 | | | | | |
| 発展・応用科目 | メディア・IT科目 | メディア文化史 | メディア文化の流れを知り、今のメディア･コミュニケーションを理解する | 前 | 2 | | | | | | | | 阿部　純 | 2 | | | | | |
| 発展・応用科目 | メディア・IT科目 | メディアと感性デザイン | 五感に訴える効果的な空間メディア | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 吉長　成恭 | 3 | | | | | |
| 発展・応用科目 | メディア・IT科目 | 情報社会と情報倫理 | 情報化が社会に与える影響や社会人としての情報倫理等を学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 梶川　正 | 3 | | | | | |
| 発展・応用科目 | メディア・IT科目 | マルチメディア論 | マルチメディアの基礎から表現・処理へ | 前 | 2 | | | | | | | | 濱　愼一 | 3 | | | | | |
| 発展・応用科目 | メディア・IT科目 | イベント論 | イベントは社会を元気にする | 前 | 2 | | | | | | | | 濱口　博行 | 2 | | 2016（平成28）年度以降の入学生対象科目 | | | |
| 発展・応用科目 | メディア・IT科目 | スポーツジャーナリズム論 | スポーツ報道の仕組みを読み解く | 前 | 2 | | | | | | | | 渡辺　勇一 | 3 | | 2015（平成27）年度以降の入学生対象科目 | | | |
| 発展・応用科目 | メディア・IT科目 | スポーツメディア論 | スポーツを伝える構造・機能を理解する | 後 | 2 | | | | | | | | 渡辺　勇一 | 3 | | 2015（平成27）年度以降の入学生対象科目 | | | |
| 発展・応用科目 | メディア・IT科目 | 情報ネットワーク論 | 幅広い情報通信の基礎を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 杉山　克典 | 2 | 情報ネットワーク論（メディア） | ・2014（平成26）年度以前の入学生対象科目<br>・2015（平成27）年度以降の入学生で「情報ネットワーク論」の履修を希望する者は、メディアビジネス学科科目の基礎科目の中にある「情報ネットワーク論」を履修すること | | | |
| 発展・応用科目 | メディア・IT科目 | Web コンテンツ制作 | 様々なＷｅｂコンテンツをデザイン・作成する | 前 | 2 | | | | | | | | 濱　愼一 | 2 | ＨＴＭＬ演習<br>Ｗｅｂ演習Ｂ | ●次の学生は、「Webコンテンツ制作」を履修することができる。<br>・メディアビジネス学科の入学生で「情報基礎演習（4単位）」、「情報処理入門Ⅰ（旧科目名：情報基礎演習Ⅰ）（2単位）」又は「情報処理入門Ⅱ（旧科目名:情報基礎演習Ⅱ）（2単位）」のいずれかの単位修得者 | 不可 | 抽選 | 30名 |
| 発展・応用科目 | メディア・IT科目 | モバイルコンテンツ制作 | モバイルコンテンツの企画から作成まで | 前 | 2 | | | | | | a | | 濱　愼一 | 2 | ＤＴＰ演習<br>ＤＴＰ演習（メディア） | ・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「DTP演習（ビジネス）」単位修得者は履修不可<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生は「DTP演習（ビジネス）」との同時履修不可 | ビ不可 | 抽選 | 30名 |
| 発展・応用科目 | メディア・IT科目 | | | 後 | | | | | | | b | | 堂本　絵理 | | | | | | |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発展・応用科目 | メディア・IT科目 | 画像編集 | ソフト（Photoshop）で写真を加工する | 後 | 2 | | | | | | a<br>b | 非 | 山下　明博 | 1 | 画像情報処理演習 | ・2014（平成26）年度以前の入学生対象科目<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「情報処理の基礎Ⅴ」若しくは「画像処理演習」単位修得者は履修不可<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生は「情報処理の基礎Ⅴ」若しくは「画像処理演習」との同時履修不可<br>・2015（平成27）年度以降の入学生で「画像編集」の履修を希望する者は、メディアビジネス学科科目の基礎科目の中にある「画像編集」を履修すること | ビ不可 | 抽選 | 30名 |
| | | 映像編集 | ソフト（Premiere）で動画を編集する | 前 | 2 | | | | | | a<br>b | 非 | 山下　明博 | 1 | 映像情報処理演習 | ・2014（平成26）年度以前の入学生対象科目<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生で「マルチメディア演習」単位修得者は履修不可<br>・経済学科、経営学科又はスポーツ経営学科の入学生は「マルチメディア演習」との同時履修不可<br>・2015（平成27）年度以降の入学生で「映像編集」の履修を希望する者は、メディアビジネス学科科目の基礎科目の中にある「映像編集」を履修すること | ビ不可 | 抽選 | 30名 |
| | | CG 演習 | コンピュータグラフィックを学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 堂本　絵理 | 2 | | | | 抽選 | 30名 |
| | | 映像制作基礎Ａ | テーマを持った作品づくり | 前 | 2 | | | | | | | | 土屋　祐子 | 1 | デジタルメディア演習Ⅰ<br>デジタルメディア制作Ⅰ | ・2014（平成26）年度以前の入学生対象科目<br>・2015（平成27）年度以降の入学生で「映像制作基礎Ａ」の履修を希望する者は、メディアビジネス学科科目の基礎科目の中にある「映像制作基礎Ａ」を履修すること | 不可 | 抽選 | 18名 |
| | | 映像制作基礎Ｂ | テレビの取材から放送まで | 後 | 2 | | | | | | | | 徳永　博充 | 1 | デジタルメディア演習Ⅰ<br>デジタルメディア制作Ⅰ | ・2014（平成26）年度以前の入学生対象科目<br>・2015（平成27）年度以降の入学生で「映像制作基礎Ｂ」の履修を希望する者は、メディアビジネス学科科目の基礎科目の中にある「映像制作基礎Ｂ」を履修すること | 不可 | 抽選 | 18名 |
| | | デザイン制作基礎 | デザイン思考の基礎を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 宮地　英和 | 1 | デジタルメディア演習Ⅰ<br>デジタルメディア制作Ⅰ | ・2014（平成26）年度以前の入学生対象科目<br>・2015（平成27）年度以降の入学生で「デザイン制作基礎」の履修を希望する者は、メディアビジネス学科科目の基礎科目の中にある「デザイン制作基礎」を履修すること | 不可 | 抽選 | 20名 |
| | | デザイン制作応用 | デザイン思考とメディア表現を学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | | 宮地　英和 | 2 | デジタルメディア演習Ⅱ-A<br>デジタルメディア制作Ⅱ-A | | 不可 | 抽選 | 30名 |
| | | ラジオ番組制作 | 音声の世界で伝える表現を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 中井　佳絵 | 2 | デジタルメディア演習Ⅱ-A<br>デジタルメディア制作Ⅱ-A | | 不可 | 抽選 | 18名 |
| | | 映像制作応用 | 映像で「社会を見つめる」 | 前 | 2 | | | | | | | | 徳永　博充 | 2 | デジタルメディア演習Ⅱ-B<br>デジタルメディア制作Ⅱ-B | | 不可 | 抽選 | 18名 |
| | | ＣＭ制作 | ビジネスを意識したＣＭ制作 | 後 | 2 | | | | | | | | 北野　尚人 | 2 | デジタルメディア演習Ⅱ-B<br>デジタルメディア制作Ⅱ-B | | 不可 | 抽選 | 18名 |
| | | 映像コンテンツ制作論 | ラジオ・テレビ・映画・Webで、高評価なコンテンツ作りの考え方と方法を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 門田　大地 | 2 | | | 不可 | | |

### (5) スポーツ経営学科

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入門科目 | 経済入門 | くらしと経済 | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | d | | 永田　智章 | 1 | | | 不可 | | |
| | 経営入門 | ビジネスの世界で働く | 後 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | h | | 岡本　康昭 | 1 | | | 不可 | | |
| | ※マーケティング入門 | マーケティング・マインドを学ぶ | | 2 | | | | | ◎ | | | | 1 | | 2020（令和2）年度以降は開講なし | 営可 | | |
| | スポーツ経営入門 | ビジネスの視点でスポーツを科学する | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | 中村　隆行 | 1 | | 2015（平成27）年度以降の入学生対象科目 | 不可 | | |
| | 初級簿記Ⅰ | 日商3級の前半（簿記の意義から商品売買取引の仕訳まで） | 前 | 2 | | | | | | i | 非 | 藤井　稔久 | 1 | 簿記原理Ⅰ<br>簿記原理Ⅱ<br>簿記3級Ⅰ | 経営学科科目<br>2015（平成27）年度以降入学生対象科目<br>「初級簿記Ⅰ」の履修を希望する者は、a～iのいずれか1クラスを選択し履修すること。 | | | |
| | | | 後 | | | | | | | a | | 角　裕太 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | b | 非 | 藤川　晴基 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | c | 非 | 河本　雅志 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | d | 非 | 河本　雅志 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | e | 非 | 藤井　稔久 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | f | | 東　幸代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | g | | 福田　正太郎 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | h | 非 | 藤井　稔久 | | | | | | |
| | ※簿記入門Ⅰ | ビジネスで必要な簿記知識 | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | 不可 | | |
| | ※簿記入門Ⅱ | ビジネスで必要な簿記知識 | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | 不可 | | |
| 基礎科目 | スポーツ文化論 | 文化としてのスポーツを検討する | 後 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | 岡安　功 | 1 | | | 不可 | | |
| | スポーツ経営学 | スポーツをマネジメントすることとは | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | 渡辺　泰弘 | 2 | | | 不可 | | |
| | スポーツ産業論 | スポーツの本質を活かす産業とは | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | 岡安　功 | 2 | | | 不可 | | |
| | スポーツマーケティング論 | スポーツをプロデュースする | 後 | 2 | | | | | ◎ | | | 林　和夫 | 2 | | 2014（平成26）年度以前の入学生は必修科目 | 不可 | | |
| | スポーツ英語 | 英語で世界のスポーツビジネスを考える | 後 | 1 | | | | | | | 非 | 吉川　浩司 | 2 | | | 不可 | 抽選 | 30名 |
| | 経営学 | 組織体の適正な運営について学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | | 岡本　康昭 | 2 | | | 営不可 | | |
| | ※組織マネジメント論基礎 | さまざまな組織とそのメカニズム | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | マーケティング論基礎 | 便利な生活を支える仕組み | 前 | 2 | | | | | | | | 坂間　十和子 | 2 | マーケティング論Ⅰ | | | | |
| | 会計学基礎 | 財務会計で企業活動を描写する | 前 | 2 | | | | | | a | | 東　幸代 | 2 | 会計学総論 | | | | |
| | | | | | | | | | | b | | 角　裕太 | | | | | | |
| | ※ビジネスマナー | ビジネス社会で求められるマナーの理論とスキル | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | 経済学基礎 | 経済学の視点と基礎理論 | 後 | 2 | | | | | | | | 永田　智章 | 1 | | | | | |
| | 経済政策論基礎 | 市場経済と政府の役割 | 後 | 2 | | | | | | | | 石田　優子 | 2 | 経済政策論Ⅰ | | | | |
| | ※ Issues of International Sports（世界のスポーツ状況） | Let's understand the world by and through Sports（スポーツを通して世界を捉えましょう） | | 2 | | | | | | | | | 2 | International Sport Affairs（世界のスポーツ状況） | 2016（平成28）年度以降は開講なし | | | |
| | ※ Issues of Japanese Sports（日本のスポーツ状況） | Let's understand Japan by and through Sports（スポーツを通して日本を捉えましょう） | | 2 | | | | | | | | | 2 | Domestic Sport Affairs in Japan（日本のスポーツ状況） | 2016（平成28）年度以降は開講なし | | | |
| | ※ Olympics and Peace | Olympics and Paralympics in Japan and the World | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2019（平成31）年度以降は開講なし | | | |
| | Sport Culture in Japan | Let's think about Japan and sport | 後 | 2 | | | | | | | | 岡安　功 | 2 | | | | | |
| | The World's Top Athletes from Japan | Sports in English | 前 | 2 | | | | | | | | 林　和夫 | 2 | | | | | |
| | Major Sports in Japan | Sports in English | 後 | 2 | | | | | | | | 濱口　博行 | 2 | | | | | |
| 経済・経営関連科目（注2）<br>発展・応用科目 | コミュニティビジネス論 | 地域を拠点としたクラブ経営の基礎知識 | 後 | 2 | | | | | ◎ | | | 中村　隆行<br>渡辺　泰弘 | 3 | | 2014（平成26）年度以前の入学生は必修科目 | 不可 | | |
| | イベント論 | イベントは社会を元気にする | 前 | 2 | | | | | ◎ | | | 濱口　博行 | 2 | | 2014（平成26）年度以前の入学生は必修科目 | | | |
| | スポーツファイナンス論 | 財政基盤の重要性を学ぶ | 前 | 2 | | | | | ◎ | | | 幸田　圭一朗 | 3 | | 2014（平成26）年度以前の入学生は必修科目 | 不可 | | |
| | プロスポーツ論 | プロスポーツはスポーツ文化の開拓者 | 後 | 2 | | | | | ◎ | | | 藤口　光紀 | 3 | | 2014（平成26）年度以前の入学生は必修科目 | 不可 | | |
| | ※プロスポーツ経営実践 | プロスポーツクラブ（球団）の経営とプロスポーツの文化的価値 | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2019（平成31）年度以降は開講なし | | | |
| | スポーツ組織論 | 個人と組織の関係、組織が抱える問題を探る | 後 | 2 | | | | | | | | 中村　隆行 | 2 | | | | | |
| | スポーツジャーナリズム論 | スポーツ報道の仕組みを読み解く | 前 | 2 | | | | | | | | 渡辺　勇一 | 3 | | | | | |
| | スポーツメディア論 | スポーツを伝える構造・機能を理解する | 後 | 2 | | | | | | | | 渡辺　勇一 | 3 | | | | | |
| | 産業組織論 | 企業行動と産業政策の成果を学ぶ | 後 | 2 | | | | | | | | 堀江　真由美 | 3 | | | | | |
| | 国際経済学 | 貿易と投資の理論と実証 | 後 | 2 | | | | | | | | 永田　智章 | 3 | | | | | |
| | スポーツ統計 | スポーツをデータで分析する | 後 | 2 | | | | | | | | 得津　康義 | 3 | 数量経済分析 | | | 抽選 | 100名 |
| | アジア経済 | アジア太平洋地域における日本の役割 | 前 | 2 | | | | | | | | 永田　智章 | 3 | | | | | |
| | アメリカ経済 | 経済理論で学ぶアメリカ経済事情 | 後 | 2 | | | | | | | | 福居　信幸 | 2 | | | | | |
| | スポーツ経済論 | スポーツの生産・分配・消費及び人々の社会関係に与える影響を考える | 前 | 2 | | | | | | | | 永田　智章 | 2 | スポーツと経済 | | | | |
| | 組織マネジメント論 | 組織によるマネジメント | 後 | 2 | | | | | | | | 岡本　康昭 | 2 | | | | | |

| 区分 | | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 経済・経営関連科目（注2） | | 経営戦略論 | 企業の長期的な方向性の指針と意思決定の基準 | 後 | 2 | | | | | | | | 岡本　康昭 | 3 | | | | | |
| | | 財務会計論 | 財務会計のルールを考える | 後 | 2 | | | | | | | | 角　裕太 | 2 | 会計学<br>会計学総論 | | | | |
| | | ※会計実務 | 実社会で役立つ経理・会計・税務の知識 | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | 経営分析論 | 企業経営の健康診断 | 後 | 2 | | | | | | | | 小谷　幸生 | 3 | | | | | |
| | | ※ CSR 論 | 企業の社会的役割を知る | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| スポーツ関連科目（注2） | | スポーツ社会学 | 社会とスポーツの繋がりを考える | 後 | 2 | | | | | | | | 松本　耕二 | 2 | | | | 抽選 | 100名 |
| | | 地域スポーツ論 | 地域コミュニティとスポーツ | 前 | 2 | | | | | | | | 松本　耕二 | 2 | | | | 抽選 | 100名 |
| | | ※スポーツ指導論 | 理想的な指導を構築する | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | | スポーツコーチング論 | 指導力と競技力アップのコーチング | 後 | 2 | | | | | | | | 尾方　剛 | 3 | | | | 抽選 | 100名 |
| | | スポーツトレーニング論 | トレーニングによる身体の変化と適応 | 前 | 2 | | | | | | | | 松田　亮 | 2 | | | | 抽選 | 100名 |
| | | スポーツ心理学 | 現場で使える基礎から学ぶスポーツ心理学 | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 村上　妃斗美 | 3 | | | | 抽選 | 100名 |
| | | スポーツ生理学 | 科学的なトレーニング法、パワーアップ法 | 前 | 2 | | | | | | | | 柳川　和優 | 2 | | | | 抽選 | 100名 |
| | | スポーツバイオメカニクス | 身体運動の仕組み | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 磨井　祥夫 | 3 | バイオメカニクス | | | 抽選 | 100名 |
| | | スポーツ医学 | 知っておきたいスポーツ医科学基礎知識 | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 福場　良之 | 3 | | | | 抽選 | 100名 |
| | | スポーツ栄養学 | スポーツのための栄養と食事 | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 山岡　雅子 | 3 | | | | 抽選 | 100名 |
| | | ※スポーツトレーナー論 | スポーツや運動におけるトレーナーの職務 | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2016（平成28）年度以降は開講なし | | | |
| | | 救急処置法 | 緊急時に対応できる技術と知識 | 特設（サマー） | 2 | | | | | | | 非 | 藤田　雅範 | 3 | | | 不可 | 抽選 | 40名 |
| | | 健康運動プログラム論 | 健康作りのための運動処方 | 前 | 2 | | | | | | | | 柳川　和優 | 3 | | | | 抽選 | 100名 |
| | | レクリエーションスポーツ論 | 楽しみを科学する | 前 | 2 | | | | | | | | 岡安　功 | 2 | | | | 抽選 | 100名 |
| | | スポーツ施設マネジメント | スポーツ施設の維持管理・役割を学ぶ | 前 | 2 | | | | | | | | 渡辺　泰弘 | 3 | | | 不可 | | |
| 発展・応用科目 | 実験・実習・演習科目（注2） | スポーツ指導法演習 | 基礎技術および指導法の習得 | 前 | 2 | | | | | ◎ | | | 松田　亮<br>尾方　剛 | 2 | スポーツ指導法演習Ⅰ | ・2014（平成26）年度以前の入学生は必修科目 | 不可 | | |
| | | スポーツ指導法演習Ⅱ | 基礎技術および指導法の習得Ⅱ | 後 | 2 | | | | | ◎ | | | 松田　亮 | 2 | | 2014（平成26）年度以前の入学生対象科目 | 不可 | | |
| | | スポーツトレーニング実習 | 各種トレーニング法の習得 | 後 | 1 | | | | | | | | 松田　亮 | 2 | | | 不可 | 抽選 | 20名 |
| | | スポーツ生理学実験 | 理論や仮説が正しいかどうかを実験により確かめる | 後 | 1 | | | | | | | 非 | 柳川　和優<br>磨井　祥夫 | 2 | | | 不可 | 抽選 | 20名 |
| | | スポーツトレーナー実習 | 体力向上と障害予防の為のトレーニング実践 | 後 | 1 | | | | | | | 非 | 大段　淳義 | 2 | | | 不可 | 抽選 | 20名 |
| | | レクリエーションスポーツ実習Ⅰ（ゲーム） | 楽しさ・心地よさを活かす支援技術を学ぶ | 後 | 1 | | | | | | | 非 | 松本　耕二<br>砂橋　昌義 | 2 | | | | 抽選 | 30名 |
| | | レクリエーションスポーツ実習Ⅱ（キャンプ） | キャンプを体験しプログラムをマネジメントする | 特設（サマー） | 1 | | | | | | | 非 | 松本　耕二<br>砂橋　昌義 | 2 | | | 不可 | 抽選 | 20名 |
| | | レクリエーションスポーツ実習Ⅲ（スノー） | スノープログラムの体験 | 特設（その他） | 1 | | | | | | | 非 | 松本　耕二<br>平野　貴也 | 2 | | | 不可 | 抽選 | 20名 |
| | | スポーツトレーナー演習 | スポーツや運動におけるトレーナーの職務 | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 蘓武　彩織 | 2 | | | 不可 | 抽選 | 40名 |
| | | 地域スポーツ貢献演習 | 地域のスポーツに貢献しよう | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 渡辺　泰弘<br>関口　昌和 | 2 | | | 不可 | 抽選 | 20名 |
| | | スポーツビジネス演習Ⅰ | 企業研修のための準備となる事前学習 | 前 | 2 | | | | | | | | 藤口　光紀<br>渡辺　勇一 | 2 | | | 不可 | 抽選 | 25名 |
| | | スポーツビジネス演習Ⅱ | 企業研修を通じてスポーツビジネスの理解を深める | 後 | 2 | | | | | | | | 藤口　光紀<br>渡辺　勇一 | 2 | | 「スポーツビジネス演習Ⅰ」の単位修得者のみ履修可 | 不可 | 抽選 | 25名 |
| | | ※スポーツマネジメント演習Ⅰ | スポーツ関連事業の企画・運営を知る | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | 不可 | 抽選 | 20名 |
| | | スポーツマネジメント演習 | スポーツ関連イベントの企画・実践 | 前 | 2 | | | | | | | | 松田　亮<br>尾方　剛 | 2 | スポーツマネジメント演習Ⅱ | | 不可 | 抽選 | 20名 |
| | | スポーツビジネス視察Ⅰ（国内） | 国内スポーツビジネスの「今」を視察する | 特設 | 1 | | | | | | | | 林　和夫<br>岡安　功 | 1 | | | 不可 | | |
| | | ※スポーツビジネス視察Ⅱ（北米） | 北米スポーツビジネス／エンターテインメントの現場を視察する | | 1 | | | | | | | | | 1 | | 隔年開講<br>2020（令和2）年度開講せず | | 選考 | 30名 |
| | | スポーツビジネス視察Ⅲ（欧州） | 欧州スポーツビジネス、その歴史と現状を視察する | 特設（その他） | 1 | | | | | | | | 林　和夫<br>濱口　博行 | 1 | | 隔年開講 | | 選考 | 30名 |
| | | チームビルディング | 個性が活きるチームづくりのプロセスと技法 | 特設（サマー） | 1 | | | | | | | 非 | 芳地　泰幸 | 2 | | 受講者が10名未満の場合は開講しない | 不可 | 抽選 | 25名 |
| | | チームマネジメント | チームを構築、維持、発展させていくには | 後 | 2 | | | | | | | | 宮辻　渉 | 2 | | | 不可 | 抽選 | 36名 |
| | | ※プレゼミ | | | 2 | | | | | ◎ | 再 | | | 2 | | （注1）<br>・2014（平成26）年度以前の入学生対象科目<br>・2017（平成29）年度以降は開講なし | 不可 | | |

**（注1）プレゼミ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ（必修科目）**

●スポーツ経営学科科目の「プレゼミ（２単位、後期）」は、2014（平成26）年度以前入学生を対象としたスポーツ経営学科の自学科科目における２年次配当の必修科目である。２年次前期に登録した担当教員のクラスを履修しなければならない。

●2015（平成27）年度以降のスポーツ経営学科の入学生は、ゼミ科目の中にある「プレゼミ」を履修すること。

●「卒業研究Ⅰ（３年：４単位、通年）」は、予め担当教員の承認を得た者のみ履修できる。

●同一年度での「プレゼミ」と「卒業研究Ⅰ」の同時履修は可能。（2014（平成26）年度以降の入学生は不可）

●「卒業研究Ⅱ（４年：４単位、通年）」は、「卒業研究Ⅰ」の単位を修得した者のうち、担当教員の承認を得た者のみ履修できる。

●同一年度での「卒業研究Ⅰ」と「卒業研究Ⅱ」の同時履修はできない。

**（注2）「経済・経営関連科目」、「スポーツ関連科目」、「実験・実習・演習科目」**

●2014（平成26）年度以前の入学生

・「経済・経営関連科目区分」の中から必修科目を除き2単位以上修得すること

・「スポーツ関連科目区分」の中から8単位以上修得すること

・「実験・実習・演習科目区分」の中から必修科目を除き4単位以上修得すること

●2015（平成27）年度入学生

・「経済・経営関連科目区分」の中から2単位以上修得すること

・「スポーツ関連科目区分」の中から8単位以上修得すること

・「実験・実習・演習科目区分」の中から4単位以上修得すること

●2016（平成28）年度以降の入学生

・「経済・経営関連科目区分」の中から10単位以上修得すること

・「スポーツ関連科目区分」の中から8単位以上修得すること

・「実験・実習・演習科目区分」の中から6単位以上修得すること

## 3 ゼミ科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ゼミ科目 | ※大学入門ゼミ | | | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | 1 | | （注1）<br>・2019（平成31）年度以降は開講なし | | | |
| | 興動人入門ゼミ | | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 再 | | 岡本　恵子<br>神田　義浩 | 1 | | （注1） | | | |
| | ※入門ゼミⅠ | | | 2 | | | | | ◎ | | | | 1 | | （注2）<br>・2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |
| | ※入門ゼミⅡ | | | 2 | | | | | ◎ | | | | 1 | | （注3）<br>・2015（平成27）年度以降は開講なし | | | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ゼミ科目 | プレゼミ | | 後 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎<br>※2014以降 | 済・営 | | 新垣　繁秀 | 2 | | （注4）<br>・2014（平成26）年度以降入学生対象科目。ただしスポーツ経営学科のみ2015（平成27）年度以降入学生対象とする。 | 不可 | 選考 | 15名 |
| | | | | | | | | | | | | 小笠原　礼以 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 重本　洋一 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 末広　菜穂子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 竹林　栄治 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 得津　康義 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 中嶋　則夫 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 野北　晴子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 平下　義記 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 平本　賢了 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 福居　信幸 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 藤谷　則夫 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 堀江　真由美 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 松榮　豊貴 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 森山　玲子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 山根　智沙子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 楊　義申 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 東　幸代 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 岡田　斎 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 岡本　康昭 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 幸田　圭一朗 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 坂間　十和子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 角　裕太 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 瀬戸　正則 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | K．I．ツエ | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 広田　堅志 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 福田　正太郎 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 藤原　久嗣 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 細井　謙一 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 堀江　浩司 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 松川　佳洋 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 宮辻　渉 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 餅川　正雄 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 岡本　貞雄 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 神田　義浩 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 木本　一成 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 坂水　貴司 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 澤　滋久 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 高石　哲弥 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 田中　泉 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 寺本　康俊 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 濵田　敏彦 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 前馬　優策 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 宮岡　弥生 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 宮畑　加奈子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | ビ | | 石野　亜耶 | | | | 不可 | 選考 | 10名 |
| | | | | | | | | | | | | 久保　大支 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 杉山　克典 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 関　隆教 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 田浦　元 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 丹羽　啓一 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 溝下　博 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | メ | | 阿部　純 | | | | 不可 | 選考 | 12名 |
| | | | | | | | | | | | | 井上　英之 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 土屋　祐子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 堂本　絵理 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 宮地　英和 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 宮田　庄悟 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | ス | | 岡安　功 | | | | 不可 | 選考 | 8名 |
| | | | | | | | | | | | | 中村　隆行 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 永田　智章 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 林　和夫 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 松田　亮 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 松本　耕二 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 柳川　和優 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 渡辺　泰弘 | | | | | | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ゼミ科目 | 演習Ⅰ | | 通 | 4 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 済・営 | | 新垣　繁秀 | 3 | | （注5）、（注6） | ビ・メ・ス不可 | 選考 | 15名 |
| | | | | | | | | | | | | 小笠原　礼以 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 宜名眞　勇 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 重本　洋一 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 末広　菜穂子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 竹林　栄治 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 得津　康義 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 中嶋　則夫 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 野北　晴子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 一橋　信之 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 平下　義記 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 平本　賢了 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 福居　信幸 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 藤谷　則夫 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 堀江　真由美 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 森山　玲子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 山根　智沙子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 楊　義申 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 岡田　斎 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 幸田　圭一朗 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 坂間　十和子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 角　裕太 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 瀬戸　正則 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | K．I．ツエ | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 糠谷　英輝 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 福田　正太郎 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 藤原　久嗣 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 細井　謙一 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 堀江　浩司 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 松川　佳洋 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 宮辻　渉 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 餅川　正雄 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 木本　一成 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 澤　滋久 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 高石　哲弥 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 田中　泉 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 長谷川　泰志<br>坂水　貴司 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 濵田　敏彦 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 宮岡　弥生 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 宮畑　加奈子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | ビ | | 石野　亜耶 | | | | 不可 | 選考 | 11名 |
| | | | | | | | | | | | | 久保　大支 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 杉山　克典 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 関　隆教 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 丹羽　啓一 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | メ | | 阿部　純 | | | | 不可 | 選考 | 10名 |
| | | | | | | | | | | | | 井上　英之 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 北野　尚人 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 土屋　祐子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 宮地　英和 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | ス | | 尾方　剛 | | | | 不可 | 選考 | 7名 |
| | | | | | | | | | | | | 岡安　功 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 永田　智章 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 林　和夫 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 松田　亮 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 松本　耕二 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 渡辺　泰弘 | | | | | | |
| | ※演習Ⅰ | | 通 | 4 | | | | | ◎※2013以前 | | | | 3 | | （注6）<br>・経済・経営学科の、2013（平成25）年度以前の入学生対象科目<br>・2016（平成28）年度以降は開講なし | ビ・メ・ス不可 | 選考 | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 他学科受講 | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ゼミ科目 | 演習Ⅱ | | 通 | 6 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎※2014以降 | 済・営 | | 新垣　繁秀 | 4 | | （注5）<br>・経済・経営・ビジネス情報・メディアビジネス学科の、2014（平成26）年度以降の入学生対象。但しスポーツ経営学科のみ2015（平成27）年度以降入学生対象とする。 | ビ・メ・ス不可 | 選考 | 15名 |
| | | | | | | | | | | | | 石田　優子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 小笠原　礼以 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 宜名眞　勇 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 重本　洋一 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 末広　菜穂子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 竹林　栄治 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 得津　康義 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 中嶋　則夫 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 野北　晴子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 一橋　信之 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 平下　義記 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 平本　賢了 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 福居　信幸 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 藤谷　則夫 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 堀江　真由美 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 森山　玲子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 山根　智沙子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 楊　義申 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 石川　明美 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 岡田　斎 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 幸田　圭一朗 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 坂間　十和子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 角　裕太 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 瀬戸　正則 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | K．I．ツエ | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 糠谷　英輝 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 細井　謙一 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 堀江　浩司 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 宮辻　渉 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 岡本　貞雄 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 木本　一成 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 澤　滋久 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 高石　哲弥 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 胤森　裕暢 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 長谷川　泰志<br>坂水　貴司 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 濵田　敏彦 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 宮岡　弥生 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 宮畑　加奈子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | ビ | | 石野　亜耶 | | | | 不可 | 選考 | 15名 |
| | | | | | | | | | | | | 久保　大支 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 杉山　克典 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 関　隆教 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 丹羽　啓一 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | メ | | 北野　尚人 | | | | 不可 | 選考 | 10名 |
| | | | | | | | | | | | | 土屋　祐子 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 徳永　博充 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 中村　克洋 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 宮地　英和 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | ス | | 岡安　功 | | | | 不可 | 選考 | 7名 |
| | | | | | | | | | | | | 尾方　剛 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 中村　隆行 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 永田　智章 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 濵口　博行 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 林　和夫 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 藤口　光紀 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 松田　亮 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 松本　耕二 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 渡辺　泰弘 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 渡辺　勇一 | | | | | | |
| | ※演習Ⅱ | | 通 | 8 | | | | | ◎※2013以前 | 済・営 | | | 4 | | （注6）<br>・経済・経営学科の、2013（平成25）年度以前の入学生対象科目<br>・2017（平成29）年度以降は開講なし | ビ・メ・ス不可 | 選考 | |

**(注１）大学入門ゼミ、興動人入門ゼミ**

●「大学入門ゼミ（前期開講)」及び「興動人入門ゼミ（後期開講)」は、１年次生必修科目で、進級認定の要件科目である。
●新入生は、指定されたクラスで履修すること。
●「大学入門ゼミ」及び「興動人入門ゼミ」は同一教員とする（変更不可)。
●前期開講の「大学入門ゼミ」が不認定（単位未修得）の場合の取扱い。
・後期に開講される「大学入門ゼミ（再履修クラス)」を履修し、単位を修得しなければならない（後期履修登録)。
・１年次前期において半期休学し、「大学入門ゼミ」を未履修の場合は、後期に開講される「大学入門ゼミ（再履修クラス)」を履修し、単位を修得しなければならない（後期履修登録)。
・再履修クラスにより履修した「大学入門ゼミ」の評価が、不可又は評価不能の場合、もしくは「大学入門ゼミ」を在籍年数１年目までに未履修の場合は、代替科目指定登録により、「大学入門ゼミ（２単位)」の単位を充足すること。
●後期開講の「興動人入門ゼミ」が不認定（単位未修得）の場合の取扱い。
・次年度前期に開講される「興動人入門ゼミ（再履修クラス)」を履修し、単位を修得しなければならない。
・１年次において休学し、「興動人入門ゼミ」を未履修の場合は、次年度前期に開講される再履修クラスを履修し、単位を修得しなければならない。
・再履修クラスにより履修した「興動人入門ゼミ」の評価が、不可又は評価不能の場合、もしくは「興動人入門ゼミ」を在籍年数1.5年目までに未履修の場合は、代替科目指定登録により、「興動人入門ゼミ（２単位)」の単位を充足すること。

**(注2）入門ゼミⅠ（2014（平成26）年度以前の入学生対象必修科目）**

●「入門ゼミⅠ」は、2014（平成26）年度以前入学生の１年次生必修科目である。
●2014（平成26）年度入学生は、進級認定の要件科目である。
●「入門ゼミⅠ」の単位を未修得の者は、2015（平成27）年度以降は「入門ゼミⅠ」が未開講のため、代替科目指定登録により、「入門ゼミⅠ（2単位)」の単位を充足すること。

**(注3）入門ゼミⅡ（2014（平成26）年度以前の入学生対象必修科目）**

●「入門ゼミⅡ（後期開講)」は、2014（平成26）年度以前入学生の１年次生必修科目である。
●2014（平成26）年度入学生は、進級認定の要件科目である。
●「入門ゼミⅡ」の単位を未修得の場合は、2016（平成28）年度以降は「入門ゼミⅡ」が未開講のため、代替科目指定登録により、「入門ゼミⅡ（2単位)」の単位を充足すること。

**(注4）プレゼミ（2014（平成26）年度以降入学生対象必修科目）**

●経済学科、経営学科、ビジネス情報学科、メディアビジネス学科の2014（平成26）年度以降の入学生及びスポーツ経営学科の2015（平成27）年度以降の入学生については、「プレゼミ」はゼミ科目における2年次配当の必修科目で、進級認定の要件科目である。
●2年次前期に登録した担当教員の「プレゼミ」を履修しなければならない。
●「プレゼミ」の単位未修得者の取扱い。
・次年度に開講される「プレゼミ」を履修し、単位を修得しなければならない。
・「プレゼミ」の単位未修得者は、3年次へ進級ができない（2年次に留年)。

**(注5）演習Ⅰ、演習Ⅱ（2014（平成26）年度以降入学生対象必修科目）**

●経済学科、経営学科、ビジネス情報学科、メディアビジネス学科の2014（平成26）年度以降の入学生対象科目である。但しスポーツ経営学科のみ2015（平成27）年度以降の入学生対象とする。
●「演習Ⅰ（４単位)」は、全学科のゼミ科目における３年次配当の必修科目である。
●２年次後期に登録した担当教員の「演習Ⅰ」を履修しなければならない。
●「演習Ⅱ（６単位)」は、全学科のゼミ科目における４年次配当の必修科目である。
●「演習Ⅱ」は、「演習Ⅰ」の単位を修得した者のみ履修できる。なお、「演習Ⅰ」と同じ担当教員の「演習Ⅱ」を履修しなければならない。
●同一年度での「演習Ⅰ」と「演習Ⅱ」の同時履修はできない。
●「演習Ⅰ」が不可又は評価不能だった場合は、担当教員を変更することができる。

**(注6）演習Ⅰ、演習Ⅱ（2013（平成25）年度以前の入学生対象必修科目）**

●「演習Ⅰ（4単位)」は、経済学科、経営学科では、ゼミ科目における３年次配当の必修科目である。2年次後期に登録した担当教員の「演習Ⅰ」を履修しなければならない。
●「演習Ⅱ（8単位)」は、経済学科、経営学科では、ゼミ科目における４年次配当の必修科目である。「演習Ⅰ」の単位を修得した者のみ履修できる。また、「演習Ⅰ」と同じ担当教員の「演習Ⅱ」を履修しなければならない。
●同一年度での「演習Ⅰ」と「演習Ⅱ」の同時履修はできない。
●配当年次以降に「演習Ⅰ」及び「演習Ⅱ」を再履修する場合も、担当教員の変更は原則できない。
●「演習Ⅰ」及び「演習Ⅱ」の単位未修得者は、代替科目指定登録制度を利用して、必要単位数を充足することができる。

**≪代替科目指定登録とは≫**

代替科目指定登録とは、広島経済大学演習細則に基づき、「入門ゼミⅠ」及び「入門ゼミⅡ」または「大学入門ゼミ」及び「興動人入門ゼミ」について定められた履修登録時期を経過した場合、その他の演習科目についてはやむを得ない場合に限り、他の科目を履修し単位を修得することで、単位を振り替えることができる制度です。ただし、2014（平成26）年度以降の入学生は「入門ゼミⅠ」及び「入門ゼミⅡ」または「大学入門ゼミ」及び「興動人入門ゼミ」のみ代替科目指定登録をすることができ、その他の演習科目について代替科目指定登録はできません。

①代替登録できる科目（全学生対象）
・「入門ゼミⅠ」及び「入門ゼミⅡ」

・「大学入門ゼミ」及び「興動人入門ゼミ」

② 2013（平成 25）年度以前の入学生のみ代替登録できる科目

・「演習Ⅰ」及び「演習Ⅱ」（経済学科、経営学科）

・「グループ演習」、「卒業研究Ⅰ（３年）」及び「卒業研究Ⅱ（４年）」（ビジネス情報学科）

・「デジタルメディア表現Ⅰ」、「デジタルメディア表現Ⅱ」、「メディアビジネス演習Ⅰ」及び「メディアビジネス演習Ⅱ」（メディアビジネス学科）

・「プレゼミ」、「卒業研究Ⅰ」及び「卒業研究Ⅱ」（スポーツ経営学科）

**≪2013（平成25）年度以前の入学生適用　広島経済大学演習細則（抜粋）≫**

第22条　演習科目の履修を辞退する者は、演習科目履修辞退事由書を届け出なければならない。

2　前項により履修辞退の届出をした演習科目については、代替科目指定登録届により、一部制限科目を除く本学の授業科目のうち単位未修得科目から、履修を辞退する演習科目の単位数と同じ単位数分の科目を代替科目として申請し、その科目の単位修得をもって振り替えなければならない。

3　履修登録における代替科目の履修単位数は、履修制限単位数に含めて登録するものとする。

4　演習科目履修辞退事由書及び代替科目指定登録届の届出は、次の演習科目ごとに指定された届出時期で、各学期初めの指定された期間に学務センター教務課へ届け出なければならない。

(1) 入門ゼミⅠの届出は、２年次以降

(2) 入門ゼミⅡの届出は、２年次後期以降

(3) 演習Ⅰ及び演習Ⅱの届出は、原則として４年次以降

(4) グループ演習、卒業研究Ⅰ（３年）及び卒業研究Ⅱ（４年）の届出は、原則として４年次以降

(5) デジタルメディア表現Ⅰ、デジタルメディア表現Ⅱ、メディアビジネス演習Ⅰ及びメディアビジネス演習Ⅱの届出は、原則として４年次以降

(6) プレゼミ、卒業研究Ⅰ及び卒業研究Ⅱの届出は、原則として４年次以降

5　前項第３号から第６号の規定にかかわらず、在学年数３年以上の者は届け出ることができるものとする。

6　演習科目の履修を一度辞退した者が、再度演習科目を履修することは認められない。

7　代替科目指定登録届で届け出た科目以外の科目の修得単位を、代替科目の単位に振り替えることはできない。

8　演習科目を履修している者は、同時に入門ゼミⅠ、入門ゼミⅡ及びプレゼミを除く他の演習科目の履修を辞退して、代替科目指定登録を行うことはできない。

**≪2014（平成26）年度の入学生適用　広島経済大学演習細則（抜粋）≫**

第14条　代替科目指定登録により、入門ゼミⅠ又は入門ゼミⅡの単位を修得する者は、必修科目及び卒業認定の要件とならない科目を除く本学の授業科目のうち単位未修得科目から、代替科目指定登録届により修得する単位数分の科目を申請し、その科目の単位修得をもって振り替えなければならない。

2　履修登録における代替科目の履修単位数は、履修制限単位数に含めて登録するものとする。

3　代替科目指定登録届の届出は、科目ごとに指定された次の届出時期で、各学期初めの指定された期間に学務センター教務課へ届け出なければならない。

(1) 入門ゼミⅠの届出は、在籍年数１年以上

(2) 入門ゼミⅡの届出は、在籍年数1.5年以上

4　代替科目指定登録届で届け出た科目以外の科目の修得単位を、代替科目の単位に振り替えることはできない。

**≪2015（平成27）年度以降の入学生適用　広島経済大学演習細則（抜粋）≫**

第13条　代替科目指定登録により、大学入門ゼミ又は興動人入門ゼミの単位を修得する者は、必修科目及び卒業認定の要件とならない科目を除く本学の授業科目のうち単位未修得科目から、代替科目指定登録届により修得する単位数分の科目を申請し、その科目の単位修得をもって振り替えなければならない。

2　履修登録における代替科目の履修単位数は、履修制限単位数に含めて登録するものとする。

3　代替科目指定登録届の届出は、科目ごとに指定された次の届出時期で、各学期初めの指定された期間に学務センター教務課へ届け出なければならない。

(1) 大学入門ゼミの届出は、在籍年数１年以上

(2) 興動人入門ゼミの届出は、在籍年数1.5 年以上

4　代替科目指定登録届で届け出た科目以外の科目の修得単位を、代替科目の単位に振り替えることはできない。

●代替科目指定登録を行う学生は、演習細則を確認の上、学期初めに学務センター教務課へ問い合わせください。

## 4 能力開発科目

### ① 税理士関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 簿記論基礎 | 簿記論Ⅰ | 簿記論の基礎講義 | 前2 | 4 | | | | | | | 派 | 橋本　弘 | 1 | 企業会計実務基礎Ⅰ（簿記論基礎）<br>企業会計実務基礎Ⅰ（４単位）<br>企業会計実務基礎Ⅰ（2単位）<br>企業会計実務基礎Ⅱ（簿記論基礎）<br>企業会計実務基礎Ⅱ（４単位）<br>企業会計実務基礎Ⅱ（2単位） | ・2014（平成26）年度以降の新入生のうち、日商簿記2級以上、全商簿記1級又は全経簿記１級以上の資格取得者で、簿記入門及び初級簿記Ⅰの単位を資格振替により修得した者は、必ずこの科目を履修しなければならない | 抽選 | 40名 |
| 簿記論応用 | 簿記論Ⅱ | 簿記論の応用講義、問題演習 | 後2 | 4 | | | | | | | 派 | 橋本　弘 | 1 | 企業会計実務応用Ⅰ（簿記論応用）<br>企業会計実務応用Ⅰ<br>企業会計実務応用Ⅱ（簿記論応用）<br>企業会計実務応用Ⅱ | | 抽選 | 40名 |
| 財務諸表論基礎 | 財務諸表論Ⅰ | 財務諸表論の基礎講義 | 前2 | 4 | | | | | | | 派 | 橋本　弘 | 1 | 会計理論基礎Ⅰ（財務諸表論基礎）<br>会計理論基礎Ⅰ（４単位）<br>会計理論基礎Ⅰ（2単位）<br>会計理論基礎Ⅱ（財務諸表論基礎）<br>会計理論基礎Ⅱ（4単位）<br>会計理論基礎Ⅱ（2単位） | | 抽選 | 40名 |
| 財務諸表論応用 | 財務諸表論Ⅱ | 財務諸表論の応用講義、問題練習 | 後2 | 4 | | | | | | | 派 | 橋本　弘 | 1 | 会計理論応用Ⅰ（財務諸表論応用）<br>会計理論応用Ⅰ（2単位）<br>会計理論応用Ⅱ（財務諸表論応用）<br>会計理論応用Ⅱ（2単位） | | 抽選 | 40名 |

### ② 社会保険労務士関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ※労働社会保険Ⅰ | 労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、雇用保険法、徴収法 | | 4 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※労働社会保険Ⅱ | 労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、雇用保険法、徴収法 | | 4 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※労働社会保険Ⅲ | 健康保険法、国民年金法、厚生年金保険法、問題演習 | | 4 | | | | | | | | | 3 | 労働社会保険Ⅳ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |

### ③ ファイナンシャル・プランナー（ＡＦＰ）関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 資産運用実務Ⅰ | 暮らしとお金に関する知識を学ぶ～相続・金融・税金・不動産の知識～ | 前2 | 4 | | | | | | | 派<br>派 | 常山　慶三<br>石田　知美 | 2 | | | 抽選 | 50名 |
| | 資産運用実務Ⅱ | 暮らしとお金に関する知識を学ぶ～ライフプラン・保険、提案書作成～ | 後2 | 4 | | | | | | | 派<br>派 | 常山　慶三<br>石田　知美 | 2 | | | 抽選 | 50名 |

### ④ 宅地建物取引士関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 不動産実務法務Ⅰ | 不動産取引の契約、権利関係・その他（民法を日常生活に活用） | 後2 | 4 | | | | | | | 派 | 河口　忠史 | 1 | | | 抽選 | 50名 |
| | 不動産実務法務Ⅱ | 宅建業法（この分野20問の満点攻略法） | 前 | 2 | | | | | | | 派 | 河口　忠史 | 2 | | | 抽選 | 50名 |
| | 不動産実務法務Ⅲ | 不動産の法令上の制限・取引にかかる税や評価その他（もう３点ＵＰ） | 前 | 2 | | | | | | | 派 | 河口　忠史 | 2 | | | 抽選 | 50名 |

⑤　通関士関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ※通関士基本演習 | ポイントマスター編 | | 4 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※通関士実践演習 | 過去問マスター編 | | 4 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |

⑥　ＩＴパスポート関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ＩＴ戦略とマネージメント | | 前２ | 4 | | | | | | | 派 | 土山　ゆかり | 2 | | | 抽選 | 35名 |
| | 情報化技術 | | 後２ | 4 | | | | | | | 派 | 土山　ゆかり | 2 | | | 抽選 | 35名 |

⑦　野村證券㈱提供関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 資本市場の役割と証券投資 | | 前 | 2 | | | | | | | | 糠谷　英輝<br>福居　信幸 | 2 | | | | |

⑧　インターンシップ

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | インターンシップⅠ（国内） | 社会人に求められる素養を、企業研修から学び身につけよう | 前 | 2 | | | | | | a1 | | 岡田　斎 | 2 | | ・2015（平成27）年度以前の入学生対象科目<br>・インターンシップⅠ（国内）への参加を希望する者は、インターンシップⅠ（国内）履修ガイダンスに参加すること。詳細はキャリアセンターへ問い合わせること。<br>・2015（平成27）年度の入学生は、2年次生のみ履修可<br>・2016（平成28）年度以降の入学生で、「インターンシップⅠ（国内）」の履修を希望する者は、キャリア科目の中にある「インターンシップⅠ（国内）」を履修すること。（修得した単位は、自由選択科目の単位として計算） | 選考 | 40名<br>（a1～a5をaクラス、b1～b5をbクラスとし、各クラスの定員を40名とする。） |
| | | | | | | | | | | a2 | | 小笠原　礼以 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a3 | | 高石　哲哉 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a4 | | 堀江　浩司 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a5 | | 宮田　庄悟 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b1 | | 澤　滋久 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b2 | | 藤口　光紀 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b3 | | 松榮　豊貴 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b4 | | 山本　雅昭 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b5 | | 渡辺　勇一 | | | | | |
| | インターンシップⅡ（海外） | 国際的な企業人に求められる素養を、海外企業研修から学び身につけよう | 通 | 4 | | | | | | | | 平本　賢了<br>楊　義申<br>宮畑　加奈子 | 3 | | ・2015（平成27）年度以前の入学生対象科目<br>・インターンシップⅡ（海外）への参加を希望する者は、インターンシップⅡ（海外）履修ガイダンスに参加すること。詳細はキャリアセンターへ問い合わせること<br>・2016（平成28）年度以降の入学生で、「インターンシップⅡ（海外）」の履修を希望する者は、キャリア科目の中にある「インターンシップⅡ（海外）」を履修すること。（修得した単位は、自由選択科目の単位として計算） | 選考 | |

⑨　学校インターンシップ

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | | | | | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備　考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | | | | | | | | |
| | 学校インターンシップ | | | 2 | | | | | | | | | 2 | | ・2016（平成28）年度以降の入学生で、「学校インターンシップ」の履修を希望する者は、キャリア科目の中にある「学校インターンシップ」を履修すること。（修得した単位は、自由選択科目の単位として計算）<br>・教職課程登録者のうち、「教職入門」及び「教育原理」の単位修得者で、「教育実習のためのマナー講習」を受講した者のみ参加できる<br>・単位の認定については、「諸規程集」の頁に掲載の"広島経済大学学校インターンシップ単位認定細則"による<br>・単位を修得した場合、卒業認定の要件として必要な単位に算入する。ただし、教員免許状取得のための要件単位にはならない<br>・学校インターンシップへの参加を希望する者は、学務センター教務課に申し出ること。詳細は、学務センター教務課へ問い合わせること | 選考 | |

⑩　中小企業大学校研修プログラム

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 | | | | | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備　考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | | | | | | | | |
| | 中小企業大学校研修プログラム | | | 1又は2 | | | | | | | | | 2 | | ・受講を許可された者は、本学指定の教員より事前指導2コマ以上、事後指導1コマ以上を受講しなければならない<br>・単位の認定については、「諸規程集」の頁に掲載の"広島経済大学中小企業大学校研修プログラム単位認定細則"による<br>・中小企業大学校研修プログラムへの参加を希望する者は、学務センター教務課に申し出て、審査の上、許可される<br>・詳細は、学務センター教務課へ問い合せること | 選考 | |

**≪履修上の注意事項≫**

能力開発科目の履修登録は、「資本市場の役割と証券投資」を除くすべての科目で担当者の承認が必要である。したがって、それぞれに設定された履修登録説明会に出席の上、履修登録を行うこと。

能力開発科目のうち、「資本市場の役割と証券投資」、「インターンシップ」（2016（平成28）年度以降入学生からはキャリア科目）、「学校インターンシップ」（2016（平成28）年度以降入学生からはキャリア科目）、「中小企業大学校研修プログラム」を除く科目は、授業科目を受講することで資格取得をめざす科目である。また、授業科目として並行して開講される資格取得講座を受講することも可能である。

## 5 キャリア科目

### ① キャリアプランニング関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ※キャリアデザイン入門 | 大学生活のスタートとこれからのキャリア形成 | | 2 | | | | | | | | | 1 | キャリアデザイン入門Ⅰ<br>キャリアデザイン入門Ⅱ<br>キャリアビジョンⅠ<br>キャリアビジョンⅡ<br>エンプロイアビリティⅠ<br>エンプロイアビリティⅡ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※キャリアデザイン基礎 | これからのキャリア形成 | | 2 | | | | | | | | | 1 | | ・1年次生のみ履修可<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | キャリアスキルズⅠ | キャリアデザインを考え、その実現に向けての課題を設定する | 前 | 2 | | | | | | | | 松川 佳洋 | 2 | 自己認識とエンプロイアビリティ育成Ⅰ<br>キャリアデザインⅠ | 2・3年次生のみ履修可 | 抽選 | 125名 |
| | ※キャリアデザインⅡ | キャリアデザインを考え、その実現に向けての課題を設定する | | 2 | | | | | | | | | 2 | 自己認識とエンプロイアビリティ育成Ⅱ | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | キャリアスキルズⅡ | 仕事を選ぶ力をつけよう～様々な仕事、様々な働き方～ | 後 | 2 | | | | | | | | 松川 佳洋 | 2 | | 2・3年次生のみ履修可 | 抽選 | 200名 |
| | ※キャリア実践 | 就職活動にかかわる実践的なノウハウを身につける | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※キャリアデザイン実践 | 就職に必要な事柄の構成要素を知る | | 2 | | | | | | | | | 3 | | ・3年次生のみ履修可<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |

### ② 公務員試験関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ※ Logical Decision 基礎Ⅰ | 論理的思考（ロジカルシンキング）と判断演習基礎Ⅰ<一般知能・教養試験対策> | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※ Logical Decision 基礎Ⅱ | 論理的思考（ロジカルシンキング）と判断演習基礎Ⅱ<一般知能・教養試験対策> | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※ Logical Decision Ⅰ | 論理的思考（ロジカルシンキング）と判断演習発展Ⅰ<一般知能・教養試験対策> | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※ Logical Decision Ⅱ | 論理的思考（ロジカルシンキング）と判断演習発展Ⅱ<一般知能・教養試験対策> | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※政治・社会制度基礎Ⅰ | 政治・経済と社会事情演習Ⅰ<一般知識・専門試験対策> | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※政治・社会制度基礎Ⅱ | 政治・経済と社会事情演習Ⅱ<一般知識・専門試験対策> | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |

### ③ 就職対策試験関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 社会人基礎学力基礎 | 就職筆記試験対策の基礎編。学力の基礎固めと応用力を身につける | 前<br>後 | 2 | | | | | | a<br>b | | 平岡 賢治 | 1 | 社会人基礎学力Ⅱ | | 抽選 | 100名 |
| | 社会人基礎学力応用 | 就職筆記試験対策の応用編。「模擬テスト」と「対策授業」を組み合わせて得点力アップを図る | 前<br>後 | 2 | | | | | | a<br>b | | 平岡 賢治 | 1 | 社会人基礎学力Ⅲ | | 抽選 | 100名 |
| | ※社会人基礎学力Ⅰ | 就職筆記試験対策の導入編。基礎学力の再確認と試験問題に触れる | | 2 | | | | | | | | | 1 | | ・1年次生のみ履修可<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | ※社会人基礎学力Ⅳ | 就職筆記試験対策の活用編。「模擬テスト」と「対策授業」を組み合わせて得点力アップを図る | | 1 | | | | | | | | | 3 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※社会人基礎学力Ⅴ | ＳＰＩ２フォローアップ授業 | | 2 | | | | | | | | | 3 | | 2015（平成28）年度以降は開講なし | | |

### ④ 教員採用試験関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 教職教養 | 教員採用試験の筆記試験に重点をおいた対策授業「教育法規」「教育史」「教育時事」 | 後 | 2 | | | | | | | | 前馬 優策 | 3 | | 教職課程登録者のみ履修可 | | |
| | 思考力開発 | 教員採用試験の中でも特に近年重要視されている“人物試験”対策授業「論作文」「出願書類」「面接」 | 後 | 2 | | | | | | | 派 | 嵐森 裕暢<br>餅川 正雄<br>田中 泉<br>神田 義浩<br>沖田 悟傳 | 3 | | | | |

⑤　女子学生支援関係科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 女子学生のためのキャリア形成入門 | 凛とした女性として活躍するための自分磨き | 前 | 2 | | | | | | | | 木本　一成<br>森山　玲子<br>迫田　奈美子 | 1 | | 女子学生のみ履修可 | | 抽選 | 60名 |

⑥　インターンシップ

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | インターンシップⅠ（国内） | 社会人に求められる素養を、企業研修から学び身につけよう | 前 | 2 | | | | | | a1 | | 岡田　斎 | 2 | | ・2016(平成28)年度以降の入学生対象科目<br>・2年次生のみ履修可<br>・インターンシップⅠ(国内)への参加を希望するものは、インターンシップⅠ（国内）履修ガイダンスに参加すること。詳細はキャリアセンターに問い合わせること。<br>・2015(平成27)年度以前の入学生で「インターンシップⅠ(国内)」の履修を希望するものは、能力開発科目の中にある「インターンシップⅠ(国内)」を履修すること。（履修した単位は自由選択科目の単位として計算。） | 選考 | 40名<br>(a1～a5をaクラス、b1～b5をbクラスとし、各クラスの定員を40名とする。) |
| | | | | | | | | | | a2 | | 小笠原　礼以 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a3 | | 高石　哲弥 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a4 | | 堀江　浩司 | | | | | |
| | | | | | | | | | | a5 | | 宮田　庄悟 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b1 | | 澤　滋久 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b2 | | 藤口　光紀 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b3 | | 松榮　豊貴 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b4 | | 山本　雅昭 | | | | | |
| | | | | | | | | | | b5 | | 渡辺　勇一 | | | | | |
| | インターンシップⅡ（海外） | 国際的な企業人に求められる素養を、海外企業研修から学び身につけよう | 通 | 4 | | | | | | | | 平本　賢了<br>楊　義申<br>宮畑　加奈子 | 3 | | ・2016(平成28)年度以降の入学生対象科目<br>・インターンシップⅡ(海外)への参加を希望するものは、インターンシップⅡ（海外）履修ガイダンスに参加すること。詳細はキャリアセンターに問い合わせること。<br>・2015(平成27)年度以前の入学生で「インターンシップⅡ(海外)」の履修を希望するものは、能力開発科目の中にある「インターンシップⅡ(海外)」を履修すること。（履修した単位は自由選択科目の単位として計算。） | 選考 | |

⑦　学校インターンシップ

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校インターンシップ | | | 2 | | | | | | | | | 2 | | ・2016（平成28）年度以降の入学生対象科目<br>・2015（平成27）年度以前の入学生で、「学校インターンシップ」の履修を希望する者は、能力開発科目の中にある「学校インターンシップ」を履修すること。（修得した単位は、自由選択科目の単位として計算）<br>・教職課程登録者のうち、「教職入門」及び「教育原理」の単位修得者で、「教育実習のためのマナー講習」を受講した者のみ参加できる<br>・単位の認定については、「諸規程集」の頁に掲載の"広島経済大学学校インターンシップ単位認定細則"による<br>・単位を修得した場合、卒業認定の要件として必要な単位に算入する。ただし、教員免許状取得のための要件単位にはならない<br>・学校インターンシップへの参加を希望する者は、学務センター教務課に申し出ること。詳細は、学務センター教務課へ問い合わせること | 選考 | |

## 6 興動館科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 元気力 | わが人生の転機Ⅰ（教職員編） | | 前 | 2 | | | | | | | | 小谷　幸生<br>石田　優子 | 1 | | | 抽選 | 50名 |
| | わが人生の転機Ⅱ（同窓生編） | | 後 | 2 | | | | | | | | 餅川　正雄 | 1 | | | 抽選 | 50名 |
| | 「笑い」のパワー・生きる力 | | 特設(サマー) | 2 | | | | | | | 非<br>非 | 山本　公平<br>矢野　宗宏 | 1 | | | 抽選 | 30名 |
| | ※愛の講座 | | | 2 | | | | | | | | | 1 | 愛の講座<br>愛とマナーの講座 | 2020（令和2）年度以降開講なし | 抽選 | 30名 |
| | 朗読で鍛える自己表現 | | 前 | 2 | | | | | | | | 中村　克洋 | 1 | 個性がはじける朗読 | 2018（平成30）年度以前の入学生対象科目 | 抽選 | 20名 |
| | ※経済の歴史を体感しよう！ | | | 2 | | | | | | | | | 1 | 経済を振り返る<br>経済を振り返って元気になろう | 2019（平成31）年度以降は開講なし | 抽選 | 30名 |
| | 生きがいづくりの作戦会議 | | 後 | 2 | | | | | | | | 中村　克洋 | 1 | | 2018（平成30）年度以前の入学生対象科目 | 抽選 | 30名 |
| | ※未来日記の紙しばい | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | 禅（ＺＥＮ）で元気なこころとからだをつくろう | | 前<br>後 | 2 | | | | | | a<br>b | 非 | 岡本　貞雄<br>安部　貴彦 | 1 | | | 抽選 | 30名 |
| | ライフプラン（人生設計）でやる気づくり | | 前<br>後 | 2 | | | | | | a<br>b | 派 | 倉橋　孝博 | 1 | | | 抽選 | 30名 |
| 企画力 | ※バーチャル株式投資で学ぶ企業分析と経済学 | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2016（平成28）年度以降は開講なし | 抽選 | 30名 |
| | 瀬戸内海地域の魅力を発信しよう | | 前 | 2 | | | | | | | | 濵田　敏彦 | 1 | 瀬戸内海地域の歴史を発信しよう | | 抽選 | 30名 |
| | 企画力養成講座 | | 後 | 2 | | | | | | | | 長谷川　泰志 | 1 | | | 抽選 | 30名 |
| | 経営実践 | | 特設(サマー) | 2 | | | | | | | | 藤原　久嗣 | 1 | | | 抽選 | 30名 |
| | 新読書ナヴィゲータ | | 前 | 2 | | | | | | | | 中村　克洋 | 1 | | 2018（平成30）年度以前の入学生対象科目 | 抽選 | 30名 |
| | みんなで教材を創ろう | | 前 | 2 | | | | | | | 派 | 堀江　清二 | 1 | | | 抽選 | 30名 |
| | プロスポーツによる広島活性化講座 | | 前 | 2 | | | | | | | 派 | 木村　亮平 | 1 | | | 抽選 | 30名 |
| | 「私たちの広島」PR実践 | | 後 | 2 | | | | | | | | 土屋　祐子 | 1 | 「私たちの広島」フォトカルタづくり | | 抽選 | 30名 |
| | 文芸創作実践 | 詩歌や小説を創作、表現技術と感性を磨く | 後 | 2 | | | | | | | | 岡本　恵子 | 1 | 文芸創作の世界<br>文芸創作 | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・2014（平成26）年度以前の入学生で、「文芸創作実践」の履修を希望する者は、共通科目の総合科学科目の中にある「文芸創作実践」を履修すること。（修得した単位は、共通科目の選択科目の単位として計算） | 抽選 | 30名 |
| | コピーライティング実践講座 | | 前 | 2 | | | | | | | | 北野　尚人 | 1 | | | 抽選 | 30名 |
| | 興動館プロジェクトと企画力 | | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 細川　志織 | 1 | | | 抽選 | 30名 |
| | 人の行動を経済学で読み解く | | 後 | 2 | | | | | | | | 得津 康義<br>新垣 繁秀<br>山根 智沙子 | 1 | | 隔年開講 | 抽選 | 30名 |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 行動力 | ビジネス・シミュレーション・ゲーム | | 前 | 2 | | | | | | | 派<br>派<br>派 | 伊豆田　功<br>久保田　浩二<br>金原　光広 | 1 | | 履修者が9名未満の場合は開講しない | 抽選 | 30名 |
| | 身近なボランティア活動 | | 後 | 2 | | | | | | | | 中村　隆行 | 1 | | | 抽選 | 30名 |
| | ※防災まちづくり実践講座 | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2020（令和2）年度以降は開講なし | 抽選 | 30名 |
| | ＮＰＯ・ＮＧＯの立ち上げと活動 | | 前 | 2 | | | | | | | | 中村　隆行 | 1 | | | 抽選 | 30名 |
| | ※まちへ飛び出そう！野外調査のススメ | | | 2 | | | | | | | | | 1 | まちづくりコーディネーター養成講座 | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | 戦略ＭＧ（マネジメントゲーム） | | 前<br>後 | 2 | | | | | | a<br>b | 派 | 松浦　久幸 | 1 | 戦略マネジメントゲーム | | 抽選 | 30名 |
| | ※これからのリーダーシップ | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | ※「国際協力･貢献の視点」を含むグローバル人材育成 | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2017（平成29）年度以降は開講なし | | |
| | ※持続可能性とイノベーション | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | 興動館プロジェクトの計画と実施 | | 前 | 2 | | | | | | | | 中村　隆行 | 1 | | | 抽選 | 30名 |
| | 興動館プロジェクトの評価と改善 | | 後 | 2 | | | | | | | | 中村　隆行 | 1 | | | 抽選 | 30名 |
| | 森の社会貢献実践 | | 特設(サマー) | 2 | | | | | | | 非 | 仲村　正彦 | 1 | | | 抽選 | 30名 |
| | 興動館プロジェクトの経営戦略 | | 後 | 2 | | | | | | | | 中村　隆行 | 1 | | | 抽選 | 30名 |
| 共生力 | 広い世界に飛び出そう | | 後 | 2 | | | | | | | | G. R. ハラダ<br>山本　貴裕 | 1 | | | 抽選 | 30名 |
| | 人を動かすことばと話し方 | | 後 | 2 | | | | | | | | 中村　克洋 | 1 | | 2018（平成30）年度以前の入学生対象科目 | 抽選 | 30名 |
| | ※ビデオブログで「日本」を世界に紹介しよう | | | 2 | | | | | | | | | 1 | 英語のビデオキャストで「日本」を紹介しよう | 2016（平成28）年度以降は開講なし | | |
| | ※楽しく学ぼう！ディベート | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ゲームを通じてグローバル社会を理解しよう | | 後 | 2 | | | | | | | | 広田　堅志 | 1 | | | 抽選 | 30名 |
| | ※人・人間・人間関係 | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | 2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | 仲良くなろうアメリカ大陸　磨こう国際人として | | 後 | 2 | | | | | | | | 徳永　博充 | 1 | | 2018（平成30）年度以前の入学生対象科目 | 抽選 | 30名 |
| | スポーツで学ぶ共生力 | | 前 | 2 | | | | | | | 非 | T. フランク | 1 | | | 抽選 | 30名 |
| | 広島を学ぶ | ヒロシマを歩いて考える | 特設(その他) | 2 | | | | | | | | 岡本　貞雄<br>濵田　敏彦<br>徳永　博充<br>竹林　栄治 | 1 | | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・2014（平成26）年度以前の入学生で、「広島を学ぶ」の履修を希望する者は、共通科目の総合科学科目の中にある「広島を学ぶ」を履修すること。（修得した単位は、共通科目の選択科目の単位として計算）<br>2018（平成30）年度以前の入学生対象科目 | 抽選 | 50名 |
| | コミュニケーション実践 | 相手に届き、相手を動かす音声表現の練習 | 前 | 2 | | | | | | | 非 | 重野　裕美 | 1 | 音声表現演習 | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>・2014（平成26）年度以前の入学生で、「コミュニケーション実践」の履修を希望する者は、共通科目の総合科学科目の中にある「コミュニケーション実践」を履修すること。（修得した単位は、共通科目の選択科目の単位として計算） | 抽選 | 30名 |
| | 広島とハワイで学ぼう！めざせ国際人 | | 前 | 2 | | | | | | | | 田中　泉<br>山本　貴裕 | 1 | 広島とハワイで学ぼう！とびだせ国際人 | | 抽選 | 30名 |
| | 興動館プロジェクトとコミュニケーション | | 後 | 2 | | | | | | | 非 | 志賀　誠治 | 1 | | | 抽選 | 20名 |
| | ユニバーサルデザイン実践 | | 後 | 2 | | | | | | | | 宮地　英和 | 1 | | | 抽選 | 30名 |

**≪履修上の注意事項≫**

●興動館科目の授業の中で、興動館で行われるものについては、本学キャンパスからの移動時間（徒歩15分）なども考慮して、時間割の計画を立てること。

## 7 留学生科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 正規留学生の日本語関係科目 | 日本語A | | 前2 | 2 | | | | | | a | 非<br>非 | 山中　康子<br>佐藤　道雄 | 1 | | 留学生のみ履修可<br>正規留学生は卒業要件外 | | |
| | | | 後2 | | | | | | | b | 非<br>非 | 山中　康子<br>佐藤　道雄 | | | | | |
| | 日本語B | | 前2 | 2 | | | | | | a | 非<br>非 | 坂本　はるえ<br>佐藤　道雄 | 1 | | 留学生のみ履修可<br>正規留学生は卒業要件外 | | |
| | | | 後2 | | | | | | | b | 非<br>非 | 坂本　はるえ<br>佐藤　道雄 | | | | | |
| | 日本語（基礎A） | 聴解・会話 | 前 | 1 | | | | | | | 非 | 山中　康子 | 1 | 日本語Ⅰ | 留学生のみ履修可 | | |
| | 日本語（基礎B） | レポートの書き方① | 前 | 1 | | | | | | | | 宮岡　弥生 | 1 | 日本語Ⅰ | 留学生のみ履修可 | | |
| | 日本語（基礎C） | 文字・語彙・文法 | 前 | 1 | | | | | | | 非 | 家村　伸子 | 1 | | 留学生のみ履修可 | | |
| | 日本語（基礎D） | 長文読解 | 後 | 1 | | | | | | | 非 | 家村　伸子 | 1 | 日本語Ⅱ | 留学生のみ履修可 | | |
| | 日本語（基礎E） | プレゼンテーションの仕方 | 後 | 1 | | | | | | | 非 | 山中　康子 | 1 | 日本語Ⅱ | 留学生のみ履修可 | | |
| | 日本語（基礎F） | レポートの書き方② | 後 | 1 | | | | | | | | 宮岡　弥生 | 1 | | 留学生のみ履修可 | | |
| | ※日本語Ⅲ | | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※日本語Ⅳ | | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※日本語Ⅴ | | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | ※日本語Ⅵ | | | 2 | | | | | | | | | 2 | | 2015（平成27）年度以降は開講なし | | |
| | 日本語（発展A） | 読解 | 前 | 1 | | | | | | | 非 | 家村　伸子 | 2 | | ・留学生のみ履修可<br>・「日本語Ⅲ」又は「日本語Ⅳ」の単位修得者は履修不可 | | |
| | 日本語（発展B） | 聴解 | 前 | 1 | | | | | | | 非 | 山中　康子 | 2 | | ・留学生のみ履修可<br>・「日本語Ⅲ」又は「日本語Ⅳ」の単位修得者は履修不可 | | |
| | 日本語（発展C） | 言語知識 | 前 | 1 | | | | | | | 非 | 坂本　はるえ | 2 | | 留学生のみ履修可 | | |
| | ビジネス日本語A | 聴解・聴読解 | 後 | 1 | | | | | | | 非 | 家村　伸子 | 2 | | ・留学生のみ履修可<br>・「日本語Ⅴ」の単位修得者は履修不可 | | |
| | ビジネス日本語B | 語彙・文法 | 後 | 1 | | | | | | | 非 | 坂本　はるえ | 2 | | ・留学生のみ履修可<br>・「日本語Ⅵ」の単位修得者は履修不可 | | |
| | ビジネス日本語C | 就職活動・ビジネス場面で必要な日本語 | 後 | 1 | | | | | | | 非 | 山中　康子 | 2 | | 留学生のみ履修可 | | |
| | ※日本文化論Ⅰ | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | ・留学生のみ履修可<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | ※日本文化論Ⅱ | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | ・留学生のみ履修可<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| 交換留学生科目 | 日本語と日本文化入門 | | 前2 | 2 | | | | | | a | 非 | 宮岡　弥生<br>林炫情 | 1 | | 交換留学生のみ履修可。但し、「日本語と日本文化」の同時履修及び単位修得者の履修は不可。 | | |
| | | | 後2 | | | | | | | b | | | | | | | |
| | 日本語と日本文化 | | 前2 | 2 | | | | | | a | 非 | 宮岡　弥生<br>林炫情 | 1 | 日本語と日本文化Ⅰ<br>日本語と日本文化Ⅱ | 交換留学生のみ履修可 | | |
| | | | 後2 | | | | | | | b | | | | | | | |
| | 交換留学日本語(初級Ⅰ) | | 前3 | 3 | | | | | | a | 非<br>非 | 宮岡　弥生<br>家村　伸子<br>坂本　はるえ | 1 | 交換留学日本語Ⅰ<br>交換留学日本語Ⅱ<br>交換留学日本語Ⅲ | 交換留学生のみ履修可 | | |
| | | | 後3 | | | | | | | b | | | | | | | |
| | 交換留学日本語(初級Ⅱ) | | 前3 | 3 | | | | | | a | 非<br>非 | 家村　伸子<br>坂本　はるえ | 1 | 交換留学日本語Ⅳ<br>交換留学日本語Ⅴ<br>交換留学日本語Ⅵ | 交換留学生のみ履修可 | | |
| | | | 後3 | | | | | | | b | 非<br>非 | 家村　伸子<br>坂本　はるえ | | | | | |
| | 交換留学日本語（中級） | | 前3 | 3 | | | | | | a | 非<br>非<br>非 | 山中　康子<br>坂本　はるえ<br>家村　伸子 | 1 | 交換留学日本語Ⅶ<br>交換留学日本語Ⅷ<br>交換留学日本語Ⅸ | 交換留学生のみ履修可 | | |
| | | | 後3 | | | | | | | b | | | | | | | |
| | 交換留学日本語（上級AⅠ） | 語彙・文法 | 前 | 1 | | | | | | a | 非 | 坂本　はるえ | 1 | 交換留学日本語Ⅹ | 交換留学生のみ履修可 | | |
| | | | 後 | | | | | | | b | | | | | | | |
| | ※交換留学日本語（上級AⅡ） | 語彙・文法 | | 1 | | | | | | | | | 1 | 交換留学日本語ⅩⅢ | ・交換留学生のみ履修可<br>2020（令和２）年度開講せず | | |
| | 交換留学日本語（上級BⅠ） | 聴解・読解 | 前 | 1 | | | | | | a | 非 | 山中　康子 | 1 | 交換留学日本語ⅩⅠ | 交換留学生のみ履修可 | | |
| | | | 後 | | | | | | | b | | | | | | | |
| | ※交換留学日本語（上級BⅡ） | 聴解・読解 | | 1 | | | | | | | | | 1 | 交換留学日本語ⅩⅣ | ・交換留学生のみ履修可<br>2020（令和２）年度開講せず | | |
| | 交換留学日本語（上級CⅠ） | 会話 | 前 | 1 | | | | | | a | 非 | 坂本　はるえ | 1 | 交換留学日本語ⅩⅡ | 交換留学生のみ履修可 | | |
| | | | 後 | | | | | | | b | | | | | | | |
| | ※交換留学日本語（上級CⅡ） | 会話 | | 1 | | | | | | | | | 1 | 交換留学日本語ⅩⅤ | ・交換留学生のみ履修可<br>2020（令和２）年度開講せず | | |
| | Practical Management Theory for International Students Ⅰ | | 前 | 2 | | | | | | | | G. R. ハラダ | 1 | | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | Practical Management Theory for International Students Ⅱ | | 後 | 2 | | | | | | | | G. R. ハラダ | 1 | | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | ※ Japanese Political Economy Ⅰ | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | ・交換留学生以外は担当教員の承認が必要<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | ※ Japanese Political Economy Ⅱ | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | ・交換留学生以外は担当教員の承認が必要<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | Independent Study Ⅰ | | 前 | 2 | | | | | | | | G. R. ハラダ | 1 | | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | Independent Study Ⅱ | | 後 | 2 | | | | | | | | G. R. ハラダ | 1 | | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | Independent Study Ⅲ | | 前 | 2 | | | | | | | | K. I. ツエ | 1 | | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | Independent Study Ⅳ | | 後 | 2 | | | | | | | | K. I. ツエ | 1 | | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 交換留学生科目 | ※ Japanese Strategic Management Ⅰ | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | ・交換留学生以外は担当教員の承認が必要<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | ※ Japanese Strategic Management Ⅱ | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | ・交換留学生以外は担当教員の承認が必要<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | ※ Cross-cultural Communication | | | 2 | | | | | | | | | 1 | Cross-cultural Communication Ⅰ<br>Cross-cultural Communication Ⅱ | ・交換留学生以外は担当教員の承認が必要<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | Japanese Law and Society Ⅰ | | 前 | 2 | | | | | | | | G. R. ハラダ | 1 | | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | Japanese Law and Society Ⅱ | | 後 | 2 | | | | | | | | G. R. ハラダ | 1 | | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | ※ International Finance Ⅰ | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | ・交換留学生以外は担当教員の承認が必要<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | ※ International Finance Ⅱ | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | ・交換留学生以外は担当教員の承認が必要<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | International Trade | | 前<br>後 | 2 | | | | | | a<br>b | | 宜名眞　勇 | 1 | | ・交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | ※ Japanese International Relations | | | 2 | | | | | | | | | 1 | Japanese International Relations Ⅰ<br>Japanese International Relations Ⅱ | ・交換留学生以外は担当教員の承認が必要<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | Japanese Financial System | | 後 | 2 | | | | | | | | 福居　信幸 | 1 | | 交換留学生以外で履修を希望する者は、経済学科の同科目（3年次配当）を履修すること | | |
| | Japanese Economy | | 前<br>後 | 2 | | | | | | a<br>b | | 宜名眞　勇 | 1 | Japanese Economy Ⅰ<br>Japanese Economy Ⅱ | 交換留学生以外で履修を希望する者は、経済学科の同科目（2年次配当）を履修すること | | |
| | International Economics | | 前<br>後 | 2 | | | | | | a<br>b | 非<br>非 | Ian Bisset<br>Ian Bisset | 1 | | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要（TOEIC500点以上相当の英語能力が必要） | | |
| | Environment and Business | | 前<br>後 | 2 | | | | | | a<br>b | | 田中　章司郎 | 1 | | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | ※ International Management Ⅰ | | | 2 | | | | | | | | | 1 | International Management | ・交換留学生以外は担当教員の承認が必要<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | ※ International Management Ⅱ | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | ・交換留学生以外は担当教員の承認が必要<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | ※ International Education Internship Ⅰ | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | ・交換留学生以外は担当教員の承認が必要<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | ※ International Education Internship Ⅱ | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | ・交換留学生以外は担当教員の承認が必要<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | ※ Inter-cultural Management | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | ・交換留学生以外は担当教員の承認が必要<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | ※ Japanese History and Culture | | | 2 | | | | | | | | | 1 | Japanese History and Culture Ⅰ<br>Japanese History and Culture Ⅱ | ・交換留学生以外は担当教員の承認が必要<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | Theory and Practice of Budo | | 前<br>後 | 2 | | | | | | a<br>b | | G. R. ハラダ<br>M. J. タンコシッチ | 1 | Theory and Practice of Budo Ⅰ<br>Theory and Practice of Budo Ⅱ | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | ※ Japan and Globalization | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | ・交換留学生以外は担当教員の承認が必要<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | ※ International Facility Management | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | ・交換留学生以外は担当教員の承認が必要<br>・2018（平成30）年度以降は開講なし | | |
| | Issues in Contemporary Japan | Demographics, gender, population, and employment | 前<br>後 | 2 | | | | | | a<br>b | | R. フォレスト | 1 | Modern Japanese Popular Film | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | Japan and the Environment | | 前<br>後 | 2 | | | | | | a<br>b | | R. フォレスト | 1 | | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | Study on International Issues and Challenges | Independent Research on UN SDGs | 前<br>後 | 2 | | | | | | a<br>b | | G. R. ハラダ | 1 | | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | Japanese Religion and Culture | A Global Perspective | 前<br>後 | 2 | | | | | | a<br>b | | 山本　貴裕 | 1 | | 交換留学生以外は担当教員の承認が必要 | | |
| | Intercultural Communication | Cultivation of Cultural Competence and Team Building | 後 | 2 | | | | | | | | G. R. ハラダ<br>山本　貴裕 | 1 | | 交換留学生以外で履修を希望する者は、興動館科目の「広い世界に飛び出そう」を履修すること。 | | |

**≪履修上の注意事項≫**

1．2015（平成27）年度以降に入学した正規留学生による日本語関係科目の修得単位の取り扱いは、次のとおりである。

(1)「日本語（基礎Ａ）（１単位）」、「日本語（基礎Ｂ）（１単位）」、「日本語（基礎Ｃ）（１単位）」、「日本語（基礎Ｄ）（１単位）」、「日本語（基礎Ｅ）（１単位）」、「日本語（基礎Ｆ）（１単位）」を修得した場合は、「共通科目」における「外国語科目」の１年次必修科目の単位数（５単位）に充当することができる。
なお、５単位を超えて修得した単位数は、「共通科目」のうち「選択科目」の修得単位数として計算する。

(2)「日本語（発展Ａ）（１単位）」、「日本語（発展Ｂ）（１単位）」、「日本語（発展Ｃ）（１単位）」、「ビジネス日本語Ａ（１単位）」、「ビジネス日本語Ｂ（１単位）」、「ビジネス日本語Ｃ（１単位）」を修得した場合は、「共通科目」における「外国語科目」の２年次必修科目の単位数（１単位）及び２年次選択必修科目の単位数（２単位）の合計単位数（３単位）に充当することができる。なお、３単位を超えて修得した単位数は、「共通科目」のうち「選択科目」の修得単位数として計算する。

(3)「日本文化論Ⅰ（２単位）」、「日本文化論Ⅱ（２単位）」を修得したときは、「共通科目」のうち「選択科目」の修得単位数として計算する。

2．2014（平成26）年度以前に入学した正規留学生による日本語関係科目の修得単位の取り扱いは、次のとおりである。

(1)「日本語Ⅰ（２単位）」、「日本語Ⅱ（２単位）」、「日本文化論Ⅰ」又は「日本文化論Ⅱ」の単位を修得した場合は、「共通科目」における「外国語科目」の卒業認定の要件単位数（6単位）の単位として算入する。
ただし、「日本語Ⅰ（２単位）」の単位未修得者は、「日本語（基礎Ａ）（１単位）」及び「日本語（基礎Ｂ）（１単位）」を、「日本語Ⅱ（２単位）」の単位未修得者は、「日本語（基礎Ｄ）（１単位）」及び「日本語（基礎Ｅ）（１単位）」の単位を修得した場合、「共通科目」における「外国語科目」の卒業認定要件単位数（２単位）の単位として算入する。

(2)「日本語Ⅲ（２単位）」、「日本語Ⅳ（２単位）」、「日本語Ⅴ（２単位）」、「日本語Ⅵ（２単位）」、「日本語（基礎Ｃ）（１単位）」、「日本語（基礎Ｆ）（１単位）」、「日本語（発展Ａ）（１単位）」、「日本語（発展Ｂ）（１単位）」、「日本語（発展Ｃ）（１単位）」、「ビジネス日本語Ａ（１単位）」、「ビジネス日本語Ｂ（１単位）」、「ビジネス日本語Ｃ（１単位）」の単位を修得した場合は、「共通科目」における「選択科目」の単位数として算入する。

(3)「日本語Ａ」及び「日本語Ｂ」については、単位を修得しても卒業認定の要件として必要な単位に含まない。

3．交換留学生科目のうち「交換留学日本語（初級Ⅰ・Ⅱ）」、「交換留学日本語（中級）」、「交換留学日本語（上級ＡⅠ・Ⅱ）」、「交換留学日本語（上級ＢⅠ・Ⅱ）」、「交換留学日本語（上級ＣⅠ・Ⅱ）」、「日本語と日本文化入門」及び「日本語と日本文化」以外の科目は、交換留学生以外の学部生（日本人学生を含む）も履修することができる。ただし、履修を希望する者は、第１回目の授業に出席し、担当教員の承認を受けることが必要である。なお、当該単位を修得した場合は、「自由選択科目」の単位として算入する。

## 8 教職に関する科目

| 区分 | 授業科目 | 副題 | 授業タイプ | 単位 | 履修区分 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014以前 | クラス | 非 | 授業担当者 | 配当年次 | 旧科目名 | 備考（履修条件） | 抽選・選考科目 | 1クラス当たりの履修定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教職に関する科目 | 教職入門 | | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | a | | 胤森　裕暢<br>前馬　優策 | 1 | | | | |
| | | | 後 | | | | | | | b | | 胤森　裕暢<br>前馬　優策 | | | | | |
| | 教育原理 | | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | b | | 前馬　優策 | 1 | | 「教職入門」の単位修得者のみ履修可 | | |
| | | | 後 | | | | | | | a | | 前馬　優策 | | | | | |
| | 教育心理学Ⅰ | | 後 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | 神田　義浩 | 1 | | | | |
| | 教育心理学Ⅱ | | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | 神田　義浩 | 2 | | | | |
| | 教育制度論 | | 後 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 非 | 岡本　徹 | 2 | | | | |
| | ※教育課程論 | | | 2 | | | | | ◎<br>※<br>2013以前 | | | | 2 | | ・2013（H25）年度以前の入学生対象科目<br>・2016（H28）年度以降は開講なし | | |
| | 中学社会科教育法Ⅰ | | 前 | 2 | 中 | 中 | 中 | 中 | 中 | | | 胤森　裕暢 | 2 | 中学社会科教育法 | | | |
| | 中学社会科教育法Ⅱ | | 後 | 2 | 中 | 中 | 中 | 中 | 中 | | | 田中　泉 | 2 | | | | |
| | 社会・地理歴史科教育法 | | 後 | 2 | 中<br>地 | 中<br>地 | 中<br>地 | 中<br>地 | 中<br>地 | | | 田中　泉 | 3 | | | | |
| | 社会・公民科教育法 | | 前 | 2 | 中<br>公 | 中<br>公 | 中<br>公 | 中<br>公 | 中<br>公 | | | 胤森　裕暢 | 3 | | | | |
| | 地理歴史科教育法 | | 前 | 2 | 地 | 地 | 地 | 地 | 地 | | | 田中　泉 | 3 | | | | |
| | 公民科教育法 | | 後 | 2 | 公 | 公 | 公 | 公 | 公 | | | 胤森　裕暢 | 3 | | | | |
| | 商業科教育法Ⅰ | | 前 | 2 | 商 | 商 | 商 | 商 | 商 | | | 餅川　正雄 | 3 | | | | |
| | 商業科教育法Ⅱ | | 後 | 2 | 商 | 商 | 商 | 商 | 商 | | | 餅川　正雄 | 3 | | | | |
| | 情報科教育法Ⅰ | 共通教科「情報」の教育目標等を学ぶ | 前 | 2 | 情 | 情 | 情 | 情 | ▲<br>情 | | 非 | 梶川　正 | 3 | | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>▲2014（平成26）年度以前の入学生で、「情報科教育法Ⅰ」の履修を希望する者は、ビジネス情報学科の中にある「情報科教育法Ⅰ」を履修すること | | |
| | 情報科教育法Ⅱ | 専門教科「情報」の教育目標等を学ぶ | 後 | 2 | 情 | 情 | 情 | 情 | ▲<br>情 | | 非 | 梶川　正 | 3 | | ・2015（平成27）年度以降の入学生対象科目<br>▲2014（平成26）年度以前の入学生で、「情報科教育法Ⅱ」の履修を希望する者は、ビジネス情報学科の中にある「情報科教育法Ⅱ」を履修すること | | |
| | 道徳教育指導法 | | 後 | 2 | 中 | 中 | 中 | 中 | 中 | | | 胤森　裕暢 | 2 | 道徳教育指導法 | 2010（平成22）年度以降の入学生のうち、高校一種免許状を取得しようとする者が「道徳教育指導法」の単位を修得した場合は、「教科又は教職に関する科目」の単位とする。 | | |
| | 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 | | 後 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 非 | 山田　浩之 | 3 | 特別活動指導法 | | | |
| | 教育方法学（教育課程論を含む） | | 後 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | 非 | 西森　章子 | 2 | 教育方法学 | | | |
| | 生徒・進路指導論 | | 前 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | 餅川　正雄 | 2 | 生徒指導 | | | |
| | 教育相談 | | 後 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | 上手　幸治 | 2 | | | | |
| | 教育実習Ⅰ | 事前事後指導 | 特設<br>(その他) | 1 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | 餅川　正雄<br>神田　義浩<br>田中　泉<br>胤森　裕暢<br>前馬　優策 | 3・4 | | ※3年次後期及び4年次通年の継続履修科目とする。なお、単位認定は4年次後期のみとする。 | | |
| | 教育実習Ⅱ | 中免、中・高免 | 特設<br>(その他) | 4 | 中<br>(地公) | 中<br>(地公) | 中<br>(地公) | 中<br>(地公) | 中<br>(地公) | | | 胤森　裕暢<br>田中　泉<br>餅川　正雄<br>神田　義浩<br>前馬　優策 | 4 | | | | |
| | 教育実習Ⅲ | 高免 | 特設<br>(その他) | 2 | 地公<br>商情 | 地公<br>商情 | 地公<br>商情 | 地公<br>商情 | 地公<br>商情 | | | 田中　泉<br>餅川　正雄<br>胤森　裕暢<br>神田　義浩<br>前馬　優策 | 4 | | | | |
| | 教職実践演習（中･高） | | 後 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | 胤森　裕暢 | 4 | | 教育実習を履修中又は単位修得者のみ履修可 | | |

〔履修区分欄〕 ◎……必修科目
地……高校・地理歴史科（免許教科）に関して必修
商……高校・商業科（免許教科）に関して必修
中……中学・社会科（免許教科）に関して必修
公……高校・公民科（免許教科）に関して必修
情……高校・情報科（免許教科）に関して必修

**≪履修上の注意事項≫**

教職課程科目の履修に際しては、「教職課程登録届」を提出し、受理された者のみ履修できる。
教職課程登録者が教職に関する科目を履修又は再履修する場合は、その単位数は履修制限単位数には含まない。
教職に関する科目の修得単位数は、卒業認定の要件として必要な単位には含まない。

教育職員免許状の取得、教職課程科目などの履修に関しては、別冊『教職課程ガイドブック』を参照すること。

## ●卒業認定の要件表

### 【経済学科】2015(平成27)年度以降入学生（進級要件あり⇒◢進級要件科目・単位）

**卒業認定の要件として必要な単位数の総計 124 以上**

**共通科目 30 以上**

■必修科目 8

1年
- ◢必修英語ＡⅠ・必修英語ＡⅡ（計2単位）
- ◢必修英語ＢⅠ・必修英語ＢⅡ（計2単位）
- ◢必修英語ＣⅠ（１単位）
- ⊿日本語文章表現（２単位）

2年
- ◢必修英語ＣⅡ（１単位）

→外国人留学生の単位の取扱いは、「教育課程（カリキュラム）7 留学生科目」のページを参照。

■選択必修科目 14 以上

- ⊿英語（理解系・表現系）（計2単位）
- ⊿自己理解系科目　（計６単位）
- ⊿他者理解系科目　（計６単位）

■選択科目 8 以上

※「選択必修科目」で必要単位数を超えて修得した単位数を含む。

※◢進級要件科目の６単位中４単位以上の修得が進級認定要件となる。

**経済学科科目 54 以上**

■必修科目 10

1年
- ⊿経済入門（２単位）
- ⊿経営入門（２単位）
- ⊿ファイナンス入門（２単位）

2年
- ⊿ミクロ経済学基礎Ⅰ（２単位）
- ⊿マクロ経済学基礎Ⅰ（２単位）

■選択科目 44 以上

**自由選択科目 24 以上**

- 他学科科目
- キャリア科目
- 能力開発科目
- 興動館科目
- 交換留学生科目（日本語科目を除く）
- 単位互換科目
- 語学留学振替単位
- 『経済学科科目』の資格関連科目

＋

- 共通科目
- 経済学科科目

上記の「選択科目」で必要単位数を超えて修得した単位数。

**ゼミ科目 16**

■必修科目

1年
- ◢大学入門ゼミ（２単位）
- ◢興動人入門ゼミ（２単位）

2年
- ◢プレゼミ（２単位）

3年
- ⊿演習Ⅰ（４単位）

4年
- ⊿演習Ⅱ（６単位）

※共通科目、自学科科目、自由選択科目については、交換留学プログラムによる臨時の授業科目が含まれる場合あり

## 【経済学科】2014（平成26）年度入学生（進級要件あり⇒◢進級要件科目・単位）

**卒業認定の要件として必要な単位数の総計** 124 以上

### 共通科目 30 以上

**■必修科目** 6

◢英語ＡⅠ・英語ＡⅡ（計２単位）
◢英語ＢⅠ・英語ＢⅡ（計２単位）
⊿日本語文章表現（２単位）

→外国人留学生の単位の取扱いは、「教育課程（カリキュラム）7 留学生科目」のページを参照。

**■選択必修科目** 2 以上

⊿外国語の選択必修科目（計２単位）
下記のいずれかで計２単位の修得が必要です。
・英語の選択必修科目（計２単位）
・第二外国語（同一の外国語でⅠ及びⅡ）の選択必修科目（計２単位）

**■選択科目** 22 以上

※「選択必修科目」で必要単位数を超えて修得した単位数を含む。

### 経済学科科目 54 以上

**■必修科目** 10

1年
⊿経済入門（２単位）
⊿経営入門（２単位）
⊿ファイナンス入門（２単位）

2年
⊿ミクロ経済学基礎Ⅰ（２単位）
⊿マクロ経済学基礎Ⅰ（２単位）

**■選択科目** 44 以上

### 自由選択科目 24 以上

・他学科科目
・キャリア科目
・能力開発科目
・興動館科目
・交換留学生科目（日本語科目を除く）
・単位互換科目
・語学留学振替単位
・『経済学科科目』の資格関連科目

＋

・共通科目
・経済学科科目

上記の「選択科目」で必要単位数を超えて修得した単位数。

### ゼミ科目 16

**■必修科目**

1年
◢入門ゼミⅠ（２単位）
◢入門ゼミⅡ（２単位）

2年
◢プレゼミ（２単位）

3年
⊿演習Ⅰ（４単位）

4年
⊿演習Ⅱ（６単位）

※共通科目、自学科科目、自由選択科目については、交換留学プログラムによる臨時の授業科目が含まれる場合あり

## 【経済学科】2013(平成25) 年度入学生

**卒業認定の要件として必要な単位数の総計** 124 以上

### 共通科目 30 以上

**■必修科目 6**

⊿英語ＡⅠ・英語ＡⅡ（計２単位）
⊿英語ＢⅠ・英語ＢⅡ（計２単位）
⊿日本語文章表現（２単位）

→外国人留学生の単位の取扱いは、「教育課程（カリキュラム）7 留学生科目」のページを参照。

**■選択必修科目 2 以上**

⊿外国語の選択必修科目（計２単位）
下記のいずれかで計２単位の修得が必要です。
・英語の選択必修科目（計２単位）
・第二外国語（同一の外国語でⅠ及びⅡ）の選択必修科目（計２単位）

**■選択科目 22 以上**

※「選択必修科目」で必要単位数を超えて修得した単位数を含む。

### 経済学科科目 40 以上

**■必修科目 14**

1年
⊿経済入門（２単位）
⊿経営入門（２単位）
⊿ファイナンス入門（２単位）
⊿情報処理入門Ⅰ（２単位）
⊿情報処理入門Ⅱ（２単位）

2年
⊿ミクロ経済学基礎Ⅰ（２単位）
⊿マクロ経済学基礎Ⅰ（２単位）

**■選択科目 26 以上**

### 自由選択科目 38 以上

・他学科科目
・キャリア科目
・能力開発科目
・興動館科目
・交換留学生科目（日本語科目を除く）
・単位互換科目
・語学留学振替単位
・『経済学科科目』の資格関連科目

＋

・共通科目
・経済学科科目

上記の「選択科目」で必要単位数を超えて修得した単位数。

### ゼミ科目 16

**■必修科目**

1年
⊿入門ゼミⅠ（２単位）
⊿入門ゼミⅡ（２単位）

3年
⊿演習Ⅰ（４単位）

4年
⊿演習Ⅱ（８単位）

※共通科目、自学科科目、自由選択科目については、交換留学プログラムによる臨時の授業科目が含まれる場合あり

## 【経済学科】2012(平成24) 年度入学生

**卒業認定の要件として必要な単位数の総計** 124 以上

### 共通科目 30 以上

**■必修科目** 4

⊿英語ＡⅠ・英語ＡⅡ（計２単位）
⊿英語ＢⅠ・英語ＢⅡ（計２単位）

→外国人留学生の単位の取扱いは、「教育課程（カリキュラム）7 留学生科目」のページを参照。

**■選択必修科目** 2 以上

⊿外国語の選択必修科目（計２単位）
下記のいずれかで計２単位の修得が必要です。
・英語の選択必修科目（計２単位）
・第二外国語（同一の外国語でⅠ及びⅡ）の選択必修科目（計２単位）

**■選択科目** 24 以上

※１年次履修登録必修科目の**日本語文章表現（２単位）**を含む。

※「選択必修科目」で必要単位数を超えて修得した単位数を含む。

### 経済学科科目 40 以上

**■必修科目** 14

1年
⊿経済入門（２単位）
⊿経営入門（２単位）
⊿ファイナンス入門（２単位）
⊿情報処理入門Ⅰ（２単位）
⊿情報処理入門Ⅱ（２単位）

2年
⊿ミクロ経済学基礎Ⅰ（２単位）
⊿マクロ経済学基礎Ⅰ（２単位）

**■選択科目** 26 以上

### 自由選択科目 38 以上

・他学科科目
・キャリア科目
・能力開発科目
・興動館科目
・交換留学生科目（日本語科目を除く）
・単位互換科目
・語学留学振替単位
・『経済学科科目』の資格関連科目

＋

・共通科目
・経済学科科目

上記の「選択科目」で必要単位数を超えて修得した単位数。

### ゼミ科目 16

**■必修科目**

1年
⊿入門ゼミⅠ（２単位）
⊿入門ゼミⅡ（２単位）

3年
⊿演習Ⅰ（４単位）

4年
⊿演習Ⅱ（８単位）

※共通科目、自学科科目、自由選択科目については、交換留学プログラムによる臨時の授業科目が含まれる場合あり

## 【経営学科】2015(平成27)年度以降入学生（進級要件あり⇒◢進級要件科目・単位）

**卒業認定の要件として必要な単位数の総計** 124 以上

### 共通科目 30 以上

**■必修科目** 8

1年
- ◢必修英語ＡⅠ・必修英語ＡⅡ（計2単位）
- ◢必修英語ＢⅠ・必修英語ＢⅡ（計2単位）
- ◢必修英語ＣⅠ（1単位）
- ⊿日本語文章表現（2単位）

2年
- ◢必修英語ＣⅡ（１単位）

→外国人留学生の単位の取扱いは、「教育課程（カリキュラム）7 留学生科目」のページを参照。

**■選択必修科目** 14 以上

- ⊿英語（理解系・表現系）（計2単位）
- ⊿自己理解系科目　（計６単位）
- ⊿他者理解系科目　（計６単位）

**■選択科目** 8 以上

※「選択必修科目」で必要単位数を超えて修得した単位数を含む。

※◢進級要件科目の６単位中４単位以上の修得が進級認定要件となる。

### 経営学科科目 54 以上

**■必修科目** 10

1年
- ⊿経済入門（２単位）
- ⊿経営入門（２単位）
- ⊿簿記入門（２単位）
- ⊿簿記３級Ⅰ（２単位）〔初級簿記Ⅰ（２単位）　H31～〕
- ⊿経営学概論（２単位）

**■選択科目** 44 以上

### 自由選択科目 24 以上

- 他学科科目
- キャリア科目
- 能力開発科目
- 興動館科目
- 交換留学生科目（日本語科目を除く）
- 単位互換科目
- 語学留学振替単位
- 『経営学科科目』の資格関連科目

＋

- 共通科目
- 経営学科科目

上記の「選択科目」で必要単位数を超えて修得した単位数。

### ゼミ科目 16

**■必修科目**

1年
- ◢大学入門ゼミ（２単位）
- ◢興動人入門ゼミ（２単位）

2年
- ◢プレゼミ（２単位）

3年
- ⊿演習Ⅰ（４単位）

4年
- ⊿演習Ⅱ（６単位）

※共通科目、自学科科目、自由選択科目については、交換留学プログラムによる臨時の授業科目が含まれる場合あり

## 【経営学科】2014(平成26)年度入学生（進級要件あり⇒◢進級要件科目・単位）

**卒業認定の要件として必要な単位数の総計 124 以上**

### 共通科目 30 以上

**■必修科目 6**

◢英語ＡⅠ・英語ＡⅡ（計２単位）
◢英語ＢⅠ・英語ＢⅡ（計２単位）
◿日本語文章表現（２単位）

→外国人留学生の単位の取扱いは、「教育課程（カリキュラム）7 留学生科目」のページを参照。

**■選択必修科目 2 以上**

◿外国語の選択必修科目（計２単位）
下記のいずれかで計２単位の修得が必要です。
・英語の選択必修科目（計２単位）
・第二外国語（同一の外国語でⅠ及びⅡ）の選択必修科目（計２単位）

**■選択科目 22 以上**

※「選択必修科目」で必要単位数を超えて修得した単位数を含む。

### 経営学科科目 54 以上

**■必修科目 10**

1年
◿経済入門（２単位）
◿経営入門（２単位）
◿簿記入門（２単位）
◿簿記３級Ⅰ（２単位）
〔初級簿記Ⅰ（２単位） H31～〕
◿マーケティング入門（２単位）

**■選択科目 44 以上**

### 自由選択科目 24 以上

・他学科科目
・キャリア科目
・能力開発科目
・興動館科目
・交換留学生科目（日本語科目を除く）
・単位互換科目
・語学留学振替単位
・『経営学科科目』の資格関連科目

＋

・共通科目
・経営学科科目

上記の「選択科目」で必要単位数を超えて修得した単位数。

### ゼミ科目 16

**■必修科目**

1年
◢入門ゼミⅠ（２単位）
◢入門ゼミⅡ（２単位）

2年
◢プレゼミ（２単位）

3年
◿演習Ⅰ（４単位）

4年
◿演習Ⅱ（６単位）

※共通科目、自学科科目、自由選択科目については、交換留学プログラムによる臨時の授業科目が含まれる場合あり

## 【経営学科】2013(平成25)年度入学生

**卒業認定の要件として必要な単位数の総計 124 以上**

### 共通科目 30 以上

**■必修科目 6**

⊿英語ＡⅠ・英語ＡⅡ（計２単位）
⊿英語ＢⅠ・英語ＢⅡ（計２単位）
⊿日本語文章表現（２単位）

→外国人留学生の単位の取扱いは、「教育課程（カリキュラム）7 留学生科目」のページを参照。

**■選択必修科目 2 以上**

⊿外国語の選択必修科目（計２単位）
下記のいずれかで計２単位の修得が必要です。
・英語の選択必修科目（計２単位）
・第二外国語（同一の外国語でⅠ及びⅡ）の選択必修科目（計２単位）

**■選択科目 22 以上**

※「選択必修科目」で必要単位数を超えて修得した単位数を含む。

### 経営学科科目 40 以上

**■必修科目 14**

1年
⊿経済入門（２単位）
⊿経営入門（２単位）
⊿簿記原理Ⅰ（入門）（２単位）
〔簿記入門（２単位）H26～〕
⊿簿記演習Ⅰ（入門）（２単位）
⊿情報処理入門Ⅰ（２単位）
⊿情報処理入門Ⅱ（２単位）

2年
⊿マーケティング入門（２単位）

**■選択科目 26 以上**

### 自由選択科目 38 以上

・他学科科目
・キャリア科目
・能力開発科目
・興動館科目
・交換留学生科目（日本語科目を除く）
・単位互換科目
・語学留学振替単位
・『経営学科科目』の資格関連科目

＋

・共通科目
・経営学科科目

上記の「選択科目」で必要単位数を超えて修得した単位数。

### ゼミ科目 16

**■必修科目**

1年
⊿入門ゼミⅠ（２単位）
⊿入門ゼミⅡ（２単位）

3年
⊿演習Ⅰ（４単位）

4年
⊿演習Ⅱ（８単位）

※共通科目、自学科科目、自由選択科目については、交換留学プログラムによる臨時の授業科目が含まれる場合あり

## 【ビジネス情報学科】2015(平成27)年度以降入学生（進級要件あり⇒◢進級要件科目・単位）

**卒業認定の要件として必要な単位数の総計** 124 以上

### 共通科目 30 以上

**■必修科目** 8

1年
- ◢必修英語ＡⅠ・必修英語ＡⅡ（計2単位）
- ◢必修英語ＢⅠ・必修英語ＢⅡ（計2単位）
- ◢必修英語ＣⅠ（1単位）
- ⊿日本語文章表現（2単位）

2年
- ◢必修英語ＣⅡ（１単位）

→外国人留学生の単位の取扱いは、「教育課程（カリキュラム）7 留学生科目」のページを参照。

**■選択必修科目** 14 以上

- ⊿英語（理解系・表現系）（計2単位）
- ⊿自己理解系科目　（計６単位）
- ⊿他者理解系科目　（計６単位）

**■選択科目** 8 以上

※「選択必修科目」で必要単位数を超えて修得した単位数を含む。

※◢進級要件科目の６単位中４単位以上の修得が進級認定要件となる。

### ビジネス情報学科科目 54 以上

**■必修科目** 12

1年
- ⊿経済入門（２単位）
- ⊿経営入門（２単位）
- ⊿ビジネス情報入門（２単位）
- ⊿情報入門演習Ｓ（２単位）
- ⊿ビジネス概論（２単位）

2年
- ⊿ビジネス情報入門ゼミ（2単位）

**■選択科目** 42 以上

### 自由選択科目 24 以上

- 他学科科目
- キャリア科目
- 能力開発科目
- 興動館科目
- 交換留学生科目（日本語科目を除く）
- 単位互換科目
- 語学留学振替単位

＋

- 共通科目
- ビジネス情報学科科目

上記の「選択科目」で必要単位数を超えて修得した単位数。

### ゼミ科目 16

**■必修科目**

1年
- ◢大学入門ゼミ（２単位）
- ◢興動人入門ゼミ（２単位）

2年
- ◢プレゼミ（２単位）

3年
- ⊿演習Ⅰ（４単位）

4年
- ⊿演習Ⅱ（６単位）

※共通科目、自学科科目、自由選択科目については、交換留学プログラムによる臨時の授業科目が含まれる場合あり

## 【ビジネス情報学科】2014(平成26)年度入学生（進級要件あり⇒◢進級要件科目・単位）

**卒業認定の要件として必要な単位数の総計 124 以上**

### 共通科目 30 以上

**■必修科目 6**

◢英語ＡⅠ・英語ＡⅡ（計２単位）
◢英語ＢⅠ・英語ＢⅡ（計２単位）
⊿日本語文章表現（２単位）

→外国人留学生の単位の取扱いは、「教育課程（カリキュラム）7 留学生科目」のページを参照。

**■選択必修科目 2 以上**

⊿外国語の選択必修科目（計２単位）
下記のいずれかで計２単位の修得が必要です。
・英語の選択必修科目（計２単位）
・第二外国語（同一の外国語でⅠ及びⅡ）の選択必修科目（計２単位）

**■選択科目 22 以上**

※「選択必修科目」で必要単位数を超えて修得した単位数を含む。

### ビジネス情報学科科目 54 以上

**■必修科目 14**

1年
⊿経済入門（２単位）
⊿経営入門（２単位）
⊿ビジネス情報入門（２単位）
⊿情報入門演習Ｓ（２単位）
⊿情報入門演習Ａ（２単位）
⊿情報入門演習Ｂ（２単位）
⊿ビジネス概論（２単位）

**■選択科目 40 以上**

### 自由選択科目 24 以上

・他学科科目
・キャリア科目
・能力開発科目
・興動館科目
・交換留学生科目（日本語科目を除く）
・単位互換科目
・語学留学振替単位

＋

・共通科目
・ビジネス情報学科科目

上記の「選択科目」で必要単位数を超えて修得した単位数。

### ゼミ科目 16

**■必修科目**

1年
◢入門ゼミⅠ（２単位）
◢入門ゼミⅡ（２単位）

2年
◢プレゼミ（２単位）

3年
⊿演習Ⅰ（４単位）

4年
⊿演習Ⅱ（６単位）

※共通科目、自学科科目、自由選択科目については、交換留学プログラムによる臨時の授業科目が含まれる場合あり

## 【ビジネス情報学科】2013(平成25)年度入学生

**卒業認定の要件として必要な単位数の総計** 124 以上

### 共通科目 30 以上

**■必修科目** 6

⊿英語ＡⅠ・英語ＡⅡ（計２単位）
⊿英語ＢⅠ・英語ＢⅡ（計２単位）
⊿日本語文章表現（２単位）

→外国人留学生の単位の取扱いは、「教育課程（カリキュラム）7 留学生科目」のページを参照。

**■選択必修科目** 2 以上

⊿外国語の選択必修科目（計２単位）
下記のいずれかで計２単位の修得が必要です。
・英語の選択必修科目（計２単位）
・第二外国語（同一の外国語でⅠ及びⅡ）の選択必修科目（計２単位）

**■選択科目** 22 以上

※「選択必修科目」で必要単位数を超えて修得した単位数を含む。

### ビジネス情報学科科目 52 以上

**■必修科目** 26

1年
⊿経済入門（２単位）
⊿経営入門（２単位）
⊿ビジネス情報入門（２単位）
⊿情報入門演習Ｓ（２単位）
⊿情報入門演習Ａ（２単位）
⊿情報入門演習Ｂ（２単位）
⊿ビジネス概論（２単位）

2年
⊿※グループ演習（４単位）
※グループ演習は、平成27年度より未開講となったため、単位未修得者は代替科目指定登録制度を利用すること。

3年
⊿卒業研究Ⅰ（３年）（４単位）

4年
⊿卒業研究Ⅱ（４年）（４単位）

**■選択科目** 26 以上

### 自由選択科目 38 以上

・他学科科目
・キャリア科目
・能力開発科目
・興動館科目
・交換留学生科目（日本語科目を除く）
・単位互換科目
・語学留学振替単位

＋

・共通科目
・ビジネス情報学科科目

上記の「選択科目」で必要単位数を超えて修得した単位数。

### ゼミ科目 4

**■必修科目**

1年
⊿入門ゼミⅠ（２単位）
⊿入門ゼミⅡ（２単位）

※共通科目、自学科科目、自由選択科目については、交換留学プログラムによる臨時の授業科目が含まれる場合あり

## 【メディアビジネス学科】2015(平成27)年度以降入学生（進級要件あり⇒◢進級要件科目・単位）

**卒業認定の要件として必要な単位数の総計** 124 以上

### 共通科目 30 以上

**■必修科目** 8

1年
- ◢必修英語ＡⅠ・必修英語ＡⅡ（計2単位）
- ◢必修英語ＢⅠ・必修英語ＢⅡ（計2単位）
- ◢必修英語ＣⅠ（1単位）
- ⊿日本語文章表現（2単位）

2年
- ◢必修英語ＣⅡ（１単位）

→外国人留学生の単位の取扱いは、「教育課程（カリキュラム）7 留学生科目」のページを参照。

**■選択必修科目** 14 以上

- ⊿英語（理解系・表現系）（計2単位）
- ⊿自己理解系科目　（計６単位）
- ⊿他者理解系科目　（計６単位）

**■選択科目** 8 以上

※「選択必修科目」で必要単位数を超えて修得した単位数を含む。

※◢進級要件科目の６単位中４単位以上の修得が進級認定要件となる。

### メディアビジネス学科科目 54 以上

**■必修科目** 12

1年
- ⊿経済入門（２単位）
- ⊿経営入門（２単位）
- ⊿メディアビジネス入門（２単位）
- ⊿メディア・マーケティング論（２単位）

2年
- ⊿メディア論（２単位）
- ⊿コミュニケーション論（２単位）

**■選択科目** 42 以上

### 自由選択科目 24 以上

- 他学科科目
- キャリア科目
- 能力開発科目
- 興動館科目
- 交換留学生科目（日本語科目を除く）
- 単位互換科目
- 語学留学振替単位

＋

- 共通科目
- メディアビジネス学科科目

上記の「選択科目」で必要単位数を超えて修得した単位数。

### ゼミ科目 16

**■必修科目**

1年
- ◢大学入門ゼミ（２単位）
- ◢興動人入門ゼミ（２単位）

2年
- ◢プレゼミ（２単位）

3年
- ⊿演習Ⅰ（４単位）

4年
- ⊿演習Ⅱ（６単位）

※共通科目、自学科科目、自由選択科目については、交換留学プログラムによる臨時の授業科目が含まれる場合あり

## 【メディアビジネス学科】2014(平成26)年度入学生（進級要件あり⇒◢進級要件科目・単位）

**卒業認定の要件として必要な単位数の総計 124 以上**

### 共通科目 30 以上

**■必修科目 6**

◢英語ＡⅠ・英語ＡⅡ（計２単位）
◢英語ＢⅠ・英語ＢⅡ（計２単位）
◿日本語文章表現（２単位）

→外国人留学生の単位の取扱いは、「教育課程（カリキュラム）7 留学生科目」のページを参照。

**■選択必修科目 2 以上**

◿外国語の選択必修科目（計２単位）
下記のいずれかで計２単位の修得が必要です。
・英語の選択必修科目（計２単位）
・第二外国語（同一の外国語でⅠ及びⅡ）の選択必修科目（計２単位）

**■選択科目 22 以上**

※「選択必修科目」で必要単位数を超えて修得した単位数を含む。

### メディアビジネス学科科目 54 以上

**■必修科目 20**

1年
◿経済入門（２単位）
◿経営入門（２単位）
◿メディアビジネス入門（２単位）
◿メディア・マーケティング論（２単位）
◿情報基礎演習Ⅰ（２単位）
〔情報処理入門Ⅰ（２単位） H27～〕
◿情報基礎演習Ⅱ（２単位）
〔情報処理入門Ⅱ（２単位） H27～〕
◿デジタルメディア基礎Ⅰ（２単位）
〔映像メディア論（２単位） H27～〕
◿デジタルメディア基礎Ⅱ（２単位）
〔音声メディア論（２単位） H27～〕

2年
◿デジタルメディア基礎Ⅲ（２単位）
〔Web メディア論（２単位） H27～〕
◿デジタルメディア基礎Ⅳ（２単位）
〔出版メディア論（２単位） H27～〕

**■選択科目 34 以上**

### 自由選択科目 24 以上

・他学科科目
・キャリア科目
・能力開発科目
・興動館科目
・交換留学生科目（日本語科目を除く）
・単位互換科目
・語学留学振替単位

＋

・共通科目
・メディアビジネス学科科目

上記の「選択科目」で必要単位数を超えて修得した単位数。

### ゼミ科目 16

**■必修科目**

1年
◢入門ゼミⅠ（２単位）
◢入門ゼミⅡ（２単位）

2年
◢プレゼミ（２単位）

3年
◿演習Ⅰ（４単位）

4年
◿演習Ⅱ（６単位）

※共通科目、自学科科目、自由選択科目については、交換留学プログラムによる臨時の授業科目が含まれる場合あり

## 【スポーツ経営学科】2016(平成28)年度以降入学生（進級要件あり⇒◢進級要件科目・単位）

**卒業認定の要件として必要な単位数の総計 124 以上**

### 共通科目 30 以上

**■必修科目 8**

1年
- ◢必修英語ＡⅠ・必修英語ＡⅡ（計２単位）
- ◢必修英語ＢⅠ・必修英語ＢⅡ（計２単位）
- ◢必修英語ＣⅠ（1単位）
- ⊿日本語文章表現（２単位）

2年
- ◢必修英語ＣⅡ（１単位）

→外国人留学生の単位の取扱いは、「教育課程（カリキュラム）7 留学生科目」のページを参照。

**■選択必修科目 14 以上**

- ⊿英語（理解系・表現系）（計２単位）
- ⊿自己理解系科目　（計６単位）
- ⊿他者理解系科目　（計６単位）

**■選択科目 8 以上**

※「選択必修科目」で必要単位数を超えて修得した単位数を含む。

※◢進級要件科目の６単位中４単位以上の修得が進級認定要件となる。

### スポーツ経営学科科目 54 以上

**■必修科目 12**

1年
- ⊿経済入門（２単位）
- ⊿経営入門（２単位）
- ⊿スポーツ経営入門（２単位）
- ⊿スポーツ文化論（２単位）

2年
- ⊿スポーツ経営学（２単位）
- ⊿スポーツ産業論（２単位）

**■選択科目 42 以上**

「選択科目」の中から、以下の条件を含んで単位を修得することが必要です。

発展・応用科目
- ⊿「経済・経営関連科目」から10単位以上
- ⊿「スポーツ関連科目」から８単位以上
- ⊿「実験・実習・演習科目」から６単位以上

### 自由選択科目 24 以上

- 他学科科目
- キャリア科目
- 能力開発科目
- 興動館科目
- 交換留学生科目（日本語科目を除く）
- 単位互換科目
- 語学留学振替単位

＋

- 共通科目
- スポーツ経営学科科目

上記の「選択科目」で必要単位数を超えて修得した単位数。

### ゼミ科目 16

**■必修科目**

1年
- ◢大学入門ゼミ（２単位）
- ◢興動人入門ゼミ（２単位）

2年
- ◢プレゼミ（２単位）

3年
- ⊿演習Ⅰ（４単位）

4年
- ⊿演習Ⅱ（６単位）

※共通科目、自学科科目、自由選択科目については、交換留学プログラムによる臨時の授業科目が含まれる場合あり

## 【スポーツ経営学科】2015(平成27)年度入学生（進級要件あり⇒◢進級要件科目・単位）

**卒業認定の要件として必要な単位数の総計 124 以上**

### 共通科目 30 以上

**■必修科目 8**

1年
- ◢必修英語ＡⅠ・必修英語ＡⅡ（計２単位）
- ◢必修英語ＢⅠ・必修英語ＢⅡ（計２単位）
- ◢必修英語ＣⅠ（1単位）
- ⊿日本語文章表現（２単位）

2年
- ◢必修英語ＣⅡ（１単位）

→外国人留学生の単位の取扱いは、「教育課程（カリキュラム）7 留学生科目」のページを参照。

**■選択必修科目 14 以上**

- ⊿英語（理解系・表現系）（計２単位）
- ⊿自己理解系科目　（計６単位）
- ⊿他者理解系科目　（計６単位）

**■選択科目 8 以上**

※「選択必修科目」で必要単位数を超えて修得した単位数を含む。

※◢進級要件科目の６単位中４単位以上の修得が進級認定要件となる。

### スポーツ経営学科科目 54 以上

**■必修科目 12**

1年
- ⊿経済入門（２単位）
- ⊿経営入門（２単位）
- ⊿スポーツ経営入門（２単位）
- ⊿スポーツ文化論（２単位）

2年
- ⊿スポーツ経営学（２単位）
- ⊿スポーツ産業論（２単位）

**■選択科目 42 以上**

「選択科目」の中から、以下の条件を含んで単位を修得することが必要です。

発展・応用科目
- ⊿「経済・経営関連科目」から２単位以上
- ⊿「スポーツ関連科目」から８単位以上
- ⊿「実験・実習・演習科目」から４単位以上

### 自由選択科目 24 以上

- 他学科科目
- キャリア科目
- 能力開発科目
- 興動館科目
- 交換留学生科目（日本語科目を除く）
- 単位互換科目
- 語学留学振替単位

＋

- 共通科目
- スポーツ経営学科科目

上記の「選択科目」で必要単位数を超えて修得した単位数。

### ゼミ科目 16

**■必修科目**

1年
- ◢大学入門ゼミ（２単位）
- ◢興動人入門ゼミ（２単位）

2年
- ◢プレゼミ（２単位）

3年
- ⊿演習Ⅰ（４単位）

4年
- ⊿演習Ⅱ（６単位）

※共通科目、自学科科目、自由選択科目については、交換留学プログラムによる臨時の授業科目が含まれる場合あり

# 履修モデル

## 共通科目

共通科目の要件単位は、2015（平成27）年度以降入学生は、必修科目22単位（選択必修科目14単位を含む）と選択科目8単位の計30単位、2014（平成26）年度以前入学生は、必修科目８単位（選択必修科目２単位を含む）と選択科目22単位の計30単位です。以下の共通科目履修モデルを参考にして、各自の興味・関心に応じて１年次から積極的に履修科目を決定してください。すべての共通科目が履修モデルに含まれているわけではないので、シラバス（授業計画）を必ず参照してください。

共通科目履修モデルに示した科目には、それぞれ配当年次がありますので、必ず確認してください。

### 1 「英語」について重点的に学びたい人へ

| 区分 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 必修科目 | 必修英語Ａ Ⅰ<br>必修英語Ａ Ⅱ<br>必修英語Ｂ Ⅰ<br>必修英語Ｂ Ⅱ<br>必修英語Ｃ Ⅰ<br>日本語文章表現 | 1<br>1<br>1<br>1<br>1<br>2 | 必修英語Ｃ Ⅱ | 1 | ※語学留学プログラム（オーストラリア・ニュージーランド）に参加することや、国際教育交流センターを利用して留学生と交流することなどを薦めます。 | | | |
| 選択必修科目 | 世界の思想と現代社会Ⅰ<br>世界の思想と現代社会Ⅱ | 2<br>2 | 英語表現Ⅰ<br>英語表現Ⅱ<br>日本の思想と文化 | 1<br>1<br>2 | | | | |
| 選択科目 | 海外研修英語Ⅰ<br>資格英語Ⅰ<br>資格英語Ⅱ<br>フランス語Ⅰ<br>フランス語Ⅱ | 1<br>1<br>1<br>1<br>1 | 資格英語Ⅲ<br>資格英語Ⅳ<br>発展英会話Ⅰ<br>発展英会話Ⅱ<br>外国文学Ａ | 1<br>1<br>1<br>1<br>2 | ビジネス英語Ⅰ<br>ビジネス英語Ⅱ<br>海外研修英語Ⅱ | 1<br>1<br>1 | | |

### 2 「日本語」について重点的に学びたい人へ

| 区分 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 必修科目 | 必修英語Ａ Ⅰ<br>必修英語Ａ Ⅱ<br>必修英語Ｂ Ⅰ<br>必修英語Ｂ Ⅱ<br>必修英語Ｃ Ⅰ<br>日本語文章表現 | 1<br>1<br>1<br>1<br>1<br>2 | 必修英語Ｃ Ⅱ | 1 | | | | |
| 選択必修科目 | 日本の歴史Ⅰ<br>日本の歴史Ⅱ<br>日本の地理 | 2<br>2<br>2 | 英語理解Ⅰ<br>英語理解Ⅱ<br>世界の思想と現代社会Ⅲ<br>世界の地理Ⅱ | 1<br>1<br>2<br>2 | | | | |
| 選択科目 | 文章表現演習・標準 | 2 | 日本語演習・標準<br>文章表現演習・発展<br>ビジネス日本語演習<br>日本文学Ａ | 2<br>2<br>2<br>2 | 日本語演習・発展<br>日本文学Ｂ | 2<br>2 | | |
| 興動館科目 | コミュニケーション実践 | 2 | 文芸創作実践 | 2 | | | | |

### 3 「日本の文化・社会」について重点的に学びたい人へ

| 区分 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 必修科目 | 必修英語Ａ Ⅰ<br>必修英語Ａ Ⅱ<br>必修英語Ｂ Ⅰ<br>必修英語Ｂ Ⅱ<br>必修英語Ｃ Ⅰ<br>日本語文章表現 | 1<br>1<br>1<br>1<br>1<br>2 | 必修英語Ｃ Ⅱ | 1 | | | | |
| 選択必修科目 | 日本の歴史Ⅰ<br>日本の歴史Ⅱ<br>日本の地理<br>日本の思想と文化 | 2<br>2<br>2<br>2 | 英語理解Ⅰ<br>英語理解Ⅱ<br>日本の歴史Ⅲ<br>日本国憲法Ⅰ<br>日本国憲法Ⅱ<br>世界の歴史Ⅰ<br>世界の歴史Ⅱ | 1<br>1<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | 日本の宗教<br>日本の法律<br>世界の憲法<br>日本の政治<br>広島の歴史と文化 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | |
| 選択科目 | | | 日本文学Ａ<br>現代社会と人権 | 2<br>2 | 日本文学Ｂ | 2 | | |

## 4 「欧米の文化・社会」について重点的に学びたい人へ

| 区分 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 必修科目 | 必修英語ＡⅠ<br>必修英語ＡⅡ<br>必修英語ＢⅠ<br>必修英語ＢⅡ<br>必修英語ＣⅠ<br>日本語文章表現 | 1<br>1<br>1<br>1<br>1<br>2 | 必修英語ＣⅡ | 1 | | | | |
| 選択必修科目 | 世界の歴史Ⅰ<br>世界の歴史Ⅱ<br>世界の地理Ⅰ<br>世界の地理Ⅱ | 2<br>2<br>2<br>2 | 英語表現Ⅰ<br>英語表現Ⅱ<br>世界の思想と現代社会Ⅰ<br>世界の思想と現代社会Ⅱ<br>日本の歴史Ⅰ<br>日本の地理 | 1<br>1<br>2<br>2<br>2<br>2 | 世界の憲法<br>広島の歴史と文化 | 2<br>2 | | |
| 選択科目 | フランス語Ⅰ<br>フランス語Ⅱ | 1<br>1 | 外国文学Ａ | 2 | | | | |

## 5 「アジアの文化・社会」について重点的に学びたい人へ

| 区分 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 必修科目 | 必修英語ＡⅠ<br>必修英語ＡⅡ<br>必修英語ＢⅠ<br>必修英語ＢⅡ<br>必修英語ＣⅠ<br>日本語文章表現 | 1<br>1<br>1<br>1<br>1<br>2 | 必修英語ＣⅡ | 1 | | | | |
| 選択必修科目 | 世界の歴史Ⅰ<br>世界の歴史Ⅱ<br>世界の地理Ⅱ<br>日本の歴史Ⅰ | 2<br>2<br>2<br>2 | 英語表現Ⅰ<br>英語表現Ⅱ<br>世界の思想と現代社会Ⅲ<br>日本の地理 | 1<br>1<br>2<br>2 | 世界の憲法<br>広島の歴史と文化 | 2<br>2 | | |
| 選択科目 | インドネシア語Ⅰ<br>インドネシア語Ⅱ | 1<br>1 | | | 生命倫理 | 2 | | |

## 6 「公務員」をめざしたいと考えている人へ

| 区分 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 必修科目 | 必修英語ＡⅠ<br>必修英語ＡⅡ<br>必修英語ＢⅠ<br>必修英語ＢⅡ<br>必修英語ＣⅠ<br>日本語文章表現 | 1<br>1<br>1<br>1<br>1<br>2 | 必修英語ＣⅡ | 1 | | | | |
| 選択必修科目 | 日本の政治<br>日本の法律<br>世界の地理Ⅰ | 2<br>2<br>2 | 英語理解Ⅰ<br>英語理解Ⅱ<br>日本国憲法Ⅰ<br>日本国憲法Ⅱ<br>世界の地理Ⅱ | 1<br>1<br>2<br>2<br>2 | 世界の憲法 | 2 | | |
| 選択科目 | 現代社会と人権 | 2 | 社会心理学 | 2 | 生命倫理<br>環境法 | 2<br>2 | | |
| 経済学科科目<br>(資格関連科目) | 日本史Ⅰ<br>日本史Ⅱ<br>西洋史Ⅰ<br>西洋史Ⅱ | 2<br>2<br>2<br>2 | 法学Ⅰ<br>法学Ⅱ<br>東洋史Ⅰ<br>東洋史Ⅱ<br>地理学Ⅰ<br>地理学Ⅱ | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | 民法Ⅰ<br>民法Ⅱ<br>行政法Ⅰ<br>行政法Ⅱ<br>政治学Ⅰ<br>政治学Ⅱ | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | |
| 経営学科科目 | | | | | 商法 | 2 | | |
| 公務員試験対策<br>(キャリアセンター) | 公務員養成講座 | | | | | | | |

※経済・経営学科科目の資格関連科目を中心に履修し、その他の科目も積極的に履修して幅広く教養を身につけましょう。
※キャリアセンター主催の公務員試験対策プログラムも積極的に参加しましょう。

## 経済学部　経済学科

### 1 経済学を体系的に学ぶ

◎：必修科目

| 区分 | | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 共通科目 | | | ◎日本語文章表現 | 2 | | | | | | |
| | | | 共通科目から30単位以上 | | | | | | | |
| ゼミ科目 | | | ◎大学入門ゼミ<br>◎興動人入門ゼミ | 2<br>2 | ◎プレゼミ | 2 | ◎演習Ⅰ | 4 | ◎演習Ⅱ | 6 |
| 学科科目 | 入門科目 | | ◎経済入門<br>◎経営入門<br>◎ファイナンス入門 | 2<br>2<br>2 | | | | | | |
| 学科科目 | 基礎科目 | | | | ◎ミクロ経済学基礎Ⅰ<br>ミクロ経済学基礎Ⅱ<br>◎マクロ経済学基礎Ⅰ<br>マクロ経済学基礎Ⅱ<br>国際経済基礎Ⅰ<br>国際経済基礎Ⅱ<br>経済の基礎数学Ⅰ<br>経済の基礎数学Ⅱ<br>経済学史<br>経済史基礎Ⅰ<br>経済史基礎Ⅱ<br>経済政策論基礎<br>社会政策論基礎<br>財政学Ⅰ<br>財政学Ⅱ<br>金融論Ⅰ<br>金融論Ⅱ<br>基礎経済統計<br>基礎経済統計演習<br>現代日本経済事情Ⅰ<br>現代日本経済事情Ⅱ | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | | | |
| 学科科目 | 発展・応用科目 | 総合経済学 | | | | | ミクロ経済学<br>マクロ経済学<br>日本経済史Ⅰ<br>日本経済史Ⅱ<br>西洋経済史Ⅰ<br>西洋経済史Ⅱ | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | |
| 学科科目 | 発展・応用科目 | 国際経済 | | | | | 国際貿易論<br>国際金融論<br>開発経済 | 2<br>2<br>2 | | |
| 学科科目 | 発展・応用科目 | 政策科学 | | | | | 経済政策論<br>環境経済学<br>公共経済学<br>地域経済論<br>社会保障論Ⅰ<br>社会保障論Ⅱ | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | |
| 学科科目 | 発展・応用科目 | 金融・情報 | | | | | 金融システム論<br>統計学<br>計量経済学Ⅰ<br>計量経済学Ⅱ<br>統計学演習 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | |

## 2 ビジネスマンとして必要な経済知識を学ぶ

◎：必修科目

| 区分 | | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 共通科目 | | | ◎日本語文章表現 | 2 | | | | | | |
| | | | 共通科目から30単位以上 | | | | | | | |
| ゼミ科目 | | | ◎大学入門ゼミ<br>◎興動人入門ゼミ | 2<br>2 | ◎プレゼミ | 2 | ◎演習Ⅰ | 4 | ◎演習Ⅱ | 6 |
| 学科科目 | 入門科目 | | ◎経済入門<br>◎経営入門<br>◎ファイナンス入門 | 2<br>2<br>2 | | | | | | |
| 学科科目 | 基礎科目 | | | | ◎ミクロ経済学基礎Ⅰ<br>◎マクロ経済学基礎Ⅰ<br>国際経済基礎Ⅰ<br>国際経済基礎Ⅱ<br>経済の基礎数学Ⅰ<br>経済の基礎数学Ⅱ<br>経済学史<br>経済史基礎Ⅰ<br>経済史基礎Ⅱ<br>経済政策論基礎<br>社会政策論基礎<br>財政学Ⅰ<br>財政学Ⅱ<br>金融論Ⅰ<br>金融論Ⅱ<br>基礎経済統計<br>基礎経済統計演習<br>現代日本経済事情Ⅰ<br>現代日本経済事情Ⅱ | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | | | | |
| 学科科目 | 発展・応用科目 | 総合経済学 | | | | | 景気循環論 | 2 | | |
| 学科科目 | 発展・応用科目 | 国際経済 | | | | | 国際貿易論<br>国際金融論 | 2<br>2 | | |
| 学科科目 | 発展・応用科目 | 政策科学 | | | | | 環境経済学<br>産業組織論<br>地域経済論<br>労働経済学Ⅰ<br>労働経済学Ⅱ | 2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | |
| 学科科目 | 発展・応用科目 | 金融・情報 | | | | | 現代ファイナンス論<br>実践ファイナンス<br>実践資産運用<br>統計学<br>統計学演習 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | |
| 学科科目 | 別講義 | 地域特 | | | 広島地域ものづくり事情 | 2 | 中・四国地域経済・金融事情<br>中・四国地域特別講義<br>(流通・サービス・製造) | 2<br>2 | | |
| キャリア科目 | | | | | インターンシップⅠ（国内） | 2 | | | | |

## 3 金融・証券マンとして社会に羽ばたく

◎：必修科目

| 区分 | | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 共通科目 | | | ◎日本語文章表現 | 2 | | | | | | |
| | | | 共通科目から30単位以上 | | | | | | | |
| ゼミ科目 | | | ◎大学入門ゼミ<br>◎興動人入門ゼミ | 2<br>2 | ◎プレゼミ | 2 | ◎演習Ⅰ | 4 | ◎演習Ⅱ | 6 |
| 学科科目 | 入門科目 | | ◎経済入門<br>◎経営入門<br>◎ファイナンス入門 | 2<br>2<br>2 | | | | | | |
| | 基礎科目 | | | | ◎ミクロ経済学基礎Ⅰ<br>ミクロ経済学基礎Ⅱ<br>◎マクロ経済学基礎Ⅰ<br>マクロ経済学基礎Ⅱ<br>国際経済基礎Ⅰ<br>国際経済基礎Ⅱ<br>経済の基礎数学Ⅰ<br>経済の基礎数学Ⅱ<br>経済学史<br>経済史基礎Ⅰ<br>経済史基礎Ⅱ<br>経済政策論基礎<br>社会政策論基礎<br>財政学Ⅰ<br>財政学Ⅱ<br>金融論Ⅰ<br>金融論Ⅱ<br>基礎経済統計<br>基礎経済統計演習<br>現代日本経済事情Ⅰ<br>現代日本経済事情Ⅱ | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | | | |
| | 発展・応用科目 | 総合経済学 | | | | | 景気循環論 | 2 | | |
| | | 国際経済 | | | アメリカ経済<br>中国経済<br>アセアン経済<br>EU 経済 | 2<br>2<br>2<br>2 | 国際貿易論<br>国際金融論 | 2<br>2 | | |
| | | 政策科学 | | | | | 金融政策論<br>地域経済論 | 2<br>2 | | |
| | | 金融・情報 | | | | | 金融システム論<br>現代ファイナンス論<br>実践ファイナンス<br>実践資産運用<br>グローバル金融市場論<br>統計学<br>計量経済学Ⅰ<br>計量経済学Ⅱ<br>統計学演習 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | |
| | 地域特別講義 | | | | | | 中・四国地域経済・金融事情 | 2 | | |
| 能力開発科目 | | | | | 資本市場の役割と証券投資 | 2 | | | | |
| キャリア科目 | | | | | インターンシップⅠ(国内) | 2 | | | | |

## 経営学部　経営学科

### 1 マネジメント系科目を主とした専門科目の履修モデル

◎：必修科目

| 区分 | | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 共通科目 | | | ◎日本語文章表現 | 2 | | | | | | |
| | | | 共通科目から30単位以上 | | | | | | | |
| ゼミ科目 | | | ◎大学入門ゼミ<br>◎興動人入門ゼミ | 2<br>2 | ◎プレゼミ | 2 | ◎演習Ⅰ | 4 | ◎演習Ⅱ | 6 |
| 学科科目 | 入門科目 | | ◎経済入門<br>◎経営入門<br>◎簿記入門<br>◎初級簿記Ⅰ<br>◎経営学概論 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | | | | | |
| 学科科目 | 基礎科目 | | | | 経営情報論<br>経営管理論基礎<br>経営史<br>企業形態論<br>マーケティング論基礎 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | | | |
| 学科科目 | 発展・応用科目 | マネジメント系科目 | | | 経営管理論<br>中小企業経営論 | 2<br>2 | 財務管理論Ⅰ<br>財務管理論Ⅱ<br>人的資源管理論Ⅰ<br>人的資源管理論Ⅱ<br>経営組織論Ⅰ<br>経営組織論Ⅱ<br>国際経営論<br>経営戦略論<br>生産管理論<br>商法 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | |
| 学科科目 | 発展・応用科目 | 演習系科目 | | | ビジネスプランニングⅠ<br>ビジネスプランニングⅡ | 2<br>2 | | | | |

### 2 アカウンティング系科目を主とした専門科目の履修モデル

◎：必修科目

| 区分 | | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 共通科目 | | | ◎日本語文章表現 | 2 | | | | | | |
| | | | 共通科目から30単位以上 | | | | | | | |
| ゼミ科目 | | | ◎大学入門ゼミ<br>◎興動人入門ゼミ | 2<br>2 | ◎プレゼミ | 2 | ◎演習Ⅰ | 4 | ◎演習Ⅱ | 6 |
| 学科科目 | 入門科目 | | ◎経済入門<br>◎経営入門<br>◎簿記入門<br>◎初級簿記Ⅰ<br>◎経営学概論 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | | | | | |
| 学科科目 | 基礎科目 | | | | 経営情報論<br>初級簿記Ⅱ<br>初級簿記演習<br>会計学基礎 | 2<br>2<br>2<br>2 | | | | |
| 学科科目 | 発展・応用科目 | アカウンティング系科目 | 中級簿記<br>中級簿記演習 | 4<br>4 | 財務会計論<br>原価計算論 | 2<br>2 | 会計監査論<br>経営分析論<br>管理会計論<br>税務会計論 | 2<br>2<br>2<br>2 | | |
| 学科科目 | 発展・応用科目 | 演習系科目 | | | ビジネスプランニングⅠ<br>ビジネスプランニングⅡ | 2<br>2 | 経営学特別演習（ビジネスプラン）<br>経営学特別演習（事例研究） | 2<br>2 | | |

## 3 マーケティング系科目を主とした専門科目の履修モデル

◎：必修科目

| 区分 | | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 共通科目 | | | ◎日本語文章表現 | 2 | | | | | | |
| | | | 共通科目から30単位以上 | | | | | | | |
| ゼミ科目 | | | ◎大学入門ゼミ<br>◎興動人入門ゼミ | 2<br>2 | ◎プレゼミ | 2 | ◎演習Ⅰ | 4 | ◎演習Ⅱ | 6 |
| 学科科目 | 入門科目 | | ◎経済入門<br>◎経営入門<br>◎簿記入門<br>◎初級簿記Ⅰ<br>◎経営学概論 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | | | | | |
| 学科科目 | 基礎科目 | | | | 経営情報論<br>マーケティング論基礎<br>貿易論基礎 | 2<br>2<br>2 | | | | |
| 学科科目 | 発展・応用科目 | マーケティング系科目 | | | 流通システム論Ⅰ<br>流通システム論Ⅱ<br>外国為替論<br>外国為替実務<br>証券市場論<br>貿易実務<br>マーケティング論<br>マーケティング・フロンティア<br>Introduction to Marketing in English | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | 貿易論<br>マーチャンダイジング論Ⅰ<br>マーチャンダイジング論Ⅱ<br>サービス・マーケティング論 | 2<br>2<br>2<br>2 | | |
| 学科科目 | 発展・応用科目 | 演習系科目 | | | マーケティングプラン演習<br>ビジネスプランニングⅠ<br>ビジネスプランニングⅡ | 2<br>2<br>2 | マーケティングシミュレーション演習 | 2 | | |

## 経営学部　スポーツ経営学科

### 1 スポーツ関連企業系モデルについての専門科目の履修モデル

◎：必修科目

| 区分 | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 共通科目 | | 共通科目から30単位以上（必修科目を含む） | | | | | | | |
| ゼミ科目 | | ◎大学入門ゼミ<br>◎興動人入門ゼミ | 2<br>2 | ◎プレゼミ | 2 | ◎演習Ⅰ | 4 | ◎演習Ⅱ | 6 |
| 入門科目 | | ◎経済入門<br>◎経営入門<br>◎スポーツ経営入門<br>簿記３級Ⅰ | 2<br>2<br>2<br>2 | | | | | | |
| 基礎科目 | | ◎スポーツ文化論<br>経済学基礎 | 2<br>2 | ◎スポーツ経営学<br>◎スポーツ産業論<br>スポーツマーケティング論<br>マーケティング論基礎<br>経営学<br>会計学基礎 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | | | |
| 発展・応用科目 | 経済・経営関連科目 | | | 組織マネジメント論<br>イベント論<br>スポーツ組織論<br>スポーツ経済論 | 2<br>2<br>2<br>2 | コミュニティビジネス論<br>スポーツファイナンス論<br>プロスポーツ論<br>スポーツジャーナリズム論<br>スポーツメディア論<br>経営戦略論<br>経営分析論<br>管理会計論 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | |
| | スポーツ関連科目 | | | スポーツ社会学<br>地域スポーツ論<br>レクリエーションスポーツ論 | 2<br>2<br>2 | スポーツ施設マネジメント | 2 | | |
| | 実験・実習・演習科目 | スポーツビジネス視察Ⅰ(国内)<br>スポーツビジネス視察Ⅱ(北米)<br>スポーツビジネス視察Ⅲ(欧州) | 1<br>1<br>1 | スポーツビジネス演習Ⅰ<br>スポーツビジネス演習Ⅱ<br>スポーツマネジメント演習<br>地域スポーツ貢献演習 | 2<br>2<br>2<br>2 | | | | |

## 2 一般企業系モデルについての専門科目の履修モデル

◎：必修科目

| 区分 | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 共通科目 | | 共通科目から30単位以上（必修科目を含む） | | | | | | | |
| ゼミ科目 | | ◎大学入門ゼミ<br>◎興動人入門ゼミ | 2<br>2 | ◎プレゼミ | 2 | ◎演習Ⅰ | 4 | ◎演習Ⅱ | 6 |
| 入門科目 | | ◎経済入門<br>◎経営入門<br>◎スポーツ経営入門<br>簿記３級Ⅰ | 2<br>2<br>2<br>2 | | | | | | |
| 基礎科目 | | ◎スポーツ文化論<br>経済学基礎 | 2<br>2 | ◎スポーツ経営学<br>◎スポーツ産業論<br>スポーツマーケティング論<br>経営学<br>マーケティング論基礎<br>会計学基礎<br>経済政策論基礎 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | | | |
| 発展・応用科目 | 経済・経営関連科目 | | | 財務会計論<br>イベント論<br>組織マネジメント論<br>スポーツ経済論<br>アメリカ経済 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2 | コミュニティビジネス論<br>スポーツファイナンス論<br>スポーツジャーナリズム論<br>アジア経済<br>産業組織論<br>経営戦略論<br>管理会計論<br>経営分析論<br>国際経済学 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | |
| | スポーツ関連科目 | | | スポーツ社会学<br>地域スポーツ論<br>レクリエーションスポーツ論 | 2<br>2<br>2 | スポーツ施設マネジメント | 2 | | |
| | 実験・実習・演習科目 | スポーツビジネス視察Ⅰ(国内)<br>スポーツビジネス視察Ⅱ(北米)<br>スポーツビジネス視察Ⅲ(欧州) | 1<br>1<br>1 | スポーツビジネス演習Ⅰ<br>スポーツビジネス演習Ⅱ<br>スポーツマネジメント演習<br>地域スポーツ貢献演習 | 2<br>2<br>2<br>2 | | | | |

## 3 スポーツコーチング系モデルについての専門科目の履修モデル

◎：必修科目

| 区分 | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 共通科目 | | 共通科目から30単位以上（必修科目を含む） | | | | | | | |
| ゼミ科目 | | ◎大学入門ゼミ<br>◎興動人入門ゼミ | 2<br>2 | ◎プレゼミ | 2 | ◎演習Ⅰ | 4 | ◎演習Ⅱ | 6 |
| 入門科目 | | ◎経済入門<br>◎経営入門<br>◎スポーツ経営入門 | 2<br>2<br>2 | | | | | | |
| 基礎科目 | | ◎スポーツ文化論<br>経済学基礎 | 2<br>2 | ◎スポーツ経営学<br>◎スポーツ産業論<br>スポーツマーケティング論<br>スポーツ英語 | 2<br>2<br>2<br>1 | | | | |
| 発展・応用科目 | 経済・経営関連科目 | | | スポーツ組織論<br>組織マネジメント論 | 2<br>2 | コミュニティビジネス論<br>プロスポーツ論<br>スポーツメディア論 | 2<br>2<br>2 | | |
| | スポーツ関連科目 | | | スポーツ社会学<br>スポーツトレーニング論<br>スポーツ生理学<br>レクリエーションスポーツ論<br>地域スポーツ論 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2 | スポーツコーチング論<br>スポーツ心理学<br>スポーツ統計<br>スポーツバイオメカニクス<br>スポーツ医学<br>スポーツ栄養学<br>救急処置法<br>健康運動プログラム論<br>スポーツ施設マネジメント | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | |
| | 実験・実習・演習科目 | スポーツビジネス視察Ⅰ(国内)<br>スポーツビジネス視察Ⅱ(北米)<br>スポーツビジネス視察Ⅲ(欧州) | 1<br>1<br>1 | スポーツ指導法演習<br>地域スポーツ貢献演習<br>スポーツトレーナー演習<br>スポーツトレーニング実習<br>スポーツ生理学実験<br>スポーツトレーナー実習<br>レクリエーションスポーツ実習Ⅱ(キャンプ)<br>レクリエーションスポーツ実習Ⅰ(ゲーム)<br>レクリエーションスポーツ実習Ⅲ(スノー)<br>チームビルディング<br>チームマネジメント | 2<br>2<br>2<br>1<br>1<br>1<br>1<br>1<br>1<br>1<br>2 | | | | |

## メディアビジネス学部　ビジネス情報学科

### 1 現代ビジネス型

◎：必修科目

| 区分 | | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 共通科目 | | | ◎日本語文章表現 | 2 | | | | | | |
| | | | 共通科目から30単位以上 | | | | | | | |
| ゼミ科目 | | | ◎大学入門ゼミ<br>◎興動人入門ゼミ | 2<br>2 | ◎プレゼミ | 2 | ◎演習Ⅰ | 4 | ◎演習Ⅱ | 6 |
| 学科科目 | 入門科目 | | ◎経営入門<br>◎ビジネス情報入門<br>◎情報入門演習S<br>コンピュータ入門<br>情報入門演習A<br>◎経済入門<br>情報入門演習B | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | | | | | |
| | 基礎科目 | | ◎ビジネス概論<br>情報活用演習A | 2<br>2 | ◎ビジネス情報入門ゼミ<br>ビジネス統計学<br>情報技術論<br>ビジネスと戦略<br>経営管理論基礎<br>会計学基礎<br>マーケティング論基礎<br>情報処理論A<br>情報活用演習B<br>情報活用演習C<br>情報処理論B<br>情報ネットワーク論<br>Web演習<br>インターネット・マーケティング論<br>ミクロ経済学基礎Ⅰ<br>マクロ経済学基礎Ⅰ | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | 経営情報論 | 2 | | |
| | 発展・応用科目 | ビジネス科目 | | | 中級簿記演習 | 4 | オペレーションズ・リサーチ<br>AIとビジネス<br>電子金融取引Ⅰ<br>IT応用事例研究<br>ビジネスデータ分析<br>電子金融取引Ⅱ<br>生産管理論<br>リスクマネジメント<br>顧客関係管理と知的情報ベース<br>デジタルビジネス論<br>データサイエンスとビジネス | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | |
| | | 情報科目 | | | 情報システム論Ⅰ<br>データベース論<br>情報システム論Ⅱ | 2<br>2<br>2 | マルチメディア論 | 2 | | |
| | | ビジネス情報演習科目 | | | | | マルチメディア演習 | 2 | | |

## 2 情報デザイン型

◎：必修科目

| 区分 | | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 共通科目 | | | ◎日本語文章表現 | 2 | | | | | | |
| | | | 共通科目から30単位以上 | | | | | | | |
| ゼミ科目 | | | ◎大学入門ゼミ<br>◎興動人入門ゼミ | 2<br>2 | ◎プレゼミ | 2 | ◎演習Ⅰ | 4 | ◎演習Ⅱ | 6 |
| 学科科目 | 入門科目 | | ◎経営入門<br>◎ビジネス情報入門<br>◎情報入門演習S<br>コンピュータ入門<br>情報入門演習A<br>◎経済入門<br>情報入門演習B<br>情報処理基礎 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | | | | | |
| | 基礎科目 | | ◎ビジネス概論<br>情報活用演習A | 2<br>2 | ◎ビジネス情報入門ゼミ<br>情報技術論<br>ビジネスと戦略<br>コンピュータ基礎Ⅰ<br>情報処理論A<br>情報活用演習B<br>Web演習<br>情報処理論B<br>情報ネットワーク論 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | コンピュータ基礎Ⅱ | 2 | | |
| | 発展・応用科目 | ビジネス科目 | | | オペレーションズ・リサーチ | 2 | AIとビジネス<br>電子金融取引Ⅰ<br>IT応用事例研究<br>プロジェクトマネジメント<br>ビジネスデータ分析<br>電子金融取引Ⅱ<br>顧客関係管理と知的情報ベース<br>リスクマネジメント<br>デジタルビジネス論<br>データサイエンスとビジネス | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | |
| | | 情報科目 | | | 情報システム論Ⅰ<br>データベース論<br>情報システム論Ⅱ | 2<br>2<br>2 | マルチメディア論<br>データマイニング論 | 2<br>2 | | |
| | | ビジネス情報演習科目 | | | 情報処理演習A | 2 | 情報システム演習<br>情報処理演習C<br>モバイルアプリ演習<br>データマイニング演習 | 2<br>2<br>2<br>2 | | |

## 3 情報インストラクター型

◎：必修科目　★：教職必修　教：教職選択

| 区分 | | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 共通科目 | | | ◎日本語文章表現 | 2 | | | | | | |
| | | | 共通科目から30単位以上 | | | | | | | |
| ゼミ科目 | | | ◎大学入門ゼミ<br>◎興動人入門ゼミ | 2<br>2 | ◎プレゼミ | 2 | ◎演習Ⅰ | 4 | ◎演習Ⅱ | 6 |
| 学科科目 | 入門科目 | | ◎経営入門<br>◎ビジネス情報入門<br>◎情報入門演習S<br>コンピュータ入門<br>★情報入門演習A<br>◎経済入門<br>★情報入門演習B<br>教 情報処理基礎 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | | | | | |
| | 基礎科目 | | ◎ビジネス概論<br>教 情報活用演習A | 2<br>2 | ◎ビジネス情報入門ゼミ<br>教 情報技術論<br>ビジネスと戦略<br>★コンピュータ基礎Ⅰ<br>★情報処理論A<br>教 情報活用演習B<br>★情報活用演習C<br>教 情報処理論B<br>★情報ネットワーク論<br>教 Web演習 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | 教 コンピュータ基礎Ⅱ | 2 | | |
| | 発展・応用科目 | ビジネス科目 | | | | | AIとビジネス<br>IT応用事例研究<br>オペレーションズ・リサーチ<br>流通システム論Ⅰ<br>流通システム論Ⅱ<br>デジタルビジネス論<br>データサイエンスとビジネス | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | |
| | | 情報科目 | | | ★情報システム論Ⅰ<br>教 データベース論<br>教 情報システム論Ⅱ | 2<br>2<br>2 | ★マルチメディア論<br>★情報社会と情報倫理<br>★情報と職業<br>データマイニング論 | 2<br>2<br>2<br>2 | | |
| | | ビジネス情報演習科目 | | | ★情報処理演習A<br>教 画像処理演習<br>教 情報処理演習C | 2<br>2<br>2 | ★情報システム演習<br>★マルチメディア演習<br>データマイニング演習 | 2<br>2<br>2 | | |

## メディアビジネス学部　メディアビジネス学科

### 1 メディアプロデュース・モデル（メディア関連企業プロデュース系モデル）

◎：必修科目

| 区分 | | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 共通科目 | | | ◎必修英語ＡⅠ<br>◎必修英語ＡⅡ<br>◎必修英語ＢⅠ<br>◎必修英語ＢⅡ<br>◎必修英語ＣⅠ<br>◎日本語文章表現 | 1<br>1<br>1<br>1<br>1<br>2 | ◎必修英語ＣⅡ | 1 | | | | |
| | | | 1、２年生で、選択必修科目である自己理解科目、他者理解科目をそれぞれ３科目選択して履修する。 | | | | | | | |
| ゼミ科目 | | | ◎大学入門ゼミ<br>◎興動人入門ゼミ | 2<br>2 | ◎プレゼミ | 2 | ◎演習Ⅰ | 4 | ◎演習Ⅱ | 6 |
| 学科科目 | 入門科目 | | ◎経済入門<br>◎経営入門<br>◎メディアビジネス入門 | 2<br>2<br>2 | | | | | | |
| 学科科目 | 基礎科目 | | ◎メディア・マーケティング論<br>映像メディア論<br>音声メディア論<br>映像制作基礎Ａ<br>映像制作基礎Ｂ<br>デザイン制作基礎<br>映像編集<br>画像編集 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | ◎コミュニケーション論<br>◎メディア論<br>Ｗｅｂメディア論<br>出版メディア論<br>メディアと経済 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | | | |
| 学科科目 | 発展・応用科目 | ビジネス科目 | | | 広告論<br>流通システム論Ⅰ<br>流通システム論Ⅱ<br>デジタルマーケティング論 | 2<br>2<br>2<br>2 | 企業広報論<br>メディアと感性デザイン<br>コンテンツビジネス論Ⅰ<br>メディアビジネス特講Ｂ<br>メディアビジネス特講Ｄ<br>メディアビジネス特講Ｆ<br>メディアビジネス特講Ｈ<br>メディアビジネス特講Ｉ<br>メディアビジネス特講Ｊ<br>メディアビジネス特講Ｋ | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | コンテンツビジネス論Ⅱ | 2 |
| 学科科目 | 発展・応用科目 | メディア・ＩＴ科目 | | | 現代マスメディア論<br>メディア・リテラシー<br>メディアと法<br>コミュニケーションと文化<br>現代マスメディア事情<br>情報デザイン論<br>イベント論<br>映像コンテンツ制作論<br>メディア文化史<br>CM 制作<br>ＣＧ演習<br>ラジオ番組制作<br>映像制作応用<br>デザイン制作応用<br>Web コンテンツ制作<br>モバイルコンテンツ制作 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | 情報社会と情報倫理<br>マルチメディア論<br>スポーツメディア論<br>スポーツジャーナリズム論 | 2<br>2<br>2<br>2 | | |
| 興動館科目 | | | | | | | | | | |
| | | | 興動館科目を、毎年度１科目は履修されることを推奨します。 | | | | | | | |

## 2 ビジネスコミュニケーション・モデル（一般企業コミュニケーション系モデル）

◎：必修科目

| 区分 | | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 共通科目 | | | ◎必修英語ＡⅠ<br>◎必修英語ＡⅡ<br>◎必修英語ＢⅠ<br>◎必修英語ＢⅡ<br>◎必修英語ＣⅠ<br>◎日本語文章表現 | 1<br>1<br>1<br>1<br>1<br>2 | ◎必修英語ＣⅡ<br>1、２年生で、選択必修科目である自己理解科目、他者理解科目をそれぞれ３科目選択して履修する。 | 1 | | | | |
| ゼミ科目 | | | ◎大学入門ゼミ<br>◎興動人入門ゼミ | 2<br>2 | ◎プレゼミ | 2 | ◎演習Ⅰ | 4 | ◎演習Ⅱ | 6 |
| 学科科目 | 入門科目 | | ◎経済入門<br>◎経営入門<br>◎メディアビジネス入門 | 2<br>2<br>2 | | | | | | |
| 学科科目 | 基礎科目 | | ◎メディア・マーケティング論<br>デザイン制作基礎<br>映像メディア論<br>音声メディア論<br>映像編集<br>画像編集 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | ◎コミュニケーション論<br>◎メディア論<br>Ｗｅｂメディア論<br>出版メディア論<br>メディアと経済<br>マーケティング論基礎 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | | | | |
| 学科科目 | 発展・応用科目 | ビジネス科目 | | | 広告論<br>流通システム論Ⅰ<br>流通システム論Ⅱ<br>マーケティング論<br>デジタルマーケティング論 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2 | マーチャンダイジング論Ⅰ<br>企業広報論<br>メディアと感性デザイン<br>コンテンツビジネス論Ⅰ<br>メディアビジネス特講Ｂ<br>メディアビジネス特講Ｄ<br>メディアビジネス特講Ｆ<br>メディアビジネス特講Ｈ<br>メディアビジネス特講Ｉ<br>メディアビジネス特講Ｊ<br>メディアビジネス特講Ｋ | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | マーチャンダイジング論Ⅱ<br>コンテンツビジネス論ⅠⅡ<br>サービス・マーケティング論 | 2<br>2<br>2 |
| 学科科目 | 発展・応用科目 | メディア・ＩＴ科目 | | | 現代マスメディア論<br>メディア・リテラシー<br>メディアと法<br>コミュニケーションと文化<br>現代マスメディア事情<br>情報デザイン論<br>イベント論<br>映像コンテンツ制作論<br>メディア文化史<br>デザイン制作応用<br>ＣＭ制作<br>ＣＧ演習<br>Web コンテンツ制作<br>モバイルコンテンツ制作 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | 情報社会と情報倫理<br>マルチメディア論 | 2<br>2 | | |
| 興動館科目 | | | 興動館科目を、毎年度１科目は履修されることを推奨します。 | | | | | | | |

# 興動館プロジェクト　推奨科目一覧表

## 人間力育成　（興動館科目）

| フィールド | 区分 | 科目名 | 開講区分 | 配当年次 |
|---|---|---|---|---|
| 元気力 | □ | 禅（ZEN）で元気なこころとからだをつくろう | 前・後 | 1 |
| | □ | ライフプラン（人生設計）でやる気づくり | 前・後 | 1 |
| | □ | 朗読で鍛える自己表現（※） | 前 | 1 |
| | □ | わが人生の転機Ⅰ（教職員編） | 前 | 1 |
| | □ | わが人生の転機Ⅱ（同窓生編） | 後 | 1 |
| | □ | 生きがいづくりの作戦会議（※） | 後 | 1 |
| | □ | 「笑い」のパワー・生きる力 | 特設(サマー) | 1 |
| 企画力 | □ | 興動館プロジェクトと企画力 | 前 | 1 |
| | □ | コピーライティング実践講座 | 前 | 1 |
| | □ | 新読書ナヴィゲータ（※） | 前 | 1 |
| | □ | 瀬戸内海地域の魅力を発信しよう | 前 | 1 |
| | □ | プロスポーツによる広島活性化講座 | 前 | 1 |
| | □ | みんなで教材を創ろう | 前 | 1 |
| | □ | 企画力養成講座 | 後 | 1 |
| | □ | 文芸創作実践 | 後 | 1 |
| | □ | 「私たちの広島」PR 実践 | 後 | 1 |
| | □ | 経営実践 | 特設(サマー) | 1 |
| | □ | 人の行動を経済学で読み解く | 特設(隔年) | 1 |
| 行動力 | □ | 興動館プロジェクトの計画と実施 | 前 | 1 |
| | □ | ＮＰＯ・ＮＧＯの立ち上げと活動 | 前 | 1 |
| | □ | ビジネス・シミュレーション・ゲーム | 特設(サマー) | 1 |
| | □ | 戦略 MG（マネジメントゲーム） | 前・後 | 1 |
| | □ | 身近なボランティア活動 | 後 | 1 |
| | □ | 興動館プロジェクトの経営戦略 | 後 | 1 |
| | □ | 興動館プロジェクトの評価と改善 | 後 | 1 |
| | □ | 森の社会貢献実践 | 特設(サマー) | 1 |
| 共生力 | □ | 広島とハワイで学ぼう！めざせ国際人 | 前 | 1 |
| | □ | スポーツで学ぶ共生力 | 前 | 1 |
| | □ | コミュニケーション実践 | 前 | 1 |
| | □ | ゲームを通してグローバル社会を理解しよう | 後 | 1 |
| | □ | 仲良くなろうアメリカ大陸 良こう国際人として(※) | 後 | 1 |
| | □ | 人を動かすことばと話し方（※） | 後 | 1 |
| | □ | 広い世界に飛び出そう | 後 | 1 |
| | □ | 興動館プロジェクトとコミュニケーション | 後 | 1 |
| | □ | ユニバーサルデザイン実践 | 後 | 1 |
| | □ | 広島を学ぶ（※） | 特設(その他) | 1 |

## プロジェクト（分野）

| 分野 | | 区分 | 科目名 | 開講区分 | 配当年次 |
|---|---|---|---|---|---|
| 国際交流 | 【語学】 | ■ | インドネシア語Ⅰ | 前 | 1 |
| | | ■ | インドネシア語Ⅱ | 後 | 1 |
| | | ■ | 海外研修英語Ⅰ | 前 | 1 |
| | | ■ | 海外研修英語Ⅱ | 後 | 1 |
| | | ■ | 韓国語Ⅰ | 前 | 1 |
| | | ■ | 韓国語Ⅱ | 後 | 1 |
| | | ■ | 基礎英会話Ⅰ | 前 | 1 |
| | | ■ | 基礎英会話Ⅱ | 前・後 | 1 |
| | | ■ | 発展英会話Ⅰ | 前 | 1 |
| | | ■ | 発展英会話Ⅱ | 後 | 1 |
| | | ■ | 英語表現・基礎徹底Ⅰ | 前 | 2 |
| | | ■ | 英語表現・基礎徹底Ⅱ | 後 | 2 |
| | | ■ | 英語表現・標準Ⅰ | 前 | 2 |
| | | ■ | 英語表現・標準Ⅱ | 後 | 2 |
| | | ■ | 英語表現・発展Ⅰ | 前 | 2 |
| | | ■ | 英語表現・発展Ⅱ | 後 | 2 |
| | 【他国理解】 | □ | 広島とハワイで学ぼう！めざせ国際人 | 前 | 1 |
| | | ■ | 世界の宗教 | 前 | 1 |
| | | ■ | 世界の地理Ⅰ | 後 | 1 |
| | | ■ | 世界の地理Ⅱ | 前 | 1 |
| | | □ | 仲良くなろうアメリカ大陸 良こう国際人として（※） | 後 | 1 |
| | | □ | 広い世界に飛び出そう | 後 | 1 |
| | | □ | ゲームを通してグローバル社会を理解しよう | 後 | 1 |
| | | ■ | 開発経済 | 後 | 3 |
| | 【自国理解】 | ■ | 宗教学Ⅰ | 前 | 1 |
| | | □ | 広島を学ぶ（※） | 特設(サマー) | 1 |
| | | ■ | 日本の歴史Ⅰ | 前 | 1 |
| | | ■ | 日本の歴史Ⅱ | 前 | 1 |
| | | ■ | 日本の歴史Ⅲ | 後 | 1 |
| | | ■ | 広島の歴史と文化 | 後 | 1 |
| 社会貢献 | | □ | スポーツで学ぶ共生力 | 前 | 1 |
| | | ■ | 自然科学Ｃ | 特設(サマー) | 1 |
| | | □ | 広島を学ぶ（※） | 特設(サマー) | 1 |
| | | ■ | 広島の歴史と文化 | 後 | 1 |
| | | ■ | 健康科学 | 後 | 1 |
| | | ■ | レクリエーションスポーツ論 | 前 | 2 |
| 地域活性 | | □ | 瀬戸内海地域の魅力を発信しよう | 前 | 1 |
| | | □ | プロスポーツによる広島活性化講座 | 前 | 1 |
| | | □ | 森の社会貢献実践 | 特設(サマー) | 1 |
| | | □ | 「私たちの広島」PR 実践 | 後 | 1 |
| | | ■ | 現代マスメディア論 | 前 | 2 |
| | | ■ | 地域スポーツ論 | 前 | 2 |
| | | ■ | レクリエーションスポーツ論 | 前 | 2 |
| | | ■ | スポーツ社会学 | 後 | 2 |
| | | ■ | スポーツ組織論 | 後 | 2 |
| | | ■ | 公共経済学 | 前 | 3 |
| | | ■ | スポーツジャーナリズム論 | 前 | 3 |
| | | ■ | 地域経済論 | 前 | 3 |
| | | ■ | 実践地域経済論 | 後 | 3 |
| 経済活動 | | □ | 戦略 MG（マネジメントゲーム） | 前・後 | 1 |
| | | □ | 経営実践 | 特設(サマー) | 1 |
| | | ■ | 経済学基礎 | 後 | 1 |
| | | ■ | ビジネス概論 | 後 | 1 |
| | | ■ | ビジネスと戦略 | 前 | 2 |
| | | ■ | アセアン経済 | 前 | 2 |
| | | ■ | 経営管理論基礎 | 前 | 2 |
| | | ■ | マーケティング論基礎 | 前 | 2 |
| | | ■ | オペレーションズ・リサーチ | 前 | 2 |
| | | ■ | ビジネスプランニングⅠ | 前 | 2 |
| | | ■ | ビジネスプランニングⅡ | 後 | 2 |
| | | ■ | マーケティング論 | 後 | 2 |
| | | ■ | 生産マネジメント論（※） | 後 | 2 |
| | | ■ | インターネット・マーケティング論 | 後 | 2 |
| | | ■ | 原価計算論 | 後 | 2 |
| | | ■ | 貿易実務 | 後 | 2 |
| | | ■ | 経営戦略論 | 前 | 3 |
| | | ■ | 統計学 | 前 | 3 |
| | | ■ | アジア経済 | 前 | 3 |
| | | ■ | 生産管理論 | 前 | 3 |
| | | ■ | マーチャンダイジング論Ⅰ | 前 | 3 |
| | | ■ | マーチャンダイジング論Ⅱ | 後 | 3 |
| | | ■ | サービス・マーケティング論 | 後 | 3 |

## プロジェクト（運営全般）

| 分野 | 区分 | 科目名 | 開講区分 | 配当年次 |
|---|---|---|---|---|
| プロジェクトマネジメント | □ | 興動館プロジェクトと企画力 | 前 | 1 |
| | □ | 興動館プロジェクトの計画と実施 | 前 | 1 |
| | □ | ビジネス・シミュレーション・ゲーム | 前 | 1 |
| | □ | みんなで教材を創ろう | 前 | 1 |
| | □ | 「笑い」のパワー・生きる力 | 特設(サマー) | 1 |
| | □ | 興動館プロジェクトの評価と改善 | 後 | 1 |
| | □ | 興動館プロジェクトとコミュニケーション | 後 | 1 |
| | □ | 興動館プロジェクトの経営戦略 | 後 | 1 |
| | □ | 人を動かすことばと話し方（※） | 後 | 1 |
| | ■ | 社会心理学 | 後 | 1 |
| | ■ | メンタルヘルス論 | 後 | 1 |
| | ■ | 経営管理論基礎 | 前 | 2 |
| | ■ | ビジネスプランニングⅠ | 前 | 2 |
| | ■ | ビジネスプランニングⅡ | 後 | 2 |
| | ■ | 組織マネジメント論 | 後 | 2 |
| | ■ | 情報処理論Ｂ | 後 | 2 |
| | ■ | 人的資源管理論Ⅰ | 前 | 3 |
| | ■ | プロジェクトマネジメント | 前 | 3 |
| | ■ | 経営組織論Ⅰ | 前 | 3 |
| | ■ | 経営組織論Ⅱ | 後 | 3 |
| | ■ | リスクマネジメント | 後 | 3 |
| ビジネスマナー | ■ | 情報処理入門Ⅰ | 前・後 | 1 |
| | ■ | 情報処理入門Ⅱ | 前・後 | 1 |
| | ■ | 情報処理の基礎Ⅰ | 前・後 | 1 |
| | ■ | 情報処理の基礎Ⅱ | 前・後 | 1 |
| | ■ | 情報処理の基礎Ⅲ | 前 | 1 |
| | ■ | 日本語演習・標準 | 前・後 | 1 |
| | ■ | ビジネス日本語演習 | 前・後 | 1 |
| | ■ | 文章表現演習・標準 | 前・後 | 1 |
| | ■ | 情報とネットワーク社会 | 後 | 1 |
| | □ | コミュニケーション実践 | 前 | 1 |
| 広報・広告 | □ | コピーライティング実践講座 | 前 | 1 |
| | □ | 新読書ナヴィゲータ（※） | 前 | 1 |
| | □ | 瀬戸内海地域の魅力を発信しよう | 前 | 1 |
| | ■ | 情報処理の基礎Ⅴ | 前・後 | 1 |
| | □ | ユニバーサルデザイン実践 | 後 | 1 |
| | □ | 「私たちの広島」PR 実践 | 後 | 1 |
| | ■ | 現代マスメディア論 | 前 | 2 |
| | ■ | マーケティング論基礎 | 前 | 2 |
| | ■ | メディア・リテラシー | 前 | 2 |
| | ■ | 情報デザイン論 | 前 | 2 |
| | ■ | マーケティング論 | 後 | 2 |
| | ■ | 広告論 | 後 | 2 |
| | ■ | 情報社会と情報倫理 | 前 | 3 |
| | ■ | マルチメディア論 | 前 | 3 |
| | ■ | 企業広報論 | 前 | 3 |
| 会計 | ■ | 初級簿記Ⅰ | 前・後 | 1 |
| | ■ | 初級簿記Ⅱ | 前 | 2 |
| | ■ | 簿記入門 | 前・後 | 1 |
| | ■ | 中級簿記 | 前2 | 1 |
| | ■ | 中級簿記演習 | 後2 | 1 |
| | ■ | 会計学基礎 | 前 | 2 |
| | ■ | 財務会計論 | 後 | 2 |
| | ■ | 初級簿記演習 | 後 | 2 |
| | ■ | 税務会計論 | 後 | 3 |

※１　（※）がついている科目は2018年度以前に入学した学生のみ履修できます。
※２　この表には、全学科の必修科目は含まれていません。一部の学科の必修科目については、他学科が自由選択科目として履修できることから必要に応じて掲載しています。
※３　ここに掲載している科目以外にも、プロジェクト活動を推進する上で参考となる科目があります。コーディネーターと相談しながら履修してください。
※４　□＝興動館科目　■＝共通科目、学科科目
※５　開講区分「特設※」は「サマー」もしくは「その他」の授業開講となります。シラバスや教務ガイドを参照してください。

# 広島経済大学学則

## 第１章　総則

### 第１節　名称・所在地

（名称）

**第１条**　本学は、広島経済大学と称する。

（所在地）

**第２条**　本学本部は、広島県広島市安佐南区祇園五丁目37番１号に置く。

### 第２節　目的

（目的）

**第３条**　本学は、教育基本法及び学校教育法に準拠し、「和を以て貴しと為す」の建学の精神及び「大学の道は明徳を明らかにするにあり」の立学の方針を教育の理想に掲げ、学術の教授研究をとおして真理の探究に専心すると共に、深い思索と共生の中で豊かな人間性を育み、正義と勤労を愛し、品格高く責任を重んじ、もって国家社会の発展に貢献し得る人材の育成を目的とする。

（自己点検及び評価）

**第４条**　前条の目的を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自己点検及び評価を行う。

２　前項の点検及び評価を行うに当たっては、同項の趣旨に則し、点検項目を設定するとともに適切な体制を整えて行う。

３　自己点検及び評価に関する必要な事項は、別に定める。

（教育内容の改善のための組織的な研修等）

**第４条の２**　本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

### 第３節　学部及び大学院

（学部・学科）

**第５条**　本学に経済学部、経営学部及びメディアビジネス学部を置く。

２　経済学部に経済学科を置く。

３　経営学部に経営学科及びスポーツ経営学科を置く。

４　メディアビジネス学部にビジネス情報学科及びメディアビジネス学科を置く。

（経済学部の教育研究上の目的）

**第５条の２**　経済学部は、第３条の目的を達成するため、経済学に関する知識を授け、専攻分野の研究をとおして専門的能力を培うと同時に、多様な経験の中で幅広い教養を身につけ、高い実践力、行動力を持った協調性あふれる人材を養成する。

２　経済学科は、経済学の諸領域における教育研究を行い、専門的知識の習得を目指すと共に、論理的な思考力及び分析力を活かして、経済全体の動向を読み取り行動できる実践的な人材を養成する。

（経営学部の教育研究上の目的）

**第５条の３**　経営学部は、第３条の目的を達成するため、経営学に関する知識を授け、専攻分野の研究をとおして専門的能力を培うと同時に、多様な経験の中で幅広い教養を身につけ、高い実践力、行動力を持った協調性あふれる人材を養成する。

２　経営学科は、経営学の諸領域における教育研究を行い、専門的知識の習得を目指すと共に、論理的な思考力及び応用力を活かして、適切な経営判断や企業活動のできる実践的な人材を養成する。

３　スポーツ経営学科は、スポーツビジネスに関する学際的な教育研究を行い、専門的知識の習得を目指すと共に、論理的な思考力及びスポーツパーソンとしての素養を育むことにより、スポーツと社会の発展に貢献できる実践的な人材を養成する。

（メディアビジネス学部の教育研究上の目的）

**第５条の４**　メディアビジネス学部は、第３条の目的を達成するため、メディア・情報及びビジネスに関する知識を授け、専攻分野の研究をとおして専門的能力を培うと同時に、多様な経験の中で幅広い教養を身につけ、高い実践力、行動力を持った協調性あふれる人材を養成する。

２　ビジネス情報学科は、ビジネスにおける情報の活用に関する教育研究を行い、専門的知識の習得を目指すと共に、論理的な思考力及び情報リテラシーを活かして、高度情報社会に対応できる実践的な人材を養成する。

３　メディアビジネス学科は、ビジネスと社会生活におけるメディアの役割に関する教育研究を行い、専門的知識の習得を目指すと共に、論理的な思考力及びメディアリテラシーを活かして、企業活動に貢献できる実践的な人材を養成する。

（大学院研究科）

**第６条**　本学に大学院を置き、経済学研究科経済学専攻博士課程を設ける。

２　大学院の学則は、別に定める。

### 第４節　入学定員及び収容定員

（入学定員及び収容定員）

**第７条**　本学における学部に置く学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ⑴ | 入学定員 | 経済学部 | 経済学科 | 330人 |
| | | 経営学部 | 経営学科 | 310人 |
| | | | スポーツ経営学科 | 70人 |
| | | メディアビジネス学部 | | |
| | | | ビジネス情報学科 | 80人 |
| | | | メディアビジネス学科 | 60人 |
| ⑵ | 収容定員 | 経済学部 | 経済学科 | 1,320人 |
| | | 経営学部 | 経営学科 | 1,240人 |
| | | | スポーツ経営学科 | 280人 |
| | | メディアビジネス学部 | | |
| | | | ビジネス情報学科 | 320人 |
| | | | メディアビジネス学科 | 240人 |

### 第５節　修業年限・在学年数・進級認定・卒業認定・学位

（修業年限）

**第８条**　本学学部の修業年限は、４年とする。

（在学年数）

**第８条の２**　学生は、８年を超えて在学することはできない。

２　前項の規定にかかわらず、３年次進級前までの在学年数は６年までとし、６年を超えて在学することはできない。

（進級認定）

**第８条の３**　２年次の学生の３年次への進級については、進級判定を行い、進級認定の要件を充足した者に対し、第二教授会の審議を経て、学長が進級を認定する。

２　進級に関する必要な事項は、別に定める。

（卒業認定）

**第９条**　第８条に規定する期間在学し、所定の科目を履修し第46条規定の要件を充足した者に対し、第二教授会の審議を経て、学長が卒業を認定する。

２　本学に入学し３年以上在学した者が、卒業の要件として定める単位を優秀な成績で修得した場合には、大学の早期卒業を認めることがある。

３　早期卒業に関する必要な事項は、別に定める。

（学位）

**第１０条**　学長は、本学学部を卒業した者に対し学位を授与する。

２　学位に関する事項は、別に定める。

## 第２章　通則

### 第１節　学年・学期・休業日

（学年）

**第１１条**　学年は、４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

（学期）

**第１２条**　学年は、次の２学期に分ける。
⑴　前学期　　４月１日から９月15日まで
⑵　後学期　　９月16日から翌年３月31日まで
（休業日）
**第１３条**　休業日は、次のとおりとする。ただし、学長が必要と認めたときは、休業日であっても授業又は試験を実施することができる。
⑴　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
⑵　土曜日・日曜日・創立記念日（１月23日）
⑶　夏期、冬期及び春期休業日
２　前項第３号の休業日は、別に定める。
３　その他臨時の休業については、学長がその都度定める。

**第２節**　入学・編入学・転科・休学・復学・留学・転学・退学・除籍及び再入学

（入学）
**第１４条**　入学の時期は、学年の始めとする。
（入学資格）
**第１５条**　次の各号のいずれかに該当する者につき、本学において高等学校卒業程度の入学試験を実施し、第二教授会の審議を経て、人物等総合判定に合格した者に対し、学長は当該年度生として入学を許可する。
出身学校長の推薦がある場合は、これを重視する。
⑴　高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
⑵　通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
⑶　外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
⑷　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
⑸　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
⑹　文部科学大臣の指定した者
⑺　高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
⑻　本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの
２　前項の規定にかかわらず入学試験の種類による個別の出願資格は別に定める。
（入学試験）
**第１５条の２**　入学を志願する者についての試験の方法は別に定める。
（編入学）
**第１６条**　本学に編入学を希望する者については、欠員のある場合に限り、年度始めに選考の上、第二教授会の審議を経て、学長は相当の年次に編入学を許可することがある。
２　編入学に関する細則は、別に定める。
（入学志願手続）
**第１７条**　入学を志願する者は、所定の書式による入学願書及び出身学校長の調査書その他所定の書類に別表第１に定める検定料を添えて、指定の期間内に願い出なければならない。
（入学手続）
**第１８条**　入学を許可された者は、指定の期日までに所定の書類を提出し、別表第２に定める学費及び別に定める諸納付金を納入しなければならない。
（保証人）
**第１９条**　保証人は、父母又はこれに準ずる者とする。
**第２０条**　保証人が死亡又はその他の事由により、保証人としてその責任を果たすことができないとき若しくは本学において不適当と認めたときは、学生は新たに保証人を定め、改めて保証書を提出しなければならない。
２　保証人が転籍、転居等身分上の異動等の場合は、直ちにその旨届け出なければならない。
（転科）
**第２０条の２**　学生が他の学部学科への転部及び転科（以下「転部等」という。）を志願するときには、教育上支障をきたすことのない範囲で選考を行い、学長がこれを許可することがある。
２　転部等に関する細則は、別にこれを定める。
（休学）
**第２１条**　学生が疾病その他やむを得ない事由によって、３か月以上修学することができないときは、学長の許可を得て休学することができる。
２　休学の許可を受けようとする者は、所定の休学願に保証人連署の上、医師の診断書又は詳細な事由書を添え、その旨願い出なければならない。
（休学の期間）
**第２２条**　休学の期間は、学期末又は年度末までとする。ただし、引き続き２年を超えることはできない。
２　休学の期間は、在学年数に算入しない。
３　休学の期間は、通算して４年を超えることはできない。
（復学）
**第２３条**　休学を許可された者は、休学期間の満了とともに復学するものとする。休学期間を延長する場合は、休学期間満了日までに願い出なければならない。
２　復学をする時期は、学期始めとする。
３　当該年度末までの休学者が、前学期末までに休学の事由が消滅したときは、願い出により、学長の許可を得て後学期始めに復学することができる。
（留学）
**第２３条の２**　外国の大学に留学しようとする者は、学長の許可を得て留学することができる。
２　前項の許可を得て留学した期間は、在学年数に算入する。
（転学・退学）
**第２４条**　疾病又はやむを得ない事由により、転学若しくは退学しようとする者は、所定の退学願に保証人連署の上、医師の診断書又は事由書を添え、その旨願い出て、学長の許可を受けなければならない。
（除籍）
**第２５条**　学生が次の各号のいずれかに該当するときは、学長はこれを除籍する。
⑴　第８条の２各項に規定する在学年数を超えたとき。
⑵　休学の期間が引き続き２年を超えても、休学の事由が消滅しないとき。
⑶　第22条第３項に規定する期間を超えたとき。
⑷　第27条第３項第１号に該当するとき。
（再入学）
**第２６条**　除籍者又は退学者が、再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、学長は相当の年次に再入学を許可することがある。
２　再入学を願い出ることができる者は、再入学前の在学期間と再入学後の在学期間の通算が８年以内で卒業できる見込みの者とする。
３　前項の規定にかかわらず、第１項に規定する再入学の相当年次が１年次又は２年次の者は、再入学前の在学期間と再入学後の在学期間の通算が６年以内で３年次へ進級できる見込みのものとする。
４　前条第１項第１号により除籍された者及び第32条第２項の規定により退学させられた者の再入学は認めない。
５　その他、再入学に関する事項は別に定める。

**第３節**　学費及び諸納付金

（学費等）
**第２７条**　学生は、別表第２に定める学費及び別に定める諸納付金（以下「学費等」という。）を所定の期日までに納付しなければならない。
２　授業料及び施設費については、前学期並びに後学期の２学期に分けて納入するものする。
３　前各項に定めるもののほか、学費等の取扱いについては、次のとおりとする。
⑴　正当な事由がなく、学費等を期日までに納付しないときは、除籍する。
⑵　特別の事情があるときは、授業料及び施設費に限り、学長の許可を得て分納することができる。
⑶　休学を許可された者は、学費等に代えて別表第２－２に定める休学在籍料を、原則として指定された期日までに納入しなければならない。
**第２８条**　既に納めた学費等は、理由のいかんにかかわらず一切これを返還しない。

**第４節**　奨学生

（奨学生）
**第２９条**　本学に奨学制度を設ける。その細則は別に定める。
**第３０条**　奨学資金を寄附又は学資金を給与あるいは貸与しようとする者があるときは、これを承諾する。
２　寄附者は、奨学金に記念すべき名称をつけることができる。
３　奨学資金の運営については、寄附者の意思に基づいてこれを行う。

**第５節**　賞罰

（表彰）
**第３１条**　学生が人物、学業成績ともに優れ、他の範となるときは、学長はこれを表彰することができる。これについては、別に定める。
（懲戒）
**第３２条**　学生が法律、条例、本学の学則その他定める諸規則に従わず、教育方針に違反し、学生たるの本分にもとる行為のあったときは、学長はこれを懲戒する。
２　懲戒は、訓告、停学及び退学とする。
３　前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行うものとする。
⑴　性行不良で改心の見込みがないと認められる者
⑵　学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
⑶　正当の理由がなく出席常でない者
⑷　法律、条例等に重大な違反行為を行った者
⑸　建学の精神、教育方針に違反し、又は学園の秩序、伝統を乱し、その他学生としての本分に反した者
４　前項第４号及び第５号に該当する嫌疑がある場合、懲戒処分決定までの間登校停止を命ずることがある。
５　その他、懲戒に関する事項は、懲戒に関する運用内規に定める。

## 第３章　教育課程

### 第１節　授業科目・単位

（授業科目の区分）
**第３３条**　本学の学部学科で開設する授業科目は次のように分ける。
⑴　経済学部　経済学科
共通科目、学科科目、自由選択科目、ゼミ科目
⑵　経営学部
経営学科
共通科目、学科科目、自由選択科目、ゼミ科目
スポーツ経営学科
共通科目、学科科目、自由選択科目、ゼミ科目
⑶　メディアビジネス学部
ビジネス情報学科
共通科目、学科科目、自由選択科目、ゼミ科目
メディアビジネス学科
共通科目、学科科目、自由選択科目、ゼミ科目
（授業科目・単位）
**第３４条**　前条に規定する授業科目及び単位数については、別表第４のとおりとする。
２　前項に規定する授業科目のほか、必要がある場合は、教授会の議を経て、臨時の授業科目を設けることができる。

### 第２節　単位の算定

（単位の算定）
**第３５条**　前条規定の単位数は、次の基準によって算定する。
⑴　各授業科目の単位数を定めるに当たっては、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。
ア　講義及び演習については、15時間の授業をもって１単位とする。
イ　実験、実習、実技及び外国語については、30時間の授業をもって１単位とする。
ウ　講義、演習、実験、実習、実技及び外国語のうち、一の授業を二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、それぞれの授業方法ごとの単位数の計算基準を考慮して本学が定める時間の授業をもって１単位とする。
⑵　前号の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

## 第４章　授業・履修方法

### 第１節　授業

（授業日数）
**第３６条**　１年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。
（教育課程の編成）
**第３７条**　教育課程は、各授業科目を必修科目、選択必修科目、選択科目に分け、これを各年次に配当して編成する。
（授業期間）
**第３８条**　各授業科目の授業は、10週又は15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りでない。

### 第２節　履修方法

（授業科目の年次別配当）
**第３９条**　第34条規定の授業科目は、原則として年次別配当に従って履修するものとする。
（単位の修得）
**第４０条**　学生は、第34条規定の授業科目を履修細則の定めるところに従い履修し、第46条に定める単位を修得しなければならない。
（教育職員免許課程）
**第４１条**　教育職員免許状の所要資格を得ようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める単位数を修得しなければならない。
２　前項に定める所定の単位を修得した者に対して交付される教育職員免許状は、次のとおりである。
⑴　経済学部　経済学科
ア　社　　会　　中学校教諭一種免許状
イ　地理歴史　　高等学校教諭一種免許状
ウ　公　　民　　高等学校教諭一種免許状
⑵　経営学部　経営学科
ア　商　　業　　高等学校教諭一種免許状
⑶　メディアビジネス学部　ビジネス情報学科

ア　情　　報　　高等学校教諭一種免許状

3　前２項に定めるもののほか、教育職員免許状を取得するために必要な事項については、別に定める。

**第４２条**　第34条規定の授業科目の履修の詳細については、別に定める。

## 第５章　単位の認定・卒業認定の要件

### 第１節　単位の認定

（試験）

**第４３条**　単位の認定は試験による。試験は学期末に行う。ただし、授業科目によっては学年末又は臨時に行うことがある。

（学修評価）

**第４４条**　試験の成績は、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。ただし、これを標記する場合は、AA（100点～90点）・A（89点～80点）・B（79点～70点）・C（69点～60点）・不可（59点以下）の評語をもってし、不可を不合格とする。

（単位授与）

**第４５条**　授業科目を履修し、その試験に合格した者には所定の単位を、学長が認定する。

### 第２節　卒業認定の要件

（卒業認定の要件）

**第４６条**　第９条に定める卒業認定の要件として必要な単位は、次に定めるところによる。その他履修要件については別に定める。

2　経済学部に置く学科の卒業認定の要件として必要な単位は、次のとおりとする。

⑴　経済学科

ア　共通科目　　30単位以上
イ　学科科目　　54単位以上
ウ　自由選択科目　24単位以上
エ　ゼミ科目　　16単位
合　　計　　124単位以上

3　経営学部に置く学科の卒業認定の要件として必要な単位は、次のとおりとする。

⑴　経営学科

ア　共通科目　　30単位以上
イ　学科科目　　54単位以上
ウ　自由選択科目　24単位以上
エ　ゼミ科目　　16単位
合　　計　　124単位以上

⑵　スポーツ経営学科

ア　共通科目　　30単位以上
イ　学科科目　　54単位以上
ウ　自由選択科目　24単位以上
エ　ゼミ科目　　16単位
合　　計　　124単位以上

4　メディアビジネス学部に置く学科の卒業認定の要件として必要な単位は、次のとおりとする。

⑴　ビジネス情報学科

ア　共通科目　　30単位以上
イ　学科科目　　54単位以上
ウ　自由選択科目　24単位以上
エ　ゼミ科目　　16単位
合　　計　　124単位以上

⑵　メディアビジネス学科

ア　共通科目　　30単位以上
イ　学科科目　　54単位以上
ウ　自由選択科目　24単位以上
エ　ゼミ科目　　16単位
合　　計　　124単位以上

## 第６章　教職員組織

（職員組織）

**第４７条**　本学に学長、副学長及び学部長を置く。

**第４８条**　本学に教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及び他の職員を置く。

## 第７章　教授会

（種別・構成）

**第４９条**　本学における教授会は、第一教授会及び第二教授会とする。

2　第一教授会は、学長、副学長、学部長及び専任の教授をもって構成し、第二教授会は、学長、副学長、学部長並びに専任の教授、准教授、講師及び助教をもって構成する。ただし、学長において必要と認めたときは、第一教授会及び第二教授会にその他の教職員及び役員を出席させることができる。

（招集・議長）

**第５０条**　学長は、教授会を招集しその議長となる。学長不在のときは、学長が指名した者がこれを代行する。

（議事）

**第５１条**　第一教授会は、学長が教育研究に関する重要な事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

2　教育研究に関する重要な事項で、第一教授会の意見を聴くことが必要なものは、広島経済大学教授会の審議事項及び各種委員会への諮問事項に関する細則に定める。

3　第二教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

⑴　学生の入学及び卒業に関する事項
⑵　学位の授与に関する事項
⑶　前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、第二教授会の意見を聴くことが必要なものとして広島経済大学教授会の審議事項及び各種委員会への諮問事項に関する細則に定める事項

4　第二教授会は、前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

## 第８章　附属機関及びその他の施設

（附属機関）

**第５２条**　本学に附属機関として、図書館、地域経済研究所及び興動館を置く。

2　附属機関の運営に必要な事項は、別に定める。

（その他の施設）

**第５３条**　本学に教育研究に必要な施設を設ける。

2　その他の施設に必要な事項は、別に定める。

## 第９章　厚生・保健施設

（保健施設）

**第５４条**　本学に保健室その他保健に関する諸施設を設ける。

**第５５条**　教職員及び学生の保健のための健康診断を定期に行う。

## 第１０章　科目等履修生、研究生、外国人留学生及び単位互換

（科目等履修生）

**第５６条**　１科目又は数科目の授業科目につき、履修を希望する者があるときは、希望科目の学習能力があると認めた者に限り、学長は科目等履修生としてこれを許可することがある。

2　科目等履修生については、別に定める。

（研究生）

**第５７条**　本学学生以外の者で特定の研究を希望する者があるときは、学長は研究生としてこれを許可することがある。

2　研究生については、別に定める。

（外国人留学生）

**第５８条**　外国人で入学を志願する者を、学長は外国人留学生としてこれを許可することがある。

2　外国人留学生については、別に定める。

（単位互換及び本学以外の教育施設等における学修の単位認定）

**第５９条**　本学が教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学との大学間協定に従って、本学学生に当該大学又は短

期大学の授業科目を履修させることができる。
　また、上記協定に基づき、他の大学又は短期大学の学生が本学の授業科目を履修することを希望する者があるときは、これを履修させることができる。
2　本学が教育上有益と認めるときは、本学が認定した外国の大学又は短期大学及びそれに相当する高等教育機関の授業科目を履修させることができる。
3　本学が次の各号に掲げる要件を備えた知識及び技能に関する審査又はこれらと同等以上の社会的評価を有するものにおける成果に係る学修で、大学教育に相当する水準を有すると認めたものに、単位を認定することができる。
⑴　審査を行うものが国又は民法（明治29年法律第89号）第34条の規定による法人その他の団体であること。
⑵　審査の内容が、学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に規定する大学の目的に照らし適切なものであること。
⑶　審査が全国的な規模において、毎年一回以上行われるものであること。
⑷　審査の実施の方法が、適性かつ公正であること。
4　本条第１項、第２項及び第３項により本学の学生が修得した授業科目の単位については、第60条の規定により修得したものとみなす単位と合わせて60単位を超えない範囲で、本学の修得単位とみなすことができる。
5　単位互換及び本学以外の教育施設等における学修の単位認定に関しては別にこれを定める。
（入学前の既修得単位等の取り扱い）
**第６０条**　本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学等において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。以下「既修得単位」という。）を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
2　本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第３項に規定する学修を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
3　前２項により修得したものとみなすことのできる単位数は、編入学の場合を除き第59条第１項、第２項及び第３項の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
4　入学前の既修得単位等の認定に関しては、別にこれを定める。

**第１１章**　雑則

（雑則）
**第６１条**　この学則の施行に関して必要な細則は、別に定める。

**第１２章**　学則の変更

（学則の変更）
**第６２条**　この学則の変更は教授会の審議を経て、学長が承認し、理事会が決定する。

**附　則**

1　この学則の施行に関して必要な細則は、別に定める。
2　この学則は、昭和42年４月１日から施行する。

**昭和43年から平成25年の附則については省略**

**附　則**

1　この学則は、平成26年４月１日から施行する。
2　改正後の第８条の２第２項、第８条の３第１項、第25条第１項第１号及び第46条第1項各号の規定については、平成26年度入学生から適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例による。
3　改正後の第26条第３項の規定については、平成26年度以降の入学生と同等の年次に再入学を許可する者に適用し、平成25年度以前の入学生と同等の年次に再入学を許可する者については、なお従前の例による。

**附　則**

1　この規程は、平成27年４月１日から施行する。
2　改正後の第46条第１項第５号の規定については、平成27年度入学生から適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例による。

**附　則**

この学則は、平成28年４月１日から施行する。

**附　則**

1　この学則は、平成29年４月１日から施行する。
2　平成29年４月１日から平成32年３月31日までのビジネス情報学科及びスポーツ経営学科の収容定員は、第７条第１項第２号の規定にかかわらず次のとおりとする。

**附　則　別　表**

| 区　　分 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 |
|---|---|---|---|
| | 収容定員 | 収容定員 | 収容定員 |
| 経済学部 | | | |
| ビジネス情報学科 | 350 | 340 | 330 |
| スポーツ経営学科 | 250 | 260 | 270 |

**附　則**

1　この学則は、平成30年４月１日から施行する。
2　改正後の第27条第３項第３号の規定は、平成30年度入学生から適用し、それ以前に入学した者については、なお従前の例による。

**附　則**

1　この学則は、平成31年４月１日から施行する。
2　経済学部のうち経営学科、ビジネス情報学科、メディアビジネス学科及びスポーツ経営学科は、この改正後の第５条並びに第７条の規定にかかわらず、平成31年３月31日に在籍する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
3　平成31年４月１日から平成34年３月31日までの経済学部のうち経営学科、ビジネス情報学科、メディアビジネス学科及びスポーツ経営学科の収容定員は、第７条第１項第２号の規定にかかわらず次のとおりとする。

**附　則　別　表**

| 区　　分 | 平成31年度 | 平成32年度 | 平成33年度 |
|---|---|---|---|
| | 収容定員 | 収容定員 | 収容定員 |
| 経済学部 | | | |
| 経営学科 | 930 | 620 | 310 |
| ビジネス情報学科 | 240 | 160 | 80 |
| メディアビジネス学科 | 180 | 120 | 60 |
| スポーツ経営学科 | 210 | 140 | 70 |

**別表第１**　検定料

| 入学試験 | 検定料 | 備　考 |
|---|---|---|
| ＡＯ入学試験 | 30,000 円 | |
| 指定校推薦入学試験 | | |
| 後期指定校推薦入学試験 | | |
| 特別指定校推薦入学試験 | | |
| 強化指定クラブ推薦入学試験 | | |
| 特別推薦入学試験 | | |
| 資格スカラシップ推薦入学試験（１期･２期･３期） | | |
| 一般公募制推薦入学試験 | 30,000 円 | 学科併願する場合、２学科目から１学科につき5,000円。 |
| 一般入学試験（１期） | 30,000 円 | 複数日（学科）併願する場合、２出願目から５出願目までは１出願につき10,000円、６出願目からは１出願につき5,000円。センター利用入学試験（１期）と同時出願の場合、合計金額から5,000円を減額。さらに、センター利用入学試験（１期）の出願数が１増えるごとに1,000円を減額。 |
| 一般入学試験（２期） | 30,000 円 | 学科併願する場合、２学科目から１学科につき5,000円。センター利用入学試験（２期）と同時出願の場合、合計金額から5,000円を減額。さらに、センター利用入学試験（２期）の出願数が１増えるごとに1,000円を減額。 |
| センター利用入学試験（１期）<br>センター利用入学試験（２期） | 15,000 円 | 各期内で学科併願する場合、２学科目から１学科につき5,000円。各期内で一般入学試験と同時出願の場合、合計金額から5,000円を減額。さらに、センター利用入学試験の出願数が１増えるごとに1,000円を減額。 |
| 社会人入学試験 | 30,000 円 | |
| 編入学試験 | 15,000 円 | |

**別表第２**　学費

| 費目 | 金額 | 備考 |
|---|---|---|
| 入学金 | 250,000円 | 入学時のみ |
| 授業料 | 680,000円 | 年　額 |
| 施設費 | 200,000円 | 年　額 |

**別表第２−２**　休学在籍料

| 休学の期間 | 金額 | 備考 |
|---|---|---|
| 前学期又は後学期 | 50,000円 | 半期施設費の２分の１相当額 |
| １年 | 100,000円 | 年間施設費の２分の１相当額 |

**別表第３**　削除

**別表第４**　省略　教育課程（カリキュラム）参照

## 広島経済大学学生準則

（趣旨）

**第１条**　この準則は、別に定めるもののほか、広島経済大学（以下「本学」という）学生が遵守しなければならない一般的事項を定めるものとする。

（誓約書）

**第２条**　学生は、所定の誓約書を提出しなければならない。

（学生証）

**第３条**　学生は、入学時に学生証の交付を受け、常に携帯しなければならない。

２　学生は、試験を受けるとき及び施設を利用するときなどは、学生証を提示しなければならない。

３　本学教職員が学生証の提示を求めたときは、これに応じなければならない。

**第４条**　学生証は、他人に貸与又は譲渡することはできない。

**第５条**　学生証は、次に該当するときは速やかに返還しなければならない。

⑴　学生が退学したとき。

⑵　学生証の有効期限が経過したとき。

**第６条**　学生証を紛失又は滅失したときは、「学生証再発行交付願」を提出し、再交付を受けなければならない。

（学籍情報）

**第７条**　学生は、入学後速やかに学籍情報のうち、所定の事項を登録しなければならない。

２　学籍情報の登録事項に変更のあったときは、速やかに更新しなければならない。

（服装）

**第８条**　学生は、服装を正し、本学の学生にふさわしい品位と体面を保持しなければならない。

（健康診断）

**第９条**　学生は、定期に健康診断を受けなければならない。やむを得ない理由で受診できないときは、保健室に届け出て指示を受けなければならない。

（諸調査への協力）

**第１０条**　学生は、本学の行う累加記録に関する調査、学生生活実態調査等に協力しなければならない。

（部、同好会及び愛好会）

**第１１条**　学生が、本学公認の部、同好会及び愛好会（以下「部・サークル」という。）を結成しようとするときは、本学専任教職員を顧問とし、所定の「結成願」により、学務センター学生課（以下「学生課」という。）へ願い出て許可を得なければならない。

２　「結成願」等の願出事項に変更が生じたときは、ただちに学生課へ願い出て許可を得なければならない。

３　部・サークルが解散したときは、その旨速やかに学生課へ届け出なければならない。

（集会及び行事）

**第１２条**　学生、部・サークル及びその他各種団体が、集会や行事を行うときは、「集会及び行事開催願」に必要事項を記入の上許可を得なければならない。

２　前項にいう行事とは、スポーツ行事、合宿、大学祭、定期演奏会、署名運動、世論調査、寄付金募集、印刷物の刊行配布、示威運動等を含む。

（遠征及び合宿）

**第１３条**　部・サークルが、遠征や合宿を行う場合には「遠征届」又は「休暇合宿届」により届け出て許可を受けなければならない。

２　部・サークル責任者は遠征又は合宿の結果等を詳細に記載し、速やかに学生課に報告しなければならない。

（学内施設の使用）

**第１４条**　学生、部・サークル及びその他各種団体が集会又は行事のため、学内の施設・備品を使用するときは、総務部管

財課発行の「学内使用願」により願い出て許可を得なければならない。

**第１５条**　学内の施設の使用を許可された者は、その集会又は行事の終了したときは、施設をもとどおりにしなければならない。

２　施設を破損したときは、賠償しなければならない。

（掲示）

**第１６条**　掲示をするときは、次の事項を守らなければならない。

⑴　掲示物は、本学の学生としての本分にもとるもの、学園の秩序と伝統を乱すもの、あるいは自他の品位を傷つけるものであってはならない。

⑵　掲示物には、責任者の氏名及び掲示期間を明記し、許可を得て所定の場所に掲示しなければならない。

⑶　立看板、ポスター、幕、旗類、ビラ、その他の印刷物の配布及び学内放送等については、前２号を準用する。

⑷　前３号に違反するものは、撤去する。

２　掲示期間は、原則として一週間以内とする。

（活動の禁止）

**第１７条**　学生、部・サークル及びその他各種団体の行為が、本学の諸規則に違反し、秩序を乱し、教育方針に反し、その他学生の本分にもとると認められるときは、その行為を制限若しくは禁止し、又は当該団体の解散を命ずる。

（車両通学）

**第１８条**　車両（自動車を除く。）により通学しようとする者は、別に定める広島経済大学自動二輪車及び原動機付自転車通学規程並びに広島経済大学自転車通学規程により、許可を受けなくてはならない。

（公認欠席）

**第１９条**　学生が次に掲げる理由により、やむを得ず授業を欠席しなければならない場合は、「公認欠席願」を提出し、公認欠席を願い出ることができる。

⑴　体育系部・サークルの公式試合出場等（別表）・・・学生課扱い

⑵　文化系部・サークルの学内外でのイベント開催等（別表）・・・学生課扱い

⑶　学内外行事等（別表）・・・学生課扱い

⑷　教職課程の教育実習（内諾を得るための訪問を含む）及び介護等体験（事前指導の受講を含む）・・・教務課扱い

⑸　２親等以内の親族の死亡による忌引・・・学生課扱い

ア　配偶者（７日間以内）

イ　１親等（父母、子）の親族（７日間以内）

ウ　２親等（祖父母、兄弟、姉妹、孫）の親族（３日間以内）

⑹　企業の内定式など出席を義務付けられている行事への出席・・・キャリアセンター扱い

⑺　興動館プロジェクトの認定式及び活動報告会への出席・・・興動館扱い

⑻　裁判員としての裁判への参加・・・教務課扱い

２　「公認欠席願」の発行を希望する者は、各取扱部署において必要な手続きを行い、発行された「公認欠席願」を原則として欠席日よりも前に、授業科目の担当教員に提出しなければならない。なお、事前の願い出ができない場合は、事後速やかに授業科目の担当教員に提出しなければならない。

３　公認欠席を認められた授業は出席扱いとするが、学生は、欠席した授業の授業内容、資料、レポート課題等について、必ず担当教員に確認を行い、その学習と理解に努めなければならない。

（欠席届）

**第１９条の２**　学生が公認欠席以外の次に掲げる理由により、やむを得ず授業を欠席しなければならない場合は、「欠席届」を提出することができる。

⑴　病気又はけが（入院若しくは医師が授業受講を困難と判断したもの）・・・保健室扱い

⑵　学校保健安全法施行規則（昭和33年文部省令第18号）に定められた感染症への感染・・・保健室扱い

⑶　就職試験の受験・・・キャリアセンター扱い

⑷　インターンシップに伴う企業訪問及び報告会への出席・・・キャリアセンター扱い

⑸　天災その他の非常災害・・・学生課扱い

⑹　その他やむを得ない理由と認められるもの・・・学生課・教務課扱い

２　欠席届の発行を希望する者は、各取扱部署において必要な手続きを行い、発行された「欠席届」を原則として欠席日よりも前に、授業科目の担当教員に提出しなければならない。なお、事前の届け出ができない場合は、事後速やかに授業科目の担当教員に提出しなければならない。

３　欠席届が提出された授業は、やむを得ない理由での欠席扱いとするが、学生は、欠席した授業の授業内容、資料、レポート課題等について、必ず担当教員に確認を行い、その学習と理解に努めなければならない。

（飲酒行為）

**第２０条**　飲酒行為については、次の事項を遵守しなければならない。

⑴　未成年者は、未成年者飲酒禁止法の定めるところにより飲酒をしてはならない。

⑵　早飲み及び一息での飲み干し（一気飲み）をしてはならない。

⑶　早飲み及び一息での飲み干し（一気飲み）を強要してはならない。

⑷　飲酒した場合は、車両等（自動車、自動二輪車、原動機付自転車及び自転車）の運転をしてはならない。

⑸　飲酒した者に運転をさせてはならない。

⑹　飲酒した者が運転する車両に同乗してはならない。

⑺　同席者又は同乗者は、他の者が前各号に違反すると認められる場合に黙認してはならない。

２　本学学内においては、原則として飲酒をしてはならない。ただし、次に掲げる場合はこの限りではない。

⑴　大学が主催する各種交流会

⑵　その他学長が必要と認めた場合

３　前２項によるもののほか、興動館、立町キャンパズ及び成風館については、それぞれの利用細則によるものとする。

（喫煙行為）

**第２１条**　未成年者は、未成年者喫煙禁止法の定めるところにより喫煙をしてはならない。

（マナーに関する遵守事項及びマナー意識高揚実践者の表彰）

**第２２条**　本学学生は、次に示す基本的マナーを遵守し、学生、大学、近隣地域等に迷惑となるような行為及び危険を及ぼす行為をしてはならない。

⑴　授業受講マナーの遵守（授業中は私語、奇声・暴言、自由歩行、携帯電話の使用、飲食、無断退出等授業の妨げとなる行為をしてはならない。）

⑵　喫煙マナーの遵守（指定場所以外での喫煙をしてはならない。）

⑶　スクールバス利用マナーの遵守（スクールバスの車内及び各バスターミナルにおいては、乗車順を乱す行為、喫煙、携帯電話での会話、奇声・暴言、ゴミ等の投棄や放置、その他利用者に迷惑となる行為をしてはならない。）

⑷　自転車、原動機付自転車・自動二輪車及び自動車運転マナーの遵守（遵守事項等については、本学の各車両通学規程による。）

⑸　大学施設設備使用マナーの遵守（遵守事項等については、学校法人石田学園施設設備利用規程、広島経済大学図書館利用規程、広島経済大学石田記念体育館利用細則、広島経済大学クラブハウス利用細則、広島経済大学興動館利用細則、興動館利用者心得、広島経済大学立町キャンパス利用

細則、広島経済大学成風館利用細則、広島経済大学明徳館利用細則、広島経済大学の学内ＬＡＮに関する内規及び広島経済大学・学内ＬＡＮ利用上の情報倫理に関するガイドラインによる。）

2　学内及び社会における基本マナー実践と意識高揚のための活動について継続的に取り組み、優れた成果をあげて他の範になると認められた学生は、広島経済大学学則第31条（表彰）の規定に基づき「マナー意識高揚実践者」として表彰することがある。

（違反行為に対する措置）

**第２３条**　この準則に著しく違反する行為があったときは、広島経済大学学則第32条（懲戒）を適用することがある。

**附　則**

1　この準則は、昭和42年４月１日から実施する。

2　この準則でいう許可とは、学長が行うものとする。

**附　則**

この準則は、昭和54年４月１日から一部改正する。

**附　則**

この準則は、昭和58年４月１日から一部改正する。

**附　則**

この準則は、昭和60年４月１日から一部改正する。

**附　則**

この準則は、昭和61年４月１日から一部改正する。

**附　則**

この準則は、昭和62年４月１日から一部改正する。

**附　則**

この準則は、昭和63年４月１日から一部改正する。

**附　則**

この準則は、平成３年４月１日から一部改正する。

**附　則**

この準則は、平成10年４月１日から一部改正する。

**附　則**

この準則は、平成11年４月１日から施行する。

**附　則**

この準則は、平成13年４月１日から一部改正する。

**附　則**

この準則は、平成16年４月１日から一部改正する。

**附　則**

この準則は、平成17年４月１日から施行する。

**附　則**

この準則は、平成18年４月１日から施行する。

**附　則**

この準則は、平成19年４月１日から施行する。

**附　則**

この準則は、平成19年７月１日から施行する。

**附　則**

1　この準則は、平成20年４月１日から施行する。

2　学生準則第19条⑴、⑵、⑶に関する公認欠席の運用内規（平成16年３月４日制定）は廃止する。

**附　則**

この準則は、平成21年４月１日から施行する。

**附　則**

この準則は、平成22年８月１日から施行する。

**附　則**

この準則は、平成23年４月１日から施行する。

**附　則**

この準則は、平成23年６月10日から施行する。

**附　則**

この準則は、平成24年２月10日から施行する。

**附　則**

この準則は、平成24年４月１日から施行する。

**附　則**

この準則は、平成25年４月１日から施行する。

**附　則**

この準則は、平成26年４月１日から施行する。

**附　則**

この準則は、平成28年４月１日から施行する。

**附　則**

この準則は、平成29年４月１日から施行する。

**附　則**

この準則は、平成30年４月１日から施行する。

**別表**　公認欠席に該当する学内外行事等

| 項目 | 内容 |
|---|---|
| ⑴体育系部・サークルの公式試合出場等 | ・日本体育協会主催の競技大会<br>・各都道府県体育協会主催の競技大会<br>・各大学連盟・学生連盟主催の競技大会<br>・各種財団法人・社団法人等、公益団体が主催する競技大会<br>・国際大会<br>・上記競技大会に役員・運営委員としての協力を依頼された場合<br>・全日本・各都道府県の強化選手に指定され、合同合宿等に参加する場合<br>・その他、上記に準ずるもの |
| ⑵文化系部・サークルの学内外でのイベント開催等 | ・文部科学省、全国地方自治体、各大学連盟、学生連盟、各種財団法人、社団法人等公益団体が主催するコンクール、イベント及び大会に参加する場合<br>・その他、上記に準ずるもの |
| ⑶学内外行事等 | ・大学祭、文化展、演武祭、その他学友会主催の行事、その他、学内外における活動に関しては、学務センター長が公認欠席に値すると判断し、学部長が承認したもの |

※⑶学内外行事等で承認された事項については、あらかじめすべての教員に報告することとする。

## 1 履修

### 広島経済大学履修細則

（昭和42年４月１日制定）
最終改正　令和２年２月18日

**第１章**　総則

（総則）

**第１条**　この細則は、広島経済大学学則（以下「学則」という。）第42条に基づき、授業科目の履修及び単位の修得に必要な事項を定める。

2　演習科目に関する細則は、別に定める。

**第２章**　履修科目の登録及び履修等

（履修科目の登録）

**第２条**　学生は毎学期の始め、指定の登録期間までに所定の履修登録手続により、履修科目を登録しなければならない。

2　履修する科目の選択は、別表に示す授業科目によるものとする。

3　登録をしていない科目の履修及び受験はできない。

4　同一時限に２つ以上の科目を重複して登録することはできない。

5　クラス指定をしている授業科目は、すべて決められたクラスで履修しなければならない。

**第３条**　削除

**第４条**　削除

（履修制限）

**第５条**　学生が１年間に履修登録できる単位数の上限（以下「履修制限単位数」という。）は、次のとおりとする。

| 履修制限単位数 | | | |
|---|---|---|---|
| １年次 | ２年次 | ３年次 | ４年次 |
| 40単位 | 48単位 | 48単位 | 48単位 |

2　前項に規定する履修制限単位数にかかわらず、前年度１年間の履修登録単位数が、第１項に定める履修制限単位数の８割以上であり、かつ、成績評定平均値（グレードポイントアベレージ。以下「ＧＰＡ」という。）が前年度１年間において3.0以上の者は、６単位までの追加履修登録を認める。

3　前項に定めるＧＰＡを求める計算は、次の換算式によるものとする。ただし、卒業認定の要件として必要な単位に計算されない科目の単位を除く。

$$\text{GPA}=\frac{\text{AAの単位数}\times4\text{点}+\text{Aの単位数}\times3\text{点}+\text{Bの単位数}\times2\text{点}+\text{Cの単位数}\times1\text{点}}{\text{履修科目の単位数（不可・評価不能・保留の単位数も含む）合計}}$$

4　第１項及び第２項に規定するほか、４年次生に限り後期に８単位までの追加履修登録を認める。

5　第１項、第２項及び第４項の規定にかかわらず履修制限単位数を超えて履修登録できる科目又は申請できる単位は次のとおりとする。

⑴　教職関連科目

⑵　資格振替単位

⑶　本学が教育上有益と認める施設等における研修プログラム

⑷　キャリア科目のうち、就職対策試験関係科目及びインターンシップ

⑸　共通科目における日本語文章表現科目のうち、文章検演習

6　教職課程において、２教科以上の教育職員免許状を取得しようとする者は、各年次において８単位までの追加履修登録を認める。なお、上記の場合、第２項に定める追加履修登録と併用することができない。

7　前項に定める追加履修登録を認める科目は次のとおりとする。

⑴　教育職員免許法施行規則　第66条の６に定める科目

⑵　教科及び教科の指導法に関する科目の教科に関する専門的事項

（履修科目の変更及び取消）

**第６条**　履修科目については、登録日以後の登録及びその変更又は取消しは一切認めない。

（卒業論文）

**第７条**　削除

**第８条**　削除

（共通科目）

**第９条**　共通科目における単位の修得にあたっては、学則第40条の定めるところにより、次条にしたがって修得しなければならない。

（共通科目〈必修科目、選択必修科目、選択科目〉）

**第１０条**　共通科目のうち外国語科目における単位の修得にあたっては、６単位を必修、２単位を選択必修として修得しなければならない。

2　前項の外国語科目の必修６単位については、次の科目を修得しなければならない。

⑴　１年次必修科目

ア　必修英語ＡⅠ（１単位）

イ　必修英語ＡⅡ（１単位）

ウ　必修英語ＢⅠ（１単位）

エ　必修英語ＢⅡ（１単位）

オ　必修英語ＣⅠ（１単位）

⑵　２年次必修科目　　必修英語ＣⅡ（１単位）

3　第１項の外国語科目の選択必修２単位については、原則として次の各号のいずれかにおいて２単位を修得しなければならない。ただし、同一年度における履修登録はいずれかのみとし、２以上履修登録することはできない。なお、２単位を超えて修得した単位数は、共通科目のうち選択科目の修得単位数として計算する。

⑴　英語理解・基礎徹底Ⅰ（１単位）及び英語理解・基礎徹底Ⅱ（１単位）の合計２単位

⑵　英語理解・標準Ⅰ（１単位）及び英語理解・標準Ⅱ（１単位）の合計２単位

⑶　英語理解・発展Ⅰ（１単位）及び英語理解・発展Ⅱ（１単位）の合計２単位

⑷　英語表現・基礎徹底Ⅰ（１単位）及び英語表現・基礎徹底Ⅱ（１単位）の合計２単位

⑸　英語表現・標準Ⅰ（１単位）及び英語表現・標準Ⅱ（１単位）の合計２単位

⑹　英語表現・発展Ⅰ（１単位）及び英語表現・発展Ⅱ（１単位）の合計２単位

4　第二外国語のうち、後期開講〇〇語Ⅱの履修については、同一外国語で前期に開講される〇〇語Ⅰの単位を修得していない者又は当該年度において履修していない者は、履修登録することができない。

5　学部における外国人留学生（交換留学生を除く。）が、留学生科目における日本語（基礎Ａ）（１単位）、日本語（基礎Ｂ）（１単位）、日本語（基礎Ｃ）（１単位）、日本語（基礎Ｄ）（１単位）、日本語（基礎Ｅ）（１単位）、日本語（基礎Ｆ）（１単位）を修得したときは、第２項第１号に定める１年次必修科目の単位数（５単位）に充当することができる。なお、５単位を超えて修得した単位数は、共通科目のうち選択科目の修得単位数として計算する。

6　学部における外国人留学生（交換留学生を除く。）が、留学生科目における日本語（発展Ａ）（１単位）、日本語（発展Ｂ）（１単位）、日本語（発展Ｃ）（１単位）、ビジネス日本語Ａ（１単位）、ビジネス日本語Ｂ（１単位）、ビジネス日本語Ｃ（１単位）を修得したときは、第２項第２号に定める２年次必修科目の単位数（１単位）及び第３項に定める選択必修科目の単位数（２単位）の合計単位数（３単位）に充当することができる。なお、３単位を超えて修得した単位数は、共通科目のうち選択科目の修得単位数として計算する。

7　削除

8　外国語科目のうち、必要単位数を超えて修得した単位数は、共通科目の卒業認定の要件として必要な単位数に充当することができる。

9　共通科目のうち、日本語文章表現（２単位）の修得にあたっては、次に定めるところにより必修として修得しなければならない。

⑴　日本語文章表現の授業でＣ評価以上を修め、公益財団法人日本漢字能力検定協会が実施する、文章読解・作成能力検定（以下「文章検」という。）３級以上の合格又は文章読解・作成能力テスト（以下「文作テスト」という。）３級以上の合格相当をもって単位を認定する。

⑵　本学に入学する前に文章検３級以上又は文作テスト３級以上の合格相当を取得している者については、日本語文章表現の授業でＣ評価以上を修め、文章検準２級以上の受検をもって単位を認定する。

⑶　学部における外国人留学生（交換留学生を除く。）については、文章検３級以上の合格又は文作テスト３級以上の合格相当に代えて本学が独自に実施する試験の合格をもって単位を認定する。

⑷　日本語文章表現の授業でＣ評価以上を修めたが、文章検３級以上又は文作テスト３級以上の合格相当を取得していない者については、日本語文章表現を再履修することは必要とせず、文章検３級以上の合格又は文作テスト３級以上の合格相当をもって単位を認定する。

⑸　日本語文章表現の授業でＣ評価以上を修めなかった者については、日本語文章表現を再履修し、Ｃ評価以上を修め、文章検３級以上の合格又は文作テスト３級以上の合格相当をもって単位を認定する。

⑹　３年次が終了するまでに文章検３級以上又は文作テスト３級以上の合格相当を取得していない者については、４年次における文章検演習の単位修得をもって文章検３級に合格したものとみなす。ただし、文章検演習で単位を取得した者の成績評価は「ＣＡ」とし、卒業認定の要件として必要な単位数には含まない。なお、文章検演習を受講できる者は、文章検３級以上と文作テスト３級以上を合わせて３回以上受検したものとする。

10　共通科目のうち、自己理解系科目（６単位）及び他者理解系科目（６単位）の修得にあたっては、次に定めるところにより選択必修として修得しなければならない。

⑴　自己理解系科目の６単位については、自己理解系の選択必修科目による６単位を修得しなければならない。なお、６単位を超えて修得した単位数は、共通科目のうち選択科目の修得単位数として計算する。

⑵　他者理解系科目の６単位については、他者理解系の選択必修科目による６単位を修得しなければならない。なお、６単位を超えて修得した単位数は、共通科目のうち選択科目の修得単位数として計算する。

11　共通科目のうち選択科目における単位の修得にあたっては、８単位以上を修得しなければならない。

**第１１条**　削除

（学科科目〈必修科目、選択科目〉）

**第１２条**　学部学科における学科科目（必修科目、選択科目）は次の履修要件に従って履修し、単位を修得しなければならない。

⑴　経済学部経済学科は次のとおりとする。

ア　経済学科科目の必修科目は、経済入門（２単位）、経営入門（２単位）、ファイナンス入門（２単位）、ミクロ経済学基礎Ⅰ（２単位）及びマクロ経済学基礎Ⅰ（２単位）とし、合計10単位を修得しなければならない。

イ　経済学科科目の選択科目は、必修科目及び資格関連科目以外の科目を選択して履修し、44単位以上を修得しなければならない。

⑵　経営学部経営学科は次のとおりとする。

ア　経営学科科目の必修科目は、経済入門（２単位）、経営入門（２単位）、簿記入門（２単位）、初級簿記Ⅰ（２単位）及び経営学概論（２単位）とし、合計10単位を修得しなければならない。

イ　経営学科科目の選択科目は、必修科目及び資格関連科目以外の科目を選択して履修し、44単位以上を修得しなければならない。

⑶　経営学部スポーツ経営学科は次のとおりとする。

ア　スポーツ経営学科科目の必修科目は、経済入門（２単位）、経営入門（２単位）、スポーツ経営入門（２単位）、スポーツ文化論（２単位）、スポーツ経営学（２単位）及びスポーツ産業論（２単位）とし、合計12単位を修得しなければならない。

イ　スポーツ経営学科科目の選択科目は、必修科目以外の科目を選択して履修し、経済・経営関連科目の中から10単位以上、スポーツ関連科目の中から８単位以上、実験・実習・演習科目の中から６単位以上の、合計42単位以上を修得しなければならない。

⑷　メディアビジネス学部ビジネス情報学科は次のとおりとする。

ア　ビジネス情報学科科目の必修科目は、経済入門（２単位）、経営入門（２単位）、情報入門演習Ｓ（２単位）、ビジネス概論（２単位）、ビジネス情報入門（２単位）及びビジネス情報入門ゼミ（２単位）とし、合計12単位を修得しなければならない。

イ　ビジネス情報学科科目の選択科目は、必修科目以外の科目を選択して履修し、42単位以上を修得しなければならない。

⑸　メディアビジネス学部メディアビジネス学科は次のとおりとする。

ア　メディアビジネス学科科目の必修科目は、経済入門（２単位）、経営入門（２単位）、メディアビジネス入門（２単位）、メディア論（２単位）、コミュニケーション論（２単位）及びメディア・マーケティング論（２単位）とし、合計12単位を修得しなければならない。

イ　メディアビジネス学科科目の選択科目は、必修科目以外の科目を選択して履修し、42単位以上を修得しなければならない。

２　削除

**第１２条の２**　削除

**第１３条**　削除

（能力開発科目）

**第１３条の２**　能力開発科目の修得単位数は、すべての学部学科について、自由選択科目の修得単位として計算する。

（キャリア科目）

**第１３条の３**　キャリア科目の修得単位数は、すべての学部学科について、自由選択科目の修得単位として計算する。

（興動館科目）

**第１３条の４**　興動館科目の修得単位数は、すべての学部学科について、自由選択科目の修得単位として計算する。

（他学科科目）

**第１４条**　学科科目のうち自学部他学科科目及び他学部他学科科目の修得単位数は、すべての学部学科について、自由選択科目の修得単位として計算する。

（自由選択科目）

**第１４条の２**　自由選択科目における単位の修得にあたっては、次の単位を充当するものとする。ただし、自由選択科目のうち、必要単位数を超えて修得した単位数は、卒業認定の要件として必要な単位数には含まない。

⑴　共通科目及び自学部自学科科目（経済学部経済学科及び経営学部経営学科は、資格関連科目を除く。）のうち卒業認定の要件として必要な単位を超えて修得した単位

⑵　自学部他学科科目及び他学部他学科科目のうち修得した単位

⑶　キャリア科目のうち修得した単位

⑷　能力開発科目のうち修得した単位

⑸　興動館科目のうち修得した単位

⑹　日本語科目を除く交換留学生科目のうち修得した単位

⑺　本学以外の単位互換科目のうち修得した単位

⑻　語学留学振替単位

⑼　経済学部経済学科及び経営学部経営学科については、自学部自学科科目における資格関連科目のうち修得した単位

（教職関連科目）

**第１５条**　教職関連科目については、単位を修得しても卒業認定の要件として必要な単位数には含まない。

（卒業見込必要単位数）

**第１６条**　卒業年次に卒業見込を証明するために必要な修得単位数は、３年次終了時に80単位以上、４年次前期終了時に104単位以上、前期卒業対象学生については４年次終了時に104単位以上とする。

## 第３章　試験及び単位の認定

（単位の認定）

**第１７条**　単位の認定は、定期の試験によって行う。なお、臨時の試験、論文試験等の平常試験がこれに加味される。

２　試験の結果、合格点を得た科目は再履修することができない。

（試験）

**第１８条**　定期の試験に関する細則は、別に定める。

## 第４章　経過措置（省略）

**附　則**

この細則は昭和42年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は平成12年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は平成12年７月１日から施行する。

**附　則**

この細則は平成13年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は平成13年７月１日から施行する。

**附　則**

この細則は平成14年４月１日から施行する。

附　則

この細則は平成14年６月１日から施行する。

附　則

この細則は平成15年４月１日から施行する。

附　則

この細則は平成16年４月１日から施行する。

附　則

この細則は平成17年４月１日から施行する。

附　則

この細則は平成18年４月１日から施行する。

附　則

この細則は平成19年４月１日から施行する。

附　則

この細則は平成20年４月１日から施行する。

附　則

この細則は平成21年４月１日から施行する。

附　則

この細則は平成22年４月１日から施行する。

附　則

1　この細則は、平成23年４月１日から施行する。

2　国際地域経済学科の学生は、この改正後の第12条第１項第３号の規定にかかわらず、当該学科に在籍する者が当該学科に在学しなくなるまでの間従前の例による。

附　則

この細則は、平成24年４月１日から施行する。

附　則

この細則は、平成25年４月１日から施行する。

附　則

1　この細則は、平成26年４月１日から施行する。

2　改正後の第５条第３項及び第12条第１項各号の規定については、平成26年度以降の入学生より適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例による。

3　改正後の第12条第１項第２号アの規定については、平成26年度以降の入学生より適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例によるが、平成25年度以前の入学生で、簿記原理Ⅰ（入門）（必修２単位）の単位未修得者については、改正後の簿記入門（必修２単位）を適用するものとする。

4　改正後の第12条第１項第５号アの規定については、平成26年度以降の入学生より適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例によるが、平成25年度以前の入学生で、情報基礎演習（必修４単位）の単位未修得者については、改正後の情報基礎演習Ⅰ（必修２単位）及び情報基礎演習Ⅱ（必修２単位）を適用するものとする。

附　則

1　この細則は、平成27年４月１日から施行する。

2　改正後の第５条第５項、第10条第１項から第３項まで、第10条第10項及び第11項、第12条第１項第２号及び第４号、第13条の２並びに第14条の２の規定については、平成27年度以降の入学生より適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例による。

3　改正後の第10条第５項、第６項及び第７項の規定については、平成27年度以降に入学した経済学部における外国人留学生（交換留学生を除く。）より適用し、それ以前に入学した外国人留学生については、なお従前の例によるが、平成26年度以前に入学した外国人留学生で、日本語Ⅰ（２単位）の単位未修得者については、改正後の日本語（基礎Ａ）（１単位）及び日本語（基礎Ｂ）（１単位）を、日本語Ⅱ（２単位）の単位未修得者については、改正後の日本語（基礎Ｄ）（１単位）及び日本語（基礎Ｅ）（１単位）を適用するものとする。

4　改正後の第12条第１項第５号の規定については、平成27年度以降の入学生より適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例によるが、平成26年度以前の入学生で、情報基礎演習Ⅰ（必修２単位）の単位未修得者については、改正後の情報処理入門Ⅰ（必修２単位）を、情報基礎演習Ⅱ（必修２単位）の単位未修得者については、改正後の情報処理入門Ⅱ（必修２単位）を、デジタルメディア基礎Ⅰ（必修２単位）の単位未修得者については、改正後の映像メディア論（必修２単位）を、デジタルメディア基礎Ⅱ（必修２単位）の単位未修得者については、改正後の音声メディア論（必修２単位）を、デジタルメディア基礎Ⅲ（必修２単位）の単位未修得者については、改正後のWebメディア論（必修２単位）を、デジタルメディア基礎Ⅳ（必修２単位）の単位未修得者については、改正後の出版メディア論（必修２単位）を、それぞれ適用するものとする。

5　改正後の第12条第１項第６号の規定については、平成27年度以降の入学生より適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例によるが、平成26年度以前の入学生で、スポーツ指導法演習Ⅰ（必修２単位）の単位未修得者については、改正後のスポーツ指導法演習（必修２単位）を適用するものとする。

6　改正後の第13条の４の規定については、平成27年度以降の入学生より適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例による。ただし、ただし書きの指定科目については、興動館プロジェクトと企画力（２単位）、興動館プロジェクトの計画と実施（２単位）、興動館プロジェクトの評価と改善（２単位）、広島とハワイで学ぼう！とびだせ国際人（２単位）、興動館プロジェクトとコミュニケーション（２単位）を追加するものとする。

附　則

1　この細則は、平成28年４月１日から施行する。

2　改正後の第５条第５項第４号及び第12条第１項第６号イの規定については、平成28年度以降の入学生より適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例による。

3　改正後の第５条第５項第５号及び第10条第９項第１号から第６号までの規定については、平成25年度以降の入学生より適用する。

附　則

1　この細則は、平成29年４月１日から施行する。

2　改正後の第５条第６項及び第７項の規定については、平成29年度以降の入学生より適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この細則は、平成30年４月１日から施行する。

2　改正後の第10条第７項の規定については、平成30年度以降の入学生より適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この細則は、平成31年４月１日から施行する。

2　改正後の第５条第５項第１号及び第７項第２号、第10条第５項、第６項及び第９項第３号、第12条第１項、第13条の２、第13条の３、第13条の４、第14条、第14条の２、第15条の規定については、平成31年度以降の入学生より適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この細則は、令和２年４月１日から施行する。

2　改正後の第10条第９項の規定については、令和２年度以降の入学生より適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例による。

## 広島経済大学演習細則

（平成23年３月３日制定）

最終改正　平成31年２月18日

（趣旨）

**第１条**　この細則は、広島経済大学履修細則第１条第２項の規

定に基づき、演習科目の履修及び単位等に関し、必要な事項を定めるものとする。

（演習科目等）

**第２条**　学部学科の演習科目、配当年次、授業タイプ及び単位数は、広島経済大学学則第33条に定める授業科目区分のうち、学科科目及びゼミ科目の区分の中から次のとおりとし、必修として単位を修得しなければならない。

⑴　経済学部経済学科、経営学部経営学科、経営学部スポーツ経済学科及びメディアビジネス学部メディアビジネス学科においては、次に定めるゼミ科目16単位

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ア | 大学入門ゼミ | １年次 | 前期 | ２単位 |
| イ | 興動人入門ゼミ | １年次 | 後期 | ２単位 |
| ウ | プレゼミ | ２年次 | 後期 | ２単位 |
| エ | 演習Ⅰ | ３年次 | 通年 | ４単位 |
| オ | 演習Ⅱ | ４年次 | 通年 | ６単位 |

⑵　メディアビジネス学部ビジネス情報学科においては、次に定めるゼミ科目16単位及び学科科目２単位の合計18単位

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ア | 大学入門ゼミ | １年次 | 前期 | ２単位 |
| イ | 興動人入門ゼミ | １年次 | 後期 | ２単位 |
| ウ | ビジネス情報入門ゼミ | ２年次 | 前期 | ２単位 |
| エ | プレゼミ | ２年次 | 後期 | ２単位 |
| オ | 演習Ⅰ | ３年次 | 通年 | ４単位 |
| カ | 演習Ⅱ | ４年次 | 通年 | ６単位 |

（単位の認定）

**第３条**　単位の認定は、通年の科目は年度末に行い、半期の科目は学期末に行う。ただし、卒業論文が認定されず、演習Ⅱの評価が保留となった者の単位の認定は、学期末に行う。

２　演習Ⅱは、指導教員の指導をうけ卒業論文を作成し、指定の期日までに提出するものとする。ただし、メディアビジネス学部メディアビジネス学科においては、指導教員の指導をうけ卒業作品又は卒業論文を作成し、指定の期日までに提出するものとする。

**第４条**　本学が認定した原則６か月以内の海外留学に参加する学生の留学期間中に行われるプレゼミ、演習Ⅰ及び演習Ⅱの単位の認定等については、別に定める本学が認定した海外留学に伴う演習科目の単位認定などに関する取扱いによる。

（指導教員）

**第５条**　演習科目の指導教員は、本学の専任教員とし、学長が決定する。

２　前項の規定にかかわらず、学長において必要かつ適当と認めた場合には、非常勤講師を指導教員とすることがある。

３　指導教員は、所属学生の研究活動、学習及び進路に係る指導を行う。

（履修定員）

**第６条**　各演習科目の一クラス当たりの履修定員は、各年度の演習履修予定学生数をその年度に開設される演習の数で除して得た数とする。

２　指導教員は、履修希望者があった場合、履修定員までは採用しなければならない。

３　履修定員を超えての採用は、原則として定員の２割増までとし、それを超えて採用することはできない。

４　前項の規定にかかわらず、プレゼミについては履修定員を超えて採用することはできない。

（大学入門ゼミ）

**第７条**　大学入門ゼミは、指定されたクラスで履修し、単位を修得しなければならない。

２　１年次前期に履修した大学入門ゼミの評価が、不可又は評価不能の者若しくは１年次前期において半期休学し、大学入門ゼミを未履修の者は、１年次後期に開講される再履修クラスを履修し、単位を修得しなければならない。

３　前項の再履修クラスにより履修した大学入門ゼミの評価が、不可又は評価不能の者若しくは大学入門ゼミを在籍年数１年目までに未履修の者は、第13条に規定する代替科目指定登録により単位を修得しなければならない。

（興動人入門ゼミ）

**第８条**　興動人入門ゼミは、原則として大学入門ゼミと同一指導教員とし、指定されたクラスで履修しなければならない。

２　１年次後期に履修した興動人入門ゼミの評価が、不可又は評価不能の者若しくは１年次において休学又は海外留学し、興動人入門ゼミを未履修の者は、次年度前期に開講される再履修クラスを履修し、単位を修得しなければならない。

３　前項の再履修クラスにより履修した興動人入門ゼミの評価が、不可又は評価不能の者若しくは興動人入門ゼミを在籍年数1.5年目までに未履修の者は、第13条に規定する代替科目指定登録により単位を修得しなければならない。

（ビジネス情報入門ゼミ）

**第９条**　メディアビジネス学部ビジネス情報学科の学生は、所定の期日までに希望するビジネス情報入門ゼミを指導教員の承認を得て履修し、単位を修得しなければならない。

２　ビジネス情報入門ゼミの評価が、不可又は評価不能の者若しくは休学又は海外留学しビジネス情報入門ゼミを未履修の者は、次年度に開講されるビジネス情報入門ゼミを再履修する。

３　再履修する場合のビジネス情報入門ゼミの指導教員は、前年度履修したビジネス情報入門ゼミと同一の指導教員でなくてもよい。

４　ビジネス情報入門ゼミの評価が、不可又は評価不能の者若しくはビジネス情報入門ゼミを未履修の者もプレゼミ及び演習Ⅰの履修はできるものとする。

（プレゼミ）

**第１０条**　学生は、所定の期日までに希望するプレゼミを指導教員の承認を得て履修し、単位を修得しなければならない。

２　プレゼミの評価が、不可又は評価不能の者は、次年度に開講されるプレゼミを再履修する。

３　再履修する場合のプレゼミの指導教員は、前年度履修したプレゼミと同一の指導教員でなくてもよい。

（演習Ⅰ）

**第１１条**　学生は、所定の期日までに希望する演習Ⅰを指導教員の承認を得て履修し、単位を修得しなければならない。

２　演習Ⅰの評価が、不可又は評価不能の者は、次年度に開講される演習Ⅰを再履修する。ただし、この場合演習Ⅰ及び演習Ⅱを同時に履修することはできない。

３　再履修する場合の演習Ⅰの指導教員は、前年度履修した演習Ⅰと同一の指導教員でなくてもよい。

（演習Ⅱ）

**第１２条**　演習Ⅰの単位を修得した者は、次年度に開講される同一指導教員の演習Ⅱを履修し、単位を修得しなければならない。

２　演習Ⅱの評価が、不可又は評価不能の者は、次年度に開講される同一指導教員の演習Ⅱを再履修する。

３　卒業論文が認定されず、演習Ⅱの評価が保留の者は、引き続き半期を単位とし、同一指導教員の指導をうけるものとする。

４　前３項の規定にかかわらず、指導教員がやむを得ない事由があると認めた場合は、年度初めに限り指導教員を変更することができる。

（代替科目指定登録による単位修得）

**第１３条**　代替科目指定登録により、大学入門ゼミ又は興動人入門ゼミの単位を修得する者は、必修科目及び卒業認定の要件とならない科目を除く本学の授業科目のうち単位未修得科目から、代替科目指定登録届により修得する単位数分の科目を申請し、その科目の単位修得をもって振り替えなければならない。

２　履修登録における代替科目の履修単位数は、履修制限単位数に含めて登録するものとする。

３　代替科目指定登録届の届出は、科目ごとに指定された次の届出時期で、各学期初めの指定された期間に学務センター教

務課へ届け出なければならない。
⑴　大学入門ゼミの届出は、在籍年数１年以上
⑵　興動人入門ゼミの届出は、在籍年数1.5年以上
4　代替科目指定登録届で届け出た科目以外の科目の修得単位を、代替科目の単位に振り替えることはできない。

**附　則**

1　この細則は、平成23年４月１日から施行する。
2　広島経済大学演習細則（昭和56年４月１日制定）は廃止する。
3　従前の広島経済大学演習細則の中に示された演習科目のうち、下表左欄に掲げる演習科目履修については、本規則の中に示された科目のうち、下表右欄に掲げる授業科目を履修したものとして取り扱う。

| 学科名 | 旧演習細則上の科目 | | 新演習細則上の科目 | |
|---|---|---|---|---|
| | 科目名 | 単位 | 科目名 | 単位 |
| 経済学科<br>経営学科<br>国際地域経済学科<br>ビジネス情報学科<br>メディアビジネス学科 | 入門ゼミ | 2 | 入門ゼミⅠ | 2 |
| | 文章表現基礎演習 | 2 | 入門ゼミⅡ | 2 |
| ビジネス情報学科 | 卒業研究Ⅰ<br>卒業研究Ⅱ | 2<br>2 | 卒業研究Ⅰ（3年） | 4 |
| | 卒業研究Ⅲ<br>卒業研究Ⅳ | 2<br>2 | 卒業研究Ⅱ（4年） | 4 |
| メディアビジネス学科 | デジタルメディア制作演習Ⅰ<br>デジタルメディア制作演習Ⅱ | 4<br>4 | メディアビジネス演習Ⅰ | 4 |
| | デジタルメディア制作演習 | 4 | | |
| | 卒業制作・研究Ⅰ<br>卒業制作・研究Ⅱ | 2<br>2 | メディアビジネス演習Ⅱ | 4 |
| | 卒業制作・研究 | 4 | | |

4　第２条第１項第２号の規定にかかわらず、平成17年度以前にビジネス情報学科に入学した学生は、第２条第１項第２号ア及びイのゼミ科目４単位並びに第２条第１項第２号ウの学科科目４単位の合計８単位のみ必修科目とし、エ及びオは学科科目の選択科目とする。
5　第２条第１項第３号の規定にかかわらず、平成17年度以前にメディアビジネス学科に入学した学生は、第２条第１項第３号アからエ及びカ並びに３年次配当のデジタルメディア制作演習Ⅰ及びⅡ各４単位の合計20単位を必修として単位を修得しなければならない。
6　第12条第４項の規定にかかわらず、平成17年度以前にビジネス情報学科に入学した学生は、グループ演習の履修を辞退することはできない。
7　第12条第６項の規定にかかわらず、平成17年度以前にビジネス情報学科に入学した学生は、他の科目をグループ演習の単位として振り替えることはできない。
8　第13条及び第14条の規定は、平成17年度以前の学生が履修する場合は、必修科目としてではなく、選択科目として修得することができると読み替えるものとする。

**附　則**

この細則は、平成25年４月１日から施行する。

**附　則**

1　この細則は、平成26年４月１日から施行する。
2　改正後の規定については、平成26年度入学生から適用し、平成25年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

**附　則**

1　この細則は、平成27年４月１日から施行する。
2　改正後の第２条、第７条、第８条、第９条及び第13条の規定については、平成27年度入学生から適用し、平成26年度以前に入学した者については、なお従前の例による。
3　改正前の第12条及び第13条の規定については、平成26年度以前に入学したスポーツ経営学科の学生は、なおこの規定を適用する。
4　改正後の第３条第１項ただし書きの規定については、平成26年度入学生から適用する。
5　平成25年度以前メディアビジネス学科入学生の３年次演習科目メディアビジネス演習Ⅰの履修については、２年次演習科目デジタルメディア表現Ⅰ及びデジタルメディア表現Ⅱの単位を修得していなくても、平成27年度以降履修できるものとする。

**附　則**

1　この細則は、平成27年９月１日から施行する。
2　改正後の第４条の規定については、平成26年度入学生から適用し、平成25年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

**附　則**

1　この細則は、平成28年４月１日から施行する。
2　改正後の第６条第４項の規定については、平成28年度以降のプレゼミ履修希望者採用時より適用する。

**附　則**

1　この細則は、平成31年４月１日から施行する。
2　改正後の第２条、第３条第２項及び第９条第１項の規定については、平成31年度入学生から適用し、平成30年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

## 本学が認定した海外留学に伴う演習科目の単位認定などに関する取扱い

（平成23年３月３日制定）
最終改正　平成31年２月４日

**第１条**　この取扱いは、広島経済大学演習細則第４条の規定に基づき、本学が認定した海外留学に伴うプレゼミ、演習Ⅰ又は演習Ⅱの単位の認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

（定義）

**第２条**　この取扱いにおいて「留学」とは、海外における留学期間が年度内に原則６か月以内の留学をいう。

（届出）

**第３条**　在学中に留学を希望する者は、留学する学期の初めに留学に伴う演習科目履修届を教務課に提出しなければならない。

（プレゼミの単位認定）

**第４条**　２年次後期において留学し、プレゼミを未履修の者のうち、広島経済大学進級細則（以下「進級細則」という。）第３条第２項により進級したもの又は進級細則第４条第２項により仮進級したものについては、プレゼミの未修得単位数を自学部自学科科目の履修科目又は既修得科目の中から代替指定登録する科目の単位数で補うものとする。ただし、必修科目及び資格関連科目は除く。
2　代替指定登録は、４年次後期の初めまでに行わなくてはならない。
3　代替指定登録科目の修得単位数は、プレゼミに関する履修条件及び卒業要件として必要な単位数として計算する。

（演習Ⅰ又は演習Ⅱの単位認定）

**第５条**　演習Ⅰは、留学する年度の初めまでに履修登録を行わなければならない。
2　演習Ⅰ又は演習Ⅱは、留学中の期間を除いて授業に出席し、単位の認定を受けなければならない。
3　留学期間中は、指導教員から適切な指導が行われるものとする。
4　前２項により、留学した場合の演習Ⅰ又は演習Ⅱの単位数については次のとおりとする。
⑴　演習Ⅰ　（３年次）　２単位
⑵　演習Ⅱ　（４年次）　４単位
5　前項により演習Ⅰ又は演習Ⅱの留学に伴い不足する２単位分は、自学部自学科科目の必修科目を除く発展・応用科目の

うち、履修科目又は既修得科目の中から代替指定登録する科目の単位数で補うものとする。

6　代替指定登録は、４年次後期の初めまでに行わなくてはならない。

7　代替指定登録科目の修得単位数は、演習Ⅰ又は演習Ⅱに関する履修条件及び卒業要件として必要な単位数として計算する。

（単位の振替）

**第６条**　前２条の規定にかかわらず、本学が認定した留学先において、本学の演習科目と同等の専門科目の単位を修得した場合には、正規演習科目を修得したものとして単位を振替える。

**附　則**

この取扱いは、平成23年３月３日から施行する。

**附　則**

1　この取扱いは、平成26年４月１日から施行する。

2　改正後の規定については、平成26年度入学生から適用し、平成25年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

**附　則**

1　この取扱いは、平成27年４月１日から施行する。

2　改正後の８の規定については、平成27年度スポーツ経営学科入学生から適用し、平成26年度以前にスポーツ経営学科に入学した者については、なお従前の例による。

**附　則**

1　この取扱いは、平成27年９月１日から施行する。

2　改正後の第４条の規定については、平成26年度入学生から適用する。

3　改正後の第５条第４項の規定については、平成27年度入学生から適用し、それ以前の入学生については、次のとおりとする。

| 入学年度 | 科目名 | 配当年次 | 単位数 |
|---|---|---|---|
| 平成25年度以前入学生 | 演習Ⅰ | ３年次 | ２単位 |
| | 演習Ⅱ | ４年次 | ６単位 |
| | グループ演習 | ２年次 | ２単位 |
| | 卒業研究Ⅰ（３年） | ３年次 | ２単位 |
| | 卒業研究Ⅱ（４年） | ４年次 | ２単位 |
| | メディアビジネス演習Ⅰ | ３年次 | ２単位 |
| | メディアビジネス演習Ⅱ | ４年次 | ２単位 |
| | 卒業研究Ⅰ | ３年次 | ２単位 |
| | 卒業研究Ⅱ | ４年次 | ２単位 |
| 平成26年度入学生 | 演習Ⅰ | ３年次 | ２単位 |
| | 演習Ⅱ | ４年次 | ４単位 |
| | 卒業研究Ⅰ | ３年次 | ２単位 |
| | 卒業研究Ⅱ | ４年次 | ２単位 |

**附　則**

この細則は、平成31年４月１日から施行する。

## 広島経済大学学位規程

**第１章**　総則

（趣旨）

**第１条**　この規程は、学位規則（昭和28年文部省令第９号）、広島経済大学学則（以下「学則」という。）第10条第２項及び広島経済大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第21条に基づき、本学が授与する学位に関し必要な事項を定めるものとする。

**第２章**　学位の種類等

（学位の種類）

**第２条**　本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

（専攻分野の名称）

**第３条**　学位を授与するに当たっては、次の区分に従い専攻分野の名称を付記する。

⑴　学士の学位に付記する専攻分野の名称

| 学部 | 学科 | 専攻分野の名称 |
|---|---|---|
| 経済学部 | 経済学科 | 経済学 |
| 経営学部 | 経営学科 | 経営学 |
| | スポーツ経営学科 | スポーツ経営学 |
| メディアビジネス学部 | ビジネス情報学科 | 経営学 |
| | メディアビジネス学科 | 経営学 |

⑵　修士及び博士の学位に付記する専攻分野の名称

| 研究科・専攻 | 専攻分野の名称 | |
|---|---|---|
| | 修士 | 博士 |
| 経済学研究科経済学専攻 | 経済学 | 経済学 |

（学位の名称）

**第４条**　学位の名称を用いるときは、本学名を付記するものとする。

**第３章**　学位授与の要件

（学士の学位授与の要件）

**第５条**　学士の学位は、学則第９条の定めるところにより、学部を卒業した者に授与する。

**第３章第６条から第４章第２６条　省略（大学院関係）**

**第５章**　雑則

（学位の取消し）

**第２７条**　学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為をしたとき、又は不正の方法により学位を受けた事実が判明したときは、学士の学位については第二教授会、修士及び博士の学位については研究科委員会の審議を経て、学長が学位を取り消し、学位記を還付させ、かつ、その旨を公表するものとする。

（学位記の再交付）

**第２８条**　学位記の再交付を受けようとするときは、その事由を具し、所定の手数料を添えて学長に願い出なければならない。

（学位記及び書類の様式）

**第２９条**　学位記及び学位申請関係書類の様式は、別表第１及び別表第２のとおりとする。

（規程の改廃）

**第３０条**　この規程の改廃は、学士の学位に関することは第二教授会、修士及び博士の学位に関することは研究科委員会の審議を経て、学長が承認し、理事会が決定する。

（その他）

**第３１条**　この規程に定めるもののほか、必要な事項については第二教授会又は研究科委員会の審議を経て、学長が定めるものとする。

**附　則**

1　この規程は、平成元年４月１日から適用する。

2　平成元年３月31日以前に大学院に入学した学生に関しては、旧学則を適用する。

**附　則**

この規程は、平成７年４月１日から適用する。

**附　則**

この規程は、平成10年10月15日から適用する。

**附　則**

この規程は、平成12年４月１日から適用する。

**附　則**

この規程は、平成14年４月１日から適用する。

**附　則**

この規程は、平成15年４月１日から適用する。

**附　則**

この規程は、平成17年４月１日から適用する。

**附　則**

この規程は、平成19年４月１日から施行する。

**附　則**

この規程は、平成23年４月１日から施行する。

**附　則**

1　この規程は、平成26年４月１日から施行する。

2　改正後の第３条第１項第１号の規定にかかわらず、国際地域経済学科に在籍中の者に、当該学科を卒業した際に授与する学位に付記する専攻分野の名称については、なお従前の例による。

3　改正後の第24条、第25条及び第26条の規定については、平成25年４月１日以後に博士の学位を授与した場合について適用し、同日前に博士の学位を授与した場合については、なお従前の例による。

**附　則**

この規程は、平成27年４月１日から施行する。

**附　則**

この規程は、平成28年４月１日から施行する。

**附　則**

1　この規程は、平成31年４月１日から施行する。

2　改正後の第３条第１項第１号の規定にかかわらず、経営学科、ビジネス情報学科及びメディアビジネス学科に在籍中の者に、当該学科を卒業した際に授与する学位に付記する専攻分野の名称については、次のとおりとする。

学士の学位に付記する専攻分野の名称

| 学部 | 学科 | 専攻分野の名称 |
|---|---|---|
| 経済学部 | 経営学科 | 経済学 |
| | ビジネス情報学科 | 経済学 |
| | メディアビジネス学科 | 経済学 |

**別表第１（第２９条関係）**

**１　第５条の規定により授与する学位記の様式**

（学部を卒業した場合）

第　　号

学　位　記

氏　名

年　　月　　日生

本学　　学部　　学科所定の課程を修め本学を卒業したので学士（　　）の学位を授与する

年　　月　　日

学校法人　石田学園

広島経済大学

学　長

**別表第１（２－４）、別表第２は省略**

## 自然災害による緊急時（交通機関の運行停止と特別な状況に伴う）の授業・学内定期試験の取扱い

（平成14年３月７日制定）

最終改正　令和元年８月23日

1．交通機関の運行停止の内容と対応

⑴　ＪＲ可部線が運行停止となっている場合の対応は、下表のとおりとする。

【運行停止の内容と授業・学内定期試験の対応】

| 運行停止の内容 | 授　　業 | 学内定期試験 |
|---|---|---|
| 午前６時までに運行開始 | １時限目から実施とする | １時限目から実施とする |
| 午前10時までに運行開始 | ３時限目から実施とする | ４時限目から実施とする |
| 午前10時現在運行停止中 | 当日の授業をすべて休講とする | 当日の学内定期試験をすべて延期とする |
| 授業又は学内定期試験の実施時間帯に運行停止（非常災害） | その後に開始する授業を休講とする<br>※特に緊急を要する場合は、即時授業を休講とする | その後に開始する学内定期試験を延期とする<br>※特に緊急を要する場合は、即時試験を延期とする |

※上記以外の交通機関運行停止の場合は、原則として平常どおり授業（学内定期試験を含む）を行う。

⑵　JR 可部線の運行停止が継続している場合の対応については、学長の判断によるものとする。

2．風・雨・雪に関する警報発令、特別警報発令及び避難勧告又は避難指示の発令（以下「警報等の発令」という）の内容と対応

下記の⑴から⑸のいずれか一つに該当する場合の対応は、下表のとおりとする。

⑴　広島市を対象に暴風、大雨の各警報が同時に発令。

⑵　広島市を対象に暴風雪警報が発令。

⑶　広島市を対象に暴風、大雪の各警報が同時に発令。

⑷　広島市を対象に特別警報（大雨、暴風、高潮、波浪、暴風雪、大雪、津波、火山噴火、地震）が発令。

⑸　本学が所在する祇園小学校区に避難勧告又は避難指示（緊急）の避難情報が発令。

【警報等の発令と授業・学内定期試験の対応】

| 警報の発令 | 授　　業 | 学内定期試験 |
|---|---|---|
| 午前６時から９時（１限目の授業開始）までの間に、警報等の発令が発表された場合 | 当日の１時限目及び２時限目の授業を休講とする | 当日の１時限目から３時限目までの学内定期試験を延期とする |
| 上記の場合に継続して、午前10時現在、警報等の発令が発表されている場合 | 当日の授業をすべて休講とする | 当日の学内定期試験をすべて延期とする |
| 授業又は学内定期試験の実施時間帯において、警報等の発令が発表された場合 | その後に開始する授業を休講とする<br>※特に緊急を要する場合は、即時授業を休講とする | その後に開始する学内定期試験を延期とする<br>※特に緊急を要する場合は、即時試験を延期とする |
| 前日の段階で警報等の発令が発表される可能性が大きいと予測される場合 | 学長の判断により、前日に翌日の授業の休講を決定することがある | 学長の判断により、前日に翌日の学内定期試験の延期を決定することがある |

3．休講及び学内定期試験延期に伴う、補講・定期試験実施について

⑴　警報等の発令による休講に対する補講については、その都度協議のうえ決定する。

⑵　警報等の発令により延期された学内定期試験については、定期試験予備日で実施する。

4．注意事項

⑴　交通機関の運行停止、台風情報、警報等の発令に関する内容については、ニュース速報等で確認すること（大学への電話による問い合わせはしないこと）。

⑵　交通機関の運行停止又は遅延により欠席した場合は、学生課もしくは教務課のいずれかへ届け出て必要な手続きをとること。また、交通機関の運行停止又は遅延により遅刻した場合は、担当教員へ直接届け出ること。
⑶　実施されなかった授業の補講並びに学内定期試験の日程については、後日掲示する。
⑷　交通機関の運行停止、台風接近、警報等の発令以外に、特別な状況（授業及び学内定期試験等の実施に支障をきたす事態）が発生した場合、授業を短縮又は休講並びに学内定期試験を延期することがある。
⑸　居住地区に警報等の発令があった際は、避難勧告等の指示に従い、身の安全を第一に考えて行動すること。

5．確認方法

⑴　交通機関の運行停止、台風接近、警報等の発令又は災害発生時の対応について、学生及び教職員はその状況をテレビ又はラジオのニュースなどで確認した上で判断しなければならないが、大学当局はできる限り、ポータルサイト「ＨＵＥ ＮＡＶＩ（ヒューナビ）」の緊急案内にてその対応を通知する。
⑵　学生・教職員は携帯電話並びにインターネットを利用して、ポータルサイト「ＨＵＥ ＮＡＶＩ（ヒューナビ）」から情報を入手することとし、大学への電話による問い合わせはしないこと。
⑶　ポータルサイト「ＨＵＥ ＮＡＶＩ（ヒューナビ）」へのアクセスは次のとおりとする。
ア）スマートフォン：https://navi.hue.ac.jp/sp
イ）インターネット（パソコン）：https://navi.hue.ac.jp

**附　則**

この取扱いは、平成14年４月１日から施行する。

**附　則**

この取扱いは、平成17年４月１日から施行する。

**附　則**

この取扱いは、平成18年４月１日から施行する。

**附　則**

この取扱いは、平成21年４月１日から施行する。

**附　則**

この取扱いは、平成21年９月９日から施行する。

**附　則**

この取扱いは、平成22年７月９日から施行する。

**附　則**

この取扱いは、平成23年４月１日から施行する。

**附　則**

この取扱いは、平成25年11月14日から施行する。

**附　則**

この取扱いは、平成27年４月１日から施行する。

**附　則**

この取扱いは、令和元年8月23日から施行する。

## 広島経済大学学内定期試験細則

（平成20年１月10日制定）
最終改正　令和元年11月22日

（目的）

**第１条**　この細則は、広島経済大学学則第43条に基づき、学内定期試験の公正な実施のために必要な事項を定めることを目的とする。

（時期）

**第２条**　各授業科目は、毎学期末に試験を行うことを原則とする。

（試験時間）

**第３条**　試験時間は50分とする。

（受験資格の喪失）

**第４条**　次の各号のいずれかに該当する者は、定期試験を受けることができない。
⑴　学則第27条第１項に規定する学費等が未納の者
⑵　当該科目の履修登録をしていない者
⑶　出席回数が総授業回数の３分の２に満たない者のうち、担当教員から受験を禁じられた者
⑷　当該科目の試験開始時刻に15分以上遅刻した者
⑸　学生証を携帯していない者
⑹　休学中の者
⑺　停学中の者

（受験者の義務）

**第５条**　受験者は、次の各号に定める事項を遵守しなければならない。
⑴　試験場における行動は、すべて監督者の指示に従うこと。
⑵　試験場では指定された座席で受験すること。
⑶　学生証を机上に呈示すること。
⑷　答案には、学籍番号及び氏名を必ず記入すること。なお、記入はペン又はボールペンを使用すること。
⑸　試験開始35分以内は退室しないこと。
⑹　試験終了５分前から試験監督者の指示があるまで退室しないこと。
⑺　不正行為をしないこと。

（仮学生証の交付）

**第６条**　学生証を忘れた場合は、仮学生証の交付を学生課で受け、これを机上に呈示して受験することができる。ただし、仮学生証は当日のみ有効とする。

２　仮学生証の交付は、当該試験期間中に１回のみとし、２度目に学生証を忘れたときは、仮学生証は交付しない。この場合、試験を受けることはできない。

（不正行為）

**第７条**　定期試験における不正行為は、自身において自己の能力を見誤る結果に繋がる重大な背信行為であるとともに、自らの学修権（履修、学修、単位の修得に係わる各権利）を放棄する行為であるものとする。

２　不正行為とは、次の各号のいずれかに該当する行為をいう。
⑴　持ち込みが認められている物品を貸借
⑵　答案を写す（他人の答案を見た者、他人に答案を見せた者）
⑶　答案の無断持出（自分の答案を不提出、他人の答案を持ち去る）
⑷　私語、動作等による連絡
⑸　カンニングペーパーの持ち込み及び使用
⑹　書き込み利用（机・身体・辞書・その他所持品等による）
⑺　使用が許可されていない教科書、電子機器、その他の物品を使用
⑻　答案の交換（合意による交換、他人の答案の名前を書き換え）
⑼　代人受験（代わりに受験した者、代わりに受験させた者）
⑽　監督者の指示に従わない行動
⑾　監督者の注意に対する暴言暴力
⑿　その他、不正行為と認められる行為

（不正行為を行った学生に対する処分）

**第８条**　受験中に不正行為を行った者に対しては即時退場を命ずる。なお、処分（成績評価及び懲戒）については、次のとおりとする。
⑴　成績評価の取り扱い（当該科目のみを無効とする又は当該学期の定期試験期間中に試験を実施した科目をすべて無効とする。）及び学則第32条による懲戒については、不正行為の内容と程度により決定するものとし、学生生活委員会に諮り、学長が決定する。
⑵　各種奨学金の受給者については、支給を停止する。

２　定期試験終了後に不正行為が判明した場合又は制作物及びレポート等についても不正と認められた場合は第１項に準ずる。

（定期試験以外の試験における不正行為の扱い）
**第９条**　定期試験以外の試験において不正行為が行われた場合は、この規定の目的に照らし、当該試験に係る科目担当者の判断において、前条各項に準じて対処する。
（追試験の受験資格）
**第１０条**　追試験は、定期試験を欠席した者のうち、次の各号のいずれかに該当し、やむを得ない事由があると認められたものに対して行う。
⑴　天災その他の非常災害
⑵　交通機関の突発事故
⑶　２親等以内の親族の死亡による忌引
ア　配偶者（７日間以内）
イ　１親等（父母・子）の親族（７日間以内）
ウ　２親等（祖父母・兄弟・姉妹・孫）の親族（３日間以内）
⑷　就職試験の受験及び企業の内定式など出席を義務付けられている行事への出席（キャリアセンターの承認したもの。）
⑸　病気又はけが（医師の診断書により受験が困難と判断されたもの。）
⑹　学校保健安全法施行規則（昭和33年文部省令第18号）に定められた感染症への感染
⑺　スポーツ・文化活動で国際大会、国内の権威ある大会及びこれに準ずる大会への出場
⑻　単位互換科目の試験との重複
⑼　インターンシッププログラムへの参加
⑽　教育実習及び介護等の体験
⑾　裁判員としての裁判への参加
（追試験の手続）
**第１１条**　追試験を希望する者は、当該科目の試験終了後所定の期間内に、追試験受験申請書に前項のやむを得ない事由を証明する書類（病気､けが及び感染症の場合は医師の診断書）を添えて、提出しなければならない。
（追試験の実施）
**第１２条**　追試験は、学年暦に定める追試験期間に実施し、日時、方法等については、事前に通知する。
（追試験の成績）
**第１３条**　追試験の成績は、定期試験に準ずる。
（追試験の欠席）
**第１４条**　追試験を欠席した者に対して、再度追試験は行わない。
（再試験の受験資格）
**第１５条**　４年次生で再試験を受験できる者は、定期試験又は追試験を行った科目において成績評価点が50点以上59点以下で不可となったものとする。
２　１年次生から３年次生で再試験を受験できる者は、定期試験又は追試験を行った必修科目において成績評価点が50点以上59点以下で不可となったものとする。
３　前項の必修科目とは、共通科目及び自学部自学科科目において必修として修得しなければならない科目とし、教育職員免許状を取得するために、必修として修得しなければならない教科及び教科の指導法に関する科目の教科に関する専門的事項及び教職関連科目は該当しないものとする。
（再試験の手続）
**第１６条**　再試験を希望する者は、再試験受験申請書に受験料を添え、所定の期間内に願い出なければならない。
（再試験の実施）
**第１７条**　再試験は、学年暦に定める再試験期間に実施し、日時、方法等については、事前に通知する。
（再試験の成績）
**第１８条**　再試験の成績は、再試験の結果のみで評価し、授業期間中に行った小テスト、レポート等の評価を含めないものとする。
２　再試験で合格した者の成績評価はＣとし、素点は60点とする。
（再試験の欠席）
**第１９条**　再試験を欠席した者に対して、追試験は行わない。
（再試験の受験料）
**第２０条**　再試験の受験料は、１科目につき3,000円とする。
２　再試験により成績評価がＣとなった科目の受験料については、これを返還する。
３　前項に該当しない科目の受験料については、理由のいかんにかかわらず、一切これを返還しない。

**附　則**
この細則は、平成20年４月１日から施行する。

**附　則**
この細則は、平成21年４月１日から施行する。

**附　則**
この細則は、平成22年８月１日から施行する。

**附　則**
この細則は、平成23年４月１日から施行する。

**附　則**
この細則は、平成26年４月１日から施行する。

**附　則**
この細則は、平成27年４月１日から施行する。

**附　則**
この細則は、平成28年４月１日から施行する。

**附　則**
この細則は、平成28年１月１日から施行する。

**附　則**
１　この細則は、平成31年４月１日から施行する。
２　改正後の第15条第３項の規定については、平成31年度以降の入学生より適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例による。

**附　則**
この細則は、令和２年４月１日から施行する。

## 広島経済大学進級細則

（平成26年１月９日制定）
最終改正　平成28年１月14日

（趣旨）
**第１条**　この細則は、広島経済大学学則第８条の３第２項に基づき、２年次の学生の３年次への進級に関し、必要な事項を定めるものとする。
（進級認定）
**第２条**　２年次の学生の３年次への進級は、２年次の年度末に進級判定を行い、次条に定める進級認定の要件を充足した者に対し、第二教授会の審議を経て、学長が認定する。
（進級認定の要件）
**第３条**　２年次の学生の３年次への進級認定の要件は、次に定める共通科目の外国語科目から４単位以上、ゼミ科目から６単位すべてを修得し、卒業認定の要件として必要な単位を51単位以上修得していることとする。

| 科目区分 | 授業科目 | 単位数 | 進級に必要な単位数 |
|---|---|---|---|
| 共通科目<br>外国語科目 | 必修英語ＡⅠ<br>必修英語ＡⅡ<br>必修英語ＢⅠ<br>必修英語ＢⅡ<br>必修英語ＣⅠ<br>必修英語ＣⅡ | １単位<br>１単位<br>１単位<br>１単位<br>１単位<br>１単位 | ４単位以上 |
| ゼミ科目 | 大学入門ゼミ<br>興動人入門ゼミ<br>プレゼミ | ２単位<br>２単位<br>２単位 | ６単位 |

2　前項の規定にかかわらず、２年次後期に本学が認定した原則６か月以内の海外留学に参加した学生（以下「海外留学生」という。）の３年次への進級認定の要件については、海外留学した年度に限り、前項に定める共通科目の外国科目から４単位以上、ゼミ科目からプレゼミを除く２科目４単位を修得し、卒業認定の要件として必要な単位を51単位以上修得していることとする。

3　前２項の要件に満たない学生は、２年次に留年するものとする。

4　前項の規定により留年した海外留学生の次年度における進級判定は、第１項の要件により行うものとする。

（仮進級の認定）

**第４条**　前条第３項により２年次に留年となった学生のうち、前条第１項に定める共通科目の外国語科目から４単位以上、ゼミ科目から６単位すべてを修得し、卒業認定の要件として必要な単位を45単位以上修得している者については、次年度において３年次への仮進級を認め、３年次配当科目の履修を認めるものとする。

2　前項の規定にかかわらず海外留学生は、海外留学した年度に限り、前条第１項に定める共通科目の外国語科目から４単位以上、ゼミ科目からプレゼミを除く２科目４単位を修得し、卒業認定の要件として必要な単位を45単位以上修得している者について、次年度において３年次への仮進級を認め、３年次配当科目の履修を認めるものとする。

3　海外留学生の海外留学年度以降の仮進級の認定については、第１項により行うものとする。

（仮進級認定者の進級認定）

**第５条**　前条により仮進級した学生の３年次への進級判定は、前学期末に行うものとする。

2　仮進級した学生の３年次への進級認定の要件は、前学期末に卒業認定の要件として必要な単位数を63単位以上修得していることとし、62単位以下の者については、仮進級を取り消すものとする。

3　前項の規定により仮進級を取り消され２年次に留年となった者の仮進級中に履修登録した３年次配当の科目については、次のとおり取り扱うものとする。

⑴　前学期開講科目については、履修を認め修得した単位を認める。

⑵　後学期開講科目及び通年開講科目については、その履修を取り消す。

**附　則**

この細則は、平成26年４月１日から施行し、平成26年度以降の入学生から適用するものとする。

**附　則**

1　この細則は、平成27年４月１日から施行する。

2　改正後の第３条第１項、第４条及び第５条第２項の規定については、平成27年度入学生から適用し、平成26年度に入学した者については、なお従前の例による。

**附　則**

1　この細則は、平成27年９月１日から施行する。

2　改正後の第３条第２項に規定している卒業認定の要件として必要な単位を51単位以上修得していることは、平成27年度以降入学生から適用し、平成26年度に入学した者については、52単位以上修得していることとする。

3　改正後の第４条第２項に規定している卒業認定の要件として必要な単位を45単位以上修得していることは、平成27年度以降入学生から適用し、平成26年度に入学した者については、46単位以上修得していることとする。

**附　則**

1　この細則は、平成28年４月１日から施行する。

2　改正後の第３条第１項及び第２項並びに第４条第１項及び第２項の規定については、平成27年度以降入学生から適用し、平成26年度に入学した者については、なお従前の例による。

## 2 学籍

### 広島経済大学再入学に関する細則

（平成９年４月１日制定）

最終改正　平成31年２月４日

（趣旨）

**第１条**　この細則は、広島経済大学学則（以下「学則」という。）第26条に規定するもののほか再入学について必要な事項を定めるものとする。

（出願資格）

**第２条**　再入学を出願できる者は、次の各号のいずれかに該当する退学者又は除籍者で、学籍異動承認日から再入学願受付日までの期間が５年以内のものとする。

⑴　学則第24条により退学した者で、退学の理由が消滅したもの

⑵　学則第25条第１項第２号、第３号及び第４号により除籍された者で、除籍の理由が消滅したもの

（出願できる学部学科）

**第３条**　再入学を出願できる学部学科は、離籍前に在籍していた学部学科とする。

2　離籍前に在籍していた学部学科の改組等が行われた場合は、同一とみなす学部学科へ再入学を出願するものとする。

（出願手続）

**第４条**　再入学を志願する者は、所定の期間内に次に掲げる出願書類を学務センター教務課に提出するものとする。

⑴　再入学願（本学所定の用紙）

⑵　再入学承諾書（会社等に在職している者のみ）（本学所定の用紙）

⑶　単位・成績証明書

⑷　在籍期間証明書

⑸　その他本学が必要とする書類

2　出願に関する申請料は、不要とする。

（選考及び再入学の許可）

**第５条**　再入学を志願する者の選考は、前項の出願書類及び離籍時に提出した退学願により教務委員会が行う。

2　再入学の許可は、前項の選考に基づき学長が行う。

（再入学時期）

**第６条**　再入学者の入学時期は、学期の初めとする。

（再入学年次）

**第７条**　再入学年次については、学則第26条第１項によりその事情を調査の上、相当の年次に再入学を許可する。

（再入学手続）

**第８条**　再入学を許可された者は、所定の期間内に次に掲げる書類を提出しなければならない。

⑴　写真１枚（３か月以内に撮影したもの）

⑵　誓約書（保証人連署）

⑶　その他本学が必要とする書類

2　再入学を許可された者の入学金は、免除する。

3　再入学を許可された者は、再入学を許可された相当年次の学費等を所定の期間内に納入しなければならない。

4　再入学手続を所定の期日までに完了しない場合は、再入学許可を取り消す。

（既修得単位の認定及び卒業要件）

**第９条**　再入学を許可された者が離籍前に修得した単位は、そのすべての科目の単位を認定する。

2　再入学を許可された者の卒業認定の要件は、再入学を許可された年次の要件を適用する。

（修業年限）

**第１０条**　再入学を許可された者の修業年限は、離籍前の修業年数と通算して４年とする。

（在学年数）

**第１１条**　再入学を許可された者の在学年数は、離籍前の在学

年数と通算して８年を超えることはできない。
２　前項の規定にかかわらず、再入学を許可された者の３年次進級前までの在学年数は、離籍前の在学年数と通算して６年までとし、６年を超えて在学することはできない。
（休学の期間）
**第１２条**　学則第22条第３号に規定する休学の期間については、再入学を許可された者は離籍前の休学期間を含めて４年までとする。
（規程の適用）
**第１３条**　再入学を許可された者は、再入学年次の学則及び諸規程を適用する。

**附　則**

１　この細則は、平成９年４月１日から実施する。
２　昭和55年４月１日実施の休学・退学・復学及び再入学に関する細則は廃止する。

**附　則**

この細則は、平成10年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成12年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成23年４月１日から施行する。

**附　則**

１　この細則は、平成24年４月１日から施行する。
２　改正後の第３条の規定にかかわらず出願できる学科については、離籍する前に在籍していた学科が廃止された場合は、他の学科へ再入学することができるものとし、その場合の既修得単位の認定等については、その都度審議する。

**附　則**

この細則は、平成25年４月１日から施行する。

**附　則**

１　この細則は、平成26年４月１日から施行する。
２　改正後の第11条第２項の規定については、平成26年度以降の入学生と同等の年次に再入学を許可された者に適用し、平成25年度以前の入学生と同等の年次に再入学を許可された者については、なお従前の例による。

**附　則**

この細則は、平成27年４月１日から施行する。

**附　則**

１　この細則は、平成31年４月１日から施行する。
２　改正後の第３条第２項の規定ににかかわらず平成30年度以前の入学生で平成31年度に２年次以降、平成32年度に３年次以降又は平成33年度に４年次での再入学を許可された者については、なお従前の例による。

## 広島経済大学転部及び転科に関する細則

（平成18年12月14日制定）
最終改正　平成31年２月４日

（趣旨）
**第１条**　この細則は、広島経済大学学則（以下「学則」という。）第20条の２の規定に基づき、広島経済大学の転部及び転科（以下「転部等」という。）について必要な事項を定めるものとする。
（転部等の時期）
**第２条**　転部等ができるのは、２年次となる年度とし、転部等後の学年は別表第１のとおりとする。ただし、再度の転部等は認めない。
（出願資格）
**第３条**　２年次となる年度に転部等を志願できる者は、次の各号の要件をすべて満たしているものとする。
⑴　卒業認定の要件単位数を38単位以上修得し、かつ、Ａ以上の単位数が９割以上の者
⑵　転部等の意思及び理由が明確である者
⑶　転部等前の学部学科の１年次必修科目のうち、別表第２の科目の単位を全て修得している者
２　削除
３　転部等を志願する者に対しては、前項の規定のほか若干の条件を付することがある。
（出願手続）
**第４条**　転部等を志願する者は、転部・転科願に単位・成績証明書を添え、所定の期間内に願い出なければならない。
（選考及び許可）
**第５条**　転部等を志願する者の選考は、面接試験及び書類審査により行う。
２　転部等の許可は、前項の選考に基づき教務委員会に諮り、学長が行う。
（転部等手続）
**第６条**　転部等が許可された者は、所定の期間内に所定の書類を提出しなければならない。
２　所定の期間内に手続きを完了しない者は、転部等を辞退したものとして扱う。
３　転部等を許可された者は、学則第27条の規定に基づき学費及び別に定める諸納付金を指定日までに納入しなければならない。
（学籍番号）
**第７条**　転部等を許可された者の学籍番号は、入学年度の転部等を許可された学科の番号とする。
（卒業認定の要件）
**第８条**　転部等を許可された者の卒業認定の要件は、入学年度の転部等を許可された学科の要件を適用する。
（科目区分の変更）
**第９条**　転部等を許可された者が転部等前に取得した単位は、転部等先の学部学科の授業科目の区分、カリキュラム内容等により分類し、転部等先の学部学科の学科会で審査の上、科目区分の変更案を教務委員会に諮り、学長がこれを決定するものとする。
（在学年数）
**第１０条**　転部等を許可された者の在学年数は、転部等前の在学年数と通算して８年を超えることはできない。
２　前項の規定にかかわらず、３年次進級前までの在学年数は転部等前の在学年数と通算して６年までとし、６年を超えて在学することはできない。

**附　則**

この細則は、平成19年４月１日から施行する。

**附　則**

１　この細則は、平成20年４月１日から施行する。
２　改正後の第４条第２号の規定にかかわらず、平成19年度以前に入学した者については、なお従前の例（優）による。

**附　則**

１　この細則は、平成23年４月１日から施行する。
２　改正後の第３条別表第１及び第４条第１項第４号別表第２の規定にかかわらず、平成22年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

**附　則**

１　この細則は、平成26年４月１日から施行する。
２　改正後の第３条第１項及び第２項、第10条第２項、別表第１並びに別表第２の規定については、平成26年度以降に入学した者について適用し、平成25年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

**附　則**

１　この細則は、平成27年４月１日から施行する。
２　改正後の別表第２に定める科目については、平成27年度以降に入学した者について適用し、平成26年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

附　則

1　この細則は、平成31年４月１日から施行する。

2　改正後の第３条第２項、別表第１（第２条関係）及び別表第２（第３条第１項第３号関係）の規定については、平成31年度以降の入学生より適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例による。

**別表第１（第２条関係）**

| 転部等前学部学科 ＼ 転部等後学部学科 | | 経済学部経済学科 | 経営学部経営学科 | 経営学部スポーツ経営学科 | メディアビジネス学部ビジネス情報学科 | メディアビジネス学部メディアビジネス学科 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 経済学部経済学科 | ２年次 | | ２年次 | ２年次 | ２年次 | ２年次 |
| 経営学部経営学科 | ２年次 | ２年次 | | ２年次 | ２年次 | ２年次 |
| 経営学部スポーツ経営学科 | ２年次 | ２年次 | ２年次 | | ２年次 | ２年次 |
| メディアビジネス学部ビジネス情報学科 | ２年次 | ２年次 | ２年次 | ２年次 | | ２年次 |
| メディアビジネス学部メディアビジネス学科 | ２年次 | ２年次 | ２年次 | ２年次 | ２年次 | |

**別表第２（第３条第１項第３号関係）**

| 学　科 | 科　目　名 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 経済学部経済学科 | 大学入門ゼミ<br>興動人入門ゼミ | 必修英語ＡⅠ<br>必修英語ＡⅡ<br>必修英語ＢⅠ<br>必修英語ＢⅡ<br>必修英語ＣⅠ | 経済入門 | 経営入門 |
| 経営学部経営学科 | | | | |
| 経営学部スポーツ経営学科 | | | | |
| メディアビジネス学部ビジネス情報学科 | | | | |
| メディアビジネス学部メディアビジネス学科 | | | | |

## 広島経済大学編入学に関する細則

（平成15年３月６日制定）

最終改正　平成31年２月４日

（趣旨）

**第１条**　この細則は、広島経済大学学則（以下「学則」という。）第16条第２項及び広島経済大学既修得単位認定細則第１条第２項に基づき、編入学に関し必要な事項を定めるものとする。

（欠員の定義）

**第２条**　学則第16条に規定する欠員は、編入学の対象となる年次について学部学科ごとに入学定員に達しない員数とする。

（出願資格）

**第３条**　編入学を志願することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

⑴　大学を卒業した者

⑵　短期大学及び高等専門学校を卒業した者

⑶　他の大学等において１年以上在学（休学期間を除く。）し、本学が相当年次と認める単位を修得した者

⑷　学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）附則第７条に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校等の課程を卒業又は修了した者

⑸　学校教育法（昭和22年法律第26号）第132条に規定する専修学校の専門課程を修了した者

2　外国人留学生で編入学を志願する者については、前項の出願資格のほか、次の各号のいずれかに該当する者とする。

⑴　独立行政法人日本学生支援機構による日本留学試験（以下「日本留学試験」という。）の日本語科目のうち、記述の得点を除いた読解及び聴解・聴読解の合計得点が250点以上の者

⑵　独立行政法人国際交流基金及び公益財団法人日本国際教育支援協会による日本語能力試験（以下「日本語能力試験」という。）においてＮ１に合格した者

（出願手続）

**第４条**　編入学を志願する者は、所定の願書と次に掲げる書類に別表に定める検定料を添えて、期日までにその旨願い出なければならない。

⑴　卒業証明書、修了証明書若しくは在学又は在籍期間証明書（※卒業見込証明書又は修了見込証明書）

⑵　成績証明書（※履修中の科目がある場合は、科目名及び単位数が記載された書類）

⑶　シラバス又は授業内容が記載された書類

⑷　その他本学が必要とする書類

2　外国人留学生で編入学を志願する者は、前項の書類のほか、次の書類を提出しなければならない。

⑴　日本留学試験の成績通知書の写し又は日本語能力試験認定結果及び成績に関する証明書

⑵　住民票記載事項証明書

⑶　パスポートの写し

（選考）

**第５条**　編入学を志願する者に対しては、学力試験、小論文、面接及び書類審査による選考を行い、第二教授会の審議を経て、学長が合否を決定する。ただし、編入学指定校推薦入学試験により志願する者は、学力試験及び小論文による選考を免除する。

2　選考方法については、入試委員会に諮り、学長が定める。

（編入学の時期及び入学年次）

**第６条**　編入学の時期は、年度の始めとする。

2　編入学の入学年次は、２年次又は３年次とする。

3　２年次に編入学できる者は、他の大学等において修得した単位のうち、本学において認定された単位数が20単位から50単位までの者とする。

4　３年次に編入学できる者は、他の大学等において修得した単位のうち、本学において認定された単位数が51単位から60単位までの者とする。

5　第３条第１項第３号に規定する他の大学等において１年以上在学（休学期間を除く。）し、本学が相当年次と認める単位を修得した者のうち、在学年数が２年未満の者は２年次へ編入学させるものとし、本学において認定する単位数は50単位までとする。

（入学手続）

**第７条**　編入学を許可された者は、所定の期日までに誓約書等の手続書類を提出するとともに、入学金、授業料その他の諸納付金を納入しなければならない。

2　前項の入学手続を所定の期日までに完了しない場合は、入学許可を取り消す。

（学籍番号）

**第８条**　編入学を許可された者の学籍番号は、編入学を許可された相当年次の入学生と同じ系列の番号とする。

（卒業認定の要件）

**第９条**　編入学を許可された者の卒業認定の要件は、編入学を許可された年次の要件を適用する。

（入学金、授業料その他諸納付金）

**第１０条**　編入学を許可された者の入学金、授業料その他の諸納付金は、編入学を許可された年度の新入生と同額とする。

（既修得単位の認定）

**第１１条**　編入学を許可された者が、本学以外の大学又は短期大学等において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を認定することができる。

2　前項により認定できる単位数は、60単位を越えないものとする。
3　前２項の単位の認定については、編入学を希望する学部学科の学科会で審査の上、教務委員会に諮り、学長が認定する。
（科目名及び単位の表示）
**第１２条**　既修得単位の認定を受けた授業科目の科目名及び単位については、科目分類ごとにまとめて単位を表示し、本学の授業科目の履修により修得したものとみなす授業科目名は表示しない。
（成績評価の評語）
**第１３条**　既修得単位の認定を受けた者の成績評価は「ＣＡ」とする。
（評価年度）
**第１４条**　既修得単位の認定を受けた既修得科目の評価年度は、認定年度とする。
（修業年限及び在学年数）
**第１５条**　２年次に編入学した者の修業年限は３年とし、在学年数は７年までとする。ただし、３年次進級前までの在学年数は５年までとし、５年を超えて在学することはできない。
2　３年次に編入学した者の修業年限は２年とし、在学年数は６年までとする。
（その他）
**第１６条**　この細則の実施に関して必要な事項は別に定める。

**附　則**

この細則は、平成15年４月１日より施行する。

**附　則**

この細則は、平成16年１月９日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成18年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成20年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成20年５月１日から施行する。

**附　則**

1　この細則は、平成26年４月１日から施行する。
2　改正後の第６条第３項及び第５項並びに第15条第１項ただし書きの規定については、平成27年度以降に２年次に編入学を許可された者に適用し、平成26年度以前に編入学を許可された者については、なお従前の例による。
3　改正後の第６条第４項の規定については、平成28年度以降に３年次に編入学できる者から適用し、平成27年度以前に編入学を許可された者については、なお従前の例による。

**附　則**

1　この細則は、平成27年４月１日から施行する。
2　改正後の第６条第３項及び第５項の規定については、平成28年度以降に２年次に編入学できる者から適用し、平成27年度以前に編入学を許可された者については、なお従前の例による。
3　改正後の第６条第４項の規定については、平成29年度以降に３年次に編入学できる者から適用し、平成28年度以前に編入学を許可された者については、なお従前の例による。

**附　則**

この細則は、平成31年４月１日から施行する。

**別表**

| | |
|---|---|
| 検定料 | 15,000円 |

## ３年次編入学生の進級認定の要件科目に関する取扱い

（平成27年５月７日制定）
最終改正　平成31年２月４日

**第１条**　この取扱いは、広島経済大学編入学に関する細則（以下「編入学に関する細則」という。）第６条第４項により３年次に編入学した者の、広島経済大学進級細則第３条第１項に規定する進級認定の要件科目の取扱いに関し、必要な事項を定めるものとする。
**第２条**　編入学に関する細則第11条既修得単位の認定規定により、本学における授業科目の履修により修得したものとみなされた英語の単位数が、進級認定の要件として必要な英語の単位数を満たしていない者については、３年次編入学後、本学の指定する英語科目を履修し、単位を修得するものとする。
**第３条**　進級認定の要件として必要なプレゼミの単位数については、３年次編入学後、自学部自学科科目のうち、履修科目又は既修得科目の中から代替指定登録する科目の単位数で補うものとする。ただし、必修科目及び資格関連科目を除く。
2　前項の代替指定登録は、４年次後期の初めまでに行わなくてはならない。

**附　則**

この取扱いは、平成27年９月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成31年４月１日から施行する。

## 広島経済大学科目等履修生規程

（平成５年４月１日制定）
最終改正　平成27年２月13日

（趣旨）
**第１条**　この規程は、広島経済大学学則（以下「学則」という。）第56条に定める科目等履修生（以下「履修生」という。）に関して必要な事項を定めるものとする。
（出願資格）
**第２条**　履修生の出願資格は、大学入学資格を有する者又はこれと同等以上の学習能力があると学長が認めた者とする。
（出願手続）
**第３条**　履修生を志願する者は、次に掲げる書類に別表に定める検定料を添え、所定の期間内に願い出なければならない。
⑴　科目等履修生許可願
⑵　最終出身学校の卒業証明書
⑶　その他本学が必要とする書類
2　前項の規定にかかわらず、前年度に履修生として在籍した者で、今年度も履修生を志願する場合は、前項第２号の書類は提出しなくてもよい。
3　年度初めに前期開講科目のみを出願し、履修許可を得た者で、後期に後期開講科目を追加出願する場合は、検定料を免除し、第１項第１号の書類のみを提出するものとする。
（選考及び履修の許可）
**第４条**　履修生を志願する者の選考は、面接試験及び書類審査により行う。ただし、本学卒業生及び前年度又は前期に引き続いて履修生を志願する者については、面接試験を免除する。
2　履修の許可は、前項の選考に基づき教務委員会に諮り、学長が行う。
（在籍登録の時期）
**第５条**　履修生の在籍登録時期は、学期の始めとする。
（在籍手続）
**第６条**　履修生として履修を許可された者は、所定の期間内に次に掲げる書類を提出し、別表に定める在籍登録料及び科目履修料を納入しなければならない。ただし、前年度又は前期に引き続いて在籍する者及び本学卒業生は、在籍登録料を免除する。
⑴　写真１枚（３か月以内に撮影したもの）
⑵　誓約書（保証人連署）

⑶　その他本学が必要とする書類
2　在籍手続を所定の期日までに完了しない場合は、履修許可を取り消す。
（履修期間）
**第７条**　履修生の履修期間は、履修を許可された当該年度内とする。ただし、授業科目により特別な履修期間が定められている場合は、当該科目の履修期間内とする。
（履修科目数等の制限）
**第８条**　履修生が年度内に履修登録できる単位数は、48単位までとする。
2　演習科目など一部の科目については、履修を認めない。
（単位の授与）
**第９条**　履修生が履修した科目については、学則第45条により単位を与える。
（証明書）
**第１０条**　前条により授与された単位について、本人の申請により、単位・成績証明書を交付する。
（履修生の身分及び規定の準用）
**第１１条**　履修生の身分は、学生に準ずるものとし、この規程に定めのないものについては、学則の学生に関する規定を準用する。
（教職課程の履修）
**第１２条**　本学の教職課程における履修は、広島経済大学教職課程履修細則に定めるところによる。
（その他）
**第１３条**　本学大学院に在籍する学生による科目の履修については、大学院に在籍する学生の学部科目等履修申合せに定めるところによる。

**附　則**

1　この規程は、平成５年４月１日から施行する。
2　聴講生規則（昭和50年３月１日）は、廃止する。

**附　則**

この規程は、平成８年４月１日から施行する。

**附　則**

この規程は、平成９年12月１日から施行する。

**附　則**

この規程は、平成11年４月１日から施行する。

**附　則**

この規程は、平成17年４月１日から施行する。

**附　則**

この規程は、平成18年４月１日から施行する。

**附　則**

この規程は、平成19年４月１日から施行する。

**附　則**

この規程は、平成20年４月１日から施行する。

**附　則**

この規程は、平成22年４月１日から施行する。

**附　則**

この規程は、平成23年７月14日から施行する。

**附　則**

この規程は、平成27年４月１日から施行する。

**別表**（第３条第１項及び第６条第１項関係）

| | |
|---|---|
| 検　定　料 | 5,000円 |
| 在籍登録料 | 14,000円 |
| 科目履修料 | １単位につき20,000円 |

## 広島経済大学研究生細則

最終改正　平成30年６月７日

（趣旨）
**第１条**　この細則は、広島経済大学学則（以下「学則」という。）第57条第２項の規定に基づき、広島経済大学（以下「本学」という。）の研究生及び外国人研究生（以下「研究生」という。）に関して必要な事項を定めるものとする。
（出願資格）
**第２条**　研究生に志願できる者は、次の各号のいずれかに該当するものとする。
⑴　大学を卒業した者又は外国において学校教育における16年の課程を修了した者
⑵　大学２年課程を修了した者、短期大学を卒業した者又は外国において学校教育14年の課程を修了した者
⑶　本学において相当の学力を有し研究生として適当と認めた者
2　外国人研究生に志願できる者は、独立行政法人日本学生支援機構による日本留学試験（以下「日本留学試験」という。）の日本語科目のうち、記述の得点を除いた読解及び聴解・聴読解の合計得点が260点以上の者とする。
⑴　独立行政法人国際交流基金及び公益財団法人日本国際教育支援協会による日本語能力試験（以下「日本語能力試験」という。）においてＮ１に合格した者
（出願手続）
**第３条**　研究生を志願する者は、指導希望教員との面接を経て次に掲げる書類に検定料15,000円を添え、所定の期間内に願い出なければならない。ただし、外国人研究生を志願する者で国外受験者は、指導希望教員との面接を免除する。
⑴　研究生願書
⑵　最終出身学校の卒業証明書又は修了証明書及び成績証明書
⑶　官公署又は会社等に在職している者は、その所属長の承諾書
⑷　その他本学が必要とする書類
2　外国人研究生を志願する者は、前項の書類のほか、次の書類を提出しなければならない。
⑴　健康診断書
⑵　日本留学試験の成績通知書の写し
⑶　国内受験者のみ住民票記載事項証明書
⑷　パスポートの写し
（選考及び在籍の許可）
**第４条**　研究生を志願する者の選考は、面接試験及び書類審査により行う。ただし、外国人研究生を志願する者で国外受験を希望する者の選考については、面接試験を免除し、書類審査及び小論文により行う。
2　在籍の許可は、前項の選考に基づき外国人研究生については国際交流委員会、その他の研究生については教務委員会に諮り、学長が行う。
3　学長は、外国人研究生のうち外国に居住する者等の合格決定者には、あらかじめ受け入れ許可書を交付することができる。
（在籍登録時期及び研究期間）
**第５条**　研究生の在籍登録時期は学年の始めとし、研究期間は１年とする。
2　前項の規定にかかわらず、外国人研究生については国際交流委員会、その他の研究生については教務委員会に諮り、学長が必要と認めた者については、在籍登録時期の変更若しくは研究期間の短縮又は延長を学期を単位として行うことができる。ただし、研究期間の延長は１年以内とする。
（在籍手続）
**第６条**　研究生として在籍を許可された者は、所定の期間内に次に掲げる書類を提出しなければならない。
⑴　写真１枚（３か月以内に撮影したもの）
⑵　誓約書（保証人連署）
⑶　その他本学が必要とする書類
2　研究生として在籍を許可された者は、前期及び後期の２回にわけて所定の期間内に別表に定める在籍登録料、授業料及

び施設費を納入しなければならない。
3　前条第２項の規定により在籍登録の時期を変更若しくは研究期間を短縮又は延長した者の授業料及び施設費については、当該研究期間の金額を徴収するものとする。
4　在籍手続を所定の期日までに完了しない場合は、在籍許可を取り消す。
（指導教員）
**第７条**　当該学部長は、研究生に対して指導教員を定めなければならない。
（証明書）
**第８条**　学長は、所定の研究期間を終了した者に対し、本人の願い出により在籍期間証明書を交付する。
（在籍許可の取り消し）
**第９条**　学長は、研究生が次の各号のいずれかに該当するときは、研究生としての在籍の許可を取り消すことができる。
⑴　その本分に反する行為があると認められたとき。
⑵　在籍登録料、授業料及び施設費の納付の義務を怠ったとき。
⑶　出願書類に虚偽の記載があったとき。
（休学）
**第１０条**　研究生が疾病その他止むを得ない事由によって、３か月以上修学することができないときは、学長の許可を得て、休学することができる。
2　休学の許可を受けようとする者は、所定の休学願に保証人連署の上、医師の診断書又は詳細な事由書を添え、その旨願い出なければならない。
3　休学期間は、その学期末までとし、１年を超えることはできない。
4　休学期間は、第５条に規定する研究期間には算入しない。
5　休学を許可した者には、次の納期から授業料及び施設費を免除する。
6　休学を許可された者は、休学期間の満了とともに復学するものとする。
7　復学をする時期は、学期始めとする。
（規則の準用）
**第１１条**　研究生については、この細則に定めるもののほか、学則及び諸規則を準用する。

**附　則**

この細則は、昭和58年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成11年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成13年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成15年９月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成20年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成22年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成23年７月14日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成27年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成30年６月７日から施行する。

**別表**（第６条第２項関係）

| | 前期 | 後期 | 年額 |
|---|---|---|---|
| 在籍登録料 | 125,000円在籍登録時のみ | | 125,000円 |
| 授業料 | 113,500円 | 113,500円 | 227,000円 |
| 施設費 | 33,500円 | 33,500円 | 67,000円 |

## 広島経済大学外国人留学生細則

（趣旨）
**第１条**　広島経済大学学則第58条第２項に基づき、広島経済大学（以下「本学」という。）の外国人留学生に関して次のとおり定める。
（入学資格）
**第２条**　外国人留学生として本学に入学資格を有する者は、外国国籍を有し次の各号のいずれかに該当する者とする。
⑴　外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
⑵　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
⑶　本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの
2　前項各号のいずれかに該当する者が本学に入学を志願するときは、独立行政法人日本学生支援機構による日本留学試験（以下「日本留学試験」という。）の日本語を受験したうえで、総合科目又は数学のどちらか１教科を受けておかなければならない。（総合科目・数学の受験言語及び数学のコースは自由選択とする。）
（提出書類）
**第３条**　外国人留学生として入学を志願する者は、所定の期日までに次の各号に掲げる書類を提出するとともに、別表に定める検定料を納入しなければならない。
⑴　入学願書（本学所定のもの）
⑵　最終出身学校の卒業（又は見込）・修了（又は見込）証明書及び成績証明書
⑶　健康診断書
⑷　（削除）
⑸　その他本学が定める書類
（選考）
**第４条**　第２条に規定した志願者のうち、現に日本に居住する者に対しては、外国人留学生入学試験を実施し、第二教授会の審議を経て、学長が合否を決定する。
2　現に外国に居住する者に対しては、日本留学試験の結果及び書類による選考を行い、第二教授会の審議を経て、学長が合否を決定する。
（入学手続）
**第５条**　選考に合格した者は、所定の期日までに誓約書等所定の書類を提出するとともに、別表に定める諸納付金を納入しなければならない。
（入学の許可）
**第６条**　学長は、前条に定める手続を完了した者に入学を許可する。
（規則の準用）
**第７条**　外国人留学生については、この細則に定めるもののほか学則及び諸規則を準用する。

**附　則**

1　この細則は、平成３年４月１日から実施する。

2　外国人留学生以外であっても、日本国籍を有し、現に外国に居住する者で第２条第１項各号の一に該当する入学資格を有する者については、第３条及び第４条を適用することがある。

3　本学と国際交流協定を締結した外国の大学又は交流のある外国の大学から本学に派遣される外国人留学生については、この細則を適用せず国際交流協定に基づく覚書又はそれに準ずるものの規定するところによる。その場合の身分としては、「交換留学生」とし、本学の正規生と同等の身分とみなす。

**附　則**

この細則は、平成５年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成９年12月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成12年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成14年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成15年９月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成16年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成19年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成26年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成27年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成30年５月24日から施行する。

**別表**

| 費　用 | 分納回数 | 金　　額 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| 検定料 | １回 | 30,000円 | ・外国人留学生推薦入学試験<br>・外国人留学生Ⅰ期入学試験<br>・外国人留学生Ⅱ期入学試験<br>・渡日前入学許可制度による入学試験 |
| | １回 | 15,000円 | 外国人留学生のための書類選考による入学試験 |
| 入学金 | １回 | 250,000円 | |
| 授業料 | ２回 | 680,000円 | |
| 施設料 | ２回 | 200,000円 | |

## 3　教職課程

### 広島経済大学教職課程履修細則

（昭和44年４月１日制定）

最終改正　平成31年２月４日

（趣旨）

**第１条**　この細則は、広島経済大学学則第41条第２項及び広島経済大学科目等履修生規程第12条の規定に基づき、教育職員免許法（以下「免許法」という。）（昭和24年法律第147号）、教育職員免許法施行規則（以下「免許法施行規則」という。）（昭和29年文部省令第26号）、小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律（以下「介護等体験特例法」という。）（平成９年法律第90号）及び小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律施行規則（以下「介護等体験特例法施行規則」という。）（平成９年文部省令第40号）等の諸法令に従い、教育職員免許状（以下「免許状」という。）を取得するために必要な事項について定めるものとする。

（免許状の種類及び免許教科）

**第２条**　本学経済学部、経営学部及びメディアビジネス学部で取得できる免許状の種類及び免許教科は、次の表のとおりとする。

| 学　部 | 学　科 | 免許状の種類 | 免許教科 |
|---|---|---|---|
| 経済学部 | 経済学科 | 中学校教諭一種免許状 | 社　会 |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 地理歴史 |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 公　民 |
| 経営学部 | 経営学科 | 高等学校教諭一種免許状 | 商　業 |
| メディアビジネス学部 | ビジネス情報学科 | 高等学校教諭一種免許状 | 情　報 |

2　前項の取得できる免許状について、本学学生が、所属学科で認定を受けていない免許状を取得する場合は、他学科の当該免許状の授業科目の修得により免許状取得を目指すことができる。

3　取得しようとする免許教科が、社会、地理歴史又は公民のうち、いずれか１教科以上の場合、商業若しくは情報の免許状を同時に取得することはできない。

4　免許教科のうち情報については、メディアビジネス学部ビジネス情報学科の学生及び経営学部経営学科の学生で商業の免許状の課程登録者に限り免許状を取得することができる。なお、科目等履修生は、メディアビジネス学部ビジネス情報学科の卒業生又は経営学部経営学科在学中に情報の免許状の課程登録者で、一部の科目の単位が未修得の卒業生に限る。

（基礎資格及び要件単位修得等）

**第３条**　免許状を取得するためには、教育職員免許法第５条により、基礎資格として学士の学位を取得し、かつ、免許状の種類及び免許教科に応じて、下記に定める科目の単位を修得しなければならない。

| 免許状の種類 | 免許教科 | 本学における履修要件単位数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 教科及び教科の指導法に関する科目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 教育実践に関する科目 | 大学が独自に設定する科目 |
| 中学校教諭一種免許状 | 社会 | 28単位 | 11単位 | 10単位 | ７単位 | ４単位 |
| 高等学校教諭一種免許状 | 地理歴史 | 26単位 | 11単位 | ８単位 | ５単位 | 12単位 |
| | 公民 | 24単位 | 11単位 | ８単位 | ５単位 | 12単位 |
| | 商業 | 24単位 | 11単位 | ８単位 | ５単位 | 12単位 |
| | 情報 | 26単位 | 11単位 | ８単位 | ５単位 | 12単位 |

2　前項の免許状を取得する場合、法規上の最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」の単位については、「大学が独自に設定する科目」の単位として取り扱う。

3　第１項の科目の単位のほか、次の免許法施行規則第66条の６に定める科目の単位を修得しなければならない。
⑴　日本国憲法
⑵　体育
⑶　外国語コミュニケーション
⑷　情報機器の操作
4　中学校教諭一種免許状の授与を受けようとする者は、介護等体験特例法及び介護等体験特例法施行規則により、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めるよう努めるために介護等の体験を行わなければならない。
5　介護等の体験の実施方法等に関して必要な事項は別に定める。

**第４条**　前条に定めるもののほか、開講科目、履修要件単位数及び履修方法等は、別表第１（免許法施行規則第66条の６に定める科目）、別表第２（教科及び教科の指導法に関する科目）、別表第３（教育の基礎的理解に関する科目）、（道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目）及び（教育実践に関する科目）並びに別表第４（大学が独自に設定する科目）に定めるとおりとする。
2　科目等履修生のうち、旧法適用者（旧法とは、「昭和63年改正法」又は「平成10年改正法」をいう。）は、既修得科目と本学の新法に定める教職課程科目（新法とは、「平成31年改正法」をいう。）とを照合して、必要な科目を履修することとする。
3　科目等履修生のうち、初めて教職課程を目指す者以外の履修方法については、次に定めるとおりとする。
⑴　本学及び他大学の卒業生で、在学時に免許状取得のための要件単位が一部未修得の者は、免許法第５条別表第１により、取得したい免許状の種類及び教科で定められた科目のうち、不足の科目を履修すること。ただし、履修については、次に定めるとおりとする。
ア　「教科及び教科の指導法に関する科目」の「教科に関する専門的事項」のうち各科目区分の「一般的包括的な内容を含む科目」を修得していない場合は、必ず履修すること。
イ　教育実習の履修及び介護等体験を行う場合は、最低２年の在籍を必要とし、取得したい免許状の種類及び教科の「教科教育法」の単位を修得しなければ、「教育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の履修及び介護等体験を行うことができない。
ウ　「教科教育法」を履修する場合は、取得したい免許状の種類及び教科の「教科教育法」をすべて履修すること。ただし、現職教員のうち、本学で教育実習を行わない者は、原則として「教科教育法」を履修することができない。
エ　「教育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修中又は単位を修得した者のみ、「教職実践演習（中・高）」を履修することができる。
⑵　一以上の教科の免許状を有する者が同校種の他の教科の免許状を取得する場合は、免許法第６条別表第４により、取得したい免許状の種類及び教科で定められた科目を履修すること。ただし、「教科及び教科の指導法に関する科目」の「教科に関する専門的事項」は、必修及び選択の別は問わないが、各科目区分の「一般的包括的な内容を含む科目」を必ず履修すること。

（教職課程の登録・辞退）

**第５条**　教職課程の登録を希望する者は、所定の教職課程登録届を提出して、教職課程科目を履修するための事前登録をしなければならない。
2　前項の届出の時期は、原則として１年次のはじめとする。なお、科目等履修生については、各学期はじめとする。
3　教職課程の登録を辞退する場合には、所定の教職課程辞退届を提出しなければならない。

（履修科目の履修登録方法）

**第６条**　各学期はじめに、開講授業科目のうちから履修科目を選択し、指定の登録日までに、当該履修科目を登録しなければならない。
2　前項の履修登録は、この細則に定めるもののほか履修指導に従って、これを行わなければならない。

（教育実習参加資格要件）

**第７条**　教育実習校へ実習受入れの申請手続きができる者は、次の各号のいずれにも該当するものとする。
⑴　教育実習参加申込書を提出していること。
⑵　教職入門（２単位）及び教育原理（２単位）の単位を修得していること。
⑶　教育実習のためのマナー講習を受講していること。
2　教育実習Ⅱ及び教育実習Ⅲに参加できる者は、次の各号のいずれにも該当するものとする。
⑴　卒業見込の条件を満たしていること。
⑵　教育心理学Ⅰ（２単位）、教育心理学Ⅱ（２単位）、特別支援教育概論（１単位）及び教科教育法（中学校教諭一種免許状の授与を受けようとする者は８単位、高等学校教諭一種免許状の授与を受けようとする者は４単位）の単位を修得していること。
⑶　教育制度論（２単位）、道徳教育指導法（２単位）（中学校教諭一種免許状の授与を受けようとする者のみ）、特別活動・総合的な学習の時間の指導法（２単位）、教育方法学（教育課程論を含む）（２単位）、生徒・進路指導論（２単位）及び教育相談（２単位）のうち、３科目の単位を修得していること。
⑷「教科及び教科の指導法に関する科目」の「教科に関する専門的事項」（必修）について５分の４以上の単位を修得していること。
3　科目等履修生（初めて教職課程を目指す者に限る。）が、教育実習を履修するためには、最低３年の在籍を必要とし、在籍１年目末に予備登録を行い、さらに原則として次の条件を満たしていなければならない。
⑴　在籍１年目の終了時点までに、第１項第２号及び第３号に定めるとおりとする。
⑵　在籍２年目の終了時点までに、前項第２号、第３号及び第４号に定めるとおりとする。

（免許状の授与申請）

**第８条**　教職課程の所定の単位を修得した有資格者については、本人の申請に基づき、在学中の者については特別の事情のない限り、本人に代わって本学が広島県教育委員会に一括申請を行う。ただし、次の事項に該当する場合は個人申請とする。
⑴　在学時に一括申請できなかった者
⑵　科目等履修生

（経過措置）

**第９条**　教職課程履修細則の改正にともなう経過措置は、次のように定める。
2　教職課程履修細則の改正（平成22年４月１日）にかかわらず、平成21年度及びそれ以前の経済学科、経営学科及び国際地域経済学科の入学生の教職課程については、なお従前の例によるが、経過措置として次のように定める。
　教職課程履修細則第２条第１項の改正は、平成22年度及びそれ以降の経済学科、経営学科及び国際地域経済学科の入学生から適用する。
　即ち、経済学科の教職課程のうち高等学校教諭一種免許状（商業）、経営学科の教職課程のうち中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史）、高等学校教諭一種免許状（公民）及び国際地域経済学科の教職課程を廃止（平成22年３月31日付）する。なお、教職課程履修細則第２条第１項の改正｛本学経済学部で取得できる免許状の種類及び免許教科は、次の表のとおりとする。

| 学部 | 学科 | 免許状の種類 | 免許教科 |
|---|---|---|---|
| 経済学部 | 経済学科 | 中学校教諭一種免許状 | 社　会 |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 地理歴史 |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 公　民 |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 商　業 |
| | 経営学科 | 中学校教諭一種免許状 | 社　会 |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 地理歴史 |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 公　民 |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 商　業 |
| | 国際地域経済学科 | 中学校教諭一種免許状 | 社　会 |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 地理歴史 |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 公　民 |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 商　業 |
| | ビジネス情報学科 | 高等学校教諭一種免許状 | 情　報 |

を、本学経済学部で取得できる免許状の種類及び免許教科は、次の表のとおりとする。

| 学部 | 学科 | 免許状の種類 | 免許教科 |
|---|---|---|---|
| 経済学部 | 経済学科 | 中学校教諭一種免許状 | 社　会 |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 地理歴史 |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 公　民 |
| | 経営学科 | 高等学校教諭一種免許状 | 商　業 |
| | ビジネス情報学科 | 高等学校教諭一種免許状 | 情　報 |

とする。〕は、平成21年度及びそれ以前の経済学科、経営学科及び国際地域経済学科の入学生には適用しない。

3　教職課程履修細則の改正（平成22年４月１日）にかかわらず、平成21年度及びそれ以前の入学生の教職課程については、なお従前の例によるが、経過措置として次のように定める。

⑴　教職課程履修細則第２条第２項の改正は、平成22年度及びそれ以降の入学生から適用する。

即ち、教職課程履修細則第２条第２項の改正〔前項の取得できる免許状について、本学学生が、所属学科で認定を受けていない免許状を取得する場合は、他学科の当該免許状の授業科目の修得により免許状取得を目指すことができる。〕は、平成21年度及びそれ以前の入学生には適用しない。

⑵　教職課程履修細則第２条第３項の改正は、平成22年度及びそれ以降の入学生から適用する。

即ち、教職課程履修細則第２条第３項の改正〔「取得しようとする免許教科が、社会、地理歴史又は公民のうち、いずれか１教科以上の場合、商業の免許状を同時に取得することはできない。」を、「取得しようとする免許教科が、社会、地理歴史又は公民のうち、いずれか１教科以上の場合、商業若しくは情報の免許状を同時に取得することはできない。」とする。〕は、平成21年度及びそれ以前の入学生には適用しない。

⑶　教職課程履修細則第８条第１項第３号の改正は、平成22年度及びそれ以降の入学生から適用する。

即ち、教職課程履修細則第８条第１項第３号の改正〔所属学科で認定を受けていない免許状を取得する者〕は、平成21年度及びそれ以前の入学生には適用しない。

4　教職課程履修細則の改正（平成22年４月１日）にかかわらず、平成21年度及びそれ以前の入学生の単位修得については、なお従前の例によるが、経過措置として次のように定める。

⑴　教職課程履修細則第３条第１項の改正は、平成22年度及びそれ以降の入学生から適用する。

即ち、教職課程履修細則第３条第１項の改正〔免許状を取得するためには、基礎資格として学士の学位を有し、かつ、免許状の種類及び免許教科に応じて、下記に定める科目の単位を修得しなければならない。

| 免許状の種類 | 免許教科 | 本学における履修要件単位数 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 教科に関する科目 | 教科又は教職に関する科目 | 教職に関する科目 |
| 中学校教諭一種免許状 | 社会 | 20単位 | ８単位 | 35単位 |
| 高等学校教諭一種免許状 | 地理歴史 | 20単位 | 16単位 | 27単位 |
| | 公民 | 20単位<br>＊経営学科のみ 22単位 | 16単位 | 27単位 |
| | 商業 | 22単位 | 16単位 | 27単位 |
| | 情報 | 26単位 | 16単位 | 27単位 |

を、免許状を取得するためには、基礎資格として学士の学位を有し、かつ、免許状の種類及び免許教科に応じて、下記に定める科目の単位を修得しなければならない。

| 免許状の種類 | 免許教科 | 本学における履修要件単位数 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 教科に関する科目 | 教科又は教職に関する科目 | 教職に関する科目 |
| 中学校教諭一種免許状 | 社会 | 20単位 | ８単位 | 37単位 |
| 高等学校教諭一種免許状 | 地理歴史 | 20単位 | 16単位 | 29単位 |
| | 公民 | 20単位 | 16単位 | 29単位 |
| | 商業 | 22単位 | 16単位 | 29単位 |
| | 情報 | 26単位 | 16単位 | 29単位 |

とする。〕は、平成21年度及びそれ以前の入学生には適用しない。

⑵　教職課程履修細則第７条第１項第２号イの改正は、平成22年度及びそれ以降の入学生から適用する。

即ち、教職課程履修細則第７条第１項第２号イの改正〔「人権教育（２単位）、教育心理学Ⅰ（２単位）、教育心理学Ⅱ（２単位）及び教科教育法（中学校教諭一種免許状の授与を受けようとする者は８単位、高等学校教諭一種免許状の授与を受けようとする者は４単位）の単位を修得していること。」を、「教育心理学Ⅰ（２単位）、教育心理学Ⅱ（２単位）、教育制度論（２単位）、教育課程論（２単位）及び教科教育法（中学校教諭一種免許状の授与を受けようとする者は８単位、高等学校教諭一種免許状の授与を受けようとする者は４単位）の単位を修得していること。」とする。〕は、平成21年度及びそれ以前の入学生には適用しない。

⑶　教職課程履修細則第７条第１項第２号ウの改正は、平成22年度及びそれ以降の入学生から適用する。

即ち、教職課程履修細則第７条第１項第２号ウの改正〔「道徳教育指導法（２単位）（中学校教諭一種免許状のみ）、特別活動指導法（２単位）、教育方法学（２単位）及び生徒指導（２単位）のうち、２科目の単位を修得していること。」を、「道徳教育指導法（２単位）（中学校教諭一種免許状のみ）、特別活動指導法（２単位）、教育方法学（２単位）、生徒･進路指導論（２単位）及び教育相談（２単位）のうち、２科目の単位を修得していること。」とする。〕は、平成21年度及びそれ以前の入学生には適用しない。

5　教職課程履修細則の改正（平成26年４月１日）にかかわ

らず、平成25年度及びそれ以前の入学生の単位修得については、なお従前の例によるが、経過措置として次のように定める。

⑴　教職課程履修細則第３条第１項の改正は、平成26年度及びそれ以降の入学生から適用する。

即ち、教職課程履修細則第３条第１項の改正｛免許状を取得するためには、基礎資格として学士の学位を有し、かつ、免許状の種類及び免許教科に応じて、下記に定める科目の単位を修得しなければならない。

| 免許状の種類 | 免許教科 | 本学における履修要件単位数 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 教科に関する科目 | 教科又は教職に関する科目 | 教職に関する科目 |
| 中学校教諭一種免許状 | 社会 | 20単位 | ８単位 | 37単位 |
| 高等学校教諭一種免許状 | 地理歴史 | 20単位 | 16単位 | 29単位 |
| | 公民 | 20単位 | 16単位 | 29単位 |
| | 商業 | 22単位 | 16単位 | 29単位 |
| | 情報 | 26単位 | 16単位 | 29単位 |

を、免許状を取得するためには、基礎資格として学士の学位を有し、かつ、免許状の種類及び免許教科に応じて、下記に定める科目の単位を修得しなければならない。

| 免許状の種類 | 免許教科 | 本学における履修要件単位数 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 教科に関する科目 | 教科又は教職に関する科目 | 教職に関する科目 |
| 中学校教諭一種免許状 | 社会 | 20単位 | ８単位 | 35単位 |
| 高等学校教諭一種免許状 | 地理歴史 | 20単位 | 16単位 | 27単位 |
| | 公民 | 20単位 | 16単位 | 27単位 |
| | 商業 | 20単位 | 16単位 | 27単位 |
| | 情報 | 26単位 | 16単位 | 27単位 |

とする。｝は、平成25年度及びそれ以前の入学生には適用しない。

⑵　教職課程履修細則第７条第２項第２号の改正は、平成26年度及びそれ以降の入学生から適用する。

即ち、教職課程履修細則第７条第２項第２号の改正｛「教育心理学Ⅰ（２単位）、教育心理学Ⅱ（２単位）、教育制度論（２単位）、教育課程論（２単位）及び教科教育法（中学校教諭一種免許状の授与を受けようとする者は８単位、高等学校教諭一種免許状の授与を受けようとする者は４単位）の単位を修得していること。」を、「教育心理学Ⅰ（２単位）、教育心理学Ⅱ（２単位）、教育制度論（２単位）及び教科教育法（中学校教諭一種免許状の授与を受けようとする者は８単位、高等学校教諭一種免許状の授与を受けようとする者は４単位）の単位を修得していること。」とする。｝は、平成25年度及びそれ以前の入学生には適用しない。

**附　則**

この細則は、昭和44年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、昭和50年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成２年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成３年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成12年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成14年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成16年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成18年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成21年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成22年４月１日から施行する。

**附　則**

1　この細則は、平成23年４月１日から施行する。

2　改正後の第２条第４項の規定にかかわらず、平成22年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

**附　則**

この細則は、平成25年４月１日から施行する。

**附　則**

1　この細則は、平成26年４月１日から施行する。

2　改正後の第３条第１項及び第７条第２項第２号の規定にかかわらず、平成25年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

**附　則**

1　この細則は、平成27年４月１日から施行する。

2　改正後の第３条第１項の規定にかかわらず、平成26年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

3　前項の規定にかかわらず、平成26年度入学生が中学校教諭一種免許状（社会）を取得するためには、東洋史Ⅰ（２単位）を教科に関する科目の必修科目として修得し、下記に定める科目の単位を修得しなければならない。

| 免許状の種類 | 免許教科 | 本学における履修要件単位数 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 教科に関する科目 | 教科又は教職に関する科目 | 教職に関する科目 |
| 中学校教諭一種免許状 | 社会 | 22単位 | ８単位 | 35単位 |

**附　則**

1　この細則は、平成29年４月１日から施行する。

2　改正後の第３条第１項の規定にかかわらず、平成28年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

**附　則**

1　この細則は、平成30年４月１日から施行する。

**附　則**

1　この細則は、平成31年４月１日から施行する。

2　改正後の第２条第１項及び第４項、第３条第１項及び第２項、第４条第１項及び第７条第２項の規定にかかわらず、平成30年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

3　改正後の第４条第２項及び第３項の規定にかかわらず、平成30年度以前に卒業した者で、卒業後引き続き科目等履修生として在籍した者については、なお従前の例による。

**別表第１**（免許法施行規則第66条の６に定める科目）

**別表第２**（教科及び教科の指導法に関する科目）

**別表第３**（教育の基礎的理解に関する科目）、（道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目）及び（教育実践に関する科目）

**別表第４**（大学が独自に設定する科目）

※別冊『教職課程ガイドブック』に掲載

## 4 各種制度

### 広島経済大学単位互換に関する細則

（平成11年４月１日 制　　定）

最終改正　令和元年11月19日

**第１章**　総則

（趣旨）

**第１条**　この細則は、広島経済大学学則（以下「学則」という。）第59条に基づき、大学間の協定により、他の大学の授業科目を履修する本学の学生（以下「派遣学生」という。）及び本学の授業科目を履修する他の大学の学生（以下「単位互換履修生」という。）に関して必要な事項を定める。

（単位互換協定）

**第２条**　前条の大学間の協定とは、教育ネットワーク中国（以下「事務局」という。）の大学間包括協定書に基づき、履修期間、提供する授業科目数、授業科目の範囲及び単位数、受け入れ手続き、成績評価・単位授与及び単位認定、成績の保管、授業料その他必要とされる具体的な措置に関して締結した「単位互換協定」をいう。

（提供科目）

**第３条**　単位互換の提供科目は、本学の正規の授業科目として単位互換事業のために設置開講する科目（以下「持出科目」という。）と、既存の正規授業科目のうち単位互換履修生の定員枠を設けて開放する科目（以下「既存科目」という。）とする。

２　持出科目及び既存科目は、大学の特色ある科目及び他大学生にとって魅力ある科目とし１科目以上を提供するものとする。

（出願の時期、履修期間）

**第４条**　出願の時期は、前期、後期、通年及び集中科目の全てを４月初旬に一括登録し、それぞれの期間で履修するものとする。

２　前項の出願の時期にかかわらず、後期及び集中科目のうち、定員を満たしていない科目については、８月に追加募集を行ない、追加登録を行うことがある。

**第２章**　他大学の授業科目を履修する本学の学生（派遣学生）

（出願）

**第５条**　派遣学生を希望する学生は、所定の期日までに所定の「出願票」に「志願理由書」を添えて、学長に願い出なければならない。

（許可）

**第６条**　派遣学生の願い出があったときは、学長が派遣を許可する。

２　学長は、他の大学の授業科目を履修することを認めたときは、事務局を経て当該大学長に必要書類を添えて、派遣学生の受け入れを依頼するものとする。

３　前項により当該大学長から派遣学生の受け入れを許可された学生は、所定の期日までに所定の手続きを行わなければならない。

４　履修手続きを完了した学生は、当該大学における所定の身分証明書（単位互換履修生）の交付を受けることができる。

（履修制限）

**第７条**　派遣学生として履修登録した他大学の授業科目は、広島経済大学履修細則第５条第１項に定める履修制限単位数に含めるものとする。

２　他大学での授業科目の履修方法については、当該大学の指示によるものとする。

（試験）

**第８条**　派遣学生は、当該大学で登録した授業科目の試験を受けることができる。

２　当該大学での互換科目の試験日と本学の定期試験日が重複したときは、互換科目の試験日を優先し、本学での試験は申し出により追試験等の措置を講じる。

この場合、当該大学で発行する「単位互換科目受験証明書」の提示を必要とする。

（単位の認定）

**第９条**　派遣学生が他大学において修得した授業科目の単位については、当該大学長から通知された「成績証明書」（「科目の評価と100点満点の素点」、「修得単位数」）及び当該大学の「評価基準」に基づき、その科目の本学での「評価・単位」を教務委員会に諮り、学長が認定する。

２　派遣学生として修得した単位を本学の修得単位として認定できる単位は、学則第59条第２項及び第３項により認定された単位並びに第60条規定の入学前の既修得単位等と合わせて60単位を限度とする。

３　前項で修得した科目の単位は本学の自由選択科目の単位として、認定する。

**第３章**　本学の授業科目を履修する他大学の学生（単位互換履修生）

（受理）

**第１０条**　他大学の学生で、単位互換履修生として本学の授業科目の履修を希望するときは、所定の「出願票」、「志望理由書」により当該大学長から事務局を経て学長に依頼されたとき、本人からの願い出を受理するものとする。

（許可）

**第１１条**　単位互換履修生としての願い出があったときは、学長が受け入れを許可する。

２　学長は、単位互換履修生として受け入れを許可したときは、事務局を経てその所属大学の学長にその旨通知するものとする。選考の結果受け入れを許可しない学生についても同様とする。

３　受け入れを許可された学生は、所定の期日までに所定の手続きを行わなければならない。

４　学長は前項の手続きを完了した者に対して、所定の授業科目の履修を許可し、身分証明書（単位互換履修生）を交付する。

５　履修方法については、本学の指示に従うものとする。

（単位の認定及び試験）

**第１２条**　単位互換履修生が履修登録した授業科目の単位は、学則第43条に基づき、試験により認定する。

２　本学での単位互換科目の試験日と学生所属大学の定期試験が重複したときは、互換科目の試験日を優先する。この場合、学生からの申出により「単位互換科目受験証明書」を発行する。

（成績評価及び成績通知）

**第１３条**　履修した科目の成績は、成績証明書（「科目の評価と100点満点の素点」、「修得単位数」）及び本大学の「評価基準」を添え学生の所属大学長に通知するものとする。

この場合、成績通知の対象者は、「履修許可者」全員とする。

（学費等）

**第１４条**　単位互換履修生の選考料及び授業料等は、提供科目や受入数にかかわらず徴収しない。ただし、実験、実習及び教材等に要する費用は、必要に応じ徴収することがある。

（規則の準用）

**第１５条**　単位互換履修生については、この規定に定めるもののほか、大学学則及び諸規則を準用する。

**附　則**

この細則は平成11年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は平成13年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は平成14年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は平成17年４月１日から施行する。

附　則
この細則は、平成18年４月１日から施行する。
附　則
この細則は、平成21年４月１日から施行する。
附　則
この細則は、平成23年６月９日から施行する。
附　則
この細則は、平成25年４月１日から施行する。
附　則
この細則は、平成26年４月１日から施行する。
附　則
この細則は、平成27年４月１日から施行する。
附　則
この細則は、平成29年４月１日から施行する。
附　則
この細則は、令和２年４月１日から施行する。

## 広島経済大学既修得単位認定細則

（平成11年４月１日制定）
最終改正　平成27年２月13日

（趣旨）
**第１条**　この細則は、広島経済大学学則（以下「学則」という。）第60条第４項の規定に基づき、入学前の既修得単位の認定に関し必要な事項を定めるものとする。
２　前項の規定にかかわらず、編入学をする者が、本学以外の大学及び短期大学等において修得した単位の認定については、別に定める広島経済大学編入学に関する細則による。
３　第１項の規定にかかわらず、学則第60条第２項に規定する学修による単位の認定については、別に定める広島経済大学資格振替単位認定細則による。
（認定できる単位数等）
**第２条**　既修得単位のうち、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことのできる授業科目は、本学の共通科目としてみなすことのできる科目のみとし、与えることのできる単位数は、編入学の場合を除き学則第59条及び前条第３項の規定により修得した単位と合わせて60単位を超えない範囲とする。
（既修得単位の認定の申請）
**第３条**　既修得単位の認定を受けようとする者は、既修得単位認定申請書に次に掲げる書類を添え、学長に申請しなければならない。
⑴　成績証明書又は単位取得証明書
⑵　シラバス又は授業内容が記載された書類
２　前項の申請は、入学した年度の次の期間に行うものとする。
⑴　前期　５月末まで
⑵　後期　10月末まで
（既修得単位の認定）
**第４条**　既修得単位の認定の申請があったときは、教務委員会に諮り、学長がその単位を認定することが修学上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
（認定通知）
**第５条**　学長は、既修得単位の認定を受けた者に対し、既修得単位認定通知書を交付するものとする。
（科目名及び単位の表示）
**第６条**　既修得単位の認定を受けた授業科目の科目名及び単位については、科目分類ごとにまとめて既修得科目として単位を表示する。
（成績評価の評語）
**第７条**　既修得単位の認定を受けた者の成績評価は「ＣＡ」とする。
（評価年度）
**第８条**　既修得単位の認定を受けた既修得科目の評価年度は、認定年度とする。
附　則
この細則は平成11年４月１日から施行する。
附　則
この細則は平成13年４月１日から施行する。
附　則
この細則は、平成18年４月１日から施行する。
附　則
この細則は、平成25年４月１日から施行する。
附　則
この細則は、平成27年４月１日から施行する。

## 広島経済大学資格振替単位認定細則

（平成13年４月１日制定）
最終改正　令和元年８月23日

（趣旨）
**第１条**　この細則は、広島経済大学学則（以下「学則」という。）第59条第３項及び第60条第２項の規定に基づき、大学教育に相当する水準を有すると認める検定資格取得における振替単位の認定に関し、必要な事項を定めるものとする。
（認定できる単位数）
**第２条**　資格振替単位として認定できる単位数は、編入学の場合を除き本学学則第59条第１項及び第２項並びに第60条第１項の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
（認定できる検定資格等）
**第３条**　資格振替単位として認定できる検定資格等は、英語に関する検定資格等に関しては別表第１に、簿記に関する検定資格等に関しては別表第２に、情報処理に関する検定資格等に関しては別表第３による。
（振替単位の認定申請対象学生）
**第４条**　資格振替単位の申請ができる学生については、次のとおりとする。
⑴　別表第１に定める英語に関する資格振替単位認定申請　全学生
⑵　別表第２に定める簿記に関する資格振替単位認定申請　経営学部経営学科の学生のみ
⑶　別表第3に定める情報処理に関する資格振替単位認定申請　メディアビジネス学部ビジネス情報学科の学生のみ
２　前項の規定にかかわらず、教職課程に登録している学生は、教育職員免許状取得のために必要な科目について、振替単位の認定申請を行うことができない。
３　第１項の規定にかかわらず、第１項第１号の英語に関する申請については、英語を母語とする学生の申請を原則として認めない。
（振替単位の認定申請）
**第５条**　資格振替単位の認定を受けようとする者は、資格振替単位認定申請書に資格の取得を証明できる書類を添え、学務センター教務課に申請しなければならない。
２　前項に規定する資格の取得を証明できる書類は、コピーでもよい。
３　単位認定期間までに、資格の取得を証明できる書類として、仮合格書等の書類しか発行されていない場合は、仮合格書等の書類を添え申請し、正規の資格取得を証明できる書類の交付後すぐに学務センター教務課に提出しなければならない。
４　申請を行う時期は、次のとおりとする。ただし、卒業年次生については、卒業判定会議までに間に合わない申請は認め

ないものとする。

(1) 前期の単位として認定　前期授業開始日から前期定期試験終了日まで

(2) 後期の単位として認定　後期授業開始日から後期定期試験終了日まで

5　英語に関する資格振替単位認定申請は、資格を取得してから２年以内とする。

6　本学に入学する前に取得した資格についても、申請できるものとする。

7　資格振替単位の申請は、広島経済大学履修細則第５条に規定する履修制限単位数に含めないものとする。

8　振替科目のうち、すでに単位取得済みの科目については、申請を行うことはできない。

（振替単位の認定）

**第６条**　前条に規定する検定資格を取得した者から振替単位の申請があったときは、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、振替科目の単位として認定する。

2　前項により認定された単位は、卒業認定の要件として必要な単位数として計算する。

3　二度以上にわたって資格振替単位の申請があるときは、既認定単位数との差分の単位を認定する。

（成績評価の評語）

**第７条**　資格振替単位の認定を受けた場合の成績評価はＡＡとする。

（評価年度）

**第８条**　資格振替単位の認定を受けた場合の評価年度は、認定年度とする。

**附　則**

この細則は平成13年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は平成14年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は平成15年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は平成16年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は平成17年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は平成18年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は平成19年４月１日から施行する。

**附　則**

1　この細則は、平成20年４月１日から施行する。

2　改正後の第５条第２項の規定にかかわらず、平成19年度以前に入学した者については、なお従前の例（評価は優とする）による。

**附　則**

この細則は、平成21年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成23年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成24年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成25年４月１日から施行する。

**附　則**

1　この細則は、平成26年４月１日から施行する。

2　改正後の別表第２(2)総合資格振替単位基準にかかわらず、平成25年度以前に入学した者が、簿記の資格振替を申請したときの振替科目は、簿記入門（２単位）及び簿記演習Ⅰ（２単位）とする。

3　改正後の別表第２(2)総合資格振替単位基準において全国経理教育協会簿記検定３級以上及び全国商業高等学校協会簿記検定３級以上とする規定の変更については、平成26年度以降に入学した者から適用し、平成25年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

**附　則**

1　この細則は、平成27年４月１日から施行する。

2　改正後の別表第１に定める振替科目及び振替単位数については、平成27年度入学生から適用し、それ以前に入学した者については、次のとおりとする。

| | 英語に関する検定試験 | 認定基準 | 平成26年度以前入学生 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 振替科目 | 振替単位数 |
| レベル1 | TOEIC | 450点以上650点未満 | 英語ＡⅠ（１単位）<br>英語ＡⅡ（１単位）<br>英語ＢⅠ（１単位）<br>英語ＢⅡ（１単位） | ４単位 |
| | TOEFL iBT | 39点以上64点未満 | | |
| | IELTS | 4 | | |
| | 英検（実用英語技能検定） | ２級 | | |
| レベル2 | TOEIC | 650点以上 | 英語ＡⅠ（１単位）<br>英語ＡⅡ（１単位）<br>英語ＢⅠ（１単位）<br>英語ＢⅡ（１単位）<br>資格英語Ⅰ（１単位）<br>資格英語Ⅱ（１単位） | ６単位 |
| | TOEFL iBT | 64点以上 | | |
| | IELTS | 4.5以上 | | |
| | 英検（実用英語技能検定） | 準１級以上 | | |

※主催／ TOEIC（財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会）、TOEFL（国際教育交換協議会）、英検・IELTS（財団法人 日本英語検定協会）

3　改正後の別表第２については、平成26年度入学生から適用し、それ以前に入学した者については、次のとおりとする。

| 簿記に関する検定試験 | 認定基準 | 平成25年度以前入学生 | |
|---|---|---|---|
| | | 振替科目 | 振替単位数 |
| 日本商工会議所簿記検定 | ３級以上 | 簿記入門（２単位）<br>簿記演習Ⅰ（入門）（２単位） | ４単位 |
| 全国商業高等学校協会簿記検定 | ２級以上 | 簿記入門（２単位）<br>簿記演習Ⅰ（入門）（２単位） | ４単位 |

※主催／日本商工会議所、全国商業高等学校協会

**附　則**

この細則は、平成29年４月１日から施行する。

**附　則**

1　この細則は、平成31年４月１日から施行する。

2　改正後の第４条第１項第２号及び第３号の規定については、平成31年度以降の入学生より適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例による。

3　改正後の別表第１に定める振替科目及び振替単位数については、平成30年度入学生から適応し、平成29年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

4　改正後の別表第２（第３条関係）において振替科目の簿記３級Ⅰ（２単位）を初級簿記Ⅰ（２単位）とする規定の変更にかかわらず、平成30年度以前に入学した者が、簿記の資格振替を申請したときの振替科目は、簿記入門（２単位）及び簿記３級Ⅰ（２単位）とする。

**附　則**

この細則は、令和元年８月23日から施行する。

別表第１（第３条関係）

| | 英語に関する検定試験 | 認定基準 | 振替科目 | 振替単位数 |
|---|---|---|---|---|
| レベル1 | TOEIC | 550点以上650点未満 | 必修英語ＡⅠ（１単位）<br>必修英語ＡⅡ（１単位）<br>必修英語ＢⅠ（１単位）<br>必修英語ＢⅡ（１単位）<br>必修英語ＣⅠ（１単位）<br>必修英語ＣⅡ（１単位） | ６単位 |
| | TOEFL iBT | 56点以上68点未満 | | |
| | IELTS | 4.5 | | |
| | 英検（実用英語技能検定） | ２級 | | |
| レベル2 | TOEIC | 650点以上 | 必修英語ＡⅠ（１単位）<br>必修英語ＡⅡ（１単位）<br>必修英語ＢⅠ（１単位）<br>必修英語ＢⅡ（１単位）<br>必修英語ＣⅠ（１単位）<br>必修英語ＣⅡ（１単位）<br>英語理解･発展Ⅰ（１単位）<br>英語理解･発展Ⅱ（１単位） | ８単位 |
| | TOEFL iBT | 68点以上 | | |
| | IELTS | 5.0以上 | | |
| | 英検（実用英語技能検定） | 準１級以上 | | |

※主催／ TOEIC（財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会）、TOEFL（国際教育交換協議会）、英検・IELTS（財団法人 日本英語検定協会）

別表第２（第３条関係）

| 簿記に関する検定試験 | 認定基準 | 振替科目 | 振替単位数 |
|---|---|---|---|
| 日本商工会議所簿記検定 | ３級以上 | 簿記入門（２単位）<br>初級簿記Ⅰ（２単位） | ４単位 |
| 全国経理教育協会簿記検定 | ３級以上 | | |
| 全国商業高等学校協会簿記検定 | ３級以上 | | |

※主催／日本商工会議所、全国経理教育協会、全国商業高等学校協会

別表第３（第３条関係）

| 情報処理に関する検定試験及び認定基準 | 振替科目 | 振替単位数 |
|---|---|---|
| IT パスポート | 情報入門演習Ｓ（２単位） | ２単位 |
| ビジネス文書実務検定 １級 | 情報入門演習Ａ（２単位） | ２単位 |
| ワープロ実務検定 １級 | | |
| 日本語ワープロ検定 １級 | | |
| Word 文書処理技能認定試験 ２級以上 | | |
| MOS Word 2010 | | |
| MOS Word 2013 | | |
| MOS Word 2016 | | |
| MOS Word エキスパート（上級） | | |
| Excel® 表計算処理技能認定試験 ２級以上 | 情報入門演習Ｂ（２単位） | ２単位 |
| MOS Excel 2010 | | |
| MOS Excel 2013 | | |
| MOS Excel 2016 | | |
| MOS Excel エキスパート（上級） | | |
| ICT プロフィシエンシー検定試験（P 検）２級以上 | 情報入門演習Ａ（２単位）<br>情報入門演習Ｂ（２単位） | ４単位 |
| 基本情報技術者 | | |

※主催／（財）全国商業高等学校協会、日本情報処理検定協会、ICT プロフィシエンシー検定協会、サーティファイソフトウェア活用能力認定委員会、Microsoft 社、独立行政法人　情報処理推進機構　情報処理技術者試験センター

## 広島経済大学語学留学振替単位認定細則

（平成30年２月１日制定）

（趣旨）

**第１条**　この細則は、広島経済大学学則（以下「学則」という。）第59条第２項の規定に基づき、広島経済大学（以下「本学」という）の短期又は長期語学留学プログラム（以下「語学留学プログラム」という）を修了した者の単位の認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

（定義）

**第２条**　この細則において「第一外国語」とは英語をいい、「第二外国語」とは英語以外の外国語をいう。

（認定できる単位数等）

**第３条**　語学留学プログラムの修了により認定できる単位数は、学則第59条第１項及び第３項並びに第60条の規定により修得したものとみなす単位と合せて60単位を超えない範囲とし、第一外国語及び第二外国語について、それぞれ４単位を限度とし、留学先での受講時間数により次のとおり認定できるものとする。

| 留学先での受講時間数 | 振替単位数 |
|---|---|
| 60時間以上120時間未満 | ２単位 |
| 120時間以上 | ４単位 |

２　２度以上にわたって語学留学プログラムに参加し、修了した場合に認定できる単位数は、前項に規定する60単位を超えない範囲で、既に認定している単位数と合わせて、第一外国語及び第二外国語について、それぞれ４単位までとする。

（振替単位の認定申請）

**第４条**　語学留学振替単位の認定を受けようとする者は、語学留学振替単位認定申請書に語学留学修了証明書を添え、学務センター教務課に申請しなければならない。

２　語学留学振替単位の申請は、広島経済大学履修細則第５条に規定する履修制限単位数に含めないものとする。

３　第１項の申請を行う時期は、次のとおりとする。

⑴　前期の単位として認定：前期授業開始日から前期定期試験終了日まで

⑵　後期の単位として認定：後期授業開始日から後期定期試験終了日まで

（振替単位の認定）

**第５条**　語学留学振替単位の申請があった場合は、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、学則第46条に規定する自由選択科目の卒業認定の要件として必要な単位数に認定する。

（科目名の表示）

**第６条**　語学留学振替単位として認定された場合の科目名の表示は、〇〇語留学振替単位とする。

（成績評価の評語）

**第７条**　語学留学振替単位の認定を受けた場合の成績評価はＡＡとする。

（評価年度）

**第８条**　語学留学振替単位の認定を受けた場合の評価年度は、認定年度とする。

**附　則**

１　この細則は、平成30年４月１日から施行する。但し、平成29年度語学留学プログラムも対象にするものとする。

２　第３条により認定できる単位数には、平成29年度までに「広島経済大学短期語学留学振替単位認定細則」（平成13年４月１日施行）により認定された単位数を含むものとする。

３　「広島経済大学短期語学留学振替単位認定細則」（平成13年４月１日施行）は、廃止する。

# 広島経済大学交換留学プログラムによる単位認定細則

（平成29年12月27日制定）

最終改正　平成31年２月４日

（目的）

**第１条**　この細則は、広島経済大学学則（以下、「学則」という）第59条第２項及び第４項に基づき、本学の交換留学プログラムにより修得した単位の認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

（定義）

**第２条**　この細則において「交換留学プログラム」とは、本学と海外の大学等高等教育機関（以下、「協定大学等」という）との間で締結された学生の相互派遣及び単位互換に関する協定に基づき実施される海外留学プログラムをいう。

（単位数の制限）

**第３条**　交換留学プログラムにより、協定大学等で修得した単位は、学則第59条及び第60条の規定により修得したものとみなす単位と合せ、60単位を超えない範囲で本学学部の卒業要件に認定することができる。

（申請）

**第４条**　交換留学プログラムにより海外の協定大学等で修得した単位を、本学の卒業要件単位として認定を受けることを希望する者（以下、「申請学生」という）は、所定の申請書に認定を希望する科目（以下、「認定希望科目」という。）等必要事項を記入の上、協定大学等が発行又は交付する次の各号に定める書類を添え、学務センター教務課に申請しなければならない。

⑴　成績証明書の原本

⑵　成績評価基準が明示されている資料

⑶　認定を希望する科目のシラバス（写しでも可）又は授業内容を示す資料

⑷　授業時間数が明示されている資料

⑸　上記の書類が発行又は交付されない場合は、内容がわかる書類に担当教員又は当該協定大学等の国際交流センター等の責任者が証明又は署名した書類

⑹　その他本学が必要と認めた書類

２　前項の規定による協定大学等が発行又は交付する書類は、英語又は日本語表記に限るものとする。

３　申請ができる期間は次のとおりとする。

⑴　前期の単位として認定する場合
　前年度後期派遣プログラムを終了した日から
　当年度５月末日まで

⑴　後期の単位として認定する場合
　当年度前期派遣プログラムを終了した日から
　当年度11月末日まで

（認定対象科目）

**第５条**　単位認定の対象となる科目は、協定大学等の正規課程科目に限るものとする。

（単位数の換算方法）

**第６条**　第４条により申請された授業科目の修得単位を本学の単位として換算する場合は、次の各号のいずれかの方法によるものとする。

⑴　派遣先大学で修得した単位が、ECTS（European Credit Transfer System）又はUCTS（UMAP Credit Transfer Scheme）により換算されている場合は、別表１の換算率に基づき換算する。

⑵　前号が適用できず、留学先での学修時間数を基に換算する場合は、第３条に規定する申請書及び添付書類により求められた学修時間を別表２により換算する。

２　前項により認定できる単位数は、小数点以下を切り捨てた値とする。

（単位の認定）

**第７条**　前２条により申請及び換算された授業科目の修得単位は、申請学生が所属する学部学科の学科会で審査のうえ、次の各号のいずれかの方法により、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を認定することができる。

⑴　認定希望科目の授業内容等が、学則第34条の別表第４に規定する授業科目のいずれか一つの科目と同等であると判定された場合、当該授業科目に読み替えた上で、教務委員会の議を経て、学長が認定する。

⑵　前号に該当しない認定希望科目の授業内容等が、学則第34条第２項に規定する臨時の授業科目として適切であると判定された場合、申請された英文の授業科目名称に留学先大学の名称又は略称を付記した上で、教務委員会及び教授会の議を経て、学長が認定する。

（卒業認定要件単位数の計算）

**第８条**　前条により認定された授業科目の単位は、次のいずれかにより、学則第46条に規定する卒業認定の要件として必要な単位数として計算するものとする。

⑴　自学部自学科科目として認定された単位
　学科科目の単位数として計算する。

⑵　自学部他学科科目及び他学部他学科科目として認定された単位
　自由選択科目の単位数として計算する。

⑶　共通科目として認定された単位
　共通科目の単位数として計算する。

（成績評価の評語及び評価年度）

**第９条**　第６条及び第７条により単位認定された授業科目の成績評価は「CA」とし、評価年度は認定年度とする。

**附　則**

この細則は、平成30年４月１日から施行する。但し、平成29年度交換留学プログラムも対象にするものとする。

**附　則**

１　この細則は、平成31年４月１日から施行する。

２　改正後の第８条第１項第２号の規定については、平成31年度以降の入学生より適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例による。

**別表１**

| ECTS の単位数 | UCTS の単位数 | 本学の単位数 |
|---|---|---|
| 1.5～1.8ECTS 単位 | 1 UCTS | 1 単位 |
| 1 ECTS 単位 | － | 0.6～0.7単位 |

**別表２**

| 区分（授業方法） | 本学の1単位に必要な時間数 |
|---|---|
| 講義及び演習 | 15時間 |
| 実験、実習、実技及び外国語 | 30時間 |

## 広島経済大学学校インターンシップ単位認定細則

（平成19年11月８日制　　定）
最終改正　平成29年２月14日

（目的）

**第１条**　この細則は、広島経済大学学則第59条の規定に基づき、本学以外の教育施設等における学修のうち学校インターンシップにおける単位の認定に関し必要な事項を定める。

（活動の趣旨）

**第２条**　本学と広島市教育委員会との協定に基づき、教員を志望する学生が広島市立学校・幼稚園において教育活動の支援をすることにより、教育活動の一層の活性化を図るとともに、校長・園長等の指導・助言により将来教員を志望する意欲・情熱を持った学生の資質・能力の向上に資することを趣旨とする。なお、他の公立学校との類似の連携活動は、これに準ずる。

２　学校インターンシップに参加できる学生は、本学教職課程登録者（２年次以上）を対象とする。

（認定できる単位数等）

**第３条**　学校インターンシップの単位として認定を受けることができる単位数は２単位とする。ただし、活動時間数が事前・事後指導を含めて60時間以上（１つ又は複数の活動及び複数年にわたる活動も可能とする。）の場合に限るものとする。なお、本学学則第59条第１項、第２項及び第３項規定の単位互換並びに大学以外の教育施設等における学修により修得した単位と合わせて60単位を超えない範囲において、本学において修得したものとして認定することができる。

（単位の認定の申請）

**第４条**　前条の規定による単位の認定を受けようとする者が、単位の認定を申請することができる時期は、学校インターンシップ単位認定の申請及び認定時期（別表第１）によるものとする。

２　前条の規定による単位の認定を受けようとする者は、所定の申請書に大学生による学校支援活動認定書を添えて、申請しなければならない。

（単位の認定）

**第５条**　前条の規定による申請があるときは、学校インターンシップ単位認定基準（別表第２）により自由選択科目の卒業認定の要件単位として認定する。

**附　則**

この細則は、平成20年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成21年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成27年６月１日に遡って施行する。

**附　則**

この細則は、平成29年４月１日から施行する。

**別表第１**　学校インターンシップ単位認定の申請及び認定時期

| 申請時期 | 認定時期 |
|---|---|
| 前期授業開始日　～<br>後期授業開始日の前日まで | 前期 |
| 後期授業開始日　～<br>翌年度前期授業開始日の前日まで | 後期 |

※所定の申請書に大学生による学校支援活動認定書を添えて、申請しなければならない。
※申請できる期間は、学校インターンシップを修了してから１年間とする。
※４年次生は２月～３月の申請はできない。

**別表第２**　学校インターンシップ単位認定基準

| 対　　象 | 認定単位数 |
|---|---|
| 学校インターンシップ修了者 | ２単位 |

※学校インターンシップ認定単位の評価は「AA」とする。
　ただし、平成19年度以前の入学生については、「優」とする。
※認定を受けることができる単位数は２単位までとする。
※主催等／広島市教育委員会、本学学務センター教務課

## 広島経済大学中小企業大学校研修プログラム単位認定細則

（平成20年１月10日制　　定）
最終改正　平成25年１月10日

（目的）

**第１条**　この細則は、広島経済大学学則（以下「学則」という。）第59条に基づき、本学と中小企業大学校との協定により、中小企業大学校研修プログラムを受講する本学の学生（以下「派遣学生」という。）に関して必要な事項を定める。

（認定できる単位数等）

**第２条**　中小企業大学校研修プログラムの単位として認定を受けることができる単位数は１単位または２単位とし、本学学則第59条第１項、第２項及び第３項規定の単位互換並びに大学以外の教育施設等における学修により修得した単位と合わせて60単位を超えない範囲において、本学において修得したものとして認定することができる。

（受講プログラム）

**第３条**　受講を申請できるプログラムは、中小企業大学校が提供する研修プログラムのうち、本学が許可した研修プログラムに限るものとする。

２　中小企業大学校でのプログラムへの参加方法については、中小企業大学校の提示によるものとする。

（出願）

**第４条**　派遣学生を希望する学生は、所定の期日までに「出願票」に「志願理由書」を添えて願い出なければならない。ただし、１年次生は出願できない。

（事前・事後指導）

**第５条**　受け入れを許可された派遣学生は、本学が実施する事前及び事後指導を受講することとする。

（履修制限）

**第６条**　派遣学生がその年度内に履修できる単位数は、本学履修細則第５条によるものとする。

（単位の認定の申請）

**第７条**　第２条の規定による単位の認定を受けようとする者が、単位の認定を申請することができる時期は、中小企業大学校研修プログラム単位認定の申請及び認定時期（別表第１）によるものとする。

２　第２条の規定による単位の認定を受けようとする者は、所定の申請書に中小企業大学校研修プログラム修了証を添えて、申請しなければならない。

（単位の認定）

**第８条**　前条の規定による申請があるときは、中小企業大学校研修プログラム単位認定基準（別表第２）により自由選択科目の卒業認定の要件単位として認定する。

**附　則**

この細則は、平成20年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成25年４月１日から施行する。

**別表第１**　中小企業大学校研修プログラム単位認定の申請及び認定時期

| 申請時期 | 認定時期 |
|---|---|
| 前期授業開始日～後期授業開始日の前日まで | 前期 |
| 後期授業開始日～翌年度前期授業開始日の前日まで | 後期 |

※所定の申請書に中小企業大学校研修プログラム修了証を添えて、申請しなければならない。
※申請できる期間は、中小企業大学校研修プログラムを修了してから１年間とする。
※４年次生は２月～３月の申請はできない。

**別表第２**　中小企業大学校研修プログラム単位認定基準

| 中小企業大学校研修プログラムコマ数 | 認定単位数 |
|---|---|
| 事前・事後指導を含め受講コマ数が15コマ相当未満 | １単位 |
| 事前・事後指導を含め受講コマ数が15コマ相当以上 | ２単位 |

※「中小企業大学校研修プログラム」認定単位の評価は「AA」とする。ただし、平成19年度以前の入学生については、従前のとおり「優」とする。
※認定を受けることができる単位数は２単位までとする。
※主催等／中小企業大学校

## 学部との５年プログラム細則

（平成15年９月17日制定）
最終改正　平成31年２月４日

（趣旨）
**第１条**　この細則は、本学大学院学則第17条の２の規定に基づき、本学学部との５年プログラムに関し必要な事項を定めるものとする。
（募集人員）
**第２条**　本学学部（以下「学部」という。）との５年プログラム生（以下「５年プログラム生」という。）として募集する人員は３名程度とする。（博士課程前期課程募集人員10名のうちとする。）
（出願資格）
**第３条**　５年プログラム生として経済学研究科の授業科目を履修することのできる者は、次の各号に該当する者とする。
⑴　当該年度末に学部を優秀な成績で卒業見込みの者で、同年４月に本学大学院経済学研究科経済学専攻博士課程前期課程（経済学専修コース）に進学することを希望する者。
⑵　学部３年次前期までの成績が所属学部学科の上位20％以内に入っている者。
（提出書類）
**第４条**　５年プログラム生を志願する者は、次の書類と別表に定める検定料を添え、研究科長を経て学長に提出しなければならない。
⑴　博士課程前期課程（経済学専修コース）授業履修願
⑵　学部３年次前期までの成績証明書
⑶　学部演習担当教員等の推薦書
⑷　将来計画書
（出願期間）
**第５条**　５年プログラム生の出願期間は、学部３年次２月中旬とする。
（選考時期）
**第６条**　５年プログラム生の選考時期は、学部３年次３月初めとする。
（選考方法）
**第７条**　提出書類及び学部３年次後期までの成績、筆答試験、口頭試験の結果を総合して判断し、合否を決定する。
２　口頭試験の審査員は３名とし、そのうち１名は希望主ゼミ担当教授とする。
（５年プログラム生の身分）
**第８条**　５年プログラム生の身分は、大学院の科目等履修生として取り扱うものとする。
（入学金及び履修料）
**第９条**　５年プログラム生の入学金及び履修料は、別表のとおり全額免除とする。
（学部４年次で履修できる授業科目）
**第１０条**　５年プログラム生が、学部４年次に履修できる大学院の授業科目は次のとおりとする。なお、これらの授業科目の修得単位は学部の卒業要件単位には充当することはできない。
⑴　希望主ゼミの担当教授の研究指導ＡⅠ（４単位）※必ず履修しなければならない。
⑵　希望主ゼミの担当教授の講義科目
⑶　基礎科目〔マクロ経済学（４単位）、ミクロ経済学（４単位）、データ分析入門（４単位）、外書講読（英語）（４単位）、外書講読（ドイツ語）（４単位）、外書講読（フランス語）（４単位）〕
⑷　上記授業科目以外で、希望主ゼミ担当教授が履修の必要性を認める授業科目
（学部との５年プログラムによる既修得単位等の取り扱い）
**第１１条**　学部との５年プログラムにより、経済学研究科に入学する前に同研究科の授業科目を履修し単位を修得しているものについては、当該授業科目の単位数を大学院経済学研究科履修細則第６条に規定の修了要件として必要な修得単位数に充当することができる。
（博士課程前期課程（経済学専修コース）進学者選考）
**第１２条**　５年プログラム生のうち、博士課程前期課程（経済学専修コース）に進学を希望する者の選考時期は、学部４年次末（大学院Ⅱ期入学試験と同時期）とする。
２　前項の選考方法は、書類選考（学部成績、学部４年次での大学院授業科目の履修状況）とする。

**附　則**
この細則は、平成15年10月１日から施行する。

**附　則**
この細則は、平成18年４月１日から施行する。

**附　則**
この細則は、平成29年４月１日から施行する。

**附　則**
この細則は、平成31年４月１日から施行する。

**別表**

| | |
|---|---|
| 検定料 | 5,000円 |
| 入学金 | 免除（学部４年次及び大学院進学時） |
| 履修料 | 免除（学部４年次） |

※大学院進学後の授業料及び施設費については、納付を必要とする。

## 広島経済大学早期卒業に関する細則

（平成17年１月13日制定）
最終改正　平成31年２月４日

（趣旨）
**第１条**　この細則は、広島経済大学学則（以下「学則」という。）第９条第２項の規定に基づき、広島経済大学（以下「本学」という。）の早期卒業について必要な事項を定めるものとする。
（対象者）
**第２条**　早期卒業の対象となる者は、再入学者を含め本学に３年以上在学し、次の各号の要件をすべて満たしている者とす

る。ただし、編入学した者は、早期卒業の対象とならない。
⑴　３年次終了時において、学則第46条に定める卒業認定の要件を満たしていること。
⑵　３年次終了時において、すべての履修科目の成績評価がＡ以上でなおかつ20科目以上がAAであること。
⑶　学生本人が早期卒業を希望していること。

（出願資格）

**第３条**　早期卒業を志願できる者は、次の各号の要件をすべて満たしているものとする。
⑴　２年次終了時において、卒業認定の要件として必要な単位を80単位以上修得していること。
⑵　２年次終了時において、履修科目の成績評価がすべてＡ以上であること。
⑶　在学中、修学態度・人格ともに優秀で、他の模範となる者であること。
⑷　早期卒業の意志及び理由が明確であること。
⑸　３年次に所属する演習科目指導教員の承認が得られていること。

（出願時期及び提出書類）

**第４条**　早期卒業を志願する者は、２年次終了時点において所定の早期卒業志願書に次の書類を添えて、所属学部の学部長を経て学長に提出しなければならない。
⑴　２年次までの単位・成績証明書
⑵　将来計画書

（選考）

**第５条**　早期卒業を志願する者は、面接試験及び書類審査による選考を行い、教務委員会に諮り、学長が可否を決定する。

（合格者への指導）

**第６条**　前条により合格した者の演習科目指導教員は、当該学生の研究活動と学習及び進路に係る適切な指導を行う。

（３年次履修登録）

**第７条**　合格者の３年次履修制限単位数は、広島経済大学履修細則（以下「履修細則」という。）第５条にかかわらず、年間56単位までとする。
２　合格者は、広島経済大学演習細則第２条の規定にかかわらず、３年次に４年次配当の演習科目を専用のクラスで指導教員の指導を受け、卒業論文又は卒業作品を提出し、単位を修得しなければならない。

（早期卒業判定）

**第８条**　早期卒業の可否は、３年次終了時点において第２条の規定に基づき教務委員会に諮り、第二教授会の審議を経て、学長が決定する。

（早期卒業の辞退）

**第９条**　早期卒業を辞退する者及び第２条に規定する要件が充足できないことが判明した者は、所定の早期卒業辞退願により、直ちにその旨願い出なければならない。
２　前項により辞退した者は、辞退した時点で履修細則に規定する履修制限単位数になるように履修登録内容を変更しなければならない。
３　３年次前期終了時に辞退した者は、後期に履修細則に規定する履修制限単位数になるように履修登録内容を変更しなければならない。なお、特別に履修登録が認められていた４年次配当の演習科目については、その履修登録を取り消さなければならない。
４　３年次終了時に辞退した者は、当該年度の修得単位のうち履修細則に規定する３年次履修制限単位数までを卒業認定の要件として必要な修得単位とし、履修制限単位数を超えて修得した単位は卒業認定の要件として必要な単位数には含まないものとする。
５　前項の卒業認定の要件として必要な単位に含まない科目は、本人の選択により決定するものとする。
６　３年次終了時に辞退した者が、４年次演習科目の単位を修得している場合は、４年次における学習及び進路指導については、引き続き当該演習科目指導教員の指導を受けることができる。

**附　則**

この細則は、平成17年４月１日から施行する。

**附　則**

この細則は、平成18年４月１日から施行する。

**附　則**

１　この細則は、平成20年４月１日から施行する。
２　改正後の第３条第２号及び第４条第２号の規定にかかわらず、平成19年度以前に入学した者については、なお従前の例（優）による。

**附　則**

１　この細則は、平成23年４月１日から施行する。
２　国際地域経済学科の学生は、この改正後の第８条第１項第１号の規定にかかわらず、当該学科に在籍する志願資格を持つ者が当該学科に在学しなくなるまでの間従前の例による。

**附　則**

この細則は、平成23年７月14日から施行する。

**附　則**

１　この細則は、平成27年４月１日から施行する。
２　改正後の第７条の規定については、平成26年度入学生から適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例による。

**附　則**

この細則は、平成31年４月１日から施行する。

## 広島経済大学高大連携にともなう公開授業科目及び公開講座に関する規程

（平成14年４月１日制定）
最終改正　平成27年２月24日

（趣旨）

**第１条**　この規程は、高大連携にともなう授業科目の公開等に係る協定により、本学が行なう授業科目の一部を広島県内の各教育委員会所管（私立の高等学校を含む。）の学校生徒（以下「高校生」という。）に公開（以下「公開授業科目」という。）するとともに、高校生を対象とした講座（以下「公開講座」という。）を開設することで、高校生に大学における高度な教育・研究に触れる機会を提供し、もって、高等学校と大学との円滑な接続に資するための公開授業科目及び公開講座の実施に関して必要な事項を定める。

（授業公開等に係る協定）

**第２条**　前条の高大連携にともなう授業科目の公開等に係る協定とは、本学と広島県内の各教育委員会及び教育ネットワーク中国（以下「事務局」という。）の協定書に基づく包括協定並びに本学と各教育委員会の協定書に基づく個別協定をいう。

（公開する授業科目）

**第３条**　公開授業科目は、本学における正規のカリキュラムにおける授業科目のうち、基礎的な科目で、公開する授業科目として適当と認める授業科目とする。
２　公開授業科目は、次の内容のいずれかで開講される授業科目とする。
⑴　授業が午後４時20分以降に始まる科目
⑵　授業が土曜日に開講される科目
⑶　授業が夏期休暇などに開講される集中講義科目
３　公開授業科目における高校生の受け入れ人数は原則として10名程度までとし、その都度、事務局及び各教育委員会に提示する。

（公開講座の開設）

**第４条**　高校生を対象に開設する公開講座は、次のような科目

とする。
⑴　社会科学入門、人文科学入門、自然科学入門、又は複合的な分野からなる入門講座
⑵　学部・学科・専攻などを基礎にしながら、この学部・学科・専攻ではどのような勉強ができるのか、将来の職業なども含め紹介する公開講座
2　公開講座は本学で開催し、講師の謝金等については本学の負担とする。
3　公開講座の時間数は、１回の講座を90分とし15回程度とする。ただし、１回の講座を50分とする場合は35回程度とする。
4　公開講座の受け入れ人数は、その都度、事務局及び各教育委員会に提示する。
（受講生の推薦）
**第５条**　各教育委員会が第３条３項及び第４条４項により提示した受け入れ人数の範囲内で、公開授業科目又は公開講座を受けるために必要な意欲・適正・能力をもった高校生を本学に推薦する。
（受講生の受け入れ）
**第６条**　前条により推薦された高校生に対する本学の公開授業科目及び公開講座の受講生としての受け入れについては、教務委員会に諮り、学長が許可する。
2　学長は、公開授業科目及び公開講座の受講生として受け入れを許可したときは、事務局を経てその所属高等学校の校長並びに所管の教育委員会にその旨通知するものとする。選考の結果受け入れを許可しない者についても同様とする。
3　受け入れを許可された者は、所定の期日までに所定の手続きを行わなければならない。
4　前項の手続きを完了した者に対して、所定の授業科目の履修登録を許可し、身分証明書（公開授業・講座受講生）を交付する。
（履修方法）
**第７条**　公開授業科目及び公開講座の受講生（高校生）における科目の履修登録方法については、本学の指示によるものとする。
（試験）
**第８条**　公開授業科目及び公開講座の受講生（高校生）は、履修登録した授業科目の学内定期試験を受けることはできない。
（単位の認定）
**第９条**　公開授業科目及び公開講座の受講生（高校生）における履修登録科目については、単位の認定はしない。
（修了証書の交付）
**第１０条**　公開授業科目及び公開講座の受講生（高校生）が、履修登録し受講した授業科目については受講状況および学習成果を確認のうえ、修了証書を交付する。
（学費等）
**第１１条**　公開授業科目及び公開講座の受講生（高校生）の選考料及び授業料等は徴収しない。ただし、実験、実習及び教材等に要する費用は、必要に応じ徴収することがある。
（規則の準用）
**第１２条**　公開授業科目及び公開講座の受講生（高校生）については、この規程に定めるもののほか、本学学則及び諸規則を準用する。

**附　則**

この細則は平成14年４月１日から施行する。

**附　則**

この規程は、平成17年４月１日から施行する。

**附　則**

この規程は、平成27年４月１日から施行する。

## 5 その他

## 広島経済大学研究活動の不正行為防止等に関する規程

（平成28年３月１日制定）
最終改正　平成30年３月27日

（趣旨）
**第１条**　この規程は、広島経済大学（以下「本学」という。）における研究活動上の不正行為の防止及び不正行為が生じた場合における適正な対応に関し必要な事項を定めるものとする。
（定義）
**第２条**　この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号の定めるところによる。
⑴　研究者等本学において研究活動に従事する教員及び学生をいう。
⑵　不正行為捏造、改ざん、盗用、二重投稿、不適切なオーサーシップ等、研究活動上の不適切な行為であって、科学者の行動規範及び社会通念に照らして研究者倫理から逸脱の程度が甚だしいものをいう。
⑶　特定不正行為前号の不正行為のうち、故意又は研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく怠ったことによる、捏造、改ざん及び盗用をいう。
（研究者等の責務）
**第３条**　研究者等は、研究活動上の不正行為やその他の不適切な行為を行ってはならず、また、他者による不正行為の防止に努めなければならない。
2　研究者等は、研究者倫理及び研究活動に係る法令等に関する研修又は科目等（以下「研究倫理教育」という。）を受講しなければならない。
3　研究者等は、研究活動の正当性の証明手段を確保するとともに、第三者による検証可能性を担保するため、実験・観察記録ノート、実験データその他の研究資料等を、論文等成果物の発表後10年間適切に保存及び管理し、開示の必要性及び相当性が認められる場合には、これを開示しなければならない。
（最高管理責任者）
**第４条**　研究倫理の向上、不正行為の防止等について本学全体を統括し、最終責任を負う者として最高管理責任者を置き、学長をもって充てる。
2　最高管理責任者は、公正な研究活動を推進するために適切な措置を講ずるものとする。
（研究倫理教育責任者）
**第５条**　本学における研究倫理教育について実質的な責任及び権限を持つ者として研究倫理教育責任者を置き、学部長をもって充てる。
2　研究倫理教育責任者は、本学に所属する研究者等に対し、研究倫理教育を定期的に行わなければならない。
（研究倫理審査委員会の設置）
**第６条**　学長は、研究活動上の不正行為の防止及び研究倫理に関し必要な事項について審議を行うため、必要に応じて研究倫理審査委員会を設置することができる。
2　委員長は最高管理責任者をもって充て、委員は必要に応じて学長が委嘱する。
（通報及び相談窓口の設置）
**第７条**　不正行為について、学内外から通報及び相談を受け付ける窓口を地域経済研究所に設置する。
（通報及び相談の方法）
**第８条**　不正行為の疑いがあると思料する者は、何人も、書面、ファクシミリ、電子メール、電話又は面談により、窓口に対して通報又は相談を行うものとする。
2　通報は、原則として顕名により行うものとし、不正行為を

行ったとする研究者、研究グループ等の氏名又は名称、不正行為の態様その他事案の内容を明示し、かつ、不正とする科学的な合理性のある理由を明示しなければならない。

（窓口の職員の義務等）

**第９条**　窓口の職員は、通報又は相談を受け付けるにあたり、通報者及び相談者の秘密の遵守及び保護を徹底しなければならない。

２　窓口の職員は、通報又は相談を受け付けるにあたり、面談による場合は個室にて実施し、書面、ファクシミリ、電子メール、電話等による場合はその内容を他の者が同時及び事後に見聞できないようにするなど、適切な措置を講じなければならない。

３　窓口の職員は、直接の利害関係を有する事案に関与してはならない。

（通報及び相談の受付等）

**第10条**　通報は、不正行為を行ったとする研究者、研究グループ等の氏名又は名称、不正行為の態様その他事案の内容が明示され、かつ、不正とする科学的な合理性のある理由が明示されている顕名による通報に限り受け付けるものとする。

２　前項の規定にかかわらず、匿名による通報があった場合は、その内容を最高管理責任者と協議し必要と認めたときは、これを顕名による通報に準じて取り扱うことができるものとする。

３　新聞等の報道機関、研究者コミュニティ、インターネット等の通報によらない方法により、不正行為の疑いが指摘された場合（不正行為を行ったとする研究者、研究グループ等の氏名又は名称、不正行為の態様その他事案の内容が明示され、かつ、不正とする合理的理由が示されている場合に限る。）は、これを匿名による通報に準じて取り扱うことができるものとする。

４　窓口の職員は、通報を受け付けたときは、速やかに最高管理責任者にその内容を報告しなければならない。

５　窓口の職員は、通報者に対し通報を受け付けた旨を通知するものとする。

６　最高管理責任者は、通報の意思を明示しない相談については、通報に準じてその内容を確認又は精査し、相当の理由があると認めた場合は、相談者に対して通報の意思の有無を確認するものとする。

７　窓口の職員は、不正行為が行われようとしている、又は不正行為を求められているという通報又は相談については、最高管理責任者にその旨を報告しなければならない。

８　前項の報告を受けた最高管理責任者は、その内容を確認又は精査し、相当の理由があると認めた場合は、被通報者に対して警告を行うものとする。

（通報及び相談の回付）

**第１１条**　本学が、通報及び相談があった事案の調査を行うべき機関に該当しない場合は、窓口を通じ該当する機関に当該事案を回付する。

２　通報及び相談があった事案について、本学以外に調査を行う機関が想定される場合は、前項と同様に取り扱うものとする。

（悪意に基づく通報）

**第１２条**　何人も、被通報者を陥れるため又は被通報者の研究を妨害するため等、専ら被通報者に何らかの不利益を与えること又は本学若しくは被通報者が所属する組織等に不利益を与えることを目的とする通報（以下「悪意に基づく通報」という。）を行ってはならない。

２　理事長は、悪意に基づく通報であったことが判明した場合は、当該通報者の氏名の公表、懲戒処分、刑事告発その他必要な措置を講じることができる。

（守秘義務）

**第１３条**　本規程に定める業務に携わるすべての者は、業務上知り得た秘密を漏らしてはならない。

２　前項の規定については、本学の教職員でなくなった後も同様とする。

３　最高管理責任者は、通報者、被通報者、通報内容、調査内容及び調査経過について、調査結果の公表に至るまで、通報者及び被通報者の意に反して外部に漏洩しないよう、これらの秘密の保持を徹底しなければならない。

４　最高管理責任者は、当該通報に係る事案が外部に漏洩した場合は、通報者及び被通報者の了承を得て、調査中であっても調査事案について公に説明することができるものとする。ただし、通報者又は被通報者の責に帰すべき事由により漏洩したときは、当該者の了承は不要とする。

５　学長、各調査委員会委員又はその他の関係者は、通報者、被通報者、調査協力者、相談者又はその他の関係者に連絡又は通知をするときは、通報者、被通報者、調査協力者、相談者又はその他の関係者の人権、名誉、プライバシー等を侵害することのないよう配慮しなければならない。

（通報者及び相談者の保護）

**第１４条**　最高管理責任者は、通報又は相談したことを理由とする通報者又は相談者の職場環境の悪化や差別待遇が起きないよう、適切な措置を講じなければならない。

２　本学の教職員は、通報又は相談したことを理由として、通報者又は相談者に対して不利益な取扱いをしてはならない。

３　理事長は、悪意に基づく通報であることが判明しない限り、単に通報したことをもって当該通報者に不利益な措置等を行ってはならない。

（被通報者の保護）

**第１５条**　本学の教職員は、単に通報がなされたことのみをもって、被通報者に対して不利益な取扱いをしてはならない。

２　理事長は、単に通報がなされたことのみをもって、被通報者に不利益な措置等を行ってはならない。

（予備調査委員会の設置）

**第１６条**　最高管理責任者は、第10条第４項の規定による報告を受けたとき又はその他の理由により予備調査が必要と認めたときは、速やかに予備調査委員会を設置しなければならない。

２　予備調査委員会は、最高管理責任者を委員長とし、通報者及び被通報者と直接の利害関係を有しない者の中から学長が委嘱する若干人の委員をもって組織する。

３　予備調査委員会は、必要に応じて被通報者その他の関係者に対して、通報された事案に係る関係資料その他予備調査を実施する上で必要な書類等の提出を求め、又は関係者のヒアリングを行うことができる。

４　予備調査委員会は、本調査の証拠となり得る関係書類、研究ノート、実験資料等を保全する措置を講ずることができる。

（予備調査の実施等）

**第１７条**　予備調査委員会は、設置後速やかに予備調査を開始しなければならない。

２　予備調査委員会は、予備調査において、通報された不正行為が行われた可能性、通報の際に示された科学的理由の論理性、通報内容の本調査における調査可能性、その他必要と認める事項に関する調査を行う。

３　既に取り下げられた論文等に対する通報については、論文等の取り下げに至った経緯及び

事情並びに不正行為の問題として調査すべきか否か調査を行う。

４　最高管理責任者は、通報を受け付けた日から30日以内に本調査の要否を決定しなければならない。

５　予備調査委員会は、本調査が行われないことが決定した場合は、予備調査に係る資料等を保存し、当該競争的資金の配分又は措置をする機関（以下「配分機関等」という。）及び通報者から開示を求められたときは、これに応じるものとする。

（予備調査の結果の通知）

第18条　学長は、本調査を行うことを決定したときは、通報

者及び被通報者に本調査を行う旨を通知し本調査への協力を求めるものとする。
2　被通報者が本学以外の機関に所属している場合は、当該所属機関にも通知する。
**第１９条**　学長は、予備調査において本調査を行わないことを決定した場合は、理由を付して通報者に通知する。
（予備調査の結果の報告）
**第２０条**　学長は、特定不正行為に係る本調査を行うことを決定したときは、配分機関等に本調査を実施する旨を報告するものとする。
（本調査委員会の設置）
**第２１条**　最高管理責任者は、本調査を実施することを決定したときは、速やかに本調査委員会を設置しなければならない。
2　本調査委員会は、最高管理責任者を委員長とし、通報者及び被通報者と直接の利害関係を有しない者の中から学長が委嘱する若干人の委員をもって組織する。
3　前項の委員のうち、半数以上は学外有識者でなければならない。
（本調査委員の通知）
**第２２条**　学長は、本調査委員会委員を決定したときは、通報者及び被通報者に本調査委員会委員の氏名及び所属を通知するものとする。
（異議申立て）
**第２３条**　前条の通知を受けた通報者又は被通報者は、当該本調査委員会委員の選任について通知を受けた日から起算して７日以内に、学長に対し書面により理由を添えて異議申立てをすることができる。
2　学長は、前項の異議申立てがあった場合は、当該異議申立ての内容を審査し、その内容が妥当であると判断したときは、当該異議申立てに係る本調査委員会委員を交代させるとともに、その旨を通報者及び被通報者に通知するものとする。
（本調査の実施等）
**第２４条**　本調査委員会は、本調査の実施が決定した日から起算して30日以内に本調査を開始しなければならない。
2　本調査委員会は、通報において指摘された当該研究に係る論文、実験・観察ノート、生データその他資料の精査及び関係者のヒアリング等の方法により、本調査を行う。
3　通報された事案に係る研究活動のほか、本調査委員会の判断により本調査に関連した被通報者の他の研究活動についても調査の対象とすることができる。
4　本調査委員会は調査にあたり、被通報者による弁明の機会を設けなければならない。
5　通報者、被通報者その他関係者は、調査が円滑に実施できるよう積極的に協力し、真実を忠実に述べるなど、調査に誠実に協力しなければならない。
（証拠の保全）
**第２５条**　本調査委員会は、調査を実施するに当たっては、通報された事案に係る研究活動に関して、証拠となる資料及びその他関係書類を保全する措置をとるものとする。
2　通報された事案に係る研究活動が行われた研究機関が本学でない場合は、本調査委員会は通報された事案に係る研究活動に関して、証拠となる資料及びその他関係書類を保全する措置をとるよう、当該研究機関に依頼するものとする。
3　本調査委員会は、前２項に定める場合を除き、被通報者の研究活動を制限してはならない。
（調査における研究又は技術上の情報の保護）
**第２６条**　本調査委員会は、調査に当たっては、調査対象における公表前のデータ、論文等の研究又は技術上秘密とすべき情報が、調査の遂行上必要な範囲外に漏洩することのないよう、十分配慮しなければならない。
（不正行為の疑惑への説明責任）
**第２７条**　本調査において、被通報者が通報に係る疑惑を晴らそうとする場合は、自己の責任において、当該研究活動が科学的に適切な方法及び手続により行われたこと、並びに論文等が科学的に適切な方法及び手続に基づき適切な表現で書かれたものであることを科学的根拠を示して説明しなければならない。
（本調査の中間報告）
**第２８条**　学長は、本調査の終了前であっても、通報された事案に係る配分機関等の求めに応じ、本調査の中間報告を当該配分機関等に提出するものとする。
（審査及び認定）
**第２９条**　本調査委員会は、本調査を開始した日から起算して150日以内に調査した内容をまとめ、不正行為の有無について審査し、認定を行うものとする。
2　前項の審査及び認定に当たっては、被通報者の説明を受けるとともに、調査によって得られた物的・科学的証拠、証言、被通報者の自認等の諸証拠を総合的に判断した上で、不正行為の有無の認定を行わなければならず、被通報者の自認を唯一の証拠として不正行為と認定することはできない。
3　本調査委員会は、不正行為と認定した場合は、次の各号に掲げる事項についても審査し、認定を行うものとする。
⑴　不正行為と認定された内容
⑵　不正行為に関与した者とその関与の度合い
⑶　不正行為と認定された研究活動に係る論文等の各著者の当該論文等及び当該研究活動における役割
4　本調査委員会は、不正行為が行われなかったと認定する場合であって、通報が悪意に基づくものであると判断した場合は、その旨の認定を行う。
5　前項の認定を行うにあたっては、通報者に対し弁明の機会を与えなければならない。
（本調査の結果の通知）
**第３０条**　学長は、本調査の結果を通報者、被通報者及び被通報者以外で不正行為に関与したと認定された者に速やかに通知するものとする。
2　学長は、被通報者が本学以外の機関に所属している場合は、当該所属機関にも通知する。
3　学長は、悪意に基づく通報である旨の認定があった場合において、通報者が本学以外の機関に所属しているときは、当該所属機関にも通知する。
（本調査の結果の報告）
**第３１条**　学長は、不正行為のうち特定不正行為と認定されたものについては、調査結果を当該事案に係る配分機関等に報告するものとする。
（不服申立て）
**第３２条**　不正行為が行われたものと認定された被通報者及び通報が悪意に基づくものと認定された通報者は、通知を受けた日から起算して14日以内に、学長に対し不服申立てをすることができるものとする。ただし、同一理由による不服申し立てを繰り返し行うことはできない。
（不服申立てに伴う通知）
**第３３条**　学長は、不正行為が行われたものと認定された被通報者から不服申立てがあったときは、通報者にその旨を通知する。
2　学長は、通報が悪意に基づくものと認定された通報者から不服申立てがあったときは、被通報者にその旨を通知する。
3　前２項の場合において、通報者及び被通報者が本学以外の機関に所属している場合は、当該所属機関にも通知する。
（不服申立てに伴う報告）
**第３４条**　学長は、第32条の不服申立てが特定不正行為に係る事案の場合は、配分機関等に報告するものとする。
（不服申立てに係る調査）
**第３５条**　学長は、第32条による不服申立てを受けたときは、本調査委員会に不服申立てに係る審査を命ずるものとする。ただし、不服申立ての趣旨より新たに専門性を要する判断が必要であると認めた場合は、調査委員の交代若しくは追加又

は新たに調査委員会を設置させることができるものとする。
2　本調査委員会は、学長から前項の審査を命じられた場合は、当該事案の再調査を行うか否かを速やかに審査し、学長に報告するものとする。
（再調査の可否に伴う通知）
**第３６条**　学長は、再調査を行うか否かの報告を受けたときは、不服申立人に対しその決定を通知するものとする。
2　本調査委員会からの報告が、再調査を行うまでもなく不服申立てを却下すべきものと決定した事案のうち、不服申立てが当該事案の引き延ばしや認定に伴う各措置の先送りを主な目的とするものと本調査委員会が判断した事案については、以後の不服申立てを受け付けないことを併せて通知するものとする。
（再調査の可否に伴う報告）
**第３７条**　学長は、特定不正行為に係る事案の再調査を行うか否かの報告を受けたときは、配分機関等にその決定を報告するものとする。
（再調査の実施等）
**第３８条**　本調査委員会は、第32条に基づく不服申立てについて再調査を実施する決定をした場合は、不服申立人に対し、先の調査結果を覆すに足るものと不服申立人が思料する資料の提出を求め、その他当該事案の速やかな解決に向けて再調査に協力することを求めるものとする。
2　本調査委員会は、再調査を開始した場合は、その開始の日から起算して50日以内に、先の調査結果を覆すか否かを決定し、その結果を直ちに学長に報告するものとする。ただし、50日以内に調査結果を覆すか否かの決定ができない合理的な理由がある場合は、その理由及び決定予定日を付して学長に申し出て、その承認を得るものとする。
（再調査の打ち切り）
**第３９条**　前条第１項に定める不服申立人からの協力が得られない場合は、本調査委員会は再調査を行わず、審査を打ち切ることができるものとする。
2　本調査委員会は、前項により再調査を行わないことを決めたときは、直ちに学長に報告する。
（再調査の打ち切りに伴う通知）
**第４０条**　前条第２項の報告を受けた学長は、不服申立人に対し、その決定を通知するものとする。
2　学長は、不服申立人が本学以外の機関に所属している場合は、当該機関にも通知するものとする。
（再調査の打ち切りに伴う報告）
**第４１条**　学長は、第39条第２項の報告のうち、特定不正行為に係る事案の場合は、配分機関等に報告するものとする。
（再調査の結果の通知）
**第４２条**　学長は、再調査の結果を通報者、被通報者及び被通報者以外で不正行為に関与したと認定された者に速やかに通知するものとする。
2　学長は、被通報者が本学以外の機関に所属している場合は、当該所属機関にも通知する。
3　学長は、悪意に基づく通報である旨の認定があった場合の再調査において、通報者が本学以外の機関に所属しているときは、当該所属機関にも通知する。
（再調査の結果の報告）
**第４３条**　学長は、不正行為のうち特定不正行為に関する再調査については、その結果を当該事案に係る配分機関等に報告するものとする。
（調査結果の公表）
**第４４条**　学長は、特定不正行為と認定された場合は、速やかに調査結果を公表する。
2　前項の公表における公表内容は、特定不正行為に関与した者の氏名及び所属、特定不正行為の内容、本学が公表時までに行った措置の内容、本調査委員会委員の氏名及び所属、調査の方法及び手順等を含むものとする。
3　前項の規定にかかわらず、特定不正行為があったと認定された論文等が、通報がなされる前に取り下げられていた場合は、当該特定不正行為に関与した者の氏名及び所属を公表しないことができる。
4　特定不正行為が行われなかったとの認定がなされた場合は、原則として調査結果は公表しない。ただし、調査事案が外部に漏洩していた場合又は論文等に故意によるものでない誤りがあった場合は、調査結果を公表するものとする。
5　前項ただし書きの公表内容は、特定不正行為がなかったこと、論文等に故意によるものではない誤りがあったこと、被通報者の氏名及び所属、本調査委員会委員の氏名及び所属、調査の方法及び手順等を含むものとする。
6　学長は、悪意に基づく通報が行われたとの認定がなされた場合は、通報者の氏名及び所属、悪意に基づく通報と認定した理由、本調査委員会委員の氏名及び所属、調査の方法及び手順等を公表する。
（論文等の取下げ等の勧告）
**第４５条**　学長は、特定不正行為が認定された研究者及び当該事案の内容について責任を負うものとして認定された研究者に対して、特定不正行為と認定された論文等の取下げ、訂正又はその他の措置を勧告するものとする。
2　学長は、当該研究者が前項の勧告に応じない場合は、その事実を公表するものとする。
（懲戒等の措置）
**第４６条**　本調査の結果、特定不正行為が認定された研究者及び当該事案の内容について責任を負うものとして認定された研究者については、学校法人石田学園就業規則第40条及び第41条に基づき、懲戒処分を行うことができる。
2　学長は、前項の処分が課されたときは、配分機関等に対し、その処分の内容等を通知する。
（措置の解除等）
**第４７条**　最高管理責任者は、不正行為が行われなかったものと認定された場合は、研究費の支出停止等の措置を解除するものとする。
2　本調査委員会は、不正行為に係る証拠保全の措置について、不服申立てがないまま申立期間が経過した後又は不服申立ての審査結果が確定した後、速やかに解除する。
3　最高管理責任者は、不正行為の事実がなかったと認定された者の名誉を回復する措置及び不利益が生じないための措置を講じるものとする。

**附　則**

この規程は、平成28年３月１日から施行する。

**附　則**

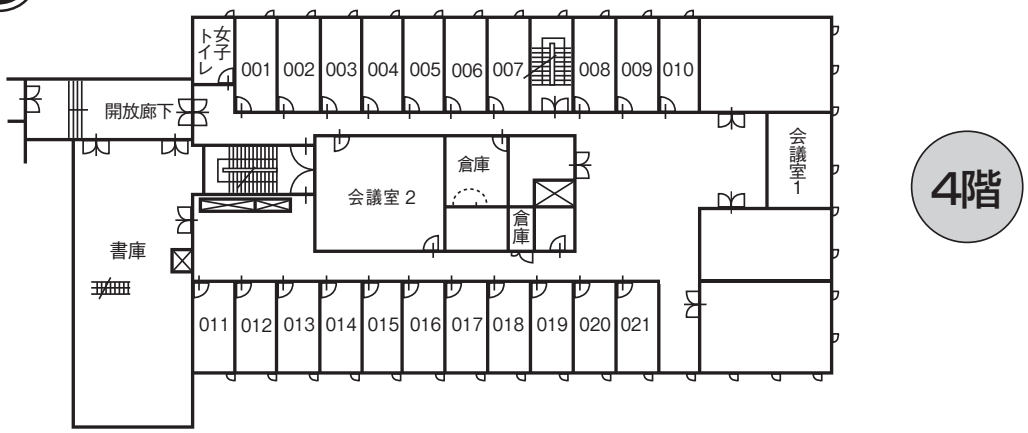
この規程は、平成30年４月１日から施行する。

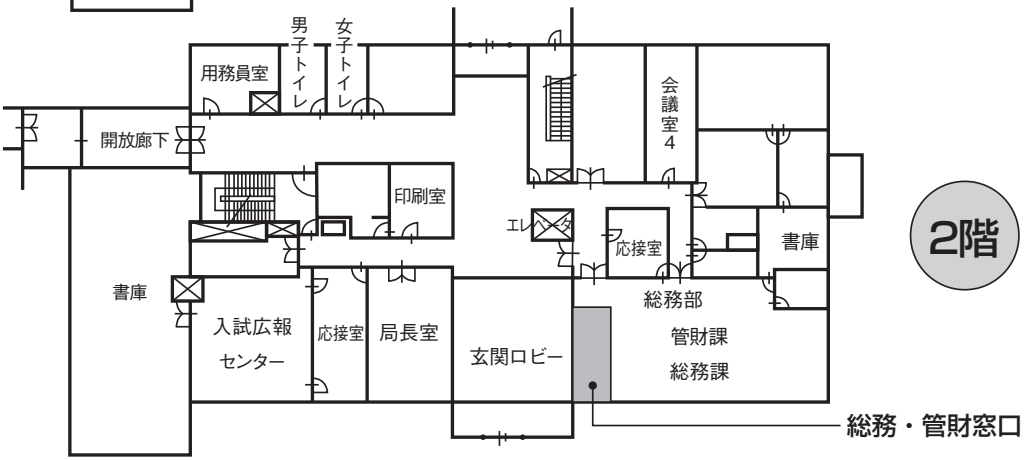
# キャンパス・マップ

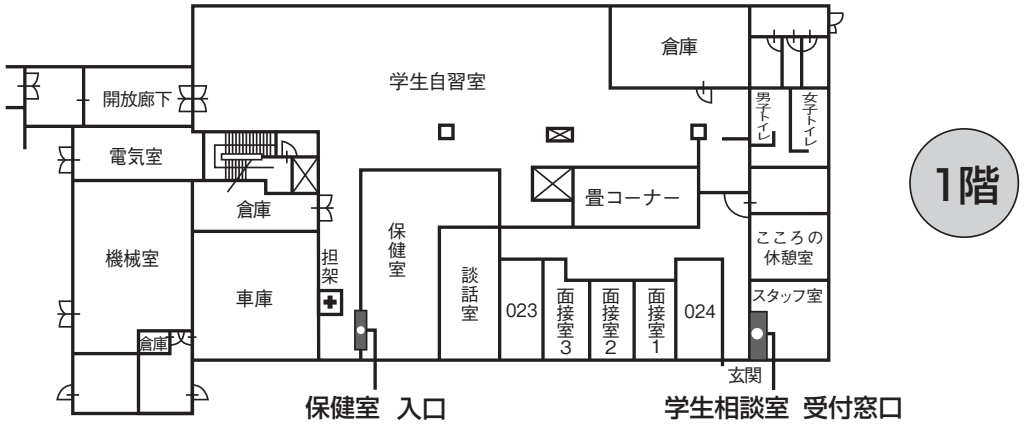
## 1 キャンパス・マップ

## 2 施設配置図（建物内見取図）

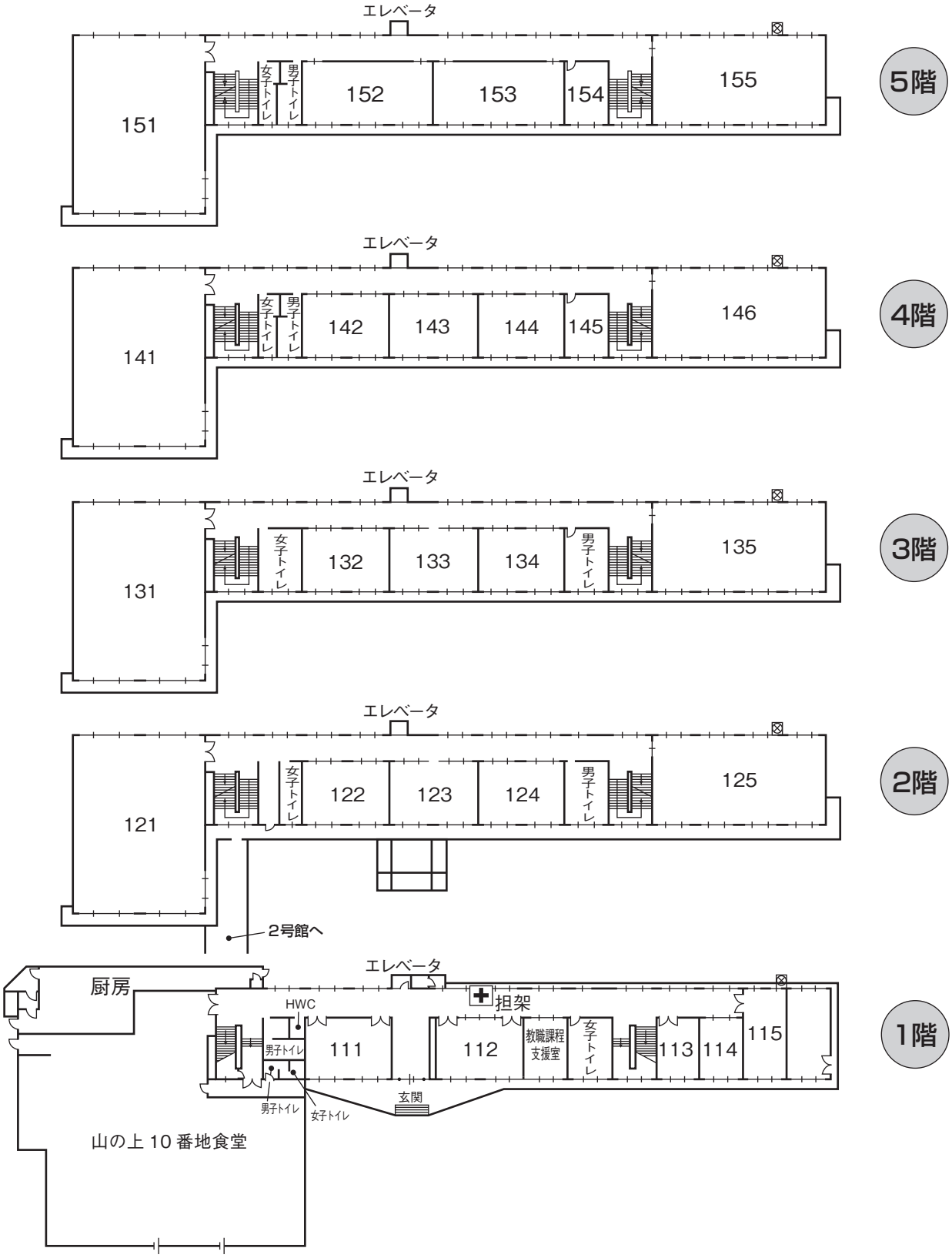
### (1)本館





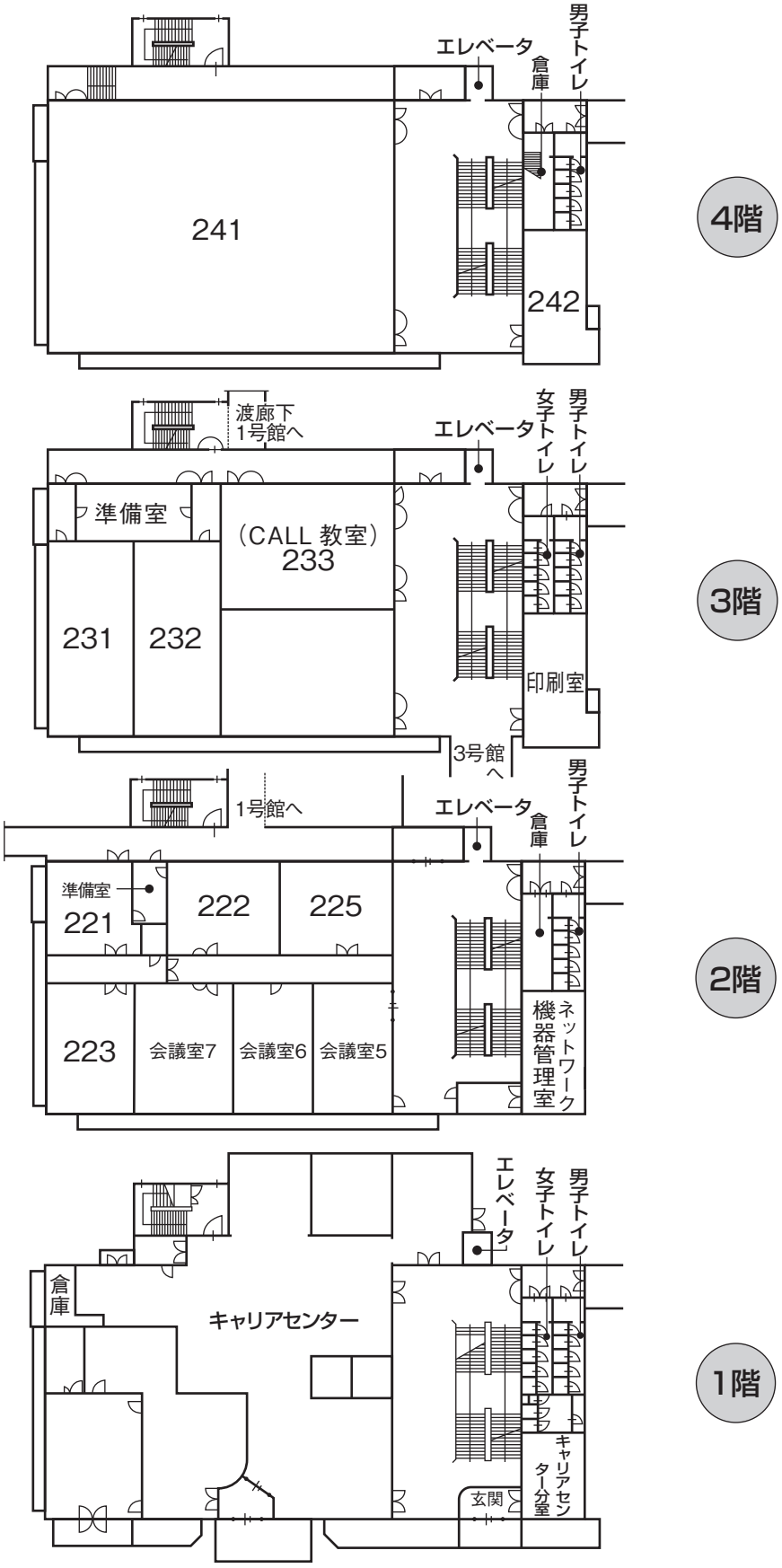



## (2)1号館

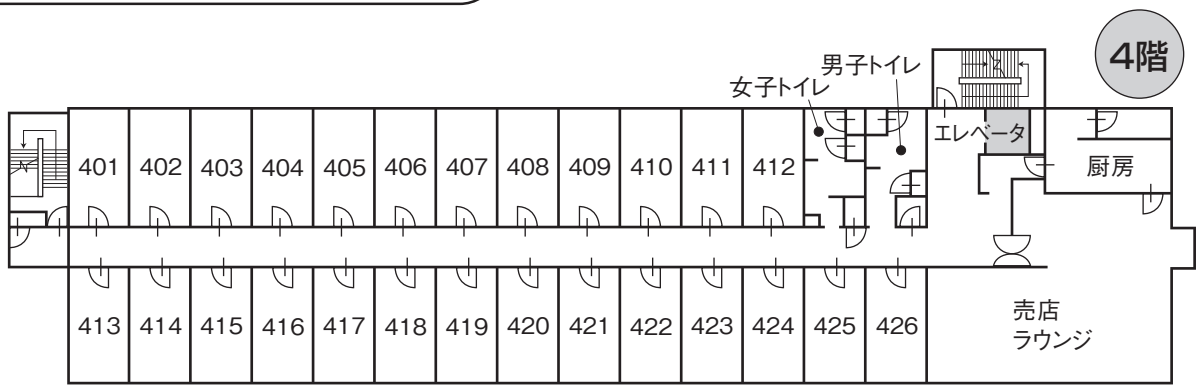


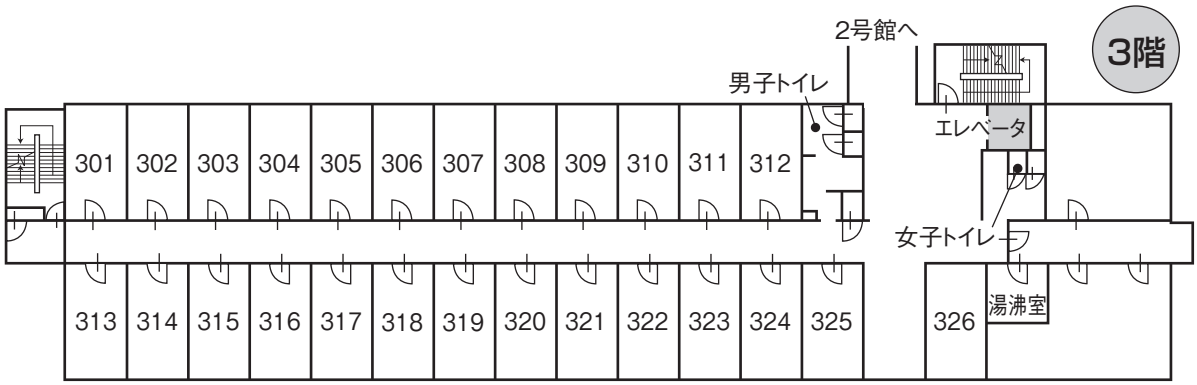

※HWC…身障者用・車イス用・多目的トイレ

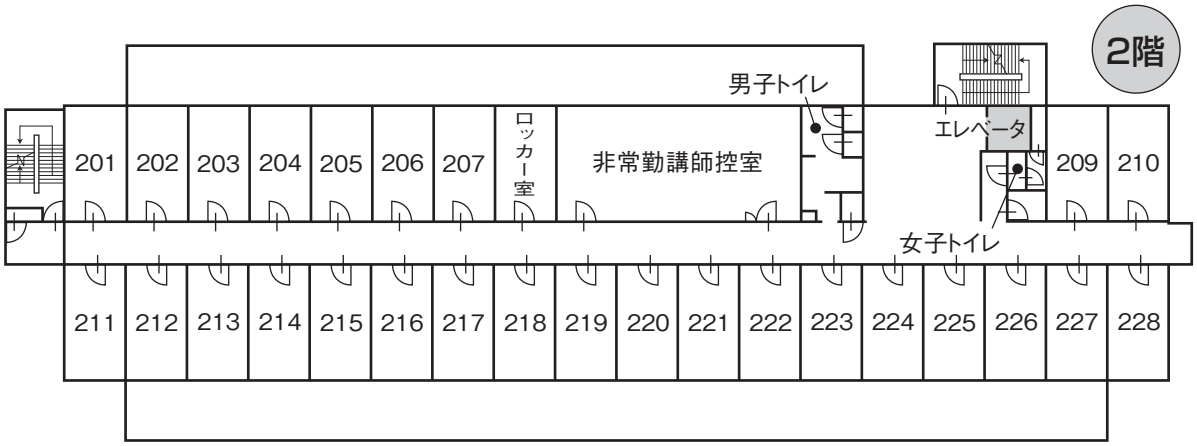
## (3)2号館

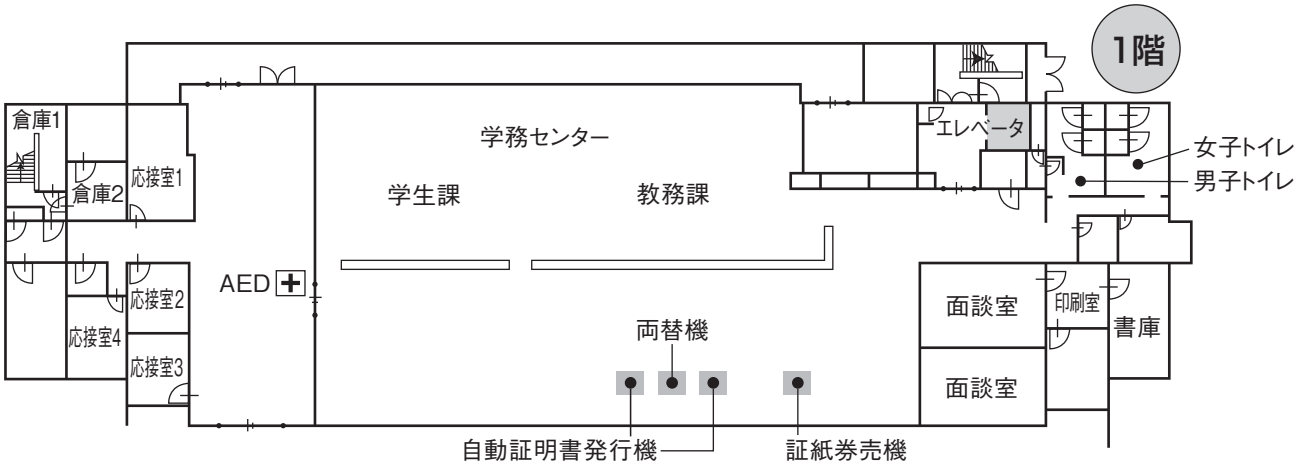

4階
241
242
エレベータ
倉庫
男子トイレ
3階
渡廊下
1号館へ
準備室
(CALL 教室)
233
231
232
印刷室
エレベータ
女子トイレ
男子トイレ
3号館へ
2階
1号館へ
準備室
221
222
225
223
会議室7
会議室6
会議室5
エレベータ
倉庫
男子トイレ
ネットワーク機器管理室
1階
倉庫
キャリアセンター
エレベータ
女子トイレ
男子トイレ
玄関
キャリアセンター分室

## (4)3号館（教育研究棟）

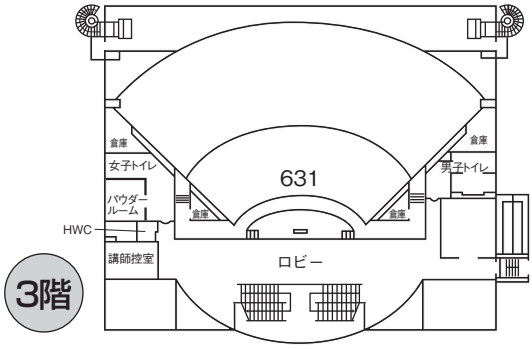

4階
男子トイレ
女子トイレ
エレベータ
厨房
401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412
413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426
売店
ラウンジ

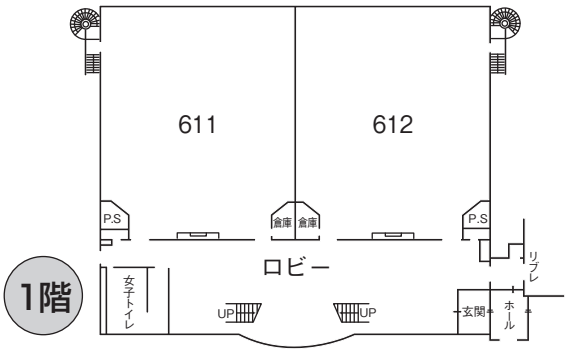

3階
2号館へ
男子トイレ
エレベータ
女子トイレ
301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312
313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326
湯沸室

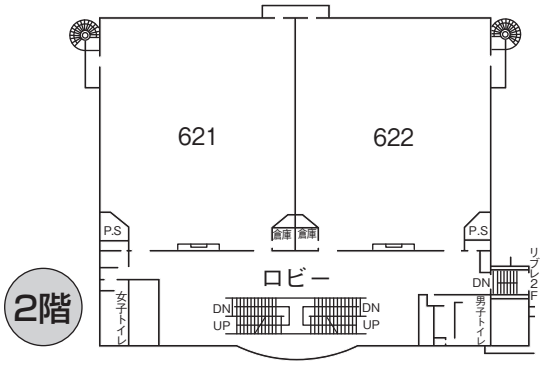

2階
男子トイレ
エレベータ
女子トイレ
201 202 203 204 205 206 207
ロッカー室
非常勤講師控室
209 210
211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228


1階
倉庫1
倉庫2
応接室1
応接室2
応接室3
応接室4
AED
学務センター
学生課
教務課
エレベータ
女子トイレ
男子トイレ
面談室
面談室
印刷室
書庫
両替機
自動証明書発行機
証紙券売機

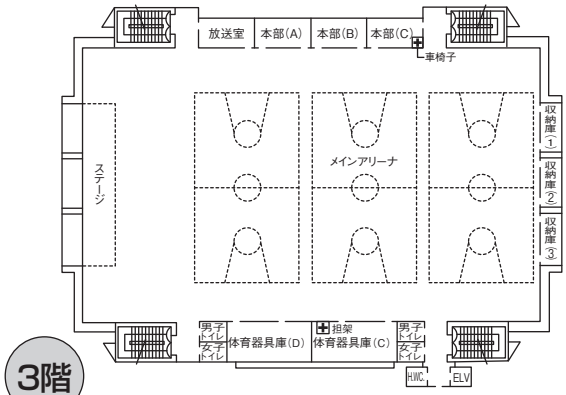
## (5)6号館

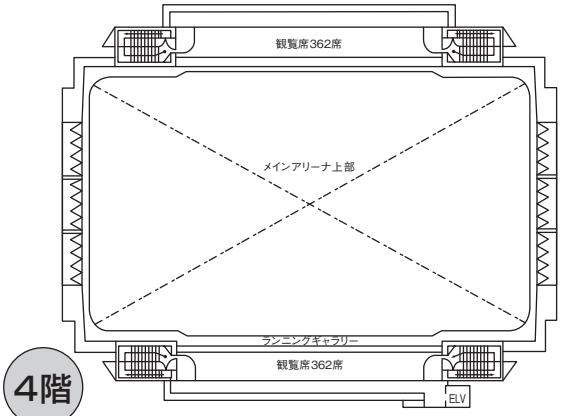


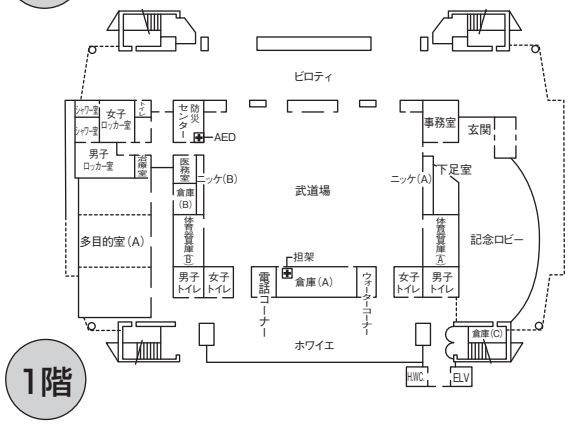



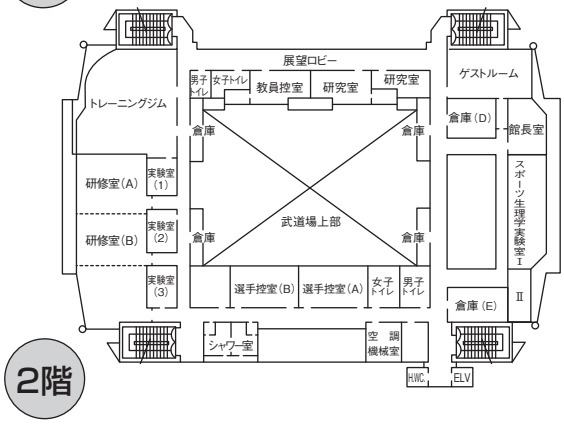




## (6)石田記念体育館



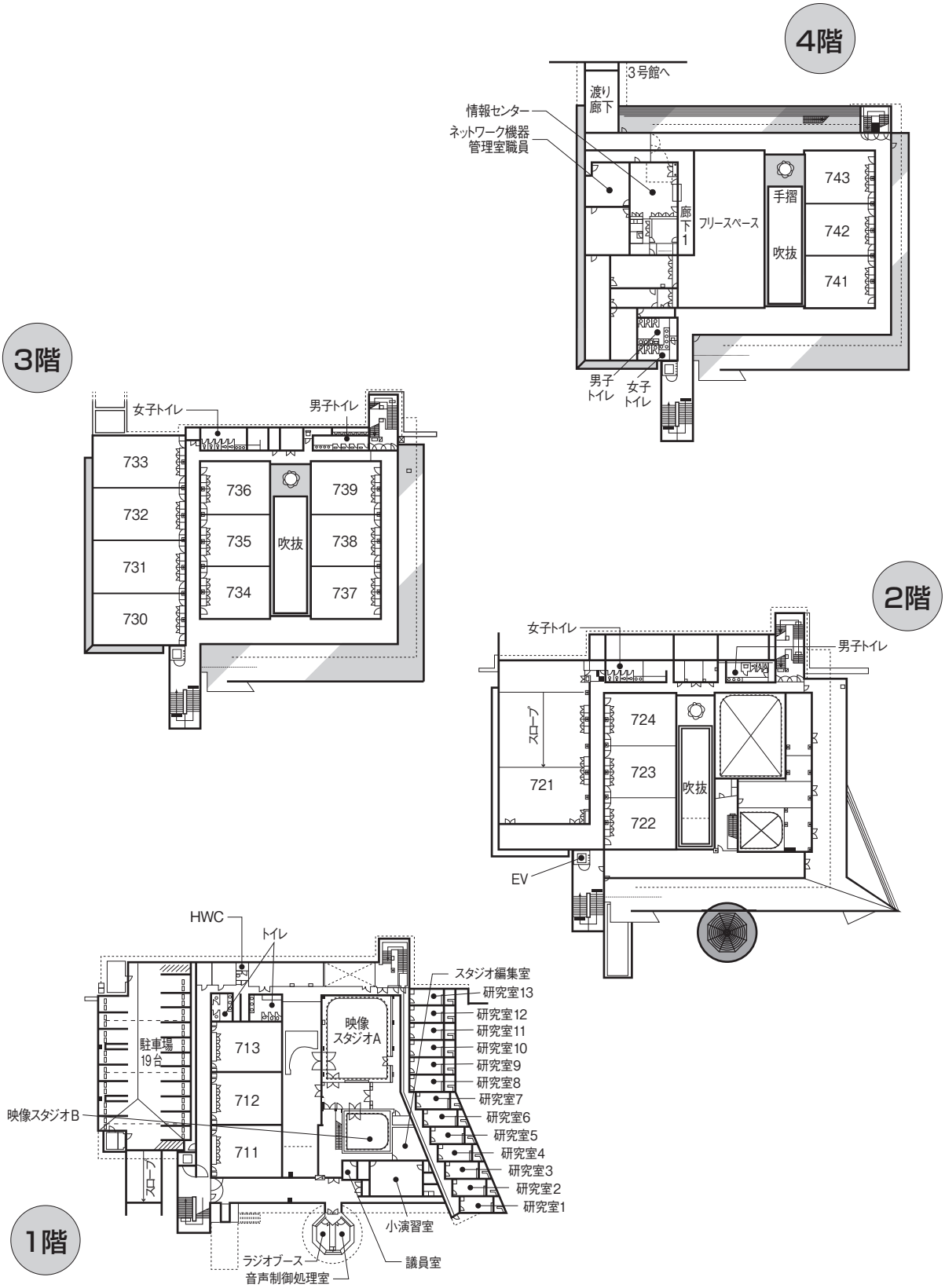



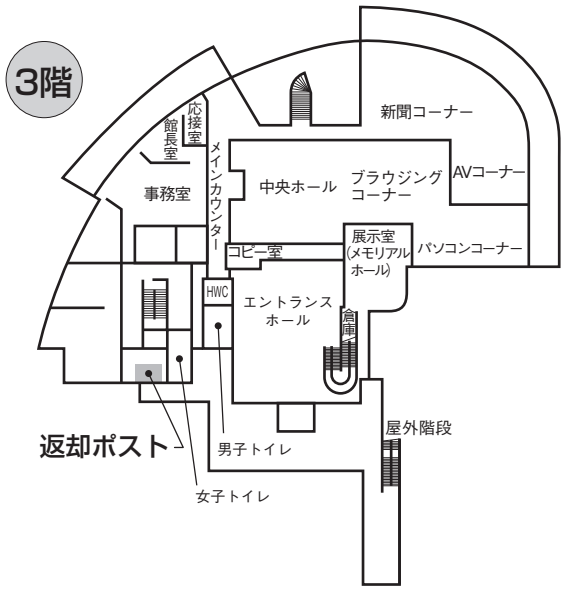

※HWC…身障者用・車イス用・多目的トイレ

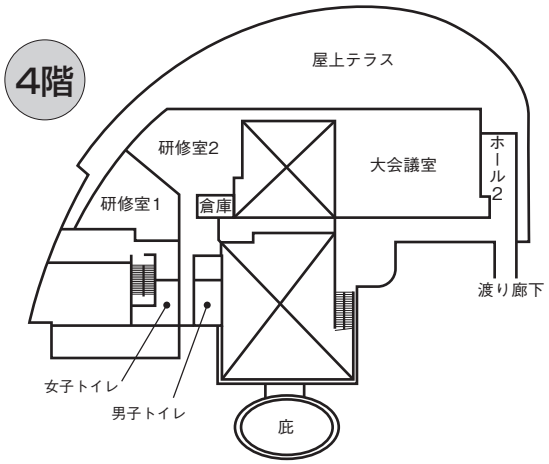
# (7)メディア情報センター

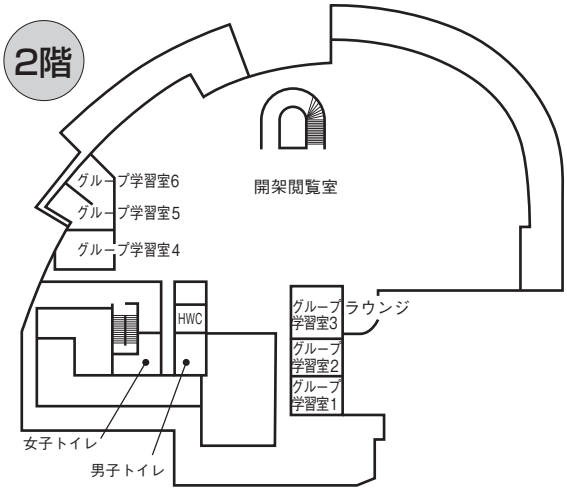


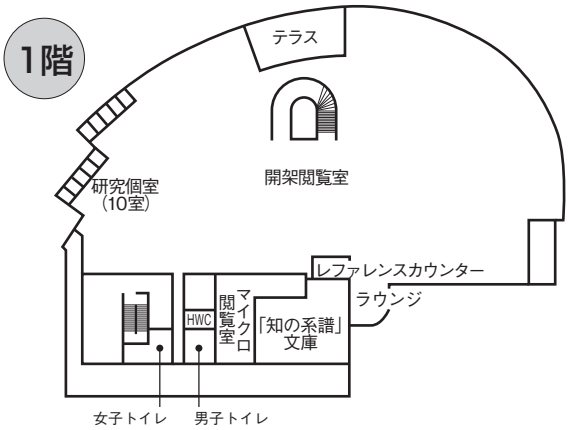

※HWC…身障者用・車イス用・多目的トイレ

# (8)図書館

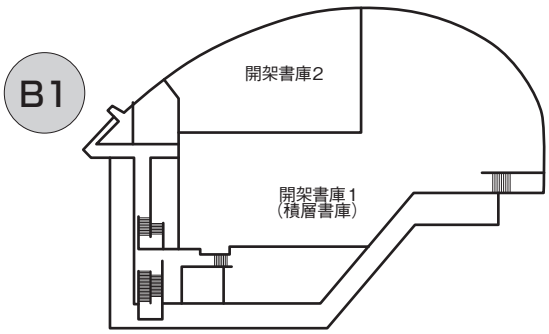


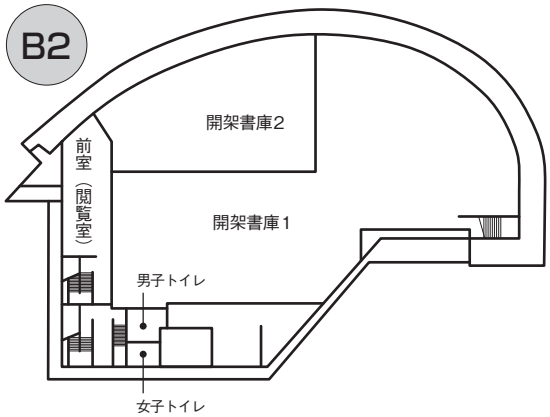



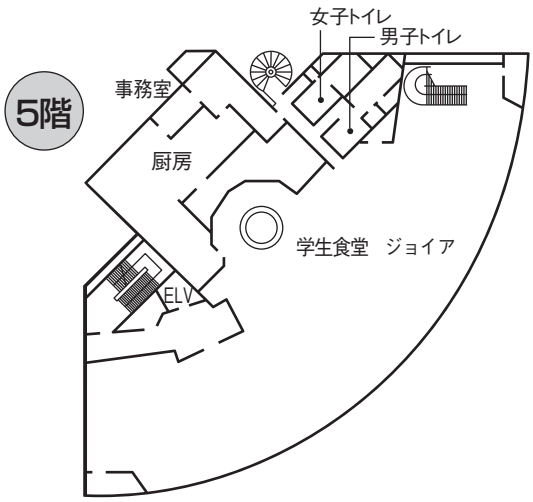

## 書庫

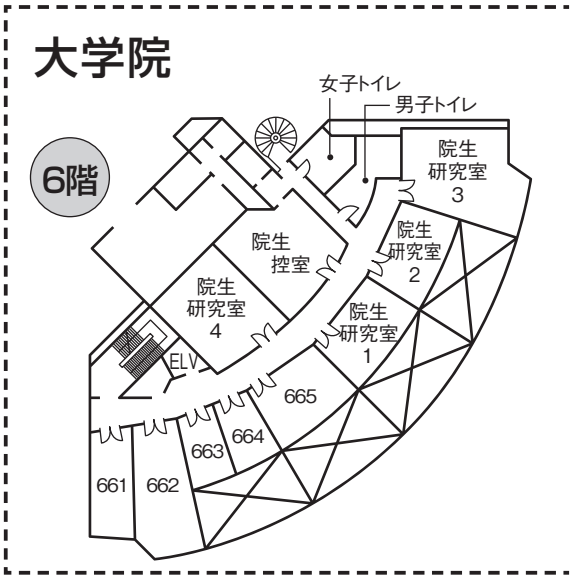


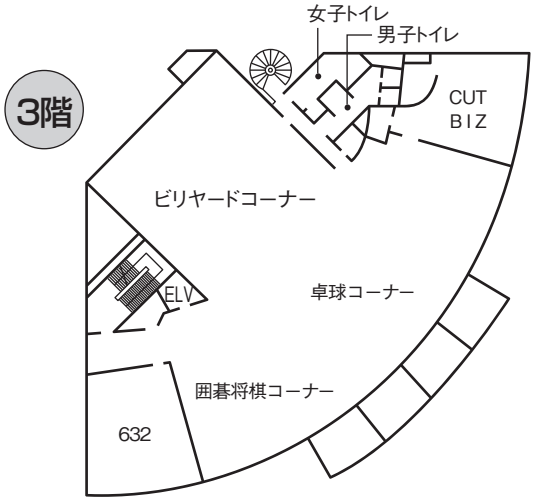



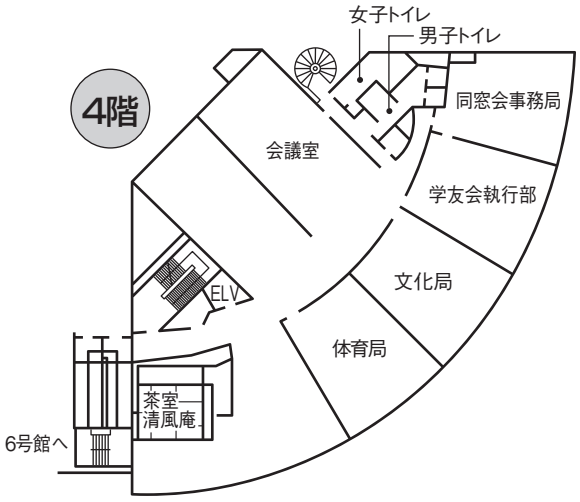

※HWC…身障者用・車イス用・多目的トイレ

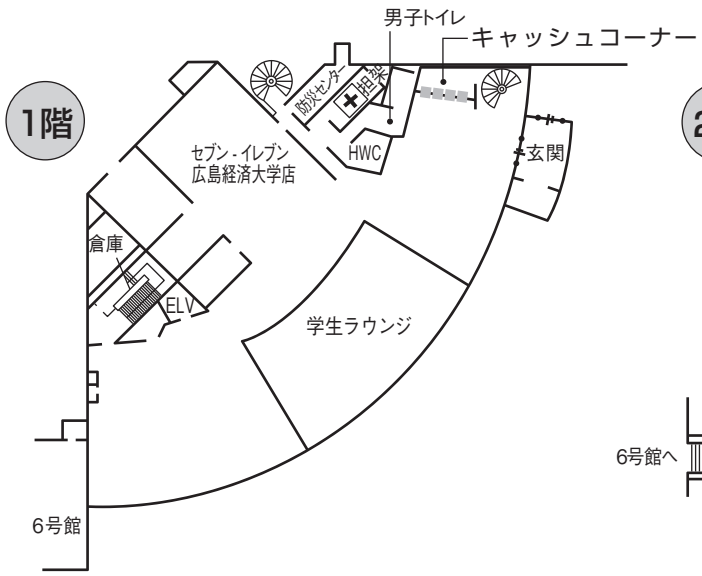
# (9)学生会館　リブレ

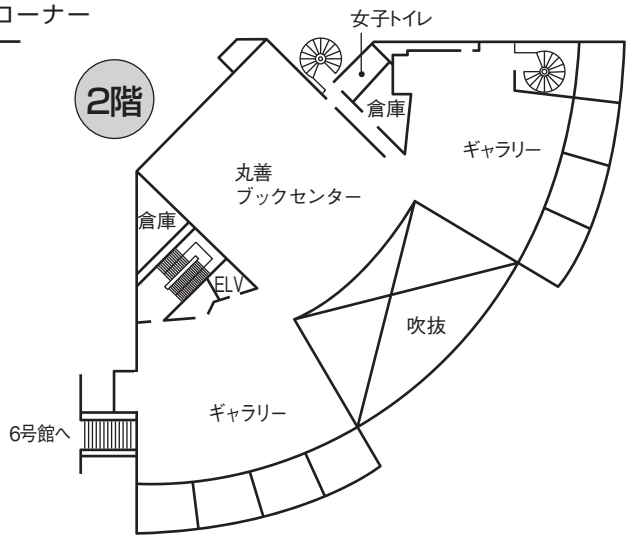


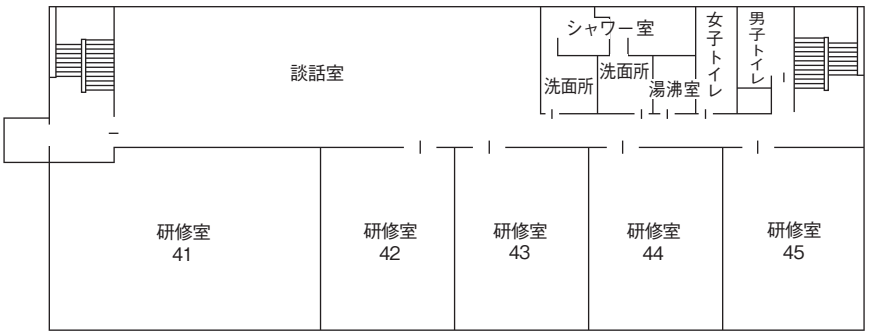



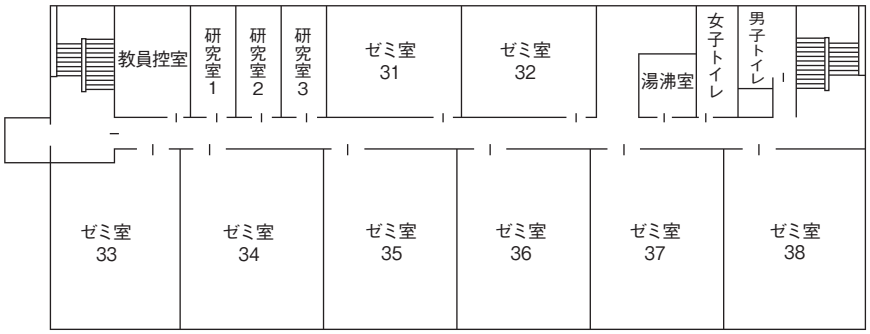

※HWC…身障者用・車イス用・多目的トイレ

# ⑽興動館

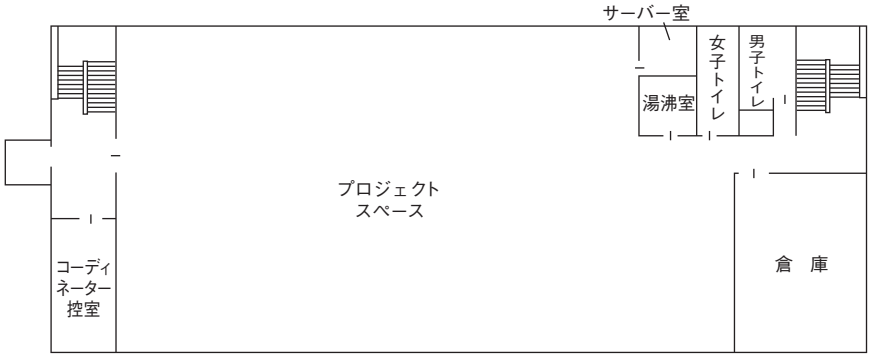
4階



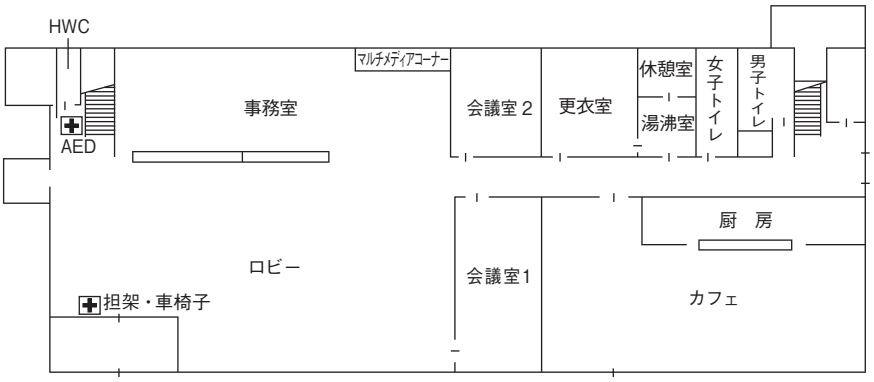

3階




2階

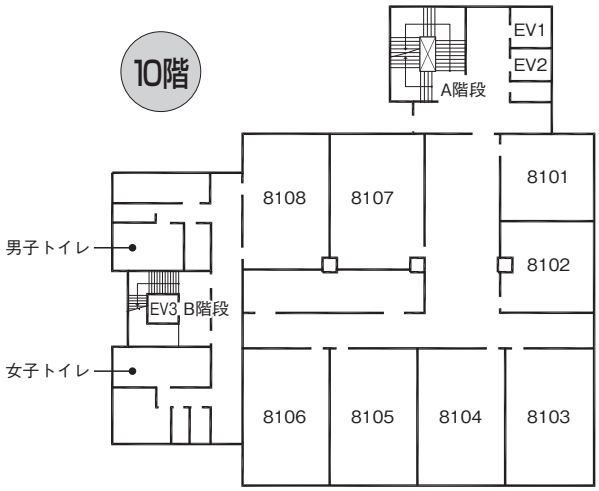


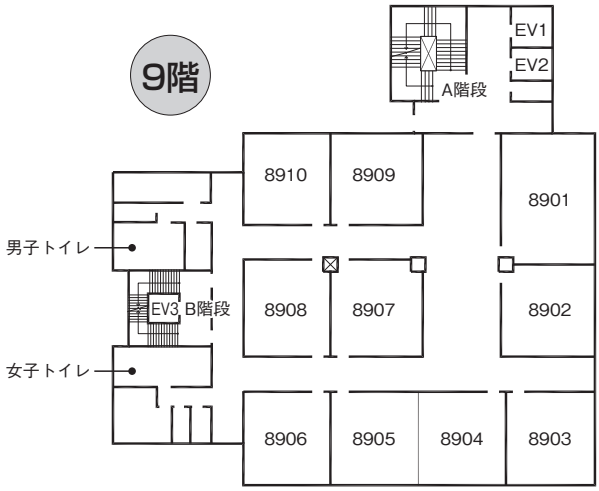

1階

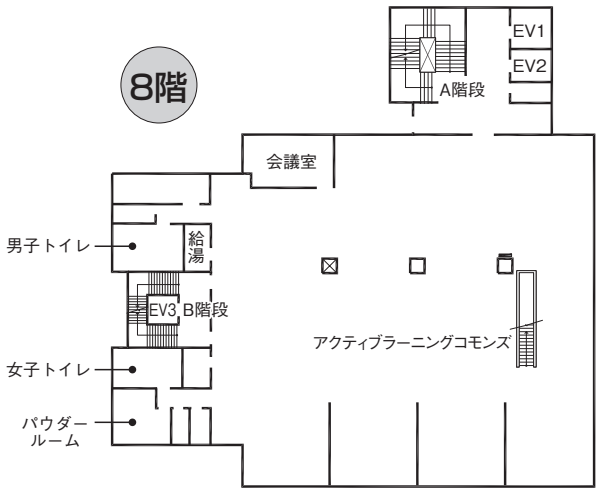


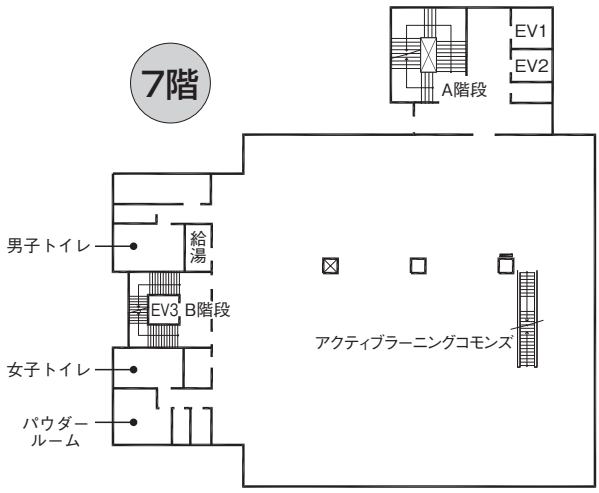

※HWC…身障者用・車イス用・多目的トイレ

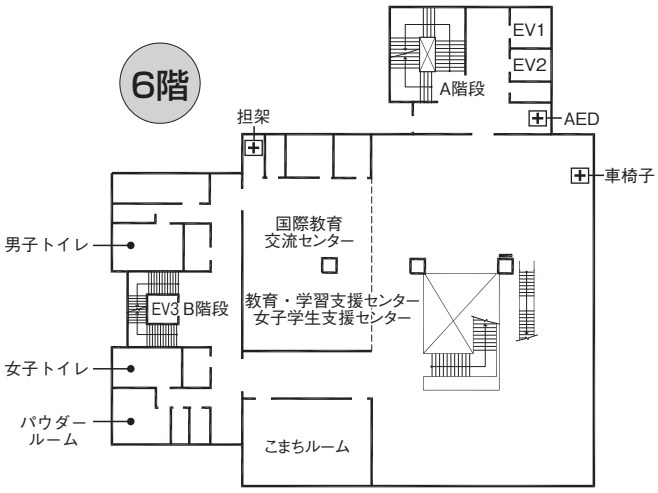
# (11)明徳館

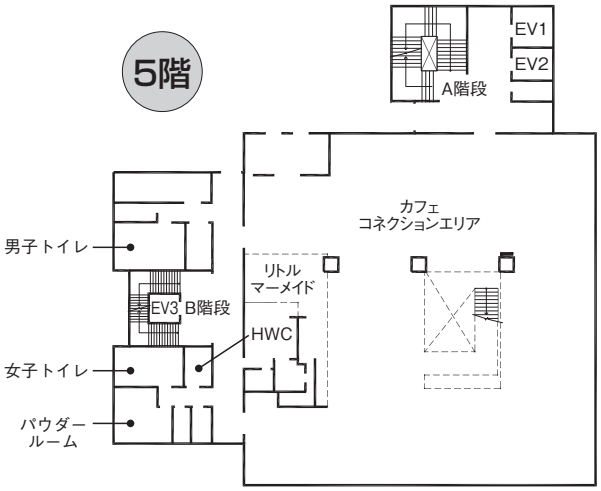

10階
EV1
EV2
A階段
8108
8107
8101
男子トイレ
8102
EV3
B階段
女子トイレ
8106
8105
8104
8103

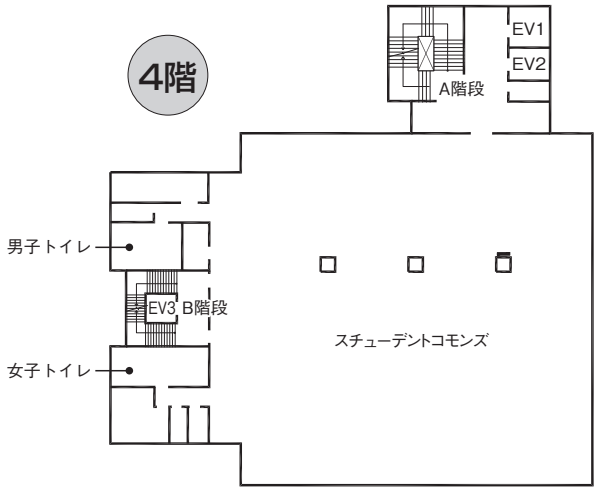

9階
EV1
EV2
A階段
8910
8909
8901
男子トイレ
EV3
B階段
8908
8907
8902
女子トイレ
8906
8905
8904
8903

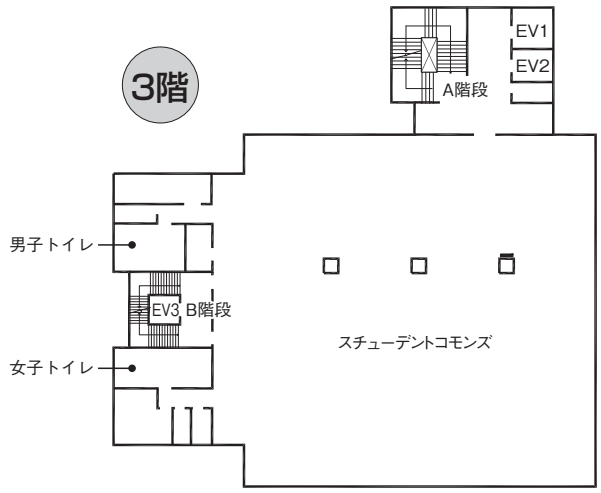

8階
EV1
EV2
A階段
会議室
男子トイレ
給湯
EV3
B階段
アクティブラーニングコモンズ
女子トイレ
パウダー
ルーム

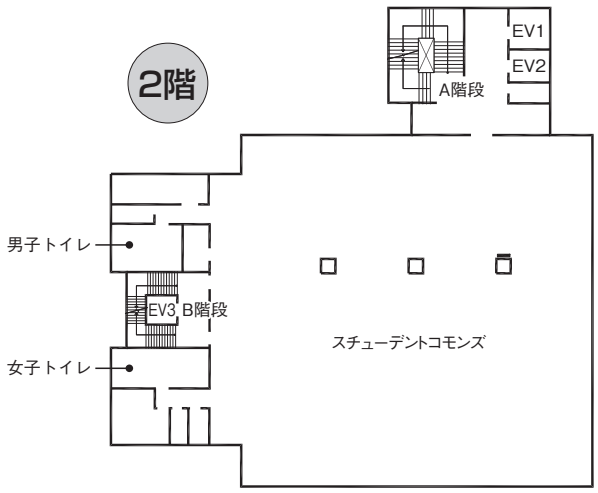

7階
EV1
EV2
A階段
男子トイレ
給湯
EV3
B階段
アクティブラーニングコモンズ
女子トイレ
パウダー
ルーム

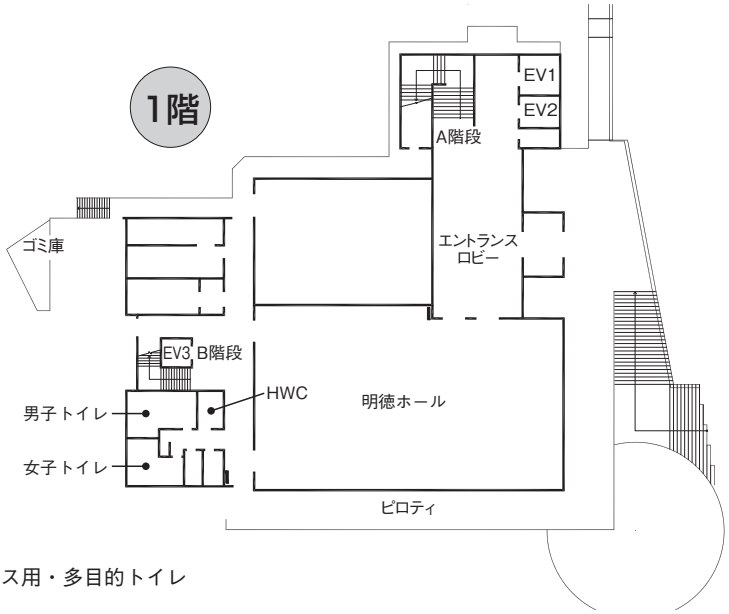

6階
EV1
EV2
A階段
担架
AED
車椅子
男子トイレ
国際教育
交流センター
EV3
B階段
教育・学習支援センター
女子学生支援センター
女子トイレ
パウダー
ルーム
こまちルーム



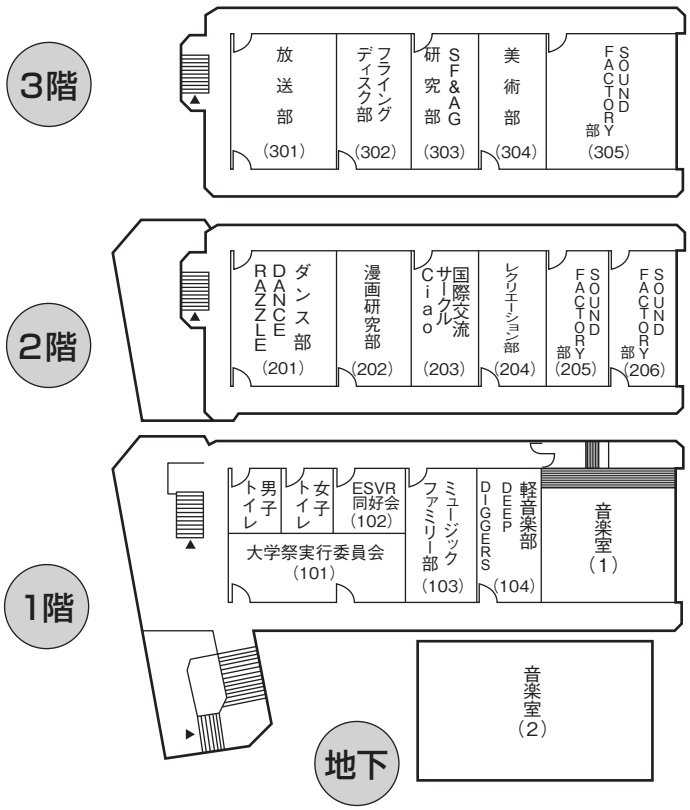



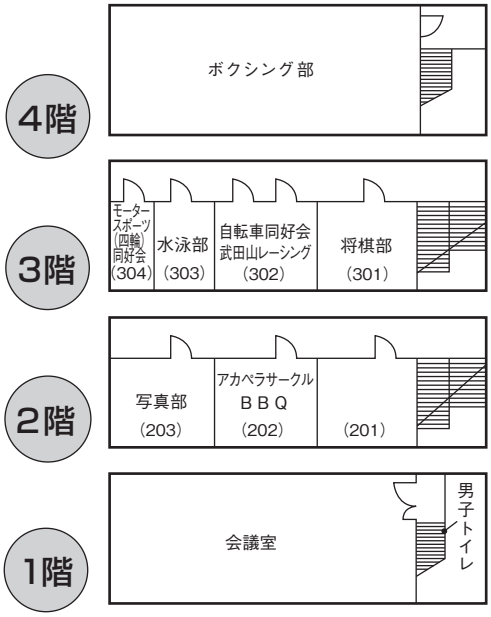




※HWC…身障者用・車イス用・多目的トイレ

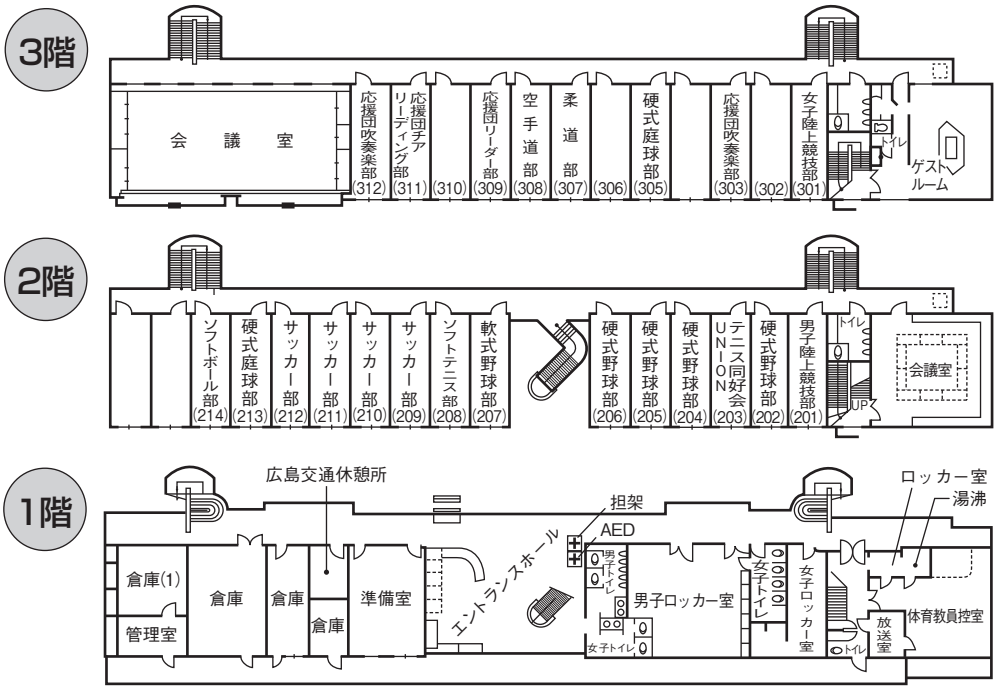
## ⑫第１クラブハウス




## ⑬第２クラブハウス

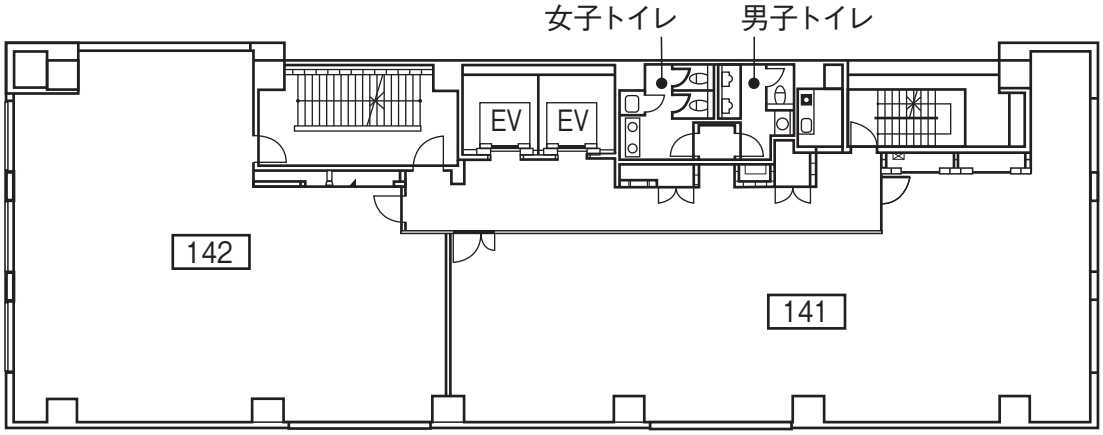



## ⑭総合スポーツセンター

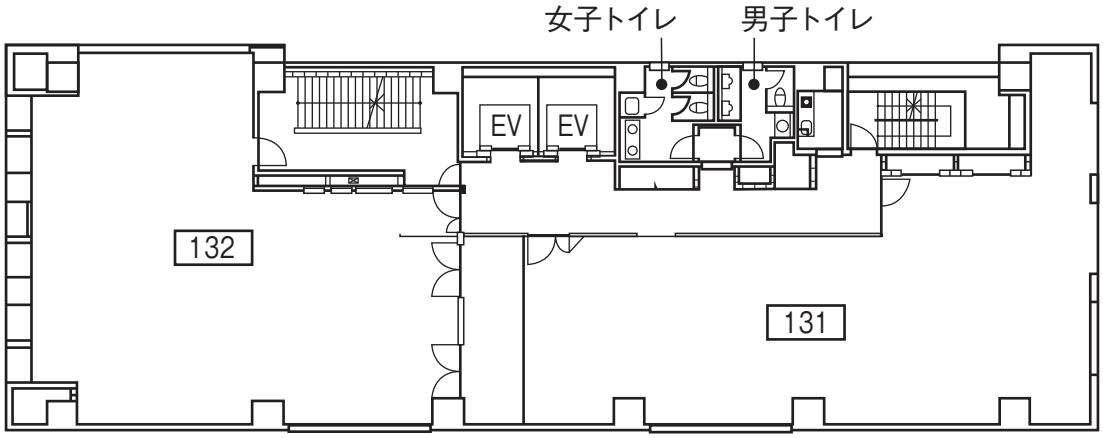


# ⑮広島経済大学　立町キャンパス

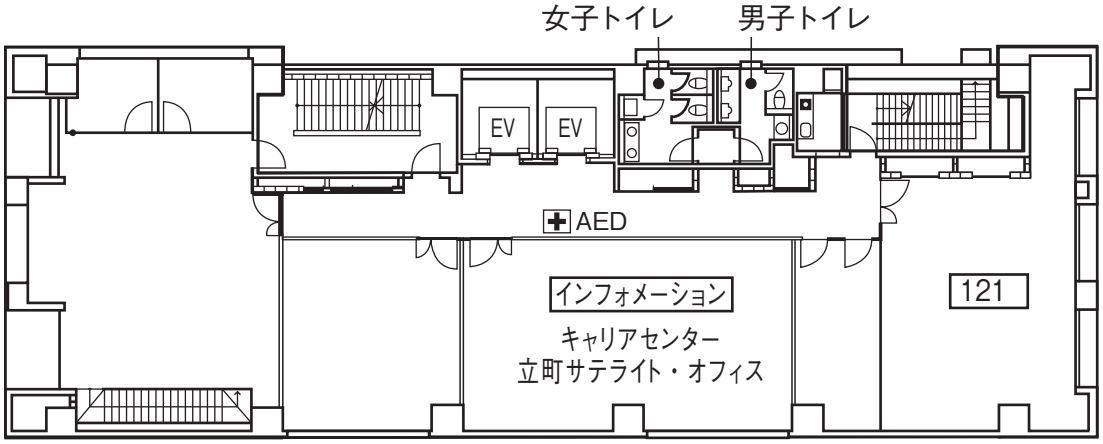
4階




3階




2階



# ⑯成風館

※HWC…身障者用・車イス用・多目的トイレ

広島経済大学

〒731-0192　広島市安佐南区祇園五丁目37番1号　TEL082-871-1000(代)／082-871-1001(教務課直通)　FAX082-871-1666
E-mail✉ : reg-br@hue.ac.jp

大学院　経済学研究科 博士課程 前期課程・後期課程
経済学部　経済学科
経営学部　経営学科・スポーツ経営学科
メディアビジネス学部　ビジネス情報学科・メディアビジネス学科